

宮城県文化財調査報告書第246集

# 山王遺跡Ⅶ

— 三陸沿岸道路建設に伴う八幡・伏石地区発掘調査報告書 —

## 第1分冊

道路跡、D区の調査編

平成30年3月

宮城県教育委員会  
国土交通省東北地方整備局

宮城県文化財調査報告書第246集

山王遺跡Ⅶ

— 三陸沿岸道路建設に伴う  
八幡・伏石地区発掘調査報告書 —

第1分冊

平成三十年三月

宮城県教育委員会  
国土交通省東北地方整備局

# 山王遺跡Ⅶ

— 三陸沿岸道路建設に伴う八幡・伏石地区発掘調査報告書 —

## 第1分冊

道路跡、D区の調査編





八幡・伏石地区と多賀城跡(南西から) —中央下がD区・L区東半



八幡地区から岩切・仙台方面を望む(東から) —中央下がJ区





古墳時代中期の土器



古墳時代後期の土器



石製模造品



羽口(高坪転用)



主な骨角製品



卜骨

## 序 文

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災から、はや 7 年が経過し、生活基盤の整備や道路・鉄道などの復興は着実に進められています。県内陸部では、震災の影響はほとんど感じられなくなりましたが、沿岸部ではまだ復興までの時間を要する状況で、改めて整備の促進が急務と認識しているところです。

さて、東日本大震災の復旧・復興関連事業では、迅速な事業実施と埋蔵文化財保護との円滑な調整を図ることが重要になりました。そのため、平成 24 年度以降、本県では埋蔵文化財の保護行政を弾力的に運用するとともに、自治法派遣による全国からの埋蔵文化財専門職員の応援、関係機関の協力によって発掘調査体制を強化し、年々増加する復興関連事業に伴う発掘調査に迅速に対応してまいりました。

本書は、平成 24～26 年度に実施した多賀城市山王遺跡の発掘調査報告書です。発掘調査は、復興道路に位置づけられた三陸沿岸道路仙塩道路の 4 車線化と多賀城インターチェンジ建設工事に先立ち、他県市からの派遣職員の応援などを得て実施したものです。陸奥国府多賀城跡の南面を広く調査したことにより、古代都市多賀城を理解する上で貴重な成果をあげることができました。この成果が、地域の歴史解明の一助になれば幸いです。

最後になりますが、職務環境の厳しい中、埋蔵文化財専門職員を派遣していただきました全国の自治体、円滑な発掘調査にご尽力いただいた発掘調査作業員、関係機関の皆様へ厚く御礼申し上げます。

平成 30 年 3 月

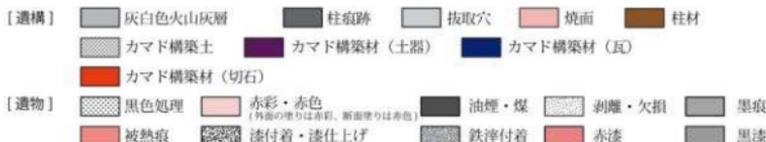
宮城県教育委員会  
教育長 高橋 仁



## 例 言

1. 本書は、国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所が担当する復興関連事業の、三陸沿岸道路仙塩道路4車線化と多賀城IC建設工事に伴い、平成24年度から平成26年度に実施した山王遺跡・市川橋遺跡八幡地区の発掘調査成果をまとめたものである。本書の題名は、2遺跡が隣接して同一の性格をもつことから、山王遺跡としたが、本文中では遺跡地図に準拠してそれぞれの遺跡名を使用している。なお、地区名は小字に準拠した。調査区との関係は、G区が伏石地区、それ以外の調査区は八幡地区である。
2. 調査成果は、現地説明会、宮城県遺跡成果発表会、古代城柵官衙遺跡検討会、多賀城市遺跡成果報告会、文化財保護課ウェブサイトなどで、その内容の一部を公開しているが、本書と内容が異なる場合は、本書がこれに優先する。
3. 発掘調査は、宮城県教育委員会が主体となり、宮城県教育庁文化財保護課が担当した。調査にあたっては、他縣市からの自治体派遣職員と宮城県多賀城跡調査研究所職員、東北歴史博物館職員の協力を得ている。
4. 発掘調査と報告書作成にあたって、国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所、会津若松市教育委員会、多賀城市教育委員会、東北歴史博物館、宮城県多賀城跡調査研究所から多大な協力をいただいた。また、以下の方からご指導・ご助言を賜った（敬称略、所属は当時）。  
相沢清利（多賀城市埋蔵文化財調査センター）、今泉隆雄（東北歴史博物館）、及川規（東北歴史博物館）、大橋泰夫（高根大学）、佐川正敏（東北学院大学）、高橋義行（利府町教育委員会）、千葉孝弥（多賀城市教育委員会）、辻秀人（東北学院大学）、芳賀文絵（東北歴史博物館）、林部均（国立歴史民俗博物館）、松崎哲也（奈良文化財研究所）、松本秀明（東北学院大学）、眞浦幸治（東北大学）、山田努（東北大学）、吉野武（宮城県多賀城跡調査研究所）
5. 本書の遺跡位置図は、国土交通省国土地理院発行の1/25,000地形図を複製して使用した。
6. 本書における平面図は、東日本大震災後の世界測地系に基づく平面直角座標第X系による。方位Nは座標北を表す。
7. 本書で使用した遺構略号は、以下の通りである。  
SA：柵跡・材木堀跡 SB：掘立柱建物跡 SD：溝跡・河川跡 SE：井戸跡 SF：畑跡（小溝状遺構群） SI：竪穴住居跡 SK：土坑 SP：ピット・柱穴 SX：道路跡・整地層・その他遺構
8. 掘立柱建物跡の柱穴の位置は、東西南北の側柱列をそれぞれE・W・S・N、隅柱を1とし、両者の組合せで表している。たとえば、南東隅柱はS1E1で、東側柱列の北から3個目の柱穴はE1N3となる。
9. 土色の記載は、『新版標準土色帳』（小山忠・竹原秀雄 1973、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修・日本色研事業株式会社発行）に依拠した。
10. 遺構図および遺物図の縮尺は、それぞれスケールを付して示している。

11. 土師器の記述にある「ロクロ調整」とは、製作に際してロクロを使用したことを意味し、「非ロクロ調整」とは、製作に際してロクロを用いなかったことを意味する。
12. 土器実測図のうち、黒色処理・煤痕・被熱痕などの表現は以下のとおりである。また、礫石器・転用砥の矢印は磨面の範囲を示している。



13. 軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦の分類と記載は、同一の瓦類が出土してその基準となっている多賀城跡分類（多賀城跡調査研究所 1982a『多賀城跡 政庁跡本文編』）に依拠している。
14. 文中・表中の「大戸産」とは、福島県会津若松市大戸窯跡群の製品を指す。
15. 大戸産須恵器の同定は、会津若松市教育委員会から提供を受けたサンプルと照合しながら行った。また、その一部は同教委の承諾のもと、第 14 章第 14 節（4）に写真を掲載している（平成 29 年 9 月 7 日付け 29 会教文第 503 号）。

16. 出典のうち、特に引用の多い機関名については以下のとおり記載している。

「宮城県教委」：宮城県教育委員会

「多賀研」：宮城県多賀城跡調査研究所

「多賀城市教委」：多賀城市教育委員会

「多賀城市埋文センター」：多賀城市埋蔵文化財調査センター

17. 註は各節の末尾に記載している。

18. 航空写真撮影と遺物写真撮影は、以下の機関に委託して行った。

航空写真：(株)日本特殊撮影

遺物写真：(株)アートプロフィール、(株)仙台ぼど

19. 本書の自然科学分析は以下の機関に委託して行った。

火山灰分析：火山灰考古学研究所

種子同定：古代の森研究所

20. 本書の整理作業は、村田晃一・熊谷宏規・齋藤和機・黒田智章（当課職員）、高橋透（宮城県多賀城跡調査研究所職員）、岡本泰典（岡山県教育委員会）のほか、安齊香・伊藤幸恵・伊藤康子・大沼美代子・長田由佳・岸柳あきら・木村奈保美・小林由美・佐々木みゆき・佐藤沙織・佐藤せい子・柴田とみ子・高橋智佳子・瀧澤恵子・只木一美・千田敦子・千葉栄子・千葉千恵・遠山寛美・長沼雅子・中島敦子・伏見裕美子・古川史佳・真壁智美・山中留理・與名本京子・渡邊祐子（当課臨時職員）が行った。

21. 本書の執筆は担当職員の協議を経て以下の分担で行い、村田晃一が編集した。

第I章：齋藤和機

第II章：齋藤和機（1節）

村田晃一（2節）

第III章：齋藤和機

第IV章：村田晃一・齋藤和機

第V章：村田晃一・齋藤和機（1～9・11節）

西村力（10節・動物遺存体）

齋藤和機（10節・木製品、骨角製品）

村田晃一（その他の10節）

第VI～XI章：村田晃一・齋藤和機

第XII章：齋藤和機

第XIII章：火山灰考古学研究所（1節）

古代の森研究会 吉川純子（2節）

第XIV章：村田晃一（1～4・12・14節）

西村力（5節）

村田晃一・齋藤和機（6節・11節（2））

齋藤和機（7～9・13節）

齋藤和機・村田晃一（10・11節（1））

第XV章：村田晃一

22. 発掘調査の記録や出土遺物は、宮城県教育委員会が保管している。

# 目 次

(第1分冊)

例言

調査要項

第Ⅰ章 調査に至る経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第Ⅱ章 遺跡の概観

1. 遺跡の位置と地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

2. 歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第Ⅲ章 調査の方法と経過

1. 東日本大震災の復興事業に伴う調査基準の弾力的運用について・・・・・・・・ 13

2. 平成24年度の調査経過・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

3. 平成25年度の調査経過・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

4. 平成26年度の調査経過・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

5. 基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

6. 発見した遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

第Ⅳ章 道路跡

1. 北2道路跡・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

2. 北2a道路跡・・・・・・・・・・・・・・・・ 33

3. 西6a道路跡・・・・・・・・・・・・・・・・ 47

4. 西4道路跡・・・・・・・・・・・・・・・・ 53

5. 西5道路跡・・・・・・・・・・・・・・・・ 74

6. その他の道路跡・・・・・・・・・・・・・・・・ 83

7. 道路上の第Ⅱ層出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・ 84

第Ⅴ章 D区

1. 整地層・・・・・・・・・・・・・・・・ 89

2. 区画施設跡・・・・・・・・・・・・・・・・ 105

3. 溝跡・・・・・・・・・・・・・・・・ 112

4. 掘立柱建物跡・掘立柱塼跡・・・・・・・・・・・・・・・・ 120

5. 竪穴住居跡・・・・・・・・・・・・・・・・ 133

6. 竪穴建物跡・・・・・・・・・・・・・・・・ 150

7. 井戸跡・・・・・・・・・・・・・・・・ 160

8. 土坑・・・・・・・・・・・・・・・・ 167

9. 畑跡・・・・・・・・・・・・・・・・ 173

10. SD100・SD2050B 河川跡	
(1) 古墳時代中期と後期の河川跡の概要	175
(2) 調査概要	175
(3) 層序	177
(4) 出土遺物	
A. 土器	187
B. 土製品	247
C. 石製品	252
D. 凝灰岩切石	252
E. 木製品・樹皮製品	252
F. 骨角製品	274
G. 動物遺存体	299
11. 遺構外出土遺物	331

(第2分冊)

第VI章 F区

1. 溝跡	3
2. 掘立柱建物跡	3
3. 竪穴住居跡	19
4. 土坑	45
5. 遺構外出土遺物	45

第VII章 G区

1. 区画施設跡	51
2. 溝跡	69
3. 掘立柱建物跡	73
4. 竪穴住居跡	83
5. 井戸跡	84
6. 土坑	90

第VIII章 J区

1. 整地層	97
2. 区画施設跡	99
3. 溝跡	115
4. 掘立柱建物跡・掘立柱崩跡	117
5. 周溝をもつ建物跡	149
6. 竪穴住居跡	152

7. 円形周溝跡	166
8. 井戸跡	168
9. 土坑	180
10. 畑跡	195

#### 第IX章 L区

1. 整地層	205
2. 区画施設跡	223
3. 溝跡	262
4. 掘立柱建物跡・掘立柱塼跡	268
5. 竪穴住居跡	298
6. 円形周溝跡	326
7. 井戸跡	326
8. 土器埋設遺構	345
9. 土坑	345
10. 畑跡	366
11. 遺構外出土遺物	369

#### (第3分冊)

#### 第X章 M区

1. 区画施設跡	5
2. 溝跡	22
3. 掘立柱建物跡	23
4. 土坑	27
5. 畑跡	30

#### 第XI章 N区

1. 区画施設跡	35
2. 溝跡	35
3. 畑跡	40

#### 第XII章 第V層の水田跡

#### 第XIII章 自然科学分析

1. 山王遺跡から出土した火山灰分析	
(1) はじめに	51
(2) テフラ検出分析	51
(3) テフラ組成分析(火山ガラス比分析・重鉱物組成分析)	52
(4) 屈折率測定(火山ガラス・屈折率測定)	56

(5) 考察	58
(6) まとめ	59
2. 山王遺跡から出土した大型植物遺体	
(1) はじめに	61
(2) 試料と同定結果	61
(3) 考察	65
(4) 出土した大型植物遺体の特筆すべき分類群の形態記載	67

## 第XIV章 総括

1. 古墳時代中期の土器	
(1) 土師器の分類	75
(2) 土器の共存関係と年代	79
(3) 七北田川下流域における古墳時代中期土器の変遷	84
2. 古墳時代後期の土器	
(1) 土師器の分類	93
(2) 土器の共存関係と年代	98
(3) 7世紀から8世紀の土師器製作について	109
(4) 仙台平野北東部における7世紀の須恵器生産	115
3. 奈良・平安時代の土器	
(1) 主な遺構出土土器の年代	120
(2) 多賀城周辺における5世紀から10世紀の土器変遷	138
4. 奈良・平安時代の土石製品	
(1) 碓	140
(2) 凝灰岩切石と切石組カマド	140
5. 動物質資源利用の特徴と古墳時代後期の生業	
(1) 動物遺存体群の構成	144
(2) 貝層の形成と漁撈環境の変化	148
(3) 大型獣の処理と廃棄	148
(4) 山王・市川橋遺跡における古墳時代後期生業の特徴	149
6. 遺構の特徴と年代	
(1) 道路跡	151
(2) 区画施設跡	152
(3) 掘立柱建物跡	158
(4) 竪穴住居跡	166
(5) 竪穴建物跡	171
(6) その他の建物跡	171

(7) 井戸跡	172
(8) 溝跡	176
(9) 土器埋設遺構	177
(10) 土坑	177
(11) 畑跡	179
7. 古墳時代前期の八幡・伏石地区	
(1) 水田の構造	180
(2) 水田の形態	183
(3) 水田域の広がり と 居住域	183
8. 古墳時代中期の八幡・伏石地区	
(1) 区画施設の検討	188
(2) 「布掘り底面から支柱掘方を掘り下げる」崩跡について	190
(3) 竪穴鍛冶遺構について	191
(4) 東北地方の古墳時代中期鍛冶遺構	192
(5) 竪穴鍛冶遺構と区画施設の関係	195
(6) 出土遺物からみた区画内の生産活動	196
(7) 古墳時代中期の八幡・伏石地区の歴史的評価	196
9. 古墳時代後期の八幡・伏石地区	
(1) 集落の区画	198
(2) 竪穴住居跡	201
(3) 集落の生業活動	208
(4) 集落の存続年代	209
10. 古代（方格地割成立以前）の八幡・伏石地区	
(1) 区画Ⅰ期の様相	210
(2) 区画Ⅱ期の様相	213
11. 古代（方格地割成立以後）の八幡・伏石地区	
(1) 道路について	216
(2) 街区の様相	227
12. 古墳時代の七北田川下流域と砂押川流域	
(1) 前期	243
(2) 中期	249
(3) 後期	256
(4) まとめ—古墳時代における七北田川下流域と砂押川流域の動態—	263
13. 多賀城南面の国府域について	
(1) 多賀城南面方格地割の検討	266

(2) 陸奥国府城の建物配置	271
(3) 方格地割施工後の竪穴住居	281
(4) 水田・畑	281
14. 出土遺物からみた陸奥国府	
(1) 官衙的器種	282
(2) ミガキ須恵器	283
(3) 須恵器壺G	289
(4) 大戸産須恵器	291
(5) 硯	302
(6) 腰帯具	319
(7) まとめ	323
第XV章 まとめ	325
引用・参考文献	331
報告書抄録	349

付図

# 図版目次

## 第1分冊

巻頭図版1 航空写真1

巻頭図版2 航空写真2

巻頭図版3 土器・土製品・石製品

巻頭図版4 古墳時代後期河川跡出土骨角製品

図版1	遺跡周辺の微地形分類図	3
図版2	仙台平野北部の微地形環境と主な遺跡の位置	4
図版3	陸奥国府多賀城跡と方格地割、遺跡の分布	6
図版4	調査区的位置	16
図版5	調査と現地説明会の様子	18
図版6	基本順序1一模式図	21
図版7	基本順序2一写真	22
図版8	SX12221東西道路跡(北2道路)・12100東西道路跡断面図1	26
図版9	SX12221東西道路跡(北2道路)・12100東西道路跡断面図2	27
図版10	SX12221東西道路跡(北2道路)・12100東西道路跡平面図1(J区)	28
図版11	SX12221東西道路跡(北2道路)・12100東西道路跡平面図2(J区)	29
図版12	SX12221東西道路跡(北2道路)・12100東西道路跡	30
図版13	SX12221東西道路跡(北2道路)出土遺物1	32
図版14	SX12221東西道路跡(北2道路)出土遺物2	33
図版15	SX390・710東西道路跡(北2a道路)断面図	34
図版16	SX390・710東西道路跡(北2a道路)	35
図版17	SX710東西道路跡(北2a道路)	36
図版18	D区平面図1	37
図版19	D区平面図2	38
図版20	SX390東西道路跡(北2a道路)出土遺物1	39
図版21	SX390東西道路跡(北2a道路)出土遺物2	40
図版22	SX390東西道路跡(北2a道路)出土遺物3	41
図版23	SX390東西道路跡(北2a道路)出土遺物4	42
図版24	SX390東西道路跡(北2a道路)出土遺物5	43
図版25	SX390東西道路跡(北2a道路)出土遺物6	44
図版26	SX710東西道路跡(北2a道路)出土遺物	46
図版27	SX12092道路跡(西6a道路)1	48

図版28	SX12092道路跡(西6a道路)、SD5601D溝跡断面図	49
図版29	SX12092道路跡(西6a道路)、SD5601D溝跡平面図(J区)	50
図版30	SX12092道路跡(西6a道路)2	51
図版31	SX12092道路跡(西6a道路)出土遺物	52
図版32	SX2652南北道路跡断面図	53
図版33	SX700・750南北道路跡(西4道路)断面図1	54
図版34	SX700・750南北道路跡(西4道路)断面図2	55
図版35	SX750南北道路跡(西4道路)	56
図版36	SX700・750南北道路跡(西4道路)	57
図版37	D区平面図3	58
図版38	D区平面図4	59
図版39	D区平面図5	60
図版40	SX750南北道路跡(西4道路)出土遺物1	62
図版41	SX750南北道路跡(西4道路)出土遺物2	63
図版42	SX750南北道路跡(西4道路)出土遺物3	64
図版43	SX750南北道路跡(西4道路)出土遺物4	65
図版44	SX750南北道路跡(西4道路)出土遺物5	66
図版45	SX750南北道路跡(西4道路)出土遺物6	67
図版46	SX700南北道路跡(西4道路)出土遺物1	70
図版47	SX700南北道路跡(西4道路)出土遺物2	71
図版48	SX700南北道路跡(西4道路)出土遺物3	72
図版49	SX700南北道路跡(西4道路)出土遺物4	73
図版50	SX400南北道路跡(西5道路)断面図	75
図版51	SX400南北道路跡(西5道路)	76
図版52	SX400南北道路跡(西5道路)平面図1(M区)	77
図版53	SX400南北道路跡(西5道路)平面図2(M区)	78
図版54	SX400南北道路跡(西5道路)出土遺物1	80
図版55	SX400南北道路跡(西5道路)出土遺物2	81
図版56	SX11794波板状凸凹面	82
図版57	SX11794波板状凸凹面出土遺物	83
図版58	SX12100東西道路跡出土遺物	83
図版59	西4道路・北2a道路上堆積層出土遺物1	84
図版60	西4道路・北2a道路上堆積層出土遺物2	85
図版61	SX12221東西道路跡(北2道路)上堆積層出土遺物	86
図版62	整地層・道路跡と河川跡の関係	89
図版63	SX7001整地層	90

图版64	D区全体图	91 · 92	图版101	SI821A · B型穴住居跡 2	135
图版65	SX7001整地層出土遺物 1	93	图版102	SI821型穴住居跡出土遺物 1	136
图版66	SX7001整地層出土遺物 2	94	图版103	SI821型穴住居跡出土遺物 2	137
图版67	SX7001整地層出土遺物 3	95	图版104	SI821型穴住居跡出土遺物 3	138
图版68	SX7001整地層出土遺物 4	96	图版105	SI823型穴住居跡	140
图版69	SX7001整地層出土遺物 5	97	图版106	SI823型穴住居跡出土遺物	140
图版70	SX7001整地層出土遺物 6	98	图版107	SI827 · 839型穴住居跡 1	141
图版71	SX7001整地層出土遺物 7	99	图版108	SI827 · 839型穴住居跡 2	142
图版72	SX7025 · 7033整地層	99	图版109	SI705 · 715 · 716 · 737型穴住居跡出土遺物	143
图版73	SX7025整地層出土遺物 1	101	图版110	SI884 · 886 · 7005 · 7043型穴住居跡出土遺物	144
图版74	SX7025整地層出土遺物 2	102	图版111	SI705 · 715 · 716 · 737 · 886 · 7043型穴住居跡出土遺物	145
图版75	SX7033整地層出土遺物	102	图版112	D区平面図11	146
图版76	SX7026整地層断面図	103	图版113	D区平面図12	147
图版77	SX7026整地層出土遺物	104	图版114	D区平面図13	148
图版78	SD7007区画溝跡、SX7010洪水層	105	图版115	SX7013型穴建物跡	151
图版79	SD7007区画溝跡出土遺物 1	106	图版116	SX7013型穴建物跡出土遺物 1	152
图版80	SD7007区画溝跡出土遺物 2	107	图版117	SX7013型穴建物跡出土遺物 2	153
图版81	SD7007区画溝跡出土遺物 3	108	图版118	SX7013型穴建物跡出土遺物 3	154
图版82	SD7007区画溝跡出土遺物 4	109	图版119	SX7013型穴建物跡出土遺物 4	155
图版83	SD7007区画溝跡出土遺物 5	110	图版120	SX7013型穴建物跡出土遺物 5	156
图版84	SD7007区画溝跡出土遺物 6	111	图版121	SX7013型穴建物跡出土遺物 6	157
图版85	D区溝跡断面図 1	112	图版122	SX7013型穴建物跡出土遺物 7	158
图版86	D区溝跡断面図 2	113	图版123	SX7013型穴建物跡出土遺物 8	159
图版87	D区溝跡出土遺物 1	114	图版124	SE709井戸跡	160
图版88	D区溝跡出土遺物 2	115	图版125	SE709井戸跡出土遺物	160
图版89	D区溝跡出土遺物 3	116	图版126	SE712井戸跡	161
图版90	D区溝跡出土遺物 4	117	图版127	SE712井戸跡出土遺物	162
图版91	SB7086掘立柱建物跡出土遺物	121	图版128	SE798井戸跡	163
图版92	SB1605 · 1606 · 7086 · 7153掘立柱建物跡	123	图版129	SE798井戸跡出土遺物	163
图版93	D区平面図 6	124	图版130	SE837井戸跡	164
图版94	SB7035 · 7040 · 7155 · 7156 · 7157 · 7160掘立柱建物跡	125	图版131	SE837井戸跡出土遺物	165
图版95	D区平面図 7	126	图版132	SE844井戸跡出土遺物	165
图版96	D区平面図 8	127	图版133	SE844井戸跡	166
图版97	D区平面図 9	128	图版134	D区土坑	169
图版98	SB7045 · 7161 · 7162掘立柱建物跡断面図	129	图版135	D区土坑出土遺物 1	170
图版99	D区平面図 10	130	图版136	D区土坑出土遺物 2	171
图版100	SI821A · B型穴住居跡 1	134	图版137	D区土坑出土遺物 3	172

図版138	SF809烟跡出土遺物	173	図版176	SD2050B河川跡2層上面出土土器5	220
図版139	SF801・809烟跡	174	図版177	SD2050B河川跡2層上面出土土器6	221
図版140	SD100・2050B河川跡と周辺遺構	176	図版178	SD2050B河川跡2層上面出土土器7	222
図版141	SD100・2050B河川跡断面図1	178	図版179	SD2050B河川跡2層上面出土土器8	223
図版142	SD100・2050B河川跡断面図2	179	図版180	SD2050B河川跡2層上面出土土器9	224
図版143	SD100・2050B河川跡1	180	図版181	SD2050B河川跡1層出土土器1	227
図版144	SD100・2050B河川跡2	181	図版182	SD2050B河川跡1層出土土器2	228
図版145	SD100・2050B河川跡3	182	図版183	SD2050B河川跡1層出土土器3	229
図版146	SD100・2050B河川跡4	183	図版184	SD2050B河川跡1層出土土器4	230
図版147	SD100・2050B河川跡5	184	図版185	SD2050B河川跡1層出土土器5	231
図版148	SD100・2050B河川跡6	185	図版186	SD2050B河川跡1層出土土器6	232
図版149	SD100・2050B河川跡7	186	図版187	SD2050B河川跡1層出土土器7	233
図版150	SD2050B河川跡4・5層出土土器1	189	図版188	SD2050B河川跡1層出土土器8	234
図版151	SD2050B河川跡4・5層出土土器2	190	図版189	SD2050B河川跡1層出土土器9	235
図版152	SD2050B河川跡4・5層出土土器3	191	図版190	SD2050B河川跡1層出土土器10	236
図版153	SD2050B河川跡4・5層出土土器4	192	図版191	SD2050B河川跡1層出土土器11	237
図版154	SD2050B河川跡4・5層出土土器5	193	図版192	SD2050B河川跡1層出土土器12	238
図版155	SD100河川跡4層出土土器1	195	図版193	SD2050B河川跡1層出土土器13	239
図版156	SD100河川跡4層出土土器2	196	図版194	SD2050B河川跡1層出土土器14	240
図版157	SD2050B河川跡3層、4層上面出土土器1	197	図版195	SD100・2050B河川跡堆積出土土器1	242
図版158	SD2050B河川跡3層、4層上面出土土器2	198	図版196	SD100・2050B河川跡堆積出土土器2	243
図版159	SD2050B河川跡3層、4層上面出土土器3	199	図版197	SD100・2050B河川跡堆積出土土器3	244
図版160	SD2050B河川跡3層、4層上面出土土器4	200	図版198	SD100・2050B河川跡遺構確認面出土土器1	245
図版161	SD100河川跡3層出土土器	202	図版199	SD100・2050B河川跡遺構確認面出土土器2	246
図版162	SD100・2050B河川跡合流地点3層出土土器1	203	図版200	SD100・2050B河川跡出土ミニチュア土器1	248
図版163	SD100・2050B河川跡合流地点3層出土土器2	204	図版201	SD100・2050B河川跡出土ミニチュア土器2	249
図版164	SD100・2050B河川跡合流地点3層出土土器3	205	図版202	SD100・2050B河川跡出土土玉1	250
図版165	SD100・2050B河川跡合流地点3層出土土器4	206	図版203	SD100・2050B河川跡出土土玉2	251
図版166	SD2050B河川跡2層出土土器1	208	図版204	SD100・2050B河川跡出土土器製品1	253
図版167	SD2050B河川跡2層出土土器2	209	図版205	SD100・2050B河川跡出土土器製品2	254
図版168	SD2050B河川跡2層出土土器3	210	図版206	SD100・2050B河川跡出土土器製品3	255
図版169	SD2050B河川跡2層出土土器4	211	図版207	SD100・2050B河川跡出土土器製品4	256
図版170	SD2050B河川跡2層出土土器5	212	図版208	SD100・2050B河川跡出土土器製品5	257
図版171	SD100河川跡1・2層出土土器	214	図版209	SD100・2050B河川跡出土土器製品6	258
図版172	SD2050B河川跡2層上面出土土器1	216	図版210	SD100・2050B河川跡出土土器製品7	259
図版173	SD2050B河川跡2層上面出土土器2	217	図版211	SD100・2050B河川跡出土土器製品8	260
図版174	SD2050B河川跡2層上面出土土器3	218	図版212	SD100・2050B河川跡出土土器製品1	261
図版175	SD2050B河川跡2層上面出土土器4	219	図版213	SD100・2050B河川跡出土土器製品2	262

図版214	SD100・2050B河川跡出土木製品3	263	図版249	SD100・2050B河川跡出土動物遺存体5—ニホンジカ(2)・ウマ・ウシ・ウミガメ	323
図版215	SD100・2050B河川跡出土木製品4	266	図版250	SD100・2050B河川跡出土動物遺存体6—イノシシ	326
図版216	SD100・2050B河川跡出土木製品5	267	図版251	D区遺構外出土遺物1	331
図版217	SD100・2050B河川跡出土木製品6	268	図版252	D区遺構外出土遺物2	332
図版218	SD100・2050B河川跡出土木製品7	269	図版253	D区遺構外出土遺物3	333
図版219	SD100・2050B河川跡出土木製品8	270			
図版220	SD100・2050B河川跡出土木製品9	271			
図版221	SD100・2050B河川跡出土木製品10	272	<b>第2分冊</b>		
図版222	SD100・2050B河川跡出土木製品11	273	図版254	SD11537溝跡出土遺物	3
図版223	SD100・2050B河川跡出土骨角製品1	277	図版255	F区全体図	4
図版224	SD100・2050B河川跡出土骨角製品2	278	図版256	SB5300掘立柱建物跡	5
図版225	SD100・2050B河川跡出土骨角製品3	279	図版257	SB5300掘立柱建物跡礎板1	6
図版226	SD100・2050B河川跡出土骨角製品4	280	図版258	SB5300掘立柱建物跡礎板2	7
図版227	SD100・2050B河川跡出土骨角製品5	281	図版259	SB5300掘立柱建物跡礎板3・柱材	8
図版228	SD100・2050B河川跡出土骨角製品6	282	図版260	SB5302・11601・11602・11603・11604・11605・11606掘立柱建物跡断面図	10
図版229	SD100・2050B河川跡出土骨角製品7	283	図版261	SB11603・11604・11605・11606掘立柱建物跡断面写真	11
図版230	SD100・2050B河川跡出土骨角製品8	284	図版262	F区平面図1	13
図版231	SD100・2050B河川跡出土骨角製品9	285	図版263	F区平面図2	14
図版232	SD100・2050B河川跡出土骨角製品10	286	図版264	F区平面図3	15
図版233	SD100・2050B河川跡出土骨角製品11	287	図版265	F区平面図4	16
図版234	SD100・2050B河川跡出土骨角製品12	288	図版266	F区全景	17
図版235	SD100・2050B河川跡出土骨角製品13	289	図版267	SI11503竪穴住居跡1	20
図版236	SD100・2050B河川跡出土骨角製品14	290	図版268	SI11503竪穴住居跡2	21
図版237	SD100・2050B河川跡出土骨角製品15	291	図版269	SI11503竪穴住居跡3	22
図版238	SD100・2050B河川跡出土骨角製品16	292	図版270	SI11503竪穴住居跡出土遺物1	23
図版239	SD100・2050B河川跡出土骨角製品17	293	図版271	SI11503竪穴住居跡出土遺物2	24
図版240	SD100・2050B河川跡出土骨角製品18	294	図版272	SI11503竪穴住居跡出土遺物3	25
図版241	SD100・2050B河川跡出土骨角製品19	295	図版273	SI11503竪穴住居跡出土遺物4	26
図版242	SD100・2050B河川跡出土骨角製品20	296	図版274	SI11503竪穴住居跡出土遺物5	27
図版243	SD100・2050B河川跡出土骨角製品21	297	図版275	SI11503竪穴住居跡出土遺物6	28
図版244	SD100・2050B河川跡出土骨角製品22	298	図版276	SI11503竪穴住居跡出土遺物7	29
図版245	SD100・2050B河川跡出土動物遺存体1—貝類	303	図版277	SI11503竪穴住居跡出土遺物8	30
図版246	SD100・2050B河川跡出土動物遺存体2—魚類・ウニ・カニ・両生類・爬虫類	306	図版278	SI11503竪穴住居跡出土遺物9	31
図版247	SD100・2050B河川跡出土動物遺存体3—鳥類・中小型哺乳類	312	図版279	SI11503竪穴住居跡出土遺物10	32
図版248	SD100・2050B河川跡出土動物遺存体4—ニホンジカ(1)	322	図版280	SI11503竪穴住居跡出土遺物11	33
			図版281	SI11503竪穴住居跡出土遺物12	34

图版282	SH1503竖穴住居跡出土遺物13	35	图版319	G区平面图5	78
图版283	SH1503竖穴住居跡出土遺物14	36	图版320	G区平面图6	79
图版284	SH1503竖穴住居跡出土遺物15	37	图版321	G区平面图7	80
图版285	SH1503竖穴住居跡出土遺物16	38	图版322	G区孤立柱建物跡1	81
图版286	SH1501竖穴住居跡1	40	图版323	G区孤立柱建物跡2	82
图版287	SH1501竖穴住居跡2	41	图版324	SH11172・11173竖穴住居跡	83
图版288	SH1501竖穴住居跡出土遺物1	42	图版325	SH11173竖穴住居跡出土遺物	83
图版289	SH1501竖穴住居跡出土遺物2	43	图版326	SE11001井戶跡	84
图版290	SH1502竖穴住居跡出土遺物	44	图版327	SE11001井戶跡出土遺物1	85
图版291	F区遺構外出土遺物1	45	图版328	SE11001井戶跡出土遺物2	86
图版292	F区遺構外出土遺物2	46	图版329	SE11016井戶跡	88
图版293	G区全体图	49・50	图版330	SE11016井戶跡出土遺物	88
图版294	SA3158材木燼跡	51	图版331	SE11061井戶跡	89
图版295	G区平面图1	52	图版332	SE11061井戶跡出土遺物	90
图版296	SA11170孤立柱燼跡1	53	图版333	SE11174井戶跡	91
图版297	SA11170孤立柱燼跡2	54	图版334	SE11174井戶跡出土遺物	91
图版298	G区平面图2	55	图版335	SK11017・11207土坑出土遺物	92
图版299	SA11170孤立柱燼跡出土遺物	56	图版336	J区全体图	95・96
图版300	SA11170孤立柱燼跡出土柱材	57	图版337	SX11900・12089整地層断面图	97
图版301	SD11011区画溝跡	58	图版338	SX11900・12089整地層出土遺物	98
图版302	SD11011区画溝跡出土遺物	58	图版339	SA12612材木燼跡	99
图版303	SD11007A・B区画溝跡	60	图版340	SA12614材木燼跡	100
图版304	G区北西部全景	60	图版341	SA12614材木燼跡出土遺物	100
图版305	SD11007A・B区画溝跡出土遺物1	61	图版342	SD12324A・B区画溝跡	101
图版306	SD11007A・B区画溝跡出土遺物2	62	图版343	SD12324A・B区画溝跡出土遺物	102
图版307	SD11007A・B区画溝跡出土遺物3	63	图版344	SD12613区画溝跡	103
图版308	SD11007A・B区画溝跡出土遺物4	64	图版345	SD12613区画溝跡出土遺物	104
图版309	SD11008区画溝跡出土遺物	65	图版346	SD12113A・B区画溝跡断面图	105
图版310	SD11008区画溝跡、SD11009堀跡	66	图版347	SD12113A・B区画溝跡出土遺物	106
图版311	SD11164区画溝跡	66	图版348	SD12161・12162区画溝跡断面图	106
图版312	SD11164区画溝跡出土遺物	68	图版349	J区平面图1	107
图版313	SD11009堀跡出土遺物	69	图版350	J区平面图2	108
图版314	G区溝跡	70	图版351	SD11910区画溝跡	109
图版315	G区溝跡出土遺物	71	图版352	SD11910区画溝跡出土遺物	110
图版316	SB11065・11067・11301・11303・11304・11306孤立柱建物跡	75	图版353	SD12337・12338区画溝跡	111
图版317	G区平面图3	76	图版354	SD12337区画溝跡出土遺物	111
图版318	G区平面图4	77	图版355	J区平面图3	112
			图版356	J区溝跡断面图	113

图版357	J区溝跡断面写真	114	图版391	SI12305A・B型穴住居跡1	156
图版358	SB11924・12091・12616掘立柱建物跡、SA12617掘立柱塼跡断面図	117	图版392	SI12305A・B型穴住居跡2	157
图版359	J区平面图4	118	图版393	SI12305A・B型穴住居跡3	158
图版360	J区平面图5	119	图版394	SI12305型穴住居跡出土遺物	159
图版361	J区平面图6	121	图版395	SI12331型穴住居跡1	160
图版362	SB12258・12267・12279・12497・12498掘立柱建物跡	122	图版396	SI12620・12621型穴住居跡	161
图版363	SB12585・12586・12615・12643掘立柱建物跡	124	图版397	SI12331型穴住居跡2	162
图版364	SB12586掘立柱建物跡出土遺物	124	图版398	SI12331B型穴住居跡出土遺物	163
图版365	SB12584・12618・12619掘立柱建物跡断面図	125	图版399	SI12333型穴住居跡	165
图版366	J区北東部全景1	125	图版400	SI12333型穴住居跡出土遺物	165
图版367	J区平面图7	126	图版401	SX11905・12173・12538円形周溝跡断面図	167
图版368	SB12638掘立柱建物跡	128	图版402	SX12538円形周溝跡出土遺物	168
图版369	J区北東部全景2	128	图版403	SE12164井戸跡	169
图版370	J区平面图8	129	图版404	SE12164井戸跡出土遺物	170
图版371	J区平面图9	130	图版405	SE11934井戸跡	171
图版372	SB12563・12564・12632掘立柱建物跡、SA12640掘立柱塼跡	131	图版406	SE11934井戸跡出土遺物	172
图版373	SB12563掘立柱建物跡出土遺物	131	图版407	SE11935井戸跡	172
图版374	J区平面图10	133	图版408	SE11935井戸跡出土遺物	173
图版375	SB11970・12022・12023掘立柱建物跡	134	图版409	SE11967井戸跡	173
图版376	SB12024・12026・12027・12039・12040・12041・12053・12056・12059掘立柱建物跡断面図	137	图版410	SE11967井戸跡出土遺物	174
图版377	SB11981・12031・12045・12046・12048掘立柱建物跡	139	图版411	SE12192井戸跡	174
图版378	J区平面图11	140	图版412	SE12192井戸跡出土遺物	175
图版379	J区平面图12	141	图版413	SE12205井戸跡	175
图版380	SB12216掘立柱建物跡断面図	143	图版414	SE12205井戸跡出土遺物1	177
图版381	SB12217・12218掘立柱建物跡断面図	143	图版415	SE12205井戸跡出土遺物2	178
图版382	J区平面图13	144	图版416	SE12205井戸跡出土遺物3	179
图版383	J区南部空撮写真	145	图版417	J区土坑1	181
图版384	SB12150掘立柱建物跡断面図	145	图版418	J区土坑2	182
图版385	J区平面图14	146	图版419	J区土坑3	183
图版386	SB11938建物跡	150	图版420	J区土坑4	184
图版387	SX12566外周溝跡	151	图版421	J区土坑5	185
图版388	SI11978・11979型穴住居跡1	153	图版422	J区土坑6	186
图版389	SI11978・11979型穴住居跡2	154	图版423	J区土坑出土遺物1	187
图版390	SI11978・11979型穴住居跡出土遺物	155	图版424	J区土坑出土遺物2	188
			图版425	J区土坑出土遺物3	189
			图版426	J区土坑出土遺物4	190
			图版427	J区土坑出土遺物5	191
			图版428	J区土坑出土遺物6	192

图版429	SF12085烟跡断面图	196	图版467	SA7176·7755·7756材木脚跡	233
图版430	SF12085·12232烟跡	196	图版468	SA7176·7155·7756材木脚跡出土遺物	234
图版431	SF12237烟跡	198	图版469	SA7176材木脚跡出土遺物	234
图版432	SF12238烟跡断面图	198	图版470	SD2561区画溝跡断面图	236
图版433	J区平面图15	199	图版471	SD7940区画溝跡	236
图版434	SF12149烟跡断面图	200	图版472	L区平面图7	237
图版435	L区全体图	203·204	图版473	SD7940区画溝跡出土遺物	238
图版436	SX7103·7124·7128整地層断面图	205	图版474	SD7836A·B区画溝跡	238
图版437	SX7103整地層出土遺物1	207	图版475	SD7836A·B区画溝跡出土遺物	239
图版438	SX7103整地層出土遺物2	208	图版476	SD7847·7848区画溝跡	240
图版439	SX7103整地層出土遺物3	209	图版477	L区平面图8	241
图版440	SX7103整地層出土遺物4	210	图版478	SD7848区画溝跡出土遺物	242
图版441	SX7103整地層出土遺物5	211	图版479	SD7842·7844·7845·7881区画溝跡	243
图版442	SX7103整地層出土遺物6	212	图版480	SD7881·7842·7844·7845区画溝跡出土遺物1	244
图版443	SX7103整地層出土遺物7	213	图版481	SD7881·7842·7844·7845区画溝跡出土遺物2	245
图版444	SX7103整地層出土遺物8	214	图版482	SD461区画溝跡	246
图版445	SX7103整地層出土遺物9	215	图版483	SD461区画溝跡出土遺物1	247
图版446	SX7103整地層出土遺物10	216	图版484	SD461区画溝跡出土遺物2	248
图版447	SX7128整地層出土遺物1	217	图版485	SD461区画溝跡出土遺物3	249
图版448	SX7128整地層出土遺物2	218	图版486	SD461区画溝跡出土遺物4	250
图版449	SX7128整地層出土遺物3	219	图版487	SD461区画溝跡出土遺物5	251
图版450	SX7128整地層出土遺物4	220	图版488	SD461区画溝跡出土遺物6	252
图版451	SX7124整地層、SK7125土坑出土遺物	220	图版489	SD461区画溝跡出土遺物7	253
图版452	L区平面图1	221	图版490	SD461区画溝跡出土遺物8	254
图版453	L区平面图2	222	图版491	SD461区画溝跡出土遺物9	255
图版454	SA7784材木脚跡	223	图版492	SD461区画溝跡出土遺物10	256
图版455	L区平面图3	224	图版493	SD461区画溝跡出土遺物11	257
图版456	L区平面图4	225	图版494	SD461区画溝跡出土遺物12	258
图版457	L区平面图5	226	图版495	SD7100区画溝跡	259
图版458	SA7781材木脚跡	227	图版496	L区平面图9	260
图版459	L区西部空撮写真	227	图版497	SD7100区画溝跡出土遺物1	261
图版460	SA7781材木脚跡出土遺物	227	图版498	SD7100区画溝跡出土遺物2	262
图版461	SA7782材木脚跡	228	图版499	L区溝跡1	263
图版462	SA7782材木脚跡出土遺物	228	图版500	L区溝跡2	264
图版463	SA7838材木脚跡	229	图版501	L区溝跡出土遺物1	265
图版464	SA7839材木脚跡	230	图版502	L区溝跡出土遺物2	266
图版465	SA7621材木脚跡	230	图版503	L区溝跡出土遺物3	267
图版466	L区平面图6	231			

図版504	L区溝跡出土遺物 4	268	図版540	SI7221・7257竪穴住居跡 2	315
図版505	S87822・7828掘立柱建物跡	271	図版541	SI7221竪穴住居跡出土遺物	316
図版506	S87659・7660・7763・7764・7900・7926掘立柱建物跡	272	図版542	SI7364竪穴住居跡	317
図版507	L区平面図10	274	図版543	SI7364竪穴住居跡出土遺物	318
図版508	L区西部の建物跡	275	図版544	SI7212竪穴住居跡出土遺物	319
図版509	S87760・7776掘立柱建物跡	277	図版545	SI7212竪穴住居跡	320
図版510	L区平面図11	278	図版546	L区竪穴住居跡出土遺物 1	323
図版511	S87251・7283・7454・7757・7927・7932・7951掘立柱建物跡断面図	279	図版547	L区竪穴住居跡出土遺物 2	324
図版512	L区平面図12	281	図版548	SI7098竪穴住居跡出土遺物	325
図版513	L区平面図13	282	図版549	SE7105井戸跡	327
図版514	S87295・7330掘立柱建物跡	283	図版550	SE7105井戸跡出土遺物 1	328
図版515	L区平面図14	285	図版551	SE7105井戸跡出土遺物 2	329
図版516	S87347・7448・7682・7933・7935掘立柱建物跡断面図	286	図版552	SE7105井戸跡出土遺物 3	330
図版517	L区平面図15	287	図版553	SE7105井戸跡出土遺物 4	331
図版518	S87286・7308・7901掘立柱建物跡断面図	288	図版554	SE7105井戸跡出土遺物 5	332
図版519	L区平面図16	290	図版555	SE7105井戸跡出土遺物 6	333
図版520	S87380・7381・7409掘立柱建物跡断面図	291	図版556	SE7105井戸跡出土遺物7	334
図版521	L区平面図17	292	図版557	SE7105井戸跡出土遺物8	335
図版522	L区平面図18	294	図版558	SE7105井戸跡出土遺物 9	336
図版523	S87144・7233・7241・7267掘立柱建物跡	295	図版559	SE7258・7434井戸跡	337
図版524	S87180・7236・7266・7272掘立柱建物跡	295	図版560	SE7258井戸跡出土遺物	338
図版525	SI7171竪穴住居跡	299	図版561	SE7292井戸跡	339
図版526	SI7171竪穴住居跡出土遺物	300	図版562	SE7292井戸跡出土遺物	340
図版527	SI7172竪穴住居跡	301	図版563	SE7758井戸跡	341
図版528	SI7172竪穴住居跡出土遺物	301	図版564	SE7758井戸跡出土遺物 1	342
図版529	SI7173竪穴住居跡出土遺物	301	図版565	SE7758井戸跡出土遺物 2	343
図版530	SI7173・7174竪穴住居跡	302	図版566	SE7758井戸跡出土遺物 3	344
図版531	SI7208竪穴住居跡 1	304	図版567	L区土器埋設遺構	346
図版532	SI7208竪穴住居跡 2	305	図版568	L区土坑 1	348
図版533	SI7208竪穴住居跡出土遺物	306	図版569	L区土坑 2	349
図版534	SI7219竪穴住居跡 1	308	図版570	L区土坑 3	350
図版535	SI7219竪穴住居跡 2	309	図版571	L区土坑 4	351
図版536	SI7219竪穴住居跡出土遺物 1	310	図版572	L区土坑 5	352
図版537	SI7219竪穴住居跡出土遺物 2	311	図版573	L区土坑出土遺物 1	353
図版538	SI7219竪穴住居跡出土遺物 3	312	図版574	L区土坑出土遺物 2	354
図版539	SI7221・7257竪穴住居跡 1	314	図版575	L区土坑出土遺物 3	355
			図版576	L区土坑出土遺物 4、土器埋設遺構出土遺物	356
			図版577	L区土坑出土遺物 5、土器埋設遺構出土遺物	357

図版578	L区土坑出土遺物 6	358	図版613	SBI1772掘立柱建物跡出土遺物	24
図版579	L区土坑出土遺物 7	359	図版614	M区平面図 5	25
図版580	L区土坑出土遺物 8	360	図版615	M区平面図 6	26
図版581	L区土坑出土遺物 9	361	図版616	M区中央東側全景	27
図版582	L区土坑出土遺物10	362	図版617	SK11726・11769土坑	28
図版583	L区土坑出土遺物11	363	図版618	SK11726・11769土坑出土遺物	29
図版584	L区土坑出土遺物12	364	図版619	M区平面図 7	31
図版585	SF7277・7802・7803烟跡	367	図版620	SF11791烟跡	32
図版586	L区平面図19	368	図版621	SF11793烟跡	32
図版587	L区出土動物遺存体	369	図版622	N区全体図	36
図版588	L区遺構外出土土器 1	370	図版623	N区土層断面図 1	37
図版589	L区遺構外出土土器 2	371	図版624	N区土層断面図 2	38
図版590	L区遺構外出土土器 3	372	図版625	SD11854溝跡断面図	39
図版591	L区遺構外出土土器 4	373	図版626	SD11855区画溝跡、N区遺構外出土遺物	39
<b>第3分冊</b>			図版627	N区全景	40
図版592	M区全体図	3・4	図版628	J区第V層水田跡平面図	44
図版593	M区平面図 1	6	図版629	SF12230水田跡 1	45・46
図版594	M区平面図 2	7	図版630	SF12230水田跡 2	47
図版595	SD180A・B区画溝跡断面図	8	図版631	山王遺跡火山灰分析写真 1	53
図版596	SD180区画溝跡	9	図版632	山王遺跡火山灰分析写真 2	54
図版597	SD180B区画溝跡出土遺物 1	10	図版633	山王遺跡のテフラ組成ダイヤグラム	55
図版598	SD180B区画溝跡出土遺物 2	11	図版634	古墳時代後期の集落と試料採取地点	61
図版599	SD180B区画溝跡出土遺物 3	12	図版635	山王遺跡出土の大型植物遺体 1	68
図版600	SD180B区画溝跡出土遺物 4	13	図版636	山王遺跡出土の大型植物遺体 2	69
図版601	SD180B区画溝跡出土遺物 5	13	図版637	メロン仲間種子長 3型の出土比率	70
図版602	SD180B区画溝跡出土遺物 6	14	図版638	古墳時代中期土器分類図 1	76
図版603	SD180B区画溝跡出土遺物 7	15	図版639	古墳時代中期土器分類図 2	77
図版604	SD180B区画溝跡出土遺物 8	16	図版640	八幡地区SI11503竪穴住居跡出土土器	80
図版605	SD180B区画溝跡出土遺物 9	17	図版641	八幡地区SI5287・5288・5306住居跡出土土器	81
図版606	M区平面図 3	18	図版642	八幡地区SX230遺物包含層出土土器 1	82
図版607	M区平面図 4	19	図版643	八幡地区SX230遺物包含層出土土器 2	83
図版608	SD11739A・B区画溝跡	20	図版644	町地区SI1234・2983・3012・3022住居跡出土土器	86
図版609	SD11739B区画溝跡出土遺物	20	図版645	館前地区SX1744・1745落ち込み、SX5025廃棄跡出土土器	87
図版610	SD11781A・B・C区画溝跡断面図	21	図版646	鴻ノ巣遺跡SI6・8住居跡出土土器	88
図版611	SD11781A・B・C区画溝跡出土遺物	21	図版647	鴻ノ巣遺跡SI9・11住居跡出土土器	89
図版612	SBI1770・11771・11772・11773掘立柱建物跡	24	図版648	鴻ノ巣遺跡1号住、SI10・13住居跡出土土器	90

図版649	鴻ノ巣遺跡SI19・20住居跡出土土器	91	図版678	山王遺跡多賀前地区SK503土器部、千刈田地区SX543土器部出土土器	135
図版650	古墳時代後期土器分類図1	94	図版679	八幡地区SE12205井戸跡出土土器	136
図版651	古墳時代後期土器分類図2	95	図版680	多賀城跡鴻の池地区第7層出土土器	137
図版652	SD2050B河川跡 平成4・5年調査第6・7層出土土器	100	図版681	多賀城跡跡SK058土坑出土土器	138
図版653	SD2050B河川跡 平成4・5年調査第1層出土土器	101	図版682	凝灰岩切石組カマドと切石	142
図版654	SD100・2050B河川跡出土土器1-4層上面・4・5層	102	図版683	古墳時代後期集落と河川跡の位置	148
図版655	SD100・2050B河川跡出土土器2-3層	103	図版684	SD180A区画溝跡出土土器	155
図版656	SD100・2050B河川跡出土土器3-1層・2層上面・2層	104	図版685	古墳時代中・後期における主要遺構の変遷	169
図版657	SD100・2050B河川跡出土土器4-1層・2層上面・2層	105	図版686-1	古代における主要遺構の変遷(D・F・G・M区)	174
図版658	八幡地区SI491・2246住居跡、SK7102土坑出土土器	106	図版686-2	古代における主要遺構の変遷(J・L区)	175
図版659	伏石地区SD6517区画溝跡出土土師器	107	図版687	古墳時代前期の水田跡	181
図版660	伏石地区SD6517区画溝跡出土須恵器	108	図版688	山王遺跡の水田模式図	182
図版661	伏石地区SK6777大土坑出土土器	109	図版689	古墳時代前期の山王・市川橋遺跡	183
図版662	土師器食器の製作痕跡	110	図版690	水田跡柱状図	185
図版663	土師器鉢・壺・甕・甌の器形1	112	図版691	古墳時代中期の遺構配置図	187
図版664	土師器鉢・壺・甕・甌の器形2	113	図版692	東日本の堀・溝を有する豪族館宅と竪穴遺治遺構(古墳時代中期)	189
図版665	土師器における器形の共有	114	図版693	八幡・伏石地区出土の鉄製品と鍛冶関連遺物	191
図版666	高崎古墳群SR32窯跡、高崎遺跡SR1678窯跡出土須恵器	117	図版694	北関東・東北地方における古墳時代中期の竪穴鍛冶遺構	194
図版667	椰菜遺跡1~4号墳、八幡崎B遺跡Ⅲ層出土須恵器	119	図版695	山王遺跡における古墳時代後期の集落	200
図版668	八幡地区SD180B区画溝跡出土土器	121	図版696	竪穴住居の規模とカマド位置	204
図版669	八幡地区SD461区画溝跡出土土器	123	図版697	八幡地区の大型竪穴住居跡	205
図版670	八幡地区SK7090土坑、SX7124・7128整地層出土土器	124	図版698	大型竪穴住居跡の出土遺物	206
図版671	八幡地区SD180B区画溝跡 平成2年度調査出土土器	126	図版699	大型と中小型竪穴住居と井戸の関係	207
図版672	八幡地区SD677溝跡、SD2124区画溝跡出土土器	127	図版700	区画Ⅰ期の様相	211
図版673	八幡地区SI7043・7212竪穴住居跡、SE11001井戸跡、SK7093土坑、SD786溝跡出土土器	128	図版701	区画Ⅱ期の様相	214
図版674	館前地区KSX1351C河川跡2層出土土器	130	図版702	D区整地層と道路との関係	219
図版675	高平地区SK236土坑、館前地区KSX1351D河川跡3層出土土器	131	図版703	西5道路における側溝の対応関係	221
図版676	多賀城跡大畑地区SE2101B井戸跡第Ⅲ層、五万崎地区SK2272土坑出土土器	132	図版704	北3西5区・北3西6区の変遷	222
図版677	多賀城跡五万崎地区SK2270土坑、大畑地区SK2321土坑4~6層出土土器	134	図版705	方格地割Ⅰ期の様相	230
			図版706	方格地割Ⅱ-A期の様相	233
			図版707	方格地割Ⅱ-B期の様相	236
			図版708	Ⅱ-B期における道路・区画施設の変化	236
			図版709	方格地割Ⅲ期の様相	239
			図版710	八幡・伏石地区の変遷—区画Ⅰ期—方格地割Ⅲ期	241・242
			図版711	古墳時代前期の七北田川下流域遺跡群	244

図版712	沼向遺跡古墳時代前期の集落	246
図版713	沼向遺跡SI904・1011竪穴住居跡、SI928竪穴遺構出土土跡	246
図版714	古墳時代前期における周溝をもつ建物跡	248
図版715	町・町部地区出土古墳時代中期の須恵器と統織文土器	250
図版716	古墳時代中期の七北田川下流域遺跡群	251
図版717	古墳時代中期の円筒施設	252
図版718	山王SX230遺物包含層出土骨角製品・木製品	253
図版719	古墳時代後期の七北田川下流域遺跡群	257
図版720	山王・市川橋遺跡出土古墳時代後期の木製品	258
図版721	山王・市川橋遺跡出土古墳時代後期の骨角製品	259
図版722	山王・市川橋遺跡出土古墳時代後期の須恵器	260
図版723	沼向遺跡出土古墳時代後期の須恵器	262
図版724	方格地割造営の検討1	268
図版725	方格地割造営の検討2	270
図版726	方格地割造営の検討3	270
図版727	方格地割の変遷	272
図版728	建物配置の類型1	274
図版729	建物配置の類型2	275
図版730	多賀城南面国府域の様相(9～10世紀)	279・280

図版731	陸奥国府出土のミガキ須恵器	284
図版732	陸奥国府域におけるミガキ須恵器・壺G・大戸産須恵器の分布	285
図版733	多賀城跡におけるミガキ須恵器・壺Gの分布	286
図版734	陸奥国府出土の壺G	289
図版735	大戸窯跡群の変遷1—MH33・KA12期	294
図版736	大戸窯跡群の変遷2—MH19～KA112期	295
図版737	大戸窯製品の特徴・胎土1	296
図版738	大戸窯製品の特徴・胎土2	297
図版739	陸奥国府域出土の大戸産須恵器	298
図版740	円面硯の各部名称	303
図版741	陸奥国府および窯跡出土の円面硯	304
図版742	陸奥国府出土の風字硯	307
図版743	陸奥中部の城柵・官衙・居宅跡および窯跡出土の風字硯	308
図版744	陸奥国府域における硯・腰帯具の分布	310
図版745	陸奥国府域出土の形象硯	313
図版746	多賀城跡における硯・腰帯具の分布	316
図版747	陸奥国府出土の腰帯具1—鈎帯	320
図版748	陸奥国府出土の腰帯具2—石帯	321

# 表目次

## 第1分冊

表1 図版3掲載遺跡地名表	7
表2 山王・市川橋遺跡の大規模発掘調査一覧	13
表3 八幡・伏石地区の調査面積	14
表4 東日本大震災による八幡・伏石地区の地殻変動量	15
表5 D区溝跡属性表	118~120
表6 D区掘立柱建物跡属性表	131~133
表7 D区掘立柱厨跡属性表	133
表8 D区竪穴住居跡属性表	149・150
表9 D区井戸跡属性表	166
表10 D区土坑属性表	167・168
表11 D区畑跡属性表	174
表12 土壌サンプル採取状況	300
表13 詳細分析サンプルと分析率	300
表14 出土種名表	301
表15a 貝類出土状況(N I S P)	304
表15b 貝類出土状況(重量)	304
表16 目視/4mm試料における各魚種出土状況	305
表17a 細分析サンプルにおける各魚種出土状況(1)	307
表17b 細分析サンプルにおける各魚種出土状況(2)	308
表18 爬虫類・両生類・ウニ・カニ出土状況	311
表19 鳥類出土状況	311
表20 ニホンジカ各部位におけるMN I	311
表21 ニホンジカ胎骨構成	311
表22a ニホンジカ頭蓋骨出土状況	314
表22b ニホンジカ下顎骨出土状況	316・317
表22c ニホンジカ部位出土状況	318・319
表23 ニホンジカ各部位におけるダメージ	320・321
表24 その他の哺乳類出土状況	321
表25a イノシシ下顎骨出土状況	324
表25b イノシシ部位出土状況	325
表25c イノシシ頭蓋骨出土状況	325
表26 イノシシ各部位におけるダメージ	327
表27a ウマ出土状況(1)	328
表27b ウマ出土状況(2)	329

表28 遺構出土その他の動物	329
表29 ウマ各部位におけるダメージ	329
表30a 計測値表(1)	329
表30b 計測値表(2)	330

## 第2分冊

表31 F区掘立柱建物跡属性表	18
表32 F区竪穴住居跡属性表	44
表33 F区土坑属性表	45
表34 G区溝跡属性表	72
表35 G区掘立柱建物跡属性表	82
表36 G区竪穴住居跡属性表	83
表37 G区井戸跡属性表	92
表38 G区土坑属性表	92
表39 J区溝跡属性表	115・116
表40 J区掘立柱建物跡属性表	147・148
表41 J区掘立柱厨跡属性表	149
表42 J区竪穴住居跡属性表	166
表43 J区円溝をもつ建物跡・円形円溝跡属性表	168
表44 J区井戸跡属性表	176
表45 J区土坑属性表	193~195
表46 J区畑跡属性表	200
表47 L区溝跡属性表	269・270
表48 L区掘立柱建物跡属性表	296・297
表49 L区掘立柱厨跡属性表	298
表50 L区竪穴住居跡属性表	320~323
表51 L区井戸跡属性表	344
表52 L区土坑・土器埋設遺構属性表	364~366
表53 L区畑跡属性表	369

## 第3分冊

表54 M区溝跡属性表	22
表55 M区掘立柱建物跡属性表	27
表56 M区土坑属性表	29
表57 M区畑跡属性表	32
表58 N区溝跡属性表	39
表59 山王遺跡のテフラ検出分析結果	51
表60 火山ガラス比分析結果	56

表61	重鉱物組成分析結果	56
表62	屈折率測定結果	57
表63	山王遺跡出土大型植物遺体一覧表1	62
表64	山王遺跡出土大型植物遺体一覧表2	63
表65	山王遺跡出土大型植物遺体一覧表3	64
表66	山王遺跡出土大型植物遺体 地点・層位別集計表	66
表67	山王・市川橋遺跡と鴻ノ巣遺跡における古墳時代中期の主要遺構出土土器	85
表68	古墳時代後期土器分類と宮城県文化財報告書第186集、村田分類2007との対応関係	97
表69	古墳時代後期の主要遺構出土土器	98
表70	多賀城周辺における5～10世紀の土器変遷	139
表71	本書で報告した硯	141
表72	詳細分析サンプルにおける主要貝類生息域別NISP	144
表73	各地点における全4mm試料貝類の分類群構成	145
表74	目視・4mm試料における魚種組成	145
表75	詳細分析サンプルにおける魚種組成	145
表76a	各詳細分析サンプルにおける魚類出土量(復元NISP)	146
表76b	貝組成タイプごとにみた各魚種復元NISPと海水/淡水比	146
表77	時期別鳥獣類出土量	147
表78	時期別鳥獣類組成	145
表79-1	掘立柱建物跡・堀跡の時期と方向(区画1期～方格地割Ⅱ-A期)	164
表79-2	掘立柱建物跡・堀跡の時期と方向(方格地割Ⅱ-B期～中世)	165
表80	山王遺跡と新田遺跡における古墳時代前期の水田跡	184
表81	東日本の堀・溝を有する豪族居館	190
表82	東北地方の竪穴竪治遺構	193
表83	古墳時代中期前葉の豪族居館から出土した各種遺物	197
表84	山王・市川橋遺跡における古墳時代後期の竪穴住居跡1	202

表85	山王・市川橋遺跡における古墳時代後期の竪穴住居跡2	203
表86	古墳時代後期集落から出土した各種遺物	209
表87	8世紀の竪穴住居跡	212
表88	8世紀後半の井戸跡	216
表89	西4道路跡側溝と北2a道路跡側溝の対応関係	220
表90	北2道路跡側溝と西6a道路跡側溝の対応関係	225
表91	八幡・伏石地区における道路の変遷	226
表92	古墳時代前期から奈良時代における七北田川下流域と砂押川流域遺跡群の動態	245
表93	古墳時代前期の周溝をもつ建物跡	249
表94	古墳時代中期における集落の特徴	254
表95	区画施設と比較	254
表96	陸奥国府における地区別・街区別ミガキ須恵器出土数	286
表97	陸奥国府出土のミガキ須恵器1	287
表98	陸奥国府出土のミガキ須恵器2	288
表99	陸奥国府出土の壺G	290
表100	陸奥国府における地区別・街区別壺G出土数	290
表101	大戸窯跡群における生産器種	292
表102	八幡・伏石・多賀前地区出土の大戸産須恵器1	299
表103	八幡・伏石・多賀前地区出土の大戸産須恵器2	300
表104	陸奥国府域における街区別大戸産須恵器出土数	301
表105	陸奥国府出土門面礫の分類	305
表106	図版741観察表	305
表107	陸奥国府域における街区別礫出土数	311
表108	多賀城跡における地区別礫出土数	317
表109	陸奥国府出土の腰帯具	322
表110	陸奥国府における地区別・街区別腰帯具出土数	323

## 調 査 要 項

遺 跡 名：山王遺跡八幡・伏石地区（宮城県遺跡地名表登載番号：18013）

市川橋遺跡八幡・伏石地区（宮城県遺跡地名表登載番号：18008）

遺跡記号：山王遺跡 FI

市川橋遺跡 ES

所 在 地：宮城県多賀城市南宮字八幡、山王字伏石、市川字中谷地

調査原因：三陸沿岸道路仙塩道路4車線化建設工事・多賀城IC建設工事（復興事業）

調査面積：山王遺跡 15,200㎡

市川橋遺跡 9,400㎡

調査期間：平成24年（2012）3月26日～平成25年（2013）3月7日

平成25年（2013）3月16日～平成26年（2014）3月28日

平成26年（2014）4月7日～6月27日

調査主体：宮城県教育委員会

調査担当：宮城県教育庁文化財保護課

調 査 員：〔平成24年度調査〕

文化財保護課職員：古川一明、村田晃一、白崎恵介、齋藤圭一、瀧中一道、大坂拓、鈴木啓司

東北歴史博物館（協力）：柳澤和明

宮城県多賀城跡調査研究所（協力）：三好秀樹

自治法派遣職員：阿部明彦（山形県）、高橋保雄（新潟県）、末木啓介（埼玉県）、伴瀬宗一（埼玉県）、田口明子（山梨県）、小淵忠司（岐阜県）、家原圭太（京都市）、上田健太郎（兵庫県）、西岡誠司（神戸市）、西岡巧次（神戸市）、中川寧（島根県）、山下平重（香川県）、遠藤武（愛媛県）

：〔平成25年度調査〕

文化財保護課職員：生田和宏、山中信宏、齋藤和機、傳田恵隆

東北歴史博物館（協力）：相原淳一

自治法派遣職員：阿部明彦（山形県）、矢口裕之（群馬県）、佐々木好直（奈良県）、鈴木久史（京都市）、岡本泰典（岡山県）、上山佳彦（山口県）、蔵本晋司（香川県）、和田理啓（宮崎県）、中村幸弘（熊本県）

：〔平成26年度調査〕

文化財保護課職員：遠藤則靖、齋藤和機

宮城県多賀城跡調査研究所（協力）：高橋透

自治法派遣職員：西口正純（埼玉県）、井上主税（奈良県）、岡本泰典（岡山県）

調査協力：国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所、多賀城市教育委員会、東北歴史博物館、

宮城県多賀城跡調査研究所

整理作業：〔平成26年度整理作業〕

文化財保護課職員：村田晃一、西村力、齋藤和機

自治法派遣職員：岡本泰典（岡山県）

：〔平成27年度整理作業〕

文化財保護課職員：熊谷宏規、齋藤和機、高橋透（多賀城跡調査研究所協力）

：〔平成28年度整理作業〕

文化財保護課職員：村田晃一、西村力、熊谷宏規、齋藤和機、黒田智章

：〔平成29年度整理作業〕

文化財保護課職員：村田晃一、西村力、齋藤和機

## 第1章 調査に至る経過

三陸沿岸道路の建設工事は、2011年に発生した東日本大震災以前から進められている。昭和47年～52年に、建設省東北地方建設局（現国土交通省東北地方整備局）・宮城県・仙台市・日本道路公団（現NEXCO東日本）は、仙台湾高規格幹線道路事業計画を立案した。その路線は亘理町・仙台市・多賀城市・石巻市を経て、岩手県宮古市に至るものである。このうち利府町春日から仙台市宮城野区中野までの7.1kmが、東北地方建設局仙台工事事務所（現東北地方整備局仙台河川国道事務所、以下、仙台工事事務所）が担当する仙塩道路である。

事業計画の実施に伴い、宮城県教育委員会は仙台工事事務所の依頼で昭和57年3月に路線計画地内の分布調査を実施した。その結果、特別史跡多賀城に隣接する山王遺跡・市川橋遺跡など8遺跡がかわることが判明した。特に山王遺跡・市川橋遺跡は、周辺の発掘調査から濃密な遺構の存在が推定された。

当初の事業計画では、道路が盛土工法で建設されることになっており、発掘調査に膨大な時間と費用が見込まれた。そこで宮城県教育委員会では盛土工法から高架工法への変更を申し入れた。さらに遺構面の数と遺構の密集度についての具体的な資料を得るため、昭和63年11月に山王遺跡など約1,500㎡の試掘調査を実施した。その結果、弥生時代から古代にかけての遺構や遺物が発見された。これを受けて、仙台工事事務所は国道45号線から利府町にかけて3.7kmの高架構で結ぶ工法に計画変更することを決定した。

道路の建設に伴って、山王遺跡八幡地区に多賀城インターチェンジ（以下、多賀城IC）建設が計画され、宮城県教育委員会と多賀城市教育委員会は平成元年度より本線部分に先行して発掘調査を実施した。発掘調査は平成元年度の第1次調査から平成3年度の第3次調査まで行われ、調査対象地域約49,000㎡のうち約27,000㎡（多賀城市調査含む）について調査を終了した。平成4年度以降は、工事工程等を勘案して本線部分を優先して調査することになり、多賀城IC予定地の調査は一時中断することとなった。

しかし社会情勢の変化等により、三陸沿岸道路（仙塩道路）は暫定2車線を開通した段階で事実上休止状態となり、IC予定地は平成6年度の伏石地区の本発掘調査を最後に、当該事業にかかる本発掘調査を中止することとなった。この事業休止までに調査した成果については、宮城県教育委員会と多賀城市教育委員会が、それぞれ発掘調査報告書を刊行している（宮城県教委1994・1997、多賀城市教委1991・1992・1997）。

事業休止から約14年後の平成23年3月11日に東日本大震災が発生した。この大震災では、暫定開業していた三陸沿岸道路が震災直後から沿岸部被災地への災害派遣・救助作業や生活物資の運搬で重要な役割を果たした。その結果、平成23年度に国により被災地復興のための「復興道路」に位置付けられ、未開通区間と併せて三陸沿岸道路（仙塩道路）の4車線化と多賀城IC建設事業が優先して整備されることとなった。

この決定を受けて、平成23年度下半期以降、国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所と宮城

県教育委員会・多賀城市教育委員会は、多賀城IC予定地の未調査部分と4車線化の事業地内の発掘調査の早期着手・早期終了のための協議を重ねた。その結果、震災発生から約1年後の平成24年3月26日より、山王遺跡八幡地区と多賀前地区の発掘調査に着手した。

## 第二章 遺跡の概観

### 1. 遺跡の位置と地理的環境

山王遺跡・市川橋遺跡は宮城県仙台市の中心部から北東へ約10km、多賀城市の北西部にあり、標高約2～3mの水田地帯に位置する。地形的には遺跡は砂押川左岸の丘陵地から沖積地へ移行する低地上に立地している（図版1）。この沖積低地は南北約50km・東西約10kmの臨海沖積低地である仙台平野の北端部に所在し、遺跡周辺の沖積低地は北～東部で台地や丘陵地に接している。遺跡の北～東部にかけては陸前丘陵から派生した多賀城台地、北西側には富谷丘陵が広がる。多賀城台地の高度は50m前後で、緩やかな起伏を持ち塩釜・松島方面へ海拔高度を上げながら連続する。砂押川が流下する入管谷方面は特に番ヶ森層と呼ばれる軽石砂岩が広く分布しており、これらの軽石砂岩が沖積低地の砂質堆積物の供給源になっている（松本1995）。

遺跡近辺を流れる河川には七北田川と砂押川がある。七北田川は遺跡の西側に流路を持つ幹線流路長45kmの二級河川である。河床勾配が他の仙台平野を流れる河川と比較して緩やかであり、七北田川流域の沖積低地は比較的土砂供給量が少なく、地表面も低平である（松本前掲）。

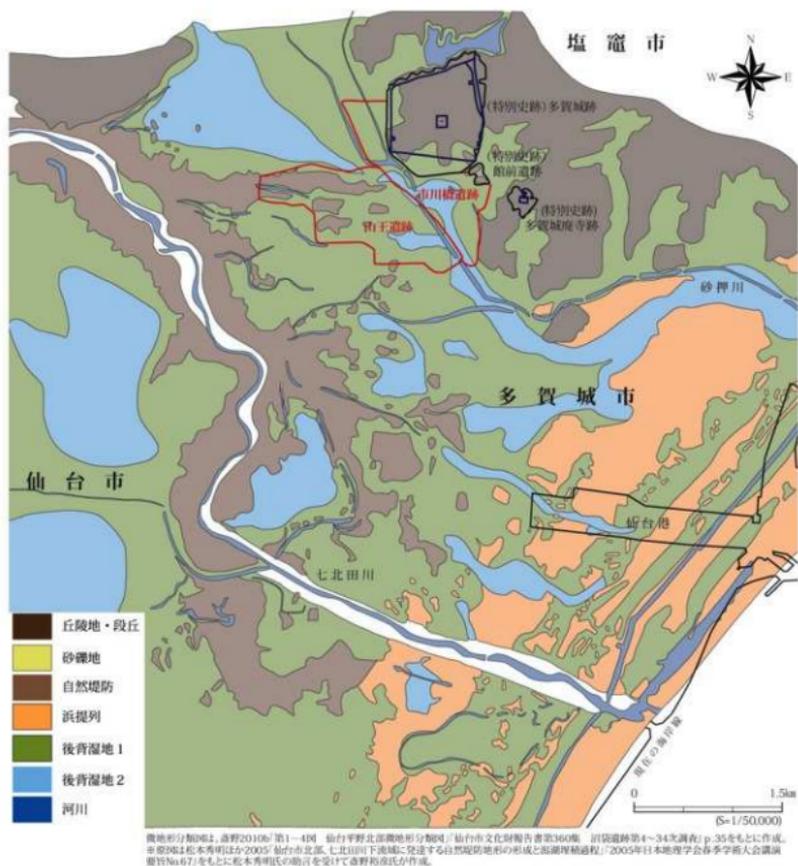
山王遺跡・市川橋遺跡周辺の表層の微地形は、地点によって微高地も認められ、埋没した旧河川やこれらによって形成された自然堤防、泥炭層が厚く堆積する後背湿地などが複雑に入り組んで分布している。

この微地形の分布から、現在では七北田川・砂押川ともに流路が固定しており、景観に大きな変化はみられないが、河川工事と圃場整備以前の遺跡周辺は景観が絶えず変化していたことがわかっている。現在は宅地・水田地帯となっている遺跡の南方では、縄文海進によって広がった内湾（松本1981）が約5,000～4,500年前に形成された第一浜堤列によって封じられ、潟湖が形成されていた。潟湖に流入する砂押川や七北田川も絶えず流路を変えており、遺跡周辺では埋没した旧河道が各所で確認されている。潟湖は縄文時代中葉～近世初頭までその規模を縮小させつつ存在しており、埋積地域は低湿地へと変化した（松本1996）。

また潟湖は淡水～汽水・鹹水であったと推定され（仙台市教委2010b）、潟湖と流路を変化させる砂押川が遺跡を形成した各時代の生活にも大きく影響していたと思われる。

### 2. 歴史的環境

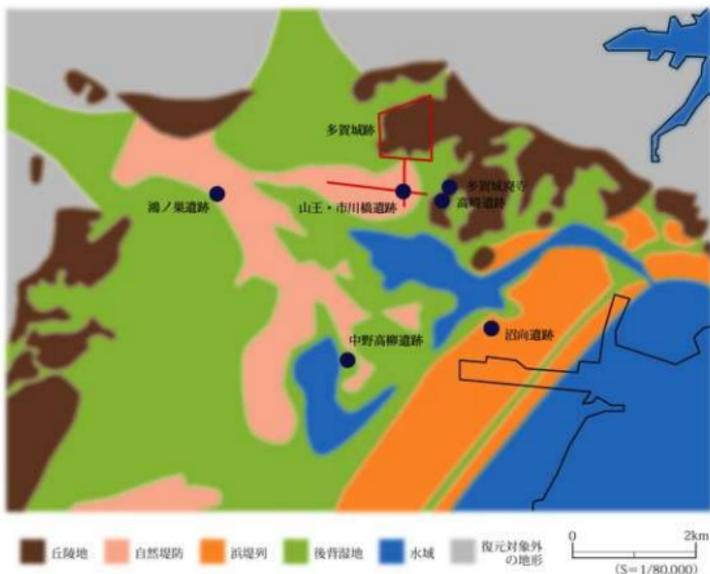
山王・市川橋遺跡が所在する多賀城市周辺は、多数の遺跡が存在する。その中には、多賀城跡の継続的な発掘調査に加え、開発に伴う調査が行われた遺跡が多く含まれる。ここでは、それらの成果を



図版1 遺跡周辺の微地形分類図

中心に本報告とかかわりが深い弥生時代から江戸時代の様子を概観する。仙台平野北東部の遺跡は、巨視的にみて七北田川下流域の遺跡群と総称することができる。これらのうち、多賀城跡、同慶寺跡、山王・市川橋、高崎、新田、鴻ノ巣、沼向、中野高柳の8遺跡は長年の調査によって、ある程度内容が明らかになっている。特に沼向遺跡では、仙台平野北部における微地形環境の変遷案が提示され、これに伴う遺跡群の動態が提示されている(仙台市教委2010b)。

松本秀明氏によれば、仙台平野北部は4,500~5,000年前に第1浜堤列が形成された結果、陸側に潟湖が形成され、以後、河川の堆積作用などで規模を縮小しながらも近世初頭まで存続した(松本2000)。前述の7遺跡は、この潟湖を取り巻くように分布しており、山王・市川橋遺跡は潟湖北岸の



図版2 仙台平野北部の微地形環境と主な遺跡の位置（仙台市教委2010bの平安時代を再トレースして加筆）

自然堤防、多賀城跡はその背後の丘陵、多賀城廢寺跡や高崎遺跡は東側の丘陵に立地する。また、沼ノ巣遺跡は潟湖の北西、山王・市川橋からは西へ1 km離れた自然堤防に、沼向遺跡は南東岸の河口近くの浜堤、中野高柳遺跡は古墳時代中期以降、潟湖を東西に2分する形で南北に延びた自然堤防に立地する（図版2）。

以下、これらの調査成果を中心に記述するが、その際、年代観は古墳時代前期以前については土器型式名を使用し、古墳時代中期以後は実年代で示すこととする（図版3、表1）。また、文献名は教育委員会を教委、多賀城市埋蔵文化財調査センターは多賀城市埋文センター、多賀城跡調査研究所は多賀研と省略することとする。

### （1）弥生時代

本遺跡八幡地区北側では、中期樹形囲式期の遺物を含む黒色泥炭層が地表下1.8～2.0 mの深さで確認された（宮城県教委1994c）。そこから30～130 m南東に離れた八幡地区東側でも、同時期の黒色泥炭層が地表下3.3 mの深さにあり、遺物集中箇所北側の低地には溝が巡っていた（宮城県教委2009）。さらに、八幡地区西側では時期が特定できないが、中期以前の水田跡が発見されている（多賀城市教委1997d）。

丘陵部では、多賀城跡五万崎地区で樹形囲式と十三塚式の土器と石包丁が出土しており、この周辺

に集落が想定できる（多賀研1978）。また、沼向遺跡では中期の寺下囲式から桜井式期までの土器が出土しており、基本的な器種構成と漸移的な文様変遷が指摘された（仙台市教委2010b）。

## （2）古墳時代

### 【前期】

本遺跡周辺では、塩釜式前半期の遺構・遺物は確認されていない。後半になると、山王谷地地区で竪穴住居跡1棟と周溝をもつ建物跡2棟（註1）、水田跡などが確認され、建物跡の外周溝からは廃絶に伴う一括土器が出土した（宮城県教委1998）。その近くで水田跡が検出されていることから、居住域の縁辺部にあたると思われる。また、毛上地区では竪穴住居跡2棟や周溝をもつ建物跡1棟（多賀城市教委2010c）、町地区で竪穴住居跡2棟（多賀城市教委2006d）が発見されており、同時期の居住域が毛上地区から町地区にかけて広がっていたと考えられる。

水田跡は新田遺跡から本遺跡にかけての広い範囲で確認されており、特に面的な調査を行った多賀前地区では、小区画水田が南北250m以上にわたって設けられていた（宮城県教委1995）。このほか、丘陵部では多賀城廃寺跡で3軒以上の竪穴住居跡（多賀研1976）、多賀城跡五万崎地区で方形周溝墓が発見されている（多賀研1978）。

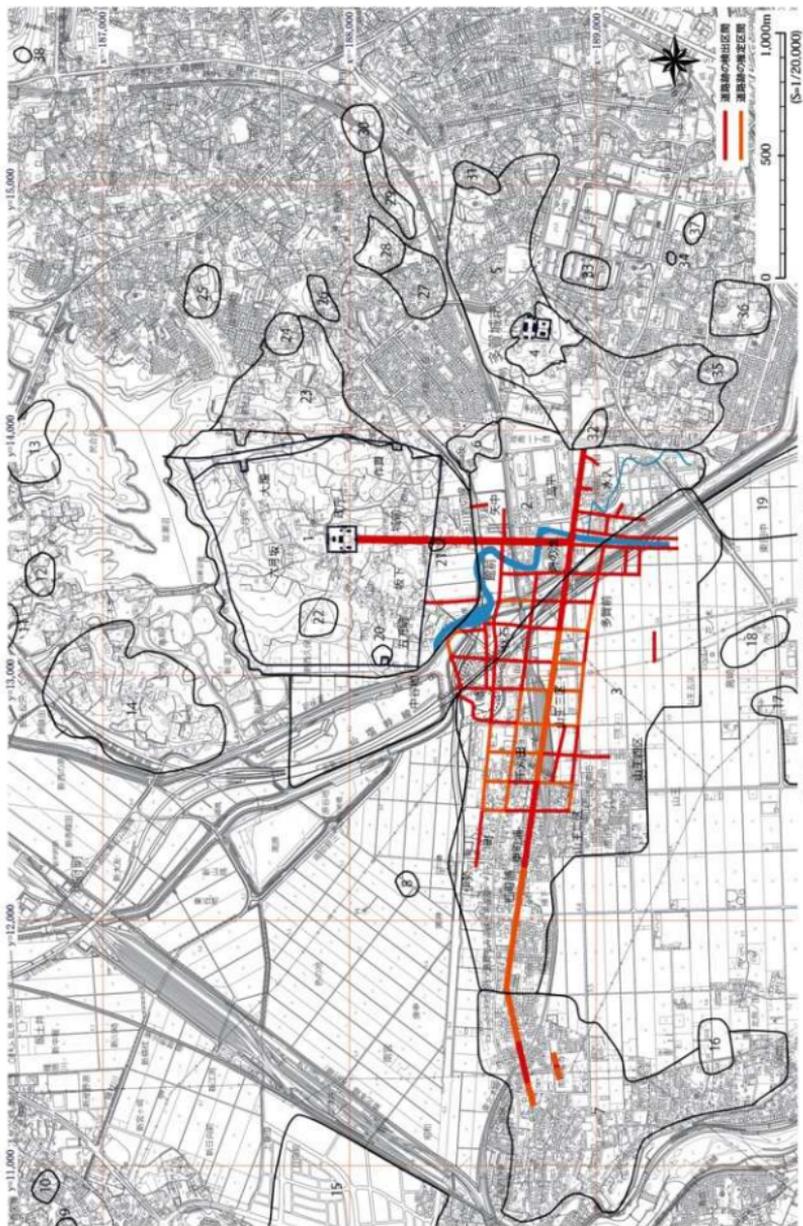
沼向遺跡では塩釜式後半期に3段階の変遷があり、それぞれで竪穴住居を中心とする居住域と方墳や円墳、方形周溝墓、土壌墓で構成される墓域が確認されたが、耕作域は未検出である。土鍾が多く出土したため、集落の主な生業は潟湖や外海を対象とした漁撈と考えられている（仙台市教委2010b）。

こうしたことから、古墳時代前期後半の七北田川下流域は、潟湖北岸の丘陵に近い自然堤防が居住域、隣接する後背湿地は水田耕作域で（山王・市川橋遺跡）、背後や東側の丘陵部にも居住域や墓域が認められた（多賀城跡・多賀城廃寺跡）。一方、潟湖の南東岸は、河口付近の浜堤に漁撈を主とした集落（沼向遺跡）が営まれ、居住域と墓域が形成された。

### 【中期】

山王・市川橋遺跡と鴻ノ巣遺跡は、中期（5世紀）を通して大規模集落が形成された。前者の5世紀前葉は八幡・伏石地区に認められる。鍛冶工房を含む竪穴住居群が塀と大溝で囲まれており、北側の河川には遺物包含層が発見されている（宮城県教委1994b・本書、多賀城市埋文センター1992b）。この時期の鍛冶工房は全国的にみて類例がきわめて少ないこと、包含層からは有力者の威儀具である刀装具や儀仗などが出土したことから、豪族居館と考えられる。また、居館は遺物包含層が短期間に堆積した厚い砂層で覆われるため、洪水で廃絶したと考えられる。

5世紀中葉は、八幡地区から西に600m離れた東町浦地区で大溝によって囲まれた一画が確認されており、豪族居館の可能性が指摘された（多賀城市編纂委員会1991）。その西の西町浦地区では、石製模造品の製作工房を含む竪穴住居跡や祭祀遺構、町地区で区画溝跡や竪穴住居跡などが確認されている（宮城県教委1998、多賀城市教委2006d）。本段階の特色として竪穴住居にカマドがつくられ、須恵器（陶器TK216～208型式期）が共存する点があげられる。後葉になると、八幡地区から東に



図版3 龍奥国府多賀城跡と方格地割、遺跡の分布

No.	遺跡名	種別	時代	No.	遺跡名	種別	時代
1	特別史跡多賀城跡	国府・城郭	奈良・平安	20	五方崎遺跡	散布地・墓	縄文・弥生・古墳
2	市川橋遺跡	集落・都市	旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安	21	田沼磯崎6号墓	墳墓	古墳
3	山王遺跡	集落・都市・屋敷	弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世	22	金剛日塚	日塚	縄文
4	特別史跡多賀城寺跡	寺院	奈良・平安	23	西沢遺跡	集落	古代・中世
5	高崎遺跡	集落・都市・城郭	奈良・平安・中世	24	法性寺遺跡	散布地・寺院	古代
6	特別史跡藤原遺跡	官舎	古代・中世	25	藤元古墳	古墳	古墳
7	新田遺跡	集落・屋敷	縄文・古墳・奈良・平安・中世	26	高草遺跡	散布地	古代・中世
8	内館遺跡	城郭	中世	27	小引田遺跡	散布地	古代・中世
9	佐賀坂遺跡	城郭	中世	28	加野田遺跡	散布地	奈良・平安
10	龍ノ内遺跡	城郭	中世	29	野田遺跡	散布地・城郭	古代・中世
11	天形遺跡	散布地	古代	30	久作ヶ原跡	散布地・城郭	古代・中世
12	窪道跡	散布地	古代	31	短ヶ谷遺跡	散布地・城郭	古代・中世
13	加藤日塚	日塚	縄文・古代	32	高崎古墳群	古墳	古墳
14	加藤遺跡群	散布地	縄文・古代	33	藤原教遺跡	城郭	中世
15	洲ノ口遺跡	集落・城郭	奈良・平安・中世・近世	34	稲刈古墳	古墳	古墳
16	安堂寺遺跡	寺院	古代・中世	35	赤田中窪前遺跡	散布地・城郭	古代・中世
17	大田南遺跡	集落・屋敷	平安・中世	36	志ノ川遺跡	散布地・城郭	縄文・古代・中世
18	大井北遺跡	散布地	古代	37	桜井遺跡	散布地・城郭	古代・中世
19	六田山遺跡	散布地	古代	38	坂野神社境内遺跡	散布地・割堀	縄文

表1 図版3 掲載遺跡地名表

400 m離れた館前地区の川岸で祭祀に伴う土器廃棄跡が確認されたが、居住域の位置は不明である（宮城県教委2001a）。

鴻ノ果遺跡では、竪穴住居群を塙と大溝で囲んだ一画が中期を通してほぼ同じ位置に営まれた（仙台市教委2004・2012）。集落は5世紀前葉と中・後葉に大別でき、さらに後者は新田2時期に細分され、塙や大溝の方向が異なっている。同様の区画施設を持つ山王・市川橋遺跡の豪族居館と較べると、存続期間が長く鍛冶工房が認められない、威儀具が認められず須恵器が極めて少ない一方、続縄文土器・黒曜石製石器・方割石といった北の地域との交流を示す遺物が多い、といった特徴が指摘できる。こうしたあり方に対し、沼向遺跡は洪水ののち竪穴住居が減少し、小規模な水田が営まれるのみとなり、前期に較べて集落は大きく縮小した（仙台市教委2010b）。

古墳時代中期の七北田川下流域は、潟湖北岸の背後に丘陵が控える自然堤防（山王・市川橋遺跡）と潟湖北西の自然堤防（鴻ノ果遺跡）に大集落が形成された。近接する2つの集落は、内部に塙や大溝で囲まれた一画があり、ともに古墳が確認されない点は共通するものの、継続期間や遺構・遺物の内容に違いが認められることから、それぞれ異なる性格を有したと考えられる。また、山王・市川橋の集落は5世紀中葉に西へ移動しており（八幡・伏石地区→町浦・町地区）、その原因は洪水で被害を受けたためと考えられる。一方、潟湖南東岸の浜堤に形成された沼向遺跡でも、前期の集落が洪水によって大きく縮小している。

## 【後期】

5世紀末から6世紀前葉の遺跡は、鴻ノ果遺跡で竪穴住居跡1軒のみ確認されており（仙台市教委2004・2012）、この時期の集落形成はきわめて低調であったといえる。6世紀中・後葉になると、本遺跡八幡地区、鴻ノ果遺跡、沼向遺跡で集落が認められる。須恵器は中期より少なくなり、TK10～43型式期が若干共存するに過ぎない。そうした中、鴻ノ果遺跡から東隣の沼向遺跡にかけての集落は、他の2遺跡に較べて祭祀遺構や堆積層から土器器が大量に出土したため（仙台市教委前掲、多賀城市埋文センター1989）、拠点集落は鴻ノ果遺跡周辺に営まれたと考えられる。

なお、同時期の仙台平野中央部に位置する南小泉遺跡では、中期以来の拠点集落が継続するエリアとは別の場所に大溝で区画された一画が設けられており、そこから関東系土器器が大量に出土し

た（仙台市教委1994）。

6世紀末頃に起こった洪水で鴻ノ果遺跡は大きな被害を受けており、集落は1世紀ほど途絶える。これに対し、6世紀末～7世紀前半の山王・市川橋遺跡や沼向遺跡では、前代からの集落が急速に拡大することから、鴻ノ果遺跡から両遺跡への住民の移動があったと考えられる。また、TK209型式期より高崎遺跡周辺や利府町域の窯で須恵器生産が開始し、その製品が周辺の墳墓や山王・市川橋や沼向の集落に向けて供給された。特に山王・市川橋から出土する須恵器の量は、同時代の集落と較べて突出して多いことが知られる（註2）。

八幡・中谷地・館前地区では、西を除く3方が河川に挟まれた自然堤防末端部から多数の竪穴住居跡が発見された。特に八幡地区では、南流する河川の両側に材木堀や溝で囲まれた一画が形成され、河川跡からは大量の土師器のほか、在地産を中心とする須恵器、仏具の柄香炉、卜骨に加え、斎串など後の律令的祭祀と共通する祭祀遺物などが出土した（宮城県教委2001b・2003b・2009、村田2002、柳澤2010b）。河川跡の遺物には多様な農具・狩猟具・漁撈具が認められたことから、自然堤防周縁から後背湿地が水田耕作域となり、背後の丘陵で狩猟、河川や潟湖、さらに外洋まで出かけて漁撈が行われたという生業の一端を具体的に知ることができた。

沼向遺跡でも集落が拡大しており、2箇所に分かれた居住域と畑、水田といった耕作域が互いに離れていた。この時期の墳墓としては、横穴式石室を有する稲荷殿古墳（多賀城市編纂委員会1991）や多賀城跡のⅡ期外郭南辺築地堀下で発見された田屋場横穴墓群があげられる。とくに後者は山王・市川橋遺跡北東側の丘陵に位置することから、同集落の墓域と考えられる（多賀研1986・2002、柳澤2010a）。また、東側の丘陵では墳墓や集落に須恵器を供給した窯跡が2箇所、1基ずつ確認された（多賀城市教委2007c・2011b・c）。製品は食膳具が少なく、供献具や貯蔵具が多い。こうした傾向は山王・市川橋や沼向といった集落跡でも認められることから、本期の須恵器生産は墳墓への供給を主とし、単基もしくは数基で操業し、比較的短期間のうちに窯場が移動する形態であったと考えられる。

古墳時代後期の七北田川下流域は、6世紀前半の集落がきわめて低調であった。後半に入ると鴻ノ果遺跡周辺や山王・市川橋遺跡、沼向遺跡で集落が認められるが、遺構や遺物の内容から潟湖北西の鴻ノ果周辺に拠点集落があったと考えられる。それが6世紀末頃の洪水で大きな被害を受けると、集落に住んだ人々は潟湖北岸の山王・市川橋遺跡と南東岸の沼向遺跡へ移動し、両遺跡の集落が急速に拡大した。とくに山王・市川橋は、自然堤防の末端に大集落が形成され、内部には材木堀や溝で囲まれた一画が設けられた。さらに、北側と東側の丘陵に墳墓や須恵器窯がつくられ、それらが一体的に機能したと考えられる。7世紀中頃、仙台平野南部に郡山I期官衙がつくられると、山王・市川橋遺跡の竪穴住居が激減し、沼向遺跡も居住域が縮小して、七北田川下流域の集落は全体に低調となった。

### （3）奈良時代

神亀元年（724）、陸奥国支配の拠点である国府多賀城が本遺跡背後の丘陵につくられた（図版3）。11世紀中頃に廃絶するまで律令政府による東北経営の中心施設であり、奈良時代は鎮守府も置かれた。多賀城は、一辺670～1,000mの不整な方形の範囲を築地堀で囲まれ、その中央に政庁があり、周囲

は実務官衙群や竪穴住居群が囲んでいた（多賀研1982a）。外郭は北辺を除く3辺に門が設けられ、南門と政庁南門、東門と西門を結ぶ基幹道路が発見されている。また、外郭南門の内側に道路を向いて建つ多賀城碑（国重要文化財）は、多賀城が神亀元年（724）に創建され、天平宝字6年（762）に修造されたことなどが記されており、修造者である藤原朝獨の顕彰碑と考えられている（安倍・平川編1989）。

8世紀前半の多賀城周辺は、南東約1.2kmの丘陵上に「観世音寺」という付属寺院（多賀城廃寺跡）が設けられたものの（多賀城市編纂委員会1991）、全体に遺構は希薄であり、自然堤防上や丘陵部で掘立柱建物跡や竪穴住居跡などが散在的に検出されたにすぎない。そうした中、山王・市川橋遺跡では多賀城外郭南門から南に延びる南北大路の遺構が奈良時代半ば以前に遡る可能性が指摘されたこと、館前地区を東流するSD5021河川跡から8世紀前半から中頃の土器が多く出土したこと（宮城県教委2001a）、八幡地区では材木堀と溝で広い範囲が囲まれ、古期の溝から8世紀前半以前、新期の溝からは8世紀第2～3四半期の実年代が記された漆紙文書とともに土器がまとめて出土したことから（多賀城市教委1991b・1992b）、館前地区から八幡地区にかけての場所にこの時期の遺構が展開したと考えられる。なお、本時期以降、竪穴住居や掘立柱建物、区画施設の方向は真北を指向するようになる。

8世紀後半になると、八幡・伏石・千刈田・館前・中谷地地区、新田遺跡後・北寿福寺地区や丘陵部の多賀城廃寺周辺の高崎遺跡井戸尻・弥勒地区などで掘立柱建物跡や竪穴住居跡が発見され、前代に較べて遺構数や遺物量が大幅に増える。とくに八幡地区では、掘立柱建物群が材木堀と溝で囲まれた2区画が東西に並んでおり、溝跡や土坑から同時期の土器が多く出土した。さらに、八幡地区の北にある中谷地地区では竪穴住居の居住域が溝で囲まれ、外側が畑耕作域となる状況が確認されている（宮城県教委2003b）。同時期の遺構は沼向遺跡や鴻ノ巣遺跡でも認められ、前者では区画溝を伴う畑の周りに竪穴住居や小規模な掘立柱建物が展開し、住居や区画施設の方向は真北を向いた（仙台市教委2004・2010b・2012）。

8世紀前半に多賀城や付属寺院が造営されたため、後半に入ると両施設を中心として潟湖北岸の自然堤防や丘陵の開発が急速に進み、新設された建物や区画施設は多賀城に合わせて真北を指向した。人々が集まり、その居住施設や関連施設として多数の掘立柱建物がつくられ、それらが方向を揃える姿は一般集落とは隔絶した景観を呈しており、こうした北岸の求心性は10世紀代を通して維持されたと考えられる。

周辺集落の整備とそれに伴う開発は、潟湖南東岸（沼向遺跡）や北西（鴻ノ巣遺跡）だけでなく、多賀城背後の丘陵でも認められ、利府町硯沢窯跡には8世紀前半から中頃にかけて大規模な須恵器窯群が形成された（宮城県教委1987、利府町教委1991・2011）。さらに、陸奥国分寺・国分尼寺の造営と多賀城第Ⅱ期の大規模修築に伴う瓦窯群が台原・小田原丘陵に設けられ、9世紀後半まで生産を継続して陸奥国最大の官窯群を形成した（古窯研1976）。

#### (4) 平安時代

8世紀末頃になると、幅23mの南北大路や幅12mの東西大路をメインストリートとして、多賀城政庁と外郭南門を結ぶ中軸線や外郭南辺築地塙を基準とした道路が約1町毎に置かれる方格地割が施工された。南北大路の西側は2段階の整備を経て基盤目状地割が整備され、多賀城を中心とした都市的空間＝町並みが完成した(宮城県教委1996bなど)(図版3)。範囲は最も拡大した9世紀後半の段階で東西約1.5km、南北0.8kmに及び、その後は部分的に道路側溝の改修が行われなかったり、居住施設が廃絶する街区が認められるものの、道路網は基本的に10世紀後半まで維持されたと考えられる。

街区内は遺構密度が高く、道路と方向を揃えた掘立柱建物や竪穴建物・住居、塙、区画溝、井戸、畑などがつくられた。遺物も土師器・須恵器の他に施軸陶器・会津大戸産須恵器・硯が多く出土しており、貿易陶磁器や金属製・石製の腰帯具も認められるなど、一般集落とは施設のあり方や人の集住度、遺物の様相が全く異なった。

9世紀～10世紀前半の方形街区の様相は、南北大路・東西大路交差点の北東街区で桁行11間、梁行2間の南北棟4棟が南北に2棟ずつ並ぶ城外で最大級の建物群が確認された。出土文字資料の検討から建物は馬の管理を担当した馬房で、その北の馬庭などで構成された馬関連の城外官衙の可能性が指摘されている(多賀城市教委2011f)。また、南北大路の西側の東西大路沿いの街区からは、千刈田地区や多賀前地区で廂付建物を含む建物群や宴会等に伴う一括廃棄土坑が発見され、それらの周囲から貿易陶磁器や多量の施軸陶器などが出土したことから、国司など上級官人の居宅が置かれたと考えられる。

そこから小路を挟んで南北に離れた街区は小規模な掘立柱建物が主体であり、鍛冶や漆作業に使用した遺物が出土することなどから、中・下級役人や庶民の居住域、各種の工房などがあったと考えられている(桑原・高野ほか2000)。一方、南北大路の東側は南流する河川とその支流が蛇行するため、西側ほど道路や街区の整備が進まなかったが、付属寺院へ通じる東西大路東道路沿いは施設が集中しており、壺Gや甕形土製品、製塩土器など特殊な遺物が多く出土した。

方格地割末端から外側の状況は、西端付近の東町浦地区、多賀城廃寺南側の高崎遺跡井戸尻地区で万燈会に係わる一括廃棄跡が発見され、国府主催の仏教儀式が行われた可能性が指摘されている(多賀城市史編纂委員会1991、柳澤2016b)。また、多賀城外郭西門外に位置する中谷地区では、9世紀後半を中心とする100基以上の木棺墓・土城墓・横位合口土師器甕棺墓からなる大規模な墓域が確認された(宮城県教委2003b)。さらに、多賀前地区の南端は水田の大畦畔が110m間隔で発見されており、多賀城周辺の水田耕作地には条里型地割が施工された。こうした例は仙台市南小泉(仙台東郊条里跡)・釣鉤(山田条里遺跡)・飯田・北目・袋原・富沢・市名坂をはじめ、利府町春日地区や名取市高館区でも認められている(熊谷2000b)。

多賀城南面における都市整備は、方格地割の外側にも影響を及ぼした。潟湖北岸の自然堤防や丘陵を中心に集落が増加・拡大するだけでなく、住居が竪穴建物から掘立柱建物へ移行し、その中には計画的配置をとるものが認められるなど集落構造にも変化をもたらした。また、潟湖を東西に2分する形で南北に延びた自然堤防の南端にあたる中野高柳遺跡では、灰白色火山灰の上下で区画溝を伴う大

規模な畑耕作域が形成され（宮城県教委2006）、沼向遺跡の北東に位置する八幡沖遺跡では、10世紀中葉に四面廂建物が出現しており（多賀城市教委2015d）、900年を前後する頃から潟湖をめぐる自然堤防や浜堤に対する新たな土地開発が顕著に認められる。

こうした多賀城周辺における変化は仙台平野一帯でも認められ、集落のほか水田や畑といった耕作域が拡大したり、新たに出現する傾向が認められる。さらに、多賀城背後の丘陵には、多賀城創建期の須志器窯跡群の奥に多賀城第Ⅲ・Ⅳ期の瓦窯が多数つくられ（大貝窯跡・春日窯跡群）、陸奥国最大の台原・小田原窯跡群とともに多賀城への2大瓦生産地を形成した（多賀研1982a、宮城県教委1987、利府町教委1991・2004）。

## （5）鎌倉・室町時代

本遺跡周辺で発掘調査が行われた中世遺跡としては、仙台市岩切城跡・東光寺遺跡・若宮前遺跡・今市遺跡・鴻ノ巣遺跡・洞ノ口遺跡・中野高柳遺跡、多賀城市新田遺跡・大日南遺跡・八幡館跡、利府町大貝窯跡などがあげられる。このうち山王・市川橋・中野高柳・洞ノ口・新田・大日南遺跡などでは、溝や堀で方形に囲まれた屋敷や方形館が検出されており、武士階級の屋敷跡と考えられている（田中2002）。なかでも洞ノ口遺跡は、13世紀から14世紀後半まで留守氏関連の屋敷が営まれた後、14世紀末頃に岩切城の根小屋として留守氏本家の城館がつくられ、16世紀後半まで存続した（仙台市教委2005a）。洞ノ口の東にある新田遺跡は13・14世紀の国府在庁官人の屋敷群（田中前掲）から、15・16世紀には堀で囲まれた城館に変容しており、こうした施設変遷のあり方は洞ノ口遺跡と共通する（千葉1992）。

こうしたことから、仙台市岩切から多賀城市新田にかけての地域は中世の陸奥国府、「多賀国府」とみられている（入間田・大石編1992）。多賀国府の名は12世紀半ばにみられ（『台記』康治2年5月14日条）、14世紀後半まで存続した。また、陸奥府中は多賀国府が所在した政治的・軍事的・宗教的な空間で、その範囲は高用名に重なるという説と府中の西部が高用名にあたるという説がある。「こうゆう」の名は「国府用」に由来し、高用名は国府運営のための費用を賄った特別行政区であり、留守氏が地頭を務めた（伊藤2000）。

多賀国府は多くの在庁官人が居住するとともに、経済の中心地でもあった。商業活動を行う在家が住み、旅宿が整備された町場（宿）が形成され、河原宿五日市場、冠屋市場という2つの市が開かれた。鴻ノ巣遺跡や今市遺跡の中世遺構は、こうした町場を構成する在家クラスの屋敷跡と考えられている（田中前掲）。また、利府町大貝窯跡では、14世紀以降とみられる製鉄炉跡7基、鍛冶炉跡21基、炭窯跡13基などが発見された（利府町教委2004）。多賀国府では、大量の鉄が必要されたことは想像に難くなく、その需要を賄うための鉄生産コンビナートと考えられる。

多賀国府の西にある東光寺境内では、158基以上の板碑が確認されている。主体となるのは追善供養や種字だけの板碑であり、13世紀後葉～14世紀前葉に造立されたものが多い。一方、国府の東、洞ノ口周辺から安楽寺にかけては、20基ほどの板碑が確認されており、その主体は造立者の極楽往生を願って生前に立てられた逆修供養の板碑である（石黒1988）。こうしたことから、多賀国府は西を

墓所や死者の場、東は生者の場にはさまれた中世都市であったと考えられる。

陸奥府中の東西両端には、東光寺と円福寺という二大寺院が建立された。前者は奥大道が冠川（七北田川）を渡った地点にあり、後者が位置する松島は、奥大道からの分岐道で多賀国府と結ばれるとともに、海に面し、高城川から吉田川・品井沼を経て大崎地方とつながる水陸交通の要地であった（村田2015 a）。両寺は谷戸を利用した禪宗寺院であること、伽藍を囲む崖に「やぐら」がつくられたこと、ほぼ同時期に主要建物瓦葺きとなり、南都系の軒瓦が採用されたこと、周辺に県内有数の板群が存在することなど多くの共通点が指摘できる。

さらに、陸奥府中の東西南北の境界には神社がまつられた。西宮は東光寺に隣接し、北宮は奥大道と松島へ向かう道の分岐点、南宮は奥大道から分岐した南宮道、東宮は海上交通路に面した（斎藤1992）。さらに、府中の南北両端には、湊浜のやぐら、菅谷のやぐらがつけられている。こうしたことから、陸奥府中は交通の要地に加えて、境界の神社・「やぐら」を伴う寺院・板群といった聖地・霊場に囲まれていたと考えることができる（村田前掲）。

## （6）江戸時代

16世紀末、本遺跡が所在する山王・南宮一帯は、伊達家の組頭である成田氏の采邑となった。塩竈街道沿いには成田氏配下の足軽達の屋敷をはじめとする住宅が建並び、現在に似た町並みが形成されたとみられる。その中で西町浦地区では、酒造業を営んだ記録が残る賀川家の宅地（多賀城市史編集委員会1991）、町地区では18世紀後半～19世紀頃の屋敷地の様子がある程度明らかとなっている（宮城県教委1998）。

とくに後者は、街道に対して間口が狭く奥行きが長い短冊形に敷地割りされた。その南側は建物群と素掘りの井戸などで構成された居住域、奥は素掘りの井戸や溝、池、土坑などが疎らに分布する耕作域とみられ、街道側を正面とする施設配置であったことがわかっている。ほかに、伊勢地区で一部が溝で仕切られた屋敷地（宮城県教委2004c）、八幡地区では墓跡と畑跡（宮城県教委1997）が、周辺の丘陵上は、多賀城跡作貫地区で塩竈神社神官志賀氏の屋敷跡、留ヶ谷遺跡や高崎遺跡で屋敷跡などが発見されている（桑原・高野・千葉1993）（註3）。

### 註

註1 報告書では方形周溝墓としたが（宮城県教委1998）、飯島義雄氏から建物跡であるとの指摘を受けた（飯島2008）。再検討の結果、同氏の指摘は妥当であると考えられたことから、本報告では「周溝をもつ建物跡」と訂正する。

註2 本段階に共伴する須恵器は陶邑TK209期で、近つ飛鳥編年ではⅡ型式5段階（7世紀初頭）に位置づけられることから、実年代は同時期以降とする考えもあるが（仙台市教委2010b）、ここでは前後の土器群の年代観を考慮して6世紀末～7世紀前半としている（村田2007）。

註3 山王・市川橋遺跡を中心とした調査成果と今後の課題についてみてきたが、その成果を踏まえて七北田川下流域における遺跡群の動態把握も必要であることは、論を待たない。

### 第三章 調査の方法と経過

#### 1. 東日本大震災の復興事業に伴う調査基準の弾力的運用について

##### (1) 発掘調査基準の弾力的運用に至る経緯

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の直後、激増する復旧・復興事業と埋蔵文化財発掘調査の両立を図る目的で、文化庁から「東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財の取り扱いについて」という通知が出された。通知では復旧・復興事業の円滑な推進と両立、被災地の実情に合わせた発掘調査基準の弾力的な運用という2つの基本原則が示されており、取扱いの適用範囲として復旧・復興事業が対象とされた。

その後、平成24年6月24日に開催された文化庁主催の「東日本大震災に伴う埋蔵文化財保護に関する会議」において、被災3県（岩手・宮城・福島県）で大きな差が生じないよう協議・調整が行われた。その結果、会議では「本発掘調査の範囲については、工事によって壊される範囲のみ」とする基本方針が決定された。なお、同会議では「遺跡の性格や内容等を踏まえ、各教育委員会の判断により、必要に応じて遺構の掘り下げ等の調査、盛土部分についても遺構の内容を確認する調査を実施することは可」であることも共有されている。

No.	遺跡名	地区名	小区	調査面積	調査原因	調査年度	調査主体	報告書	備考
1	市川橋遺跡	高平地区		3,465.5	土地開発計画	昭和48年度	多賀城跡調査研究所	年報1973	旧名：高平遺跡、多賀城第22次調査
2	山王遺跡	八幡地区	A～D区	16,700.0	多賀城インター建設事業	平成8年～3・6年度	宮城県教育委員会	県161・174	砂押川以西、多賀城二小より東、東北本線以北、鉄道発着駅以南
3	山王遺跡	八幡地区	E・F・J・J・N区	14,800.0	多賀城インター建設事業	平成2～6年度	多賀城市教育委員会	市27・30・45	砂押川以西、多賀城二小より東、東北本線以北、鉄道発着駅以南
4	山王遺跡	伏石地区	G区	4,600.0	多賀城インター建設事業	平成5・6年	宮城県教育委員会	県174	砂押川以西、多賀城二小より東、東北本線以北、鉄道発着駅以南
5	山王遺跡	伏石地区	G区	2,024.4	多賀城インター建設事業	平成24年度	宮城県教育委員会	本書(図246)	砂押川以西、多賀城二小より東、東北本線以北、鉄道発着駅以南
6	山王遺跡	八幡地区	D・F・J・J・M・N区	24,568.8	多賀城インター建設事業	平成24～26年度	宮城県教育委員会	本書(図246)	砂押川以西、多賀城二小より東、東北本線以北、鉄道発着駅以南
7	市川橋遺跡	中谷地区		1,900.0	二陸線自動車道(仙塩道路)建設事業	平成5・8年度	宮城県教育委員会	県174	砂押川と名古川の間
8	山王遺跡	多賀前地区		17,500.0	二陸線自動車道(仙塩道路)建設事業	平成4～6年度	宮城県教育委員会	県167・170・171	東北本線以南、砂押川右岸堤防以西側
9	山王遺跡	多賀前地区		5,720.0	二陸線自動車道(仙塩道路)4車線化事業	平成24年度	宮城県教育委員会	県235	東北本線以南、砂押川右岸堤防以西側
10	山王遺跡	八幡地区	I～IV区	5,000.0	都市計画道路玉川宮切開建設事業	平成4・5年度	宮城県教育委員会	県162	砂押川以西、多賀城インター以北
11	山王遺跡	八幡・町地区	V～X区	7,100.0	都市計画道路玉川宮切開建設事業	平成7・8年度	宮城県教育委員会	県175	多賀城二小南側、ライスセンター南側
12	山王遺跡	伊勢地区	I～3区	5,900.0	都市計画道路玉川宮切開建設事業	平成14・15年度	宮城県教育委員会	県198	ライスセンター南側以西側
13	山王遺跡	八幡・町地区	第1～4工区	7,600.0	都市計画道路玉川宮切開4車線化事業	平成25年度	宮城県教育委員会	県238	砂押川以西、ライスセンター南側、多賀城インター以北
14	市川橋遺跡	駅前・矢中地区	A～1区	7,505.0	都市計画道路玉川宮切開建設事業	平成7～10年度	宮城県教育委員会	県184	砂押川以南、多賀城市中央公園北側
15	市川橋遺跡	駅前北地区		294.4	都市計画道路玉川宮切開建設事業	平成16・17年度	宮城県教育委員会	県209	多賀城市中央公園北側
16	市川橋遺跡	伏石地区		4,761.0	都市計画道路玉川宮切開建設事業	平成17～19年度	宮城県教育委員会	県218	砂押川(堤防・川中)以西、東北本線以北、鉄道発着駅以南側
17	市川橋遺跡	中谷地区		7,500.0	砂押川広域排水利改修事業	平成12～14年度	宮城県教育委員会	県193	砂押川と名古川の間
18	市川橋遺跡	駅前地区		3,429.0	多賀城市中央公園建設事業	平成5年度	多賀城市教育委員会	市50	多賀城市中央公園建設に係る確認調査
19	市川橋遺跡	跡分池・高平・水入地区	A～D区	16,220.0	遺跡発掘事前総合調査	平成9・10年度	多賀城市教育委員会	市55	遺構確認調査
20	市川橋遺跡	高平地区	B区	2,650.0	城南土地区画整理事業	平成10年度	多賀城市教育委員会	市60	砂押川東側、東北本線南側
21	市川橋遺跡	水入地区	C区	16,841.0	城南土地区画整理事業	平成11～14年度	多賀城市教育委員会	市70	砂押川東側、東北本線南側
22	市川橋遺跡	跡分池地区	A～D区	33,630.0	城南土地区画整理事業	平成10～14年度	多賀城市教育委員会	市75	砂押川東側、東北本線南側

※報告書の「年報」は多賀城跡調査研究所年報、「県」は宮城県文化財報告書、「市」は多賀城市文化財調査報告書を指す。

表2 山王・市川橋遺跡の大規模発掘調査一覧

年度	2012						2013						2014	累計	
	市川橋		山王		計	市川橋		山王		計	山王				
遺跡名	D	L(東)	F	G		DP95	L(西)	J	M			N	DP90	DP83	J
埋蔵調査 (㎡)	3,374	2,600	804	2,024	140	8,942	3,382	7,283	3,052	438	141	140	14,436	1,200	24,578
本調査 (㎡)	220	110	110	500	140	1,080	230	-	650	141	140	1,161	410	2,421	

表3 八幡・伏石地区の調査面積

文化庁通知と会議での基本方針を踏まえて、宮城県においても宮城県発掘調査基準を弾力的に運用することとし、発掘調査期間の短縮化を図ることを決定した。特に復興事業に伴う本発掘調査については、工事によって遺構が破壊される場合のみ行うこと、建物の基礎等による破壊が及ばない下層については本発掘調査を要しないこととした。

本書に係る三陸沿岸道路（仙塩道路）4車線化と多賀城IC建設工事においても、復興事業であることから上記の発掘調査基準の弾力的運用をしている。具体的には、多賀城ICの道路盛り土部分については、通常では2m以上の場合は遺構が破壊されるため本調査対応であるが、事業者（国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所）に対して、盛り土の軽量化と遺構確認面を山砂で被覆することによる遺構の保護を要求するとともに、最上層の遺構面のみを確認調査に留めることとした。この結果、遺構が破壊される料金所地下道と橋脚部分のみ掘削底面までの遺構面が本調査対象となり、山王・市川橋遺跡は調査対象面積24,568㎡のうち、2,421㎡のみが本調査対象で、残り22,147㎡については確認調査に留めることになった（表3）。

## (2) 調査体制の強化

復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の迅速化のため、宮城県教育委員会では他県市からの自治法派遣職員の応援を得て調査体制を強化した。

山王・市川橋遺跡は、他の復旧・復興事業に係る発掘調査と比較して遺構・遺物量が多いため、宮城県職員に加えて平成24年度から平成26年度まで延べ14県2市・20名の自治法派遣職員と、延べ4名の東北歴史博物館・宮城県多賀城跡調査研究所の協力を得て発掘調査の迅速化を図った。

## (3) 本書の作成方針

復旧・復興事業に係る発掘調査の増加に伴って、報告書作成業務の増加が見込まれた。そのため、平成25年度の「東日本大震災に伴う埋蔵文化財保護に関する会議（第16～19回）」において報告書の作成方針について調整・協議がされた。被災3県（岩手・宮城・福島県）で多少の違いが認められることとなったが、宮城県では報告書作成を含めた復旧・復興事業に係る発掘調査を早期に終了させるため、「復旧・復興事業に係る発掘調査に限り報告書の内容を最小限に止める」方針を決定し、平成26年度以降刊行の復興関連報告書を対象とした。平成26年2月7日に「復興調査に係る連絡調整会議」において宮城県教育委員会が県内各市町村教育委員会に対してこの方針を説明した。

報告書の作成方針では、体裁についても言及されている。具体的には、①整理対象遺物の限定、②遺構・遺物提示の限定、③一部民間委託の検討を3つの柱として、通常の報告書作成と比較して迅速

化することが求められた。

本書に係る整理作業においては、遺構・遺物量が膨大であることから、①・②を中心に報告書作成の迅速化に努めた。特に②については、遺構の一部を全体の遺構配置図と属性表のみで提示、遺物の一定数を写真と断面図で対応することとした。③については、平成元年度からの調査と総合して遺跡を検討する必要があることと遺跡の重要性に鑑みて、自然科学分析と写真撮影を除いて対応していない。

したがって、本書の体裁は基本的に復旧・復興事業関連調査の報告書の作成方針に準拠するが、遺跡の重要性と山王・市川橋遺跡八幡地区の大規模調査として最終的な報告になることを鑑み、特に重要と思われる項目については調査成果を②の基準より詳しく記載している。

#### (4) 東日本大震災による地殻変動

本書の作成にあたり、平成元年～3年の調査(以下、旧調査と略称する)と今回の調査の遺構全体図を合成する必要があった。旧調査は日本測地系(第X系国家座標)に基づいた東西・南北3m方眼の基準線で調査されており(以下、山王遺跡測地系とする)、合成に際して、まず山王遺跡測地系の基準点を日本測地系に変換、日本測地系を東日本大震災前の世界測地系に変換した。日本測地系から東日本大震災前の世界測地系への座標変換は、国土地理院の世界測地系移行用座標変換プログラム「TKY2JGD」を用いた。

上記のプログラムで変換した世界測地系は、東日本大震災による地殻変動で、大きく変更されており、今回の調査で用いた東日本大震災後の世界測地系とは大きく異なることが判明していた。そこで国土地理院の東日本大震災前後の世界測地系での地殻変動量を計算するプログラム「PatchJGD」を用いて、地殻変動に基づく座標変更を計算した。

その結果、山王遺跡測地系でのSOEO地点では、東日本大震災前後で、世界測地系座標が、X(南北方向)で南に1.026m、Y(東西方向)で東に3.5m変動していることが判明した(表4)。その結果を踏まえて旧調査の遺構全体図に、今回の調査で作成した遺構全体図を合成したところ、概ね合致する結果となった。

本書の平面図は、全て震災後の世界測地系座標で示している。隣接または一部重複する旧調査は今回の調査に合わせているため、東日本大震災前の座標とは位置が異なることに留意された。

		a. 日本測地系		b. 震災前の世界測地系 (TKY2JGDで変換)		c. 震災後の世界測地系 (PatchJGDで変換)		震災前後 (b-c) 差	
		X (南北)	Y (東西)	X	Y	X	Y	X	Y
SO	E.O	-188,880,000	13,230,000	-188,571,152	12,929,902	-188,572,178	12,933,402	1,026	3,500

表4 東日本大震災による八幡・伏石地区の地殻変動量

## 2. 平成24年度の調査経過

平成24年2月13日に国土交通省と調査行程について協議を行い、3月26日から調査員の指示のもと、重機（バックホー・クローラーダンプ）によるD区の震災瓦礫と表土除去に着手した（図版4）。5月14日にD区は一部を残して震災瓦礫・表土除去が完了したため、F区の震災瓦礫・表土除去を開始した。F区が終了した5月17日からG区、5月22日からL区東半部の震災瓦礫の除去を開始し、6月4日にL区東半部の震災瓦礫除去を完了した時点で一時中断した。

4月23日から、表土除去が完了したD・G区の環境整備（土壌づくり・排水溝掘削等）に従事した。5月21日から安全に配慮した人力作業によるD区の遺構検出に着手し、5月30日からG区の遺構検出を並行して行った。必要に応じて道路跡・材木崩跡・区画溝跡・井戸跡など、遺構の時期や性格を確認するための断割りを行った。調査途中の検出状況や確認調査後の写真撮影・図面実測により、適宜記録を行った。なお、遺構の平面図は、キュービック社の遺構測量システム（電子平板）を使用して記録している。

7月11日から24日まで、一部残っていたD区と、L区東半部の表土除去を再開し、7月30日に終了した。8月20日から並行してF区の遺構検出を開始した。9月25日にG区の調査を終了し、L区



図版4 調査区的位置

東半部の調査を開始した。D区の調査は12月11日に終了し、翌12日から埋め戻しを行った。L区東半部の調査は翌年1月も実施したが、降雪等の天候不順が続いたことから冬季の遺構確認作業は困難と判断し、平成25年度から再開することを決定した。1月21日に遺構養生を行って調査を中断し、冬季間は現場事務所での遺物の洗浄作業を行った。

橋脚部分の本発掘調査は、第三層の遺構確認作業と並行して行った。10月24日からF区に位置する橋脚DP87部分の第V・VII層の調査を開始し、遺構遺物が確認されなかったことから、10月30日に終了した。11月13日にG区に位置する本線部橋脚DP84からDP86までの調査を順次開始し、第V・VII層の調査を行った。DP84では第V層で古墳時代前期と思われる盛り土を一部で確認したが、水田と断定できなかった。第VII層では遺構遺物は確認されなかった。12月7日に本線部橋脚DP84からDP86の全ての調査が終了し、埋め戻しを行った。県道部分に差し掛かる本線部橋脚DP95は、平成24年2月21日から調査を開始した。3月7日までに第三層から第七層までを調査し、第三層を除く第V・VII層は、遺構遺物が確認されなかった。本線部橋脚DP95の調査をもって、平成24年度の調査を終了した。

現地説明会は11月10日に開催し、D・F・L区の調査成果を公表した。来訪者は約250名であった(図版5)。平成24年度の確認調査面積はD区3,374㎡、F区804㎡、G区2,024㎡、L区東半部2,600㎡、DP95橋脚部分140㎡で、そのうち本発掘調査面積は1,080㎡である(表3)。

### 3. 平成25年度の調査経過

平成25年度は、L区東半部から調査を開始した(図版4)。4月16日に西半部の表土除去を行い、東半部から西半部まで一体で遺構検出を行った。昨年度と同様の方法で記録を行い、必要に応じて道路跡・材木跡跡・区画溝跡・井戸跡等の遺構の時期や性格を確認するための断割りをした。5月13日から、L区の遺構検出作業と並行してM区の表土除去・遺構検出作業を開始し、8月19日に終了した。8月2日にL区の遺構検出作業が終了し、継続してJ区ループ部分の表土除去・遺構検出作業に着手した。11月12日より、J区ループ部分の北側に隣接するN区の表土除去・遺構検出作業を開始した。N区は調査開始前に湿地帯と推定して調査対象から除外していたが、J区北側の遺構検出作業で道路跡を確認したことで、N区も調査対象とすることになった。J区ループ部分・N区の調査は翌年1月14日終了し、埋め戻しを行った。

3月11日から、平成26年度の調査であるJ区料金所建物部分の表土除去を開始し、一部で遺構確認作業を行った。

橋脚部分の本発掘調査は、第三層の遺構確認作業と並行して行った。まず7月2日にC区に位置する本線部橋脚DP90の調査(第三層は1991年に調査済み)を行った。第V・VII層の遺構遺物は確認されなかったことから記録をとって終了した。この本線部橋脚DP90の調査結果から、本線部橋脚DP87とDP90の間に位置する本線部橋脚DP89・DP88は第V・VII層の調査を不要と判断した。9月12日から本線部橋脚DP94の第V・VII層調査を開始し、遺構遺物が確認されなかったことから、9月17日に記録をとって終了した。この本線部橋脚DP94部分の調査結果から、本線部橋脚DP94とDP90部分の間に位置する本線部橋脚DP92・DP93部分、および本線部橋脚DP90・DP94部分に隣接するループ部



平成 24 年度 F 区の調査風景



平成 24 年度 現地説明会の様子



平成 25 年度 L 区の調査風景



平成 25 年度 全国からの派遣・協力職員



平成 25 年度 現地説明会の様子



平成 26 年度 J 区の調査風景 1



平成 26 年度 J 区の調査風景 2



平成 26 年度 現地説明会の様子

図版 5 調査と現地説明会の様子

橋脚PC1・PC2は調査不要と判断した。

ループ部橋脚のPB2は、12月16日から第Ⅴ・Ⅶ層調査を開始し、遺構遺物が確認されなかったことから、12月25日に記録をとって終了した。このループ部橋脚PB2の調査結果から、北側に隣接する県道部分のループ部橋脚PB3は、1月27日から29日に工事立会のみ行い、旧河川の堆積層であることを確認して終了した。ループ部橋脚PB2の南側に隣接するループ部橋脚PB1は調査不要と判断した。D区に位置するループ部橋脚PA3は1月14日から第Ⅴ・Ⅶ層調査を開始し、遺構遺物が確認されなかったことから、1月17日に記録をとって終了した。3月17日から、G区に位置するループ部橋脚PA4の調査を開始した。PA4は1993年に第Ⅲ層の遺構検出作業まで行っていたため、第Ⅲ～Ⅶ層の本発掘調査を行い、平成26年度4月11日に記録をとって終了した。このループ部橋脚PA4の調査をもって、本線・ループ部の橋脚建設に伴う本発掘調査は終了した。

現地説明会は7月21日に開催し、L・M区の調査成果を公表した。来訪者は約150名であった（図版5）。平成25年度の確認調査面積はJ区7,283㎡、L区西半部3,382㎡、M区3,052㎡、N区438㎡、DP90・PB3橋脚部分281㎡で、そのうち本発掘調査面積は1,161㎡である（表3）。

#### 4. 平成26年度の調査経過

平成26年度は4月7日よりJ区北東側の料金所本棟建設部分の確認調査と、北西側の本棟地下道建設部分の本発掘調査を開始した（図版4）。前年度3月11日より対象地の表土除去を開始していたが、度重なる設計変更によって、調査対象地の部分的な変更は避けられず、4月21日より追加で東側の表土除去を行った。

調査ではこれまでと同様の方法で記録を行い、必要に応じて道路跡・材木崩跡・区画溝跡・井戸跡等の遺構の時期や性格を確認するための断割りを行った。

J区北西側の料金所本棟地下道建設部分の本発掘調査は5月20日までに完了し、5月29日に航空写真撮影と全景写真撮影を行った。航空写真撮影終了後は、第Ⅲ層の本発掘調査が終了した地下道建設部分の第Ⅴ層の調査と、北東側の第Ⅲ層遺構確認作業を併行して行い、6月18日に終了した。6月23日より、料金所地下道部分の第Ⅶ層遺構確認作業を開始し、6月27日に全ての調査が終了した。

現地説明会は6月21日に開催し、来訪者は約230名であった（図版5）。平成26年度の確認調査面積はJ区北東側1,200㎡で、そのうち本発掘調査面積は410㎡である（表3）。

#### 5. 基本層序

調査区は、現代の地表面で3.0～3.5mほどの自然堤防上に位置している。平成元年から開始した調査の前は水田であった。その後、事業中止に伴って一時的に未調査地区にも盛り土が行われ、東日本大震災後には発生した震災瓦礫の仮置き場として使われていた。

八幡・伏石地区では多くの堆積層が認められ、そのうち3つの地層に遺構確認面を認めた。基本層序は各地点の層序を柱状図で模式的に示している（図版6・7）。なお今回の調査では、Ⅷ層以下は掘削底面より下であることから調査は行っていない。また八幡・伏石地区の旧調査と、今回の調査では

基本層序の一部に違いがあることから、今回の調査結果を踏まえて旧調査との整合を行い、図版6に示した。併せて標高は東日本大震災による地殻変動で、旧調査に対し平均で約27cm沈下していることを付記しておく。

**第Ⅰ層：**近現代の水田耕作土と床土。平成元年以前の地表面である。調査区全体に広がる。黒色の粘土で、層厚は0.2～0.3m前後である。

**第Ⅱ層：**第Ⅰ層の下で確認した自然堆積層である。古墳時代中期から奈良・平安時代の地山である第Ⅲ層を覆っている。道路跡・河川埋没後の上面といった、標高の低い部分で特に認められる。黒褐色の粘土質シルトで、層厚は0.1～0.3mである。中世以降の土坑、屋敷の区画溝(堀)は、この第Ⅱ層を掘り込んで構築している。なお南宮地区などでは、この第Ⅱ層直下で、灰白色火山灰の堆積がみられる。

**第Ⅲ層：**古墳時代中期から奈良・平安時代の遺構確認面である。黄褐色の砂質シルト～シルト質砂を主体とする。遺構・遺物はこの第Ⅲ層を掘り込んでいる。平安時代の遺構の一部で灰白色火山灰の堆積が認められ、その直上には第Ⅱ層が堆積する。

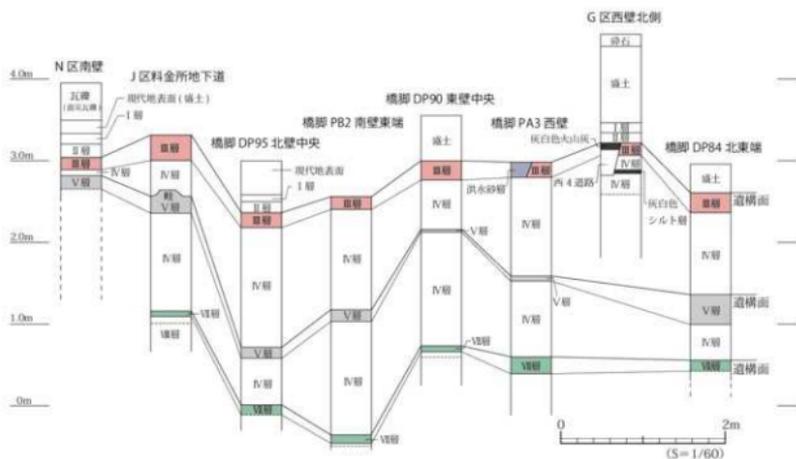
**第Ⅳ層：**第Ⅲ層の直下に広がるにぶい黄褐色、灰黄色、灰黄褐色のシルトを主体とする水成堆積層である。炭化物を含む層、砂層、スクモ層の互層で、C区では本層中に灰白色シルト(層厚1.2m前後)が認められた。その分析を依頼した結果、複数のテフラに由来するテフラの2次堆積の可能性が指摘されている(試料3～6、第XIII章第1節)。本層で遺構・遺物は確認していない。

**第Ⅴ層：**古墳時代前期の遺構確認面である。J区では第Ⅴ層上面で水田跡を確認した。多賀城市教委調査J区、宮城県教委調査A区の深掘りでは当該期の遺物が出土している。水田域は黒色の粘土層で、水田域の確認されなかった地区では黒色のスクモ層、粘土質シルトを主体とする。層厚は約0.2mである。

**第Ⅵ層：**第Ⅴ層の直下に広がる層である。オリーブ灰色・灰色のシルト、細砂～粗砂と黒褐色スクモ層の互層で、水成堆積層である。層厚は0.5～1.4mである。この第Ⅵ層で遺構・遺物は確認していない。

**第Ⅶ層：**弥生時代中期の遺構確認面である。今回の調査では遺構・遺物は確認していないが、隣接する県道調査区では、この第Ⅶ層で当該期の遺物包含層を確認している(宮城県教委1994c・2009)。黒色の粘土～粘土質シルトで、植物遺体を多く含んでいる。層厚は0.2m前後である。

**第Ⅷ層：**J区の料金所地下道建設部分で確認した自然堆積層である。オリーブ灰色の細砂～粗砂である。層厚や広がり不明である。



今回の調査		八幡地区旧調査		留意点
層序	主な特徴	層序	主な特徴	
瓦礫・盛土層 (面瓦瓦葺)	近世瓦礫層。または造成による盛土層	—	該当なし	旧調査後の埋積層
地表面	平成元年以降の地表面	—	該当なし	—
第1層	表土・水田耕作土。近世以降の盛土層	第1層	表土・水田耕作土。近世以降の盛土層	変更なし
第2層	自然埋積層。黒褐色などのシルト層	第2層	自然埋積層。黒褐色などのシルト層	変更なし
第3層	古墳時代中期～奈良・平安時代の地山。黄褐色のシルト層を主体とする。灰白色火山灰は平安時代の遺構の埋積土と認められる。 細砂 PA3 では SD777 南岸で洪水砂層を確認	第3層	古墳時代後期～奈良・平安時代の地山。黄褐色のシルト層を主体とする	F・G区の第3層で古墳時代中期の遺構・遺物を確認したことから、旧調査第V層までを第3層に統合。なお、旧調査第IV層はSD777河川跡に伴う洪水砂層(兵庫県教委1994b)
		第4層	古墳時代中期の遺物包含層(SX230)を覆う層。自然埋積層	
		第V層	古墳時代中期の地山。黄褐色のシルト質砂と粗砂の互層	
第4層	灰黄色・灰黄褐色シルト層(水成埋積層)	—	該当なし	旧調査の第V層下面が該当すると思われる
第5層	古墳時代前期の旧表土。炭化物を含む黒褐色の粘土質シルト層	第3層	古墳時代前期の旧表土。炭化物を含む黒褐色の粘土質シルト層	層序繰下がり
第6層	オリーブ灰色・灰色のシルト。細砂～粗砂と黒褐色のヌカを層の互層。(水成埋積層)	第3層	暗オリーブ色の粘土質シルト層	層序繰下がり
第7層	弥生時代中期の地山。黒色の粘土質シルト層	第3層	弥生時代中期の地山。黒色の粘土質シルト層	層序繰下がり
第8層	オリーブ灰色の細砂～粗砂	—	未調査	—

図版6 基本層序1—模式図

## 6. 発見した遺構と遺物

第Ⅲ層で道路跡6条、整地層8面、区画溝跡37条(掘直しを含む)、堀跡1条、溝跡141条(掘直しを含む)、材木塚跡15条、掘立柱跡跡8条、掘立柱建物跡189棟、周溝をもつ建物跡2棟、竪穴住居跡128棟、竪穴建物跡1棟、井戸跡20基、円形周溝跡5基、土器埋設遺構2基、土坑250基、畑跡24面、河川跡4条など、第Ⅴ層で水田跡を1面確認した。



J区料金所地下道部分北壁断面(南から)



橋脚 DP95 東壁断面(西から)



橋脚 P82 南西壁断面(北東から)



橋脚 PA3 第VII層調査全景(東から)



G区西壁断面(北東から)



橋脚 PA4 第VII層調査全景(西から)



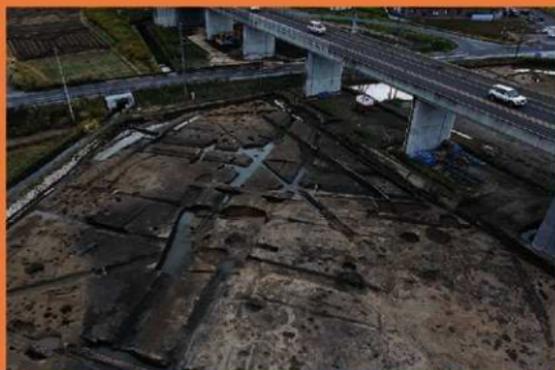
橋脚 DP86 第VII層東壁(西から)



橋脚 DP84 第VII層調査全景(北から)

図版7 基本層序2-写真

## 第Ⅳ章 道 路 跡



西4道路跡 (SX700・750) と北2a道路跡 (SX390・710) (北から)



西4道路跡 (SX700・750) と西5道路跡 (SX400) (北西から)



今回の調査では、道路跡を6条確認した。道路跡は両側に素掘りの側溝をもち、一部で路面が残存する。このうち、5条は多賀城南面に施行された方格地割を構成した（宮城県教委1997）。方格地割を構成した道路は、東西大路・南北大路を基準とした名称が付されており、本報告においてもその名称を踏襲する。したがって、SX12221は北2東西道路、SX390・500・710が北2a東西道路、SX700・750が西4南北道路、SX400が西5南北道路、SX2652・12092は西6a道路である。また、SX12100は方格地割に先行する東西道路である。

以下、道路跡の概要を述べるが、その際、〔重複〕の〔古〕・〔新〕は記述した遺構に対する新旧関係を表している。

## 1. 北2道路跡

J区南部で確認した東西道路跡である。当区での遺構名はSX12221で、東側の県教委調査C区のスX299、西側の市教委第15・21次調査J区のスX579・5824と同一遺構である。西4・5道路間で検出したSX300を含めた総長は299.0mで、方向は路心間で測るとE-3°-Sである。

また、SX12221下でやや北に振れながら併行する2本の溝跡を確認しており、北2道路に先行する東西道路跡（SX12100）と考えられる。

### 【SX12221東西道路跡】（図版8～12・336・付図）

南北両側溝に挟まれた道路を38.3m確認した。南側溝はSD12204、北側溝がSD12207である。路面と道路側溝の確認面は周りの街区より低い。このため、道路部分は基本層位第Ⅱ層と黒褐色や暗褐色の砂質シルトを主体とする層が残る。

〔重複〕〔古〕SD12206、SX12100

〔新〕SK12193・12194、SX11900・12089

〔変遷〕両側溝に2度の掘り直しがあることから、少なくとも3時期の変遷があったと考えられる。C期の両側溝と路面堆積土に灰白色火山灰が認められる。なお、A区のスX299は南側溝2時期、北側溝で3時期の変遷を確認している（宮城県教委1997）。

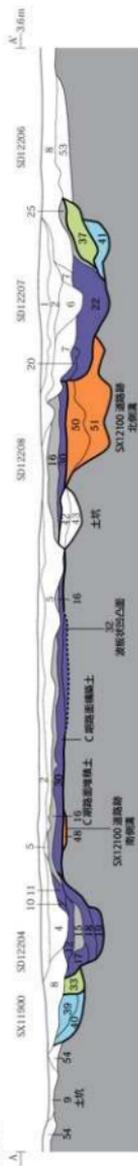
〔路面〕西側でC期の路面堆積土と構築土を確認した。東側は削平のため不明である。路面構築土の下には、細砂が入る波板状凹凸面が認められる。一方、路面にバラス等の舗装がなく、堆積土には全体的に灰白色火山灰が入る。また、C期より古い路面構築土は検出できなかった。こうした状況はC区のスX299と共通しており、B期以前には路面構築土がなかったとみられる。

路幅は、C期が側溝心々で測ると6.2～7.7mで、A・B期は後続する溝に壊されて不明である。側溝の掘り直しは路面側から行われているため、C期の路幅が最も狭い。

〔南側溝〕42.6m確認した。西5道路との交差点からほぼ直線的に西へ延びている。3時期（A～C）の変遷があり、改修時には道路側から掘り直しが行われている。調査区東端で、SD12113南北区画溝跡A～C期と「T」字に接続する。

SX12221 東西道路跡 (北2道路)・12100 東西道路跡

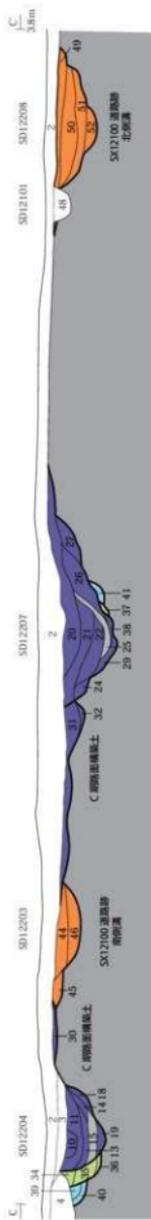
平面図：図版 10



平面図：図版 11



平面図：図版 349



図版8 SX12221東西道路跡(北2道路)・12100東西道路跡断面図 1

通称名	層位	土色	土性	遺入物など	備考
第1層	1				
第2層	2				
道路土壌層	3	黒褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	しまり強	
	4	黒褐色 (2.5Y3/1)	粘土質シルト	しまり強	
	5	黒灰色 (10YR5/1)	砂質シルト	しまり強	
	6	黒褐色 (2.5Y3/1)	粘土質シルト	粘性強	
	7	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	粘性強	
	8	黒褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	しまり強、靱鉄を含む	
土坑	9	黒色 (10YR2/1)	粘土質シルト	粘性強、靱鉄・地山ブロックを含む	
	10	黒褐色 (2.5Y3/2)	粘土質シルト	しまり強	
	11	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト	しまり強	
	12	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	粘性強	
	13	褐色 (10YR4/4)	砂質シルト	灰白色火山灰を含む	2次埋積
	14	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	砂質シルト		
	15	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	粘性強、灰白色火山灰を含む	2次埋積
路面埋積土C期	16	灰黄褐色 (10YR5/2)	砂質シルト	しまり強、灰白色火山灰を含む	2次埋積
	17	黒褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	粘性強、灰白色火山灰を含む	2次埋積
	18	黒褐色 (7.5YR3/1)	粘土質シルト	地山ブロックを含む	
SD12204C (南側溝C期)	19	黒褐色 (7.5YR3/1)	砂質シルト	地山ブロックを含む	
	20	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト	しまり強、靱鉄を含む	
	21	褐色 (10YR4/4)	砂質シルト	靱鉄を含む	
	22	黒褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	粘性強	
	23	暗赤灰色 (2.5YR3/1)	シルト		
	24	暗赤灰色 (2.5YR3/1)	シルト	地山ブロックを多く含む	
	25	暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3)	粘土質シルト	しまり強、粘性強、灰白色火山灰を含む	2次埋積
	26	黒褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	地山ブロックを含む	
	27	黒褐色 (10YR3/3)	砂質シルト		
	28	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山ブロックを含む	
SD12207C (北側溝C期)	29	黒褐色 (10YR2/3)	粘土質シルト	地山ブロック多く含む	
	30	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	砂質シルト	しまり強	
	31	黒褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	地山ブロックを含む	
	32	黒褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	地山ブロックを含む	流転状凹凸面
	33	黒褐色 (2.5Y3/2)	シルト	しまり強	
	34	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	砂質シルト	地山ブロックを含む	
	35	褐色 (10YR4/4)	砂質シルト		
	36	黒褐色 (2.5Y3/2)	シルト	しまり強、地山ブロックを多く含む	
	37	黒褐色 (10YR2/2)	砂質シルト		
	38	灰黄褐色 (10YR5/2)	砂質シルト	しまり強、粘性弱	
SD12207B (北側溝B期)	39	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む	
	40	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む	
SD12204A (南側溝A期)	41	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	粘性強、地山ブロック多く含む	
	42	黒褐色 (10YR3/4)	砂質シルト		
土坑	43	黒褐色 (10YR3/4)	砂質シルト	地山ブロック多く含む	
	44	褐色 (10YR4/4)	砂質シルト	靱鉄・地山ブロックを含む	
	45	黒褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	靱鉄・地山ブロックを含む	
	46	黒褐色 (2.5Y3/2)	砂質シルト	しまり強、靱鉄・地山ブロックを含む	
SD12203 (SX12100南側溝)	47	灰黄褐色 (10YR5/2)	砂質シルト	しまり強、靱鉄・地山ブロックを含む	
	48	黒灰色 (2.5Y4/1)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む	
	49	黒褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	しまり強、地山ブロック・靱鉄を含む	
SD12208 (SX12100北側溝)	50	褐色 (10YR4/4)	砂質シルト	地山ブロックを含む	
	51	黒褐色 (10YR3/3)	砂質シルト		
	52	黒褐色 (10YR2/2)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む	
SD12206	53	黄褐色 (2.5Y5/3)	粘土質シルト	しまり強、粘性強、紫色シミを含む	
	54	黒褐色 (10YR2/3)	砂質シルト	しまり強、粘性強	A期前の埋積層



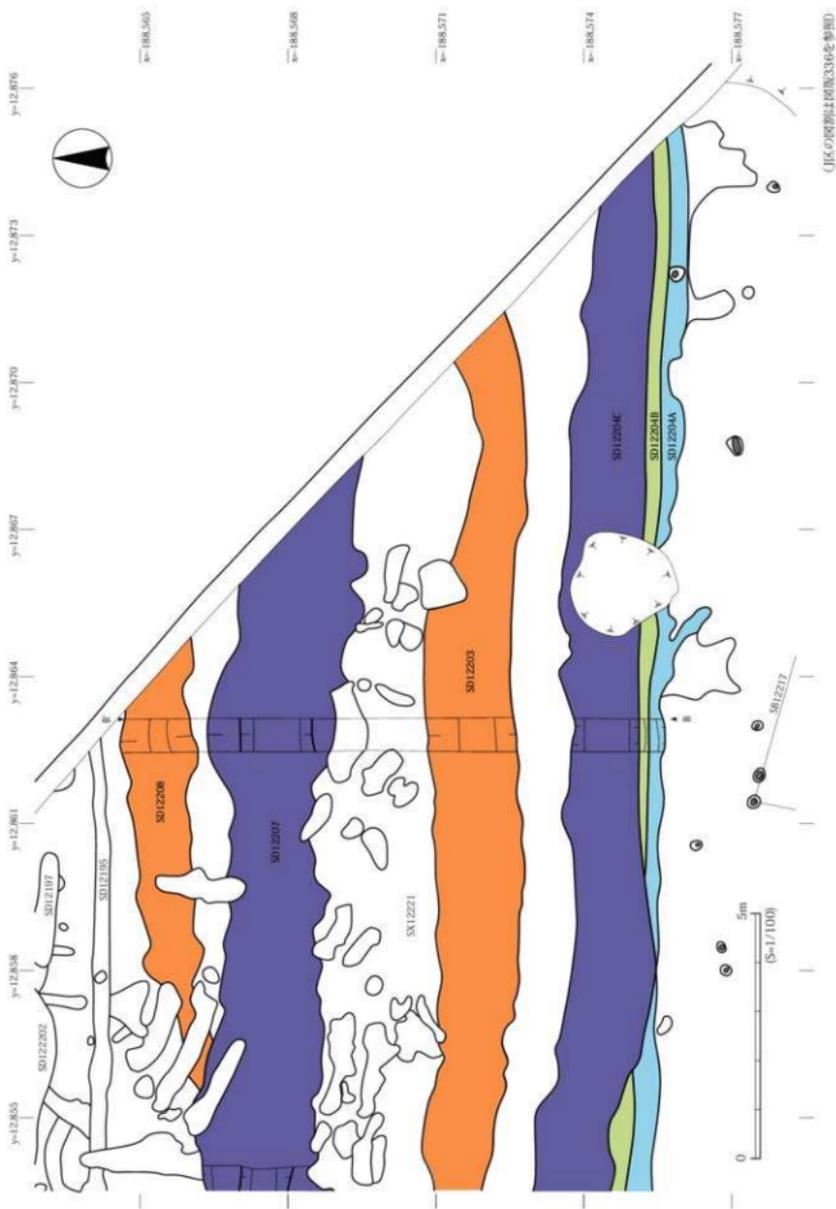
SX12221 北側溝断面 (北東から)



SX12221 北側溝C期・灰胎陶器出土状況 (北東から)

図版9 SX12221東西道路跡 (北2道路)・12100東西道路跡断面図2





図版11 SX12221東西道路跡(北2道路)・12100東西道路跡平面図2(区)



SX12221・12100 検出状況(西から)



SX12221・12100 検出状況(東から)

図版12 SX12221東西道路跡(北2道路)・12100東西道路跡

C期は上幅0.8～1.3m、下幅0.3～0.6m、深さは0.7mで、断面は椀形である。堆積土は、黒褐色・灰黄褐色などの粘土質シルト～砂質シルトで、自然堆積である。層中に灰白色火山灰を含む。B期は上幅0.4m以上、下幅0.3m以上、深さ0.7mである。堆積土は、地山ブロックを含む黒褐色などの砂質シルトで、自然堆積である。A期は上幅0.6m以上、下幅0.3m以上、深さ0.4mである。堆積土は地山ブロックを含む黒褐色やにぶい黄褐色の粘土質シルト～砂質シルトで、自然堆積である。

〔北側溝〕38.6m確認した。調査区内は東西へ直線的に延びるが、A区に入ると北へ開く。3時期（A～C期）の変遷があり、改修時には道路側から掘り直しが行われている。

C期は上幅1.5～2.9m、下幅0.6～1.1m、深さは0.7mで、断面は上が開くU字形である。堆積土は暗褐色や黒褐色などの粘土質シルト～砂質シルトの自然堆積で、下層には灰白色火山灰が認められる。また、埋没が進んだ後には、第Ⅱ層下の堆積層（3～8層）と第Ⅱ層が堆積する。西側が最も厚く、最大で0.5mほどになる。

B期は、上幅0.9m以上、下幅0.7m以上、深さ0.6mである。堆積土は地山ブロックを含む黒褐色や灰黄褐色などの砂質シルトで、自然堆積である。A期は上幅0.7m以上、下幅0.5m以上、深さ0.6mである。堆積土は地山ブロックを含む黒褐色の粘土質シルトで、自然堆積である。

〔出土遺物〕(図版13・14)

C期北側溝堆積土から、土師器環（1）・甕・甔、須恵器環・甕・壺、赤焼土器環、丸瓦・平瓦、灰軸陶器塚（2）などが出土した。土師器環は回転系切りで、甕はロクロ調整である。灰軸陶器塚は猿投産でK14窯式期のものである。須恵器壺は大戸産のものを含む。

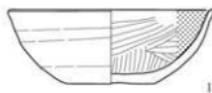
北側溝堆積土からは、土師器環・甕・甔（6）、須恵器環・高台環（3）・壺（5）・甕、ミガキ須恵器蓋（4）、赤焼土器環、丸瓦、動物遺体などが出土した。土師器甔はロクロ調整で、須恵器高台環や壺には大戸産が認められる。

北側溝上に堆積した基本層位第Ⅱ層と第Ⅱ層直下の堆積層（3～8層）からは、土師器環・甕、須恵器環・高台環・壺・甕・円盤、赤焼土器環、平瓦などが出土した。土師器環・甕はすべてロクロ調整で、環は回転系切りである。須恵器環はヘラ切りで、底面に刻書「口」が認められる。須恵器壺は大戸産を含み、円盤はすべて甕の破片を転用している。

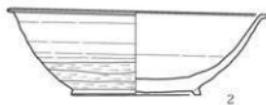
南側溝の堆積土からは、土師器環（7）・甕、須恵器環・蓋・壺・甕、平瓦・丸瓦（8）などが出土した。土師器環は回転系切りのち手持ちヘラケズリが施された。須恵器壺は大戸産で、丸瓦は多賀城分類ⅡB類である。

C期路面構築土からは土師器環、須恵器壺、丸瓦、転用砥などが出土した。転用砥（9）は平瓦（多賀城分類ⅡC類）を利用している。土師器環は回転系切りである。

## 北側溝C期



1



2

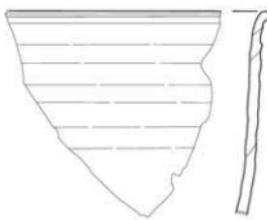
## 北側溝堆積土



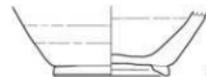
3



4



6



5

## 南側溝堆積土

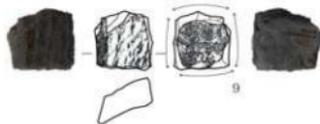


7



8

## 路面C期



9



No.	器種	層位	図説	口径(cm)	胴径(cm)	器高(cm)	残存	備考	登録
1	土師器・杯	25期	外面:ロクロナデ 内面:ヘラミガキ→黒色地埋 底面:回転糸切り	12.5	5.2	4.5	2/3		3359
2	灰釉陶器・碗	20-25期	外面:ロクロナデ→回転ヘラケズリ→加輪 内面:ロクロナデ →加輪 底面:回転ヘラケズリ→高台取付→ナデ	15.5	7.8	5.3	2/3	協成産。K14型C期第2型式	3362
3	灰釉器・高台杯	堆	外面:回転ヘラケズリ→高台取付→ロクロナデ 内面:ロクロナデ	—	(8.4)	—	一部	大戸産	3363
4	灰釉器・蓋	堆	外面:ロクロナデ→回転ヘラケズリ→ツマミ取付→ナデ→ヘラミガキ 内面:ロクロナデ→ヘラミガキ	(12.4)	—	—	一部	ミヨケ窯器	3364
5	灰釉器・巾	堆	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	—	(6.6)	—	一部	大戸産。自然釉	3367
6	土師器・皿	堆	内外面:ロクロナデ	(29.2)	—	—	一部		3361
7	土師器・杯	堆	外面:ロクロナデ 内面:ヘラミガキ→黒色地埋 底面:回転糸切り→手持ちヘラケズリ	(16.4)	6.4	4.8	1/4		3358
8	瓦・丸瓦	堆	凸部:脚甲き目→ナデ 凹部:布目麻 端部:ヘラケズリ	—	—	—	一部	多賀城分館:丸瓦目皿類。厚さ:2.6cm	3395
9	瓦・私用瓦	36-38期	凸部:縄タタキ目 凹部:ロクロナデ 一枚作り	—	—	—	一部	多賀城分館:平瓦D C類を私用。長さ:3.2cm 幅:3.0cm 厚さ:1.8cm	3399

層位は図説B・9に基づき

図版13 SX1221東西道路跡(北2道路)出土遺物1



図版14 SX12221東西道路跡（北2道路）出土遺物2

## 2. 北2a道路跡

D区中央部で確認した東西道路跡である。大別2時期あり、古いものがSX500東西道路跡、新しいものは、西4道路との交差点より西側がSX390東西道路跡、東側がSX710東西道路跡である。隣接する調査区を合わせた検出長は、SX500が約150m、SX390・710は約250mである（C区～D区～平成18年度県道調査A区）。方向は、路心間で測るとSX500がE-7°-N、SX390はE-4°-S、SX710はE-1°-Nである。本節ではSX390・710ののちにSX500の説明を行うこととする。

### 【SX390東西道路跡】（図版15・16・18・64・付図）

西4道路交差点より西側の北2a道路跡で、13.8m分を確認した。これまでの検出長は、西4道路跡の西側溝中心から西5道路東側溝中心までを測ると112.2mになる。

〔重複〕（古）SD100・461、SX500・7026

（新）SK842

〔変遷〕南北両側溝とも掘直しが2度認められることから、少なくとも3時期が考えられる。各期の遺構名は北側溝がA期：SD371、B期：SD373、C期：SD361、南側溝はA期：SD366、B期：SD367、C期：SD362である。

〔路面〕SX500東西道路に伴うSX7026・7033整地層が道路本体部分でも認められることから、古い道路の整地層が路面構築土となっている。C期の路幅は、側溝心々で測ると5.7m前後である。側溝は、ほぼ同じ位置で改修されたことから各時期をおとして大きな変動はなかったと考えられる。

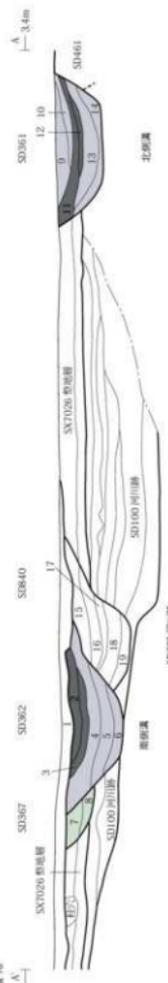
〔西4道路との接続〕南北両側溝はSX750南北道路跡西側溝に対して、A・C期が「T」字、B期は「L」字状に接続する。また、SX750のD期に対応する側溝は認められないことから、この時期にはSX390が廃絶していたと考えられる（宮城県教委1997）。

〔北側溝〕西4道路との交差点からほぼ直線的に西に延びる。検出長はA期が10.9m、B・C期は16.0mである。C期の規模は上幅1.0～1.9m、下幅0.6～1.0m、深さ0.5～0.6mで、断面は上が開くU字形である。堆積土は黒褐色の粘土質シルトから砂質シルトで、自然堆積である。堆積土に灰白色火山灰の2次堆積が認められる。A・B期の規模は、C期に壊されて不明である。堆積土はB期が地山砂を多く含む暗灰黄色のシルトなど、A期は暗灰黄色のシルトなどで、いずれも自然堆積である。

SX390 東西道路跡 (北2a 道路)

D 区西部側溝部分断面 ※道路に対して斜交に撮影し

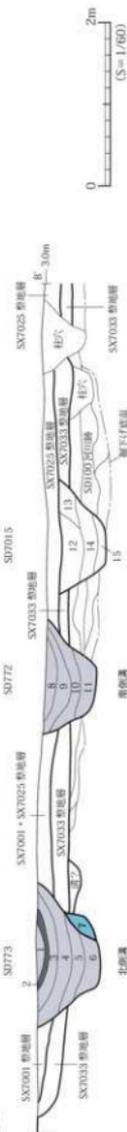
平面図：図8 18



SX710 東西道路跡 (北2a 道路)

D 区東側断面

平面図：図8 19



断面図上段 (SX390)

道路種別	層位	土質	土性	透入層など	備考
SK390 (道路溝C期)	1	黒色 (10YR2/1)	粘土質シルト	灰白色山成ロツク多量を含む	自然降土
	2	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	灰白色山成の再帰粘土ミナ粒を含む	一次堆積層
	3	褐色 (10YR4/1)	粘土質シルト	灰白色山成ロツク多量を含む	自然降土
	4	黒褐色 (10YR2/2)	粘土質シルト		自然降土
	5	黒色 (10YR2/1)	粘土質シルト		自然降土
	6	黒褐色 (10YR2/2)	粘土質シルト		自然降土
	7	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト		自然降土
	8	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト		自然降土
	9	黒褐色 (10YR4/2)	砂質シルト		自然降土
	10	黒褐色 (10YR4/1)	シルト		自然降土
SK390 (道路溝C期)	11	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	灰白色山成の再帰粘土ミナ粒を含む	自然降土
	12	黒褐色 (10YR4/1)	シルト	灰白色山成ロツク多量を含む	一次堆積層
	13	黒色 (10YR2/1)	粘土質シルト		自然降土
	14	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト		自然降土
	15	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト		自然降土
	16	黒褐色 (10YR2/2)	粘土質シルト		自然降土
	17	黒褐色 (10YR3/1)	シルト		自然降土
	18	黒色 (10YR2/1)	粘土		自然降土
	19	黒褐色 (10YR3/1)	砂質シルト		自然降土

断面図下段 (SX710)

道路種別	層位	土質	土性	透入層など	備考
SD773 (道路溝C期)	1	黒褐色 (10YR4/2)	シルト	灰白色山成ロツク多量を含む	自然降土
	2	灰白色 (5YR8/1)	シルト		一次堆積層
	3	黒褐色 (10YR4/2)	シルト		自然降土
	4	黒褐色 (2.5Y4/2)	シルト		自然降土
	5	黒褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト		自然降土
	6	オリーブ褐色 (5Y7/1)	粘土		自然降土
	7	暗灰褐色 (2.5Y4/2)	粘土質シルト		自然降土
	8	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト		自然降土
	9	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト		自然降土
	10	暗灰褐色 (2.5Y4/2)	シルト		自然降土
SD7015 (SK390道路跡)	11	黒褐色 (2.5Y3/1)	粘土		自然降土
	12	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	灰白色山成を含む	自然降土
	13	黒褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト		自然降土
	14	黒色 (5Y2/1)	粘土		自然降土
	15	オリーブ褐色 (5Y7/1)	粘土質シルト		自然降土

図版15 SX390・710東西道路跡 (北2a道路) 断面図



SX390 全景 (東から)



SX710 全景 (西から)

図版16 SX390・710東西道路跡 (北2a道路)



SX710 北側溝断面 (西から)



SX710 南側溝断面 (西から)

図版17 SX710東西道路跡 (北2a道路)

〔南側溝〕西4道路との交差点からほぼ直線的に西に延びる。検出長はA期が5.4m、B・C期は11.1mである。C期の規模は上幅0.9～2.4m、下幅0.5～0.6m、深さは0.6m前後で、断面は上が開くU字形である。堆積土は暗灰黄色や黒褐色の粘土質シルトから砂質シルトで、自然堆積である。堆積土に灰白色火山灰の2次堆積が認められる。B期はC期に壊されて不明であるが、深さは0.3m前後である。堆積土は黒褐色の粘土質シルトで、自然堆積である。

〔出土遺物〕(図版20～25)

北側溝C期堆積土と北側溝堆積土から土師器環(1・4・8)・短頸壺(5・6)・甕、須恵器環・高台環・蓋(7)・長頸壺・平瓶・甕、赤焼土器環、丸瓦・平瓦などが出土した。土師器は環が回転糸切り、甕はロクロ調整を含み、短頸壺は両面とも黒色処理が施されている。須恵器は環が回転糸切り、平瓶は猿投産で、蓋や長頸壺は大戸産を含む。また、1・8の体部外面に墨書「□」、2の底面に刻書「年」が認められる。確認面からは土師器甕(10)や砥石(11・12)などが出土した。

今回の調査では北側溝A・B期から遺物は出土していないが、平成3年度の調査では、B期堆積土から回転糸切りの土師器・須恵器環、赤焼土器環、A期堆積土から回転糸切りの土師器・須恵器環と、大戸産の長頸壺、K14号窯式期の灰軸陶器皿などが出土している(宮城県教委1997)。

南側溝C期は灰白色火山灰の下層から土師器環(24～28)・高台(29)・甕、須恵器環(30)・高台環(31)・埴(32)・蓋・壺・長頸壺(33・34)・甕、赤焼土器環、灰軸陶器壺(35)・長頸壺・把手付壺(36)、丸瓦・平瓦、木製品などが出土した。土師器環・甕はロクロ調整で、環は回転糸切り、回転糸切り後手持ちヘラケズリのものがある。土師器高台の脚部は回転ヘラミガキで、搬入品と考えられる。須恵器環は回転糸切りが主体である。須恵器壺・長頸壺は大戸産や猿投産を含み、灰軸陶器は猿投産である。また、24～28・31には墨書が認められ、24は体部外面に「因」、31は底面に「得」と記されている。灰白色火山灰層からは須恵器長頸壺(41・44・45)・壺(42)・大甕(43)、赤焼土器環(37～40)などが出土した。須恵器壺・長頸壺は大戸産や猿投産を含み、大甕は砥沢産と考えられる。このほか、層位は不明であるがウシ遊離歯が出土している(46・47)。

南側溝B期堆積土から土師器環・高台環・甕、須恵器環(19～21)・高台盤・蓋・小型壺(22)・甕・転用砥(23)、羽巾などが出土した。須恵器環・小型壺は大戸産を含む。19・20には体部外面に



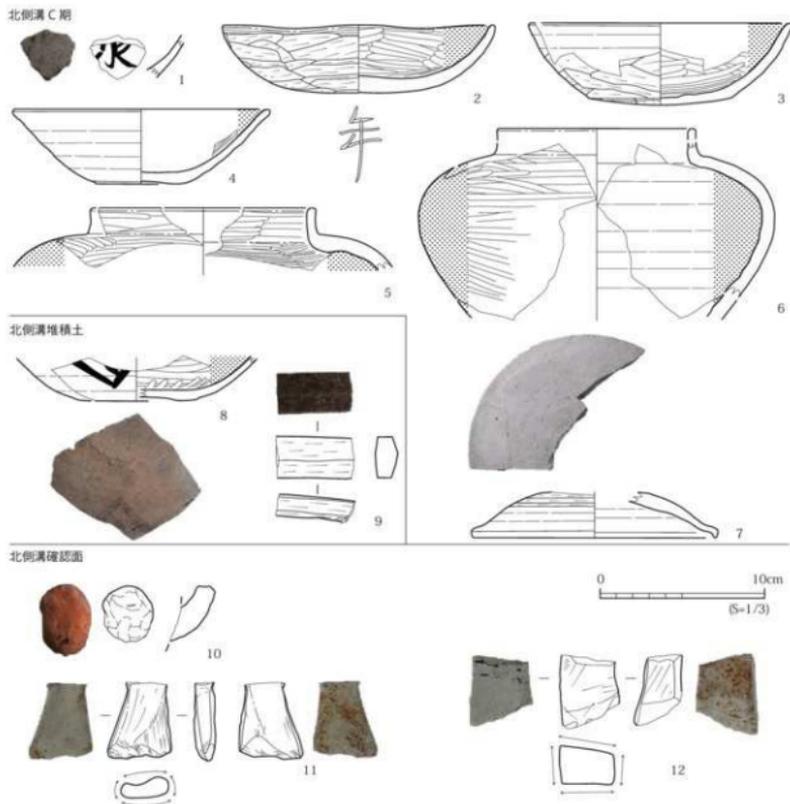
(D区の図加は図版64を参照)

図版18 D区平面図1



図版19 D区平面図2

(D区の図割は図版64を参照)

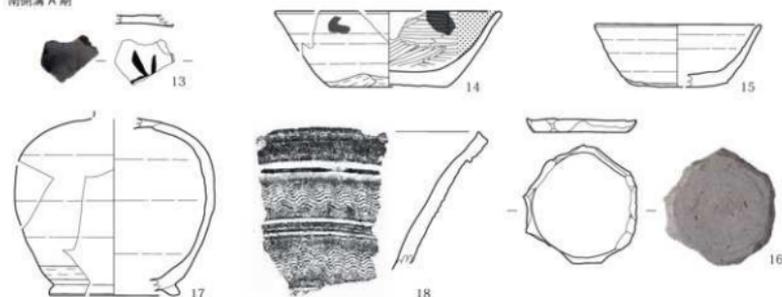


No.	器種	層位	図號	口徑 (cm)	直径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	土師器・杯	9-14 期	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミギキ→黒色処理	—	—	—	一部	体部に書溝「□」(正取)	1278
2	土師器・杯	9-14 期	外面：ロクロナデ→ヘラケズリ 内面：ヘラミギキ→黒色処理	(16.2)	—	4.1	1/2	底部に刻溝「年」	1279
3	土師器・杯	9-14 期	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミギキ→黒色処理 底部：切り履し不明→手持ちヘラケズリ	(15.6)	8.6	5	1/3		1320
4	土師器・杯	9-14 期	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミギキ→黒色処理 底部：回転糸切り	(15.2)	5.6	4.5	1/4		1280
5	土師器・短冊形	9-14 期	内外面：ヘラミギキ→黒色処理	(13.4)	—	—	一部		1281-2
6	土師器・短冊形	9-14 期	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→ヘラミギキ→黒色処理 内面：ロクロナデ	(11.8)	—	—	1/6		1281-4
7	須恵器・器	9-14 期	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	(14.6)	—	—	1/4	大戸香	1289
8	土師器・杯	堆	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミギキ→黒色処理 底部：回転糸切り	—	(7.2)	—	1/4	体部に書溝「□」	1285
9	須恵器・平輪	堆	外面：ヘラケズリ	—	—	—	一部	脇段香	1284
10	須恵器・瓶	確認図	外面：ナデ・オサエ	—	—	—	一部	惣手のみ	1286
11	石製品・砥石	確認図		—	—	—	—	長さ：(4.5m) 幅：2.2～3.7m 厚さ：0.8～1.1cm 重さ：24.2g	1287
12	石製品・砥石	確認図		—	—	—	—	長さ：(4.2m) 幅：3.1m 厚さ：1.8～2.4cm 重さ：44.1g	1288

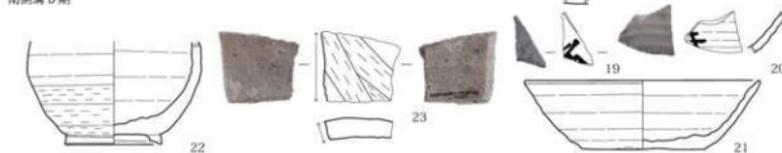
層位は同版 15 に基づく

図版20 SX390東西道路跡(北2a道路)出土遺物1

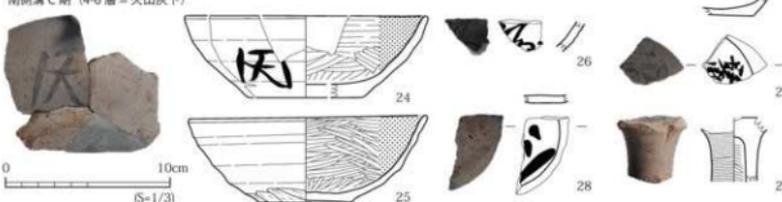
南例溝 A 期



南例溝 B 期



南例溝 C 期 (4-6層=火山灰下)



No.	品種	層位	図説	口径(cm)	直径(cm)	高さ(cm)	残存	備考	登録
13	土師器・杯	SD366	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色地埋 底部：回転糸切り	—	—	—	一部	底部に墨書「□」	1340
14	土師器・杯	SD366	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色地埋 底部：回転糸切り→手持ちヘラケズリ	(13.8)	7.2	4.6	1/5	口縁部に油煙付着	1338
15	灰土器・小型 杯	SD366	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	(10.0)	(6.6)	3.8	1/5		1342
16	灰土器・片履	SD366		—	—	—	—	杯転用。径：7.0cm・厚さ：0.8cm	1295
17	灰土器・片履 逆	SD366	内外面：ロクロナデ 底部：切り離し不明→回転ヘラケズリ→高台転付→ナデ	—	(8.0)	—	1/4	三段接合	1350
18	灰土器・人型	SD366	外面：ロクロナデ→楕円筒状文・沈面 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部		1343
19	灰土器・杯	7.8層	内外面：ロクロナデ 底部：切り離し不明→ナデ	—	—	—	一部	底部に墨書「□」	1335
20	灰土器・杯	7.8層	内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部	底部に墨書「□」	1334
21	灰土器・杯	7.8層	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	(15.3)	7.4	4.2	2/5	大口高。外面に墨ね跡あり	1330
22	灰土器・壺	7.8層	外面：ロクロナデ→片腕ヘラケズリ 内面：ロクロナデ 底部：回転ヘラケズリ→高台転付→ナデ	—	5.8	—	1/3	大口高。自然焼	1331
23	灰土器・和用 紙	7.8層		—	—	—	一部	墨転用。長さ：(4.3cm) 幅：(4.1cm) 厚さ：1.1cm	1337
24	土師器・杯	4.6層	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色地埋 底部：回転糸切り	(14.4)	(6.8)	4.9	1/4	底部に墨書「四」(正位)	1299
25	土師器・杯	4.6層	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色地埋 底部：回転糸切り→手持ちヘラケズリ	14.2	5.6	5.3	完形		1316
26	土師器・杯	4.6層	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色地埋	—	—	—	一部	底部に墨書「□」	1300
27	土師器・杯	4.6層	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色地埋 底部：切り離し不明→手持ちヘラケズリ	—	—	—	一部	底部に墨書「□□」	1301
28	土師器・杯	4.6層	内面：ヘラミガキ→黒色地埋 底部：切り離し不明→手持ちヘラケズリ	—	—	—	一部	底部に墨書「□」	1311
29	土師器・高杯	4.6層	内外面：ロクロナデ→回転ミガキ→黒色地埋	—	—	—	一部		1303

層位は図版15・18に基づく

図版21 SX390東西道路跡(北2a道路)出土遺物2

南側溝C期(4-6層=火山灰下)



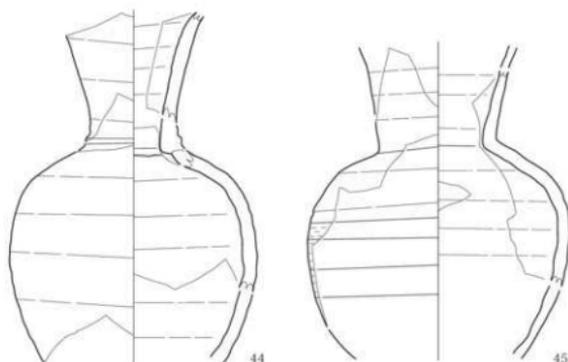
南側溝C期(2・3層=火山灰堆積層)

No.	器種	層位	図型	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存	備考	登録
30	須恵器・杯	4-6層	内外面:ロクロナデ 底部:回転糸切り→手打ちヘラケズリ	—	3.0	—	一部	体部に筆書「上」	1302
31	須恵器・高台皿	4-6層	内外面:ロクロナデ 底部:切り履し不明→回転ヘラケズリ→高台取付→ナデ	—	8.4	—	1/3	大戸産。底部に筆書「得」	1309
32	須恵器・碗	4-6層	内外面:ロクロナデ 底部:回転糸切り	(12.8)	(6.4)	8.3	1/6	外面上部に自然釉付着	1304
33	須恵器・片鉢形	4-6層	内外面:ロクロナデ 外面に釉施	—	—	—	一部	脇段産	1307
34	須恵器・片鉢形	4-6層	内外面:ロクロナデ 外面に釉施	—	—	—	一部	脇段産	1306
35	須恵器・甕	4-6層	外面:ロクロナデ→回転ヘラケズリ→釉施 内面:ロクロナデ	—	—	—	一部	脇段産	1308
36	須恵器・甕形鉢	4-6層	内外面:ロクロナデ 外面に釉施	—	—	—	一部	脇段産	1313
37	赤燒土器・杯	1-3層	内外面:ロクロナデ 底部:回転糸切り	12.3	5.5	3.5	2/3		1327
38	赤燒土器・杯	1-3層	内外面:ロクロナデ 底部:回転糸切り	(12.6)	4.8	3.7	1/4	内面に煤・油煙付着	1328
39	赤燒土器・杯	2・3層	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ→コナ仕上げ	12.4	5.0	3.8	1/2	外面に煤・油煙付着	1329
40	赤燒土器・杯	2・3層	内外面:ロクロナデ 底部:回転糸切り	14.7	6.2	4.4	定形	内外面に煤・油煙付着	1326
41	須恵器・片鉢形	2・3層	外面:ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面:ロクロナデ 底部:切り履し不明→回転ヘラケズリ→高台取付→ナデ	—	(9.0)	—	—	大戸産	1318
42	須恵器・甕	2・3層	外面:ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面:ロクロナデ 底部:切り履し不明→回転ヘラケズリ→高台取付→ナデ	—	—	—	一部	脇段産	1317
43	須恵器・大甕	2・3層	外面:ロクロナデ→磨削状文 内面:ロクロナデ	(47.6)	—	—	一部	脇段産	1316

単位は図版15に基づく

図版22 SX390東西道路跡(北2a道路)出土遺物3

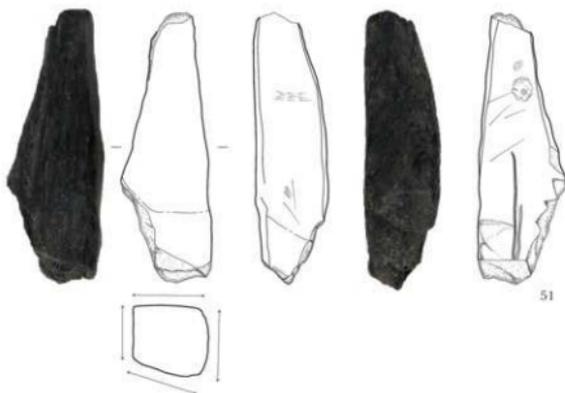
南側溝C期 (2・3層 = 火山灰堆積層)



南側溝C期堆積土



南側溝堆積土



No.	名称	層位	図型	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存	備考	登録
44	土師器・土師壺	2・3層	内外面：ロクロナデ	—	—	—	2/3	大戸産。一段結合。MH10 発見	1314
45	土師器・土師壺	2・3層	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	—	—	—	1/2		1315
48	土師器・鉢	堆	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底面：切り離し不明→手持ちヘラケズリ	(22.3)	(9.6)	8.3	1/5		1293
49	土師器・耳皿	堆	内外面：ロクロナデ→ナデ→ヘラミガキ→黒色処理 底面：回転車切り	(8.0)	(5.6)	2.0	一部		1294
50	瓦・丸瓦	堆	凹面：布目 凸面：ナデ	—	—	—	一部	多量破片類：丸瓦II 非類 凸面に切羽(凹) 厚さ：1.1cm	1298
51	石製品・砥石	堆		—	—	—	—	長さ(16.3cm) 幅：2.4～5.3cm 厚さ：4.2cm 重さ：500.0g	1351
52	土師器・土師壺	確認面	内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部	大戸産	1349

単位は図例 15 に基づく

図版23 SX390東西道路跡(北2a道路)出土遺物4



圖版24 SX390東西道路跡（北2a道路）出土遺物 5



図版25 SX390東西道路跡(北2a道路)出土遺物 6

墨書が認められる。

南側溝A期堆積土から土師器環(13・14)・高環・蓋・甕・ミニチュア、須恵器環・小型環(15)・蓋・長頸壺(17)・大甕(18)・円盤(16)、瓦などが出土した。土師器環はロクロ調整で回転糸切りや回転糸切り後手持ちヘラケズリを含む。須恵器小型環はヘラ切りである。13は底面に墨書が認められる。

そのほか、南側溝堆積土から出土した土師器鉢(46)・耳皿(47)、丸瓦(48)、砥石(49)と、確認面から出土した須恵器長頸壺(50)を図示した。50は大戸産である。

【SX710東西道路跡】(図版15～17・19・64・97・付図)

西4道路交差点より東側の北2a道路跡で、24.9m確認した。D区の西側で隣接する平成18年度県道調査B区と、平成19年度県道調査A1区を合わせると、長さは76.5mほどになる。今回はC期側溝のみ掘り上げており、A・B期については数箇所断割りにとどめている。

〔重複〕(古) SD100、SX500・7033、SK7038

(新) SD731・732・7007・7016

〔変遷〕南北両側溝に2度の掘り直しが認められることから、少なくとも3時期の変遷があったと考えられる。各期の遺構名は北側溝がA期：SD779、B期：SD775、C期：SD773、南側溝はA期：

SD778、B期：SD774、C期：SD772である。

〔路面〕SX7001・SX7025整地層は、道路本体から外側に拡がり、南北両側溝はこれを掘り込んでいる。その後の整地は確認できない。したがって、一貫してSX7001・SX7025整地層が路面構築土となったと考えられる。路幅はC期の側溝心々で測ると3.4～3.6mで、側溝はほぼ同じ位置で改修されたことから、各時期で大きな変動はない。

〔西4道路との接続〕南北両側溝はSX750南北道路跡東側溝に対して、A・C期が「T」字、B期は「L」字状に接続する。また、SX750のD期に対応する側溝は認められないことから、この時期にはSX390が廃絶していたと考えられる（宮城県教委1997）。

〔北側溝〕西4道路との交差点からほぼ直線的に東に延びる。検出長はA期：17.9m、B期：16.0m、C期：25.1mである。C期は上幅0.8～1.4m、下幅0.6m、深さは0.5～0.8mで、断面は上が開くU字形である。堆積土は黒褐色・灰黄褐色などの粘土やシルトで、自然堆積である。堆積土の上層に灰白色火山灰の2次堆積が認められる。B期の堆積土は地山ブロックや炭化物を含む黒褐色シルトで、自然堆積ある。A期の堆積土は暗灰色～暗黄褐色の粘土質シルトなどで、自然堆積である。

〔南側溝〕西4道路との交差点からほぼ直線的に東へ延びる。検出長はA期：15.8m、B期：20.3m、C期：24.8mである。C期は上幅0.8～1.4m、下幅0.5m前後、深さは0.4～0.5mで、断面は上が開くU字形である。堆積土は黒褐色などの粘土やシルトで、自然堆積である。B期は上幅1.2m前後で、深さは0.5mである。堆積土は黒褐色シルトである。A期の堆積土は炭化物を含む黒褐色シルトなどで、自然堆積である。

#### 〔出土遺物〕(図版26)

北側溝C期の堆積土から土師器環・甕、須恵器環・甕・転用砥(1)、赤焼土器環、軒平瓦などが出土した。土師器環・甕はロクロ調整を含む。須恵器環はヘラ切りである。転用砥は須恵器環を利用しての。軒平瓦は多賀城第Ⅱ期の単弧文である。ほかに堆積土から土師器環・甕、須恵器長頸壺(2)・甕、丸瓦・平瓦などが出土した。須恵器長頸壺は大戸産で、胴下部に環形焼台の痕跡が認められる。

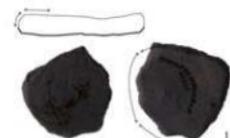
今回の調査では北側溝A・B期から遺物は出土していないが、平成3年度の調査では、B期堆積土から土師器、須恵器、灰軸陶器、円面硯、羽口、瓦が出土している。灰軸陶器は壺・小壺でK90号窯式期である。A期堆積土から土師器、須恵器、瓦などが出土しており、土師器環は回転系切りが含まれる（宮城県教委1997）。

南側溝C期の堆積土から土師器環・甕、須恵器環・高台環・甕、平瓦などが出土した。土師器環はロクロ調整である。堆積土からは須恵器長頸壺(3)・甕(4・5)、灰軸陶器小壺(6)、軒丸瓦(7)、砥石(8)などが出土した。須恵器長頸壺や甕は大戸産が含まれる。

今回の調査では南側溝A・B期から遺物は出土していないが、平成3年度の調査では、B期堆積土から土師器、須恵器、赤焼土器、瓦、A期堆積土から土師器、須恵器、瓦などが出土した（宮城県教委1997）。土師器環は回転系切りが含まれる。

このほか、確認面から大戸産の須恵器甕(10)・中甕(9)が出土している。

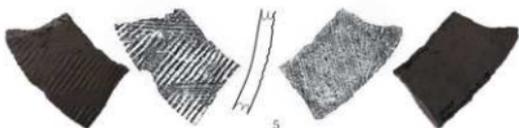
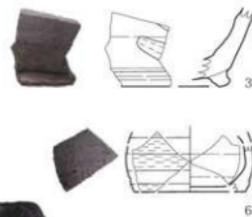
北側溝C期



北側溝堆積土



南側溝堆積土



南側溝確認図



No.	名称	層位	調整	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	須恵器・転用	1-6 層	内外面: ロクロナデ 底部: ヘラ切り	—	(7.2)	—	一部	転用転用	1257
2	須恵器・長瀬	層	外面: ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面: ロクロナデ	—	—	—	一部	大戸産。胴下部に円形模様の痕跡	1245
3	須恵器・長瀬	層	外面: ロクロナデ→ヘラケズリ 内面: ロクロナデ 底部: 切り離し不明→ナデ→高台階付→ナデ	—	—	—	一部	大戸産	1234
4	須恵器・寛	層	外面: 平行タタキ 内面: 同心アタタキ→ナデ	—	—	—	一部		1235
5	須恵器・中瀬	層	外面: 平行タタキ→カキメ 内面: ハケメ	—	—	—	一部	大戸産	1237
6	灰地陶器・小形壺	層	外面: 回転ヘラケズリ 内面: ロクロナデ 底部: 回転ヘラケズリ 外面に傷輪	—	(7.8)	—	一部	東濃産	1244
7	瓦・軒丸瓦	層		—	—	—	一部	多賀城1期。重作蓮花文120。厚さ: 1.8cm	1242
8	石製品・砥石	層		—	—	—	—	長さ: 4.0cm 幅: 4.1cm 厚さ: 1.1cm 重さ: 37.0g	1239
9	須恵器・中瀬	確認	外面: 平行タタキ→ヘラケズリ 内面: ハケメ→ナデ	—	—	—	一部	大戸産	1240
10	須恵器・中瀬	確認	外面: 平行タタキ→カキメ 内面: ハケメ	—	—	—	一部	大戸産	1241

層位は図版15に基づく

図版26 SX710東西道路跡(北2a道路)出土遺物

**【SX500東西道路跡】**（図版15・16・19・付図）

SX390・710に先行する東西道路跡で（宮城県教委1997）、今回の調査では西4道路跡西側で北側溝（SD857）と南側溝（SD840）、東側で南側溝（SD7015）を確認した。SX390・710との関係は、西4道路跡西側で側溝1本分北へずれ、東側では南側溝が1本分南へずれるものの、北側溝はSX710の側溝と重複する。検出長は西4道路跡西側が16.1m、東側が20.9mである。平成3年度調査のC区分を含めた総長は約150mになる。また、SX7026・7033は本道路に伴う整地層と考えられる。今回はSX390・710と同じ位置で数箇所の断割りを行った。

〔重複〕（古）SD100

（新）SK842・7024・7078、SD732・796・797・7007・7016、SX390・710・7009・7010・7025

〔路面〕路幅は側溝心々で測ると6.0m前後である。

〔西4道路との接続〕残りが悪いものの、底面レベルの違いから南北両側溝はSX750南北道路跡A期側溝に対して「T」字状に接続するとみられる。

〔北側溝〕交差点からほぼ直線的に西へ延びるが、方向は東で北に傾く。上幅1.2m、下幅0.4m、深さは0.5mで、断面は椀形である。堆積土は黒色・黒褐色などの粘土やシルトで、自然堆積である。

〔南側溝〕西4道路跡西側（SD840）は、交差点からほぼ直線的に西へ延びるが、方向は東で北に傾く。上幅0.8m、下幅0.3m、深さは0.7mで、断面は逆台形である。堆積土は黒色・黒褐色などの粘土やシルトで、自然堆積である。西4道路跡東側（SD7015）は、交差点からほぼ直線的に東へ延びる。上幅1.1～1.3m、下幅0.4～0.8m、深さは0.6mで、断面は逆台形である。堆積土は黒褐色などの粘土やシルトで、自然堆積である。

〔出土遺物〕（図版89）

南側溝（SD7015）の堆積土から土師器環・蓋・甔（41）、須恵器環（43）・壺・甕・甕（44）、ミガキ須恵器蓋、灰釉陶器塊、丸瓦・平瓦、確認ながら須恵器蓋（42）などが出土した。土師器環や須恵器環には回転糸切りが認められる。

### 3. 西6a道路跡

J区北端部からM区北西隅で確認した道路跡である。多賀城市教委第21次調査J区のSX5600と同一遺構で、市教委調査区から北東へ延び、J区北端で東へ折れて真東を向く。その先はM区北西隅でSX2652となり、県道調査区を南北に縦断する。以前の報告では西6道路跡としたが（宮城県教委2015a）、北2道路との交差点では南から延びる西6道路とは東にずれて接続すること、交差点から北は、一部東西方向を向きながら全体として北東へ延びることから、西6a道路跡と呼ぶことにする。こうした変則的なあり方は、本道路が方格地割末端に位置し、外側の自然地形にあわせて施工されたためと考えられる。

【SX12092道路跡】(図版27・28・29・30・336・付図)

検出長は32.6mで、方向は路心間て測ると屈折点より西がN-33°-E、東はE-2°-Sである。東側溝はSD11953、西側溝がSD5604である。

〔重複〕(古) SA12612・12614、SD11909・12083・12086、SF12235、SK11958

(新) SD5610D・11910・11959・12337・12338、SB12497、SX11900・12089

〔変遷〕両側溝とも掘直しが2度認められることから、少なくとも3時期が考えられる。路面は2時期あり、古い方がB期側溝、新しい方はC期側溝に対応する。また、SX5600の東側溝には4時期(A～D期)あると報告されたが(多賀城市教委1997d)、今回の調査で最も新しいSD5601Dは道路跡を横断してN区のSD11855に接続しており、道路より新しい遺構と判明した。したがって、市教委調査分を含むJ区のSX12092北3道路跡は3時期と考えられる。

〔路面〕路面構築土は2時期(B・C期)確認した。A期は不明である。路幅は側溝心々でB期が5.2m、C期は4.7mである。バラス等の路面舗装は認められない。

〔東(南)側溝〕検出長は71.5mである。B・C期は、SD12234南北区画溝跡A・B期と「T」字状に接続する。C期は上幅1.8m、下幅0.4～0.7m、深さは0.6mで、断面は逆台形である。堆積土は黄灰色などの砂質シルトやシルトで、自然堆積である。B期は上幅が3.9m以上、下幅0.5～2.1m、深さは0.8mで、断面は逆台形から皿形である。堆積土は褐灰色・灰黄褐色などの砂質シルトやシルトで、層中に灰白色火山灰の2次堆積が認められる。A期は上幅1.7m以上・下幅1.5m以上、深さ0.3mで、断面は皿形である。堆積土は黒褐色の砂質シルトなどで、自然堆積である。

〔西(北)側溝〕検出長は14.7mである。C期は上幅1.3m、下幅0.3～0.8m、深さ0.4mで、断面は逆台形である。堆積土は灰色などの砂質シルトやシルトで、自然堆積である。B期は上幅1.4m以上、下幅0.5～2.6m、深さ0.3mで、断面は逆台形である。堆積土は灰色や暗灰色などのシルトで、層中に灰白色火山灰の2次堆積が認められる。A期は上幅1.9m以上・下幅0.8m以上・深さ0.3mで、断面は皿形である。堆積土は灰色や黒色などのシルトで、自然堆積である。



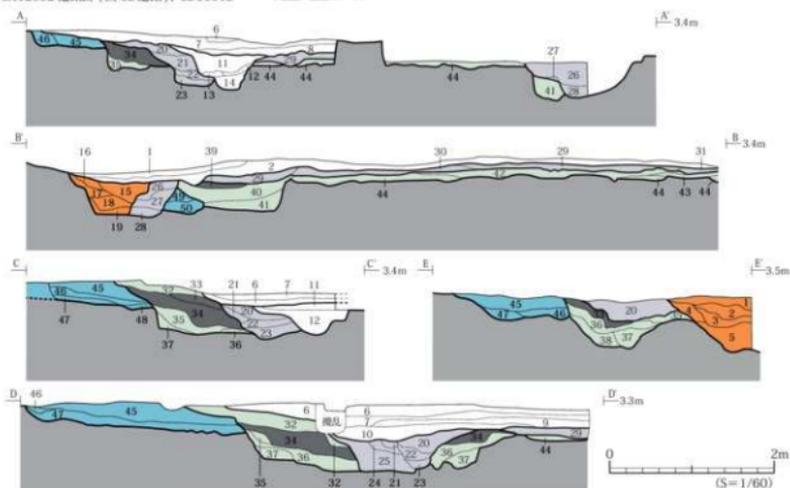
南側溝 (SD11953) 断面1 (北東から)



南側溝 (SD11953) 断面2 (北東から)

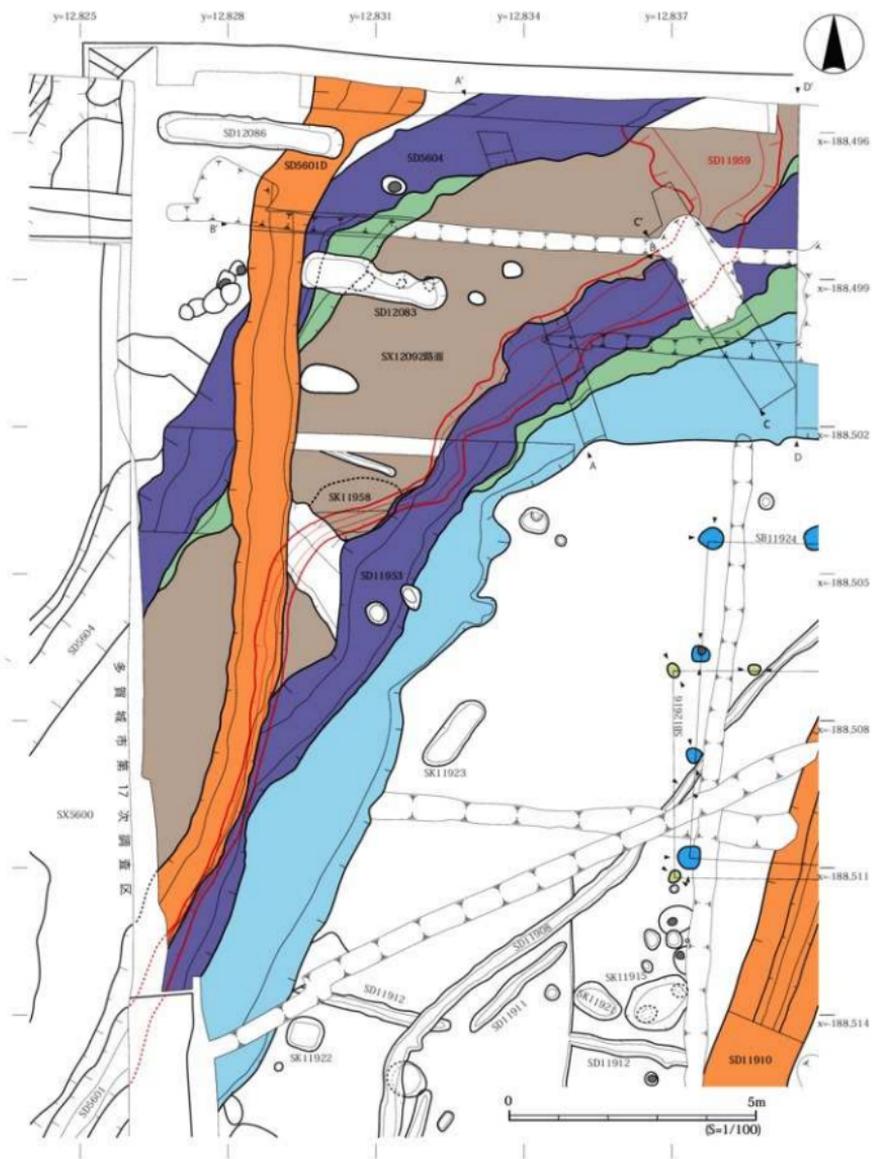
図版27 SX12092道路跡 (西6a道路) 1

SX12092 道路跡 (西 6a 道路), SD5601D 平面図: 図版 29・367



通称名	層位	土色	土性	遺入物など	備考
SD11910	1	暗褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	炭鉄含む。	自然堆積土
	2	黒色 (10Y2/1)	粘土質シルト	銅鉄・地山ブロック含む	
	3	オリーブ黒色 (2.5Y3/1)	粘土質シルト	地山ブロック含む	
	4	オリーブ黒色 (2.5Y3/1)	粘土質シルト		
	5	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	地山ブロックを全体に含む	
第Ⅱ期	6				
	7				
道路土堆積層	8	灰黄色 (2.5Y7/2)	シルト	マンガン含む	
	9	暗灰色 (7.5YR5/1)	砂質シルト	マンガン含む	
	10	黄灰色 (2.5Y5/1)	砂質シルト	マンガン含む	
	11	灰黄色 (2.5Y6/2)	シルト	マンガン含む	
SD11959	12	黄灰色 (2.5Y5/1)	シルト	地山ブロック含む	
	13	灰色 (5Y4/1)	砂質シルト		
SD5601D	14	明オリーブ灰色 (2.5GY7/1)	砂質シルト	黒褐色土を含む	
	15	灰色 (N4/)	砂質シルト		
	16	灰色 (5Y5/1)	砂質シルト		
	17	灰色 (N5/)	砂質シルト	灰白色 (5Y7/2) シルトを含む	
SD11953C (南側溝 C 期)	18	灰色 (N4/) ~ 黒色 (N3/)	シルト	地山ブロック含む	
	19	オリーブ灰色 (2.5GY6/1)	砂質シルト	黒褐色シルトを含む	
	20	暗灰色 (10YR6/1)	シルト	マンガン含む	
SD11953B (南側溝 B 期)	21	灰色 (5Y5/1)	砂質シルト	マンガン含む	
	22	黄灰色 (2.5Y4/1)	砂質シルト		
	23	灰色 (7.5Y6/1)	シルト		
	24	黄灰色 (2.5Y6/2)	シルト	マンガン含む	
	25	灰黄色 (2.5Y6/2)	砂質シルト		
SD5604C (北側溝 C 期)	26	暗灰色 (N3/)	砂質シルト	マンガン含む	
	27	灰色 (N5/)	シルト	地山ブロックをわずかに含む	
	28	オリーブ黄色 (5Y6/3)	シルト	黒褐色シルトを含む	
	29	灰黄色 (2.5Y6/2)	砂質シルト		
路面構築土 C 期	30	灰色 (5Y6/1)	砂質シルト	マンガン含む	路面構築土
	31	黄灰色 (2.5Y5/1)	砂質シルト	マンガン含む	
	32	暗灰色 (10YR6/1)	砂質シルト	銅鉄含む	
	33	灰黄褐色 (10YR6/2)	砂質シルト	灰白色火山灰を多く含む	
	34	暗灰色 (10YR4/1)	砂質シルト	灰白色火山灰を含む	
	35	淡黄色 (2.5YR4)	シルト	地山シルトブロックを含む	
	36	灰色 (7.5Y6/1)	シルト		
SD11953A (南側溝 A 期)	37	淡黄色 (5Y7/4)	シルト	一部黄褐色砂質シルトを含む	2次堆積
	38	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	しまり地。地山ブロックを多く含む	
	39	灰色 (7.5Y4/1)	シルト	灰白色火山灰含む	
	40	暗灰色 (N3/)	砂質シルト		
	41	明オリーブ灰色 (2.5GY7/1)	シルト	黒褐色砂質シルトを含む	
路面構築土 B 期	42	灰色 (10Y6/1)	シルト	黒褐色砂質シルトをブロック状に含む	人為堆積土
	43	灰黄色 (2.5Y7/2)	砂質シルト		
	44	暗灰色 (10YR4/1)	シルト	淡黄色 (5Y7/3) シルトを含む	
	45	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	砂質シルト	銅鉄含む	
SD11953A (南側溝 A 期)	46	黒褐色 (2.5Y3/1)	砂質シルト	地山細砂を少し含む	自然堆積土
	47	黒褐色 (10YR3/1)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む	
	48	淡黄色 (5Y7/3)	シルト	黄褐色砂質シルトを含む	
SD5604A (北側溝 A 期)	49	灰色 (N5/)	砂質シルト	マンガン含む	自然堆積土
	50	黒色 (7.5Y2/1)	シルト	明オリーブ灰色シルトを含む	

図版 28 SX12092道路跡 (西6a道路)、SD5601D溝跡断面図



図版29 SX12092道路跡（西6a道路）、SD5601D溝跡平面図（J区）

（J区の図例は図版336を参照）  
 \* SD11959 は最も新しい道溝



SX12092 屈曲部 1(北から)



SX12092 屈曲部 2(北から)

図版30 SX12092道路跡(西6a道路) 2

側溝 C 期



側溝堆積土



No.	名称	遺構	層位	図型	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	須恵器・環	側溝 C 期	22・23 層	内外面：ロクロナデ 底面：回転糸切り	—	6.8	—	1/3		3349
2	土師器・環	側溝	上層	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底面：回転糸切り→手打ちヘラケズリ	13.6	5.2	4.0	2/3		3350

層位は図版 28 に基づく

図版 31 SX12092 道路跡 (西 6a 道路) 出土遺物

### 〔出土遺物〕 (図版 31)

側溝 C 期堆積土から土師器環・甕、須恵器環 (1) ・甕、赤焼土器環・高台環などが出土した。土師器環・甕は全てロクロ調整で、回転糸切りのものを含む。須恵器環は回転糸切りである。また、C 期路面堆積土からは、土師器環・甕、須恵器環、赤焼土器高台環などが出土した。土師器環・甕は全てロクロ調整で、環は底部回転糸切りを含む。

側溝 B 期堆積土から土師器環・甕、須恵器環・高台環・甕、赤焼土器環、丸瓦・平瓦などが出土した。土師器環は回転糸切り、須恵器環はヘラ切りを含む。側溝 A 期堆積土から丸瓦・平瓦、動物遺存体 (馬歯) などが出土した。このほか、側溝堆積土から土師器環 (2) などが出土した。

### 〔SX2652 南北道路跡〕 (図版 32・592)

M 区北西隅で東側溝 (SD11787) を確認した。北側で隣接する県道調査 III 区、第 4 工区の SX2652 道路跡東側溝 (SD2574) の延長にあたり (宮城県教委 1994c・2015a)、本調査を含めた総長は 42.6m になる。本道路を南へ延ばすと、J 区で確認した SX12092 西 6a 道路跡に至り、その南には延びないことから、同道路と一連の遺構と考えられる。その場合、西 6a 道路は北 2 道路との交差点から北東に延びて東へ折れ真東を向いたのち、再度北へ折れて西 5 道路に近づくことになる。こうした変則的なあり方は、本道路が自然地形にあわせて施工されたためと考えられる。

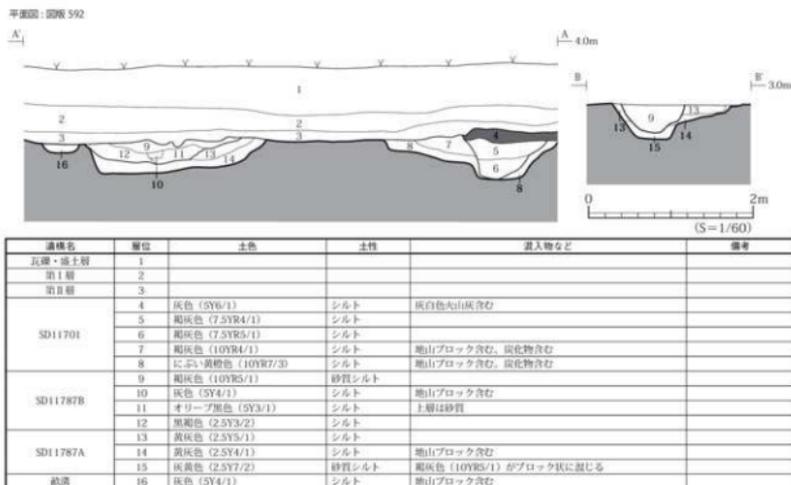
### 〔重複〕 (古) SD11700

〔変遷〕 東側溝で A・B の 2 時期がある (A→B)。なお、県道調査区でも東西両側溝で 2 時期の変遷を確認している。

〔路面〕 バラス等の路面舗装の痕跡は認められない。県道調査区でも、路面や積み土を確認していないことから、地山を路面としていた可能性がある。

〔東側溝〕 検出長は 5.2m である。B 期は上幅 0.7～1.9m、下幅 0.3～1.1m、深さは 0.2m で、断面は皿形である。堆積土は褐色・オリブ黒色などの砂質シルトやシルトである。A 期は上幅 1.5～2.2m 以上、下幅 1.3m、深さ 0.4～0.5m で、断面は皿形である。堆積土は黄灰色の砂質シルトなどで、上層に地山ブロックを含む。なお、側溝で灰白色火山灰は認められなかった。

### 〔出土遺物〕 なし。



図版32 SX2652南北道路跡断面図

#### 4. 西4道路跡

D・G・L区で確認した南北道路跡である。北2a道路との交差点より北側がSX750南北道路跡で、南側がSX700南北道路跡である。検出長は190.5mで、北側の県道Ⅱ区を合わせた総長は214.7mである。方向は路心間で測るとSX750南北道路跡がN-4°-E、SX700南北道路跡はN-3°-Eである。なお、D区における本道路跡の調査成果については、平成9年度にも報告を行っている（宮城県教委1997）。

#### 【SX750南北道路跡】（図版33～38・64・435・付図）

北2a道路交差点より北側の西4道路跡で、74.7m確認した。L区北側で隣接する県道調査区を合わせると、97.6m以上になる。橋脚PA2の部分は完掘し、その他はD期のみ掘り下げ、必要に応じて部分的な断ち割りを行った。

〔重複〕(古) SD100・461・2050A・B、SI7275、SX7124・7128

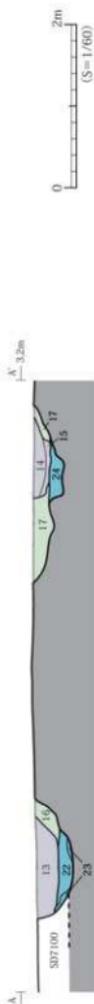
(新) SD730・735・740、SK734・787・833

〔変遷〕北2a道路交差点からL区南部にかけて、東側溝で4時期（A期：SD862、B期：SD860、C期：SD831、D期：SD751）、西側溝で4時期（A期：SD863、B期：SD861、C期：SD832、D期：SD752）、路面は2時期認められた。側溝と路面の関係は、C期が路面古期（路面構築土C期）、D期が路面新期（路面構築土D期）に対応する。A・B期の路面は確認できなかった。こうしたことから、道路には少なくとも4時期の変遷があったと考えられる。側溝底面は南へ傾斜することから、北側ほど残りが悪くなり、L区中央部から北部では、3時期（A・B・C期）、県道Ⅱ区では西側溝でB期（SD2101）、東側溝でB・C期（SD2100A・B）を確認した。

SX750 南北道路跡 (西4道路)

I 区中央部

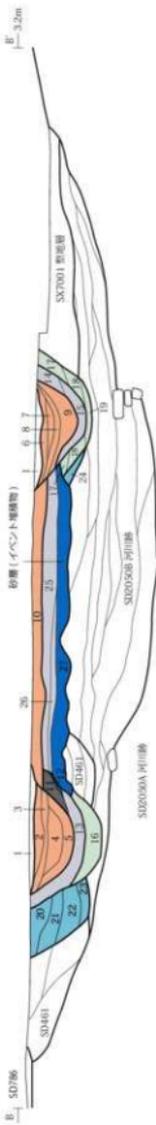
平面図：図面 S21



D 区北側

平面図：図面 37・95

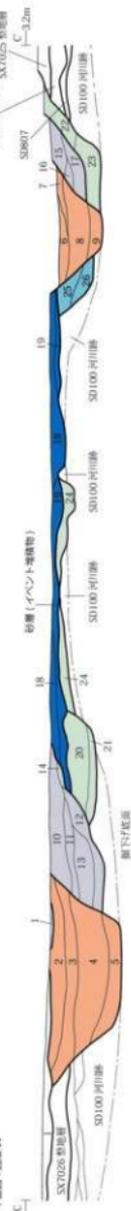
B. SD786



SX700 南北道路跡 (西4道路)

北2a 道路交差点付近

平面図：図面 39



図版33 SX700・750南北道路跡 (西4道路) 断面図1

SX750 南北道路跡 (西4道路)

遺構名	層位	土色	土性	遺入物など	備考
SD752 (西側溝D期)	1				
	2	黒褐色 (10YR3/3)	シルト		
	3	黒褐色 (10YR3/2)	シルト		
	4	黒褐色 (10YR2/2)	粘土質シルト	炭化物を多く含む	自然堆積土
	5	黒褐色 (10YR2/3)	粘土質シルト		
SD751 (東側溝D期)	6	黒褐色 (10YR3/3)	シルト		
	7	黒褐色 (10YR3/2)	シルト		
	8	黒褐色 (10YR2/2)	粘土質シルト	炭化物を多く含む	自然堆積土
	9	黒褐色 (10YR2/3)	粘土質シルト		
路面構築土D期	10	黒褐色 (10YR3/4)	砂	土器・瓦の小破片を多く含む	人為堆積土
SD832 (西側溝C期)	11	黒褐色 (10YR3/3)	シルト	灰白色火山灰ブロックを含む	
	12	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	灰白色火山灰ブロックを多く含む	2次堆積
	13	黒褐色 (10YR2/3)	粘土質シルト		自然堆積土
	14	黒褐色 (10YR2/2)	シルト		
SD831 (東側溝C期)	15	黒褐色 (10YR2/3)	粘土質シルト	炭化物を多く含む	自然堆積土
	16	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	炭化物を多く含む	
SD860 (東側溝B期)	17	黒褐色 (10YR3/2)	シルト		
	18	黒褐色 (10YR2/2)	粘土質シルト		自然堆積土
	19	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト		
SD863 (西側溝A期)	20	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト		
	21	黒褐色 (10YR2/3)	シルト		自然堆積土
	22	黒褐色 (10YR2/2)	シルト		
	23	黒褐色 (10YR2/2)	粘土質シルト	炭化物・地山ブロックを含む	
SD862 (東側溝A期)	24	黒褐色 (10YR3/1)	シルト		自然堆積土
路面構築土C期	25	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	炭化物・礫・雜物小破片を多く含む	
26	灰黄褐色 (10YR4/2)	細砂			
B期イベント堆積物	27	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂	黒褐色シルト・炭化物・礫物を含む。下面が乱れている	

SX700 南北道路跡 (西4道路)

遺構名	層位	土色	土性	遺入物など	備考
SD752 (西側溝D期)	1				
	2	黒褐色 (10YR3/3)	シルト		
	3	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト		
	4	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	粘性強	自然堆積土
	5	黒褐色 (10YR3/1)	粘土	細砂ブロックを多く含む	
SD751 (東側溝D期)	6	黒灰色 (10YR4/1)	粘土		
	7	黒灰色 (10YR4/1)	粘土	黄褐色シルトをラミナ状に含む	自然堆積土
	8	黒褐色 (10YR2/2)	粘土		
	9	黒褐色 (10YR2/2)	粘土	地山ブロックを多く含む	
SD832 (西側溝C期)	10	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	細砂を含む	
	11	黒褐色 (10YR3/2)	シルト		
	12	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	黒色粘土と砂を含む	自然堆積土
	13	黒褐色 (10YR3/2)	粘土		
	14	灰黄褐色 (10YR4/2)	細砂		
SD831 (東側溝C期)	15	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト		
	16	黒褐色 (10YR2/2)	粘土		自然堆積土
	17	黒褐色 (10YR3/1)	粘土	地山ブロックを多く含む	
B期イベント堆積物	18	にぶい・灰褐色 (10YR5/3)	砂	細砂・粘土を含む	
	19	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂		
SD861 (西側溝B期)	20	黒褐色 (10YR3/1)	粘土		自然堆積土
	21	にぶい・黄褐色 (10YR5/3)	シルト	黒褐色粘土ブロックを多く含む	
	22	黒褐色 (10YR2/2)	シルト		自然堆積土
SD860 (東側溝B期)	23	にぶい・黄褐色 (10YR5/3)	シルト	黒色粘土をラミナ状に含む	自然堆積土
路面構築土B期	24	黒褐色 (10YR3/1)	シルト		人為堆積土
SD862 (東側溝A期)	25	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト		
	26	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	黒褐色粘土ブロックを多く含む	自然堆積土

図版34 SX700・750南北道路跡 (西4道路) 断面図2

〔路面〕A・B期は、路面構築土や堆積土が認められず、地山とB期側溝を砂層（イベント堆積物）が覆うことから、当該期の路面は地山であったと考えられる。B期のイベント堆積物については、SX700から採取した資料について分析が行われ、海水起源の珪藻化石が含まれることから、流入水塊は海水を作っていたと指摘されている（箕浦・山田・平野2014、松本2014）。C期は、イベント堆積物の上に盛土（路面構築土C期）を行った後、側溝が掘り込まれた。D期はC期の路面と側溝を覆って盛土が行われ、その上面に土器や瓦の小片を多く含む路面舗装が行われた（路面構築土D期）。



SX750 全景（北から）



SX750 全景（南から）

図版35 SX750南北道路跡（西4道路）



SX750 西側溝断面（南から）



SX750 東側溝断面（南から）



SX700 東側溝断面（北から）



SX700 西側溝断面（北から）



SX700 西側溝断面・洪水砂層（北から）



SX700(北から)

図版36 SX700・750南北道路跡(西4道路)

路幅は、D期の側溝心々で測ると5.1～6.6mで、側溝はほぼ同じ位置で改修されたことから、各時期で大きな変動はなかったと考えられる。

〔東側溝〕検出長はA期：59.7m、B期：74.5m、C期：74.5m、D期：40.8mで、B・C期はL区を含めると前者が85.3m、後者は98.0mになる。北2a道路との交差点からほぼ直線的に北に延びる。断面は上が開くU字形で、底面は南へ傾斜する。西側溝と較べて幅が狭く、浅い傾向がある。

D期は上幅0.5～1.3m、下幅0.3～0.6m、深さは0.5m前後である。堆積土は黒褐色や褐灰色などの粘土で、自然堆積である。C期は上幅1.0～2.1m、下幅0.7m、深さは0.2～0.6mである。堆積土は黒褐色や褐灰色などのシルトで、自然堆積である。B期は上幅1.5～2.1m、下幅0.4m～1.3m、深さは0.4mで、堆積は地山ブロックや炭化物を含むにぶい黒褐色・黄褐色・灰黄褐色のシルトで、自然



図版37 D区平面図3





図版39 D区平面図5

(D区の図例は図版64を参照)

堆積である。A期は上幅1.8～2.4m、下幅0.4～1.4m、深さ0.4m前後で、堆積土は炭化物を含む黒褐色・黒色・黄灰色のシルトなどで、自然堆積である。

〔西側溝〕検出長はA期：55.6m、B期：71.8m、C期：69.1m、D期：36.1mで、B期はL区を含めると91.4mになる。北2a道路との交差点からほぼ直線的に北に延びる。断面は上が開くU字形で、底面は南へ傾斜する。東側溝に較べて幅が広く、深い傾向がある。

D期は上幅0.6～1.2m、下幅0.3～0.5m、深さは0.3m前後である。堆積土は炭化物を含む黒色の粘土質シルトで、自然堆積である。C期は上幅1.1～2.6m、下幅0.3～0.7m、深さは0.5mである。堆積土はオリーブ黒・褐灰色・黄灰色などのシルトで、自然堆積である。層中に灰白色火山灰の2次堆積が認められる。B期はC期に壊されて幅が不明であるが、深さは0.6mである。堆積土は炭化物を含む黒褐色・にぶい黄褐色などの粘土やシルトである。A期はB期に壊されて幅が不明であるが、深さは0.5m前後ある。堆積土は炭化物や焼土を含む黒褐色シルトなどで、自然堆積である。

〔出土遺物〕(図版40～45)

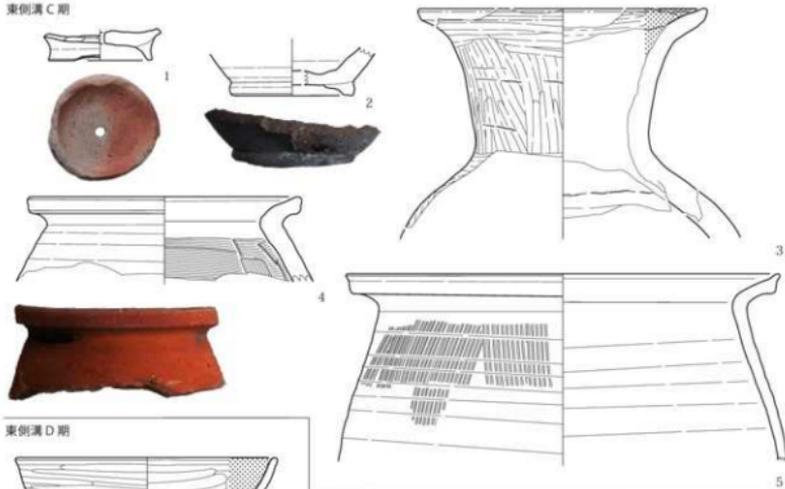
東側溝D期堆積土から土師器環(7)・高台坪(6)・高台埵・甕、須恵器環(8・9)・高台坪・長頸壺(13・14・16)・壺・壺G(15)・甕、赤焼土器環・小型環(12)・高台坪・小皿(10)・皿(11)・高台鉢、灰軸陶器埵・瓶、製塩土器深鉢(17)、土錘(18)・羽口(19)、砥石(22)、凝灰岩切石、黒曜石剥片、軒平瓦(20)・丸瓦・平瓦、鉄滓(21)、ウマ中節骨(67)などが出土した。土師器環は回転系切りで、須恵器長頸壺には大戸産が含まれる。灰軸陶器は猿投産と東濃産がある。軒平瓦は多賀城第II期の偏行唐草文(多賀城分類：620)である。なお、平成3年度調査では耳環などが出土した(宮城県教委1997)。

東側溝C期堆積土から土師器環・広口壺(3)・大型甕(4・5)・甕、須恵器環・高台坪・長頸壺(2)・甕、赤焼土器環・高台坪・有孔円盤(1)、瓦などが出土した。土師器環は回転系切りで、須恵器長頸壺は大戸産を含む。土師器広口壺は須恵器の同器種を模倣したと考えられる。なお、平成3年度調査では、灰軸陶器埵(東濃産)、多賀城第IV期の均整唐草文軒平瓦(多賀城分類：721B)などが出土した(宮城県教委1997)。

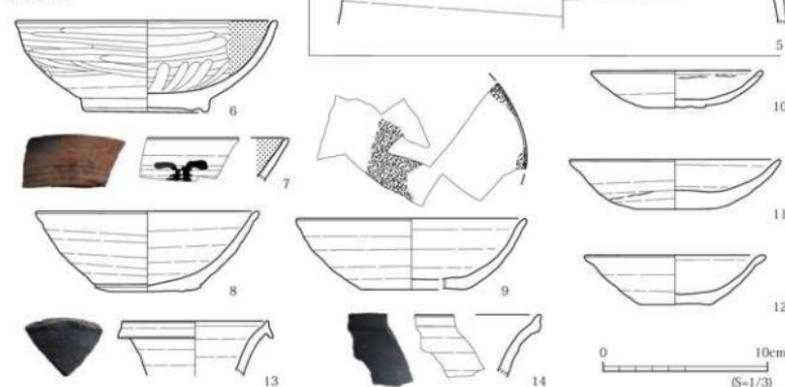
東側溝A・B期の堆積土からは土師器環・甕、須恵器甕、平瓦などが出土した。このほか、東側溝堆積土の赤焼土器小皿(23)、ミガキ須恵器蓋(25)・盤(26)、須恵器甕(24)・長頸壺(27・28)と、確認面の須恵器長頸壺(30)、砥石(29)を図示した。須恵器長頸壺には大戸産が多く含まれる。また、東側溝堆積土からウマ踵骨(68)・距骨(69)・足根骨(70～72)・中足骨(73・74)などが出土している。

西側溝D期堆積土から土師器環(35・36)・高坪・高台坪・甕、須恵器環(37～39)・広口壺・長頸壺(45～49・51・52)・壺・甕・転用砥(50)・転用碗(40・41)、赤焼土器環(42～44)・高台坪・皿・高台鉢、灰軸陶器埵(54)・壺(53)、緑軸陶器壺、製塩土器深鉢、丸瓦・平瓦、砥石・火打石(55・56)、木皿(58)、鉄滓(57)、ウシ遊離骨(66)などが出土した。土師器は坪が回転系切りで、甕はロクロ調整を含む。須恵器環は回転系切りとヘラ切りがある。須恵器壺類は大戸産を含み、灰軸陶器は猿投産や東濃産である。

東河溝 C 期



東河溝 D 期



No.	器種	層位	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存	備考	登録
1	赤焼土器・有孔式円盤	14・15層	内外面：ロクロナデ 底面：回転糸切り→高台取付→ナデ	—	—	—	一部	高台坪・高台取付・底面に穿孔。径：6.3cm 厚さ：0.8cm	1208
2	須恵器・高脚杯	14・15層	外面：回転ヘラズリ→ナデ 内面：ロクロナデ 底面：切離し不明→高台取付→ナデ	—	(7.2)	—	一部	大戸産	1683
3	土師器・口皿	14・15層	外面：[Ⅷ] ロクロナデ→ヘラミガキ [Ⅰ〇～Ⅷ] ロクロナデ→横ヘラミガキ 内面：[Ⅰ] ヘラミガキ→紫色処理 [Ⅷ] ナデ	(17.3)	—	—	1/2		1679
4	土師器・人型壺	14・15層	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ→ヘラナデ	(16.2)	—	—	一部		1684
5	土師器・人型壺	14・15層	外面：平行タタキ→ロクロナデ 内面：ロクロナデ	(26.0)	—	—	1/3		1680
6	土師器・高台杯	6・9層	外面：ロクロナデ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→紫色処理 底面：回転糸切り→高台つまみ出し→ナデ	(15.8)	7.3	5.5	完形		1654
7	土師器・杯	6・9層	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキによるロクロナデ	—	—	—	一部	筆書「口」	1674
8	須恵器・杯	6・9層	内外面：ロクロナデ 底面：回転糸切り	(13.4)	6.4	4.9	1/2		1672
9	須恵器・杯	6・9層	内外面：ロクロナデ 底面：回転糸切り	(13.8)	6.2	4.3	一部	内面に薄く漆付	1649
10	赤焼土器・小皿	6・9層	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ→コテ仕上げ 底面：回転糸切り	10.4	3.6	2.2	完形		1205
11	赤焼土器・皿	6・9層	内外面：ロクロナデ 底面：回転糸切り	(12.6)	6.1	3.0	1/2		1655
12	赤焼土器・小型杯	6・9層	内外面：ロクロナデ 底面：回転糸切り	(10.8)	4.2	3.0	2/3		1653
13	須恵器・高脚壺	6・9層	内外面：ロクロナデ	(8.8)	—	—	一部	大戸産、自然釉	1678
14	須恵器・高脚壺	6・9層	内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部	大戸産、自然釉	1665

層位は図版 33・34 に基づく

図版40 SX750南北道路跡(西4道路)出土遺物 1

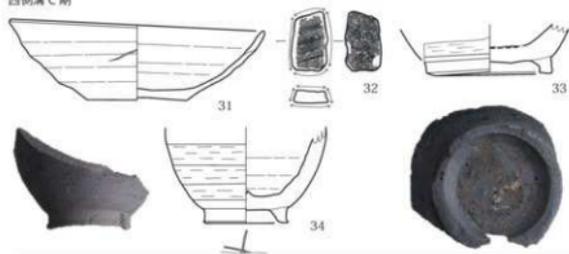


No.	品種	層位	図案	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
15	須恵瓦・壱	6-9層	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ 底面：回転糸切り	—	(5.0)	—	1/3	平城点分壱：壱C	1673
16	須恵瓦・長瀬	6-9層	外面：回転ヘラケズリ→高付板付→ナデ 内面：ロクロナデ	—	(7.8)	—	一部	大戸産。体下部に円形焼物の転跡	1206
17	須恵瓦・深鉢	6-9層	外面：オサエ→ナデ 内面：ナデ	—	—	—	一部	完形	1675
18	土製品・土練	6-9層	外面：ナデ	—	—	—	—	長さ：3.5cm 幅：1.8cm 孔径：0.4cm	220
19	土製品・並口	6-9層	外面：ナデ	—	—	—	—	最大幅：4.3cm 厚さ：2.1cm	1671
20	瓦・軒平瓦	6-9層	凸面：ナデ 凹面：布目	—	—	—	一部	多賀城瓦形。編行唐草文 620。 厚さ：3.1cm	1670
21	鉄片	6-9層	—	—	—	—	—	—	1652
22	石製品・砥石	6-9層	—	—	—	—	—	長さ：(10.4cm) 幅：(6.5cm) 厚さ： cm 重さ：117.0 g	1735
23	須恵瓦・小壱	堆	内外面：ロクロナデ 底面：回転糸切り(薄し)	(8.2)	4.2	1.6	2/3	—	1688
24	須恵瓦・壱	堆	外面：ロクロナデ→櫛目波紋瓦 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部	—	1210
25	須恵瓦・壱	堆	内外面：ロクロナデ→ヘラミガキ 色調：にぶい褐色～橙色	—	—	—	—	ミヤキ半島産。素人品	1691
26	須恵瓦・壱	堆	内外面：ヘラミガキ 色調：浅黄褐色	—	—	2.6	一部	ミヤキ半島産。素人品	1690
27	須恵瓦・長瀬	堆	外面：ロクロナデ→回転ケズリ 内面：ロクロナデ 体下部に布目	—	—	—	一部	大戸産。胴下部に布目	1689
28	須恵瓦・長瀬	堆	外面：ロクロナデ→回転ケズリ 内面：ロクロナデ 底面：回転ケズリ	—	—	—	一部	大戸産	1687
29	石製品・砥石	確認	—	—	—	—	—	厚さ：2.3cm 重さ：20.0 g	1696
30	須恵瓦・長瀬	確認	内外面：ロクロナデ 底面：回転ヘラケズリ→高付板付→ナデ	—	8.1	—	一部	大戸産	1692

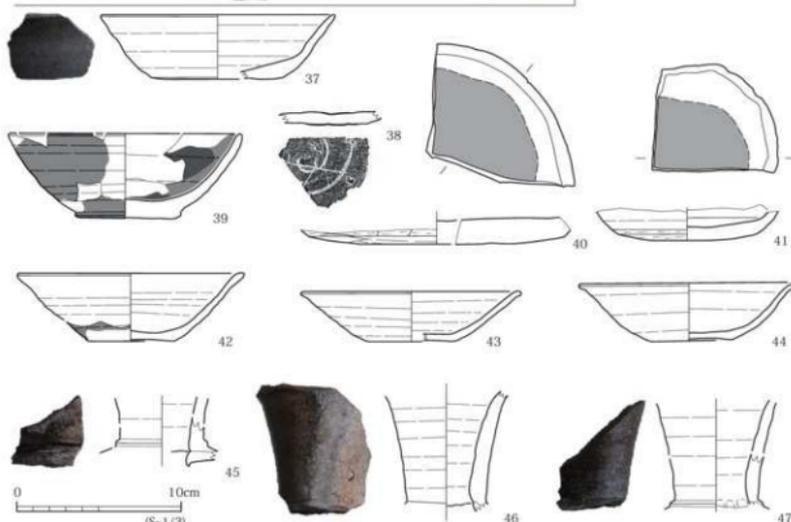
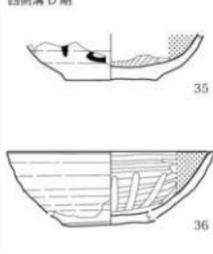
単位は四角 33・34 に基づく

図版41 SX750南北道路跡(西4道路)出土遺物2

西例溝 C 期



西例溝 D 期

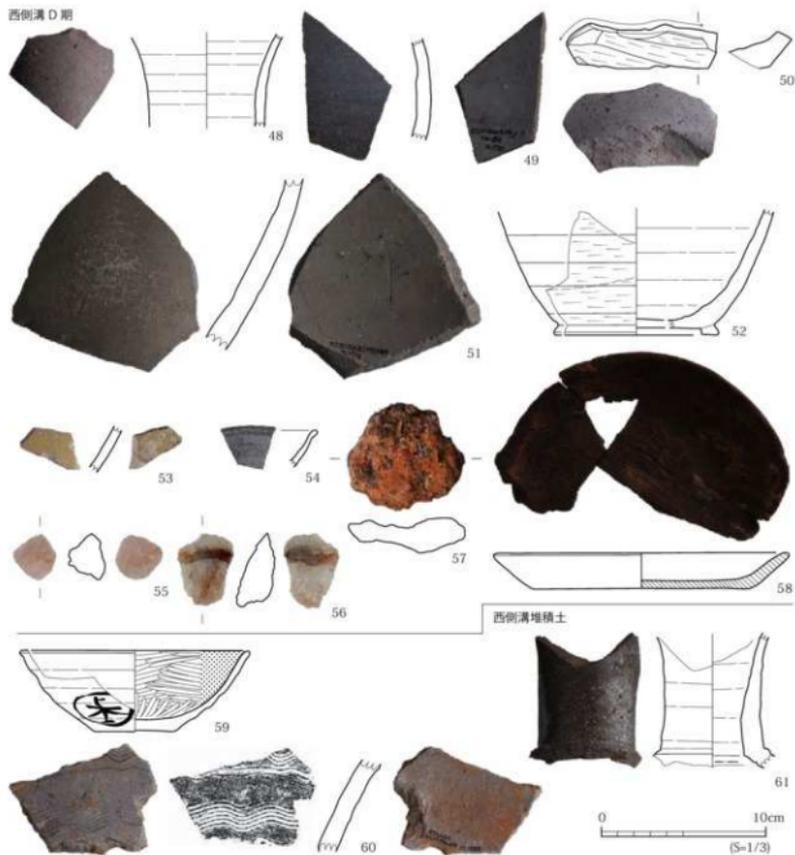


0 10cm  
(S=1/3)

No.	器種	層位	図説	口縁 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存	備考	登録
31	須恵器・坏	11-13 層	内外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り（磨し）	15.2	6.1	4.6	完形		1216
32	須恵器・転用瓦	11-13 層		—	—	—	一部	転用転用、長さ：3.7cm 幅：2.4cm 厚さ：0.7cm	1219
33	須恵器・長瀬寺	11-13 層	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→高台貼付→ロクロナデ 内面：ロクロナデ	—	7.6	—	一部	大戸産、内面に自然釉	1741
34	須恵器・小型壺	11-13 層	外面：回転ヘラケズリ→高台貼付→ナデ 内面：ロクロナデ	—	(5.2)	—	一部	大戸産、底部にへう書き「×」	1217
35	土師器・坏	2.5 層	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色地埋 底部：回転糸切り	—	5.5	—	1/3	体部外面に帯書「□」	1704
36	土師器・坏	2.5 層	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色地埋 底部：回転糸切り	(12.4)	(5.7)	4.6	1/2		1701
37	須恵器・坏	2.5 層	内外面：ロクロナデ 底部：切離し不明→ナデ	(14.0)	(8.0)	3.9	一部	大戸産	1715
38	須恵器・坏	2.5 層	外面：ロクロナデ→へう切り 内面：ロクロナデ	—	—	—	—	底部にへう書き「×」	1731
39	須恵器・坏	2.5 層	内外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り	14.0	6.4	5.3	2/3	内外面に腐付着	1698
40	須恵器・転用瓦	2.5 層	底部：切離し不明→手持ちヘラケズリ・ナデ	—	—	—	一部	葉を転用、長さ：8.9cm 幅：7.3cm 厚さ：1.6cm	1706
41	須恵器・転用瓦	2.5 層	内外面：ロクロナデ 底部：切離し不明→回転ヘラケズリ	—	—	—	一部	坏を転用、甬土に海綿状針を多量に含む、長さ：8.3cm 幅：6.8cm 厚さ：0.8cm	1705
42	赤焼土器・坏	2.5 層	内外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り	(13.6)	5.2	4.1	1/2	外面に腐付着	1699
43	赤焼土器・坏	2.5 層	内外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り	(13.0)	(5.2)	3.1	1/3		1700
44	赤焼土器・坏	2.5 層	内外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り	13.1	4.8	3.6	完形		1745
45	須恵器・長瀬寺	2.5 層	内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部	大戸産、リング状凸部、二段接合	1712
46	須恵器・長瀬寺	2.5 層	内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部	大戸産	1709
47	須恵器・長瀬寺	2.5 層	内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部	リング状凸部	1711

層位は断面 33・34 に基づく

図版42 SX750南北道路跡（西4道路）出土遺物3



No.	器種	層位	調整	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
48	須恵瓦・瓦片	2.5層	内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部		1721
49	須恵瓦・瓦片	2.5層	内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部	大戸瓦	1722
50	須恵瓦・瓦片	2.5層	外面：手持ちヘラケズリ 内面：ナデ 底部：切離し不明→手持ちヘラケズリ	—	—	—	一部	燧石製。長さ：100cm 幅：2.7cm 厚さ：1.5cm	1708
51	須恵瓦・瓦片	2.5層	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→布目300目 内面：ヘラナデ	—	—	—	一部	大戸瓦	1713
52	須恵瓦・瓦片	2.5層	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→高目刷付→ロクロナデ 内面：ロクロナデ	—	(10.0)	—	一部	破砕産	1734
53	須恵瓦・瓦片	2.5層	内外面：ロクロナデ→ヘラミガキ→魚輪	—	—	—	一部	破砕産	1702
54	須恵瓦・瓦片	2.5層	内外面：ロクロナデ→魚輪	—	—	—	一部	燧石製	1733
55	石製品・打石	2.5層	—	—	—	—	—	長さ：16.0 ㎖	1703
56	石製品・打石	2.5層	—	—	—	—	—	長さ：32.0 ㎖	1736
57	鉄片	2.5層	—	—	—	—	—	—	1740
58	木製品・皿	2.5層	—	(17.8)	(13.2)	2.2	1/2	—	2620
59	土師器・坪	堆	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底部：回転糸切り	(13.7)	4.8	5.0	1/2	鉢部外面に黒塗。C4「木」(正品)	1742
60	須恵瓦・瓦片	堆	外面：ロクロナデ→櫛目状文 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部	—	1232
61	須恵瓦・瓦片	堆	内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部	大戸瓦。一段接合	1222

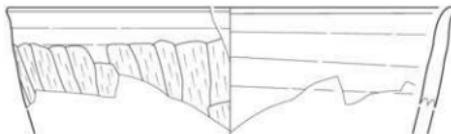
層位は図版33・34に基づく

図版43 SX750北海道跡(西4道路)出土遺物4

C期路面構築土



62



西側溝確認面



64

63



65

西側溝D期



66(ウシ・遊離面)

東側溝堆積土



68(ウマ・踵骨(L))



70(ウマ・中心足根骨(L))



71(ウマ・第3足根骨(L))



74(ウマ・第4中足骨(L))

東側溝D期



67(ウマ・中節骨)



69(ウマ・距骨(L))



72(ウマ・第4足根骨(L))



73(ウマ・第3中足骨(L))



No.	図種	層位	図解	口徑(cm)	底徑(cm)	高さ(cm)	残存	備考	登録
62	築造土・私用成	25・26 層		—	—	—	一部	赤土転用。長さ：3.8cm 幅：2.8cm 厚さ：0.7cm	1227
63	土師器・壺	確認面	外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ	(27.0)	—	—	一部		1748
64	築造土・壺	確認面	外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ	(16.7)	—	—	一部	大口産	1757
65	押引石器・スクレイパー	確認面		—	—	—	—	石材：加藤石(濁ノ倉産)。長さ：(3.3cm) 幅：3.6cm 重さ：30.2g	1760

層位は図版33・34に基づく

図版44 SX750南北道路跡(西4道路)出土遺物5



圖版45 SX750南北道路跡 (西4道路) 出土遺物6

西側溝C期堆積土から土師器環・高台環・甕、須恵器環(31)・小型壺(34)・長頸壺(33)・甕・転用砥(32)、赤焼土器環・高台鉢、曲物などが出土した。土師器は環が回転糸切りで、甕はロクロ調整を含む。須恵器環・長頸壺は大戸産を含む。

西側溝B期堆積土から土師器環・甕、須恵器環・甕、平瓦などが出土した。A期堆積土から土師器環・甕が出土した。このほか、西側溝堆積土から出土した土師器環(59)、須恵器長頸壺(61)・甕(60)、確認面から出土した土師器甕(63)、須恵器蓋(64)、剥片石器スクレイパー(65)を図示した。須恵器蓋は大戸産である。

C・D期の路面構築土からは、土師器環・高台環・甕、須恵器環・高台環・長頸壺・甕・転用砥(62)、丸瓦・平瓦、鉄滓などが出土した。須恵器長頸壺は大戸産を含む。

このうち、34・38は底面にヘラ記号、7・35・59は体部に墨書(59:○に「本」)が認められる。

**【SX700南北道路跡】**(図版33・34・36・38・39・64・付図)

北2a道路交差点より南側の西4道路跡で、D区で16.7m、G区で19.0m確認した。多賀城市教委のF・G区分を合わせると、検出長は115.4mになる。

〔重複〕(古) SA11170、SD100・461・11086・11164、SI11166、SX7026・7033

(新) SD801・11080・11085、SK829

〔変遷〕北2a道路交差点からG区西部にかけて、東側溝に4時期(A期:SD862、B期:SD860、C期:SD831、D期:SD751)、西側溝に4時期(A期:SD863、B期:SD861、C期:SD832、D期:SD752)認められる。路面は構築土とそれを覆うイベント堆積物があり、後者はSX750のB期に対応する。こうしたことから、道路には少なくとも4時期の変遷があったと考えられる。

〔路面〕路面構築土はB期側溝が掘り込み、同期のイベント堆積物に覆われることからB期と判断できる。その下は地山となるため、A期は地山を路面としたと考えられる。B期のイベント堆積物については、交差点部分などから採取した資料について堆積学的・古生物学的検討が行われており、海水起源の珪藻化石が含まれることから、流入水塊は海水を伴っていたと指摘されている(箕浦・山田・平野2014、松本2014)。

また、B期の路面構築土はG区西部とD区南部で認められ、D区北部以北に広がらない。D区南部は古墳時代後期のSD100・2050河川跡の合流点であることから、地盤の軟弱な部分を中心に施工されたと考えられる。八幡・伏石地区の西4道路(SX700・750)は、B・D期に路面構築土や路面舗装が認められ、B期のイベント堆積物はD期のSX700路面全体を覆う。

路幅は、D期の側溝心々で測ると6.5m前後である。側溝はほぼ同じ位置で改修されていることから、各時期に大きな変動はない。

〔接続〕東側溝に対し、SX710東西道路跡の南北両側溝はA・C期が「T」字、B期は「L」字に接続する。D期はSX710の側溝が認められないため、この時期にSX710は廃絶していたと考えられる。こうした状況は西側溝でも同じで、SX390東西道路跡の南北両側溝はA・C期が「T」字、B期は「L」字に接続しており、D期にはSX390が廃絶していたと考えられる。

〔東側溝〕北2a道路との交差点からほぼ直線的に南へ延び、多賀城市教委F区で確認したSX300東

西道路（北2道路）は交差点で南北両側溝に「L」字状に接続する（多賀城市埋文センター1992b）。C期の検出長は、側溝心々で測るとD・F区合わせて25.5mである。東側溝は西側溝に較べて幅が狭く、浅い傾向がある。

D期は上幅0.5～1.2m、下幅0.3～0.8m、深さは0.4～0.6mで、断面は逆台形である。堆積土は褐灰色・黒褐色・オリブ黒色の粘土や粘土質シルトで、自然堆積である。C期は上幅1.0～1.4m、下幅0.6～1.0m、深さは0.6mで、断面は逆台形である。堆積土は炭化物・地山ブロックを含む黒褐色・灰黄褐色の粘土やシルトで、自然堆積である。

B期の規模は上幅1.4m前後、下幅0.9m以上、深さは0.4～0.6mで、断面は逆台形である。堆積土は黒褐色・にぶい黄褐色の粘土質シルトやシルトで、自然堆積である。イベント堆積物に覆われる。A期は上幅1.8～2.2m、下幅0.3m以上、深さ0.4m前後で、断面は逆台形である。堆積土は炭化物を含む黒褐色・灰黄褐色のシルトなどで、自然堆積である。

〔西側溝〕北2a道路との交差点からはほぼ直線的に南へ延び、多賀城市教委F区のSX300東西道路（北2道路）との交差点で、南北両側溝に「L」字状に接続する（多賀城市教委1992b）。C期の検出長は、側溝心々で測るとD・F区合わせて29.0mである。東側溝と較べて幅が広く、深い。

D期は上幅0.6～1.4m、下幅0.4～0.7m、深さは0.3m前後で、断面は逆台形である。堆積土は暗褐色・黒褐色の粘土やシルトで、自然堆積である。C期は上幅1.0～1.4m、下幅0.5m前後、深さは0.5～0.6mで、断面は逆台形である。堆積土は灰褐色・黒褐色・オリブ黒色の細砂からシルトで、自然堆積である。

B期はC期に壊されて幅が不明であるが、深さは0.5m前後である。堆積土は黒褐色・にぶい黄褐色のシルトで、自然堆積である。A期の規模は、D期に壊されて幅が不明であるが、深さは0.4～0.6mである。堆積土は炭化物を含むにぶい黄褐色・灰黄褐色のシルトなどで、自然堆積である。

〔出土遺物〕（図版46～49）

東側溝D期の堆積土から土師器環・甕、須恵器環・高台環・壺・長頸壺・甕、赤焼土器環（3）・小型環・高台環、灰軸陶器長頸壺、軒丸瓦（4）・丸瓦・平瓦、鉄滓などが出土した。土師器環はすべてロクロ調整で、回転系切りを含む。須恵器壺類は大戸産を含む。軒丸瓦は、多賀城第三期の細弁蓮花文（多賀城分類310B）である。

東側溝C期堆積土から土師器環、須恵器環（2）・甕などが出土した。須恵器環は円柱造りで、回転系切りである。B期の堆積土から土師器甕、須恵器環・高台環・提瓶（1）・壺・甕、平瓦、杭などが出土した。A期から遺物は出土していない。このほか、堆積土から出土した須恵器環（5）・長頸壺（6～8）と、確認而出した瓦転用砥（9）を図示した。長頸壺は大戸産を含む。

西側溝D期からは、土師器環（14・15）・高環・甕、須恵器環・双耳環（22）・蓋・小型壺（20）・長頸壺（21）・把手付瓶・壺・甕、赤焼土器環（16・17）・高台環・高台塊（18）、灰軸陶器壺・広口壺、緑軸陶器皿（23）、丸瓦・平瓦、砥石（19）などが出土した。土師器環、須恵器環は回転系切りが多い。須恵器壺類は大戸産を含む。灰軸陶器壺は猿投産である。緑軸陶器皿は硬陶で東濃産である。

西側溝C期から土師器環・高台環・甕、須恵器環・蓋・長頸壺・甕、赤焼土器環・高台環・高台鉢

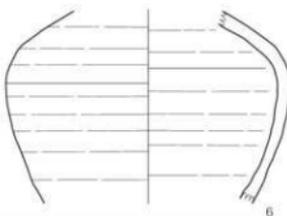
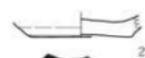
東側溝 B 期



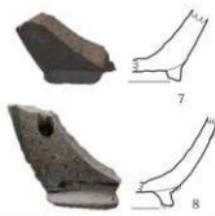
東側溝堆積土



東側溝 C 期



東側溝 D 期



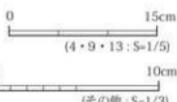
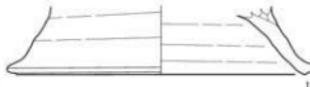
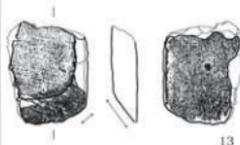
東側溝確認図



西側溝 A 期



西側溝 C 期

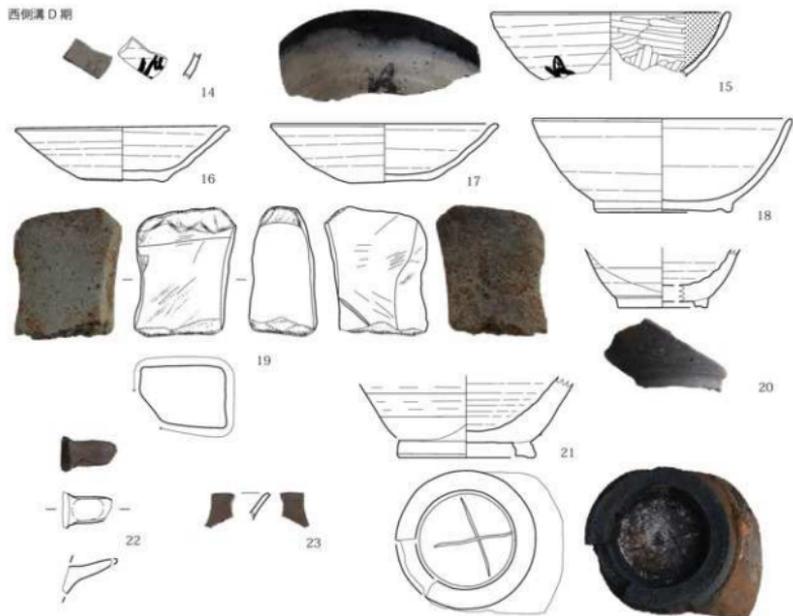


(その他、S=1/3)

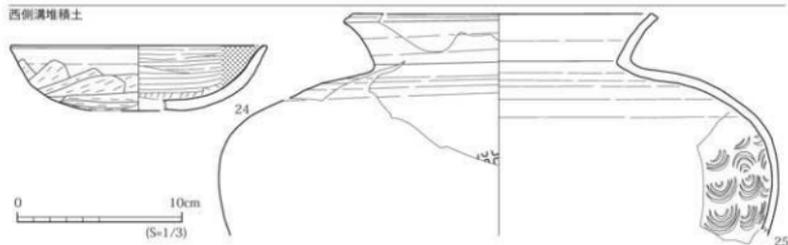
No.	名称	層位	調整	口径 (cm)	直径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	炭灰・灰皿	22-23 層	外面：ロクロナデ→礫底状文 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部	粘土に海綿骨針を含む	1200
2	炭灰器・杯	15-17 層	内外面：ロクロナデ 底面：臼底形切り	—	6.4	—	一部	底面「村作り」	1259
3	赤焼土器・杯	6-9 層	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ・コシ上げ 底面：臼底形切り	(12.0)	6.0	4.0	1/4	—	1251
4	瓦・軒瓦瓦	6-9 層	凸面：横位ヘラケズリ、縦位ヘラケズリ 凹面：布目圧痕、船底に引ってキザミ	—	—	—	一部	多賀城遺跡、御竹澤花文 310B、厚さ：2.0cm	920
5	炭灰器・杯	層	内外面：ロクロナデ 底面：ヘラ切り→ナデ	13.4	6.7	3.9	定形	—	929
6	炭灰器・長筒形	層	内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部	—	928
7	炭灰器・長筒形	層	外面：ロクロナデ→海綿ケズリ 内面：ロクロナデ 底面：切り難し不明→高台貼付→ナデ	—	(4.1)	—	一部	大戸産	924
8	炭灰器・長筒形	層	内外面：ロクロナデ 底面：切り難し不明→高台貼付→ナデ	—	(4.5)	—	一部	大戸産、環形地台の痕跡	927
9	瓦・転用瓦	確認面	—	—	—	—	一部	平長を転用、長さ：10.5cm 幅：5.5cm 厚さ：3.0cm	931
10	炭灰器・杯	SD863	内外面：ロクロナデ 底面：ヘラ切り→ナデ	—	(8.4)	—	一部	—	950
11	灰陶器・甕	10-14 層	内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部	—	946
12	赤焼土器・高台鉢	10-14 層	内外面：ロクロナデ	—	(17.6)	—	一部	—	944
13	瓦・転用瓦	10-14 層	—	—	—	—	一部	瓦瓦を転用、長さ：9.4cm 幅：7.8cm 厚さ：2.4cm	947

層位は断面 33・34・39 に基づく

図版46 SX700南北道路跡 (西4道路) 出土遺物 1



西側溝堆積土



No.	器種	層位	調整	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
14	土師器・杯	2.5 層	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	—	—	—	一部	体部に墨書「野」(正位)	943
15	土師器・杯	2.5 層	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(14.4)	—	—	1/3	体部に墨書「野」(正位)	942
16	赤埴土器・杯	4.5 層	内外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り	12.5	5.3	3.4	定形		1263
17	赤埴土器・杯	4.5 層	内外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り	13.5	4.6	3.6	定形		1264
18	赤埴土器・高台座	4.5 層	内外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り→高台つまみ出し	(15.8)	7.9	5.7	1/3		1265
19	石製器・灰石	2.5 層		—	—	—	—		1267
20	瓦葺器・小型壺	堆	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ 底部：切り履し不明→回転ヘラケズリ→高台取付→ナデ	—	(5.3)	—	一部	層さ：7.5 幅：5.3 厚さ：3.6cm	1253
21	瓦葺器・長脚壺	4.5 層	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ 底部：切り履し不明→回転ヘラケズリ→高台取付→ナデ	—	8.0	—	1/5	体下部に洋形模様の編織。底部にヘラ書き「×」。大戸産	1268
22	瓦葺器・瓦葺坪	4.5 層	外面：ナデ	—	—	—	一部		1266
23	緑釉陶器・甕	2.5 層	内外面：ロクロナデ→擦肌	—	—	—	一部	赤褐色。硬陶	932
24	土師器・杯	堆	外面：[□] ロクロナデ [体一底] ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(15.4)	—	3.9	1/3	胎土に海胆骨針を含む	951
25	須恵器・中甕	堆	内外面：[□→胴上] ロクロナデ 外面：[胴] 磨子タタキ 内面：[胴] 同心アタリ	(18.2)	—	—	1/2	全体に自然釉厚くかかる	954

層位は図版 33・34 に基づく

図版47 SX700南北道路跡 (西4道路) 出土遺物2

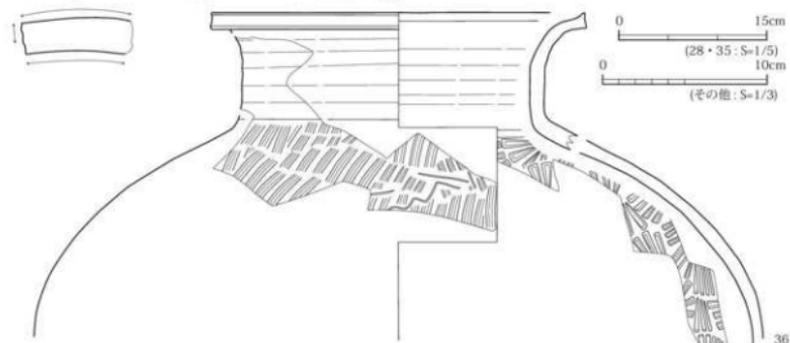
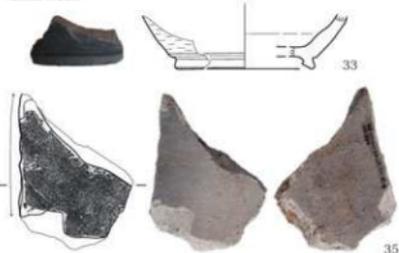
西側溝堆積土



西側溝確認面



路面上堆積土



No.	品種	層位	図型	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
26	青磁・甕	堆	内外面: ロクロナデ→胎地(青磁輪)	-	-	-	一部	越州窯系	956
27	緑釉陶器・埴	堆	外面: ロクロナデ→胎地(ヘラケズリ→緑釉 内面: ロクロナデ→胎地)	-	-	-	一部	築陵系, 軟肉	955
28	瓦・軒瓦瓦	堆		-	-	-	一部	多賀城瓦類, 垂面文	959
29	石製品・磨石	堆		-	-	-	完形	長さ: 12.5cm 幅: 11.7cm 厚さ: 3.8cm 重さ: 719.0g	957
30	土師器・甕	確認面	外面: ヘラケズリ→ナデ 内面: ナデ	-	-	-	一部	把手のみ	1274
31	須恵器・片陶	確認面		-	-	-	完形	甕を転用, 長さ: 3.6cm 幅: 2.8cm 厚さ: 0.6cm	1272
32	石製品・砥石	確認面		-	-	-	一部	磨砥, 長さ: 10.4cm 幅: 8.2cm 重さ: 228.4g	1275
33	須恵器・瓦面直	路堆	外面: ロクロナデ→胎地(ヘラケズリ→高台削付→ナデ 内面: ロクロナデ)	-	(8.2)	-	一部	大口産	961
34	須恵器・甕	路堆	外面: 燕子タタキ→ロクロナデ→襷織段状文 内面: ロクロナデ	-	-	-	一部	胴部にヘラ書き「口」	1325
35	瓦・転用瓦	路堆	襷書き作り	-	-	-	一部	多賀城分製: 平瓦! 人物を転用, 長さ: 12.4cm 幅: 11.2cm 厚さ: 3.3cm	1324
36	須恵器・甕	路堆	外面: 「口」ロクロナデ [裏] 平行タタキ 内面: 「口」ロクロナデ [裏] 襷織段状文	(22.6)	-	-	1/4	胴部にヘラ書き「口」	1321

層位は図版33・34に基づく

図版48 SX700南北道路跡(西4道路)出土遺物3



圖版49 SX700南北道路跡（西4道路）出土遺物4

(12)、灰軸陶器碗(11)、丸瓦・平瓦・瓦転用砥(13)などが出土した。土師器環は回転系切りを含む。須恵器壺は大戸産を含む。

西側溝B期から土師器甕、須恵器環・甕などが出土した。A期からヘラ切りの須恵器環(10)などが出土した。このほか、堆積土から出土した土師器環(24)、須恵器中甕(25)、緑軸陶器碗(27)、青磁碗(26)、軒丸瓦(28)と、石製品磨石(29)、確認面から出土した土師器甕(30)、須恵器円盤(31)、石製品砥石(32)を図示した。緑軸陶器碗は軟陶で、猿投産である。また、青磁碗は越州窯系で、軒丸瓦は多賀城第Ⅱ期の重畳文である。

路面堆積土から土師器環・高台環・高環・蓋・甕、須恵器環・高台環・高環・高盤・長頸壺(33)・蓋・甕(34・36)、丸瓦・平瓦・瓦転用砥(35)などが出土した。須恵器長頸壺は大戸産を含む。

このうち、14・15は体部外面に墨書「得」、21・34・36は底面や胴部外面にヘラ記号が認められる。

## 5. 西5道路跡

M区中央部で確認した南北道路跡である。C区で確認したSX400南北道路跡の延長で、北側に隣接する県道調査Ⅲ区や第4工区のSX2650南北道路跡(宮城県教委1994c・2015a)と同一遺構である。これらの調査区を合わせた総長は141m以上になり、方向は路心間で測るとN-2°-Eである。

### 【SX400南北道路跡】(図版50・51・52・53・592・付図)

路面と東西側溝(東側溝:SD11780、西側溝:SD11779)を94.0m確認した。両側溝は北側が多賀城市教委が一部調査を行っており、その成果(多賀城市教委1997d)を踏まえて説明する。

〔重複〕(古)SD180

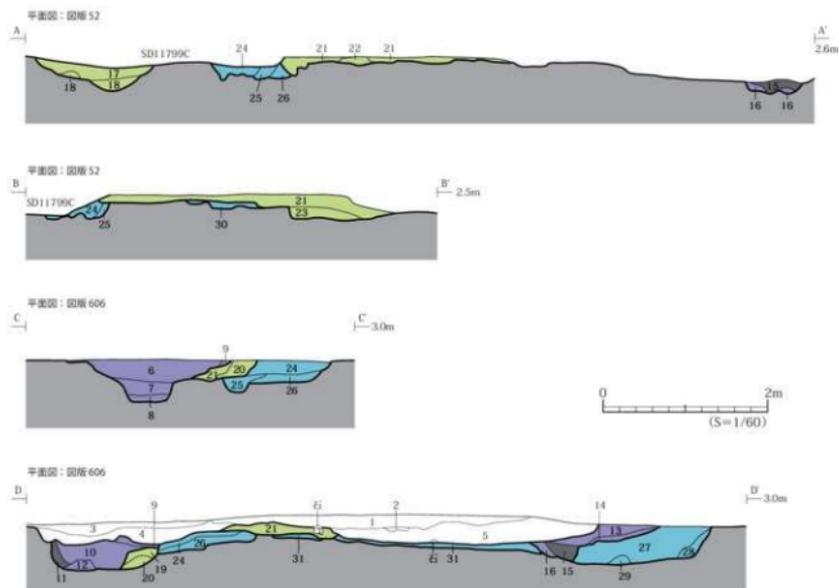
〔変遷〕側溝で3時期、路面は2時期認められることから、少なくとも3時期の変遷があったと考えられる。南に隣接するC区では、東側溝に4時期あると報告したが(宮城県教委1994c)、今回の調査で平面と断面の確認を行ったところ、B期とC期の堆積土に明確な違いは認められなかった。このため、M区では両側溝C期の下層に火山灰が堆積するが、C区の東側溝C期は、火山灰降下時には埋没して火山灰ブロックを含む路面堆積土に覆われることから(宮城県教委1997)、両者はC期とD期が対応する。

〔路面〕路面はA・B2面あり、路面舗装にバラス等の痕跡は認められない。側溝との関係はA面=側溝A期、B面=側溝B・C期で、B面には波板状凹凸面(SX11794)が認められる。路幅は側溝心々でA期:3.3m、B期:6.2~7.5m、C期:5.3mで、B期への改修時に、路幅を北側で最大約4.2m拡幅した。一方、路幅が縮小したC期への改修では、道路の路面側から側溝を掘直したと考えられる。

〔東側溝〕東側溝は、北2a道路との交差点からほぼ直線的に北へ延びる。検出長はA期:30.7m、B期:50.1m、C期:46.6mである。また、側溝A~C期は、調査区中央でSD11781東西区画溝A~C期とそれぞれ「T」字状に接続する。

C期側溝は上幅0.7~0.8m、下幅0.2mで、深さは0.2~0.4mである。堆積土は灰色・褐色色などのシルトで、下層に灰白色火山灰が認められる。B期はC期に壊されているため不明で、深さは0.2m

SX400南北道路跡(西5道路)



遺構名	層位	土色	土性	遺入物など	備考
第1層	1				
	2				
第2層	3				
	4	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト混じり中砂~細粒砂	灰色シルトブロックを含む	
道路土埋積土	5	灰黄褐色(10YR5/2)	シルト混じり砂	上部に陥没含む	
	6	にぶい黄褐色(10YR5/3)	シルト質細粒砂		
SD1179C (西側溝 C層)	7	黄灰色(10YR5/1)	シルト質中粒~細粒砂	一部に礫山ブロック含む	
	8	灰色(7.5YR6/1)	砂質シルト		
	9	灰白色(10YR8/1)	砂		
	10	オリーブ灰色(5Y3/1)	砂質シルト	灰白色の山灰をブロック状に含む	
	11	灰黄色(2.5Y7/2)	シルト	灰白色の山灰をブロック状に含む	2次埋積
	12	黄灰色(10YR4/1)	シルト		
	13	灰白色(7.5Y7/1)	シルト	灰白色の山灰をブロック状に含む	
	14	灰白色(9N6)	シルト	灰白色の山灰を含む	
	15	灰色(7.5Y4/1)	シルト	灰白色の山灰をブロック状に含む	2次埋積
SD1179B (西側溝 B層)	16	黄灰色(10YR4/1)	シルト	礫山ブロックを含む	
	17	黄灰色(2.5Y4/1)	シルト		
	18	オリーブ灰色(5Y3/1)	シルト	オリーブ黄色(5Y6/3)シルトをブロック状に含む	
路面埋積土B層	19	黒色(7.5YR2/1)	砂質シルト	灰白色の山灰を含む	
	20	黄灰色(10YR3/1)	シルト	下部に砂が埋積	
	21	黄灰色(2.5Y3/1)	シルト	陥没含む	人為埋積土
	22	黄灰色(2.5Y4/1)	砂質シルト	しまり強	
SD1179A (西側溝 A層)	23	灰色(9N4)	シルト		波状凹凸凸面
	24	オリーブ灰色(5Y3/1)	砂質シルト	下部に砂が埋積	
	25	にぶい黄褐色(10YR5/3)	シルト混じり砂		
SD11780A (東側溝 A層)	26	灰黄褐色(10YR5/2)	シルト質細粒~中粒砂	礫山ブロックを含む	
	27	黄褐色(10YR3/1)	砂質シルト		
	28	にぶい黄褐色(10YR6/3)	シルト		
	29	黄褐色(2.5Y7/3)	シルト		
路面埋積土A層	30	黄灰色(10YR6/1)	シルト混じり砂	しまり強	人為埋積土
	31	にぶい黄褐色(10YR7/2)	シルト~細粒砂	礫山ブロックを含む	

図版50 SX400南北道路跡(西5道路)断面図



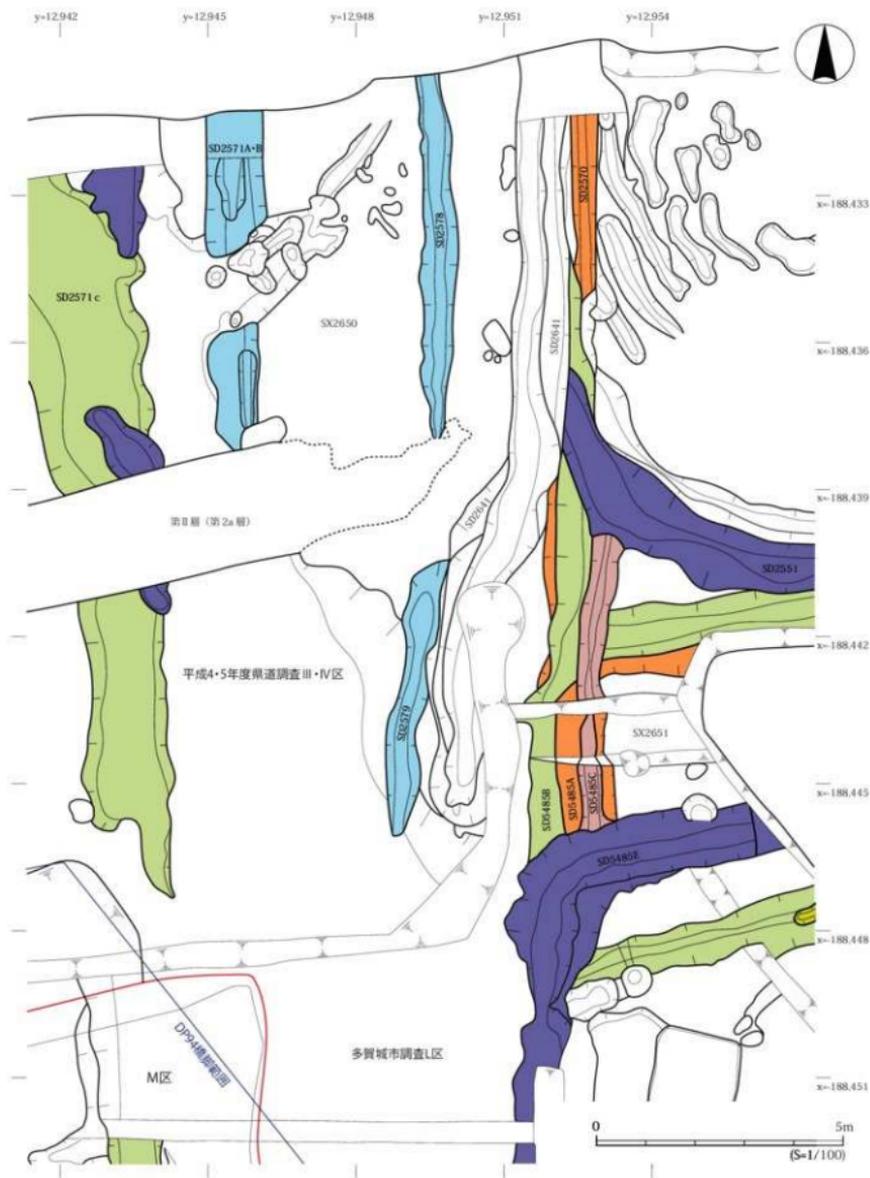
SX400 全景 (南から)



SX400 断面 (南から)

図版51 SX400南北道路跡 (西5道路)





図版53 SX400南北道路跡 (西5道路) 平面図2 (M区)

(M区の詳細は図版592を参照)

以上である。A期は上幅がB期に壊されて不明である。下幅0.2～1.4m・深さ0.3～0.5mで、堆積土は黒褐色やにぶい黄褐色のシルトなどである。

〔西側溝〕西側溝は、北2a道路との交差点からほぼ直線的に北へ延びる。検出長はA期：90.2m、B期：92.6m、C期：84.3mである。B・C期は、調査区中央北側でSD11739東西区画溝A・B期とそれぞれ「T」字状に接続する。

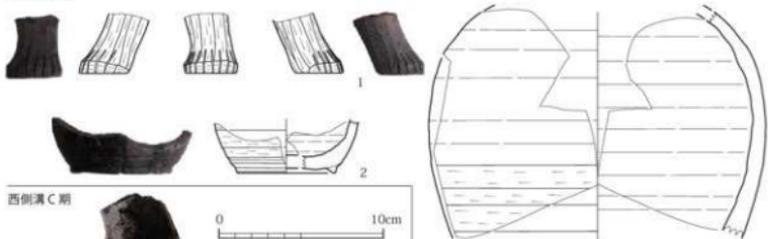
C期は上幅0.9～1.9m・下幅0.5～0.7mで、深さは0.5mである。堆積土は褐灰色などの砂質シルトで、下層に灰白色火山灰が認められる。B期は上幅1.4～2.2m、下幅0.4～0.5mで、深さは0.3mである。堆積土にはにぶい黄褐色やオリーブ黒色などのシルトが砂質シルトである。A期は上幅がB期に壊されて不明である。下幅0.2～0.7m、深さ0.4mで、堆積土にはにぶい黄褐色や灰黄褐色の砂質シルトなどである。

〔出土遺物〕(図版54・55)

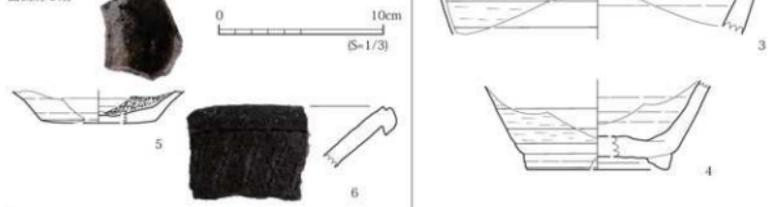
西側溝C期堆積土から土師器環・甕、須恵器環(5)・甕(6)、赤焼土器環・高台環、丸瓦・平瓦  
 B期堆積土から土師器環・甕、須恵器環・甕、赤焼土器環・高台環、丸瓦・平瓦、A期堆積土から土師器環・甕、須恵器環・高台環・獣脚(1)・小型壺(2)・長頸壺(3・4)・壺・甕・転用砥、堆積土から須恵器長頸壺(7)・甕(8)、転用砥(9)、灰釉陶器碗(10)などが出土した。

B・C期の土師器や須恵器の環類は回転糸切りが主体である。須恵器壺類は大戸産を含み、獣脚は割れ口が水平であることから獣脚硯とみられる。また、B期路面構築土確認面からは、須恵器環(11・12)などが出土した。両者の底面には墨書が認められ、12は「高屋」と記されている。このほか、道路上に堆積した基本層位第Ⅱ層の須恵器高台環(13)・壺蓋(14)・転用砥(15)、灰釉陶器平瓶(16)、砥石(17～19)、丸瓦(20)を図示した。須恵器高台環の底面には刻書があり、壺蓋は大戸産である。丸瓦は多賀城第Ⅱ期のⅡB類で、凸面に刻印「田」が認められる。

西例溝 A 期



西例溝 C 期



西例溝堆積土



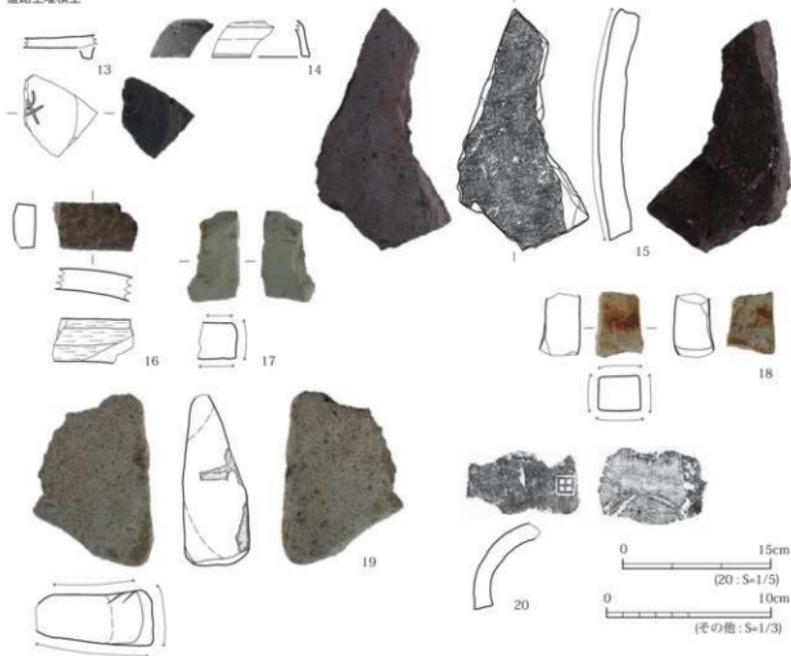
B 期路面構築土確認図

No.	器種	層位	図型	口径 (cm)	口径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	須恵部・煎器	24・25 層	外面：ヘラケズリ 底面：ヘラケズリ→ナデ	—	—	—	一部	煎器碗？	3233
2	須恵部・小形皿	24・25 層	外面：〔体下〕回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ 底面：回転糸切り→高付取付→ナデ	—	5.8	—	一部	大戸産	3234
3	須恵部・長形皿	24・25 層	外面：ロクロナデ→〔体下〕回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部	大戸産。外面に自然釉	3236
4	須恵部・長形皿	24・25 層	外面：ロクロナデ→〔体下〕回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	—	(8.4)	—	一部	大戸産。外面に自然釉。 K&I2 底不明	3220
5	須恵部・杯	8 層	内外面：ロクロナデ 底面：切離し不明→ナデ	—	(7.0)	—	一部	内面に漆付残。漆は薄く、パレット として使用か	3238
6	須恵部・椀	6・7 層	外面：ロクロナデ→細粒点文 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部	—	3239
7	須恵部・長形皿	層	内外面：ロクロナデ 内面：煎器碗合に付ナデ・オサエ	(7.8)	—	—	一部	大戸産	3240
8	須恵部・耳環	層	外面：平行タキ→ナデ 内面：ヘラナデ→ハケメ	—	—	—	一部	大戸産	3241
9	須恵部・転用碗	層	—	—	—	—	完形	裏を転用。長さ：6.7cm 幅：4.2cm 厚さ：0.8cm	3246
10	須恵部・杯	層	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→筋輪 内面：ロクロナデ →筋輪 底面：切離し不明→回転ヘラケズリ→高付取付→ナデ	—	(6.4)	—	一部	築段産。X14 築式期	3247
11	須恵部・杯	須恵部 確認図	内外面：ロクロナデ 底面：回転糸切り	—	—	—	一部	底面に墨書「□」	3258
12	須恵部・杯	須恵部 確認図	内外面：ロクロナデ 底面：回転糸切り→ナデ	—	(5.6)	—	一部	底面に墨書「高尾」	3259

層位は断面 50 に基づく

図版 54 SX400 南北道路跡 (西 5 道路) 出土遺物 1

道路上堆積土



No.	器物種	層位	図説	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	残存	備考	登録
13	須恵瓦・高台瓦	Ⅱ期	内外面: ロケロナデ 底面: 切離し不明→手持ちヘラケズリ	—	—	—	—	一部	底面に切離し(口)	3252
14	須恵瓦・高台瓦	Ⅱ期	内外面: ロケロナデ	—	—	—	—	一部	大戸産	3248
15	須恵瓦・転用瓦	Ⅱ期		14.8	8.0	1.6	—	完形	裏を転用	3331
16	須恵陶器・平盤	Ⅱ期	[把手: 手持ちヘラケズリ]	—	—	—	—	一部	把手のみ	3250
17	石製品・砥石	Ⅱ期		5.4	2.5	2.1	51.7	2/3		3255
18	石製品・砥石	Ⅱ期		3.5	2.6	2.0	38.3	2/3		3257
19	石製品・砥石	Ⅱ期		10.6	6.4	3.3	296.5	2/3		3256
20	瓦・丸瓦	Ⅱ期	凸面: ナデ 凹面: 布目 端部: 手持ちヘラケズリ 粘土結核まき作り	—	—	1.7	—	一部	多数検分類: 丸瓦ⅡB製、 凸面に類似「品」	3262

図版55 SX400南北道路跡 (西5道路) 出土遺物2

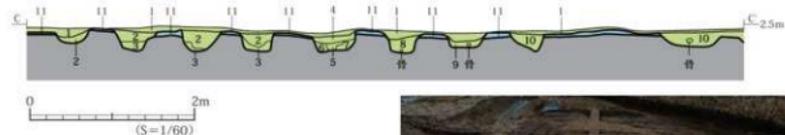
**【SX11794波板状凹凸凸面】** (図版52・56)

M区北部のSX400路面で、並行する15条の小溝跡を確認した。小溝群はB期路面構築土の底面で確認しており、A期構築土より新しく、C期西側溝に一部壊される。また、B期の東西側溝間に取まることから、B期道路の路盤構築に伴うものと考えられるが、小溝の方向は道路の方向と一致していない。

〔規模・堆積土〕小溝は長軸0.7～3.7m、短軸0.4～0.9m、深さは0.3m前後で、断面は逆台形や箱形である。埋土は黄灰色・浅黄色などの砂質シルトやシルトである。小溝の多くは、下層に馬歯片を含む。

SX11794 波板状凸凹面

平面図：図版 52



SX11794 断面 (東から)



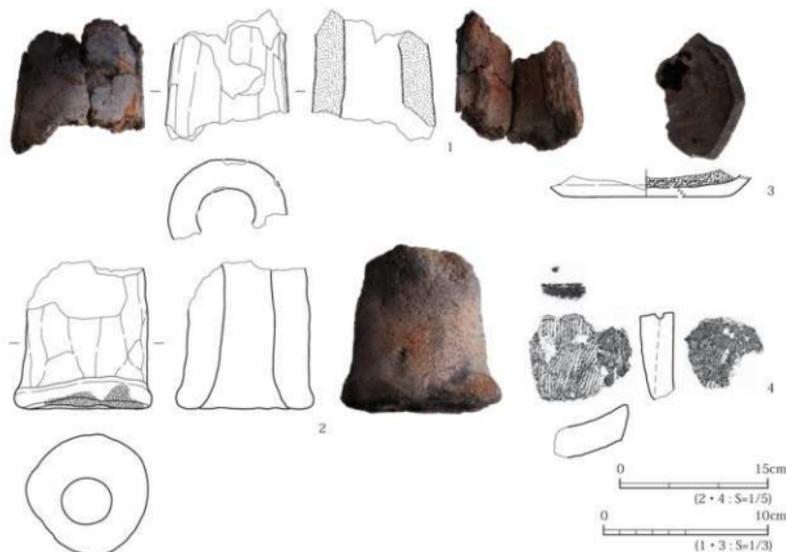
SX11794 断面状況 (南から)

遺構名	層位	土色	土物	遺入物など	備考
SX11794 波板状凸凹面	1	黄灰色 (2.5Y5/1)	砂質シルト	しまり強、細鉄含む	硬化面
	2	褐灰色 (7.5YR5/1)	シルト		
	3	灰色 (N5/7)	シルト	粘性強	
	4	褐灰色 (10YR6/1)	シルト		
	5	黄灰色 (2.5Y5/1)	砂質シルト	地山ブロック含む	
	6	浅黄色 (2.5Y7/4)	砂質シルト	地山ブロック含む	
	7	黄灰色 (2.5Y5/1)	砂質シルト	地山ブロック含む	
	8	灰黄色 (2.5Y6/2)	シルト	地山ブロック含む、塵屑含む	
	9	褐灰色 (2.5Y5/2)	シルト		
	10	黄灰色 (2.5Y6/1)	シルト	塵屑含む	
	踏面構築土 A 期	11	褐灰色 (10YR6/1)	砂質シルト	珪結良

図版56 SX11794波板状凸凹面

〔出土遺物〕(図版 57)

埋土から須恵器坏 (3)、軒平瓦 (4)、羽口 (1・2)、馬歯などが出土した。須恵器坏は切り離しが不明で手持ちヘラケズリである。内面に漆が付着する。軒平瓦は多賀城第Ⅱ期の単弧文 (多賀城分類640) である。羽口 (2) の吸気部には鉄が溶着している。



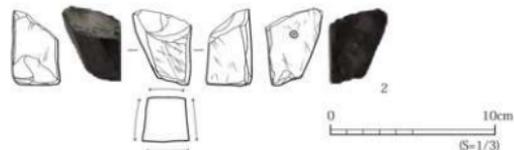
No.	器種	層位	図型	口徑 (cm)	底徑 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	土製品・埴口	埋	内外面：手持ちヘラケズリ→ナデ・オサエ	—	—	—	一部	孔径：3.7cm	3218
2	土製品・埴口	埋	内外面：ナデ・オサエ 取柄部：面取り・彫痕	—	—	—	一部	取柄部外径：8.4 取柄部内径：5.6cm 表面積	3217
3	須恵系・環	埋	内外面：ロクロナデ 底部：手持ちヘラケズリ	—	(10.2)	—	一部	内面に捺付痕	3223
4	瓦・軒平瓦	埋	凸面：縦位置タタキ目 凹面：布目→ナデ 断面：手持ちヘラケズリ	—	—	—	一部	多賀城B類、華風文640、厚さ：2.9cm	3216

図版57 SX11794波板状凸凹面出土遺物

南側溝埋積土



北側溝埋積土



No.	器種	層位	図型	口徑 (cm)	底徑 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	土製品・土ヒナユア	44～48 層	内外面：指オサエ	3.3	3.2	2.2	完形	坪形	3357
2	石製品・砥石	49～52 層	—	—	—	—	—	へら書き「〇」。石材：陶所出。長さ：(45.3cm) 幅：27.3cm 厚さ：26.1cm 重量：42.5 g	3397

部位は埋積りに基づく

図版58 SX12100東西道路跡出土遺物

## 6. その他の道路跡

【SX12100東西道路跡】(図版8～11・336・349・付図)

北2道路(SX12221)と重複して、これに先行する2条の溝跡から考えられた道路跡である。東西36.6m分を確認した。2条の溝跡はA区と多賀城市教委第15・21次調査区でも確認されており、東へ延びる。北側溝はSD12208、南側溝はSD12203で、それぞれSD10とSD111・124・215・324が一

連の遺構と考えられる。方向は路心間で見るとE-5°-Nで、新しいSX12221よりやや北に傾く。側溝の改修や路面は確認できなかった。

〔重複〕(新) SK12193・12194、SX11900・12221

〔北側溝〕36.6m分を確認した。規模は上幅1.5～1.8m、下幅0.6～0.8m、深さは0.4mで、断面は椀形である。堆積土は地山ブロックを含む暗褐色・褐色などの砂質シルトである。

〔南側溝〕41.8m分を確認した。規模は上幅1.3～2.3m、下幅0.3～0.5m、深さは0.5mで、断面は椀形である。堆積土は地山ブロックをふくむ暗褐色などの粘土質シルト～砂質シルトである。

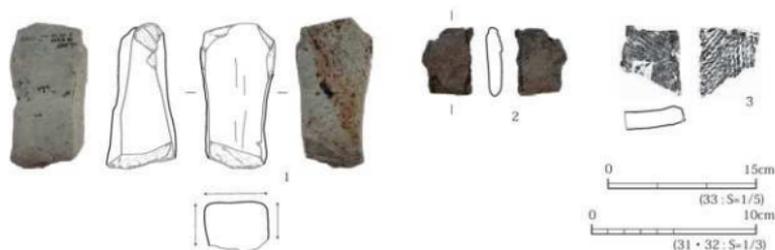
〔出土遺物〕(図版58)

南側溝堆積土からは土師器環・ミニチュア(1)、須恵器環・甕、丸瓦・平瓦などが出土した。北側溝堆積土からは、土師器環・甕、須恵器環・甕、丸瓦・平瓦、砥石(2)などが出土した。須恵器環は切離し不明で、手持ちヘラケズリである。

## 7. 道路上の第Ⅱ層出土遺物

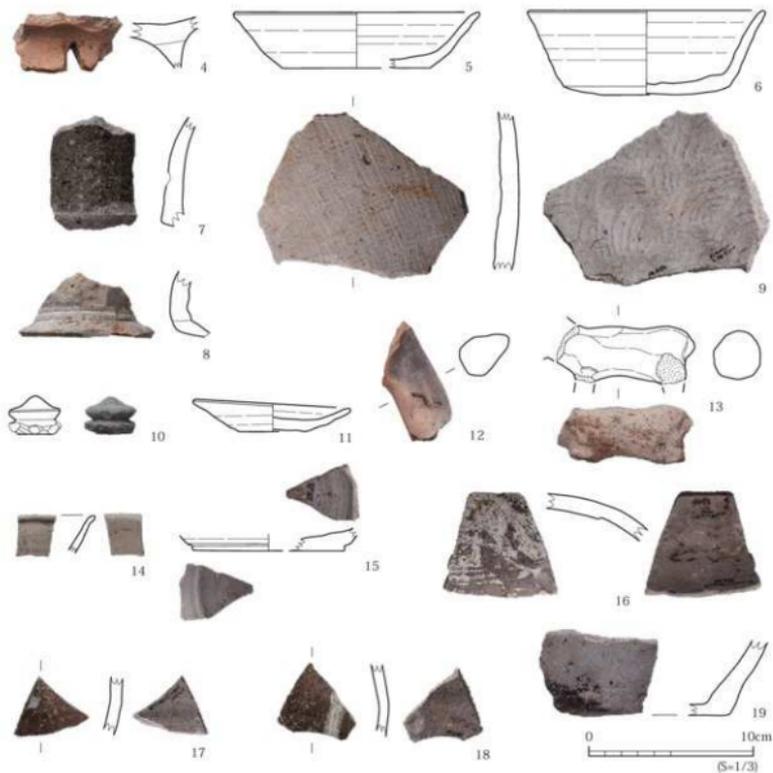
八幡地区で確認した道路跡は、周りの街区より路面高が低く、道路上には基本層位第Ⅱ層が堆積しており、そこから土師器環(21)・高環(4)、須恵器環(5・6・23～25)・高環(22)・蓋(10)・長頸壺(7・8・26)・甕(9)・円面硯(27)・円盤(28・29)、赤焼土器小皿(11)・三足土器(12)、土師質土器小皿(20)、灰軸陶器碗(14)・皿(15)、中世陶器甕(16～19)、軒丸瓦(31・32)・軒平瓦・丸瓦(33)・平瓦(3)、土錘(30)・土馬(13)、砥石(1)、石製模造品(2)などが出土した(図版59～61)。

須恵器は環や長頸壺に大戸産が認められ、蓋はツマミの周囲を打ち欠いて円盤状に仕上げている。中世陶器には渥美産や常滑産が含まれる。土馬は頭部や脚部を欠くが、多賀城周辺では出土例が極めて少なく貴重である。



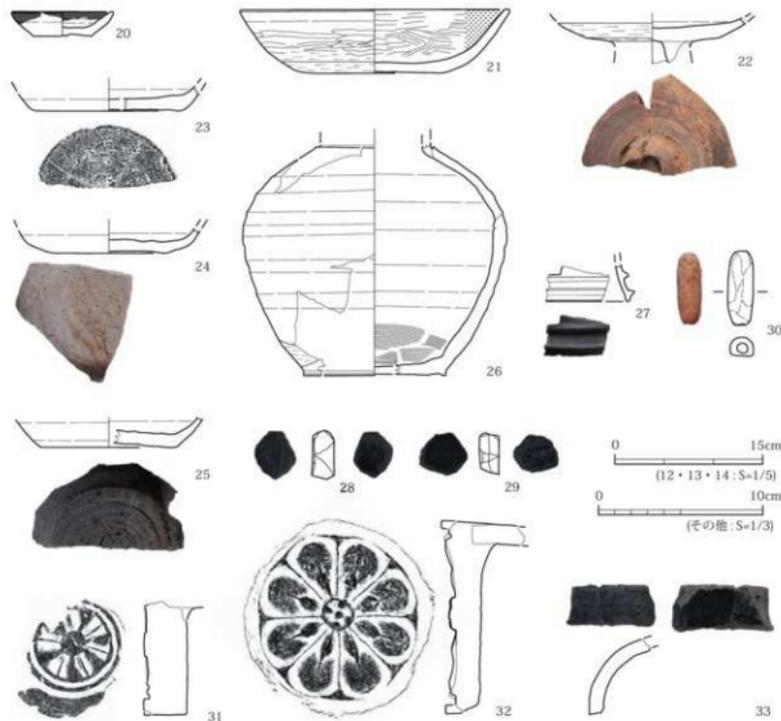
No.	品種	層位	図説	長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	残存	備考	登録
1	石製品・砥石	Ⅱ期		8.3	4.5	4.7		重さ: 199.3 g	5059
2	石製模造品	Ⅱ期		4.2	4.2	0.8		重さ: 15.9 g	5078
3	瓦・平瓦	Ⅱ期	凹面: 布目→ナデ 凸面: 縄タキ目 端部: ヘラケズリ 一枚作付	—	—	1.8	一部	多賀城分組: 平瓦Ⅱ非製、凹面に刻印「丸」	5070

図版59 西4道路・北2a道路上堆積層出土遺物1



No.	品種	層位	図解	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	現存	備考	登録
4	土師器・高杯	Ⅱ期	外面：ヘラケズリ 内面：[F] ヘラミダキ→黒色処理・[圈] ヘラケズリ	—	—	—	一部		5063
5	須恵器・杯	Ⅱ期	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	(15.0)	(9.0)	3.9	1/4	大戸倉	5068
6	須恵器・杯	Ⅱ期	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	(14.6)	(10.0)	5.2	完形		5072
7	須恵器・長楕円	Ⅱ期	内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部		5056
8	須恵器・長楕円	Ⅱ期	内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部	大戸倉	5057
9	須恵器・器	Ⅱ期	外面：平行タタキ 内面：同心円アケ具	—	—	—	一部		5080
10	須恵器・器	Ⅱ期		—	—	—	一部	腹立珠ツマミ（径3.1cm） ツマミを壊して砥粒を打ち欠く	5079
11	赤絵土器・小皿	Ⅱ期	内面：ロクロナデ 底部：回転糸切り（磨し）	9.7	4.0	2	完形		5073
12	赤絵土器・二足土器	Ⅱ期	外面：ヘラケズリ	—	—	—	一部		5076
13	土師器・土皿	Ⅱ期	外面：指ナデ	—	—	—	一部	胴部のみ現存。長さ：(8.6cm) 幅：3.3cm	5065
14	灰釉陶器・埴	Ⅱ期	内外面：ロクロナデ→擦輪	—	—	—	一部	脇段倉	5074
15	灰釉陶器・器	Ⅱ期	内面：ロクロナデ→擦輪 底部：回転ヘラケズリ	—	(9.2)	—	1/6	ベタ島村	5075
16	陶器・器	Ⅱ期	内外面：ロクロナデ→擦輪	—	—	—	一部	瀬尻倉	5060
17	陶器・器	Ⅱ期	内外面：ナデ→擦輪	—	—	—	一部	瀬尻倉	5061
18	陶器・器	Ⅱ期	内外面：ロクロナデ→擦輪	—	—	—	一部	笠掛倉	5067
19	陶器・器	Ⅱ期	内外面：ナデ 底部：ヘラケズリ	—	—	—	一部	中世	5066

図版60 西4道路・北2a道路上堆積層出土遺物2



No.	品種	層位	調整	口径(cm)	口径(cm)	高さ(cm)	残存	備考	登録
20	土師瓦土器・小皿	Ⅱ層	内外面：ロクロナデ 底面：副輪糸切り	(6.2)	3.6	1.5	1/4	油煙付着	3490
21	土師器・杯	Ⅱ層	外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ→ヘタミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底面：切離し不明→副輪ヘラケズリ	(16.4)	(8.0)	3.9	1/2		3491
22	須恵器・高杯	Ⅱ層	外面：ロクロナデ→副輪ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	—	(4.0)	—	一部		3494
23	須恵器・杯	Ⅱ層	内外面：ロクロナデ 底面：ヘラ切り→ナデ	—	(8.8)	—	1/3	底面にヘラ書き「×」	3472
24	須恵器・杯	Ⅱ層	内外面：ロクロナデ 底面：副輪糸切り→ナデ	—	(7.0)	—	1/3	底面にヘラ書き「×」	3474
25	須恵器・杯	Ⅱ層	内外面：ロクロナデ 底面：ヘラ切り→ナデ	—	(8.2)	—	1/4	底面にヘラ書き「×」	3365
26	須恵器・長瀬帯	Ⅱ層	外面：ロクロナデ→(体下)手持ちヘラケズリ、高台つまみ出し 内面：ロクロナデ→ナデ	—	(8.6)	—	1/3	二段接合	3417
27	須恵器・内面取	Ⅱ層	内外面：ロクロナデ スカシ：方形	—	—	—	一部	断面部	3501
28	須恵器・円盤	Ⅱ層		—	—	—	—	裏を転用、長さ：3.3cm 幅：2.2cm 厚さ：1.4cm	3369
29	須恵器・円盤	Ⅱ層		—	—	—	—	裏を転用、長さ：2.3cm 幅：2.7cm 厚さ：1.3cm	3370
30	土製品・土鍋	Ⅱ層	外面：ナデ	—	—	—	完形	長さ：4.5cm 幅：1.5cm 口径：0.7cm	3476
31	瓦・軒丸瓦	Ⅱ層	側面：平行タタキ目 凹面：ナデ	—	—	—	一部	多角域1個、重竹縄文112、粘土に海綿状の凹凸、中間部：2.5cm 厚さ：3.8cm	3477
32	瓦・軒丸瓦	Ⅱ層	側面：ナデ 凹面：布目・手持ちヘラケズリ→ナデ	(10.0)	—	—	一部	多角域1個、重竹縄文120、凹面(10.0cm)・中間部：3.1cm 厚さ：2.4cm	3488
33	瓦・丸瓦	Ⅱ層	凸面：ロクロナデ 凹面：布目 端面：ヘラケズリ 取土層付き	—	—	—	一部	多角域1個：丸瓦目取盤、凸面に朝田「田」、厚さ：1.4cm	3422

図版61 SX12221東西道路跡(北2道路)上堆積層出土遺物

## 第V章 D 区



D区全景（北から）



古墳時代後期の河川 (SD2050B) に形成された貝層



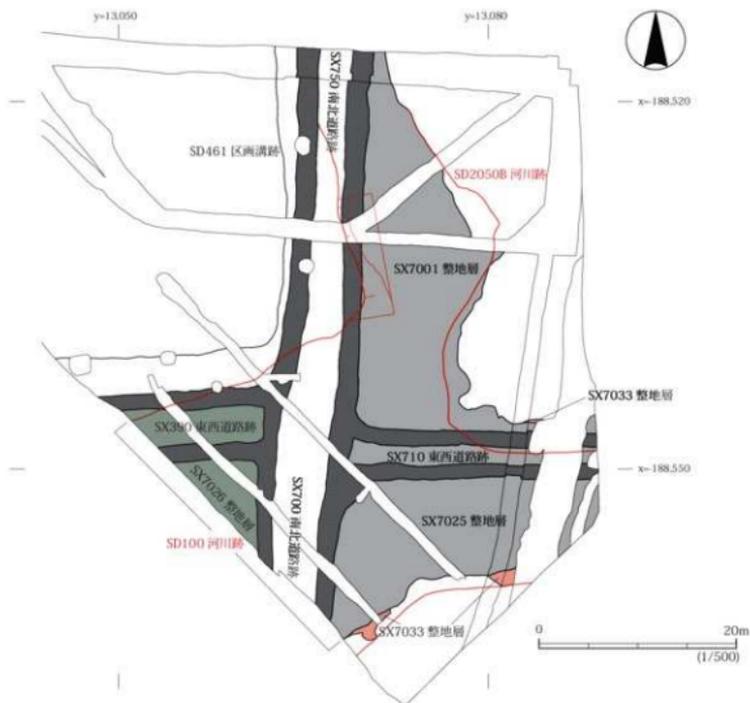
D区では道路跡3条、区画溝跡1条、材木堀跡2条、掘立柱堀跡1条、溝跡41条、掘立柱建物跡29棟、竪穴住居跡40棟、竪穴建物跡1棟、井戸跡5基、土坑50基、畑跡2面、整地層4面、河川跡4条などを確認した（図版64）。本区は橋脚PA2・PA3部分のみが本発掘調査の対象であり、他は遺構確認にとどめ、必要に応じて断ち割りを行っている。なお、個別記載を行った遺構の説明で「重複」の（古）・（新）は、記述した遺構に対する新旧関係を示している。

## 1. 整地層

SD100・SD2050B河川跡の上で4面確認した。SX7001整地層は北3西4区、SX7025・SX7033整地層は北2a西4区、SX7026整地層は北2a西5区に位置する。

【SX7001整地層】（図版37・62～64・95～97）

SX750南北道路跡（西4道路）の東側、SX710東西道路跡（北2a道路）の北側で確認した整地層である。SX710南側のSX7025整地層とは、層相が共通し、ともにSX710道路跡より古いことから、同



図版62 整地層・道路跡と河川跡の関係

時期である。また、両整地層はSD100・2050B河川跡の上に広がることから、SX710の施工に伴い埋没した河川上面の土地利用を目的としたと考えられる。さらに、両層はSX700の道路下に伸びないことから、造成の際に西4道路は存在していたと考えられる。

〔重複〕(古) SD100・2050A・B、SI824・839、SX500・7033

(新) SB7035・7040・7156・7160、SD730・731・732・734・739・741・743・776・795・802・838・7007・7082、SK779、SF809、SX750・7010

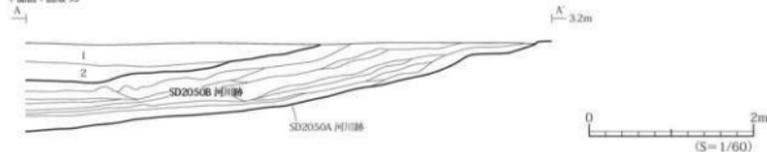
〔規模・埋土〕東西24m以上、南北38m以上の範囲で認められる。層厚は最も厚いところで0.5mほどあり、SD2050B河川跡の中央側となるSX750付近が最も厚く、SD2050Bの河岸側となる東へ向けて薄くなる。埋土は1層が地山ブロックや炭化物を含む黒褐色シルトで、地山ブロックが水平方向に薄く何層にも重なることから、施工時に何度も葎き締めが行われたと考えられる。

〔出土遺物〕(図版65～71)

埋土から土師器ミニチュア(1)・坏(2・4～11・14・15)・埴(12)・甕、須恵器高台坏(17)・坏(18～26)・双耳坏(27)・長頸壺(28～31・33～41)・甕(32)・鉢(42)・甕(43)・円面硯(44)・横瓶(45)、灰軸陶器埴(46～48)、赤焼土器坏(49)・高台鉢(50)、土製品土鉢(51・52)・支脚(54)・羽巾(55)・円盤(16)、砥石(58・60)、軒丸瓦(61・62)・丸瓦(63)、瓦転用砥(64)、鉄鍔(65)、確認面からは出土した土師器ミニチュア(3)・小型甕(13)、赤焼土器坏、灰軸陶器埴(46)、土製品紡錘車(53)、石製品砥石(56・57・59)などが出土した。

土師器坏は非ロクロ調整とロクロ調整があり、後者に回転糸切りがある。須恵器坏は回転糸切りが

平面図：図版 95



層位	土色	土性	遺人物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	炭化物含む	人為堆積土
2	黒褐色(10YR3/1)	シルト	炭化物含む。地山シルトが水平方向に何層も重なる	



SX7001、SD2050B 河川跡断面(南東から)

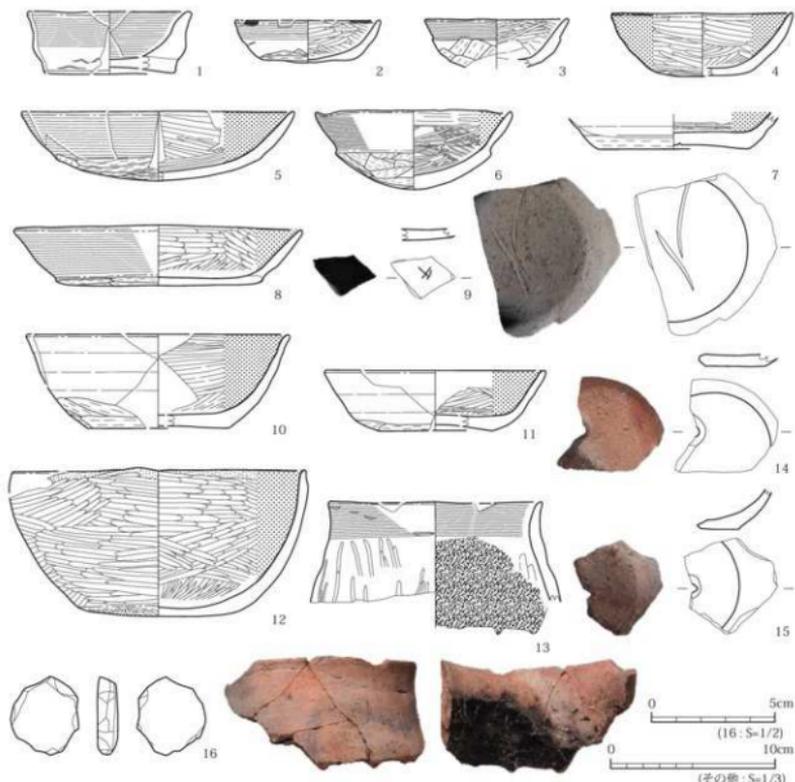


SX7001 重圓文軒丸瓦出土状況(東から) 瓦当部背面

図版63 SX7001整地層

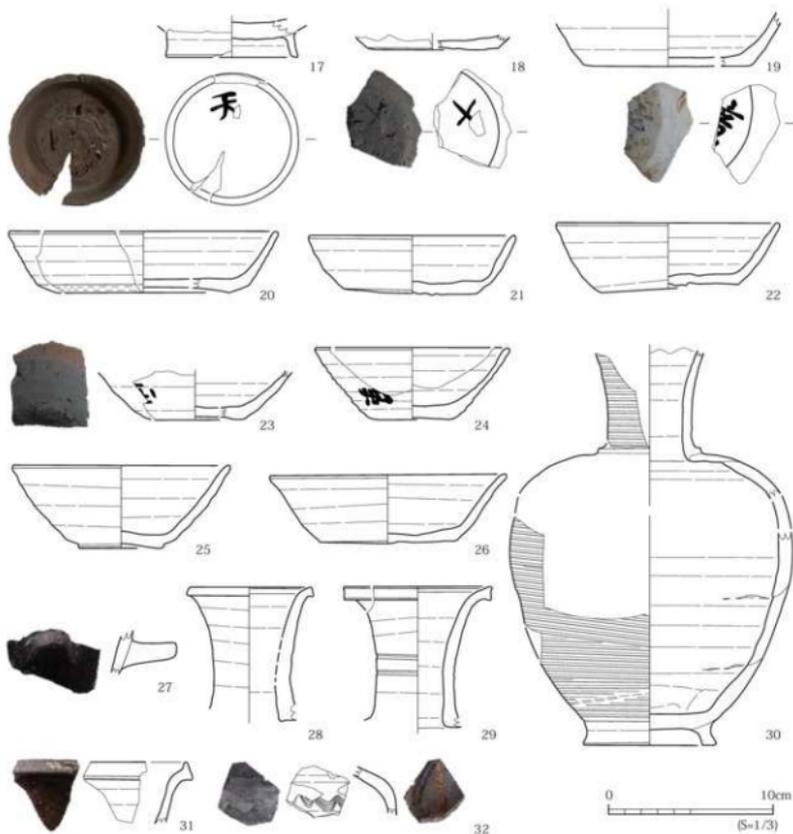






No.	器種	部位	図型	口径 (cm)	底径 (cm)	胴高 (cm)	残存	備考	登録
1	土師器・ミニチュア	埋	内外面: ヨコナデ 底部: ナデ	(9.8)	(7.6)	3.8	1/4	坏形	1354
2	土師器・坏	埋	外面: ヨコナデ→ヘラケズリ 内面: ヘラミガキ→黒色処理	(8.6)	—	2.5	1/3	口縁部に油埋付首	1353
3	土師器・ミニチュア	確認面	外面: ヨコナデ→ヘラケズリ 内面: ナデ→ヘラミガキ	(8.6)	—	—	1/3		1406
4	土師器・坏	埋	内外面: ヘラミガキ→黒色処理	(10.8)	—	3.8	1/4		1392
5	土師器・坏	埋	外面: ヨコナデ→ヘラケズリ 内面: ヘラミガキ→黒色処理	(16.4)	—	4.2	1/4		1352
6	土師器・坏	底面	外面: ヨコナデ・ハタケ→ヘラケズリ 内面: ヘラミガキ→黒色処理	12.0	—	4.8	2/3		5134
7	土師器・坏	埋	外面: ロクロナデ 内面: ヘラミガキ→黒色処理 底部: 静止糸切り→回転ヘラケズリ	—	(9.0)	—	1/4	底部に刺貫「八」	1356
8	土師器・坏	埋	外面: ヨコナデ→ヘラケズリ 内面: ヘラミガキ→黒色処理	17.6	(12.0)	3.7	3/4		5133
9	土師器・坏	埋	内外面: ヘラミガキ→黒色処理	—	—	—	一部	底部に刺貫「十」	1358
10	土師器・坏	埋	外面: ロクロナデ 内面: ヘラミガキ→黒色処理 底部: 静止糸切り→静止ヘラケズリ	(15.8)	(8.6)	5.7	1/4		1355
11	土師器・坏	埋	外面: ロクロナデ 内面: ヘラミガキ→黒色処理 底部: 静止糸切り→静止ヘラケズリ	(13.2)	(7.0)	3.6	1/4	散土に海面付針倉む	1357
12	土師器・碗	埋	外面: ヘラミガキ 内面: ヘラミガキ→黒色処理	18.2	10.0	9.2	3/4		5135
13	土師器・小平盤	確認面	外面: ヨコナデ→ヘラミガキ 内面: ヨコナデ	(12.8)	—	—	1/6	内面に漆付首	5140
14	土師器・坏	埋	外面: 底部回転ケズリ 内面: ヘラミガキ 底部: 穿孔 (外→内)	—	—	—	1/6	土師器坏、底部穿孔	5128
15	土師器・坏	埋	外面: ロクロナデ 内面: ロクロナデ→黒色処理 底部: 回転糸切り→穿孔 (内→外)	—	—	—	1/6	底部穿孔	5127
16	土師器・内輪	埋					—	坏全転用、長さ: 3.2cm 幅: 2.7cm 厚さ: 0.7cm	5126

図版65 SX7001整地層出土遺物 1



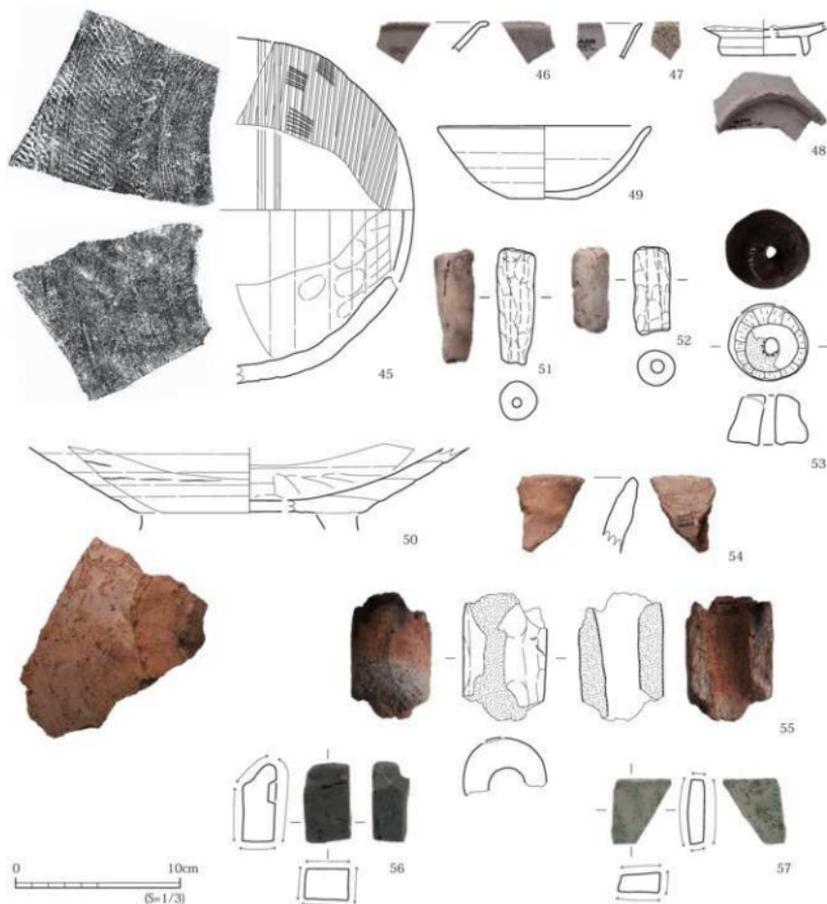
No.	器種	層位	説明	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
17	須恵系・高台杯	埋	内外面：ロクロナデ 底面：切り磨し不明→羽織ヘラケズリ→高台転回→ナデ	—	7.8	—	1/4	底面に墨書「天」	1370
18	須恵系・杯	埋	内外面：ロクロナデ 底面：ヘラ切り→ナデ	—	(8.0)	—	一部	底面に墨書「口」、胎土に海陽骨針を含む	1373
19	須恵系・杯	埋	内外面：ロクロナデ 底面：ヘラ切り→ナデ	—	(10.2)	—	一部	底面に墨書「口」、胎土に海陽骨針を含む	1372
20	須恵系・杯	埋	内外面：ロクロナデ 底面：切り磨し不明→羽織ヘラケズリ	(16.2)	(10.6)	3.7	1/4	底面に墨書「口」	1369
21	須恵系・杯	埋	内外面：ロクロナデ 底面：羽織糸切り	(12.4)	8.2	3.6	1/2	胎土に海陽骨針少し含む	1362
22	須恵系・杯	埋	内外面：ロクロナデ 底面：羽織糸切り	(13.4)	8.3	4.2	1/3		1363
23	須恵系・杯	埋	内外面：ロクロナデ 底面：羽織糸切り	—	(6.0)	—	1/4	体部に墨書「口」	1371
24	須恵系・杯	埋	内外面：ロクロナデ 底面：羽織糸切り	(11.6)	5	4.4	1/4	体部に墨書「長」(縦位)	1391
25	須恵系・杯	埋	内外面：ロクロナデ 底面：羽織糸切り	(13.0)	(5.2)	5	1/4		1389
26	須恵系・杯	埋	内外面：ロクロナデ 底面：ヘラ切り→ナデ	14.2	8.4	4.2	変形		1364
27	須恵系・短口杯	埋	外面：ケズリ 内面：ロクロロ	—	2.1	2.7	一部		5125
28	須恵系・長瀬帯	埋	内外面：ロクロナデ	7.4	—	—	一部		1366
29	須恵系・長瀬帯	埋	内外面：ロクロナデ→ <sup>2</sup> 重洗擦	(8.8)	—	—	一部		1367
30	須恵系・長瀬帯	埋	外面：ロクロナデ→カキメ 内面：ロクロナデ→ナデ 底面：ナデ→高台転回	—	(7.8)	—	1/4	胴部リング状凸部、3段接合	1368
31	須恵系・長瀬帯	埋	内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部	胎投産、内外に自然熱	1376
32	須恵系・盥	埋	外面：ロクロナデ→磨蝕痕状文 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部		1397

図版66 SX7001整地層出土遺物 2



No.	器種	層位	図案	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
33	須恵器・長脚古	埋	内外面：ロクロナデ・ナデ	—	—	—	一部	大口産	1309
34	須恵器・長脚古	埋	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ 底部：切り履し不明→回転ヘラケズリ→高台取付→ナデ	—	(13.2)	—	一部	大口産	1394
35	須恵器・長脚古	埋	内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部	大口産	5124
36	須恵器・長脚古	埋	外面：ロクロナデ→カキメ→回転ヘラケズリ→ナデ 内面：ロクロナデ→ハケメ	—	(7.7)	—	1/5		1386
37	須恵器・長脚古	埋	外面：平行タタキ→回転ヘラケズリ 内面：同心円アタリ→ナデ 底部：切り履し不明→回転ヘラケズリ→高台取付→ナデ	—	(10.0)	—	一部		1403
38	須恵器・長脚古	埋	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ 底部：切り履し不明→回転ヘラケズリ→高台取付→ナデ	—	(8.6)	—	一部	築陵産	1395
39	須恵器・長脚古	埋	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ 底部：切り履し不明→回転ヘラケズリ→高台取付→ナデ	—	(8.0)	—	一部	大口産 体下部：坪形発付の痕跡	1393
40	須恵器・長脚古	埋	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ 底部：切り履し不明→回転ヘラケズリ→高台取付→ナデ	—	(8.8)	—	一部	内面に漆付着（漆器産）	1361
41	須恵器・長脚古	埋	内外面：ロクロナデ 底部：回転系切り	—	(4.4)	—	一部	器G	1396
42	須恵器・鉢	埋	外面：平行タタキ→ロクロナデ→ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	(39.6)	—	—	1/5		1365
43	須恵器・鉢	埋	外面：ロクロナデ→串付突帯文・縦縞刺点文 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部		1402
44	須恵器・内輪取	埋	内外面：ロクロナデ→形式なし	—	—	—	一部	外面にヘラ書き（×）キ	1377

図版67 SX7001整地層出土遺物3



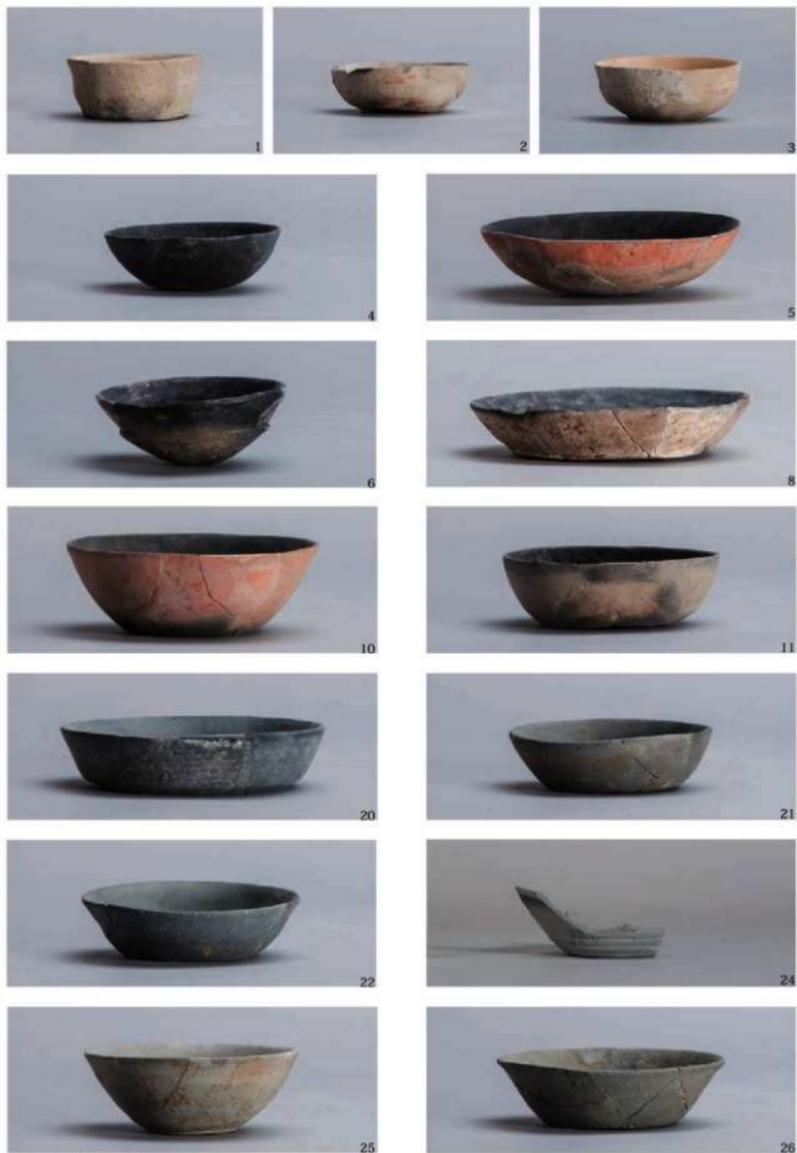
No.	品種	層位	説明	口径(cm)	直径(cm)	高さ(cm)	残存	備考	登録
45	織物部・横風	埋	外面：平行タタキ→巾織閉気→カキメー縦糸状沈殿 内面：アタタキ→ロクロナデ・シボリ→巾織閉気	—	—	—	1/5		1385
46	灰釉陶器・埴	確認部	内外面：ロクロナデ→擦輪	—	—	—	一部	埴投産	5141
47	灰釉陶器・埴	埋	内外面：ロクロナデ→擦輪	—	—	—	一部	埴投産	5138
48	灰釉陶器・埴	埋	外面：ロクロナデ→巾織へラケズリ 内面：ロクロナデ 底面：回転へラケズリ→高台製付→ナデ→擦輪	—	(5.1)	—	1/4	埴投産。K90 Ⅷ式期	5137
49	赤絵土器・埴	埋	内外：ロクロナデ 底面：回転糸切り(磨し)	13.0	4.2	4.4	完形		5136
50	赤絵土器・高台鉢	埋	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ・ナデ 底面：回転糸切り→高台製付→ナデ	—	—	—	—	粘土に海面骨針を含む	1398
51	土製品・土鉢	埋	外面：ナデ	—	—	—	完形	長さ：7.1cm・幅：2.3cm・口径：0.4～1.1cm	1383
52	土製品・土鉢	埋	外面：ナデ	—	—	—	完形	長さ：5.4cm・幅：2.3cm・口径：0.8～1.0cm	1384
53	土製品・刺繍車	確認部	外面：ナデ・へラケズリ	—	—	3.0	完形	粘土に海面骨針を含む。上径：3.8cm・下径：5.3cm・口径：0.9cm	1408
54	土製品・文部	埋	外面：ナデ 内面：ナデ	—	—	—	一部		5131
55	土製品・口付	埋	外面：ナデ・オサエ 孔：輪木製	—	—	—	一部	口径：2.3cm	1405
56	石製品・硯石	確認部		—	—	—	—	径：51a・幅：28a・厚：12a・厚：42g	1409
57	石製品・硯石	確認部		—	—	—	—	径：42a・幅：33a・厚：11a・厚：15g	1411

図版68 SX7001整地層出土遺物 4



No.	品種	層位	図型	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	残存	備考	登録
58	石製品・砥石	埋		5.4	3.5	3.2	—	重さ: 66.2 g	1380
59	石製品・砥石	確認層		10.6	5.7	2.3	—	重さ: 1000.0 g	1410
60	石製品・砥石	埋		5.8	5.6	1.1	—	重さ: 46.0 g	1381
61	瓦・軒丸瓦	埋		—	—	2.3	1/3	多賀城B区, 遺跡文241, 直径: 16.8cm	1378
62	瓦・軒丸瓦	埋		—	—	2.3	一部	多賀城B区, 遺跡文241	1379
63	瓦・丸瓦	埋	凹面: 布目→ナデ 凸面: ロクロナデ 端部: ヘラケズリ 縁巻き作り	—	—	1.8	1/3	多賀城分類: 丸瓦1A類, 凹面にヘラ書き「□」。胎土に海綿骨針を含む	1387
64	瓦・転用瓦	埋		4.6	7.1	2.1	—	平瓦を転用	1388
65	鉄製品・鏝	埋		(4.3)	—	—	—	厚板: 0.8cm 幅板: 0.4cm	1413

図版69 SX7001整地層出土遺物5

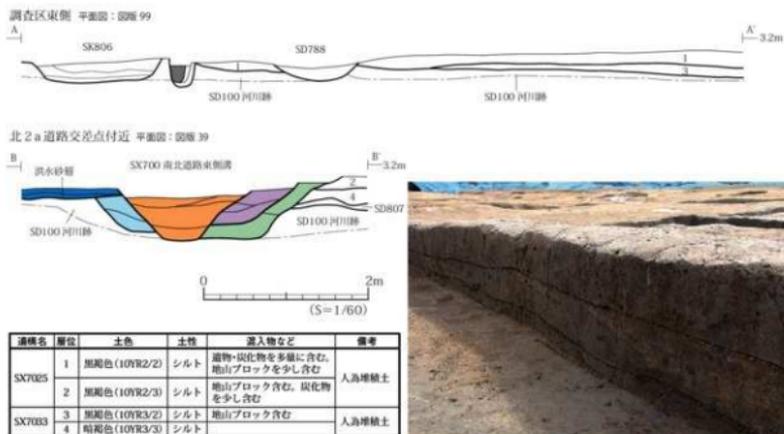


圖版70 SX7001整地層出土遺物 6

主体で、長頸壺には大戸産や猿投産が認められる。灰釉陶器碗は猿投産で、時期がわかるものとしてはK90窯式期がある。軒丸瓦は重圈文で、多賀城第Ⅱ期のものである（多賀城分類241）。丸瓦は多賀城分類IA類で、凹面にへう描きがある。このうち、7の底面に刻書「八」、9の底面に刻書「千」、17の底面に墨書「天」、24の体部に墨書「呉」のほか、18・19・23の底面や体部に墨書、63の凹面にへう書きが認められる。赤焼土器はわずかであり、混入とみられる。なお、非ロクロ調整のミニチュアは、SD100・SD2050B河川跡に由来するものと思われる。



図版71 SX7001整地層出土遺物7



図版72 SX7025・7033整地層

【SX7025 整地層】(図版 19・33・39・62・64・72・99)

SX700 南北道路跡(西 4 道路) 東側溝の東側、SX710 東西道路跡(北 2a 道路)の南側で確認した整地層である。大半が SX7033 整地層と重複するが、両者の間には SX500 が介在することから SX7033 とは別時期である。前述のとおり SX7001 とともに、SX710 の施工に伴う整地層である。また、本整地層は SX700 の道路下に延びないことから、造成の際には西 4 道路は存在していたと考えられる。

〔重複〕(古) SD100・11164、SX500・7033

(新) SB7161・7162、SD731・732・739・788・807・808・814・7007・7016・7018・7019、SF801、SK762・770・830・7024・7034・7070・7133、SX700・710・7013

〔規模・埋土〕東西 25m 以上、南北 20m の範囲で認められる。層厚は最も厚いところで 0.3m あり、SD100 河川跡の中央側となる SX710 付近が最も厚く、南側の SD100 の河岸側となる南へ向けて薄くなる。埋土は炭化物や地山ブロックを含む黒褐色などのシルトで、地山ブロックが水平方向に薄く何層にも重なることから、施工時に何度も敷き締めが行われたと考えられる。

〔出土遺物〕(図版 73)

埋土から土師器環(1-4)・甕、須恵器環(5-7)・長頸壺(8)・甕(9-11)・円面硯(12)、灰軸陶器碗(13)・耳皿(14)、砥石(15)、丸瓦・平瓦などが出土した。土師器は環が非ロクロ調整の無段丸底で、甕にはロクロ調整が認められる。須恵器環にはヘラ切りと手持ちヘラケズリ調整がある。長頸壺は大戸産で、灰軸陶器は猿投産である。このうち、5 の体部に墨書「□」(益か)、10 の肩部に刻書「□」が認められる。

【SX7033 整地層】(図版 19・33・39・62・64・72・97・99)

SX700・SX750 南北道路跡(西 4 道路) 東側溝の東側、SX710 東西道路跡(北 2a 道路)の直下から南側に広がる整地層である。SX7026・7033 は、SD100・2050B 河川跡の上に広がることから、SX500 東西道路跡(北 2a 道路)の施工に伴い埋没した河川上面の土地利用を目的とした整地とみられる。また、本整地層は SX700・SX750 の道路下に延びないことから、造成の際には西 4 道路を意識しており、北 2a 道路の施工と街区の整地は同時期に行われたと考えられる。

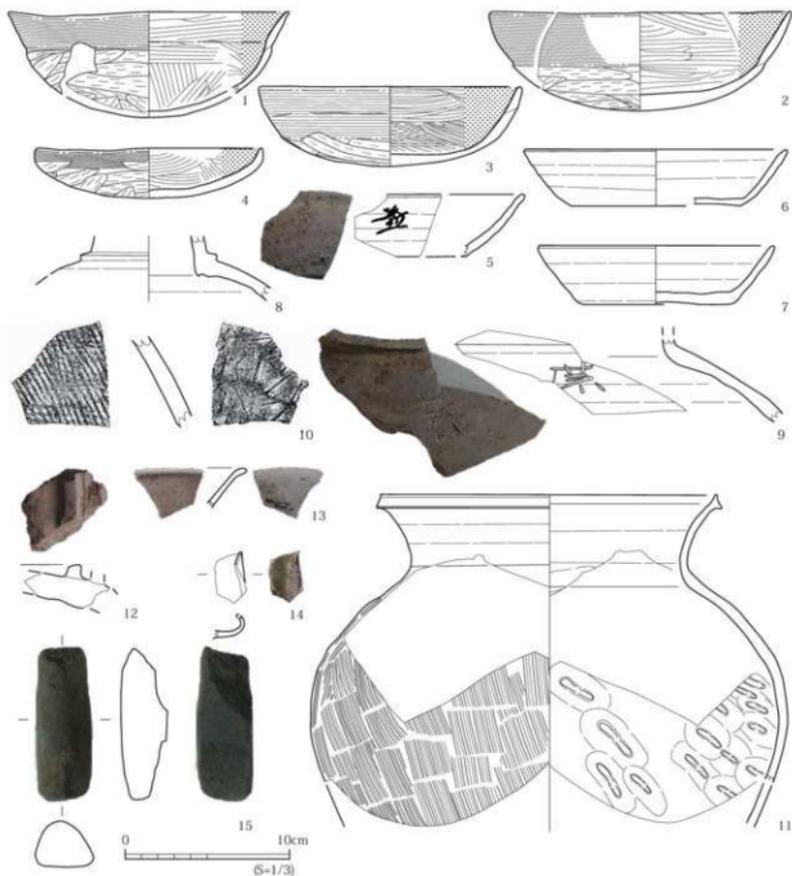
〔重複〕(古) SD100・11164

(新) SB7161・7162、SD731・732・739・788・807・808・814・7007・7016・7018・7019、SF801、SK762・770・830・7024・7034・7070・7133、SX500・700・710・7013

〔規模・埋土〕東西 18m 以上、南北 23m 以上の範囲で認められる。層厚は 0.2m 以上で、SD100 河川跡の中央側となる SX710 付近が最も厚く、SD100 の河岸側となる南へ向けて薄くなる。埋土は炭化物・地山ブロックを含む黒褐色・暗褐色などのシルトである。

〔出土遺物〕(図版 75)

埋土から非ロクロ調整の土師器環・甕、須恵器環・甕、平瓦と転用砥(1)などが出土している。須恵器環はヘラ切りで、平瓦は多賀城分類ⅡB 類で、多賀城第Ⅱ期のものである。



No.	器種	層位	図解	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	土師器・杯	埋	外面:ヨコナデ→ヘラケズリ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	(17.0)	—	5.0	1/3		5179
2	土師器・杯	埋	外面:ヨコナデ→ヘラケズリ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	(18.4)	—	6.0	1/4		5180
3	土師器・杯	埋	外面:ヨコナデ→ヘラケズリ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	(15.8)	—	4.8	1/3		5111
4	土師器・杯	埋	外面:ヨコナデ→ヘラケズリ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	(13.8)	—	3.0	1/2		5182
5	須恵器・杯	埋	内外面:ロケロナデ	—	—	—	—	一部 体部に墨書「□」(番号) (正逆)	1504
6	須恵器・杯	埋	内外面:ロケロナデ 底面:切り履し不明・手付ちヘラケズリ	(15.8)	(10.2)	3.4	1/4	外面に土塊、胎土に海綿骨針を含む	1502
7	須恵器・杯	埋	内外面:ロケロナデ 底面:ヘラ切り→ナデ	(14.2)	9.6	3.6	1/4	胎土に海綿骨針を含む	1503
8	須恵器・片蓋形	埋	内外面:ロケロナデ	—	—	—	—	大戸倉、頸部にリング状凸帯	1246
9	須恵器・中甕	埋	外面:ロケロナデ 内面:ナデ	—	—	—	—	胴部に刺書「□」	1507
10	須恵器・中甕	埋	外面:平行タタキ→方キヌ 内面:放射状アテ具	—	—	—	—		1508
11	須恵器・中甕	埋	外面:ロケロナデ・格子タタキ 内面:ロケロナデ・「□」 底アテ具→ナデ	20.4	—	—	1/3	最大幅:(29.0) cm	1510
12	須恵器・片蓋形	埋	内外面:ロケロナデ→ナデ	—	—	—	—		1512
13	灰釉陶器・瓶	埋	内外面:ロケロナデ→胎輪	—	—	—	—	胎輪草	5183
14	灰釉陶器・耳瓶	埋	内外面:ロケロナデ→オサエ→胎輪	—	—	—	—	胎輪草	5184
15	石製品・硯石	埋		—	—	—	—	長さ:10.0cm 幅:3.7cm 厚さ:3.0cm 重量:182.0g	1249

図版73 SX7025整地層出土遺物1



図版74 SX7025整地層出土遺物2



No.	品種	層位	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	残存	備考	登録
1	須恵器・転用瓦	葬	5.3	4.4	1.0	一部	燃焼転用	1547

図版75 SX7033整地層出土遺物

**【SX7026整地層】**（図版18・76・64）

SX700南北道路跡（西4道路）西側溝の西側、SX390東西道路跡（北2a道路）の直下から南側で確認した整地層である。本整地層はSX700の西側からSD100・SD2050B河川跡上に広がっており、前述のとおり、SX7033とともにSX500東西道路跡（北2a道路）の施工に伴う整地層と考えられる。また、SX700の道路下に延びないことから、造成の際に西4道路は存在していたとみられる。

〔重複〕（古）SD100

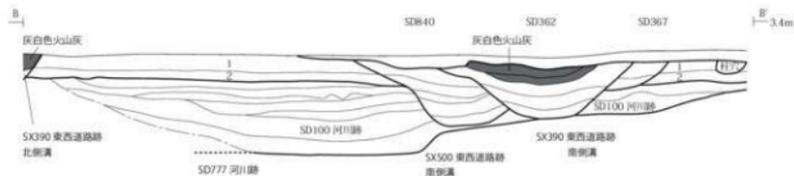
（新）SX390

〔規模・埋土〕東西14m以上、南北15m以上の範囲で認められる。層厚は0.3m、埋土は地山ブロック・黒色粘土や炭化物を含む黒褐色または暗褐色シルトである。

〔出土遺物〕（図版77）

埋土から土師器杯・小型甕（1）、須恵器杯（2・3）・高台杯（4）・コップ形土器（5）・風字硯（6）、砥石（8・9）、丸瓦・平瓦、鉄滓（炉底）（7）などが出土した。土師器杯は非ロクロ調整が主体で、わずかにロクロ調整のものが含まれる。土師器甕は非ロクロ調整である。須恵器杯はヘラ切りで、高台杯は大戸産が認められる。

平面図：図版18



層位	土色	土物	埋入物など	備考
1	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	黒色粘土・地山ブロック・炭化物を含む	
2	暗褐色 (10YR4/1)	シルト		人為埋積土

図版76 SX7026整地層断面図



No.	品種	層位	図説	口径(cm)	胴径(cm)	器底(cm)	保存	備考	図録
1	土師器・小甕	埋	外面：ハケメ・ヨコナデ・ヘラケズリ 内面：ヨコナデ・ヘラナデ	(11.0)	—	—	2/3		1324
2	須恵器・坏	埋	内外面：ロケロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	(14.0)	(10.0)	4.0	1/4	底部にヘラ書き「×」	1345
3	須恵器・坏	埋	内外面：ロケロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	(13.8)	(8.8)	3.4	1/4		1346
4	須恵器・高台坏	埋	内外面：ロケロナデ 底部：ヘラ切り→体ハケズリ→高付焼付→ナデ	(13.4)	8.0	4.7	2/3	大口産	1348
5	須恵器・コップ形土器	埋	内外面：ロケロナデ 底部：切り離し不明→回転ヘラケズリ	(9.0)	(6.7)	6.8	1/4		1347
6	須恵器・菓子皿	埋	内外面：ヘラケズリ	—	—	—	一部		1523
7	鉄滓・半瓦	埋		—	—	—	一部	上面に鉄滓溶着	1530
8	石製品・砥石	埋		—	—	—	—	長さ：5.3cm 幅：2.0cm 厚さ：2.2cm 重さ：28.6g	1525
9	石製品・砥石	埋		—	—	—	—	長さ：6.0cm 幅：3.5cm 厚さ：1.8cm 重さ：48.8g	1526

図版77 SX7026整地層出土遺物

## 2. 区画施設跡

材木堀跡2条、区画溝跡1条を確認した。このうち、SA853とSD7007について説明する。後者の属性は表5に示している。

## 【SA853材木堀跡】(図版95)

調査区北東部で確認した、布掘り掘方の中に材木を立て並べた南北方向に延びる材木堀跡で、遺構確認にとどめている。方向はN-26°-Wで、総長は10.3mである。接続する材木堀跡は確認していないが、平成19年度の市川橋遺跡の調査で、SD461区画溝跡の東側に区画3を確認している(宮城県教委2009)。区画3は南側をSD6557区画溝とSA6555・SA6553・SA6611・SA6800材木堀で区画しており、SA853は区画3の西辺にあたる施設と考えられる。

〔重複〕(新)SB7035・7154、SE836・837、SI827・839

〔掘方〕上幅0.5~0.6mで、下幅と深さ、断面形は不明である。

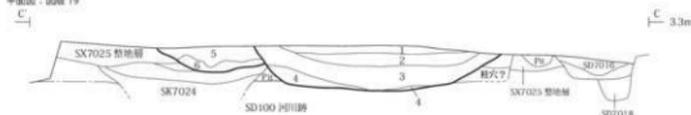
〔材痕跡〕直径0.1~0.2mの円形である。間隔は0.1~3.0m前後で、掘方の中をやや蛇行しながら並んでいる。

〔出土遺物〕掘方埋土から非ロクロ調整の土師器甕が出土した。

## 【SD7007区画溝跡】(図版19・64・78・96・97・付図)

調査区東部で確認した南北溝跡で、北側の県道調査I区SD2230、南側のG区SD11007と同一遺構である。D区での検出長は36.5mで、SD2230・SD11007を含めると総長は約205.8m以上になる。方向はN-10°-Eである。G区調査区南端から県道調査I区にかけて、「く」字状に屈曲する(付図)。

平面図：図版19



遺構名	層位	土色	土性	遺人物など	備考
SD7007	1	黒褐色(10YR2/2)	粘土		自然増積土
	2	黒色(10YR2/1)	粘土		
	3	黒褐色(10YR2/2)	粘土	炭化物を含む。木製品を多く含む	
	4	黒褐色(10YR2/2)	粘土	細砂をラミナ状に含む	
SX7010	5	黒色(10YR1/1)	粘土		自然増積土
	6	黒褐色(10YR3/2)	シルト	5層をブロック状に含む。炭化物を含む	洪水層



SD7007、SX7010 断面 (北から)



SD7007、SX7010 完掘全景 (北から)

図版78 SD7007区画溝跡、SX7010洪水層

県道調査I区のSD2230は、これまで中世の屋敷（「北の屋敷跡」）に伴う区画溝としてきたが（宮城県教委1997・1999a・2009）、SD2230の南側は直線的に伸びており、方形館の区画溝とならないことを確認した。さらに、本溝を昭和24年（1949）の米軍撮影航空写真に照合したところ、圃場整備以前に砂押川へ繋がる農業用水路として機能していた溝であることが判明した。したがって、SD7007・2230・11007区画溝は中世ではなく、近世以降の農業用水路と考えられる。

また、西岸で確認したSX7009・7010は本溝に沿って延びること、平面形や断面が一定しないこと、堆積土が本溝の下層と共通性が高いことから、SD7007機能時の洪水に伴う堆積層と考えられる。

〔重複〕(古) SB7158、SD100・730・741・796・797・7018・7019、SK7002・7024・7078、SX500・710・7001・7009・7025・7033

〔規模・堆積土〕上幅2.9～3.2m、下幅1.3～1.8mで、深さは0.6mである。断面形は逆台形である。堆積土は黒褐色・黒色などの粘土で、自然堆積である。

〔出土遺物〕(図版79～84)

堆積土から土師器環、須恵器高台杯・長頸壺・転用砥、灰軸陶器碗、中世陶器壺のほか、漆製品・木製品が多く出土した。須恵器長頸壺は大戸産、灰軸陶器は猿投産、中世陶器は常滑産である。土器や陶器は、本来、SD7007に先行する古代から中世の遺構に帰属するものと考えられる。

これらのうち土師器環（2）、須恵器高台杯（3）・長頸壺（4）・転用砥（7）、灰軸陶器碗（5）、中世陶器壺（6）、漆製品小皿（8）・椀（9・10）、漆製品杓文字（12）・箸（15・16）、木製品杓文字（11）・箸（13・14）・柄杓（17～19）・曲物（20～24）・紡錘車（25）・戸車（26）・刷毛（27）・齋串（28）・折敷（29）・栓（31）・部材（30・32・33・35）・樽（34）・作業台（36）・連歯下駄（1・37～41）を図示した。このうち、1の底面に刻書、2の底面に墨書「田」が認められる。



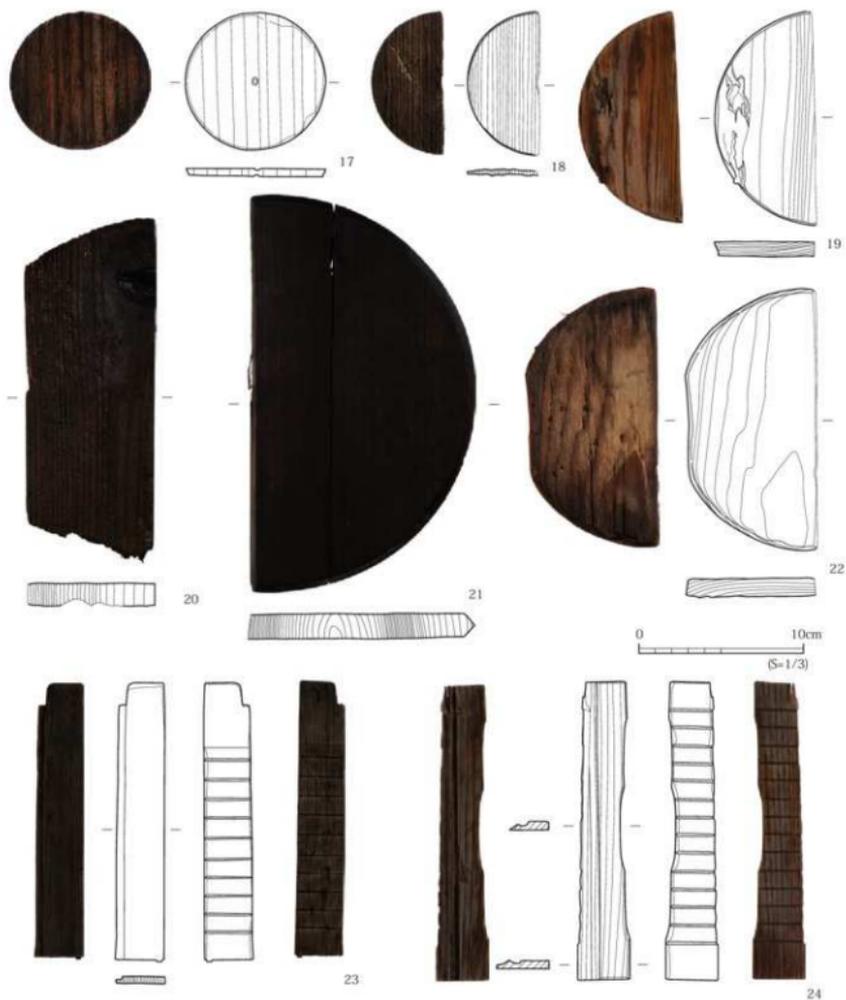
No.	器種	層位	調整	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	残存	備考	登録
1	木製品・連歯下駄	第		(21.0)	(7.1)	0.8	3/4	右用。高さ：3.0cm	2585

図版79 SD7007区画溝跡出土遺物 1



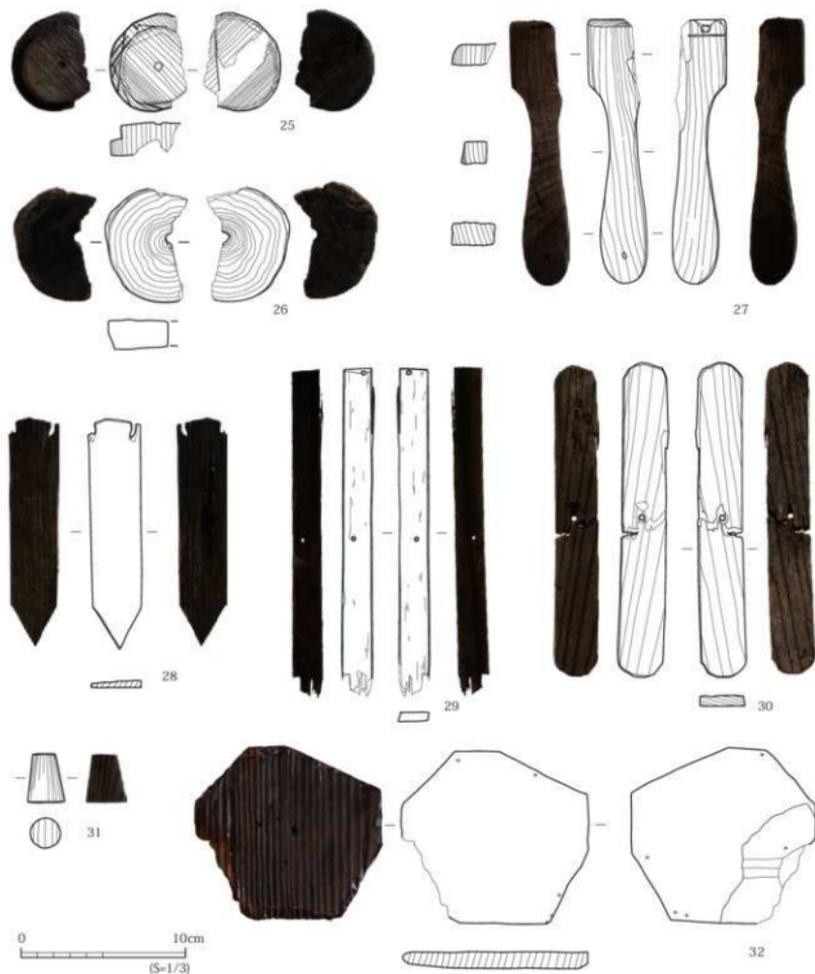
No.	器種	層位	調整	口徑 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	厚さ (cm)	残存	備考	登録
2	土師器・埴	埴	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色整理	—	—	—	—	一部	底部に割書「口」(山形)	1591
3	須恵器・高台埴	埴	内外面：ロケロナデ 底部：切り履し不明→回転ヘラケズリ→高台取付→ナデ	—	(9.8)	—	—	1/4	底部に墨書「口」(山形)	1590
4	須恵器・瓦器埴	埴	外面：回転ヘラケズリ→高台取付→ナデ 内面：ロケロナデ	—	(8.6)	—	—	一部	大口面	1588
5	須恵器・埴	埴	内外面：ロケロナデ→擦過	—	—	—	—	一部	脇段差	1586
6	陶器・赤	埴	内外面：ロケロナデ	—	—	—	—	一部	底面差	1585
7	須恵器・転用瓦	埴	—	—	—	—	1.6	一部	裏面転用 長さ：12.1cm 幅：7.3cm	1593
8	須恵器・小皿	埴	内外面：黒漆	—	4.4	—	—	1/3	—	2577
9	須恵器・碗	埴	外面：黒漆 内面：赤漆	(10.0)	(3.6)	4.5	—	1/3	—	2576
10	須恵器・碗	埴	外面：黒漆 内面：赤漆	—	—	—	—	1/3	—	2575
11	木製品・杵文字	埴	—	—	—	—	0.5	2/3	—	2591
12	須恵器・杵文字	埴	外面：赤漆	—	—	—	—	一部	—	2594
13	木製品・箸	埴	—	—	—	—	—	1/2	径：0.6cm	2593-3
14	木製品・箸	埴	—	—	—	—	—	2/3	径：0.3cm	2592
15	須恵器・箸	埴	赤漆	—	—	—	—	2/3	径：0.3cm	2593-1
16	須恵器・箸	埴	赤漆	—	—	—	—	完形	長さ：23.8cm 径：0.6cm	2593-2

図版80 SD7007区画溝跡出土遺物2



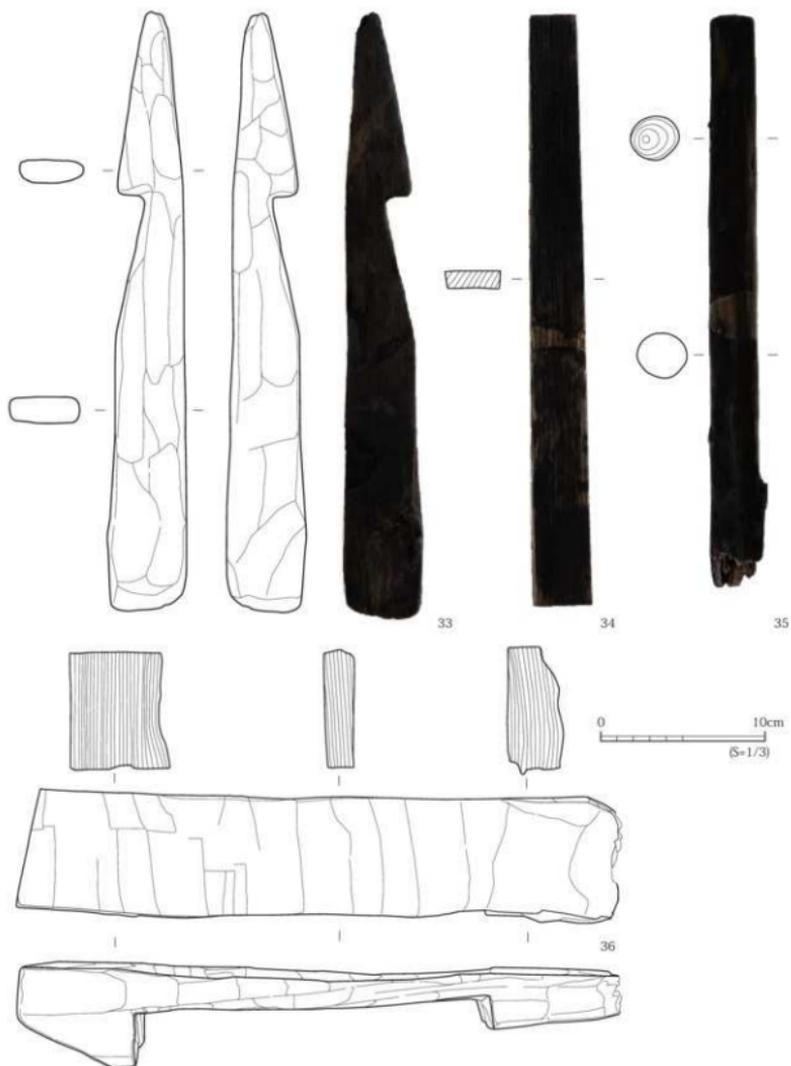
No.	名称	層位	形状	径 (cm)	径さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	残存	備考	登録
17	木製品・杓杓	埋		(8.4)	—	—	0.4	一部	底板	2596
18	木製品・杓杓	埋		(8.9)	—	—	0.3	一部	底板	2598
19	木製品・杓杓	埋		13.9	—	—	0.9	一部	底板	2597
20	木製品・山物	埋		(20.6)	—	—	1.3	一部	底板	2595-1
21	木製品・山物	埋		(24.6)	—	—	1.5	一部	底板	2595-2
22	木製品・山物	埋		(16.0)	—	—	1.1	一部	底板	2599
23	木製品・山物	埋		—	17.0	3.0	0.4	一部		2602
24	木製品・山物	埋		—	18.3	3.1	0.5	一部		2601

図版81 SD7007区画溝跡出土遺物3



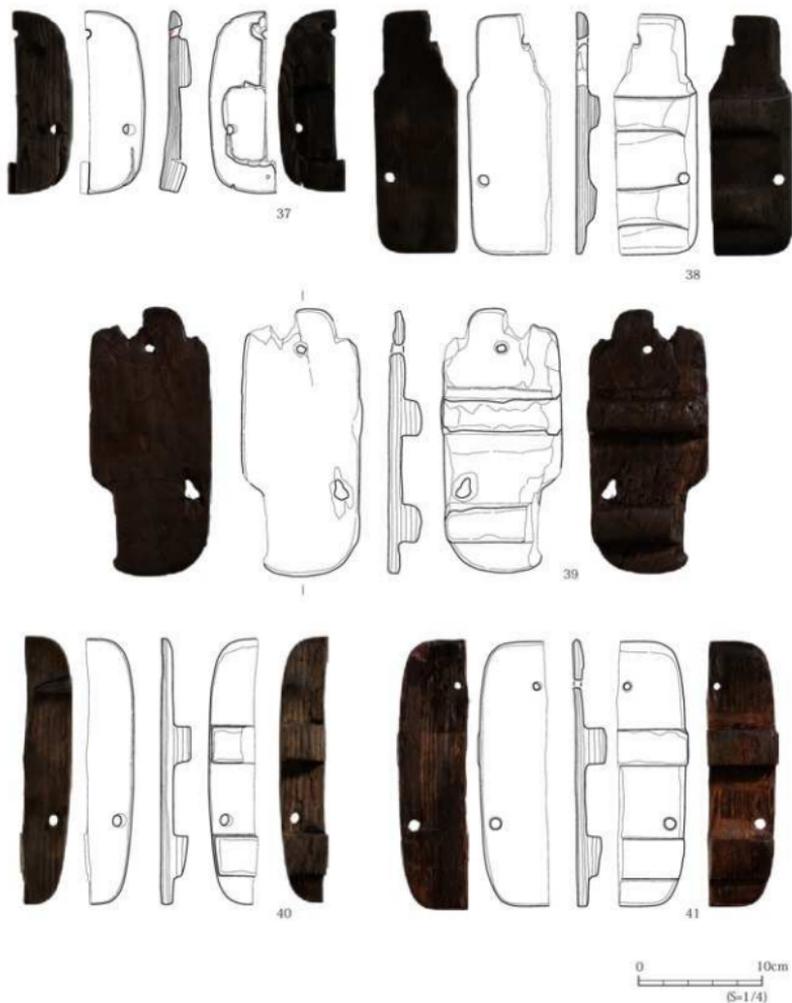
No.	器种	层位	调整	径 (cm)	直径 (cm)	幅 (cm)	厚度 (cm)	残存	備考	登録
25	木製品・岩罅串	埋		(5.9)	—	—	1.9	一部		2606
26	木製品・尸串	埋		(6.1)	—	—	1.7	一部	中央に穿孔	2607
27	木製品・刷毛	埋		—	16.0	(2.6)	1.3	一部		2590
28	木製品・透串	埋		—	14.1	3.1	0.4	一部		2603
29	木製品・釣敷	埋		—	—	—	0.5	一部	中央に穿孔	2605
30	木製品・漆材	埋		—	19.3	2.4	0.6	一部	中央に穿孔	2604
31	木製品・漆	埋		1.8	3.0	—	—	完整		2578
32	木製品・漆材	埋		—	11.4	10.5	1.0	一部		2612

图版82 SD7007区画溝跡出土遺物 4



No.	品種	層位	図説	径 (cm)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	残存	備考	登録
33	木製品・自在杓	埋		—	36.5	4.3	1.6	一部		2579
34	木製品・杓	埋		—	36.3	3.4	1.0	一部		2581
35	木製品・部材	埋		2.7	35.3	3.0	—	一部		2582
36	木製品・作整材	埋		—	36.7	7.7	0.4	完整		2608

図版83 SD7007区画溝跡出土遺物5



No.	品種	部位	図説	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	残存	備考	登録
37	木製品・漆面下駄	楕		14.7	(4.3)	1.0	1/2	左用。高さ：1.8cm	2583
38	木製品・漆面下駄	楕		19.6	(5.9)	1.0	2/3	左用。高さ：1.8cm	2584
39	木製品・漆面下駄	楕		21.8	9.6	1.2	3/4	右用。高さ：2.8cm	2587
40	木製品・漆面下駄	楕		21.6	(3.4)	1.0	1/2	高さ：2.4cm	2586
41	木製品・漆面下駄	楕		21.6	(5.7)	0.8	3/4	左用。高さ：2.4cm	2588

図版84 SD7007区画溝跡出土遺物6

### 3. 溝跡

溝跡は41条確認した。このうち、遺物がまとまって出土したSD786については概要を述べ、すべての溝跡の属性は表5にまとめている。

#### 【SD786溝跡】(図版37・85)

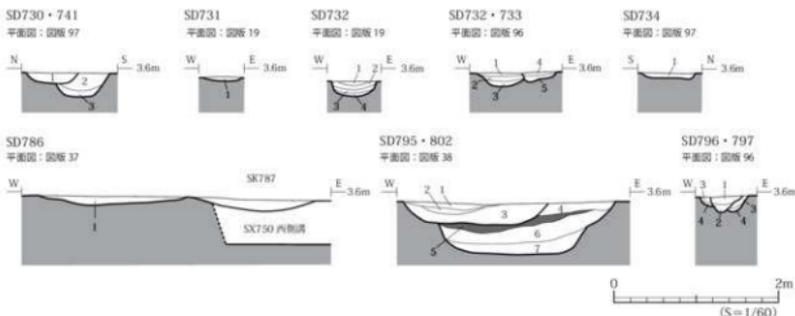
調査区中央部北側で確認した南北溝跡である。

〔重複〕(古) SA7176、SD461

〔規模・堆積土〕上幅1.8m、下幅1.1m、深さ0.1mで、断面は浅い皿形である。

〔出土遺物〕(図版87)

堆積土から非ロクロ調整の土師器環(16)・埴、ロクロ調整の環(17)・高台環(15)・高環(14)・蓋(12・13)・甕、須恵器環(18・19)・高台台・壺・甕、丸瓦・平瓦、砥石、鉄滓などが出土した。土師器は非ロクロ調整の環が内黒で平底、ロクロ調整の環は逆台形で回転系切り後手持ちヘラケズリ

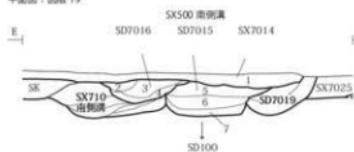


溝跡名	層位	土色	土性	埋入物など	備考
SD730	1	黒褐色(10YR2/2)	シルト	小さな地山ブロック・炭化物・灰白色火山灰を少し含む。磁鉄・マンガンを含む	2次堆積
	2	黒褐色(10YR2/2)	粘土質シルト	小さな地山ブロック・炭化物・灰白色火山灰を少し含む。マンガンを含む	2次堆積
SD741	3	黒色(10YR2/1)	粘土質シルト	しまりなし。炭化物を少し含む。磁鉄・マンガンを含む	地山ブロックを含む
	1	黒褐色(10YR2/1)	粘土質シルト	炭化物を少し含む。マンガンを含む。地山砂をわずかに含む	
SD732	1	黒褐色(10YR3/3)	シルト	しまり・粘性なし。磁鉄・マンガンを含む	炭化物・灰白色火山灰を少し含む
	2	黒色(10YR2/1)	粘土質シルト	マンガン・炭化物を少し含む。磁鉄を含む	
	3	黒褐色(10YR2/2)	粘土質シルト	縁内側に地山大ブロックを含む。磁鉄・マンガンを含む	
SD732	4	黒褐色(10YR2/2)	粘土質シルト	しまり・粘性なし。地山砂をわずかに含む。磁鉄・マンガンを含む	
	1	黒色(10YR2/1)	粘土質シルト	磁鉄・マンガンを含む	炭化物を少し含む
	2	黒褐色(10YR2/2)	粘土質シルト	磁鉄を含む。粘質の黒土を左側にブロックで含む	
SD732	3	黒褐色(10YR2/2)	粘土質シルト	しまりなし。磁鉄を少し含む	
	4	黒褐色(10YR2/2)	粘土質シルト	しまりや砂あり。マンガンを含む。地山砂の小さなブロックを少し含む。粘性あり	
SD733	5	黒褐色(10YR2/3)	粘土質シルト	しまりなし。マンガンを含む。炭化物・灰白色火山灰を少し含む。地山砂のブロックを含む。粘性あり	2次堆積
	1	にじみ・黒褐色(10YR4/3)	シルト	しまり・粘性なし。炭化物・灰白色火山灰を少し含む。中央と右端に黒土の大きなブロックを含む	2次堆積
SD786	1	黒色(2.5Y2/1)	シルト	磁鉄・マンガン・炭化物を含む。砂をブロック状に多量に含む。遺物が多量に出土している	
SD795	1	黒褐色(10YR2/2)	シルト	粘性なし。炭化物を少し含む。磁鉄・マンガンを含む	馬骨出土
	2	黒褐色(10YR2/2)	粘土質シルト	炭化物・土器片を少し含む。磁鉄・マンガンを含む	
	3	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物を多く含む。上部に磁鉄とマンガンが厚い層をなしている。黒褐色の粘土ブロックを含む。部分的に灰白色火山灰小ブロックを含む	2次堆積
SD802	4	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	炭化物を少し含む。磁鉄を多く含む	
	5	黒褐色(10YR4/1)	シルト	しまりなし。炭化物を少し含む。灰白色火山灰が約10cmくらい厚をなしている	2次堆積
	6	黒褐色(2.5Y3/1)	粘土質シルト	炭化物を少し含む。馬骨出土	
	7	黄褐色(2.5Y4/1)	粘土質シルト	しまりなし。炭化物を少し含む	
SD796	1	黒色(10YR2/1)	粘土質シルト	しまりや砂あり。砂のブロックを含む	
	2	黒色(2.5Y2/1)	粘土質シルト	しまりや砂あり。砂のブロックを含む	
SD797	3	黒褐色(10YR2/1)	粘土質シルト	しまりあり。地山砂を含む	
	4	黒褐色(2.5Y3/1)	粘土質シルト	しまりあり。地山砂を多く含む	

図版85 D区溝跡断面図1

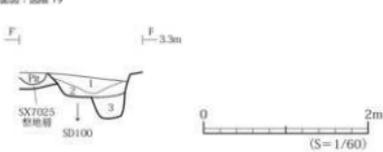
SD7015・7016・7019 (D区東壁)

平面図：図版 19



SD7016・7018

平面図：図版 19



遺構名	層位	土色	土性	遺入物など	備考
SK7014	1	黒褐色 (2.5Y3/1)	粘土質シルト		自然増殖土
	2	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂小ブロックをわずかに含む	
SD7016	3	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂小ブロックをわずかに含む	自然増殖土
	4	黒褐色 (2.5Y3/2)	粘土質シルト	黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルトをラミナ状に含む	
SD7015	5	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト		SKX500 東西遺跡跡 古掘溝
	6	黒色 (5Y2/1)	粘土		
	7	オリーブ黒色 (5Y3/1)	粘土質シルト		
SD7016	1	黒褐色 (10YR2/2)	粘土		
	2	黒褐色 (10YR2/2)	粘土	細砂をラミナ状に含む	
SD7018	3	明黄褐色 (10YR6/6)	シルト		



SD7015 断面 (西から)



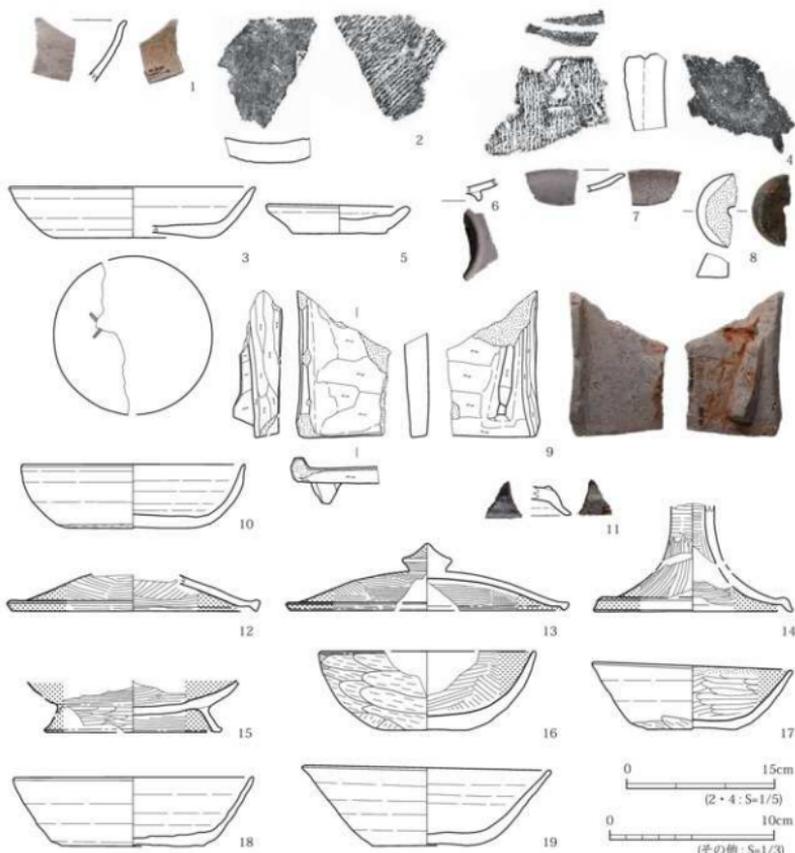
SD7015・7016・7019 断面 (北西から)



SD7016・7018 断面 (北から)


 SD795・802  
断面 (南から)

図版86 D区溝跡断面図2



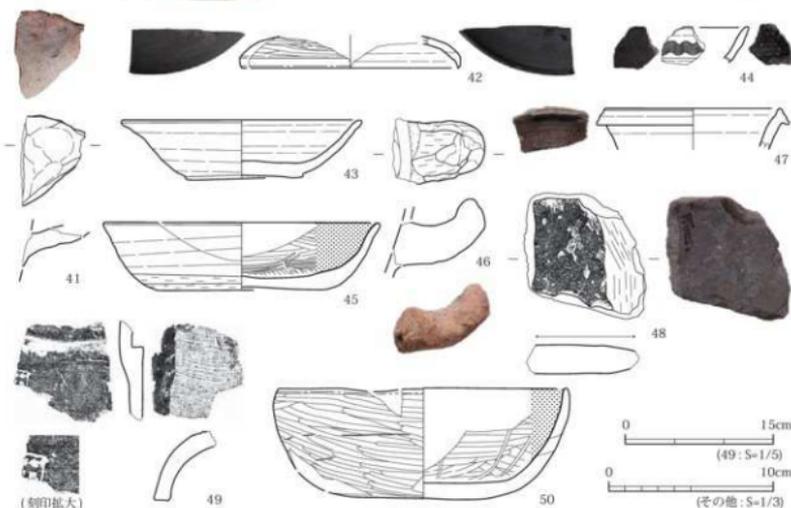
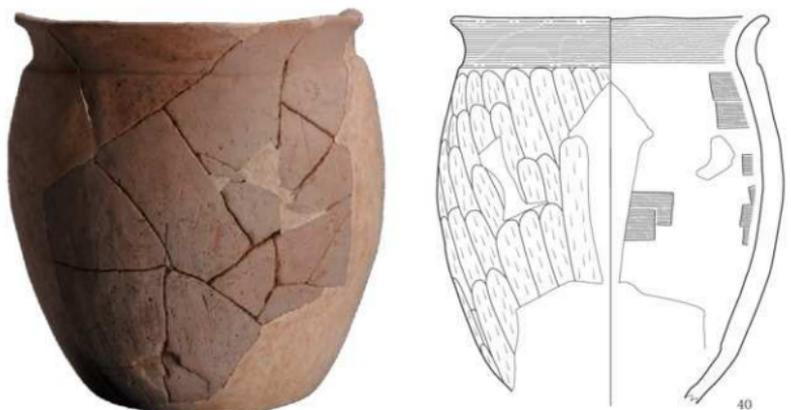
No.	器種	遺積番号	層位	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胴高 (cm)	残存	備考	登録
1	灰輪陶器・椀	SD730	埴	外面: ロクロナデ→同輪ヘラケズリ 内面: ロクロナデ→輪	—	—	—	—	一部	底径高. K14 流式用	5046
2	瓦・平瓦	SD730	埴	内面: 布目 凸面: 縄タタキ目→軟作り	—	—	—	—	1/6	多賀城分館: 平瓦ⅡB類. 四面に刻印「丸」. 厚さ: 2.0cm	5069
3	陶器器・杯	SD731	埴	内外面: ロクロナデ 底部: ヘラケズリ→ナデ	(15.0)	(9.6)	3.1	1/4	底部にヘラ書き「口」	5048	
4	瓦・軒平瓦	SD732	底面	内面: 布目→ナデ 凸面: 縄タタキ目	—	—	—	—	1/6	多賀城分館. 軒瓦文64号. 厚さ: 4.0cm	5051
5	赤土器・小皿	SD734	埴	内面: ロクロナデ 底部: 同輪糸切り (薄し)	8.7	5.7	1.8	定形	一部	多賀城分館. 厚さ文64号. 厚さ: 2.0cm	5052
6	灰輪陶器・皿	SD734	埴	内外面: ロクロナデ→輪	—	—	—	—	一部	底径高. K30 流式用	5053
7	灰輪陶器・皿	SD741	埴	内外面: ロクロナデ→輪	—	—	—	—	一部	底径高	5081
8	石彫品・胡蝶形	SD741	埴	—	—	—	—	—	1/2	厚さ: 1.4cm 重さ: 19.5g	5082
9	陶器器・菓子椀	SD745	埴	外面: ヘラケズリ	—	—	—	—	2.8	1/4	5083
10	陶器器・杯	SD745	埴	内外面: ロクロナデ 底部: 同輪糸切り→同輪ヘラケズリ	(13.4)	8.0	3.9	1/2	一部	5086	
11	陶器器・小型円蓋	SD745	埴	内外面: ロクロナデ	—	—	—	—	一部	5084	
12	土師器・蓋	SD786	埴	内外面: ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色処理	(14.8)	—	—	—	1/6	5103	
13	土師器・蓋	SD786	埴	内外面: ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色処理	(16.7)	—	4.1	2/5	宝珠ツマミ: 径: 3.0cm	5100	
14	土師器・高杯	SD786	埴	内外面: ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色処理	—	12.0	—	—	一部	5101	
15	土師器・高杯	SD786	埴	内外面: ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色処理	—	(10.2)	—	—	2/5	5102	
16	土師器・杯	SD786	埴	外面: 同輪糸切り→同輪ヘラケズリ 内面: ヘラミガキ→黒色処理	13.2	—	4.8	2/3	—	5106	
17	土師器・杯	SD786	埴	外面: ロクロナデ 内面: ヘラミガキ→黒色処理	11.7	5.4	4.1	定形	—	5105	
18	陶器器・杯	SD786	埴	内外面: ロクロナデ 底部: ヘラケズリ→ナデ	14.6	8.8	4.2	3/5	—	5108	
19	陶器器・杯	SD786	埴	内面: ロクロナデ 底部: 同輪糸切り	14.7	6.2	4.9	1/2	—	5107	

図版87 D区溝跡出土遺物 1



No.	器種	遺構番号	層位	図説	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存	備考	登録
20	須恵器・縁塚	SD788	1層	内外面:ロクロナデ→ヘラミヤギ 底面:高台取付→ヘラミヤギ	—	—	—	一部	ミヨキ須恵器	S114
21	須恵器・杯	SD788	1層	内外:ロクロナデ 底面:回転糸切り→手持ちヘラケズリ	(15.2)	8.0	5.0	2/5		S110
22	土師器・二足皿	SD795	2層	外面:ロクロナデ→脚付→ヘラケズリ 内面:ヘラミヤギ→黒色処理	(14.0)	—	—	1/4		S118
23	土師器・皿	SD795	2-3層	外面:ロクロナデ→ナデ 内面:ナデ 底面:ヘラケズリ	—	(17.5)	—	1/4	無底	S1573
24	灰釉陶器・杯	SD795	1層	内外:ロクロナデ 底面:高台取付 内外面:飾輪	—	6.2	—	1/5	器残存。K14 形式別	S119
25	灰釉陶器・土師器	SD795	2層	内外面:ロクロナデ	—	—	—	一部	大戸車。リソク灰土器	S117
26	須恵器・塚	SD795	2層	内外:ロクロナデ 底面:回転糸切り→手持ちヘラケズリ	(16.0)	7.8	6.7	3/5		S116
27	土製品・土師	SD797	2層	内外面:ナデ	—	—	—	一部	長さ:16.0cm 幅:3.1cm 孔径:0.7cm	S123
28	土師器・二足皿	SD797	2層	外面:土師→ヘラケズリ→黒色処理 底面:回転糸切り→手持ちヘラケズリ	(14.2)	(5.1)	4.8	1/3		S122
29	土師器・杯	SD802	3層	内外面:ロクロナデ 内面:ヘラミヤギ→黒色処理 底面:回転糸切り→ナデ	(14.8)	(7.1)	4.0	1/3		S148
30	須恵器・杯	SD802	3層	内外面:ロクロナデ 底面:回転糸切り→ナデ	(14.6)	—	—	一部	TK209 形式別。海狗骨針を含む	S144
31	須恵器・高杯	SD802	4層	外面:ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面:ロクロナデ	—	—	—	一部	TK209 形式別。高脚2段スカシ	S153
32	須恵器・二足皿	SD802	2層	外面:ヘラミヤギ→ロクロナデ→赤スカシ→足取 内面:ロクロナデ	—	—	—	一部	杯を転用。厚さ:0.3cm	S149
33	須恵器・転用器	SD802	3層	—	—	—	—	一部		S155
34	須恵器・皿	SD802	2層	外面:ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面:ロクロナデ 底面:回転ヘラケズリ→高台取付→ナデ	—	—	—	一部	大戸車。体下部に球形環状の痕跡	S155
35	灰釉陶器・塚	SD802	1層	内外面:ロクロナデ→飾輪	—	—	—	一部	器残存	S158
36	灰釉陶器・皿	SD802	1層	外面:ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面:ロクロナデ 底面:回転ヘラケズリ→高台取付→ナデ 飾輪	—	(6.0)	—	1/6	産遺存。K90 形式別	S157
37	灰釉陶器・小皿	SD802	2層	内外:ロクロナデ 底面:高台取付→ナデ 飾輪	—	(4.7)	—	1/6	産遺存。K90 形式別	S154
38	瓦・平瓦	SD802	3層	四面:縄文タタキ目 凸面:布目 一枚作り	—	—	—	一部	多量産分類:平瓦目C類。四面にヘラミヤギ×2。厚さ:2.0cm	S152
39	瓦・転用器	SD802	3層	四面:縄文タタキ目 凸面:布目 一枚作り	—	—	—	一部	多量産分類。一枚作。厚さ:2.0cm	S151

図版88 D区溝跡出土遺物2



No.	器種	透視番号	層位	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
40	土師器・大型壺	SD807	I層	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヨコナデ・ヘラナデ	(18.8)	—	—	1/4		5160
41	土師器・壺		埋	外面：ナデ・オサエ	—	—	—	一部	把手のみ	1507
42	須恵器・蓋	SS500	南朝溝	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ	(13.4)	—	—	一部	ミガキ半周線跡	1505
43	須恵器・坪		埋	内外面：ロクロナデ 底面：回転糸切り→ナデ	(14.4)	7.1	3.6	1/3		1508
44	須恵器・壺		埋	外面：ロクロナデ→帯路地文・皮彫 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部		1506
45	土師器・坪	SD7016	埋	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色整理 底面：切り履し不明→回転ヘラケズリ	(16.6)	10.2	4.0	1/3		1509
46	土師器・壺	SD7016	埋	外面：ヘラケズリ→ナデ・オサエ	—	—	—	一部	把手のみ	1600
47	須恵器・土師器	SD7016	埋	内外面：ロクロナデ	(10.6)	—	—	一部	筋段成	1602
48	須恵器・転用成	SD7016	埋		—	—	—	一部	蓋を転用。長さ：5.9cm 幅：6.0cm 厚さ：1.7cm	1603
49	瓦・丸瓦	SD7018	埋	内面：布目 凸面：ロクロナデ 端面：ヘラケズリ 一枚作り	—	—	—	1/5	多賀城分館：丸瓦II非輪。凸面に刻印「田」。厚さ：1.8cm	1604
50	土師器・碗	SD7019	埋	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色整理	17.5	—	6.8	2/3	取手に海面骨付付	1605

図版89 D区溝跡出土遺物3



3



10



5



17



14



19



21



26



29



30



43



45



50

图版90 D区满踏出土遗物 4

遺構名	調査	検出長 (m)	断面形状	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (m)	方向	増築土	新旧関係	出土遺物	段階	
											平面	断面
SD461	掘削	51.2	レンズ形	3.5～4.6	1.2	0.6	N-16° W ～E-2° N	自然増築	SD003・SD008→SD461→ SX000→SX000・750・7001 →SK787・834→SK803・ SD741・786→SD730・867, SD461→SX000→SX000→ SK842・869→SK888	「埋」土師器ミニチュア・井口ロ 口土師・陶・磁・高坪・甕(籠)・ 土師品文様、須恵器へつ切・ナ 子坪・壺・高坪・壺・甕・(籠)、 丸瓦(籠)、石製品磁石	18・ 37・ 38・ 114	—
SD730	完測	42.7	レンズ形	0.6～0.7	0.3～0.5	0.2	E-4° N	自然増築	SK7001・SK7005→SD838・ SK7150・7159→SK7040・ 7150→SD743→SD732→ SD741→SD730、SD461→ SK700・750・7001→SK703 →SD712→SD741→SD730	「埋」土師器陶車切坪・ロ口ロ 口甕(籠)、須恵器へつ切・ナ 子坪・壺・高坪・甕(籠)、平瓦(籠) B物・切石(丸・多賀城跡付日取) 丸瓦(籠)	18・ 38・ 96・ 97・ 99	85
SD731	完測	14.2	浅い皿形	0.6	0.4	0.1	N-16° E	自然増築	SK800→SK000→SK703・ 7001→SK703→SD730	「埋」土師器ロ口ロ坪・ロ口ロ 口甕(籠)、須恵器へつ切・ナ 子坪・壺・高坪・甕(籠)、平瓦(籠)	19	85
SD732	完測	32.7	レンズ形	0.6+	0.2	0.2	N-7～16° E	自然増築	SK033→SK7001・710・ 7003・SK760・SD734・ 743・786→SD732、SK7005 →SK7150・7157→SD702→ SD732→SD733→SD741→ SD730	「埋」土師器陶車切坪・ロ口ロ 口甕(籠)、須恵器陶車切坪・壺・ 高坪・甕(籠)、丸瓦・平瓦(籠) (底面) 土師器坪(籠)、須恵器(籠)、 新丸瓦(華文文440・多賀城跡 付日取)・平瓦(籠)	19・ 96・ 97・ 99	85
SD733	完測	8.0	レンズ形	0.4	0.1	0.1	N-7° E	自然増築	SK7004・SK7001・SK7005→ SK7150・7159→SK7040・ 7150・SK750→SD743→ SD732→SD733→SD741→ SD730	「埋」土師器坪・甕(籠)、須恵器 坪・甕(籠)、瓦石(籠)	96・97	85
SD734	完測	9.1	浅い皿形	0.7	0.4	0.05	E-1° N	自然増築	SK7001→SK706→SK7040・ 7150→SD734→SD732	「埋」土師器陶車切坪・ロ口ロ 口甕(籠)、須恵器坪・甕(籠)、赤 土師土器小皿、瓦輪陶器(脇投・ K90京式陶)・壺(籠)	38・ 96・ 97	85
SD735	完測	5.6	レンズ形	0.6	0.4	0.1	E-2° N	自然増築	SD09008→SD461→SK750・ 7001→SK735→SD730	「埋」土師器陶車切坪・ロ口ロ 口甕(籠)、須恵器坪・壺・甕(籠)、瓦輪陶 器(籠)、平瓦(籠)	38	—
SD739	完測	14.8	レンズ形	0.2	0.1	0.1	N-2° E	自然増築	SD003・SD008→SK000→ SK7001・710・7003→SK786 →SD730	土師器坪・甕(籠)、須恵器坪・ 甕(籠)	19・ 97・ 99	—
SD741	完測	32.6	逆台形	0.7～1.0	0.3	0.3	E-4° N	自然増築	SK7004・SK7001・SK7005→ SK7150・7159→SK7040・ 7150・SK750→SD743→ SD732→SD733→SD741→ SD730	「埋」土師器陶車切坪・高台坪・ 高坪・甕(籠)、須恵器陶車切坪・ 高台坪・壺・甕(籠)、赤土師土師 高台坪・高台坪(籠)、瓦輪陶器 皿(脇投産)・陶(脇投産・K14 京式陶)丸瓦・平瓦(籠)、鉄滓、 石製品結晶	18・ 38・ 97	85
SD742	完測	3.2	レンズ形	0.3	0.2	0.1	N-12° W	自然増築	SK7004→SK7157→SD732→ SD733、SK7004→SD742	「埋」土師器坪・甕(籠)、須恵 器甕(籠)	96・97	—
SD743	完測	6.8	レンズ形	0.3～0.4	0.1	0.1	E-1° N	自然増築	SK7001・SK7407→SK7005→ SK7150→SD743	「埋」土師器坪・甕(籠)、須恵器 坪・甕(籠)	97	—
SD745	完測	6.9	桶形	2.1～2.6	0.6	0.4	N-12° E	自然増築	SK7150→SK715→SK8005→ SK7086→SK745、SK749→ SK748→SK800→SK743→ SK745	土師器坪・甕(籠)、須恵器陶車 切坪・壺・高坪・甕(籠)、赤土師土 師高台坪・高台坪(籠)、瓦輪陶器 皿(脇投産)・陶(脇投産・K14 京式陶)丸瓦・平瓦(籠)、鉄滓、 石製品結晶	93	—
SD763	完測	4.2	レンズ形	0.3	0.1	0.1	N-31° E	自然増築	SK807→SD780→SD764・ 7007→SK787→SD763	土師器ロ口ロ坪・ロ口ロ口甕(籠)、 須恵器坪・甕(籠)	99	—
SD764	完測	4.1	浅い皿形	0.5	0.3	0.1	N-23° E	自然増築	SK807→SD780→SD764・ 7007→SK787→SD763	土師器ロ口ロ坪・ロ口ロ口甕(籠)、 須恵器陶車切坪・坪・甕(籠)	99	—
SD769	完測	3.3	浅い皿形	0.5	0.3	0.1	N-45° W	自然増築	SK807→SK789→SD769	土師器坪・ロ口ロ口甕(籠)、須恵 器坪・甕(籠)、丸瓦・平瓦(籠)	99	—
SD776	完測	5.1	浅い皿形	0.8	0.6	0.1	E-15° N	自然増築	SK7001→SK800→SD776	「埋」丸瓦・平瓦(籠)	37・95	—
SD786	完測	7.3	浅い皿形	1.8	1.1	0.1	N-0°	人為増築	SD461・SA7176→SD786	「埋」土師器坪・陶・ロ口ロ口甕・壺・ 高台坪・高坪(籠)、須恵器へつ 切坪・壺・高坪・甕(籠)、瓦輪陶器 皿(脇投産)・陶(脇投産・K14 京式陶)丸瓦・平瓦(籠)、磁石、鉄滓	37	85
SD788	完測	13.7	浅い皿形	0.9	0.7	0.1	E-9° N	自然増築	SK033→SK7025→SD788→ SK760→SK762・SD732	「埋」土師器坪・ロ口ロ口甕(籠)、 須恵器陶車切坪・平瓦(籠)・ナ 子坪・壺・甕(籠)、[不明]土師 器坪(籠)・甕、須恵器坪・甕・ 高坪(籠)・須恵器種施、鉄滓	19・ 39・ 99	—

表5-1 D区跡跡属性表1



遺構名	調査	検出長 (m)	断面形	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (m)	方向	増積土	新旧関係	出土遺物	段階	
											平面	断面
SD7016	完測	10.2	逆形	1.0～1.5	0.7	0.2	N-15°-E	自然増積	SX500→SX710→SD7016、 SD7018→SD7019→SD7016	「埋」土師器ロクロ杯・甕・甕、 須恵器鉢・土師器杯・土師器(脇段 産)・甕・転用瓦(甕転用)、平瓦(甕)	19	86
SD7018	確認	0.8	—	0.8	—	—	E-2°-S	自然増積	SD7018→SD7019→SD7007・ 7016	「埋」土師器ロクロ杯・甕(甕)、 須恵器杯・甕(甕)、瓦片(目付皿・ 飯皿・皿・政庁目付)	19	86
SD7019	確認	0.9	楕形	0.5+	0.4	0.5	E-2°-S	自然増積	SD7018→SD7019→SD7007・ 7016	「埋」土師器非ロクロ産・甕、須 恵器甕(甕)	19	86
SD7082	新測	5.3	?	0.6～0.7	0.2	—	E-36°-S	自然増積	SX7001→SD7082→SD732→ SD733	「埋」土師器杯・甕(甕)、須恵器 甕(甕)	96・97	—
SD7097	新測	6.9	逆形	0.7	0.3～0.4	0.4	E-7°-S	自然増積	SD7097→SD704→SK7087→ SD763・SK5337	「埋」土師器杯・甕(甕)	99	—

※規模が不明なものは、数値に「+」を加えている

※「出土遺物」(甕)：遺構確認面出土、「埋」：増積土出土、「甕」：埋片資料

※遺構の新旧関係で、SD100～20508 河川跡を覆う SX7001・7025・7026・7033 整地層が認められた場合、相違を避けるため SD100・20508 は省略している

表 5-3 D区溝跡属性表 3

される。蓋・高台坪・高坪は、ロクロ調整後両面ともミガキ・黒色処理されており、薄手で胎土も精選されていることから搬入品とみられる。須恵器坪は皿形と逆台形があり、底部切り離しは前者がヘラ切り、後者は回転系切りである。

#### 4. 掘立柱建物跡・掘立柱塀跡

掘立柱建物跡を 29 棟、掘立柱塀跡を 1 条確認した。以下、全体を確認し、柱穴の断割り調査をした建物跡 12 棟について説明する。これらを含む建物跡や塀跡の属性は、表 6・7 にまとめている。

##### 【SB1605 掘立柱建物跡】(図版 92・93)

調査区北西隅で確認した桁行 2 間・梁行 2 間の東西棟建物跡である。

〔重複〕(古) S1715・716・719・720・7432 (新) SB7806、SD745

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が北側柱列でみると西から 3.0m・3.1m、総長は 6.1m である。梁行は、東妻でみると北から 1.8m・2.9m で、総長は 4.7m である。方向は、北側柱列で測ると E-10°-S である。

〔柱痕跡〕直径 0.2m 前後の円形である。

〔柱穴〕一辺 0.4～0.6m の隅丸方形で、規模は、深さは 0.3m である。掘方埋土は、地山ブロックを含む褐色粘土質シルトである。

〔出土遺物〕なし。

##### 【SB1606 掘立柱建物跡】(図版 92・93)

調査区北西隅で確認した桁行が南側柱列で 2 間、北側柱列で 3 間、梁行 2 間の東西棟建物跡である。本建物は桁行が南北で異なり、北側中央間を入口とする平入りと考えられる。

〔重複〕(古) S1716・718・719・7432

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が南側柱列でみると 2.1m 等間、総長は 4.2m である。梁行は、東妻でみると 1.7m 等間で総長は 3.4m である。方向は、南側柱列で測ると E-2°-S である。

〔柱痕跡〕直径 0.2m 前後の円形である。

〔柱穴〕一辺 0.3～0.5m の隅丸方形で、深さは 0.4m である。掘方埋土は、地山ブロックを多く含むにふい黄褐色などの砂質シルトである。

〔出土遺物〕 掘方埋土から土師器環・甕、須恵器環が出土した。

〔SB7086掘立柱建物跡〕 (図版92・93)

調査区北西隅で確認した桁行4間・梁行2間以上の東西棟建物跡とみられる。

〔重複〕 (古) SA7433、SB1605、SD745、SI715・716・718・719・720 (新) SD745

〔柱間寸法・方向〕 柱間寸法は、桁行が南側柱列でみると西から1.8m・2.0m・2.0m・2.1mで、総長は7.9mとみられる。梁行は、東東でみると4.4m(2間分)以上である。方向は、南側柱列で測るとE-7°-Sである。

〔柱痕跡〕 直径0.2m前後の円形である。

〔柱穴〕 一辺0.5～0.8mの隅丸方形で、深さは0.4mである。掘方埋土は、地山ブロックを多く含む黒褐色シルトである。

〔出土遺物〕 (図版91)

柱痕跡から土師器環(1)、掘方埋土から土師器甕、須恵器円面硯(2)、平瓦(3)などが出土した。平瓦は多賀城第IV期のII C類(多賀城第IV期)で、凹面に刻書「七」が認められる。

〔SB7153掘立柱建物跡〕 (図版92・93)

調査区北西隅で確認した桁行4間・梁行2間の東西棟建物跡である。

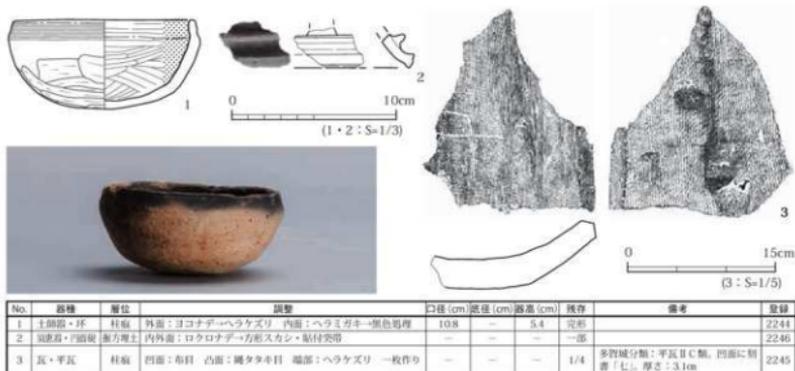
〔重複〕 (古) SA7433、SI715・716・718・719・720・721・723

〔柱間寸法・方向〕 柱間寸法は、桁行が北側柱列でみると西から2.1m・2.1m・1.9m・2.3mで、総長は8.4mである。梁行は、東東でみると4.2m(2間分)である。方向は、北側柱列で測るとE-6°-Sである。

〔柱痕跡〕 直径0.2m前後の円形で、北西隅柱は沈下している。

〔柱穴〕 一辺0.4～0.6mの隅丸方形で、深さは0.2mである。掘方埋土は、地山ブロック・炭化物を多く含む灰黄褐色シルトである。

〔出土遺物〕 なし。



No.	品名	層位	図案	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存	備考	登録
1	土師器・環	柱礎	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	10.8	—	5.4	完形		2244
2	須恵器・円面硯	掘方埋土	内外面：ロクロナデ→方形スガシ・貼付突帯	—	—	—	一部		2246
3	瓦・平瓦	柱礎	凹面：布目 凸面：縄タテキ目 端部：ヘラケズリ→一枚作り	—	—	—	1/4	多賀城分類：平瓦II C類、凹面に刻書「七」、厚さ：3.1cm	2245

図版91 SB7086掘立柱建物跡出土遺物

【SB7035掘立柱建物跡】(図版94・95)

調査区北東部で確認した桁行3間・梁行3間の東西棟柱建物跡である。

〔重複〕(古) SA853、SB7154、SE837、SI827・839、SK7243、SX7001 (新) SK836

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が南側柱列でみると西から4.5m(2間分)・2.3mで、総長は6.8mとみられる。梁行は東妻でみると2.0m等間で総長は6.0mである。方向は、南側柱列で測るとE-5°-Sである。

〔柱痕跡〕直径0.2m前後の円形で、沈下している。また、一部の柱穴では柱材が抜取られていた。

〔柱穴〕一辺長軸0.6~0.9mの隅丸方形で、深さは0.6mである。掘方埋土は、地山ブロック・炭化物・焼土を含む黒褐色・褐灰色などのシルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土や柱痕跡・抜取穴から土師器環・甕、須恵器環・高台環・甕が出土した。

【SB7040掘立柱建物跡】(図版94・96)

調査区東端中央で確認した桁行3間・梁行3間の東西棟柱建物跡である。

〔重複〕(古) SB7156・7157・7158、SD2050B、SI7005、SX7001

(新) SD730・732・733・734・741

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が南側柱列でみると西から2.0m・2.2m・1.7mで、総長は5.9mとみられる。梁行は、西妻でみると北から1.8m・1.6m・2.1mで、総長が5.5mである。方向は、南側柱列で測るとE-7°-Sである。

〔柱痕跡〕直径0.2m前後の円形で、一部の柱穴で柱抜取穴が認められた。

〔柱穴〕長軸0.6~0.8m隅丸方形で、深さは0.6mである。掘方埋土は、地山ブロックや炭化物を多く含む黒褐色シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土や柱痕跡・柱抜取穴から土師器環・高台環・甕、須恵器環・甕、骨角製品が出土した。

【SB7155掘立柱建物跡】(図版94・96)

調査区北東部で検出した桁行3間・梁行3間の南北棟柱建物跡である。

〔重複〕(古) SD2050B、SI821・824 (新) SB7428、SD796・797、SF809

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が東側柱列でみると北から1.6m・2.4m・1.3mで、総長は5.3mとみられる。梁行は、南妻でみると西から1.7m・1.6m・1.6mで、総長は4.9mとみられる。方向は、東側柱列で測ると真北を向く。

〔柱痕跡〕直径0.2m前後の円形である。

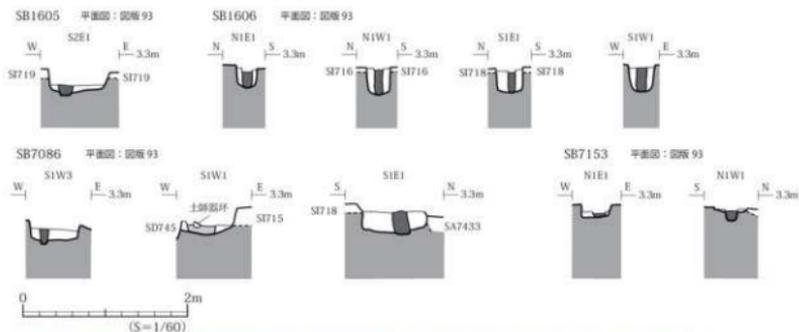
〔柱穴〕一辺0.4~0.7mの隅丸方形で、深さは0.5mである。掘方埋土は、地山ブロックを多く含む黒褐色シルトである。

〔出土遺物〕なし。

【SB7156掘立柱建物跡】(図版94・97)

調査区東端中央で確認した桁行2間・梁行2間の東西棟柱建物跡である。

〔重複〕(古) SI7005、SD2050B、SK7004、SX7001 (新) SB7040、SD730・732・733・734・741



SB7086・S1E1 断面(東から)



SB7086・S1W1 断面(北から)



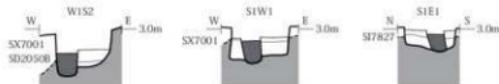
D区北西部全景(南から)

図版92 SB1605・1606・7086・7153掘立柱建物跡



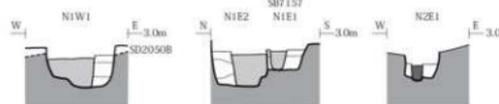
SB7035

平面図：図版 95



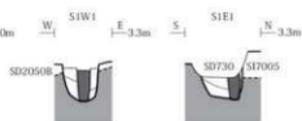
SB7040

平面図：図版 96



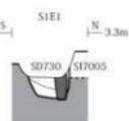
SB7155

平面図：図版 96



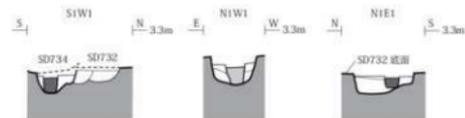
SB7156

平面図：図版 97



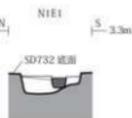
SB7157

平面図：図版 96



SB7160

平面図：図版 97



SB7035 - S1W1 断面 (東から)



SB7040 - N1E2 断面 (南西から)



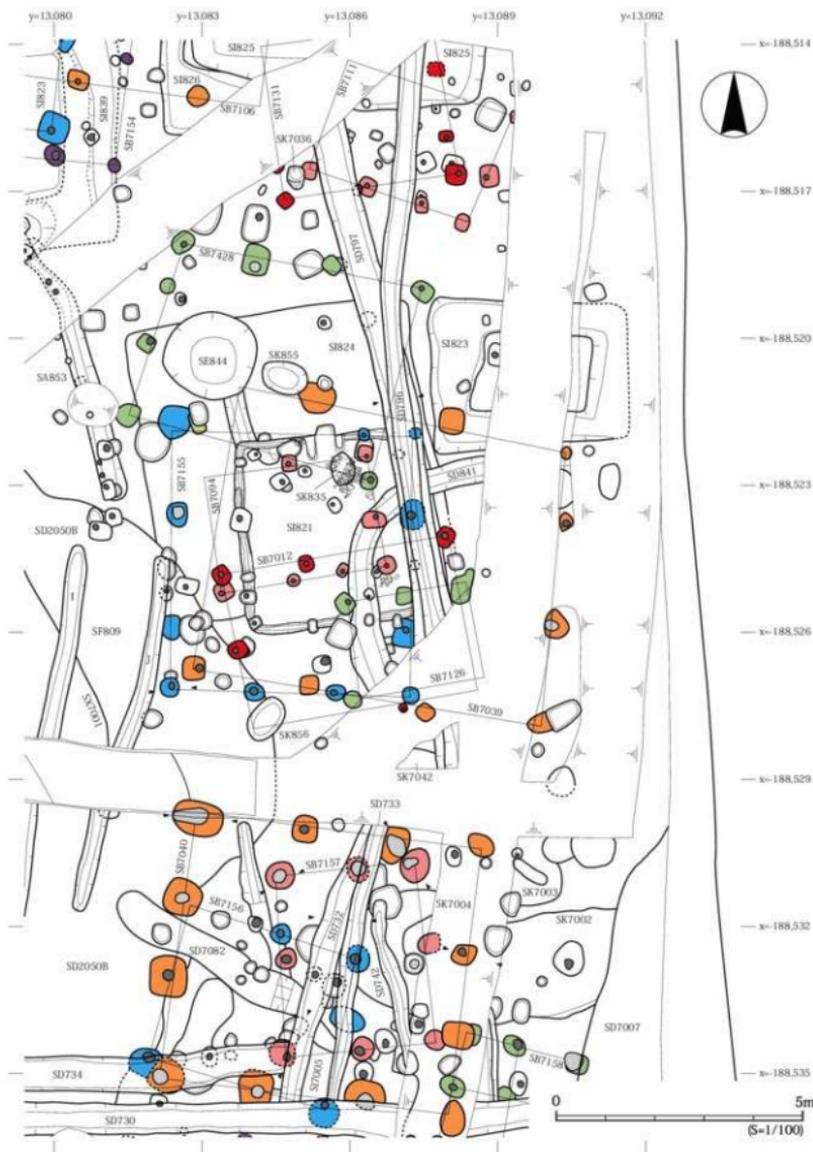
SB7156 - S1E1 断面 (南東から)



SB7157 - N1W1 断面 (北から)

図版94 SB7035・7040・7155・7156・7157・7160掘立柱建物跡





(D区の図例は図版64を参照)

図版96 D区平面図8



〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が北側柱列でみると西から2.0m・1.7mで、総長は3.7mとみられる。梁行は、東妻でみると3.1m（2間分）とみられる。方向は、北側柱列で測るとE-18°-Sである。

〔柱痕跡〕直径0.2m前後の円形である。

〔柱穴〕長軸0.4～0.7mの楕円形で、深さは0.3mである。掘方埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。

〔出土遺物〕なし。

#### 【SB7157 掘立柱建物跡】（図版94・96）

調査区東端中央で確認した桁行2間・梁行2間の南北棟建物跡である。

〔重複〕（古）SI7005、SK7004（新）SB7040、SD732・733・734

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると北から1.7m・2.0mで、総長は3.7mである。梁行は、南妻でみると西から1.5m・1.6mで、総長は3.1mとみられる。方向は、西側柱列で測るとN-6°-Wである。

〔柱痕跡〕直径0.2m前後の円形である。

〔柱穴〕長軸0.4～0.7mの楕円形で、深さは0.4mである。掘方埋土は、地山ブロックを多く含む黒褐色シルトである。

〔出土遺物〕なし。

#### 【SB7160 掘立柱建物跡】（図版94・97）

調査区東部中央で検出した桁行3間・梁行2間の南北棟建物跡である。

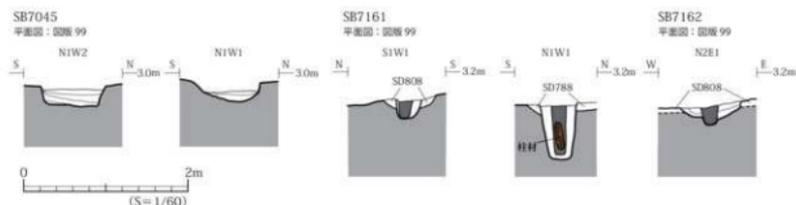
〔重複〕（古）SX7001（新）SD732

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると北から3.2m（2間分）・1.6mで、総長は4.8mである。梁行は、北妻でみると3.5m（2間分）である。方向は、西側柱列で測るとN-8°-Eである。

〔柱痕跡〕直径0.2mほどの円形である。

〔柱穴〕直径0.4～0.7mの円形もしくは楕円形で、深さは0.3mである。掘方埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色シルトである。

〔出土遺物〕なし。



図版98 SB7045・7161・7162掘立柱建物跡断面図



## 【SB7161 掘立柱建物跡】(図版98・99)

調査区南部で確認した桁行2間・梁行2間の南北棟建物跡である。

〔重複〕(古)SD788・808・811、SX7025 (新)SB7162、SK762・770

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が西側柱列でみると北から2.0m・1.8mで、総長は3.8mである。梁行は、南妻でみると西から1.2m・1.6mで、総長は2.8mである。方向は、西側柱列で測るとN-17°-Wである。

〔柱痕跡〕直径0.1mほどの円形で、北西隅柱は柱材が遺存していた。

〔柱穴〕長軸0.2~0.5mの楕円形で、深さは0.7mである。掘方埋土は、地山ブロックを多く含むにぶい黄褐色シルトである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器甕、須恵器杯・甕、赤焼土器杯、平瓦が出土した。

## 【SB7162 掘立柱建物跡】(図版98・99)

調査区南端で確認した桁行3間・梁行2間の東西棟建物跡である。

〔重複〕(古)SB7161、SD788・808・811、SX7025 (新)SK762・805

〔柱間寸法・方向〕柱間寸法は、桁行が北側柱列でみると西から1.7m・1.6m・1.7mで、総長は5.0mである。梁行は、東妻で北から1.9m・2.1mで、総長は4.1mである。方向は、北側柱列で測るとE-8°-Nである。

〔柱痕跡〕直径0.2mほどの円形で、沈下している。

〔柱穴〕一辺0.4~0.6mの隅丸方形で、深さは0.3m前後である。掘方埋土は地山ブロックを多く含むにぶい黄褐色シルトである。

〔出土遺物〕なし。

遺構名	調査	建物間数		棟方向	平面規模 (m)				建物方向		柱穴間		新旧関係	図版				
		桁行	梁行		桁行		梁行		角度	計測柱列	柱間距離 (m)	形状		平面形	平面	断面		
					総長	間定	総長	間定									柱間寸法	柱間寸法
SB1605	平査	2	2	東西	6.1	北	3.0・3.1	4.7	東	1.8・2.9	E10°-S	北	0.2	0.4~0.6	隅丸方形	S776→S775・720→S779・7432→SB1605→SB7086→SD745	93	92
SB1606	平査	2	2	東西	4.2	南	2.1等間	3.4	東	1.7等間	E2°-S	南	0.2	0.3~0.5	隅丸方形	S776・779→S778・7432→SB1606	93	92
SB1607	平査	2	2	東西	3.9	北	1.7・2.2	3.7	東	1.7・2.2	E3°-N	北	0.1~0.2	0.2~0.3	楕円形	SB88→SB1607	93	-
SB7012	確認	3	2	東西	4.6	北	1.7・(2.9 [2間分])	3.2	西	1.6・(1.6)	E10°-N	北	0.1~0.15	0.2~0.4	隅丸方形	SB24→SD3008→SB23→SB7155→SD841→SB7094→SB7032→SD856→SD797→SD796	96	-
SB7035 (掘柱)	平査	3	3	東西	6.8	南	(4.5 [2間分])・2.3	6.0	東	2.0等間	E5°-S	南	0.2	0.6~0.9	隅丸方形	SAB33→SB357・SK793・SB39→SK7006→SB27→SB7154→SB7035→SB356	95	94
SB7039	確認	3	3	東西	6.9	南	(2.3等間)	5.7	東	(3.6 [2間分])・(2.1)	E11°-S	南	0.2~0.3	0.4~0.8	隅丸方形・楕円形	SB23・824→SD2008→SB7039	96	-
SB7040	平査	3	3	東西	5.9	南	2.0・2.2・(1.7)	5.5	西	(1.8)・(1.6)・(2.1)	E7°-S	南	0.2	0.6~0.8	隅丸方形	SK7001→SB7005→SB7156・7157・7158→SB7040→SB734→SB732→SB733→SB740→SB730	96	94

表6-1 D区掘立柱建物跡属性表1

建筑物名称	楼层	建筑物层数		柱方向	平面投影 (m)						建筑物方向		柱间距 (m)	柱穴形状	新旧结构	范围			
		桁行	桁行		桁行		梁行		角度	判断	柱间距	柱间距				柱间距	柱间距	平面	范围
					距离	测定	距离	测定											
SB7045	半层	3+	2	东西	3.9+	南	(2.0)+1.9	4.0	西	1.3+	(2.7)	E-1°-S	北	0.2-0.3	0.7-0.8	椭圆形	SB811 → SB7045 → SB812 → SB907 → SB7045 → SB789 → SB707 → SB704 → SB7087 → SB703	90	98
SB7086	半层	4	2	东西	7.9	南	(1.8)+2.0+2.0+2.1	4.4+	东	(4.4)		E-7°-S	南	0.2	0.5-0.8	椭圆形	SB716 → SB715 → 730 → SB719 → SB718 → SA743 → SB805 → SB706 → SB745	93	92
SB7087 [地柱]	確認	2+	2+	东西?	4.5+	北	(4.5 [2間分])	2.2+	東	—		E-2°-S	北	0.1	0.5-0.7	椭圆形	SB184 → SB7097 → SB704 → SB7087 → SB763	99	—
SB7094	確認	3	2	東西	3.4	南	1.5+1.0+0.9	2.2	東	1.2+1.0		E-10°-N	北	0.1-0.2	0.3-0.6	椭圆形	SB824 → SB258 → SB821 → SB715 → SB841 → SB7094 → SB702 → SB797 → SB706 → SB856	96	—
SB7106	確認	3	2	東西	3.5	北	—	4.1	西	—		E-8°-S	北	0.1-0.2	0.2-0.5	椭圆形	SB830 → SB827 → 838 → SB706	95	—
SB7111	確認	3	2	東西	3.4	南	(1.2)+1.2+(1.0)	2.3	東	(1.3)+(1.0)		E-19°-S	北	0.1-0.2	0.3-0.5	椭圆形	SB711 → SB713 → SB825 → SB797 → SB7036	96	—
SB7126	確認	2	1	東西	2.4	北	—	2.0	西	—		E-10°-N	北	0.1	0.3-0.5	椭圆形 椭圆形	SB821 → SB841 → SB725 → SB797 → SB796	96	—
SB7131	確認	2	3	東西	3.6	南	(1.5)+(2.1)	3.2	東	(0.9)+(1.6)+0.7		E-8°-N	南	0.1	0.3-0.5	椭圆形	SB711 → SB713 → SB825 → SB797 → SB7036	96	—
SB7153	半层	4	2	東西	8.4	北	2.1+2.1+1.9+2.3	4.2	東	—		E-6°-S	北	0.2	0.4-0.6	椭圆形	SB716 → SB715 → 730 → SB719 → SB718 → 721 → 723 → SA743 → SB733	93	92
SB7154	確認	2	2	南北	4.6	西	—	3.2	南	2.0+(1.2)		N-0°-W	西	0.2	0.3-0.5	椭圆形 椭圆形	SA833 → SB839 → SB827 → SB714 → SB7036	95	—
SB7155	半层	3	3	南北	5.3	東	(1.6)+2.4+(1.3)	4.9	南	1.7+1.6+(1.6)		N-0°-E	東	0.2	0.4-0.7	椭圆形	SB824 → SB258 → SB821 → SB715 → SB748 → SB797 → SB796 → SB839	96	94
SB7156	半层	2	2	東西	3.7	北	(2.0)+(1.7)	3.1	東	—		E-18°-S	北	0.2	0.4-0.7	椭圆形	SB704 → SB7004 → SB7005 → SB715 → SB7049 → SB734 → SB732 → SB733 → SB718 → SB730	97	94
SB7157	半层	2	2	南北	3.7	西	(1.7)+2.0	3.1	南	1.5+(1.6)		N-6°-W	西	0.2	0.4-0.7	椭圆形	SB7004 → SB7005 → SB715 → SB7049 → SB734 → SB732 → SB733	96	94
SB7158 [地柱]	確認	2	2	東西	2.5	南	—	2.3	東	—		E-15°-S	南	0.1-0.2	0.3-0.5	椭圆形	SB7158 → SB7049 → SB797 → SB796	97	—
SB7159	確認	3	2	東西	5.2	北	(3.3 [2間分]) + 1.9	4.0	東	1.9+(2.1)		E-2°-S	北	0.1-0.2	0.3-0.4	椭圆形	SB7158 → SB7049 → SB797 → SB796 → SB741 → SB730 → SB797	97	—
SB7160	半层	3	2	南北	4.8	西	(3.2 [2間分]) + (1.6)	3.5	北	—		N-8°-E	西	0.2	0.4-0.7	圆形 椭圆形	SB7004 → SB7005 → SB715 → SB7049 → SB734 → SB732 → SB733	97	94
SB7161	半层	2	2	南北	3.8	西	2.0+1.8	2.8	南	1.2+(1.6)		N-17°-W	西	0.1	0.2-0.5	椭圆形	SB7158 → SB7049 → SB797 → SB796 → SB741 → SB730 → SB797	99	98
SB7162	半层	3	2	東西	5.0	北	(1.7)+(1.6)+1.7	4.1	東	1.9+(2.1)		E-8°-N	北	0.2	0.4-0.6	椭圆形	SB7158 → SB7049 → SB797 → SB796 → SB741 → SB730 → SB797	99	98

表6-2 D区掘立柱建物跡属性表2

遺構名	調査	建物位置		棟 方向	平面規模 (m)				建物方向		柱穴番号	柱穴形状	新田関係	段高				
					桁行		梁行		角度	計測 種類				柱間 距離 (m)	規模 (m)	平面形	平面	断面
					総長	測定	総長	測定										
SB7428	確認	3	3	東西	4.9	北	—	3.7	西	2.1 (2間分) + (1.6)	E10°・S	北	0.1 ~ 0.2	0.3 ~ 0.6	隅丸方形・ 楕円形	SR21 → SR22 → SR735 → SB7428 → SB759 → SB766	96	—
SB7429	確認	2	2	東西	3.8	北	(1.9)・1.9	3.6	西	—	E1°・N	北	0.1 ~ 0.2	0.3	楕円形	SB738 → SB739 → SB745	114	—
SB7430	確認	2	2	東西	4.7	北	2.6・2.1	(3.6)	西	1.7 + (1.9)	E4°・N	北	0.1 ~ 0.2	0.3 ~ 0.5	楕円形	SR84 → SB737 → SR883 → SB7430 → SB746	114	—
SB7431	確認	2	2	東西	4.3	南	—	4.1	東	1.8 + 2.3	E7°・S	北	0.1 ~ 0.2	0.3 ~ 0.8	隅丸方形・ 楕円形	SB749 → SB748 → SR200 → SB7431 → SB745	93	—

※柱間寸法は東西方向が西から、南北方向は北から行った。ただし、西側や北側が不明な場合は東から、南から計測している  
 ※柱間距離が無い、または柱間から柱間距離が1つ以上ずれる場合は、2間（場合によっては3間分）の総和を表記している  
 ※柱間寸法の表記で柱位置が不明な場合は、( ) 書きとしている  
 ※建物全体の規模が不明なものは、数字値に+を加えている  
 ※遺構の新田関係で、SD100・2050B 河川跡を覆う SX7001・7025・7026・7033 整地層が認められた場合、遺構とを避けるため SD100・2050B は省略している

表6-3 D区掘立柱建物跡属性表3

遺構名	調査	柱間総長	柱間 (m)		方向	柱間距離 (m)	柱穴		新田関係	出土遺物	段高	
			柱間寸法	柱間寸法			規模 (m)	平面形			平面	断面
SA7433	確認	17.9・	(2.2)・(2.6)・2.2・2.1・2.2・4.3 (2間分) + 2.3	柱間寸法	N9°・E	0.2	0.4 ~ 0.8	隅丸方形	SB720 → SB729 → SB718 → SA7433 → SB708・7153・ SB756・765 → SB7433	—	64・93	—

※柱間寸法は東西方向が西から、南北方向は北から行った。  
 ※柱間距離が無い、または柱間から柱間距離が1つ以上ずれる場合は、2間（場合によっては3間分）の総和を表記している  
 ※柱間寸法の表記で柱位置が不明な場合は、( ) 書きとしている  
 ※遺構の新田関係で、SD100・2050B 河川跡を覆う SX7001・7025・7026・7033 整地層が認められた場合、遺構とを避けるため SD100・2050B は省略している

表7 D区掘立柱建物跡属性表

## 5. 竪穴住居跡

竪穴住居跡は40棟確認し、そのうち5棟を調査した（建替えを含む）。以下、調査したもののみ説明することとし、これらを含むすべての竪穴住居跡の属性は表8にまとめている。その際、平面形は、直交する両辺の長さが0.5m以上異なる場合を長方形、0.5m未満は正方形とし、並行する両辺の長さが0.5m以上異なる場合は台形とした。

### 【SI821A・B 竪穴住居跡】

調査区北東部で確認した。同位置で建替えが行われており、古い住居をSI821A、新しいものをSI821Bとする。

〈SI821A 竪穴住居跡〉(図版96・100・101)

〔重複〕(古) SI824 (新) SI821B、SB7012・7094・7126・7155・7428、SD796・797・841

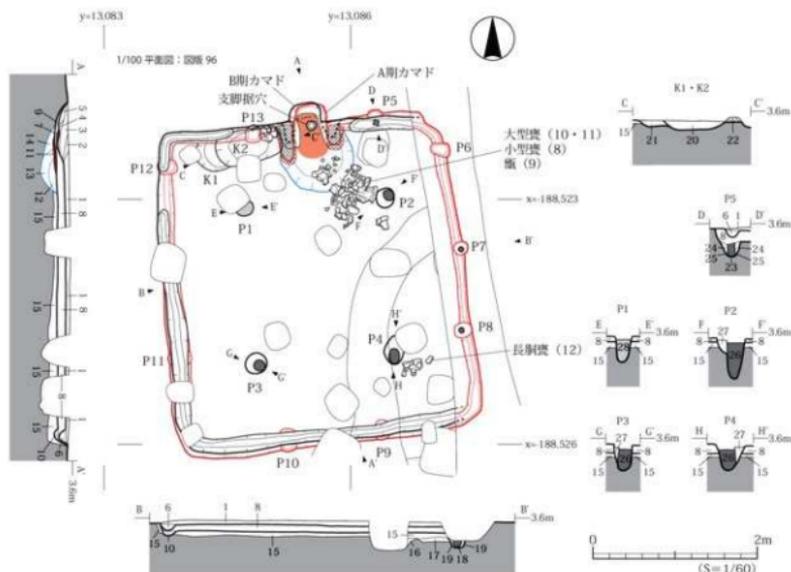
〔平面形〕一辺が約4.0mの正方形である。

〔周溝〕北辺中央のカマド部分を除いて全周している。規模は幅0.1～0.2m・深さ約0.1mである。壁材痕が確認できなかったことから、SI821Bの床をつくる際に壁材が抜き取られ、炭化物・焼土粒を含む黒褐色砂質シルトで埋め戻されたものと思われる。

〔壁〕0.1m前後残存する。

〔床面〕住居の掘方全体を灰黄褐色砂質シルトで埋め戻して床としている。

〔カマド〕北辺中央に付設されている。カマド本体は住居北辺の壁を掘り込んで構築され、本体は北辺から0.2m外側へ張り出しており、煙道は認められない。奥壁は焼燃底部面から緩やかに立ち上がる。焚口は住居北壁から0.45m内側にある。カマドの規模は焚口の幅0.4m、奥行き0.65mである。



遺構名	層位	土色	土性	遺人物	備考
SIS21B	1	暗褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	地山砂・炭化物・焼土を含む	住居内埋積土
	2	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	炭化物・焼土を多く含む	カマド跡土
	3	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	地山砂をブロック状に多く含む	カマド内埋積土
	4	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	炭化物・灰を多く含む	カマド内埋積土
	5	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	砂質シルト	炭化物・焼土を含む	
	6	暗褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	炭化物・焼土を含む	両溝埋積土
	7	黄灰色 (2.5Y4/1)	シルト	地山ブロック・炭化物・焼土を多く含む	燃焼面
SIS21A	8	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	砂質シルト	地山砂・炭化物を含む	埋土
	9	黄灰色 (2.5Y4/1)	砂質シルト	地山砂ブロック・炭化物・灰・焼土を含む	カマド内埋積土
	10	黒褐色 (2.5Y3/1)	砂質シルト	炭化物・焼土を含む	埋土
	11	黄灰色 (2.5Y4/1)	シルト	地山ブロック・炭化物・焼土を含む	燃焼面
	12	黒褐色 (7.5YR3/2)	砂質シルト	炭化物・灰を含む	
	13	暗灰色 (7.5YR4/1)	砂質シルト	地山ブロック・灰を含む	カマド内埋積土
	14	黄褐色 (2.5Y3/3)	砂質シルト		
	15	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト	地山ブロックを含む	
	16	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	砂質シルト	地山ブロック・炭化物を含む	掘方埋土
	17	黒褐色 (10YR3/1)	砂質シルト	炭化物・焼土を含む	壁柱穴埋積土
18	黒褐色 (10YR3/1)	砂質シルト	炭化物を含む	壁柱穴埋積土	
19	黄灰色 (2.5Y4/1)	砂質シルト	地山ブロックを含む	掘方埋土	
K2 (B期貯蔵穴)	20	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	しまりなく柔らかい。炭化物・焼土を少し含む	住居内埋積土
K1 (A期貯蔵穴)	21	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	砂質シルト	焼土をわずかに含む	埋土
A期カマド	22	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	砂質シルト		カマド埋積土
P5 (A期壁柱)	23	黒褐色 (10YR3/1)	砂質シルト	炭化物を含む	壁柱穴埋積土
	24	黄灰色 (2.5Y4/1)	砂質シルト	地山ブロックを含む	柱基礎
P1～P4 (土柱)	25	暗褐色 (10YR5/1)	シルト	地山ブロックを多量に含む	壁柱穴埋積土
	26	黒褐色 (10YR3/1)	砂質シルト	しまりなし。地山ブロックを少し含む。炭化物をわずかに含む	柱基礎
	27	暗灰色 (10YR5/1)	シルト	地山ブロックを多量に含む	掘方埋土
	28	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	しまりなし。地山ブロックを少し含む。炭化物をわずかに含む	掘取穴

図版100 SIS21A・B壁柱穴居跡1



SI821B床面検出状況(南から)



SI821A完掘状況(南から)



南東支柱断面(南から)



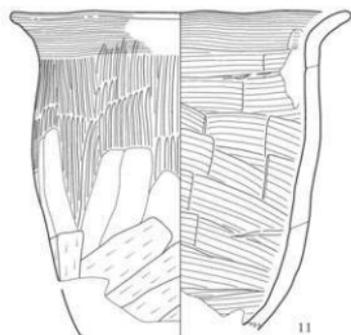
A期カマド検出状況(南から)

図版101 SI821A・B竪穴住居跡2

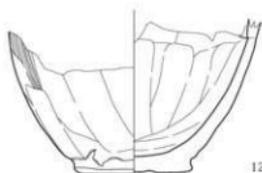


No.	器種	遺構番号	層位	図型	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存	分類	備考	登録
1	石製品・丸玉	S1821A	新方埴土	穿孔	-	-	-	2/3	-	長さ: 2.3cm 幅: 2.0cm 厚さ: 1.8cm 重さ: 2.48g 糸: ヒスイ製	5166
2	須恵部・甕	S1821B	新方埴土	外面: 平行タタキ 内面: 同心円状アケ具	-	-	-	一部	-	-	5008
3	須恵部・甕	S1821B	新方埴土	外面: 平行タタキ 内面: 同心円状アケ具	-	-	-	一部	-	胎土に海綿骨針を含む	5012
4	須恵部・甕	S1821B	新方埴土	外面: 平行タタキ→カキメ 内面: 同心円状アケ具	-	-	-	一部	-	-	5009
5	土師器・甕(土師)	S1821B	新方埴土	外面: タテ	-	-	-	一部	-	径: 1.8cm	5011
6	土師器・杯	S1821B	P2 新方埴土	外面: ココナデ→ヘラケズリ 内面: ヘラミガキ→黒色処理	-	-	-	一部	B1	口縁部に漆付着	5015
7	土師器・鉢	S1821B	P2 新方埴土	外面: ナデ→ココナデ 内面: ヘラナデ→ココナデ 底部に木炭痕	11.2	5.6	8.6	完形	B	付材	5016
8	土師器・小型甕	S1821B	床面	外面: ハケメ→ココナデ→内部オサエ 内面: ヘラナデ→ココナデ→オサエ	13.8	(6.2)	11.9	完形	B	付材	5017
9	土師器・甕	S1821B	床面	外面: ココナデ・ハケメ→ヘラケズリ 内面: ハケメ→ヘラナデ→ヘラケズリ	(23.8)	-	17.9	1/2	A1	鉢形。無底。口径: (9.6cm)	5018
10	土師器・大型甕	S1821B	床面	外面: ハケメ→ココナデ 内面: ココナデ→ヘラナデ	(18.2)	6.8	26.5	2/3	A	鉢形。無底。口径: (9.6cm)	5019

図版102 S1821竪穴住居跡出土遺物 1



11



12



0 10cm  
(S=1/3)

No.	器種	遺構番号	層位	図説	口径(cm)	胴径(cm)	高さ(cm)	残存	分類	備考	登録
11	土師器・大型甕	SB821B	床面	外面：ハケメーココナデ・ナデ+ヘラケズリ 内面：ヨコナデ・ヘラナデ	20.1	—	—	2/3	C		5020
12	土師器・大型甕	SB821B	床面	外面：ハケメーナデ 内面：ナデ 底部に本型痕	—	7.3	—	1/4	—		5014

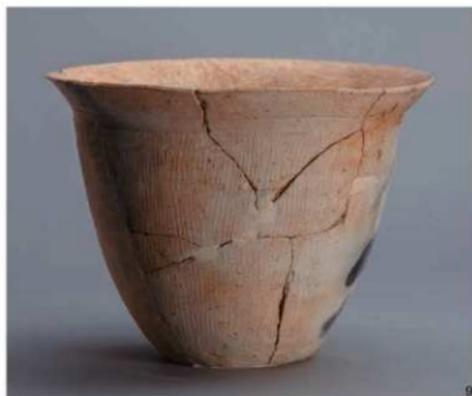
図版103 SI821壁穴住居跡出土遺物2

奥壁は地山、側壁は地山を主体とするにふい黄褐色の砂質シルトで構築している。燃烧部底面は平坦で、長軸0.3m・短軸0.2mの焼面が広がる。掘方は焚口の前から奥壁にかけて確認した。規模は直径0.9mで、深さはカマドの燃烧部底面から0.2mである。住居掘方埋土と地山を掘り込み、黒褐色や褐灰色などの砂質シルトで埋め戻している。

〔柱穴〕壁柱穴9基を確認した。主柱穴は確認していないが、SI821B主柱と同じ位置にあったとみられる。

壁柱穴は周溝に沿って南辺2基(P9・P10)、北辺で2基(P5・P13)、東辺で3基(P6～P8)確認した。西辺は2基(P11・P12)あるが、新しい遺構で壊された中央部分にもう1基想定でき、本来は3基あったと考えられる。壁柱穴掘方の平面形は円形・楕円形で、規模は幅0.2m前後、深さは床面から0.2mである。柱痕跡は径が0.1m前後の円形である。

〔付属施設〕カマドの左脇で貯蔵穴1基(K1)を確認した。東側をSI821Bの貯蔵穴に壊されている



床面・遺物出土状況(南から)

図版104 SI821竪穴住居跡出土遺物3

が、平面形は円形で、規模は0.3m前後、深さは0.1mとみられる。

〔方向〕西辺で測るとN-4°-Wである。

〔出土遺物〕(図版102)

掘方埋土からヒスイ製の丸玉(1)が出土した。

〈SI821B竪穴住居跡〉(図版96・100・101)

〔重複〕(古)SI821A・824 (新)SB7012・7094・7126・7155・7428、SD796・797・841

〔平面形〕一辺約4.0mの正方形である。壁はSI821Aと同一である。

〔周溝〕西辺・北辺・南辺で確認した。東辺は住居廃絶後の溝に壊されて不明であるが、他と同様に周溝があったと思われる。また、北辺は中央のカマド部分を除いて周溝がつくられた。幅は0.2mで、深さは0.1mである。堆積土は炭化物・焼土粒を含む暗褐色の砂質シルトである。堆積土の状況や壁材痕が認められないことから、周溝は住居機能時に開口していたと考えられる。

〔壁〕0.05m前後残存する。

〔床面〕SI821Aの壁材・壁柱穴を撤去した後、全体を暗灰色砂質シルトで埋め戻して床としている。

〔カマド〕カマドは北辺中央に付設され、SI821Aと同位置で造り替えられている。カマド本体は住居北壁を掘り込んで構築され、本体は北辺から0.2m外側へ張り出しており、煙道は認められない。奥壁は燃焼部底面から緩やかに立ち上がる。焚口は住居北壁から0.2m内側にある。

規模は燃焼部内壁で見ると、焚口の幅0.3m・奥行き0.4mである。側壁は削平されてほとんど残存せず、奥壁は地山である。燃焼部底面は浅く窪んでおり、径0.2mの焼面が広がる。また、焼面の中央には支脚の抜取穴があり、支脚は焚口から0.3m奥の中央に位置したと考えられる。

カマドは側壁がほとんど残存しないこと、近くの床面から土師器大型甕や甔が出土したことから、住居の廃絶に伴ってカマドが破壊され、そこで使われた甕や甔が廃棄されたと考えられる。

〔柱穴〕対角線上に配置された主柱穴4基（P1～P4）を確認した。このうち、P1の柱は抜き取られている。主柱穴は径0.3mの円形である。柱痕跡の径は0.1mほどで、沈下している。

〔付属施設〕カマドの左脇で貯蔵穴1基を確認した（K2）。平面形は方形で、規模は長軸0.8m・短軸0.4m、深さは0.1mである。

〔方向〕西辺で測るとN-4°-Wである。

〔出土遺物〕(図版102～104)

カマド内堆積土から土師器環・甕が出土したほか、床面から土師器環・甕・大型甕（10～12）・小型甕（8）・甔（9）、掘方埋土から土師器環・高環・甕・甔、須恵器甕（2～4）、棒状土製品（5）、黒曜石剥片、P2の掘方埋土から土師器環（6）・鉢（7）、周溝堆積土と住居堆積土から土師器環・甕などが出土した。土師器はいずれも非クロロ調整で、外面に段を持つものが多い。

#### 【SI823 竪穴住居跡】(図版96・105)

調査区北東部で確認した。東半の大部分は攪乱で壊されている。周溝・柱穴・カマド・付属施設は確認できなかった。

〔重複〕(新)SB7039

〔平面形〕東西3.6m以上、南北3.2mの長方形である。

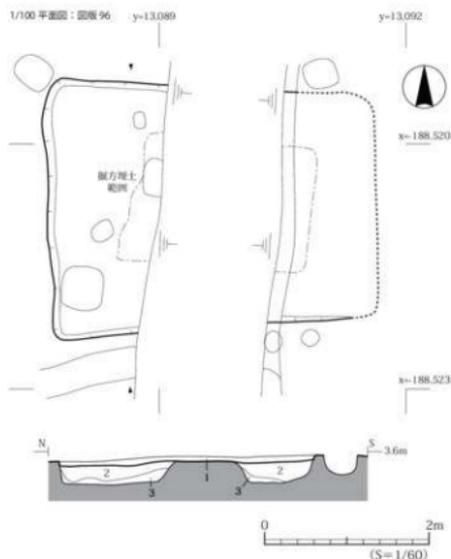
〔壁〕0.1m残存する。

〔床面〕壁際に沿って掘方がつくられ、住居中央は地山を床とする。掘方埋土は黒褐色やにぶい黄橙色シルトである。

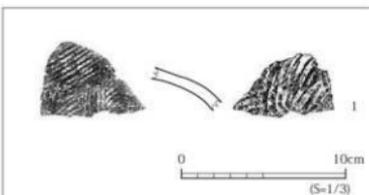
〔方向〕西辺で測ると、N-4°-Wである。

〔出土遺物〕(図版106)

掘方埋土から土師器環・甕、須恵器・甕、堆積土から土師器環・甕、須恵器甕（1）などが出土した。



SI823 床面検出状況 (西から)



層位	土色	土性	混入物	備考
1	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	燧山アロック・炭化物・焼土を少し含む	住居内埋土土 (自然体検出)
2	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	燧山アロックを含む。炭化物を少し含む	
3	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	シルト	燧山アロックを多量に含む。炭化物をわずかに含む	掘方埋土

図版105 SI823竪穴住居跡

No.	器種	層位	調整	登録
1	須恵器・甕	壁	外面：平行タタキ 内面：同心が状アタスキ	5013

図版106 SI823竪穴住居跡出土遺物

### 【SI827 竪穴住居跡】 (図版 95・107・108)

調査区北東隅付近で確認した。壁は削平で残存しないが、深さ0.1m前後の長方形掘方が認められたことから住居跡と判断した。周溝・カマド・付属施設は確認していない。

〔重複〕(古) SA853、SI839 (新) SB7035・7106・7154、SE798、SX7001

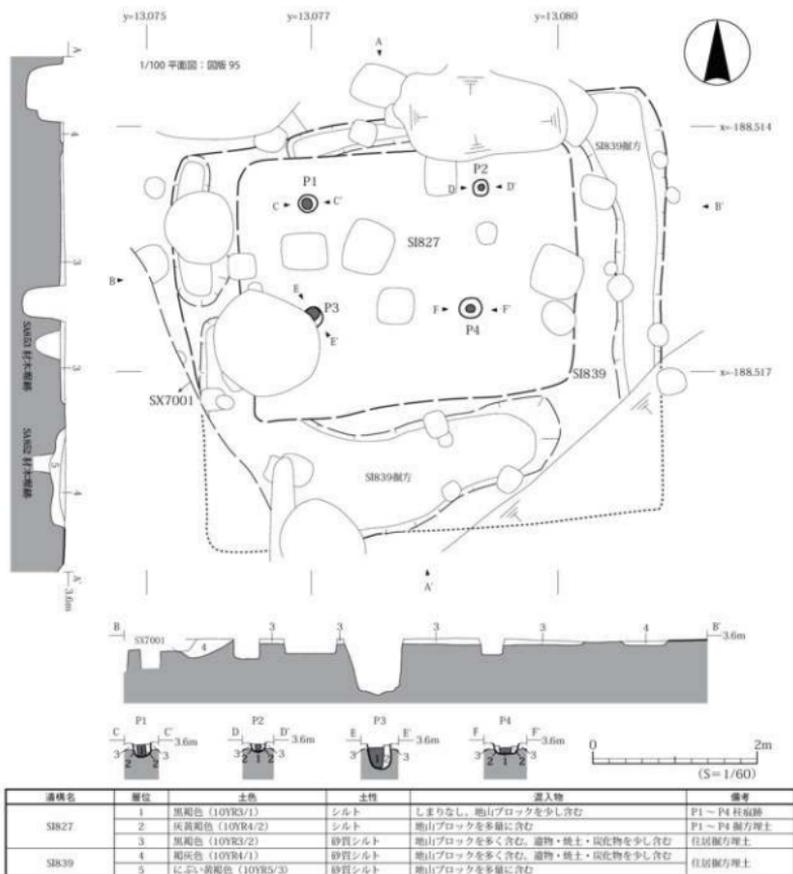
〔平面形〕東西4.1m・南北3.2mの長方形である。

〔床面〕掘方全体を黒褐色砂質シルトで埋め戻している。壁が残存していないこと、明確な硬化面がないこと、主柱穴が浅いことから、床面は削平されたと考えられる。

〔柱穴〕主柱穴4基を確認した(P1～P4)。住居全体からみて、北側よりに配置されている。掘方の平面形は円形もしくは楕円形で、規模は0.2～0.3m、深さは0.1～0.3mである。柱痕跡は径0.1～0.2mである。

〔方向〕南辺で測るとE-6°-Nである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器環・高環・甕、須恵器環・甕が出土した。土師器環・甕はロクロ調整を含み、須恵器環はヘラ切りである。



図版107 SI827・839竪穴住居跡1

**【SI839竪穴住居跡】** (図版95・107・108)

調査区北東隅付近で確認した。壁は削平で残存しないが、溝状の掘方が長方形に巡ることから住居跡と判断した。周溝・柱穴・カマド・付属施設は確認していない。

〔重複〕(古) SA852・853

(新) SB7035・7106・7154、SE798、SI827、SK779、SF809、SX7001

〔平面形〕東西5.9m・南北5.1mの長方形である。

〔床面〕掘方を黄褐色砂質シルトで埋め戻している。壁が残存していないこと、明確な硬化面が認められないことから、床面は削平されたと考えられる。



SI827 完掘状況(南から)



SI827・839 完掘状況(南から)

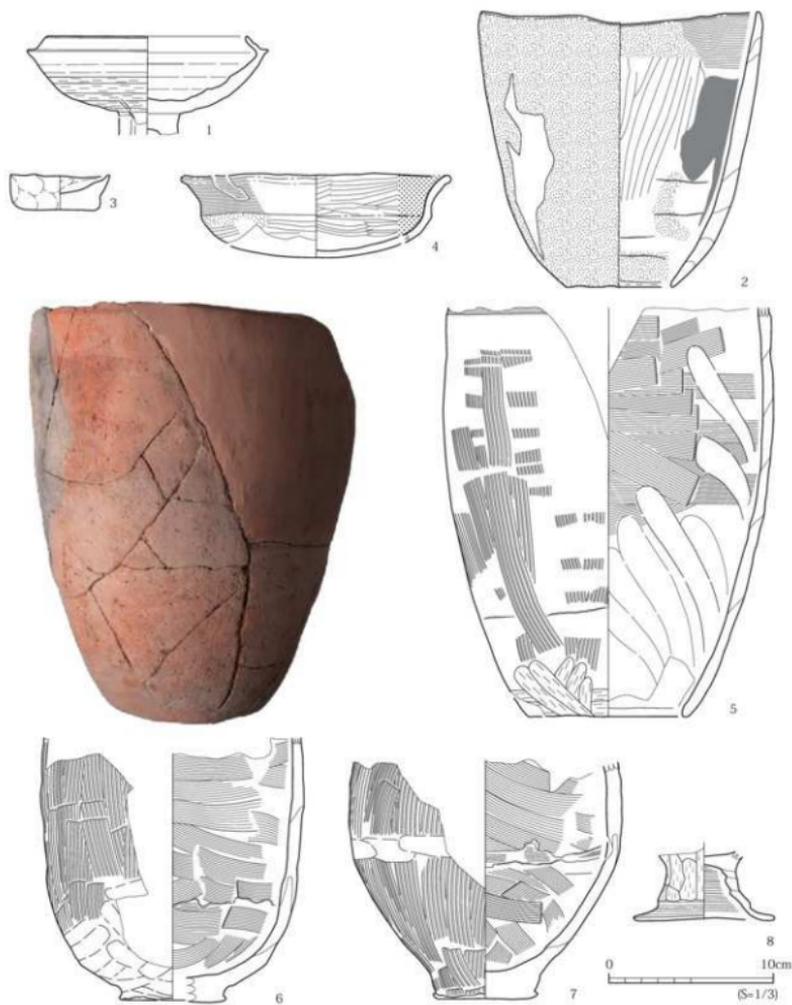
図版108 SI827・839竪穴住居跡2

〔方向〕北辺で測るとE-11°-Nである。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器杯・甕、須恵器杯・甕、灰釉陶器壺・埴か皿が出土した。灰釉陶器はいずれも猿投産である。破片のみで図示できるものはない。

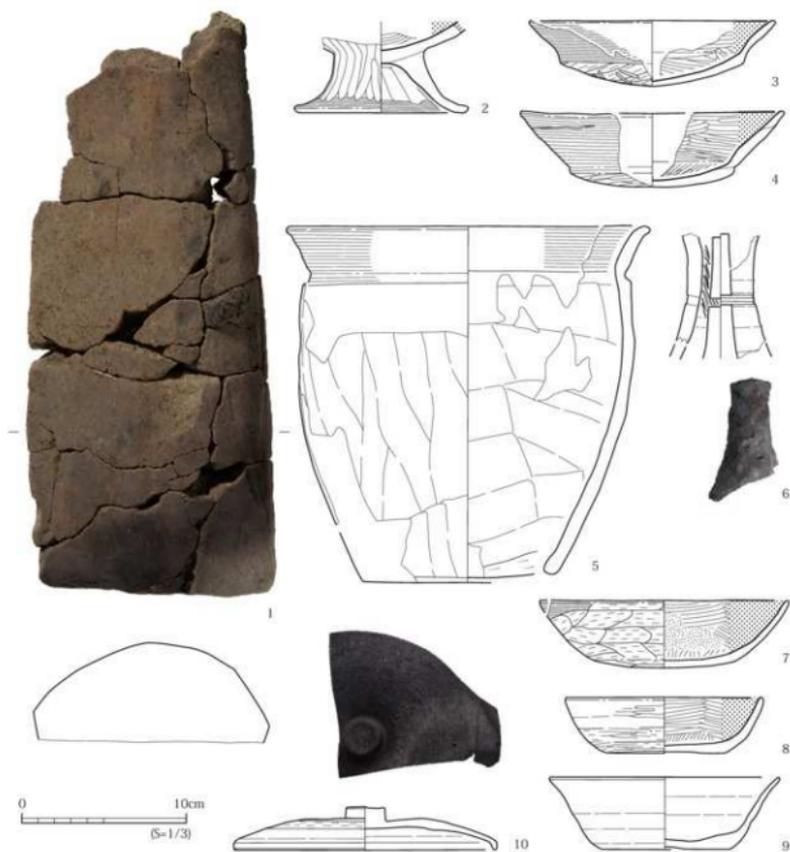
【その他の竪穴住居跡出土遺物】(図版109～111)

このほか、15棟の確認面から遺物が出土しており、主なものを図示している(SI705・715・716・737・884・886・7005・7043)。



No.	器種	遺構番号	層位	図章	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存	分類	備考	登録
1	須恵器・高杯	SI705	確認層	外面：[環] ロクロナデ→斜線ヘラケズリ [器] ロクロナデ→方形 文カクシ 内面：[環] ロクロナデ→同心円装ア分貝によるオサエ	(12.0)	—	—	1/3	—	TK200 流式用	5315
2	土師器・甕	SI705	確認層	内面：ヨコナデ→ヘラケズリ・ヘラミガキ	(17.4)	—	16.8	1/4	B	鉄煎、無底	1426
3	土師器・ミニチュア	SI715	確認層	内外面：ナデ・オサエ	6.0	4.2	2.2	完整	—	片形	5001
4	土師器・杯	SI715	確認層	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(16.4)	—	4.3	1/6	A2		1628
5	土師器・甕	SI715	確認層	外面：ハケメ→ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヘラナデ→ナデ	—	(9.8)	—	1/3	B	深鉢形、無底	5002
6	土師器・大型甕	SI716	確認層	外面：ハケメ→ナデ 内面：ヘラナデ	—	(6.4)	—	1/4	—		5004
7	土師器・大型甕	SI716	確認層	外面：ハケメ→ナデ 内面：ヘラナデ 底部に本墨色	—	6.4	—	1/5	—		5003
8	土師器・高杯	SI737	確認層	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：[環] ヘラミガキ→黒色処理 [器] ヨコナデ	—	8.6	—	1/2	A		5005

図版109 SI705・715・716・737竪穴住居跡出土遺物



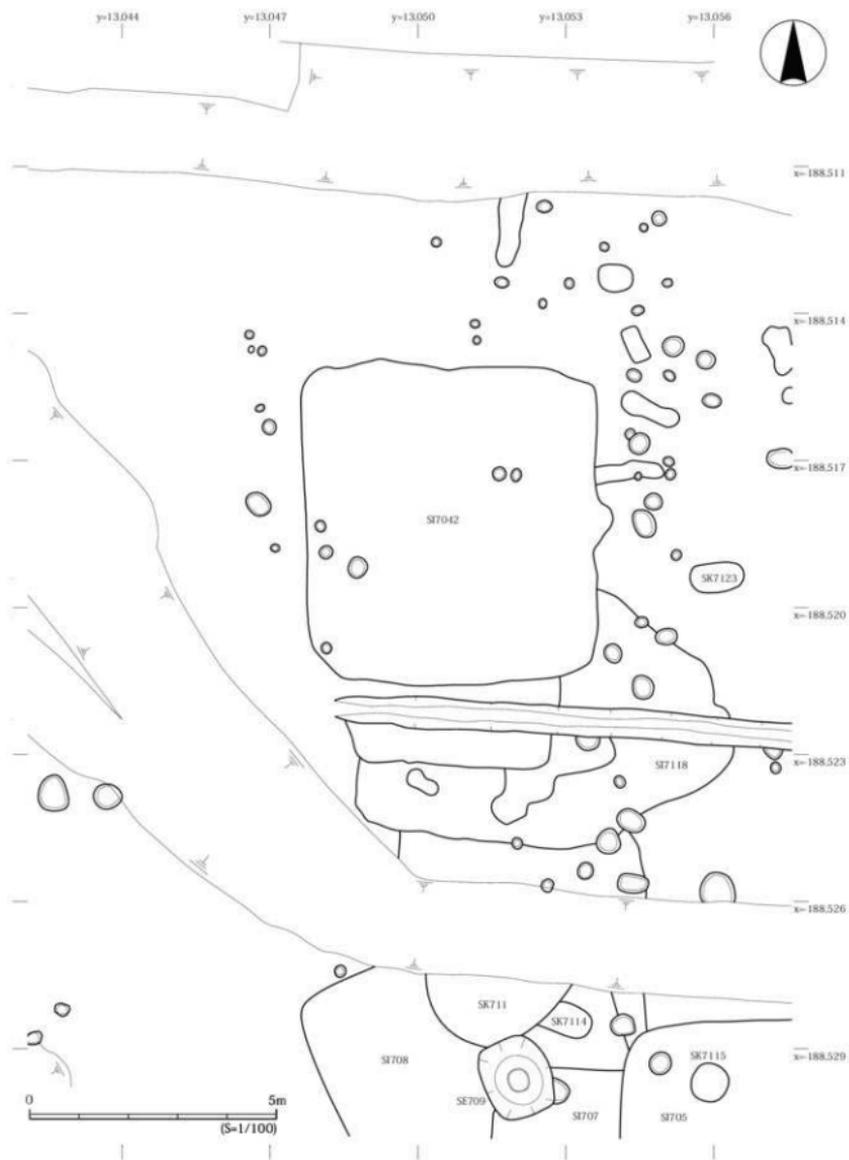
No.	器種	遺構番号	層位	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	分節	備考	登録
1	石製品・カマド 焼造材	S1884	確認層		-	-	-	-	-	石材：黒沢川 造寸：1200.0g	1629
2	土師器・高坏	S1886	確認層	外面：ヘラミガキ 内面：[环]ヘラミガキ→黒色処理 [脚]ヨコナデ・ナデ	-	(10.6)	-	1/4	-		5187
3	土師器・环	S1886	確認層	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(14.8)	-	4.0	1/3	B1		5021
4	土師器・环	S1886	確認層	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(16.0)	-	(5.0)	1/4	B1		5022
5	土師器・甕	S1886	確認層	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ→ナデ 内面：ヨコナデ・ヘラケズリ	(21.6)	-	22.9	3/4	B	鉢形、無底	5023
6	須恵器・高坏	S17005	確認層	外面：ロクロナデ→洗刷→方形スカシ	-	-	-	一部	-	洗刷2段スカシ	1632
7	土師器・环	S17043	確認層	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(15.2)	-	4.1	1/4	-		1633
8	土師器・环	S17043	確認層	外面：ロクロナデ→洗刷→ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底部：静止糸切り→洗刷→ヘラケズリ	12.0	7.2	3.3	2/3	-		1635
9	須恵器・环	S17043	確認層	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	(14.0)	(7.6)	4.4	1/4	-		1636
10	須恵器・甕	S17043	確認層	外面：ロクロナデ→洗刷→ヘラケズリ→ツマミ貼付→ナデ 内面：ロクロナデ	(15.8)	-	2.6	1/4	-	陶宝珠ツマミ 径2.4cm	1634

図版110 S1884・886・7005・7043竪穴住居跡出土遺物



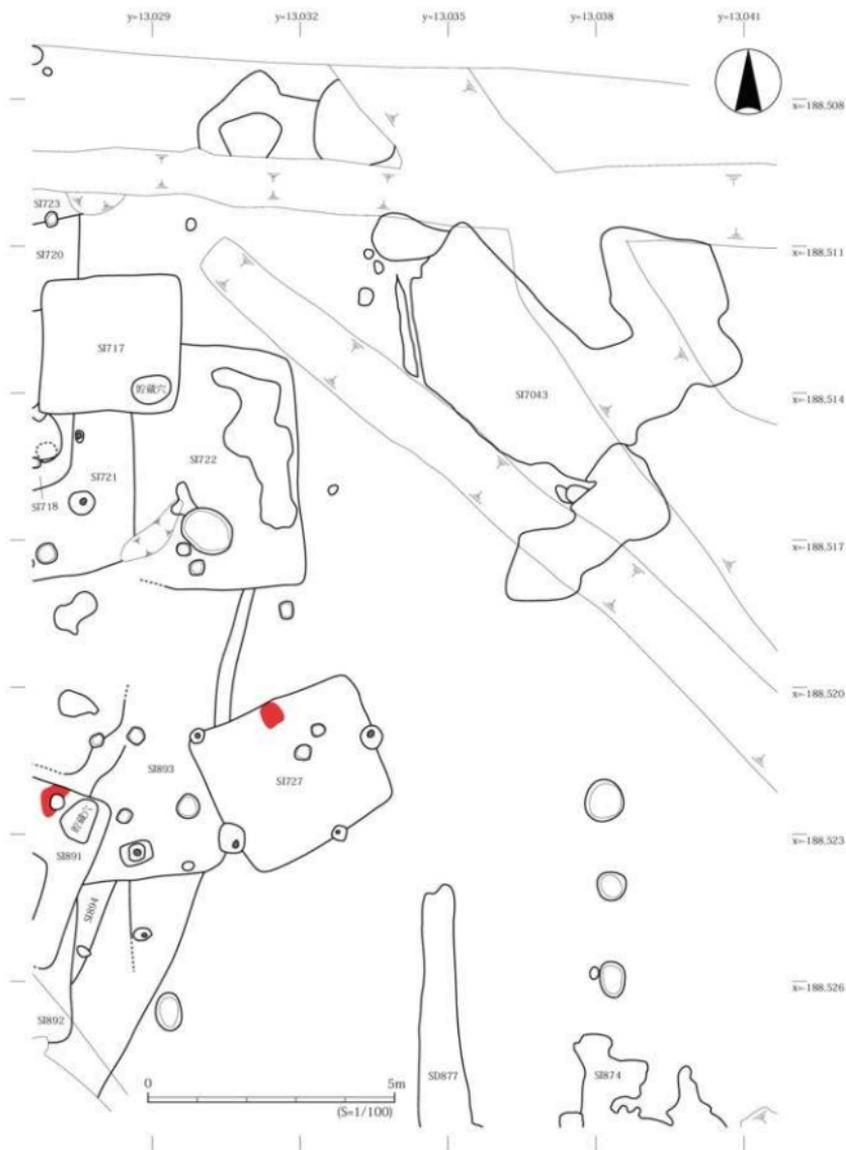
※109・110は図版109・110を指す

図版111 S1705・715・716・737・886・7043竪穴住居跡出土遺物

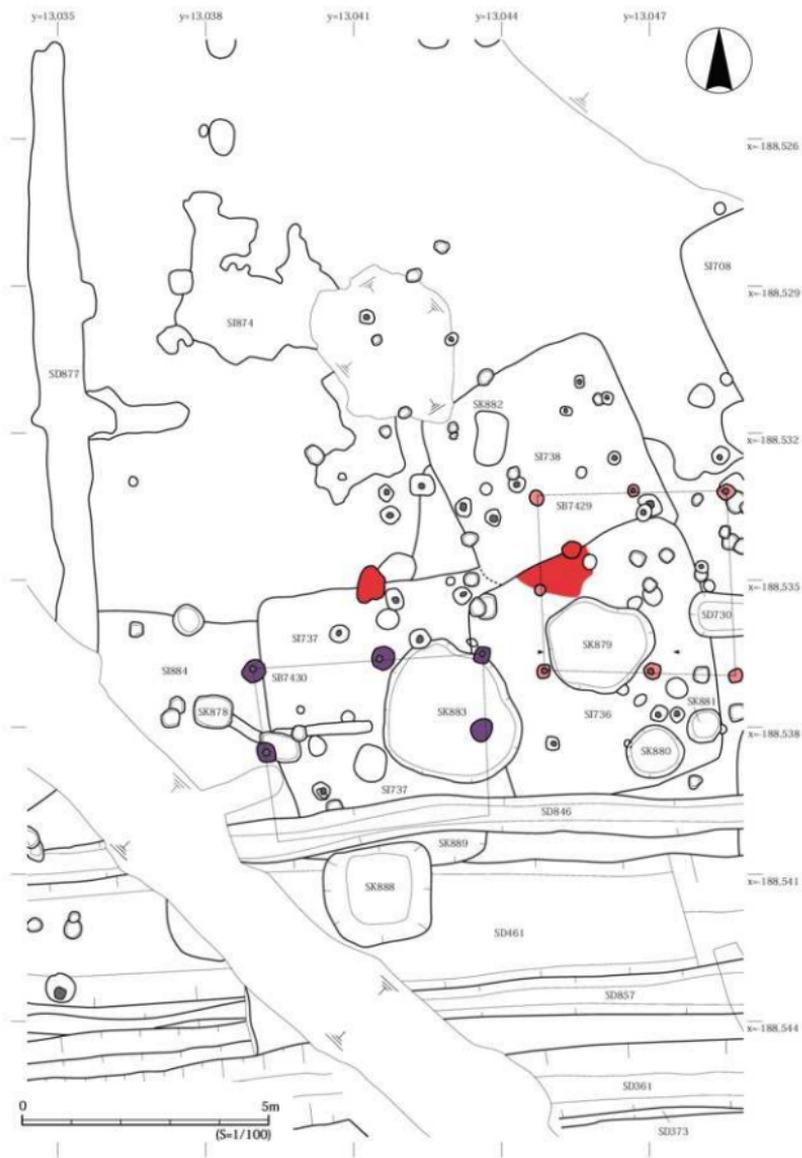


図版112 D区平面図11

(D区の図割は図版64を参照)



図版113 D区平面図12



図版114 D区平面図13

遺構名	調査	平面形	規模 (m) 東西×南北	方向/計測辺	深	主柱 (m)			カマド			施設	新旧関係	出土遺物	階層 平面 断面		
						敷	対面跡/礎礎穴	位置	積層材	本体	煙道						
Sf705	確認	正方形	5.1×4.9	N-1°-E/西	-	-	-	-	-	-	-	-	Sf708→Sf706・707 →Sf705	[礎] 土師器口クロ付・ 17号口壺・甕、須恵器 高坏 (TK209 京式期) ・煎餅壺、煎餅	18・ 37・ 112	-	
Sf706	確認	正方形	5.7×4.5	N-2°-E/東	-	-	-	-	-	-	-	-	Sf708→Sf707・ 736→Sf705		18・ 37	-	
Sf707	確認	正方形	2.7×3.4	N-7°-E/西	-	-	-	-	-	-	-	-	Sf708→Sf707→ Sf705→Sf709	[礎] 土師器坏・甕(礎)・ 須恵器坏 (Ff G・礎)	18・ 112	-	
Sf708	確認	長方形	6.0×4.7	N-24°-W/西	-	-	-	-	-	-	-	-	Sf708→Sf707・ SK711→SE709		18・ 112	-	
Sf713	確認	-	2.2×3.5	N-14°-W/西	-	-	-	-	-	-	-	-	Sf713→SE712→ SD730	[礎] 土師器坏・蓋・ 甕(礎)・須恵器坏・ 甕(礎)	18	-	
Sf715	確認	-	1.8×4.9	N-13°-E/東	掘方埋土	-	-	-	-	-	-	-	Sf716→Sf715→ SB1605→SB7086・ 7153→SD745	[礎] 土師器有段丸底 坏・甕・無底甕・ミニ テラコ、須恵器坏・甕 (礎)	93	-	
Sf716	確認	正方形?	4.3×5.6	N-6°-W/東	-	-	-	-	-	-	-	-	Sf716→Sf715→ SB1605→SB1606・ 7086・7153→SD745	[礎] 土師器坏・大型甕・ 甕、須恵器坏(礎)	93	-	
Sf717	確認	正方形	2.8×2.8	N-1°-E/西	掘方埋土	-	-	-	-	-	-	前礎穴	Sf718・722→ Sf720・721→Sf717	[礎] 土師器坏・甕(礎)・ 扇灰岩切片	113	-	
Sf718	確認	長方形	5.0×3.7	N-6°-W/西	掘方埋土	-	-	-	-	-	-	北辺 中央?	Sf720→Sf719・721 →Sf718→Sf717・ SB1606→SA7433→ SB7153	[礎] 土師器坏・甕(礎)・ 須恵器坏・蓋・甕(礎)	93・ 113	-	
Sf719	確認	台形	5.0×4.9	N-6°-W/西	掘方埋土	-	-	-	-	-	-	北辺 中央	前礎穴 (北東 側)	Sf720→Sf719・721 →Sf718→Sf717・ SB1606→SA7433→ SB7153		93	-
Sf720	確認	-	3.7×3.9	N-10°-E/西	掘方埋土	-	-	-	-	-	-	-	Sf720→Sf719・721 →Sf718・723→ Sf717→SB1606・ SA7433→SB7086・ 7153		93・ 113	-	
Sf721	確認	正方形?	3.9×3.3	N-1°-W/東	-	-	-	-	-	-	-	-	Sf722→Sf721→ Sf717		93・ 113	-	
Sf722	確認	正方形?	3.3×5.0	N-4°-W/東	掘方埋土	-	-	-	-	-	-	-	Sf718・722→Sf721 →Sf717		113	-	
Sf723	確認	-	1.6×0.8	N-12°-W/西	-	-	-	-	-	-	-	-	Sf720→Sf723→ SB7153		93・ 113	-	
Sf727	確認	長方形	3.6×3.1	N-29°-W/西	-	-	-	-	-	-	-	北辺 中央	SB893→Sf727		113	-	
Sf736	確認	長方形	4.8×5.2	N-16°-W/西	-	-	-	-	-	-	-	北辺 中央	Sf737→Sf738→ Sf736→SK879・ 880→881・883・ SB7429・7430・ SD730・846		114	-	
Sf737	確認	正方形?	5.0×4.7	N-12°-W/西	-	-	-	-	-	-	-	北辺 中央	SB884→Sf737→ Sf738→Sf736→ SK883→SB7429→ SD846	[礎] 土師器坏・高坏・ 甕(礎)	114	-	
Sf738	確認	正方形	4.2×4.3	N-24°-W/東	-	-	-	-	-	-	-	-	Sf737→Sf738→ SK882→Sf736→ SB7429		114	-	
SB821 A・B	完復	正方形	4.0×4.0	N-4°-W/西	A: 掘方埋 土B: 扇灰	4	丸	0.1	×	北辺 中央	地山	突出	前礎穴 埋設脚 柱 (A)	SB824→SB821→ SB7155→SD841→ SB7094→SB7012・ 7126・7428→SD707 →SD796	[A 期] 石製ヒスイ 丸玉 [B 期] 土師器坏・ 高坏・鉢・小空甕・人 字蓋・甕、須恵器 片状土製品、扇灰石 片	96・ 100	100
SB823	完復	長方形	3.6×3.2	N-4°-W/西	掘方埋土・ 地山	0	×	×	-	-	-	-	SB823→SB7030	[製埋] 土師器坏・甕・ 須恵器坏・甕(礎) [埋] 土師器坏・甕、須恵器 甕	96・ 105	105	
SB824	確認	長方形	5.9×6.1	N-9°-W/西	-	-	-	-	-	-	-	-	SB824→SB821→ SB7155→SD841→ SB7094→SB7012・ 7126・7428・7030→ SB844→SK855→ SD797→SD796	[礎] 土師器甕	96	-	

表8-1 D区竪穴住居跡属性表1

遺構名	調査	平面形	規模 (m) 東西×南北	方向/計測法	床	支柱 (m)		カマド			施設	新旧関係	出土遺物	調査	
						数	片数跡/礎石数穴	位置	構築材	本体				煙道	平面
SB25	確認	長方形	6.1×13.4	N-6° E/東	-	-	-	-	-	-	-	SB26・SB7111→ SB7131→SB25→ SD796		95・ 96	-
SB26	確認	-	1.9×2.5	N-3° W/西	-	-	-	-	-	-	-	SB26→SB25→ SB7106	「罎」土師器ロウロフ・ 高坪・甕(破)、須恵 器杯・甕(破)	95	-
SB27	完備	長方形	4.1×3.2	E-6° N/南	掘方埋土	4	長 7.01 ～0.2	×	-	-	-	SB252・853→SB239 →SB227・SX7001→ SB7154→SB7035・ 7106・SB798	「甕」土師器ロウロフ 杯・ロウロフ・高坪・ 須恵器杯・甕(破)	95・ 107	107
SB30	完備	長方形	5.9×5.1	E-11° N/北	掘方埋土・ 地趾	-	-	-	-	-	-	SB252・853→SB239 →SB227・SX7001→ SB7154→SB7035・ 7106・SB798・SK779 →SB809	「甕」土師器杯・甕・ 須恵器杯・甕、灰釉陶 器器・陶方蓋(筒形蓋)	95・ 107	107
SB74	確認	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	114	-
SB84	確認	-	3.3×4.1	-	掘方埋土	-	-	-	-	-	-	SB884→SB737・ SB877・SB7430・ SB878	「罎」土師器多孔式甕 (破)、扇灰切石管管 マド構築材	114	-
SB85	確認	-	1.0×2.2	N-5° W/西	-	-	-	-	-	-	-	SB885→SB885→ SD730	「罎」土師器回転車切 杯・甕・甕・ミニチ ア、須恵器杯・甕・ (破)、丸瓦(破)	18	-
SB86	確認	正方形?	4.1×2.9	N-1° W/西	-	-	-	-	-	-	-	SB886→SB885・ SD461・846→SK7028	「罎」土師器有段丸瓦 杯・甕・高坪	18	-
SB90	確認	正方形	3.8×3.4	N-23° E/東	-	-	-	-	-	-	-	SB891→SB890→ SK876	-	93	-
SB91	確認	長方形	4.4×3.6	N-21° E/東	掘方埋土	-	-	北辺 中央	-	-	貯蔵穴	SB894→SB892・893 →SB891→SB1607・ SB890→SK876	-	93・ 113	-
SB92	確認	-	1.9×2.8	N-2° E/東	掘方埋土	-	-	-	-	-	-	SB894→SB892・893 →SB891→SB890→ SB1607・SB876	-	93・ 113	-
SB93	確認	-	2.7××	E-6° N/南	-	-	-	-	-	-	-	SB894→SB893→ SB727・891	-	113	-
SB94	確認	-	0.6×2.3	N-23° E/東	-	-	-	-	-	-	-	SB894→SB892・893 →SB891	-	113	-
SB7005	確認	正方形?	3.0×5.9	-	-	-	-	北辺 中央	-	-	-	SB7005→SB7156・ 7159・7040→ SD733・734・743→ SD732→SD741→ SD730	「罎」土師器杯・甕(破)・ 須恵器杯・高坪	97	-
SB7042	確認	正方形	5.9×6.6	N-2° W/西	-	-	-	東辺 中央	-	-	-	SB7118→SB7042	「罎」土師器杯・甕(破)	112	-
SB7043	確認	-	5.7×5.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	「罎」土師器杯・甕(破)・ 須恵器杯・甕(破)	113	-
SB7118	確認	-	7.7×4.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	「罎」土師器甕	112	-
SB7432	確認	正方形	2.6×2.7	N-2° W/西	掘方埋土	-	-	-	-	-	-	-	SB7432→SB1605・ 1606	93	-

※規模が不明なものは、数値に→を加えている

※カマド本体が住居内部にあるものを内側、外へ張り出すものを外側とする

※長さの90m以上を長押道、0.7m以下を埋押道とする

※(出土遺物)「罎」：高脚深盆出上土、「甕」：磨光土出上、「罎」：磁石資料

※遺構の新旧関係で、SD100・2050B 沖田跡を覆う SX7001・7025・7026・7033 惣地層が認められた場合、相違を避けるため SD100・2050B は省略している

表 8-2 D区堅穴住居跡属性表 2

## 6. 堅穴建物跡

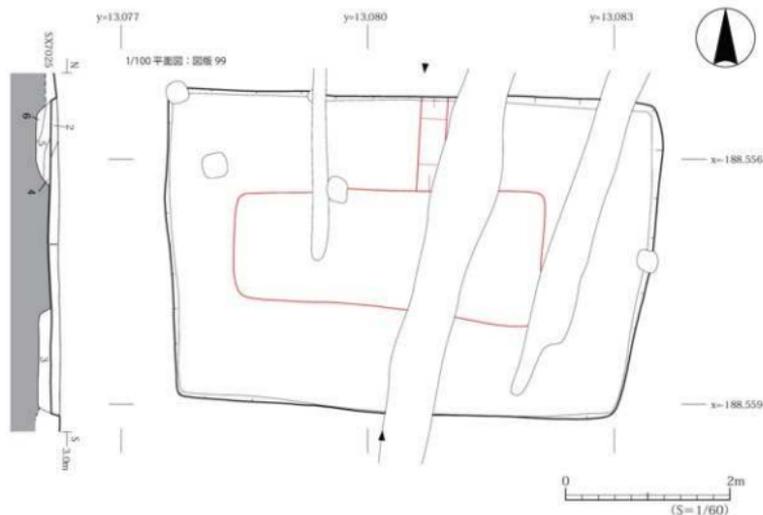
1棟確認した。平面形は長方形であるが、カマドや炬燵などの施設が認められないことから、堅穴住居跡とは区別している。

### 〔SX7013堅穴建物跡〕(図版99・115)

調査区中央南側にあり、SX7025 整地層を掘り込む。周溝などの付属施設は認められない。

〔重複〕(古) SD100、SX7025 (新) SD731・732・739

〔平面形〕東西6.1m・南北4.0mの長方形である。



SX7013南北断面(東から)



SX7013全景(北西から)

層位	土色	土性	遺人物など	備考
1	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	炭化物や遺物を多く含む	自然堆積土
2	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト		
3	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを多く含む	掘り埋土
4	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを含む	
5	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト		
6	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト		

図版115 SX7013竪穴建物跡

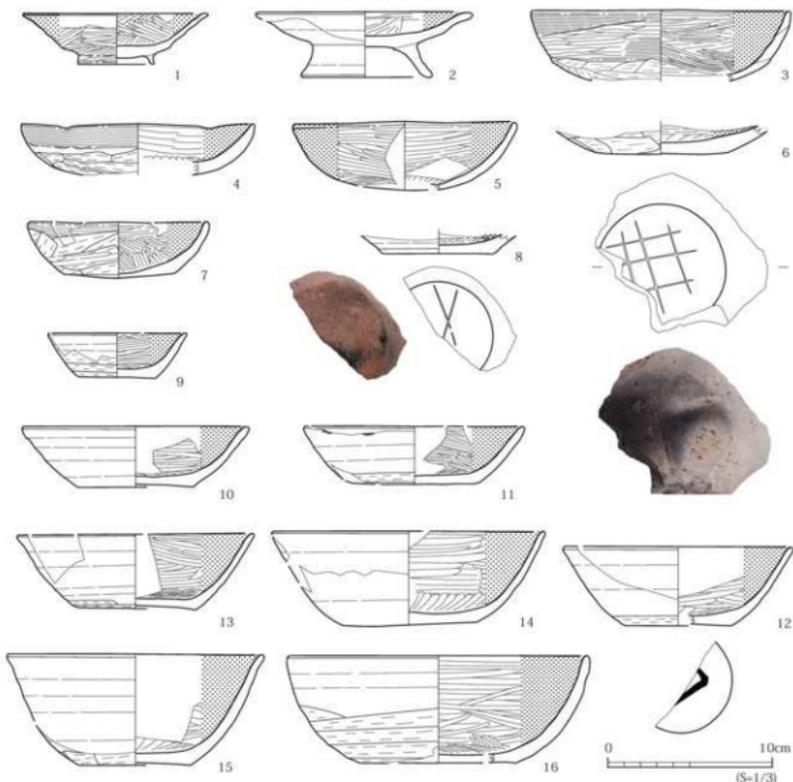
〔壁〕 0.1m残存する。

〔床面〕 建物の壁に沿って溝状の掘方を掘り、暗褐色～灰黄褐色の粘土質～砂質シルトで埋め戻し、建物中央はSX7025整地層を床としている。

〔方向〕 北辺で測るとE-1°-Sである。

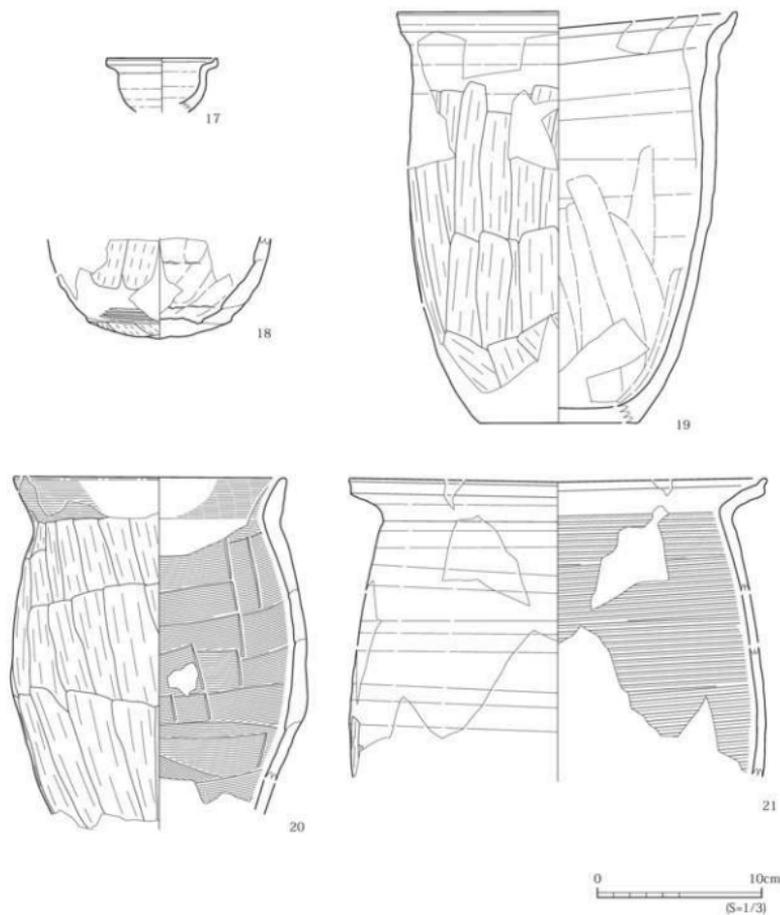
〔出土遺物〕 (図版116～123)

堆積土から土師器高台皿 (1・2)・杯 (3～16)・高台杯・蓋・小型鉢 (17)・大型甕 (19～21)、製塩土器深鉢 (18)、須恵器杯 (23・26～32・35)・高台杯 (25・33)・双耳杯 (22)・埴 (34)・蓋



No.	名称	層位	図説	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存	備考	登録
1	土師器・高行皿	埴	内外面：ロウロナデ→ヘラミガキ→黒色処理	(11.2)	(4.5)	3.1	2/3	内面に漆付着	1426
2	土師器・高行皿	埴	外面：ロウロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底部：回転糸切り→高行刷付	(12.2)	7.5	3.8	完形	高脚	1483
3	土師器・平	埴	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(15.0)	—	—	1/4		1421
4	土師器・平	埴	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(14.0)	—	—	1/4		1417
5	土師器・平	埴	内外面：ヘラミガキ→黒色処理	13.4	—	4.1	完形		1476
6	土師器・平	埴	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	—	(7.8)	—	1/4	底部に格子状のヘラ書き	1478
7	土師器・平	埴	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(10.8)	(6.6)	3.4	1/4		1423
8	土師器・平	埴	外面：ロウロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底部：回転糸切り	—	(6.6)	—	一部	底部に刻痕「×」	1425
9	土師器・平	埴	外面：ロウロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底部：切り磨し不明→回転ヘラケズリ	8.2	4.7	2.7	完形		1422
10	土師器・平	埴	外面：ロウロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底部：切り磨し不明→手持ちヘラケズリ	(13.6)	7.0	3.7	1/4		1420
11	土師器・平	埴	外面：ロウロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底部：切り磨し不明→回転ヘラケズリ	13.2	7.8	3.5	2/3	口縁部に油埋付着	1416
12	土師器・平	埴	外面：ロウロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底部：回転ヘラケズリ	(13.8)	(6.4)	4.8	1/4	底部に墨書「□」	1424
13	土師器・平	埴	外面：ロウロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底部：切り磨し不明→回転ヘラケズリ	14.2	7.2	4.6	2/3	胎上に金雲母片付	1419
14	土師器・平	埴	外面：ロウロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底部：回転糸切り	(15.8)	7.8	5.6	2/3		1482
15	土師器・平	埴	外面：ロウロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底部：切り磨し不明→手持ちヘラケズリ	(15.4)	6.6	6.7	1/3		1418
16	土師器・平	埴	外面：ロウロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底部：切り磨し不明→回転ヘラケズリ	(18.0)	(9.6)	6.5	1/3		1415

図版116 SX7013竪穴建物跡出土遺物 1



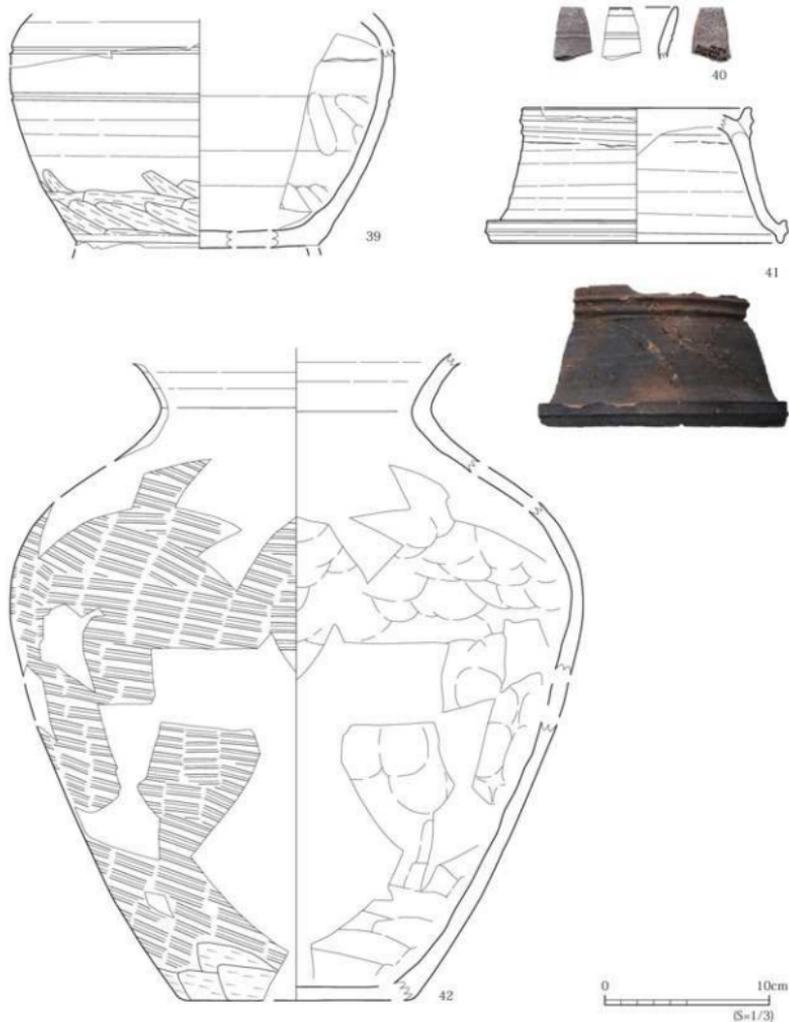
No.	器種	層位	調整	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	図録
17	土師器・小平鉢	Ⅲ	内外面：ロクロナデ	(6.6)	—	—	一部	胎土に海綿面付斜を含む	1427
18	製瓦土器・浅鉢	Ⅲ	外面：ハケメ・ヘラケズリ 内面：ナデ	—	—	—	一部		1477
19	土師器・大型鉢	Ⅲ	外面：ロクロナデ・ヘラケズリ 内面：ロクロナデ・ナデ	(21.4)	(9.4)	25.1	2/3		1430
20	土師器・大型鉢	Ⅲ	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ 内面：ヨコナデ・ヘラナデ	(16.4)	—	—	2/3		1429
21	土師器・大型鉢	Ⅲ	外面：ロクロナデ・ヘラケズリ 内面：ロクロナデ・カキメ・ナデ	(25.0)	—	—	1/3		1428

図版117 SX7013竪穴建物跡出土遺物 2



No.	器種	層位	図型	口徑 (cm)	底徑 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
22	須恵系・瓦口環	埴	外面：〔把手〕ナデ→ヘラケズリ 内面：〔環〕ロクロナデ	—	—	—	一部		1439
23	須恵系・環	埴	内外面：ロクロナデ 底部：切り難し不明→臼焼ヘラケズリ	—	—	—	一部	器底残存。底部に割痕「上」	1441
24	須恵系・蓋	埴	外面：ロクロナデ→臼焼ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	15.8	—	1.8	完整	形状ツマミ：径 3.7cm	1452
25	須恵系・高内弁	埴	内外面：ロクロナデ→ヘラミガキ	(13.4)	—	—	1/4	ミガキ半須恵系	1442
26	須恵系・環	埴	内外面：ロクロナデ 底部：切り難し不明→臼焼ヘラケズリ	(13.6)	(7.6)	3.8	1/2	上部に巻ね付着痕	1434
27	須恵系・環	埴	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→手持ちヘラケズリ	13.4	6.5	3.3	1/3		1437
28	須恵系・環	埴	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	12.4	7.2	3.8	2/5		1432
29	須恵系・環	埴	内外面：ロクロナデ 底部：切り難し不明→手持ちヘラケズリ	13.6	7.8	3.6	2/3	口縁部に抽押付着	1472
30	須恵系・環	埴	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	12.7	6.5	4.1	完整		1435
31	須恵系・環	埴	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	(13.2)	(5.6)	4.0	1/2	内外面：丸押	1431
32	須恵系・環	埴	内外面：ロクロナデ 底部：臼焼系切り	(13.2)	(5.8)	4.5	1/2		1433
33	須恵系・高内弁	埴	外面：ロクロナデ→臼焼ヘラケズリ 内面：ロクロナデ 底部：切り難し不明→臼焼ヘラケズリ→高台取付→ナデ	(17.6)	8.6	8.1	1/4		1438
34	須恵系・陶	埴	内外面：ロクロナデ 底部：臼焼系切り→手持ちヘラケズリ	—	7.2	—	1/4		1436
35	須恵系・環	埴	内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部	体部に割痕「口」	1440
36	須恵系・長須舌	埴	内外面：ロクロナデ	(10.1)	—	—	一部	大口章	1447
37	須恵系・長須舌	埴	内外面：ロクロナデ	(10.0)	—	—	一部	大口章。内外に自然釉	1465
38	須恵系・瓦口蓋	埴	外面：〔縁〕ロクロナデ→〔把手〕ナデ 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部		1450

図版118 SX7013竪穴建物跡出土遺物 3



No.	器種	層位	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
39	須恵系・壺	堆	外面：ロクロナデ・沈線→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ→ナデ 底部：手持ちヘラケズリ→底内貼付→ナデ	—	—	—	1/3		1455
40	須恵系・小型壺	堆	外面：ロクロナデ→沈線 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部		1473
41	須恵系・円筒壺	堆	内外面：ロクロナデ。スカシ・刷刺なし	—	(17.6)	—	1/4	内径部径：(13.6cm) 胴径：(10.2cm)	1454
42	須恵系・中壺	堆	外面：[□] ロクロナデ [底] 平行タタキ→ヘラケズリ 内面：[□] ロクロナデ [底] 無文アテ貼 底部：ヘラケズリ	—	(13.6)	—	1/2		1456

図版119 SX7013竪穴建物跡出土遺物 4

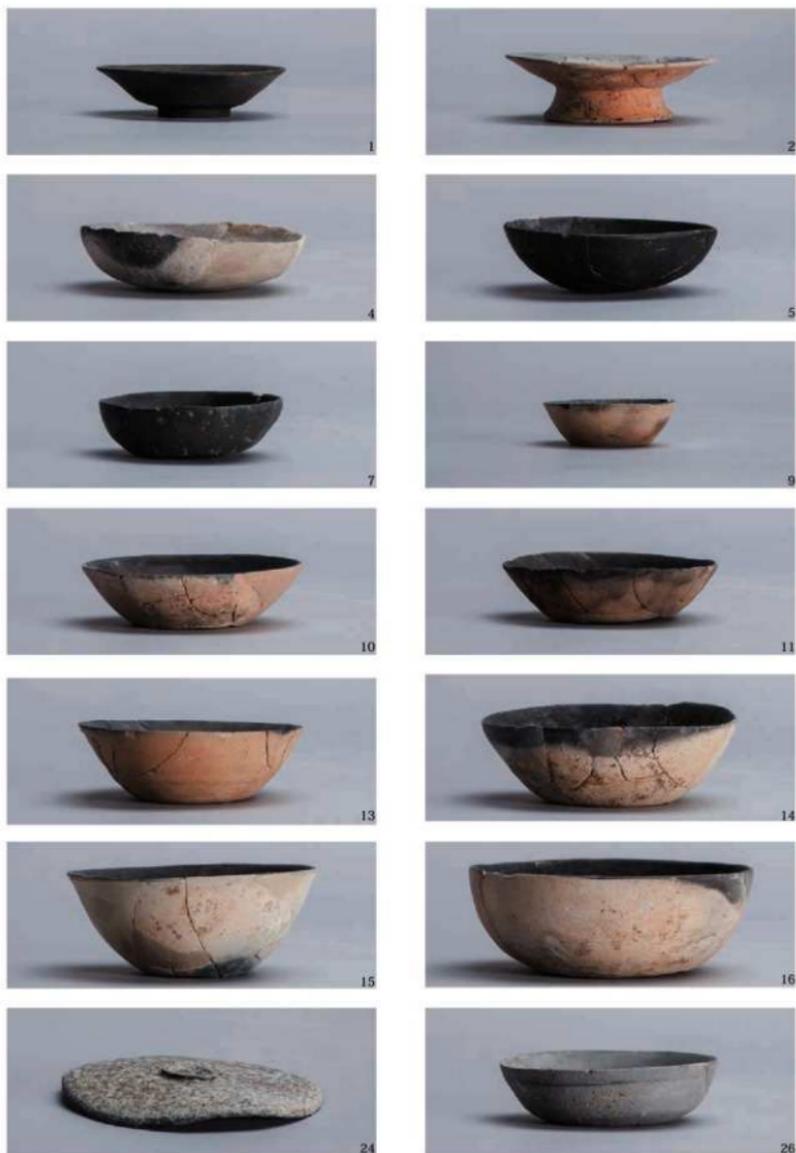
(24)・長頸壺(36・37)・把手付壺・双耳壺(38)・壺(39)・小型壺(40)・提瓶・中甕(42) 円面硯(41)・転用砥、灰釉陶器小型壺(43)・長頸壺(44・45)、土製品羽口(46)・土鍾(47)、軒丸瓦(48)・丸瓦・平瓦、砥石(49・50)、鉄滓などが出土した。これらの中には、SX7013が掘り込むSX7025整地層に帰属する遺物が含まれる。

土師器環・甕は非ロクロ調整のものとロクロ調整のものがある。ロクロ調整の環は回転ヘラケズリもしくは手持ちヘラケズリ調整のもの、回転糸切りのものがある。須恵器環はミガキ須恵器1点のほか、回転ヘラケズリ調整、ヘラ切り、回転糸切りが認められる。長頸壺は大戸産を含み、灰釉陶器長頸壺は猿投産、小型壺は東濃産である。円面硯は脚部に透かしが認められない。軒丸瓦は八葉重弁蓮花文で、多賀城第1期のものである。また、6の底面には格子状の刻書、8の底面に刻書「×」、23の底面に刻書「上」、12の底面や35の体部に墨書が認められる。特に23の須恵器環は胎土の特徴や器形、刻書の内容からみて大和町島屋窯跡群産の可能性がある(東北学院大学考古学研究部1975)。



No.	器種	層位	調整	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	残存	備考	登録
43	灰釉陶器・小型壺	埋	内外面:ロクロナデ 外面に物柄	—	—	—	一部	口径:(4.8cm)、高さ:—	1464
44	灰釉陶器・長頸壺	埋	外面:ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面:ロクロナデ	—	—	—	一部	胎土産、最大幅:(18.0cm)	1453
45	灰釉陶器・長頸壺	埋	内外面:ロクロナデ	—	—	—	一部	内外に台形筋	1463
46	土製品・羽口	埋	通気孔:無縁	—	—	—	一部	弥生文化・鉄器前	1468
47	土製品・土鍾	埋	外面:ナデ	—	1.7	—	2/3	口径:0.4~0.5cm	1469
48	瓦・軒丸瓦	埋		—	—	—	一部	多賀城1期、蓮弁蓮花文120、厚さ:2.0cm	1480
49	石製品・砥石	埋		4.2	3.3	—	—	重量:35.3g	1466
50	石製品・砥石	埋		9.5	4.8	1.8~3.8	—	重量:213.5g	1467

図版120 SX7013竪穴建物跡出土遺物 5



图版121 SX7013竖穴建物跡出土遺物 6



27



28



29



30



31



33



32



17



18

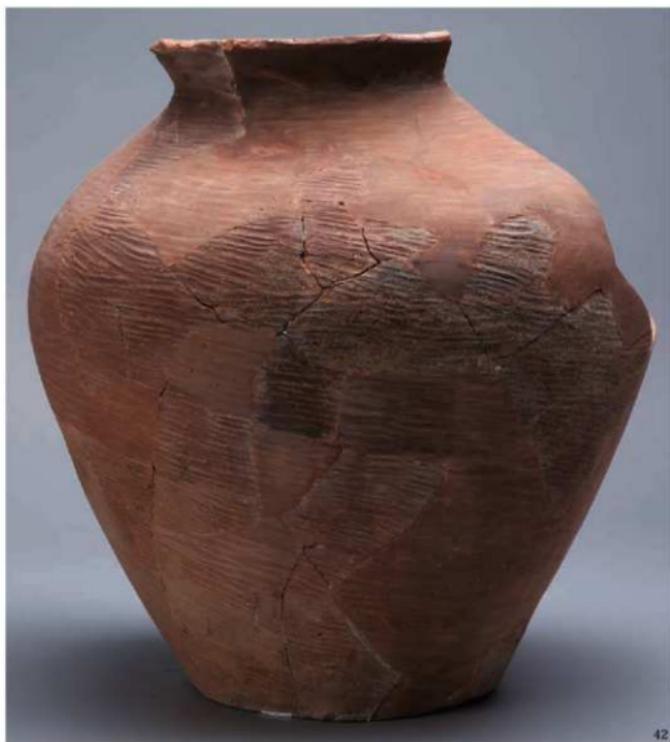


19



20

圖版122 SX7013豎穴建物跡出土遺物 7



圖版123 SX7013豎穴建物跡出土遺物 8

## 7. 井戸跡

5基確認した(SE709・712・798・837・844)。うち井戸側を有するものは3基、素掘りが2基である。平面形は隅丸方形・不整形長方形が2基、円形・不整形円形が3基である。断面形は椀形2基、逆台形が2基、不明1基である。属性は表9にまとめている。

### 〔SE709井戸跡〕(図版112・124)

調査区中央で確認した水溜部に曲物を据えた井戸跡である。

〔重複〕(古) S1707・708, SK711

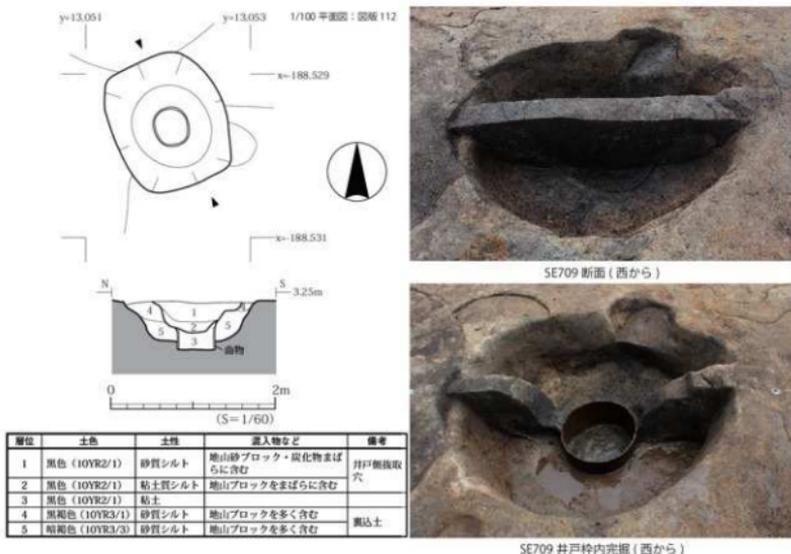
〔規模・堆積土〕1・2層が側抜取後の埋戻し土で、3層は側内部の自然堆積土である。

〔掘方〕掘方の規模は長軸1.6m・短軸1.4mで、深さは0.6mである。平面は隅丸方形で、断面は椀形である。裏込土(4・5層)は、地山ブロックを多く含む暗褐色と黒褐色の砂質シルトである。

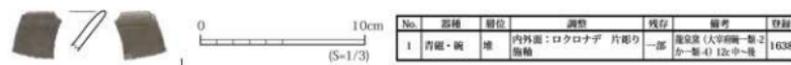
〔井戸側〕水溜部に曲物が据えられた。堆積土の状況から井戸側を有したと考えられるが、すべて抜き取られている。水溜部は掘方の中央に据えられており、掘方底面から0.1mほど下がる。

〔出土遺物〕(図版125)

裏込土から土師器杯・甕、須恵器杯・甕、3層から青磁碗、中世陶器甕が出土した。青磁碗は龍泉



図版124 SE709井戸跡



図版125 SE709井戸跡出土遺物

窯産で、内面の口縁近くに片彫りがされている。大宰府陶磁器分類における青磁碗1-2類か1-4類に比定でき、12世紀中頃～後半と考えられる（太宰府市教委2000）。中世陶器裏は常滑産である。このうち青磁碗（1）を図示した。

【SE712井戸跡】（図版18・126）

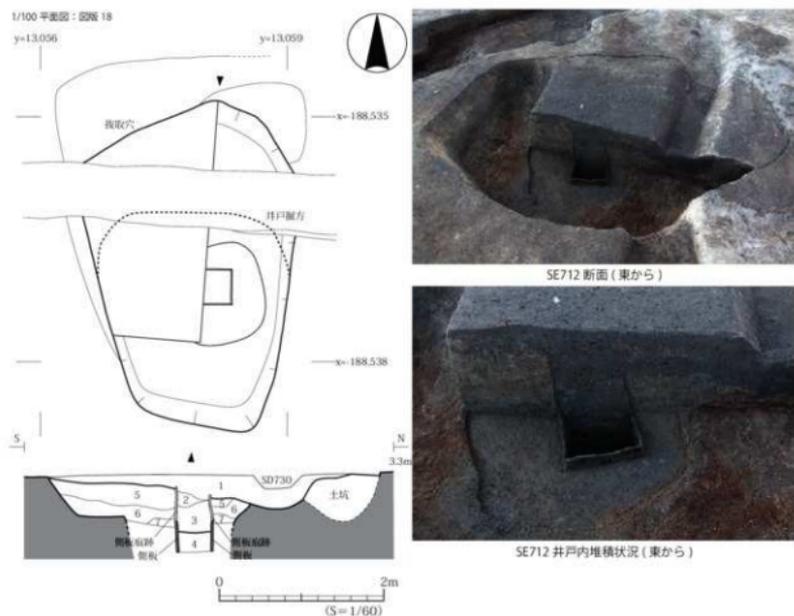
調査区中央で確認した側を有する井戸跡である。確認面から1.4m下げたところで、調査を止めたことから、詳細については不明である。

〔重複〕（古）SI713（新）SD730・741

〔規模・堆積土〕1～3層は側抜取後の埋戻し土で、4層は側内部の自然堆積土である。

〔掘方〕規模は長軸3.9m・短軸2.1mで、深さ1.1m以上である。平面形は不整形長方形で、断面形は漏斗形とみられる。裏込土（5～7層）は地山ブロックを含む褐色や暗褐色の粘土質シルトや砂である。

〔井戸側〕確認面から約0.6m下で正方形に組まれた側を確認した。側は各辺1枚ずつ縦板が組まれ



図版126 SE712井戸跡



No.	品名	層位	図説	口径 (cm)	深径 (cm)	器高 (cm)	残存	備考	登録
1	石製品・砥石	側取穴		—	—	—	—	長さ：5.9cm 幅：1.9cm 厚さ：1.2cm 重さ：22.8 g	1043
2	土師器・ニチュア	側取穴	外面：ナデ・オサエ 内面：ナデ・オサエ→黒色処理	7.2	—	5.5	完形	鉢形	1042
3	土師器・高盤	側内壁	内外面：ロクロナデ→ベタミヤネ→黒色処理	(13.8)	—	—	1/2		1039

図版127 SE712井戸跡出土遺物

ており、正方位を向く。内法は一辺が0.4mほどである。

〔出土遺物〕(図版127)

裏込土から土師器環・甕、須恵器環・甕、4層からは土師器高盤(3)・甕、側取穴から土師器ミニチュア(2)・環・高台環・甕、須恵器環・蓋・甕、砥石(1)が出土した。側取穴の須恵器環には回転糸切りが含まれる。

【SE798井戸跡】(図版95・128)

調査区北東部で確認した素掘りの井戸跡である。

〔重複〕(古) S1827・839

〔規模・堆積土〕掘方の規模は長軸1.3m・短軸1.2mの円形で、深さは1.1mある。平面形は円形で、断面形は逆台形である。堆積土は上層(1～3層)が黒色・黒褐色などの砂質シルト～粘土質シルトで、人為堆積である。中層(4～5層)は地山ブロックや遺物を含む砂質シルトで、人為堆積土である。下層(6～12層)は黒色・黒褐色の砂質シルト～粘土質シルトで、自然堆積である。したがって、機能時から廃絶後のある段階まで自然堆積したのち(下層)、土器等の廃棄を経て(中層)、埋戻しが行われた(上層)と考えられる。

〔出土遺物〕(図版129)

上層から土師器環・高台環・甕、須恵器甕、砥石(3・4)が出土した。中層から土師器環・甕、須恵器環・高台環・甕、赤焼土器小皿(1)、砥石(2)などが出土した。

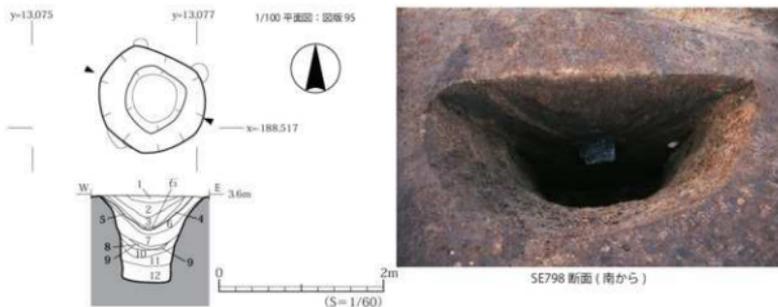
【SE837井戸跡】(図版95・130)

調査区北東部で確認した側を有する井戸跡である。側はすべて抜き取られている。

〔重複〕(古) SA853 (新) SB7035、SK836

〔規模・堆積土〕規模は長軸3.6m・短軸3.4mで、深さ1.8mである。平面形は円形とみられ、断面形は碗形である。2～20層は側取穴後の埋戻し土で、21・22層側内部の自然堆積土である。

〔掘方〕規模は一辺2.4mほどの方形とみられ、深さは1.5mである。裏込土(23～28層)は地山ブロックを含む褐色や暗褐色の粘土質シルトや砂である。



層位	土色	土性	遺入物など	備考
1	黒褐色 (2.5Y3/1)	砂質シルト	粘性なし。腐鉄を多く含む。土器片・炭化物・マンガンを含む	上層 (人為堆積)
2	黒色 (10YR2/1)	砂質シルト	粘性なし。腐鉄・マンガン・炭化物を含む	
3	黒色 (2.5Y2/1)	粘土質シルト	地山ブロック・腐鉄・マンガン・炭化物を含む	
4	黄褐色 (2.5Y5/3)	砂質シルト	粘性なし。地山ブロックを多く含む。腐鉄・マンガンを含む	中層 (人為堆積)
5	黒色 (2.5Y2/1)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む。腐鉄・マンガンを含む。中央底部に石が入っている	
6	黒色 (2.5Y2/1)	粘土質シルト	マンガン・腐鉄・炭化物・土器片を含む	下層 (自然堆積)
7	黒褐色 (10YR3/1)	砂質シルト	しまり・粘性なし。腐鉄を少し含む。炭化物を含む	
8	黒色 (2.5Y2/1)	粘土質シルト	しまり・粘性なし。グライ化した砂を少し含む	
9	黒褐色 (10YR3/1)	砂質シルト	しまり・粘性なし。炭化物をわずかに含む	
10	黒色 (10YR2/1)	砂質シルト	しまりなし。黒色粘土をブロック状に含む。地山ブロックを少し含む	
11	黒褐色 (2.5Y3/1)	粘土質シルト	しまり・粘性なし。グライ化した砂をブロック状に含む	
12	黒色 (2.5Y2/1)	粘土質シルト	しまり・粘性なし。グライ化した地山砂を少し含む	

図版128 SE798井戸跡



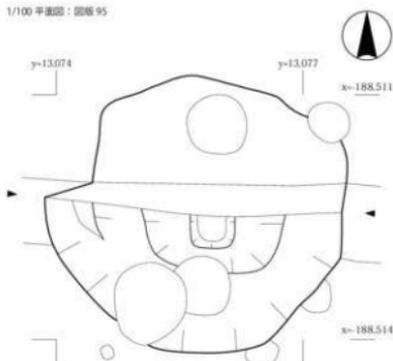
図版129 SE798井戸跡出土遺物

No.	器種	層位	特徴	登録
1	赤褐色土器・小皿	中層	内外：ロクロナデ 底高：10cm余り(薄し) 口径：6.9cm 底径：4.6cm 器高：1.6cm	5045
2	石製品・砥石	中層	磨面。長さ：8.9cm 幅：9.1cm 厚さ：2.8cm 重量：223.0g	5024
3	石製品・砥石	上層	磨面。カマド構築材転用(覆付跡)。長さ：20.7cm 幅：16.2cm 重量：1743.0g	5026
4	石製品・砥石	上層	長さ：11.5cm 幅：4.7cm 重量：162.7g	5025

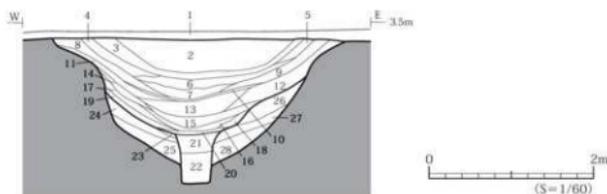
〔出土遺物〕(図版131)

側抜取穴から土師器環・甕、須恵器環・甕、赤焼土器小皿(1・2)・環、灰軸陶器碗(3)、丸瓦・平瓦などが出土した。土師器環や須恵器環は回転糸切りである。

1/100 平面図：図幅 95

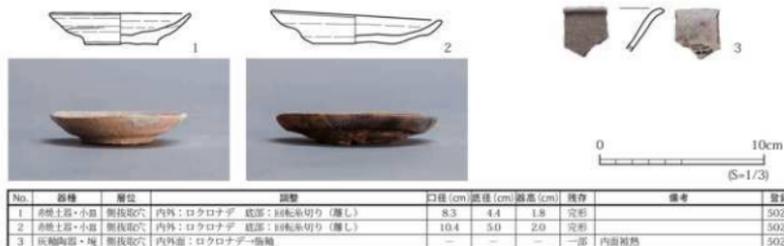


SE837 断面 (南から)



層位	土色	土性	遺入物など	備考
1				第1層
2	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	炭化物を少し含む。地山ブロックをわずかに含む	
3	黒色 (10YR2/1)	粘土	炭化物を少し含む	
4	暗褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	炭化物を少し含む。地山ブロックをわずかに含む	
5	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	砂質シルト	炭化物を少し含む。地山ブロックをわずかに含む	
6	黒褐色 (10YR3/1)	粘土	炭化物を少し含む	
7	黒褐色 (10YR2/2)	粘土	炭化物を少し含む	
8	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	砂質シルト	地山ブロック含む	
9	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	地山ブロック含む	
10	オリーブ褐色 (5Y3/2)	砂		
11	灰黄褐色 (10YR5/2)	砂質シルト	地山ブロック含む	井戸無縁取穴 (人為堆積)
12	灰オリーブ色 (7.5Y4/2)	砂質シルト	地山ブロック含む	
13	オリーブ褐色 (5Y3/1)	粘土	炭化物を少し含む	
14	暗オリーブ色 (5Y4/3)	砂質シルト	地山ブロック含む	
15	オリーブ褐色 (5Y2/2)	砂質シルト		
16	黒色 (5Y2/1)	砂		
17	灰色 (5Y4/1)	粘土	炭化物を少し含む。地山ブロックを多量に含む	
18	オリーブ褐色 (5Y3/1)	粘土質砂	炭化物を少し含む	
19	オリーブ褐色 (7.5Y3/1)	粘土質砂	地山ブロックを多量に含む	
20	オリーブ褐色 (7.5Y3/2)	粘土		
21	オリーブ褐色 (7.5Y2/2)	粘土質砂	炭化物を少し含む。地山ブロックを多量に含む	
22	灰色 (7.5Y4/1)	砂	炭化物を少し含む。地山ブロックを多量に含む	
23	オリーブ褐色 (7.5Y3/2)	粘土質砂	地山ブロックを多量に含む	
24	灰オリーブ色 (7.5Y4/2)	砂	地山ブロックを多量に含む	
25	灰オリーブ色 (7.5Y5/2)	砂	地山ブロックを多量に含む	
26	灰オリーブ色 (7.5Y4/2)	砂	地山ブロックを多量に含む	裏込土
27	オリーブ褐色 (7.5Y3/2)	砂	地山ブロックを多量に含む	
28	灰オリーブ色 (7.5Y3/2)	砂	地山ブロックを多量に含む	

図版130 SE837井戸跡



No.	器種	層位	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	赤焼土器・小皿	新長原6c	内外：ロケロナデ 底部：回転糸切り（磨し）	8.3	4.4	1.8	完形		5027
2	赤焼土器・小皿	新長原6c	内外：ロケロナデ 底部：回転糸切り（磨し）	10.4	5.0	2.0	完形		5028
3	灰陶器部・埴	新長原6c	内外面：ロケロナデ→面輪	—	—	—	一部	内面被熱	5029

図版 131 SE837井戸跡出土遺物



No.	器種	層位	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	須原西・埴	上層	内外：ロケロナデ 底部：回転糸切り	(14.5)	(7.1)	5.5	1/2		5034
2	須原西・埴	上層	内外面：ロケロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	(13.2)	(7.0)	3.3	1/4		5035
3	須原西・埴	上層	内外面：ロケロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ	(14.8)	(7.8)	3.6	1/4		5035
4	瓦・軒丸瓦	上層		—	—	—	1/6	多賀城1期：六雲庫作鐘花文11c。粘土に海綿骨針を含む。曲径：14.4cm 厚さ：4.5cm	5071

図版 132 SE844井戸跡出土遺物

## 【SE844井戸跡】（図版96・133）

調査区北東部で確認した素掘りの井戸跡である。

〔重複〕（古）SB7039・SJ824

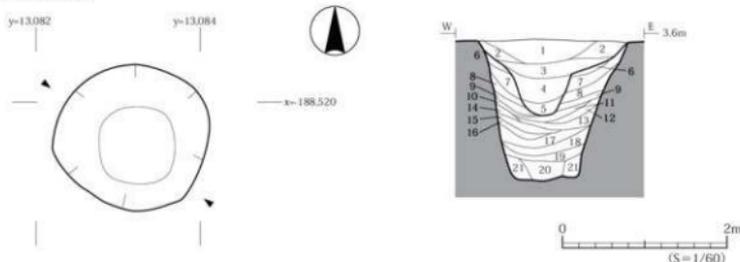
〔規模・堆積土〕規模は、長軸1.8m・短軸1.7m円形で、深さは1.8mである。堆積土は上層（1～5層）が、地山ブロック・炭化物を含む黒褐色・黄灰色などのシルト質粘土で人為堆積である。中・下層を掘り込み、層相も大きく異なることから、別遺構とみられる。中層（6・7層）は地山ブロックを含む黄灰色砂質シルトで人為堆積である。下層（8～21層）は黄灰色・暗オリーブ灰色などの砂とシルト質粘土の互層で、自然堆積と考えられる。

〔出土遺物〕（図版132）

上層から土師器杯・甕・甗・高杯、須恵器杯（1～3）・蓋・甕、黒曜石剥片、軒丸瓦（4）などが

出土した。須恵器環には回転系切りとヘラ切りが認められる。黒曜石は湯ノ倉産である。軒丸瓦は六葉重弁蓮花文で、多賀城第1期（多賀城分類112）である。

1/100 平面図：図版 95・96



層位	土色	土質	遺人物など	備考
1	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	炭化物・遺物を多く含む。焼土を少し含む	上層 (明確構文)
2	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	砂質シルト	地山アロックスを多く含む	
3	黄灰色 (2.5Y4/1)	砂質シルト	しまりなし。炭化物を多く含む。地山ブロックを少し含む	
4	黒褐色 (2.5Y3/1)	シルト質粘土	しまりなし。炭化物を少し含む。部分出土	
5	オリーブ褐色 (5Y3/1)	シルト質粘土	しまりなし。ややグライ化。炭化物を少し含む	
6	黄灰色 (2.5Y4/1)	砂質シルト	地山ブロックを多く含む。炭化物を少し含む	中層 (人為堆積)
7	黄灰色 (2.5Y4/1)	砂質シルト	地山ブロック・粗砂を多く含む	
8	灰色 (5Y4/1)	砂質シルト	グライ化した地山砂を多く含む	
9	オリーブ褐色 (5Y3/1)	シルト質粘土	スクモ・炭化物を少し含む	
10	暗オリーブ灰色 (2.5Y4/1)	砂	しまりなし。炭化物を少し含む	
11	灰色 (7.5Y4/1)	シルト質粘土	スクモ・炭化物を少し含む	
12	暗オリーブ灰色 (2.5Y4/1)	砂	しまりなし。炭化物を少し含む	
13	灰色 (7.5Y4/1)	シルト質粘土	スクモ・炭化物を少し含む	
14	オリーブ褐色 (5Y3/1)	シルト質粘土	スクモ・炭化物を少し含む	
15	暗オリーブ灰色 (2.5Y4/1)	砂	しまりなし。炭化物を少し含む	
16	オリーブ褐色 (5Y3/1)	シルト質粘土	スクモ・炭化物を少し含む	
17	灰色 (7.5Y4/1)	シルト質粘土	スクモ・炭化物を少し含む。部分的に灰砂を含む	
18	暗オリーブ灰色 (2.5Y4/1)	砂	しまりなし。炭化物を少し含む	
19	灰色 (7.5Y4/1)	シルト質粘土	スクモ・炭化物を少し含む	
20	オリーブ褐色 (5Y3/1)	砂質シルト	しまりなし。グライ化。遺物・炭化物を少し含む	
21	灰色 (5Y4/1)	シルト質粘土	スクモ・炭化した植物を含む	

図版133 SE844井戸跡

遺構名	調査	構造	平面形	断面形	規模 (m)			地層土	新旧関係	出土遺物	位置	
					縦径	横径	高さ				平面	断面
SE709	穴堀	木組	隅丸方形	楕形	1.6 × 1.4	0.9	0.6	自然堆積→人為堆積	SE708 → SE707・SK711 → SE709	【葉込土】土師器環・甕 (破)、須恵器環・甕 (破) [3層] 青磁碗 (破)、中伊呂宮甕 (破)	112・124	124
SE712	平掘	板敷削	不整形方形	扇斗形?	3.9 × 2.1	0.4	1.1	自然堆積→人為堆積	SE713 → SE712 → SD741 → SD730	【葉込土】土師器環・甕 (破)、須恵器環・甕 (破) (4層) 土師器高甕・甕 (破)、須恵器穴? 土師器ニニチュア・ロウロ環・高台坪・甕、須恵器鉢、糸切环・蓋・磁石	18・126	126
SE798	穴堀	表掘	円形	逆台形	1.3 × 1.2	0.6	1.1	自然堆積→人為堆積	SX7001 → SK839 → SB27 → SE798	【土層】土師器環・高台坪・甕 (破)、須恵器甕 (破)、磁石 (中層) 土師器環・甕 (破)、須恵器環・高台坪・甕 (破)、赤粘土器小皿、磁石	95・128	128
SE837	穴堀	木組	円形	楕形	3.6 × 3.4	0.4	1.8	自然堆積→人為堆積	SAR833 → SE837 → SE7935 → SK836	【須恵器穴?】土師器環・甕 (破)、須恵器環・甕 (破)、赤粘土器小皿、磁石	95・130	130
SE844	穴堀	表掘	円形	逆台形	1.8 × 1.7	0.9	1.8	自然堆積→人為堆積	SK824 → SB7039 → SE844	【土層】土師器環・甕・甕・高台坪 (破)、須恵器環・甕・甕、黒曜石割片 (湯ノ倉産)、軒丸瓦 (六葉重弁蓮花文・多賀城分類112)	96・133	133

※層位が不明なものは、数値に+を加えている

※【出土遺物】【破】：遺構確認品出土。【環】：黒曜石土師土。【破】：破片資料

※遺構の新旧関係で、SD100・2050B 河川跡を覆う SX7001・7025・7026・7033 懸地層が認められた場合、傾斜さを避けるため SD100・2050B は省略している

表9 D区井戸跡属性表

## 8. 土坑

土坑は50基中23基を完掘し、8基について断面図を示した(図版134)。ここでは、SK7036のみ個別の記載を行う。すべての土坑の属性は表10にまとめている。

## 【SK7036土坑】(図版96・134)

調査区北東部で確認した。人為堆積で、底面付近から完形に近い土師器環が出土したことから、土器埋設遺構の可能性がある。

〔重複〕(古)SB7111

〔規模・断面形・堆積土〕一辺0.4mの隅丸方形である。深さは0.2mで、北側が一段低くなっている。堆積土は下層が地山ブロック主体で、上層は地山ブロックや炭化物を含んでおり、人為堆積と考えられる。

〔出土遺物〕(図版135)

1層から、非ロクロ調整で外面に段を持つ土師器環が出土した(12)。底面にはヘラ記号「米」が認められる。

遺構名	調査	平面形	断面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	堆積土	新旧関係	出土遺物	図版	
										平面	断面
SK711	確認	楕円形	—	3.0+	1.4+	—	—	ST08 → SK711 → SE709	「溝」土師器ロクロ環・甕(破)、須恵器回転糸切环・甕・甕(破)、赤焼土器環(破)、炭滓	112	—
SK762	完掘	不整楕円形	浅い楕形	3.5	2.2	0.1	自然堆積	SX7033 → SX7025 → SD808、SR805 → SK762	「溝」土師器ロクロ環・甕(破)、須恵器回転糸切环・甕・甕(破)、赤焼土器環(破)、炭滓	99	134
SK770	完掘	不整楕円形	逆台形	0.7	0.6	0.1	自然堆積	SX7033 → SX7025 → SD788 → SB7161 → SK770	土師器ロクロ環・甕(破)、須恵器環(破)、炭石	99	134
SK779	完掘	楕円形	逆台形	1.1	0.9	0.4	自然堆積	SX7001・SA852 → SF800 → SK779	—	95	—
SK787	完掘	不整楕円形	レンズ形	2.0	1.6	0.1	人為堆積	SD461 → SX750 → SK787	「溝」土師器ロクロ環・ロクロ甕(破)、須恵器回転糸切环・甕・甕(破)、赤焼土器環(破)	37	134
SK792	完掘	楕円形	レンズ形	2.1	1.8	0.4	自然堆積	—	「1層」土師器ロクロ環・甕(破)、須恵器回転糸切环・甕(破)、平瓦(破)	37	—
SK793	完掘	楕円形	レンズ形	2.2	1.2	0.3	自然堆積	—	土師器環・甕(破)、須恵器回転糸切环・甕(破)、赤焼土器環(破)	37	—
SK803	完掘	隅丸方形	逆三角形	0.9	0.9	0.5	自然堆積	SK810 → SK803	土師器ロクロ環・高台环・轆轤・甕(破)、須恵器環・高台环・甕(破)・蓋	37	134
SK804	完掘	不整楕円形	楕形	1.0	0.7	0.3	自然堆積	SK804 → SD794	土師器ロクロ環・ロクロ甕・高台环・蓋(破)	37	—
SK805	完掘	楕円形	楕形	0.8	0.7	0.3	自然堆積 →人為堆積	SX7033 → SX7025 → SD808、SR805 → SK762	土師器ロクロ環・ロクロ甕(破)、須恵器環・甕	99	—
SK806	完掘	隅丸長方形?	段を持つ楕形	1.5+	1.3	0.2	自然堆積 →人為堆積	SX7025 → SD808 → SK806	土師器環・甕(破)、須恵器環(破)	10・99	—
SK810	完掘	隅丸方形	楕形	0.7	0.7	0.3	自然堆積	SK810 → SK803	土師器回転糸切环・甕(破)、須恵器環・甕(破)、炭石	37	—
SK829	完掘	不整楕円形	レンズ形	4.1	3.7	0.1	自然堆積	SK829 → SX700・750	「1層」土師器回転糸切环・甕・甕(破)、須恵器高台环・甕(破)、赤焼土器環(破)、炭滓	38・39	—
SK830	確認	不整長方形	—	1.0	0.8	—	—	—	—	99	—
SK833	完掘	不整円形	段を持つ楕形	1.6	1.6	0.6	自然堆積	SD20508 → SD461 → SX750 → SR834 → SK833	土師器環・甕(破)、須恵器環・甕(破)、赤焼土器環・小甕(破)、炭石、丸瓦(破)	37・38	134
SK834	完掘	不整円形?	楕形	1.5+	1.0+	0.6	自然堆積	SD20508 → SD461 → SX750 → SR834 → SK833	土師器環・甕(破)、須恵器回転糸切环・高台环・甕(破)、赤焼土器環(破)、炭滓	37・38	134
SK835	確認	楕円形	—	0.7	0.4	—	—	SK835 → SK821	土師器環・甕(破)	95・96	—
SK836	完掘	円形	逆台形	0.8	0.8	0.5	自然堆積 →人為堆積	SE837 → SB7035 → SK836	「1層」土師器環・甕(破)、須恵器環・甕・甕(破)、赤焼土器環(破)	95	—

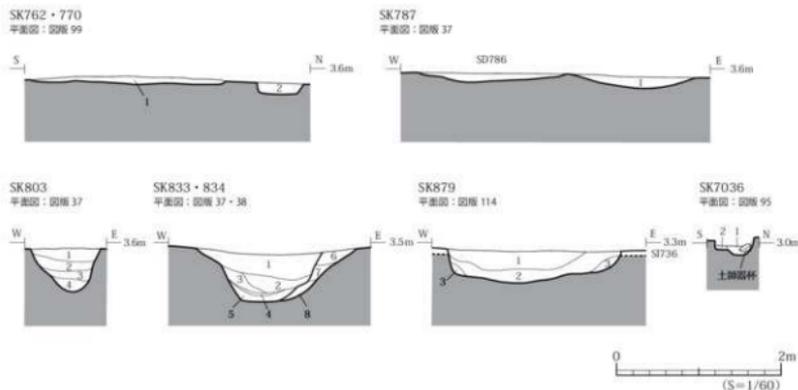
表10-1 D区土坑属性表1

調査名	調査	平面形	断面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	地層土	新旧関係	出土遺物		段階	
											平面	断面
SK842	完掘	円形	レンズ形	1.2	1.1	0.4	自然埋積	SD100→SD461→SX500→SX390→SK842			18	-
SK855	完掘	楕円形	楕形	1.0	0.6	0.3	自然埋積	SR24→SB7039→SK855	[1-2層] 土師器有段丸底杯・甕(礎)、灰石		95・96	-
SK856	完掘	楕円形	長い楕形	0.9	0.6	0.1	自然埋積	SD20500→SK856	土師器甕(礎)		95・96	-
SK876	確認	不整形	-	1.9	1.7	-	-	SB91→SB90→SK876	土師器杯・蓋、ロクロ甕・甕(礎)、須恵器杯・甕(礎)、須恵器(転糸切)方下駄礎材		93	-
SK878	確認	楕円長方形	-	0.7	0.6	-	-	SR84→SK878	[1層] 土師器杯・甕(礎)		114	-
SK879	完掘	不整形円形	近台形	2.1	2.0	0.4	自然埋積	ST36→SK879	[礎] 須恵器転糸切杯・高台杯・ロクロ甕(礎)、須恵器(転糸切)土師器杯・甕(礎)、須恵器杯・甕(礎)、赤鉄土器杯(礎)		18・114	134
SK880	確認	不整形	-	1.1	1.1	-	-	ST36→SK880	[1層] 土師器甕(礎)、須恵器杯・甕(礎)		18・114	-
SK881	確認	不整形	-	0.7	0.6	-	-	ST36→SK881	[1層] 土師器杯・甕(礎)		18・114	-
SK882	確認	楕円形	-	1.1	0.6	-	-	ST38→SK882	[礎] 土師器杯・甕(礎)、須恵器杯(礎)		114	-
SK883	確認	不整形円形	-	2.8	2.7	-	-	ST37→ST36→SK883→SD743D	[1層] 土師器回転糸切杯・高台杯・ロクロ甕(礎)、須恵器(転糸切)・甕(礎)、赤鉄土器杯・高台杯(礎)、丸瓦・平瓦(礎)		114	-
SK888	完掘	楕円長方形	-	2.2	2.0	-	自然埋積	SD461→SK889→SK888	[1層] 土師器ロクロ杯・甕(礎)、須恵器(転糸切)杯・甕(礎)、赤鉄土器杯(礎)		114	-
SK889	確認	?	-	1.2	0.6	-	-	SD461→SK889→SK888・SD846	[1層] 土師器杯・甕(礎)		114	-
SK7002	確認	?	-	2.7	2.2	-	-	SK7002→SD797→SD796→SD7007	[礎] 土師器非ロクロ杯(礎)、土師器杯・甕(礎)		96・97	-
SK7003	確認	楕円長方形?	-	1.4	1.0	-	-	-	[礎] 土師器非ロクロ杯・甕(礎)		96	-
SK7004	確認	円形	-	2.1	1.5	-	-	SK7004→SB7157→SD732→SD733・SK7004→SD742			96・97	-
SK7008	確認	楕円長方形	-	2.8	1.7	-	-	SK7008→SB7160→SD732	[礎] 土師器杯・甕(礎)、須恵器へう切→ナツ杯・甕(礎)		97	-
SK7024	確認	不整形	-	2.4	2.3	-	-	SD100→SX500→SK7024→SX7010・SD7007			19	-
SK7028	完掘	不整形円形	楕形	1.6	1.4	0.3	自然埋積	SR86→SD461→SK7028	[1層] 土師器ロクロ杯・甕(礎)、須恵器へう切→ナツ杯・甕(礎)		18	-
SK7032	確認	楕円長方形	-	0.6	0.6	-	-	-	[礎] 土師器ロクロ杯・ロクロ甕(礎)、須恵器杯(礎)		18	-
SK7034	確認	円形?	-	1.3	-	-	-	SX7033→SK7034→SB801	[礎] 土師器甕(礎)、須恵器手持ちヘラケズ杯・甕(礎)		39	-
SK7036	完掘	楕円長方形	段を持つ楕形	0.4	0.4	0.2	?	SB7111→SK7036	[1層] 土師器ロクロ杯		96	134
SK7037	確認	楕円形	-	0.7	0.6	-	-	-	[礎] 土師器杯・甕(礎)		95	-
SK7038	確認	楕円長方形	-	1.8	1.0	-	-	SR25→SK7038	[礎] 土師器(転糸切)杯(礎)、須恵器杯・甕(礎)		95	-
SK7042	確認	-	-	0.9	0.4	-	-	-			96	-
SK7070	完掘	楕円長方形	楕形	0.8	0.7	0.2	自然埋積	SX7033→SK7070→SK762	[礎] 土師器非ロクロ甕(礎)		99	-
SK7078	確認	-	-	1.2	1.1	-	-	SK7078→SX710	[礎] 土師器杯・甕(礎)		19	-
SK7107	確認	楕円形	-	1.6	0.7	-	-	SK7107→SD741・743	[礎] 土師器甕(礎)、須恵器杯(礎)		97	-
SK7114	確認	楕円形	-	1.1	0.7	-	-	ST08→SK7114→SK711	[礎] 土師器ロクロ大甕		112	-
SK7115	確認	円形	-	0.8	0.7	-	-	ST05→SK7115			112	-
SK7123	確認	楕円形	-	1.1	0.6	-	-	-	[礎] 土師器ロクロ手持ちヘラケズ杯		112	-
SK7133	確認	楕円形	-	0.9	0.4	-	-	SX7033→SX7025→SK7133	[礎] 土師器ロクロ杯・ロクロ甕(礎)		19	-
SK7243	確認	楕円形	-	1.4	0.7	-	-	SK7243→SB7035			95	-

※規模が不明なものも、数値に「+」を入れている

※段階の新旧関係で、SD100・20500河川跡を覆うSK7001・7025・7026・7033整備地が認められた場合、協議を続けるためSD100・20500は省略している

表10-2 D区土坑属性表2



遺構名	層位	土色	土性	混入物など	備考
SK762	1	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	炭化物・マンガン・腐蝕・土器片を含む。地山砂をわずかに含む	
SK770	2	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	小さな地山ブロック・炭化物・マンガン・腐蝕・土器片を含む	
SK787	1	黒色 (10YR1.7/1)	粘土質シルト	腐蝕・マンガン・糞土を含む。炭化物を多量に含む。砂をブロック状に少し含む。黒色粘性が強いシルト層	
SK803	1	黒褐色 (10YR3/2)	シルト質砂	土器・炭化物を少し含む。腐蝕含む	
	2	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂	しまりなし。炭化物を少し含む	
	3	暗褐色 (10YR3/3)	シルト質砂	炭化物を少し含む	
	4	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	砂	しまり・粘性なし。炭化物を少し含む	
SK833	1	黒色 (2.5Y2/1)	粘土質シルト	しまりなし。腐蝕・炭化物を多量に含む。小礫を層中に含む	
	2	オリーブ黒色 (5Y3/1)	粘土質シルト	しまりなし。腐蝕含む	
	3	オリーブ黒色 (5Y3/1)	粘土質シルト	腐蝕含む。粘質シルトの層中に砂をブロック状に含む	
	4	緑褐色 (7.5GY2/1)	砂	粘性なし。腐蝕を少し含む	
	5	オリーブ黒色 (5Y2/2)	粘土質シルト	しまりなし。腐蝕を少し含む	
SK834	6	黒色 (10YR2/1)	シルト	腐蝕含む。白色の小礫を含む	
	7	黒褐色 (2.5Y3/1)	粘土質シルト	均質な状態で砂を少し含む	
	8	オリーブ黒色 (5GY2/1)	粘土質シルト	腐蝕含む。地山砂を含む	
SK879	1	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	地山砂ブロック・砂を多く含む。腐蝕含む	自然増殖土
	2	黒色 (10YR2/1)	粘土質シルト		
SK7036	3	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト	地山砂を塊層状に含む。	
	1	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	炭化物・地山ブロックを含む	
	2	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト	地山ブロック主体。黒褐色シルトブロックを少し含む	



SK879 断面 (南から)



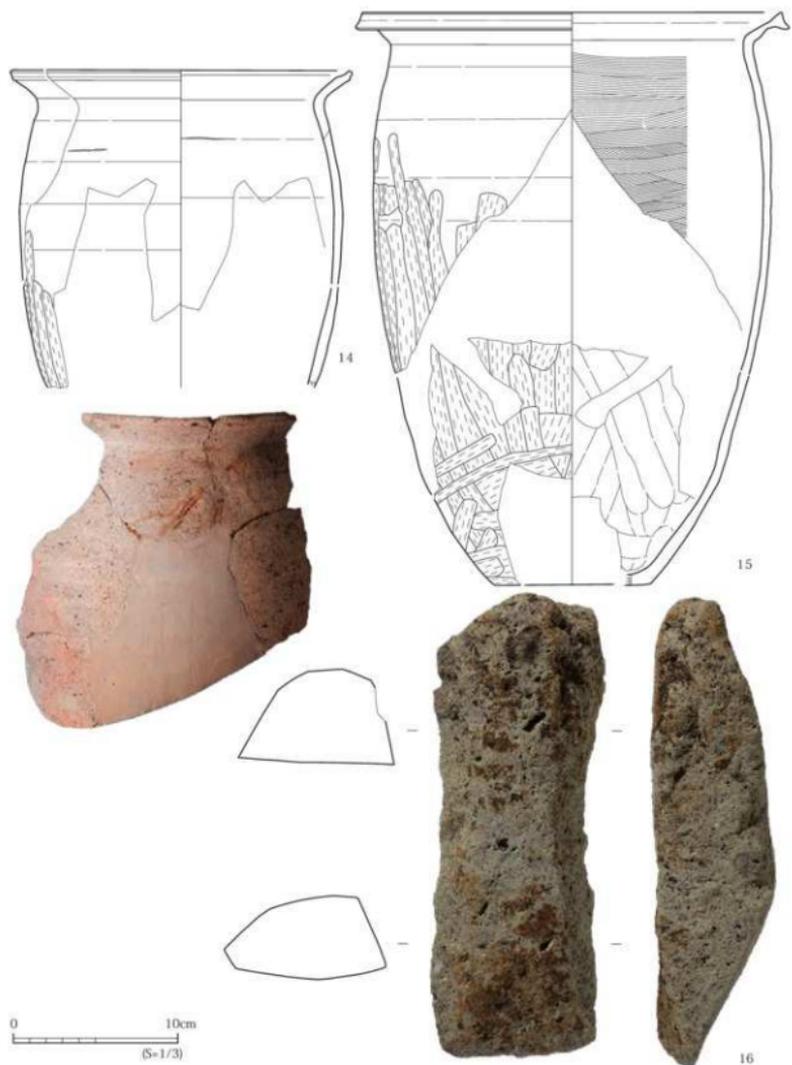
SK7036 断面 (西から)

図版134 D区土坑



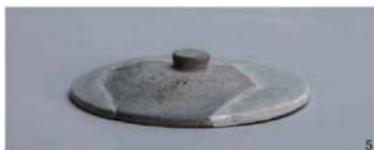
No.	器種	通称番号	層位	図型	口徑 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存	分輪	備考	登録
1	石製品・砥石	SK770			-	-	-	-	-	砥石。長さ：(9.0cm) 幅：6.0cm 重さ：398.7g	5036
2	石製品・砥石	SK787	1層		-	-	-	-	-	砥石。長さ：14.0cm 幅：8.0cm 厚さ：4.3cm 重さ：919.0g	5038
3	土師器・片	SK803		外面：ロクロナデ 内面：ヘウミガキ→黒色彫埋 底部：回転系切り→回転ヘラケズリ	11.8	8.2	3.6	2/3	-		5040
4	土師器・片	SK803		内外面：ロクロナデ→ヘウミガキ→黒色彫埋	(11.8)	7.6	4.3	1/4	-	底部に割溝「千」	5039
5	須恵器・蓋	SK803		外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→ツマミ貼 付→ナデ 内面：ロクロナデ	15.0	-	2.7	1/3	-	観定ツマミ：径2.2cm	5168
6	赤絵土器・小皿	SK833		内外：ロクロナデ 底部：回転系切り(磨し)	8.6	3.8	1.7	2/3	-		5041
7	石製品・砥石	SK833			-	-	-	-	-	長さ：(12.0cm) 幅：11.0cm 厚さ：3.2cm 重さ：901.0g	5043
8	須恵器・転用底	SK879	堆		-	-	-	-	一部	糞転用。長さ：6.8cm 幅：4.9cm 厚さ：1.0cm	1614
9	土師器・片	SK7002	確認由	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヘウミガキ→黒色彫埋	(15.8)	-	4.8	1/4	D	第七土師器片を含む	1615
10	土師器・片	SK7003	堆	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヘウミガキ→黒色彫埋	(17.0)	-	4	1/3	B1	第七土師器片を含む	1616
11	土師器・片	SK7003	堆	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ→ナデ 内面：ヘウミガキ→黒色彫埋	(15.8)	-	4.7	1/3	B1	第七土師器片を含む	1617
12	土師器・片	SK7036	1層	外面：ヨコナデ→ヘウミガキ 内面：ヘウミガキ→黒色彫埋	(13.2)	-	3.5	3/4	F	底部にヘラケズリ「千」 第七土師器片を含む	1620
13	土師器・片	SK7123	堆	外面：ロクロナデ 内面：ヘウミガキ→黒色彫埋 底部：切り磨し不明→手持ちヘラケズリ	(14.4)	(7.0)	3.5	1/5	-		1619

図版135 D区土坑出土遺物1



No.	器種	遺構番号	層位	調整	口径(cm)	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存	備考	登録
14	土師器・大型甕	SK7114	埋	外面：ロクロナデ・ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	(13.3)	—	—	—	一部		0646-1
15	土師器・大型甕	SK7114	埋	外面：ロクロナデ・ヘラケズリ 内面：ロクロナデ・ヘラケズリ	(25.5)	(9.4)	35.0	1/2			1618
16	石製品・凝灰岩製石	SK876			—	—	—	—		長さ：31.2cm 幅：10.2cm 厚さ：5.9cm 重量：1144.0g	5044

図版136 D区土坑出土遺物2



图版137 D区土坑出土遗物 3

## 9. 畑跡

SX710東西道路跡（北2a道路）北側で1面、南側で1面確認した。これらの属性は、表11にまとめている。

## 【SF801畑跡】（図版39・139）

D区南部で確認した南北方向の畑跡である。東西4.1m、南北6.9mの範囲で小溝が4本認められた。

〔重複〕（古）SD814、SK7034、SX7025

〔規模・堆積土〕小溝の規模は長軸5.7～7.1m、幅0.2～0.5mで、深さは0.1m前後である。断面形はレンズ形である。畝間の堆積土は炭化物と灰白色火山灰をブロックで含む灰黄褐色シルトである。

〔方向〕方向はN-5～18°-Eである。

〔出土遺物〕畝間堆積土からロクロ調整の土師器杯・高台杯・高台皿・甕、須恵器杯・高杯・甕・壺、丸瓦・平瓦などが出土した。須恵器杯は回転糸切りである。

## 【SF809畑跡】（図版37・95・139）

D区北東部で確認した南北方向の畑跡である。東西12.0m・南北14.7mの範囲で、小溝は10本認められた。

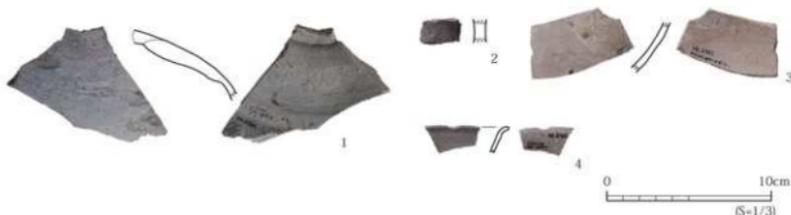
〔重複〕（古）SB7155、SD2050B、SI824・839、SX7001（新）SD776、SK779

〔規模・堆積土〕小溝の規模は長軸3.6～12.4m、幅0.2～0.4mで、深さは0.1～0.2mである。断面形はレンズ形である。畝間の堆積土は灰白色火山灰のブロックを含む暗褐色シルトである。

〔方向〕方向はN-4～14°-Eである。

〔出土遺物〕（図版138）

畝間堆積土からロクロ調整の土師器杯・高台杯・高台皿・甕、須恵器壺（1）・高杯（2）・甕、灰軸陶器碗（3・4）、丸瓦・平瓦などが出土した。須恵器壺は杯に回転糸切りが認められ、壺の頸部は三段接合である。須恵器高杯、灰軸陶器碗は猿投産である。



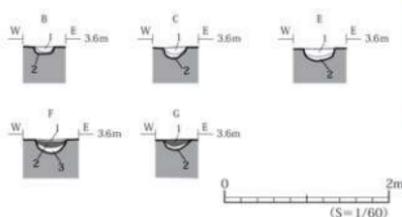
No.	品種	層位	調整	残存	産地	登録
1	須恵器・壺	堆積土	内外面：ロクロナデ 外面に自然釉	一部	頸部3段接合	5104
2	須恵器・高杯	堆積土	内外面：ロクロナデ	一部	猿投産	5105
3	灰軸陶器・碗	堆積土	内外面：ロクロナデ→巻軸	一部	猿投産	5132
4	灰軸陶器・碗	堆積土	内外面：ロクロナデ→巻軸	一部	猿投産	5102

図版138 SF809畑跡出土遺物

SF801  
平面図：図版 39



SF809  
平面図：図版 95



SF809 完照全景 (南から)

遺構名	調査号	層位	土色	土性	遺人物など	備考
SF801		A	1 黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	灰化物・灰白色火山灰を少し含む。上部に黒炭・マンガンを含む	
		B	1 灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	粘性なし。灰化物を少し含む。灰白色火山灰・黒炭・マンガンを含む	
		C	1 灰白色 (10YR7/1)	シルト	粘性なし。灰化物・土層片・灰白色火山灰を少し含む。黒炭・マンガンを含む	
		D	1 にぶい黒褐色 (10YR4/3)	シルト	粘性なし。灰化物・灰白色火山灰・土層片を少し含む。黒炭・マンガンを含む	
SF809	B	1	黒褐色 (10YR3/2)	粘質シルト	土層片・マンガンを全体的に含む。灰白色火山灰を少し含む	
		2	黒褐色 (10YR2/3)	粘質シルト	土層片・マンガン・灰化物を含む。灰白色火山灰を少し含む	
	C	1	灰白色 (10YR7/1)	粘質シルト	黒炭を含む。上部に灰白色火山灰・黒炭を含む。マンガンを全体的に含む	
		2	黒褐色 (10YR3/3)	粘質シルト	マンガンを全体的に含む	
	E	1	黒褐色 (10YR2/3)	粘土質シルト	灰白色火山灰をブロック状に含む。全体的にマンガンを含む	
		2	黒褐色 (10YR2/3)	粘土質シルト	土層片を含む。マンガンを全体的に多く含む	
	F	1	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	粘性なし。土層片を含む。マンガンを多く含む	
		2	灰白色 (2.5Y8/2)	粘質シルト	粘性なし。右側に暗褐色土を多く含む。灰白色火山灰を含む。マンガンを全体的に含む	2次埋積
	G	3	黒褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	上部に灰白色火山灰を含む。マンガンを含む	
		1	灰白色 (10YR8/2)	粘質シルト	灰白色火山灰を含む。マンガンを少し含む	2次埋積
		2	黒褐色 (10YR3/3)	粘質シルト	上部に灰白色火山灰・土層片を含む。マンガンを含む	

図版139 SF801・809畑跡

遺構名	調査	範囲 東西×南北 (m)	グループ	検出 次数	方向	規模 (m)			断面形	新旧関係	出土遺物	面積 平面 断面
						長軸	短軸	深さ				
SF801	穴窟	4.1 × 6.9	A	4	N-5 ~ 18°-E	5.7 ~ 7.1	0.2 ~ 0.5	0.1	レンズ形	SX7033 → SX7025 → S0814・SK7034 → SF801	[地] 土師器(流転系)切杯・高台杯・高台 皿・甕(甕)。須恵器(白土系)切杯・高台 皿・甕(甕)。丸瓦・平瓦	39   139
SF809	穴窟	12.0 × 14.7	A	10	N-4 ~ 14°-E	3.6 ~ 12.4	0.2 ~ 0.4	0.1 ~ 0.2	レンズ形	S824・839 → SX7001 → SK779 SF7155 → SF809 → SD776	[地] 土師器(ロクロ系)高台杯・高台 皿・ロクロ甕。須恵器(流転系)切杯・ 高台(脇持系)甕・甕。灰輪陶器(流 転系)。丸瓦・平瓦(甕)	37   139

※規模が不明なものは、数値に・を加えている

※(出土遺物) [地]: 遺構確認面出土。[地]: 埋積土出土。(甕): 破片資料

※遺構の新旧関係で、SD100・2050B 河川跡を覆う SX7001・7025・7026・7033 惣地盤が認められた場合、間隔を避けるため SD100・2050B は省略している

表11 D区畑跡属性表

## 10. SD100・2050B河川跡

### (1) 古墳時代中期と後期の河川跡の概要

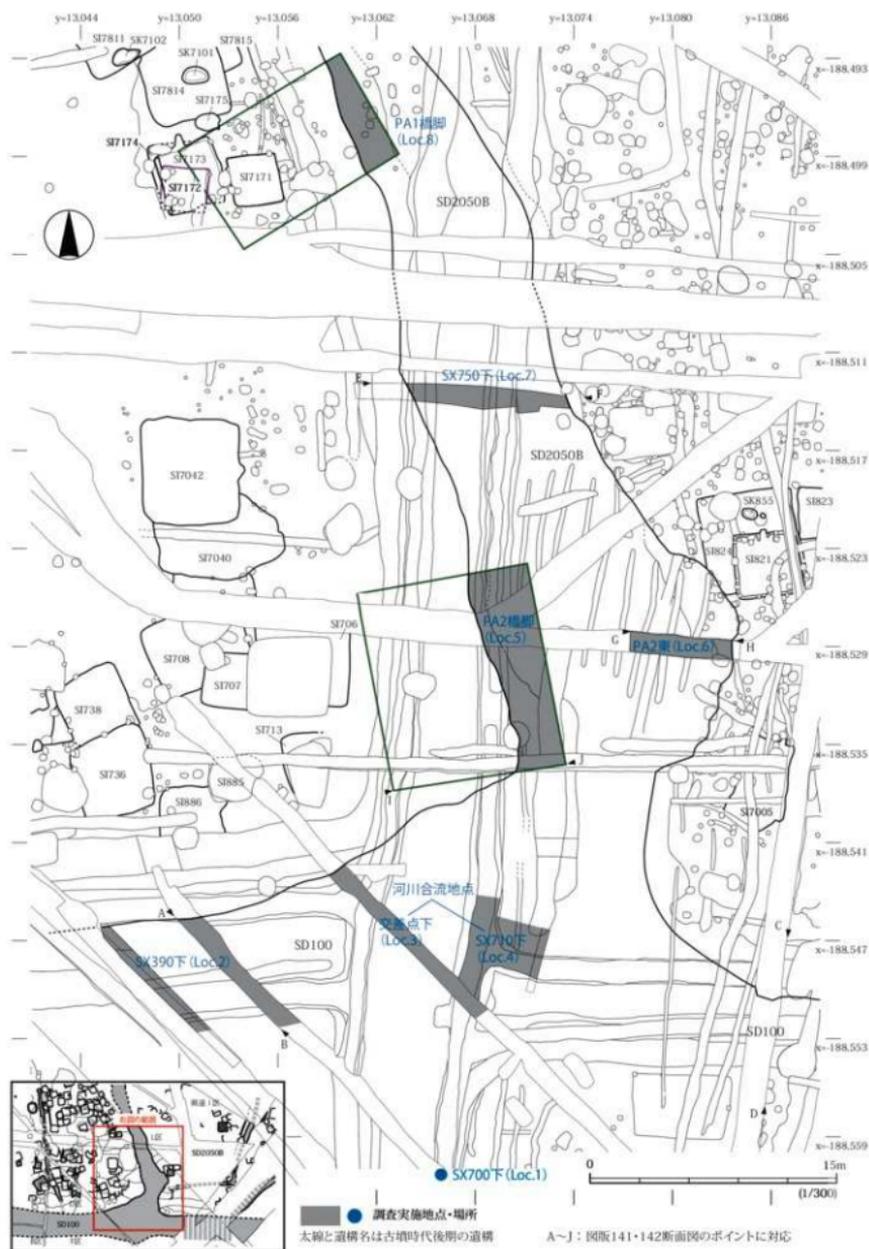
SD2050BはD区とL区の東側で検出した南北方向の河川跡、SD100はD区南側で検出した東西方向の河川跡で、両者はD区南側で合流して東へ流れた(図版140)。検出長はSD2050Bが南北67m、SD100は合流前が23m、合流後は19mほどである。規模は上幅8~15m、深さ1.5mで、年代は古墳時代後期後半である。両者と同一と考えられる河川跡は、山王・市川橋遺跡内の複数の場所で調査・報告されている(宮城県教委1997・2001a・b・2009)。それらにもとづくと、SD2050Bは八幡地区北端のL区北で本流の旧砂押川から分かれ、南へ120m流れたD区南でA・I区から東へ向きを変えたSD100と合流して館前地区のSD5093となり、その後南へ湾曲して再び本流と一体になったと考えられる(3分冊図版683)。

同時期の集落は、南北を本流とSD100に挟まれた自然堤防に形成され、SD2050Bは集落内の西側を流れた。このため、SD100・2050Bは集落のゴミ捨て場としても利用され、土器や土製品・石製品・木製品・樹皮製品・骨角製品などの人工遺物に加え、動物遺存体や植物遺体が多量に出土した(宮城県教委2001b)。

古墳時代中期の河川跡も、基本的に後期と同じ位置で重複する(八幡地区:SD777・2050A、館前地区:SD5160)が、上幅は30~40mと広いことから本流であった可能性がある。5世紀前葉はSD777の右岸に豪族居館が形成された。東辺は堀と大溝で囲まれており、後者は北に延びて河川に接続したとみられる。居館と接する部分は、後期と同じようにゴミ捨て場(SX230)としても利用され、土器・土製品・石製品・木製品・樹皮製品・骨角製品、動物遺存体や植物遺体などの多様な遺物が出土した(宮城県教委1994b)。SX230とSD777・2050Aは厚い砂層に覆われていること、その後長期間集落が営まれなかったことから、居館は5世紀前葉に起きた洪水で廃絶したのち、その構成員らは他所に移ったと考えられる。八幡・伏石地区に再び集落が営まれるのは、6世紀後半になってからである。また、館前地区のSD5160の右岸には、5世紀後葉にSX5025一括土器群が形成された(宮城県教委2001a)。赤彩土器の比率が高いことから、祭祀に使用した土器を遺棄したものであり、付近に同時期の居住域が想定できる。

### (2) 調査概要

今回は、掘削が行われる橋脚部分(PA1・PA2)のみ本発掘調査を行っている。また、前回の調査区の周りに掘られた排水溝や平安時代の道路側溝跡、河川跡と重複する攪乱では、3層(=貝層)や遺物が露出していたことから、その周囲について3層もしくは5層までの掘り下げを行った。こうした部分的な調査地点は、北からSX750下、PA2東、SX390下、交差点下、SX710下、SX700下と呼んでいる(図版140)。このうち、交差点下とSX710下は当初別々の地点であったが、のちにその間の3層を掘り上げたため、両者は繋がることとなった。また、SX700下は他地点から南に離れ、層の連続性が確認できないことから、3層と同一なのかより下の貝層なのか特定できなかった。数少ない出土土器は古い様相を示すことから、3層より古い貝層の可能性もある。



図版140 SD100-20508河川跡と周辺遺構

3層はPA1とD区東側(断面図C-D地点)を除く各地点で認められており、合流点を中心に北に35m以上、西に22m以上の範囲に分布したと考えられる。マガキを主体とする貝層であり、動植物遺体を多量に含んでいる(図版144・145)。このため、調査時の排土は土のう袋で全て回収したのち、4・2・1mmメッシュの篩で水洗して人工遺物・動物遺存体・植物遺体を選別した。また、貝層の保存状況がよく良好であった合流部分は、東北歴史博物館に依頼して斜めに横切る攪乱部分の断面剥ぎ取りを行った(図版149)。

### (3) 層序

堆積土はSD100・2050Bともスクモ層、粘土層、シルト層、砂層などで構成されるが、1層の黒褐色粘土層・粘土質シルト層、3層の貝層、5層の黒色粘土層・スクモ層を基準として5層に大別できる(図版141・142)。層相が共通することからまとめて記述する。各層の概要は、以下のとおりである。

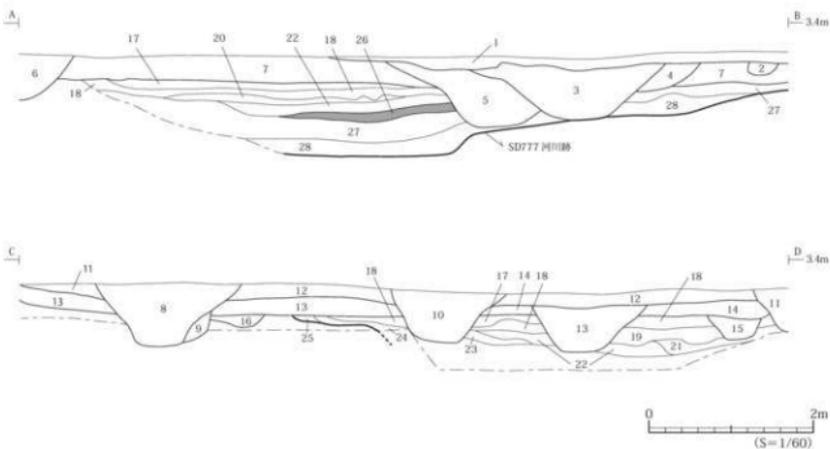
- 1層：黒褐色の粘土や粘土質シルト層で、厚さは30cmほどである。
- 2層：灰色～褐灰色を主体とする砂層・細砂層で、間に薄い黒褐色粘土層をはさむ。厚さは40cm前後ある。PA2では、2層上面に西岸から投棄された一括土器が認められた(図版144・146)。
- 3層：黒色もしくは黒褐色の粘土にマガキを主体とした貝殻を多量に含む貝層である。動植物遺体のほか、多種多様な遺物が出土した。厚さは20cm前後であるが、PA2南壁の河川跡中央部分では、特に厚く40cmほどあった。
- 4層：3層と5層の黒色層に挟まれた粘土・シルト・砂層を一括した。色調は黒褐色～褐灰色～灰色である。厚さは20～30cmである。
- 5層：黒色の粘土層やスクモ層で、粘土層には細かな砂層が何枚も入り込んでいる。厚さは20～40cmで、SX750下ではこの段階の護岸が認められた。他に較べて遺物の出土量は少ない。

1992・1993年度の県道調査区は、今回のPA1地点から38m北に位置しており、SD2050Bの上部は今回報告するSD461と一連のSD2124区画溝跡で壊された(宮城県教委2001b)。その下層と本調査区との対応関係は、以下のようにまとめられる。このうち、1992・1993年-第1層は本調査1層と土器様相が一部共通するものの、土師器・須恵器とも新しい要素も認められることから、年代観はより新しい時期まで含むと考えられる。

(本報告) (1992・1993)

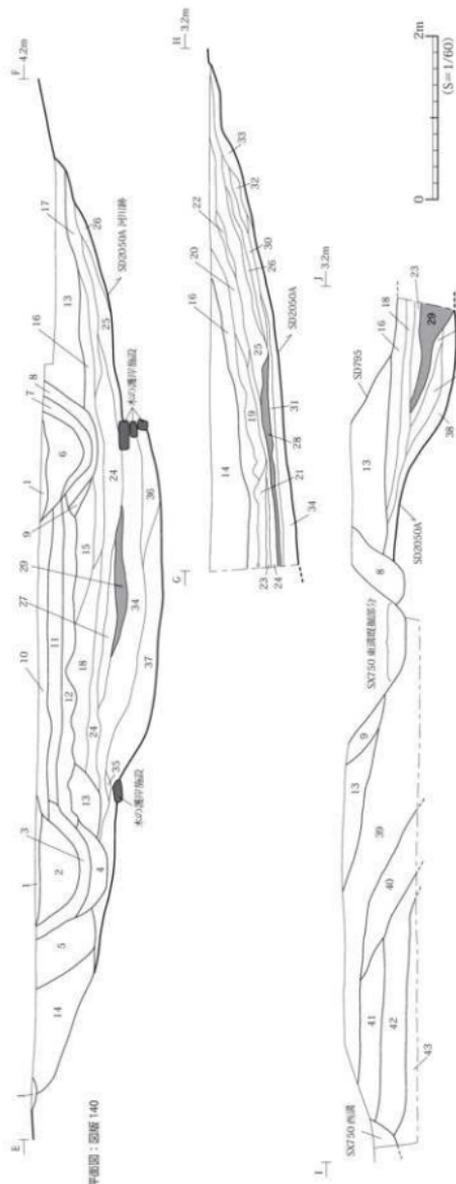
- |    |   |       |
|----|---|-------|
| 1層 | ≡ | 第1層   |
| 2層 | = | 第2A層  |
| 3層 | = | 第2B層  |
| 4層 | = | 第3・4層 |
| 5層 | = | 第5～7層 |

なお、1989～1991・1994年度の三陸沿岸道路(仙塩道路)調査区では、SD100の上層として河川跡が窪みとなった部分に対する自然堆積層があり、その中には顕著な炭化物層も認められたが(宮



No	土色	土性	備考	遺構・河川跡	層位
1	黒色 (10YR2/1)	粘土質シルト		Ph	注目層
2					
3				SX300 南溝 C 期	埋積土
4				SX300 南溝 B 期	埋積土
5				SX300 南溝 A 期	埋積土
6				SX300 北溝 C 期	埋積土
7				SX7026	
8				SX750 北溝 C 期	埋積土
9				SX750 北溝 B 期	埋積土
10				SX750 南溝 C 期	埋積土
11				Ph	
12				SX7025	
13				SD7015	
14				SX7033	
15				土坑	埋積土
16					
17	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	黄褐色シルトブロック・炭化物を含む		大別 1 層
18	相灰色 (10YR6/1)	細砂	に赤い黄色細砂をラミナ状に含む		
19	相灰色 (10YR4/1)	細砂	に赤い黄色細砂をラミナ状に含む。炭化物を含む		
20	灰色 (5Y4/1)	砂	黒褐色シルトをラミナ状に含む		
21	暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1)	細砂	相灰色細砂ブロックを含む		
22	黒褐色 (10YR2/2)	粘土	相灰色細砂ブロックを少し含む		
23	相灰色 (10YR/1)	細砂	黒褐色細砂ブロックを含む	SD100	
24	相灰色 (10YR6/1)	細砂	に赤い黄色細砂をラミナ状に含む		
25	相灰色 (10YR5/1)	細砂	に赤い黄色細砂をブロック状に含む		
26	黒褐色 (10YR2/2)	粘土	貝殻を多量に含む。貝類		
27	灰色 (N4/)	細砂	砂をラミナ状に含む		大別 3 層
28	黒色 (10YR2/1)	粘土	砂をラミナ状に含む		大別 4 層
					大別 5 層

図版141 SD100・20508河川跡断面図1



平面図：図版 140

図版 142 SD100・2050B河川断面図2

No.	土色	土性	備考	遺構・河川跡	層位	備考	遺構・河川跡	層位
1					第1層			人形2層
2				SK750西側溝D明	埋積土			人形3層
3				SK750西側溝C明	埋積土			人形4層
4				SK750西側溝B明	埋積土			埋積土
5				SK750西側溝A明	埋積土			
6				SK750東側溝D明	埋積土			
7				SK750東側溝C明	埋積土			
8				SK750東側溝B明	埋積土			
9				SK750東側溝A明	埋積土			
10				SK750東側溝敷土目録	埋積土			
11				SK750西側溝敷土C明	埋積土			
12				SK7001	埋積土			
13				SD461	埋積土			
14					粘土質シルト			
15	黄褐色 (10YR5/1)	粘土質シルト	炭化物を多く含む		粘土質シルト			
16	黄褐色 (10YR5/3)	粘土質シルト	炭化物を含む		砂質シルト			
17	黄褐色 (10YR5/7)	粘土質シルト			粘土			
18	黄褐色 (10YR5/3)	粘土	砂層を部分的に含む		粘土			
19	黄褐色 (10YR5/7)	粘土	粘土質シルトを含む		粘土			
20	黄褐色 (10YR5/1)	粘土	粘土質シルトを含む		粘土			
21	黄褐色 (10YR5/3)	粘土	炭化物を含む		粘土			
22	赤褐色 (10YR5/4)	シルト	礫山シルト・炭化物を含む		砂			
23	赤褐色 (10YR5/4)	シルト	礫山シルト・炭化物を含む		砂			
24	黒色 (10YR2/1)	粘土	礫山シルト・炭化物を含む		砂			
25	黒色 (10YR2/1)	粘土	炭化物・目録を含む		砂			
26	灰色 (7.5Y4/1)	砂	粘土質シルトを含む		砂			
27	灰色 (7.5Y4/1)	砂	目録、礫山シルト・炭化物を含む		砂			
28	黄褐色 (10YR5/3)	粘土	目録を部分的に含む		砂			
29	黄褐色 (10YR5/3)	粘土	目録を部分的に含む		砂			
30	黄褐色 (10YR5/3)	粘土	目録を部分的に含む		砂			
31	黄褐色 (10YR5/3)	粘土	目録を部分的に含む		砂			
32	黄褐色 (10YR5/3)	粘土	炭化物を含む		砂			
33	黄褐色 (10YR5/3)	シルト	礫山シルト・炭化物を含む		砂			
34	黄褐色 (10YR5/3)	粘土質シルト	礫山シルト・炭化物を含む		砂			
35	灰色 (7.5Y4/1)	粘土	スラキ層		砂			
36	灰色 (7.5Y4/1)	粘土	スラキ層		砂			
37	灰色 (5Y2/)	粘土	砂をシルト状に含む		砂			
38	黄褐色 (10YR5/3)	砂	礫山シルト・炭化物を含む		砂			
39	黄褐色 (10YR5/3)	砂	礫山シルト・炭化物を含む		砂			
40	黄褐色 (10YR5/2)	砂	礫山シルト・炭化物を含む		砂			
41	黄褐色 (10YR5/4)	砂	礫山シルト・炭化物を含む		砂			
42	黄褐色 (10YR5/4)	砂	礫山シルト・炭化物を含む		砂			
43	黄褐色 (10YR5/2)	埋積土	礫山シルト・炭化物を含む		埋積土			



D区、L区東半空撮写真（南西から）中央の黒い部分がSD100・2050B河川跡



D区、L区東半空撮写真（北西から）中央の黒い部分がSD100・2050B河川跡。左は砂神川

図版143 SD100・2050B河川跡 1



D区中央部、PA2地点南東隅の層序（北から）3層は貝を多量に含む



D区中央部、PA2地点2層上面土器出土状況（南東から）

図版144 SD100・2050B河川跡2



D区中央部、PA2地点の  
3層(貝層)の状況(北西から)



D区南部、  
河川合流地点の3層(貝層)の状況1



D区南部、  
河川合流地点の3層(貝層)の状況2

図版145 SD100・2050B河川跡3

PA2 地点2 層上面土器出土状況 (南東から)



PA2 地点3 層木製品出土状況



PA2 地点3 層樹皮製容器出土状況



図版146 SD100・20508河川跡4



D区北端、SX750下地点4層  
夕毛榎幹木出土状況



D区北端、SX750下地点5層  
鹿頭趾出土状況



D区南部、河川合流地点3層  
骨頭出土状況

図版147 SD100・2050B河川跡5



D区中央部、PA2南壁のA・B河川跡堆積状況(北東から)



D区中央部、PA2南壁のA河川跡堆積状況(北西から)



D区中央部、PA2地点の完露状況(北西から)



D区東部、PA2東地点の断面状況(東から)



D区南東部、SX710下地点の南北断面(南から)



D区北端、SX750下地点左岸の護岸施設(南東から)



D区南部、SX700下地点3層土師器坏出土状況



D区南部、SX700下地点3層土師器坏出土状況

図版148 SD100・2050B河川跡6



D区中央部、PA2地点3層土師器杯出土状況



D区南東部、SX710下地点2層須恵器盃蓋出土状況



D区西部、SX390下地点4層骨釵出土状況



D区南部、河川合流地点3層骨釵出土状況



D区南部、河川合流地点3層骨釵出土状況



D区南部、河川合流地点3層樹皮製曲物状容器出土状況



D区南部、河川合流地点の断面剥ぎ取り状況1



D区南部、河川合流地点の断面剥ぎ取り状況2

図版149 SD100・2050B河川跡7

城県教委1997)、今回の調査では確認できなかった(註1)。

#### (4) 出土遺物

河川跡からは、土器をはじめ土製品・石製品・木製品・樹皮製品・骨角製品、動物遺存体、植物遺体などが多量に出土した。このうち、木製品・樹皮製品・骨角製品、動物遺存体、植物遺体は有機質で腐朽しやすく、通常の発掘調査では出土しないものである。これらの内容は前回と共通する部分が多いが(宮城県教委2001b)、新たな資料を加えることで、古墳時代後期後半の人々の諸活動をより具体的に知ることが可能となった。以下、遺物の種類ごとに概要を述べる。なお、植物遺体については古代の森研究舎に分析を委託しており、その成果は第XIII章に収録している。

##### A. 土器

出土土器には、土師器と須恵器がある。その多くを占める土師器は、復興調査報告書であることを念頭にあらかじめ土器の分類を行い、それにもとづいて作図土器の選別をして時間短縮を図った。図示点数は土師器134点、須恵器100点で、分類可能な土師器の総数は表69に示している。

土師器の多くは、胎土に海綿骨針を含む。また、須恵器の胎土は色調・焼成・つくりなどの点も考慮して以下のように分けた。

- 1：海綿骨針や白色粒子・黒色粒子を含む。焼成は良と不良があり、前者には両面もしくは内面がセピア色となるものがある。また、甕類には両面黒色で、断面が灰白色となるものあり。
- 2：1に似るが、海綿骨針は認められない。
- 3：胎土に黒色粒子を多く含み、白色粒子や石英が認められる。焼成不良は灰白色で軟質である。
- 4：胎土に白色粒子を多く含み、石英も認められる。全体につくりが粗拙である。
- 5：胎土に白色粒子を多く含み、石英や黒色粒子も認められる。焼成は良好で、焼成不良は灰白色で、内面や断面がセピア色となるものあり。全体的には3と共通点が多い。
- 6：胎土に黒色や白色の細粒を少し含むが、混入物が少なく、精選されている。焼成は良好で、薄手である。数は少ない。

#### 【1】SD2050B-5層出土土器(図版150～154)

土師器・須恵器が出土した。器種には土師器環・鉢・広口壺・小型甕・大型甕・甕・ミニチュア、須恵器高環・甕がある。

##### 土師器

〔環〕4点図示した(1～3・9)。1～3は内外に段を持つ有段丸底形で、口縁部は外反もしくは外傾する。外面調整は口縁部がヨコナデ、段から下がヘラケズリである。9は口縁部が短く直立する丸底形で、外面調整は口縁部がヨコナデ、段から下がヘラケズリののちヘラミガキである。

〔鉢〕1点図示した(12)。平底で口縁部が短く外傾し、底部に木葉痕が残る。調整は口縁部が内外ともヨコナデ、体部外面はハケメ、内面がナデである。

〔小型甕〕3点図示した(13・15・16)。平底で頸部がくびれて段を持ち、口縁部が外反もしくは外

傾する。13・15は底部に木葉痕が残る。調整は口縁部が内外ともヨコナデ、胴部外面は15がハケメのちヘラケズリ、16がハケメのちナデ、内面はともにナデである。13は外面調整がないため、粘土紐の巻き上げ痕が、15は胴部外面にスス痕や煮こぼれ痕が良く残る。

〔大型甕〕2点図示した(17・19)。平底で頸部がくびれて段を持ち、口縁部が外反もしくは外傾する。17は最大径が口縁部にあり、底部に向けてすぼまる。19は胴部が縦長の楕円形で、底部内面は丸くなっており、こうした点は東北北部の大型甕に共通する。調整は口縁部が内外ともヨコナデ、胴部外面は17がハケメのちヘラケズリ、19はハケメのちヘラミガキ、内面は前者がヘラナデ、後者はヘラナデのちヘラミガキである。19は口縁部と胴下半にスス痕が残る。

#### 須恵器

〔高環〕スカシが入る脚部破片で、胎土は1である(21)。

〔甕〕胴部破片で、外面は平行タタキ、内面は同心円アテ具が認められる(22・23)。胎土は22が1、23は3である。

### 【2】SD2050B-4層出土土器(図版150～154)

土師器・須恵器が出土した。器種には土師器環・高環・鉢・小型広口壺・広口壺・大型甕・轆・ミニチュア、須恵器環・環蓋・甕がある。

#### 土師器

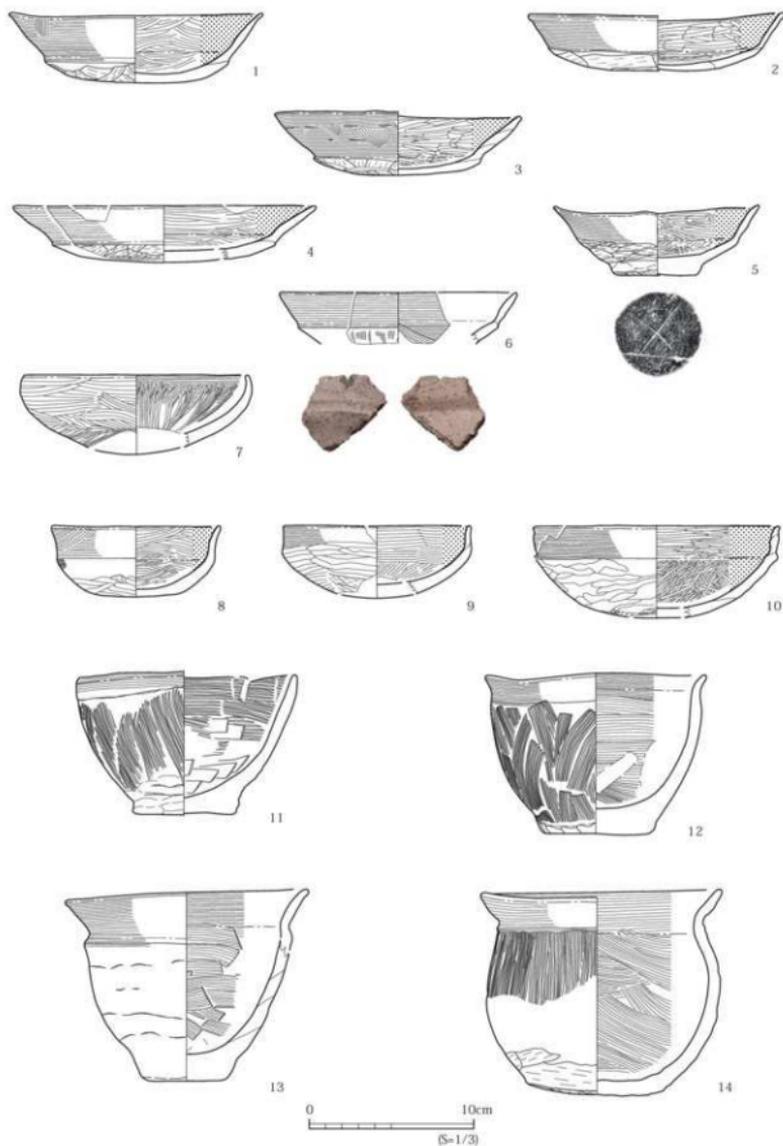
〔環〕6点図示した(4～8・10)。内面が黒色処理されたもの(4・5・8・10)とナデ仕上げのもの(6・7)がある。4・8・10は内外に段や稜を持つ丸底環で、4は口縁部が外傾し、外面調整は口縁部がヨコナデ、段から下がヘラケズリで底面にヘラ記号「×」がある。8・10は口縁部が短く直立する丸底環で、外面調整は口縁部がヨコナデ、段から下がヘラケズリのちヘラミガキである。また、5は平底の有段環で、底面にヘラ記号「×」がある。底部形態を除く特徴は4と共通しており、本来、平底の周縁をケズリ落として丸底に仕上げる過程を省略したと考えられる。6・7は丸底で、前者は内外に段があり、口縁部が外傾する。後者は外面がヘラミガキ、内面はナデのち暗文風の放射状ミガキで仕上げられている。

〔鉢〕1点図示した(11)。平底で、底部に木葉痕が残る。調整は口縁部外面がヨコナデ、体部は外面がハケメ、内面はハケメのちナデである。

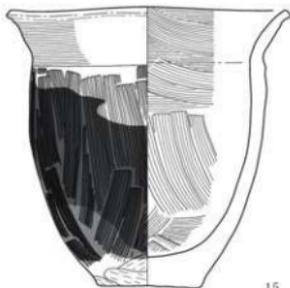
〔小型広口壺〕1点図示した(14)。平底で、頸部がくびれる。調整は口縁部両面がヨコナデ、体部は外面がハケメのちヘラケズリ、内面はナデである。

〔大型甕〕1点図示した(20)。平底で頸部にくびれはなく、口縁部は弱く外反する。胴部は最大径が上半にあり、底部に向けてすぼまる。調整は口縁部が内外ともヨコナデ、胴部外面はハケメのちヘラミガキ、内面はナデである。胴部下半には、製作時の疑似口縁が認められる。

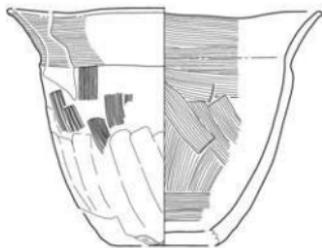
〔甕〕1点図示した(18)。深鉢形・無底で、頸部に段を持つ。口縁部は外反し、端部は四角である。調整は口縁部外面がハケメのちヨコナデ、胴部はハケメのちヘラミガキ、内面はヘラミガキである。



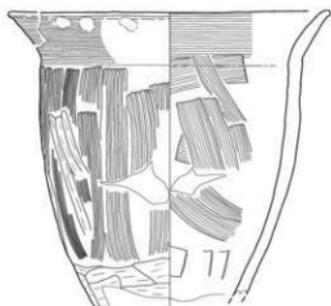
図版150 SD20508河川跡4・5層出土土器1



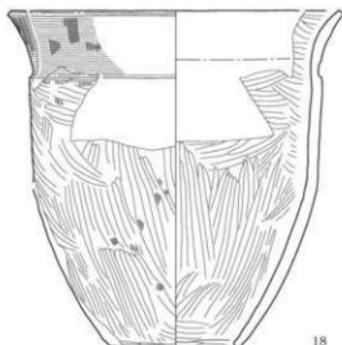
15



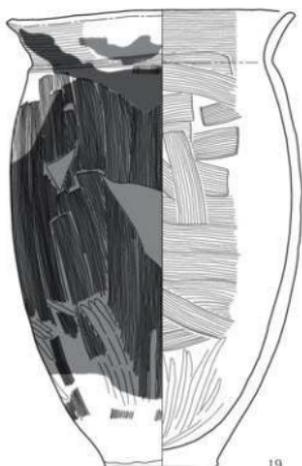
16



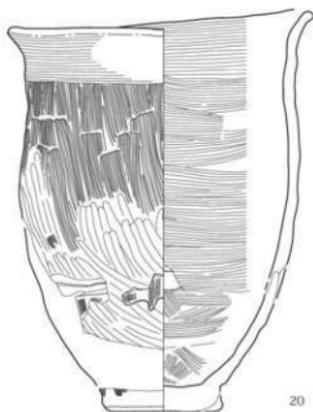
17



18



19



20



図版151 SD20508河川跡4・5層出土土器2





1



2



3



5



4



8



7



10



19



11



12

図版153 SD20508河川跡4・5層出土土器4



13



14



15



16



18



20

図版154 SD20508河川跡4・5層出土土器5

## 須恵器

〔甕〕底部破片で、外面は平行タタキ、内面はナデが認められる(24)。胎土は1である。

### 【3】SD100-4層出土土器(図版155・156)

土師器・須恵器が出土した。器種には土師器杯・高杯・鉢・広口壺・大型甕・甔・ミニチュア、須恵器高杯・壺蓋・提瓶・甕がある。

#### 土師器

〔杯〕8点図示した(1~8)。内面が黒色処理されたもの(1~5・7・8)とナデ仕上げのもの(6)がある。1~5は内外に段を持つ有段丸底杯で、1~4は口縁部が外傾もしくは外反し、外面調整は口縁部がヨコナデ、段から下がヘラケズリ(1・2・4)またはヘラケズリののちヘラミガキ(3)である。このうち、4は段の位置が体部下端付近にあり、平底状である。5は口縁部が長く直立する。外面調整は口縁部がヨコナデののちヘラミガキ、段から下がヘラケズリののちヘラミガキである。7は平底状の底部となり、外面はヨコナデののちヘラミガキで仕上げられる。8は丸底で、調整は口縁部がヨコナデ、体~底部はヘラケズリである。6は丸底で、外面がヘラケズリののちヘラミガキ、内面はナデののち暗文風の放射状ミガキで仕上げられている。

〔高杯〕2点図示した(9・10)。9の杯部は内面が黒色処理された有段丸底で、外面は杯部下半から脚部がヘラミガキされている。10は脚部で八字状に開き、裾部は外反する。

#### 須恵器

〔高杯〕1点図示した(12)。無蓋で杯体部は回転ヘラケズリが施される。胎土は6である。

〔壺蓋〕1点図示した(11)。天井部と体部の境に稜を持つ。胎土は2である。

〔提瓶〕1点図示した(13)。体部外面にカキメが施される。胎土は5である。

〔甕〕1点図示した(14)。胴部破片で、外面は平行タタキ、内面は同心円アテ具が認められる。胎土は1である。

### 【4】SD2050B-4層上面出土土器(図版157~160)

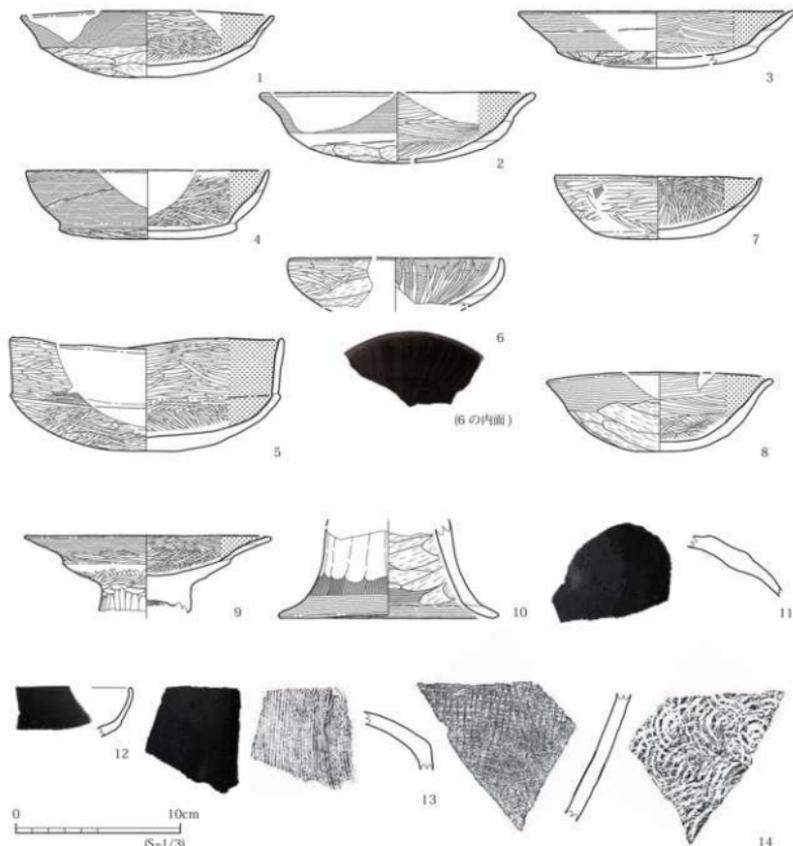
土師器・須恵器が出土した。器種には土師器杯・高杯・壺・広口壺・甔・ミニチュアがある。

#### 土師器

〔杯〕1点図示した(4)。内外に段を持つ有段丸底杯で、口縁部は外反する。外面調整は口縁部がヨコナデ、段から下がヘラケズリで、内面はヘラミガキののち黒色処理される。

〔高杯〕1点図示した(7)。大型の高杯で、杯部は有段丸底である。調整は外面が口縁部ヨコナデ、段から下はハケメののちヘラミガキで、内面はヘラミガキののち黒色処理が施される。

〔広口壺〕2点図示した(10・11)。胴部の膨らみは弱く、最大径は中央にある。頸部がくびれて口縁部は外反する。11は口縁端部が上下につまみ出されて縁帯状になる。調整は口縁部両面がヨコナデであるが、前段階のハケメが残る。胴部外面はハケメで、10は胴部下半の疑似口縁部分にのみヘラケズリが認められる。胴部内面は10がナデ、11はナデののち粗いヘラミガキが施される。

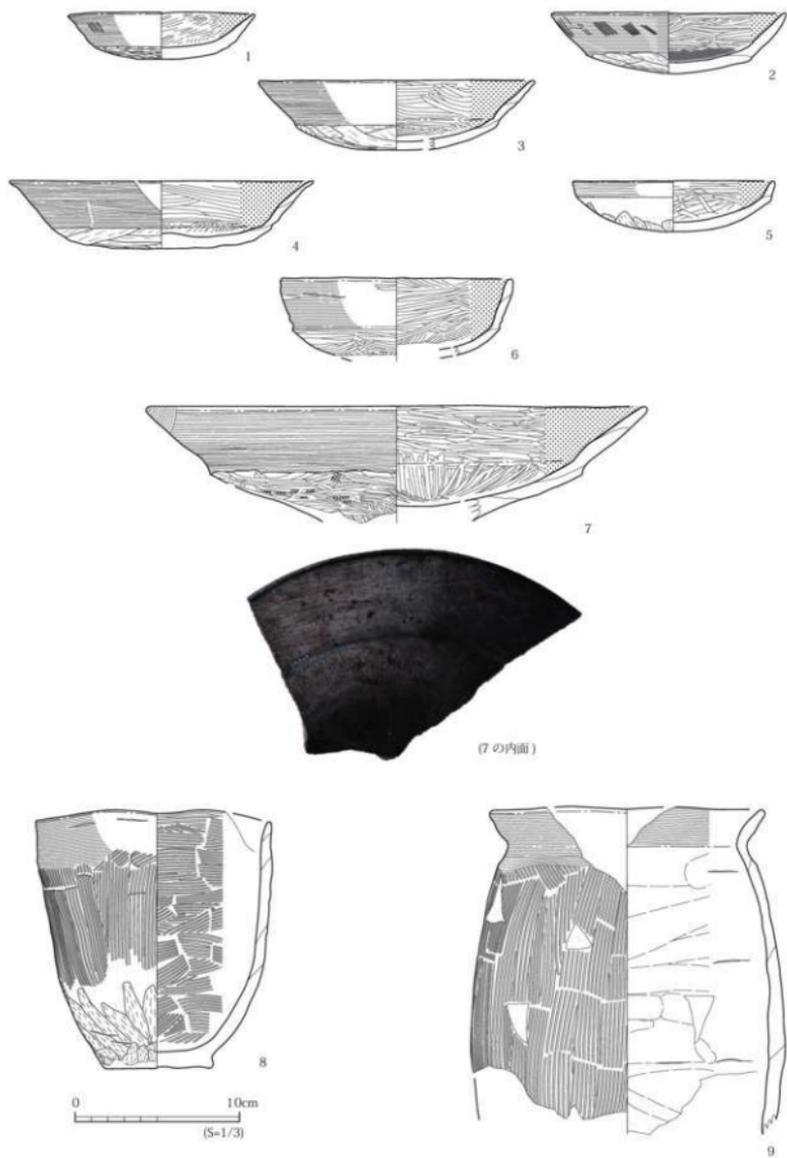


No.	器種	地点	層位	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存 分數 / 胎土	備考	登録
1	土師器・杯	SX300下	4層	外面:ヨコナデ・ヘラケズリ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	(15.4)	—	4.0	3/5 B1		824
2	土師器・杯	SX300下	4層	外面:ヨコナデ・ヘラケズリ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	(16.8)	—	4.3	1/4 B1	輪郭面あり	822
3	土師器・杯	SX300下	4層	外面:ヨコナデ・ヘラケズリ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	(16.8)	—	3.2	一部 B1	輪郭面あり	823
4	土師器・杯	SX300下	4層	外面:ヨコナデ・ヘラケズリ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	(14.8)	—	4.2	2/5 B2		821
5	土師器・杯	SX300下	4層	外面:ヨコナデ・ヘラケズリ →ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	(15.4)	—	7.0	1/3 C2		846
6	土師器・杯	SX300下	4層	外面:ヘラケズリ・ヘラミガキ 内面:ヨコナデ→斜紋・ヘラミガキ	(13.2)	—	1/4	G4	関東系土師器	826
7	土師器・杯	SX300下	4層	外面:ヨコナデ・ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	6.3	—	3.9	2/3 F		321
8	土師器・杯	SX300下	4層	外面:ヨコナデ・ヘラケズリ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	(13.8)	—	4.8	4/5 F		825
9	土師器・高杯	SX300下	4層	外面:ヨコナデ・ヘラミガキ 内面:[群]ヘラミガキ→黒色処理 [脚]ヘラナデ	15.0	—	—	3/5 A		827
10	土師器・高杯	SX300下	4層	外面:ハケメ→ナデ・ヨコナデ 内面:ハケメ→ヨコナデ・ヘラケズリ	—	13.5	—	1/2 A		828
11	須恵器・高杯	SX300下	4層	外面:ロクロナデ→斜紋・ヘラケズリ→ナデ 内面:ロクロナデ	—	—	—	一部 2		834
12	須恵器・高杯	SX300下	4層	外面:ロクロナデ→斜紋・ヘラケズリ 内面:ロクロナデ	—	—	—	一部 6		833
13	須恵器・短壺	SX300下	4層	外面:カキメ 内面:ロクロナデ	—	—	—	一部 5		835
14	須恵器・壺	SX300下	4層	外面:平行タタキ 内面:縄文印アテ具	—	—	—	一部 1	海綿質針を含む	836

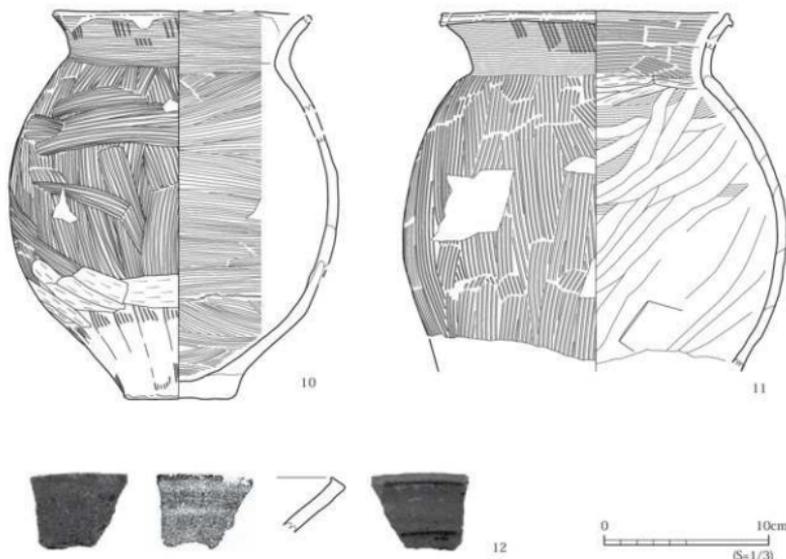
図版155 SD100河川跡4層出土土器 1



図版156 SD100河川跡4層出土土器2



図版157 SD20508河川跡3層、4層上面出土土器 1



No.	器種	出土	層位	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	分類/出土	備考	登録
1	土師器・杯	PA2	3層	外面：ハケメ・ヨコナデ・ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	11.4	—	2.9	完形	F	全体中に灰層	322
2	土師器・杯	—	3層	外面：ハケメ・ヨコナデ・ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理→付着物	14.2	—	3.7	完形	B1	胎土に海綿骨片を含む	319
3	土師器・杯	PA2	3層	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(16.6)	—	(4.2)	1/4	B1	底面にヘラ書き「X」	513
4	土師器・杯	PA2	1層	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(18.4)	—	(4.1)	1/3	B1		506
5	土師器・杯	SX750下	3層	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	12.3	—	3.1	完形	C1	胎土に海綿骨片を含む	710
6	土師器・杯	PA1	3層	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(14.0)	—	—	一部	C2		496
7	土師器・高杯	PA2	1層	外面：[口] ヨコナデ・ナデ [体] ハケメ・ヘラケズリ・ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(30.4)	—	—	1/5	B	胎土に海綿骨片を含む	507
8	土師器・小型甕	PA1	3層	外面：ハケメ・ヘラケズリ・ヨコナデ 内面：ハケメ・ヨコナデ	(14.4)	6.6	15.8	2/3	B		490
9	土師器・大型甕	PA1	3層	外面：ハケメ・ヨコナデ 内面：ナデ・ヨコナデ	(16.8)	—	—	一部	A		495
10	土師器・広口壺	PA2	1層	外面：ハケメ・ヨコナデ・ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→ヨコナデ 底部：ヘラケズリ	(15.8)	7.0	23.6	1/2	A		509
11	土師器・広口壺	PA2	1層	外面：[口] ハケメ・ヨコナデ [肩] ハケメ 内面：[口] ハケメ・ヨコナデ [胴] ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ [底] ナデ・ヘラミガキ	(17.5)	—	—	2/3	A		511
12	土師器・甕	PA1	3層	内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部	I	胎土に海綿骨片を含む	650

図版158 SD2050B河川跡3層、4層上面出土土器2



图版159 SD2050B河川跡3層、4層上面出土土器3



図版160 SD2050B河川跡3層、4層上面出土土器4

【5】SD2050B-3層出土土器（図版157～160）

土師器・須恵器が出土した。器種には土師器環・高環・鉢・壺・広口壺・小型甕・大型甕・甗・ミニチュア、須恵器提瓶・甗がある。

土師器

〔環〕5点図示した（1～3・5・6）。いずれも内面はヘラミガキのち黒色処理される。1～3は内外に段を持つ有段丸底環で、口縁部は外傾する。外面調整は口縁部がヨコナデ（3）もしくはハケメのちヨコナデ（1・2）、段から下がヘラケズリである。5は口縁部が短く外傾する。外面調整は口縁部がヨコナデ、底部付近がヘラケズリである。6は長い口縁部が直立気味となる。外面調整は口縁部がヨコナデのちヘラミガキ、段から下はヘラケズリのちヘラミガキである。

〔小型甕〕1点図示した（8）。平底で頸部がくびれず、口縁部は直立する。調整は口縁部外面がヨコナデ、胴部外面はハケメのちヘラケズリ、内面はハケメである。

〔大型甕〕1点図示した（9）。頸部がくびれて口縁部は外傾する。胴部は縦長の楕円形で最大径は中央にある。調整は口縁部が内外ともヨコナデ、胴部外面はハケメ、内面はナデである。

須恵器

〔甗〕1点図示した（12）。口縁部内面上端がつまみ出される。胎土は1である。

## 【6】SD100-3層出土土器（図版161）

土師器・須恵器が出土した。器種には土師器環・埴・高環・広口壺・小型甕・大型甕・甗・ミニチュア、須恵器環・高環・壺蓋・提瓶・甕がある。

## 土師器

〔環〕5点図示した（1～5）。内面は1がヘラミガキ、2～5の内面はヘラミガキのち黒色処理される。1は内外に稜を持つ丸底坏で、口縁部は外反する。外面調整は口縁部がヨコナデ、段から下がヘラケズリののちヘラミガキである。2の底部はヘラケズリののち、格子状のヘラ記号が施される。3は有段丸底で口縁部は外傾する。外面調整は口縁部がヨコナデ、段から下がヘラケズリである。4は口縁部が短く直立する。外面調整は口縁部がヨコナデ、体～底部がヘラケズリである。5は平底で、底部から内弯気味に外傾して口縁部にいたる。外面調整は口縁部がヨコナデ、底部付近がヘラケズリである。

これらのうち、1はSX700下と他から離れた地点より出土した（図版148-左下）。器形や内面の仕上げが他より古い様相を示すことから、3層とは別層となる可能性がある。

## 須恵器

〔甕〕1点図示した（6）。胴部破片で、外面が平行タタキ、内面は同心円アテ具である。胎土は1である。

## 【7】SD100・2050B合流地点3層出土土器（図版162～165）

土師器・須恵器が出土した。器種には土師器環・埴・高環・鉢・壺・広口壺・小型甕・大型甕・甗・ミニチュア、須恵器高環・壺蓋・甕がある。

## 土師器

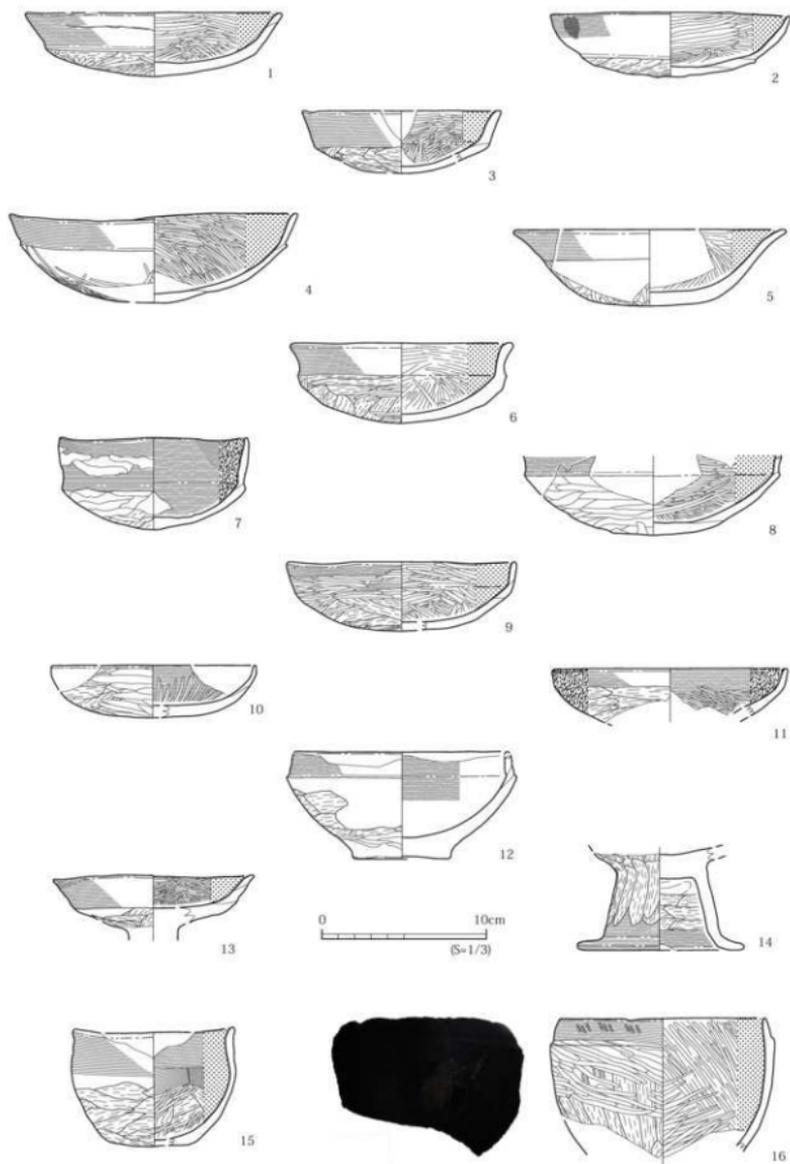
〔環〕12点図示した（1～12）。内面はヘラミガキのち黒色処理されるもの（1～6・8・9）とナデ仕上げのもの（7・10～12）がある。1～4は内外に段を持つ有段丸底坏で、口縁部は外反・外傾するもの（1・3・4）と内弯気味に外傾するもの（2）がある。外面調整は口縁部がヨコナデ（1・3・4）、ハケメののちヨコナデ（2）、段から下はヘラケズリ（2・3）、ヘラケズリののちヘラミガキ（1）、底部付近のみヘラミガキ（4）である。5は丸底から口縁部が外反する。外面調整は口縁部がヨコナデ、体～底部がヘラケズリである。6・8・9は口縁部が短く直立する。外面調整は口縁部がヨコナデ、体～底部がヘラケズリののちヘラミガキである。

7は内外に稜を持ち、口縁部は長く直立する。外面調整は口縁部がヨコナデののちヘラミガキ、体～底部はヘラケズリののちヘラミガキで、内面はナデののち漆仕上げが施された。10・11は低平な器形で、前者は外面調整がヨコナデののちヘラケズリ・ヘラミガキ、内面はヘラナデののち暗文風の放射状ミガキが施される。後者は外面がヘラミガキののちヘラケズリ、内面はナデののちヘラミガキで、両面とも漆仕上げが施される。12は口縁部が短く直立する平底坏で外面調整は口縁部ヨコナデ、底部を中心にヘラケズリである。本来、平底の周縁をケズリ落として丸底に仕上げる過程を省略したものと考えられる。

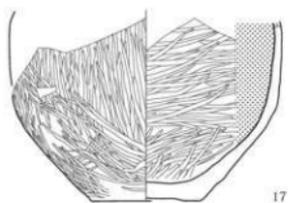


No.	器種	出土	層位	調整	口径 (cm)	底径 (cm)	底高 (cm)	残存	分體 / 粘土	備考	登録
1	土師器・杯	SX700	3期	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	17.4	—	6.8	2/3	B1		790
2	土師器・杯	SX700	3期	外面：ヨコナデ・ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	—	—	—	1/3	—	底面に粘土状ヘラ書き	791
3	土師器・杯	SX390	3期	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	16.6	—	4.1	完形	B1		316
4	土師器・杯	SX390	3期	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(12.5)	—	3.8	3/4	C1	関東系土師器	837
5	土師器・杯	SX390	3期	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(13.6)	—	4.75	1/2	F	輪筋あり	847
6	土師器・器	SX390	3期	外面：平行タタキ 内面：同心アタタキ	—	—	—	一部	1	高輪竹針を貫く	855

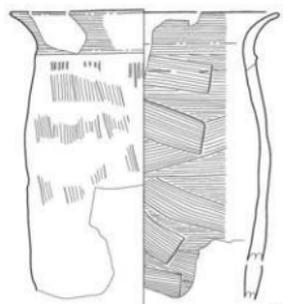
図版161 SD100河川跡3層出土土器



图版162 SD100·2050B河川跡合流地点3層出土土器1



17



18



19

20



22



23



21



24



圖版163 SD100・2050B河川跡合流地点3層出土土器2



No.	器種	接点	図説	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存	分類/胎土	備考	登録
1	土師器・杯	3層	外面:ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	15.4	—	3.9	完形	B1		318
2	土師器・杯	3層	外面:ハケメ→ヨコナデ→ヘラケズリ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	14.4	—	4.0	完形	B2		320
3	土師器・杯	3層	外面:ヨコナデ→ヘラケズリ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	(12.1)	—	(3.8)	1/3	B1		740
4	土師器・杯	3層	外面:ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	17.3	—	5.5	1/2	B1		739
5	土師器・杯	3層	外面:ハケメ→ヨコナデ→ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	(16.3)	—	4.7	1/3	F		737
6	土師器・杯	3層	外面:ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	13.3	—	4.9	完形	C1		313
7	土師器・杯	3層	外面:ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面:ヨコナデ→漆仕上げ	11.1	—	5.6	2/5	G3	関東系土師器	838
8	土師器・杯	3層	外面:ヨコナデ→ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	—	—	—	2/3	C1		741
9	土師器・杯	3層	外面:ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	(13.8)	—	(4.2)	1/3	C1		743
10	土師器・杯	3層	外面:ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面:ヨコナデ→散粒状ヘラミガキ	(12.4)	—	3.2	1/4	G4	関東系土師器	746
11	土師器・杯	3層	外面:ヨコナデ→ヘラケズリ→漆仕上げ 内面:ヨコナデ→ヘラミガキ→漆仕上げ	(14.0)	—	—	一部	G2	関東系土師器	749
12	土師器・杯	3層	外面:ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面:ヨコナデ→丸底仕上げ青釉	(13.0)	5.8	(6.5)	2/5	G2	関東系土師器、胎土に海綿骨針を含む	738
13	土師器・高杯	3層	外面:ヨコナデ→ヘラケズリ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	(12.1)	—	—	1/4	A		754
14	土師器・高杯	3層	外面:ヨコナデ→ヘラケズリ 内面:[耳]ヘラミガキ→黒色処理 [器]ヨコナデ→ヘラケズリ	—	—	—	1/2	A	器口径:10.1cm	751
15	土師器・碗	3層	外面:ヨコナデ→ヘラケズリ 内面:ヘラミガキ→ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘラミガキ→黒色処理	(9.6)	(4.8)	7.2	2/3	B		760
16	土師器・碗	3層	外面:ハケメ→ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	(12.4)	—	—	1/4	A		759
17	土師器・皿	3層	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	—	(6.6)	—	1/2	—		757
18	土師器・大型甕	3層	外面:ハケメ→ヘラミガキ→ヨコナデ 内面:ヘラミガキ→ヨコナデ	(16.4)	—	—	一部	A	輪轆あり	849
19	須恵系・高杯	3層	内外面:ロクロナデ	—	—	—	一部	4		767
20	須恵系・高杯	3層	内外面:ロクロナデ→粘板ヘラケズリ→ナデ 内面:ロクロナデ	—	—	—	一部	4		770
21	須恵系・高杯	3層	内外面:ロクロナデ→重丸輪→方型スカシ(2段)	—	—	—	一部	1		769
22	須恵系・甕	3層	外面:ロクロナデ→縹磁状文 内面:ロクロナデ	—	—	—	一部	3		786
23	須恵系・甕	3層	外面:ロクロナデ→縹磁状文 内面:ロクロナデ	—	—	—	一部	3		785
24	須恵系・甕	3層	外面:カキメ 内面:同心円アテナデ	—	—	—	一部	5		777
25	須恵系・甕	3層	外面:ロクロナデ→縹磁状文 内面:ロクロナデ	—	—	—	一部	1	胎土に海綿骨針を含む	854
26	須恵系・甕	3層	外面:平行タタキ 内面:同心円アテナデ	—	—	—	一部	2		782
27	須恵系・甕	3層	外面:平行タタキ 内面:同心円アテナデ	—	—	—	一部	5		774

図版164 SD100・2050B河川跡合流地点3層出土土器3



図版165 SD100・2050B河川跡合流地点3層出土土器4

【高环】2点図示した(13・14)。13は有段丸底环に脚部が付く。調整は口縁部外面がヨコナデ、段から下はヘラケズリ、内面はヘラミガキのち黒色処理である。14は中空で裾部が大きく開く。調整は内外ともヨコナデのちヘラケズリである。

【埴】2点図示した(15・16)。15は平底で段がなく、内面はヘラミガキのち黒色処理される。外面調整は頸部がヨコナデ、体～底部はヘラケズリである。16は口縁部下に段を持つ。外面調整は口縁部がハケメのちヨコナデ、体部はハケメのちヘラケズリ・ヘラミガキである。

【壺】1点図示した(17)。平底で最大径が胴部中央にあり、外面はヘラミガキで仕上げられる。内面はヘラミガキのち、黒色処理が施されている。

【大型甕】1点図示した(18)。頸部に段を持ち、口縁部が外反し、胴部は縦長楕円形となる。調整は口縁部内外がヨコナデ、胴部外面はハケメのちナデで、内面はナデである。

#### 須恵器

【高环】2点図示した(19・21)。19は無蓋の坏部で、21は高い脚部に縦長のスカシを2段有する。胎土は1が4、2は1である。

【壺蓋】1点図示した(20)。天井部と体部の境に稜を持つ。胎土は4である。

【甕】6点図示した(22～27)。22・23は同一個体で、中甕の口縁部と考えられる。口縁端部は上下につまみ出され、頸部は横位の区画沈線がなく、2段以上の櫛描波状文が施される。25は大甕の頸部破片で、2段以上の櫛描波状文が施される。24・26・27は胴部破片である。調整は24の外面がカキメ、内面は同心円アテ具のちナデ、26・27は外面が平行タタキ、内面が同心円アテ具である。胎土は22・23が3、24・27が5、25は1、26が2である。

### 【8】SD2050B-2層出土土器(図版166～170)

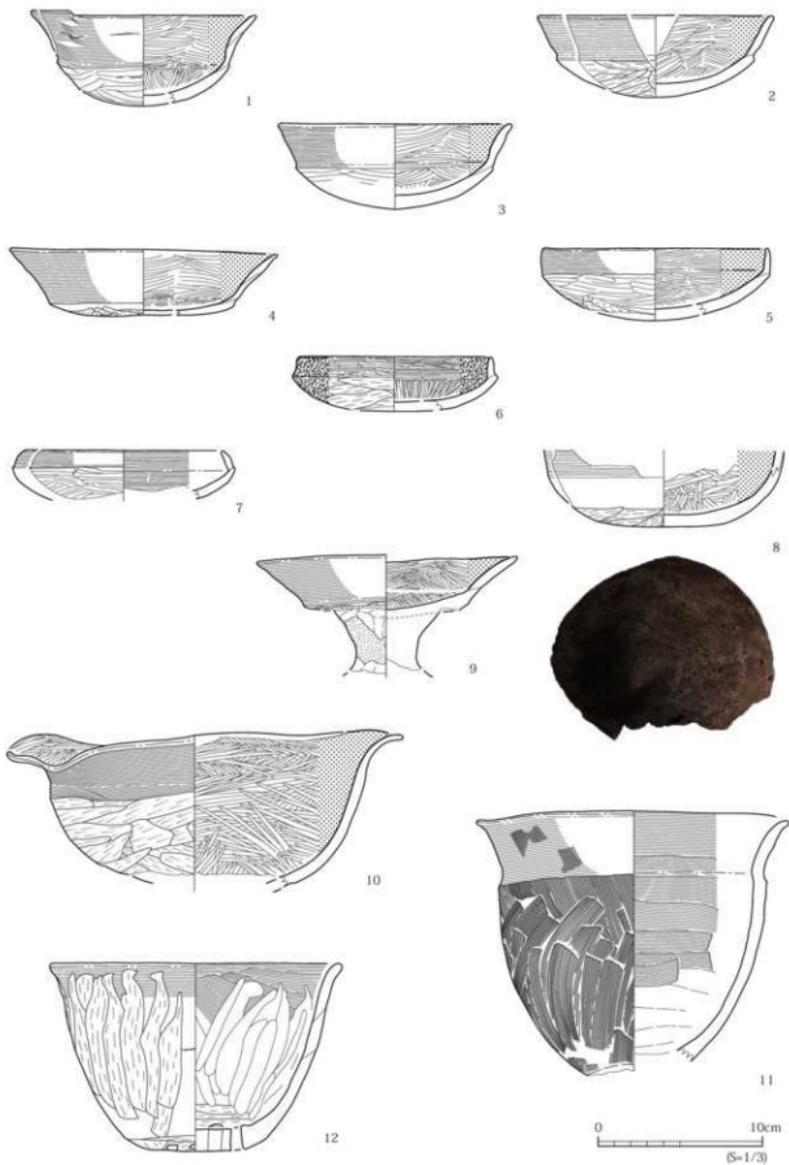
土師器・須恵器が出土した。器種には土師器坏・埴・高环・鉢・広口壺・小型甕・大型甕・甗・ミニチュア、須恵器坏・高环・提瓶・壺・甕がある。

#### 土師器

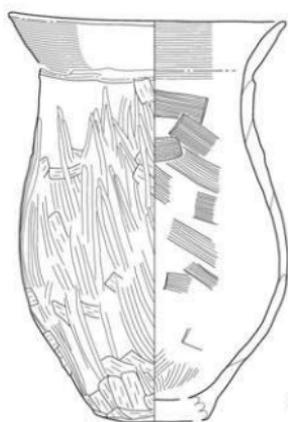
【坏】8点図示した(1～8)。内面はヘラミガキのち黒色処理されるもの(1～5・8)とナデ仕上げのもの(6・7)がある。1～4は内外に段を持つ有段丸底坏で、口縁部は外反・外傾する。外面調整は口縁部がヨコナデ、段から下はヘラケズリ(2・4)、ヘラケズリのちヘラミガキ(1・3)である。5は口縁部が短く直立する。外面調整は口縁部がヨコナデ、体～底部はヘラケズリのちヘラミガキである。8は丸底から立ち上がって口縁部にいたる。外面調整は口縁部がヨコナデ、底部付近がヘラケズリである。

6・7は短い口縁部が直立、もしくは内傾する。前者の調整は口縁部がヨコナデ、体～底部がヘラケズリ、内面はナデから暗文風の放射状ミガキのち、両面とも漆仕上げが施される。7の外面調整は口縁部がヨコナデ、体部がヘラミガキである。

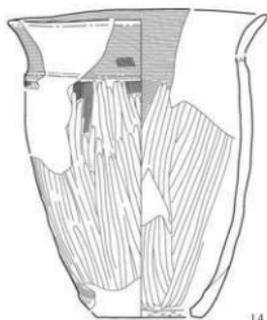
【高环】1点図示した(9)。平底状の有段丸底环に柱実の脚部が付くものである。調整は口縁部外面がヨコナデ、段から下はヘラケズリ、内面はヘラミガキのち黒色処理である。脚部外面はナデが



圖版166 SD20508河川跡2層出土土器1



13



14



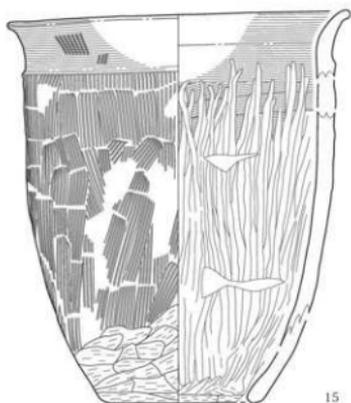
16



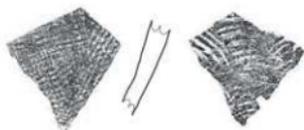
17



18



15



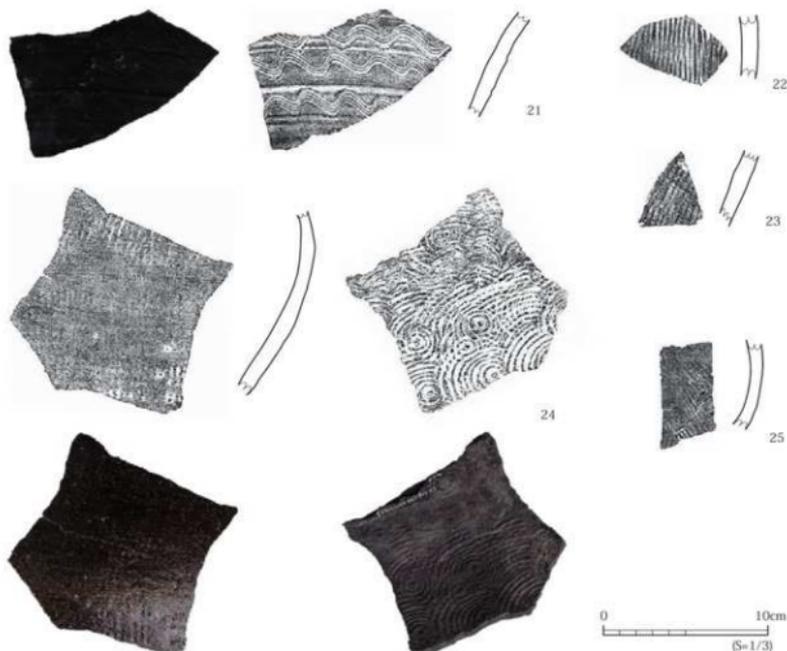
19



20



图版167 SD2050B河川跡2層出土土器2



No.	器種	出点	層位	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	分類/胎土	備考	登録
1	土師器・杯	—	2期	外面:ヨコナデヘラミガキ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	13.6	—	(5.5)	1/4	B1		857
2	土師器・杯	PA2	2期	外面:ヨコナデヘラケズリ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	(14.6)	—	5.0	一部	B1		528
3	土師器・杯	PA2 東	2期	外面:ヨコナデヘラミガキ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	(14.0)	—	5.1	1/3	B1		615
4	土師器・杯	PA2 東	2期	外面:ヨコナデヘラケズリ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	16.2	—	4.2	2/3	B1	胎土に海泡石を含石	616
5	土師器・杯	—	2期	外面:ヨコナデヘラケズリ→ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	13.6	—	(4.4)	1/4	C1		858
6	土師器・杯	PA2	2期	外面:ヨコナデヘラケズリ→ヘラミガキ 内面:ヨコナデヘラミガキ・放射状ヘラミガキ 内外とも漆仕上げ	(11.7)	—	(3.3)	1/3	G2	陶師系土師器	530
7	土師器・杯	PA2 東	2期	外面:ヨコナデヘラケズリ→ヘラミガキ 内面:ヨコナデ	(12.0)	—	—	一部	G2	陶師系土師器	349
8	土師器・杯	PA2	2期	外面:ヨコナデ,ヘラケズリ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	—	—	4.7	1/2	F		529
9	土師器・高杯	PA1	2期	外面:ヨコナデヘラケズリ→網目厚付+ナデ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	15.9	—	—	2/3	A		489
10	土師器・鉢	PA1	2期	外面:ヨコナデヘラケズリ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	(24.2)	—	—	2/3	A1		652
11	土師器・小笠蓋	—	2期	外面:ハケメ→ヨコナデ+ナデ 内面:ヨコナデ	18.8	—	—	1/2	A2		859
12	土師器・甕	PA1	2期	外面:ヨコナデヘラケズリ 内面:ナデヘラケズリ→ヘラミガキ	(17.8)	—	11.5	3/5	A2	鉢形, 多孔	484
13	土師器・大笠蓋	PA2 東	2期	外面:ヨコナデヘラケズリ→ヘラミガキ 内面:ヨコナデヘラケズリ ナデヘラミガキ 内面:ヨコナデヘラケズリ	15.8	6.9	24.4	1/3	B		621
14	土師器・甕	—	2期	外面:[口]ヨコナデ [胴上]ハケメ→ヘラミガキ [胴下]ナデヘラミガキ 内面:ヨコナデヘラケズリ	15.5	(6.4)	18.6	2/3	B	深鉢形, 無底	860
15	土師器・甕	PA1	2期	外面:ハケメ→ヨコナデヘラケズリ 内面:ヘラケズリ→ヨコナデ 底面:ヘラケズリ→ヘラミガキ	20.9	8.8	24	2/3	B	深鉢形, 無底	487
16	須恵器・高杯	SX750下	2期	外面:ロクロナデ→種目段脱脂→網目点文 内面:ロクロナデ 底面:刻線ヘラケズリ→磨滅合→ロクロナデ	—	—	(2.3)	一部	6	スカシ5窓	717
17	須恵器・甕	—	2期	外面:ロクロナデ→網目点文 内面:ロクロナデ	—	—	—	一部	5	内側に自然釉	653
18	須恵器・甕	PA2 東	2期	外面:ナデ	—	—	—	一部	1	肥土のみ	626
19	須恵器・甕	PA2	2期	外面:平行タタキ 内面:同心円アテ具	—	—	—	一部	1		537
20	須恵器・甕	PA2	2期	外面:平行タタキ+ナデ 内面:同心円アテ具	—	—	—	一部	5		536
21	須恵器・甕	PA2	2期	外面:平行波線→網目点文 内面:ロクロナデ	—	—	—	一部	5		541
22	須恵器・甕	PA2	2期	外面:平行タタキ 内面:無文アテ具	—	—	—	一部	5		539
23	須恵器・甕	PA2	2期	外面:平行タタキ 内面:同心円アテ具	—	—	—	一部	5		625
24	須恵器・甕	SX750下	2期	外面:平行タタキ+カキス 内面:同心円アテ具	—	—	—	一部	5		718
25	須恵器・甕	PA2	2期	外面:平行タタキ 内面:ナデ	—	—	—	一部	2		535

図版168 SD2050B河川跡2層出土土器3



図版169 SD2050B河川跡2層出土土器4



図版170 SD20508河川跡2層出土土器5

施される。

〔鉢〕 1点図示した(10)。丸底杯を大型化したもので、調整は口縁部外面がヨコナデ、体～底部がヘラケズリ、内面はヘラミガキのち黒色処理される。

〔小型甕〕 1点図示した(11)。頸部に段を持ち、口縁部が外反する。外面調整は外面がハケメのちヨコナデ、内面はヨコナデ・ナデである。

〔大型甕〕 1点図示した(13)。頸部に段を持ち、口縁部が外反、胴部は下膨れである。調整は口縁部内外がヨコナデ、胴部外面がヘラケズリのちヘラミガキ、内面はナデである。

〔甗〕 3点図示した(12・14・15)。12は鉢形・多孔で、頸部にくびれがない。調整は外面がヨコナデのちヘラケズリ、内面はヨコナデ・ナデのちヘラミガキである。14・15は深鉢形・無底で、頸部に段を有する。14の調整は外面がハケメのち口縁部ヨコナデ、胴部ヘラミガキ、内面はヨコナデのちヘラミガキである。15の調整は外面がハケメのち口縁部ヨコナデ、胴部下端ヘラケズリ、内面はヨコナデのちヘラミガキである。

#### 須恵器

〔高坏〕 1点図示した(16)。無蓋の坏部で、坏体部には横位沈線間に櫛描列点文が施される。また、脚部はスカシが3窓開けられた。胎土は6である。

〔甗〕 1点図示した(17)。口縁部に細かな櫛描波状文が施される。胎土は5である。

〔壺〕 1点図示した(18)。把手付壺の把手部分とみられる。胎土は1である。

〔甕〕 7点図示した(19～25)。21は大甕とみられる頸部破片で、横位沈線間に櫛描波状文が4段以上施される。他は胴部破片で、外面調整は平行タタキ(19・20・22・23・25)で、内面が同心円アテ具(19・20・23)、無文アテ具(22)、ナデ(25)、外面が平行タタキのちカキメ、内面は同心円アテ具(24)が認められる。胎土は19が1、25が2、20・21～24が5である。

#### 【9】SD100-2層出土土器(図版171)

土師器・須恵器が出土した。器種には土師器坏・小型甕、須恵器高坏・提瓶・壺蓋・甕がある。

#### 土師器

〔坏〕 2点図示した(1・2)。1は内外に段を持たない丸底坏で、内面はヘラミガキのち黒色処理される。外面調整は口縁部ヨコナデ、体～底部はヘラケズリで、底部にはヘラ書き「×」が施された。2は口縁部が短く直立する。外面はヨコナデからヘラケズリ・ヘラミガキ、内面はナデ仕上げのち漆仕上げが施される。

〔甗〕 1点図示した(4)。鉢形・無底で、頸部にくびれがない。調整は外面がハケメのち口縁部ヨコナデ、胴下部はヘラケズリ・ヘラミガキ、内面は胴部がナデ、胴部下端はヘラケズリである。

#### 須恵器

〔高坏〕 1点図示した(5)。無蓋の坏部で、胎土は3である。

〔壺蓋〕 1点図示した(7)。天井部と体部の境に稜を持ち、全体的に器壁が厚い。ヘラ切りで体部上端に回転ヘラケズリが施される。胎土は1である。



No.	器種	地味	層位	図説	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存	分層/出土	備考	登録
1	土師器・杯	—	2期	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(15.9)	—	3.6	1/4	F	底面にヘラ痕「×」	735
2	土師器・杯	SX390下	2期	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘラミガキ→漆仕上げ 内面：ヨコナデ→漆仕上げ	(13.5)	—	(2.8)	一部	G2	陶車土師器	350
3	土師器・高杯	SX390下	1期	外面：ヘラケズリ→ヨコナデ 内面：[珪]ヘラミガキ→黒色処理 [脚]ヘラケズリ	—	(7.4)	—	1/3	A	腹部中央、胎土に海綿質片を含む	842
4	土師器・甕	SX390下	2期	外面：ハケメ→ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘラケズリ	(19.8)	(5.0)	13.9	1/3	A1	鉢形、無底	839
5	須恵器・高杯	SX390下	2期	内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部	3		840
6	須恵器・高杯	SX390下	1期	外面：ロクロナデ→二重沈層 内面：ロクロナデ・シボリ	—	—	—	一部	2	杯部との接合部に漆補修痕跡	793
7	須恵器・甕	SX390下	2期	外面：ロクロナデ→ヘラ切り→珪→ヘラケズリ→ナデ 内面：ロクロナデ→ナデ	12.1	—	4.5	完形	1	胎土に海綿質片を含む	351
8	須恵器・甕	SX390下	1期	外面：ロクロナデ→ヘラ切り→ナデ 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部	5		843
9	須恵器・甕	SX390下	2期	外面：ロクロナデ→二重沈層→二重沈層 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部	5		841
10	須恵器・甕	SX390下	1期	外面：ロクロナデ→二重沈層→二重沈層 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部	3	口唇部が内内	815
11	須恵器・甕	SX390下	1期	外面：丸ケメ→二重沈層→縦線状文 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部	1	海綿質片を含む	816
12	須恵器・甕	SX390下	1期	内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部	2	口唇部が内内	845

図版171 SD100河川跡1・2層出土土器

〔提瓶〕1点図示した(9)。胴部外面にカキメが施される。胎土は5である。

#### 【10】SD100-1層出土土器(図版171)

土師器・須恵器が出土した。器種には土師器環・高環・広口壺・小型甕・大型甕・甗・ミニチュア、須恵器高環・壺蓋・甕がある。

##### 土師器

〔高環〕1点図示した(3)。有段丸底環に柱夾の脚部を付けたもので、環部内面はヘラミガキののち黒色処理が施される。外面調整は口縁部と脚裾部がヨコナデ、段下から脚部はヘラケズリである。

##### 須恵器

〔高環〕1点図示した(6)。6は長脚の脚部で、中位に2本一組の沈線が巡る。上端には環部との接合沈線と漆で補修した痕跡が認められる。胎土は2である。

〔壺蓋〕1点図示した(8)。天井部と体部の境に稜を持ち、天井部外面にヘラ切りが認められる。胎土は5である。

〔甕〕3点図示した(10~12)。10は大甕の口頸部で、口縁上部が肥厚して沈線が巡り、内面端部はつまみ出される。頸部は2本一組の横位沈線間に2段以上の櫛描波状文が認められる。胎土は3である。11は大甕の頸部破片で、2本一組の横位沈線間に櫛描波状文が2段認められる。胎土は1であり、10とは胎土と文様施文前のカキメがある点で異なる。12は中甕の口縁部で、口縁上端が弱く凹む。胎土は2である。

#### 【11】SD2050B-2層上面出土土器(図版172~180)

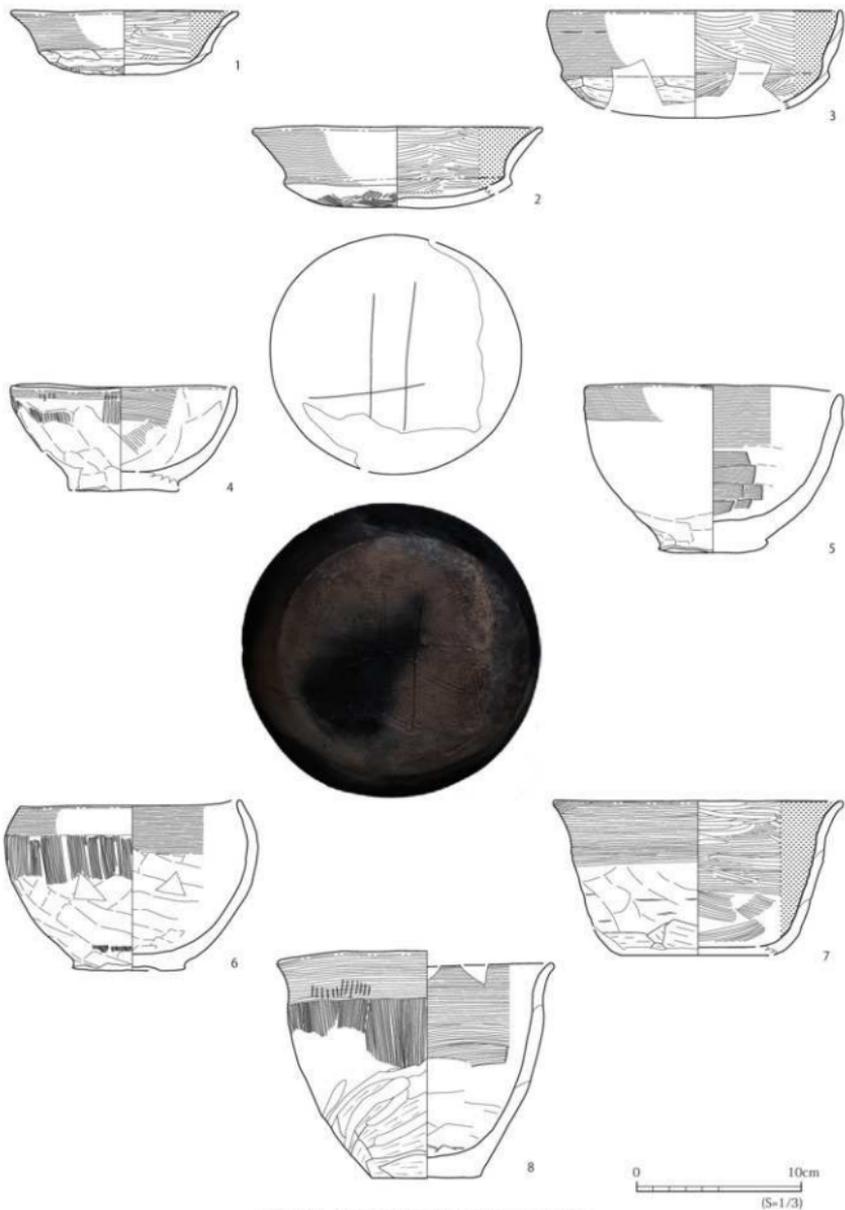
PA 2地点で認められ、SD2050Bの右岸から投棄された一括土器群である。土師器・須恵器が出土した。器種には土師器環・鉢・広口壺・小型甕・大型甕・甗・ミニチュア、須恵器甕がある。

##### 土師器

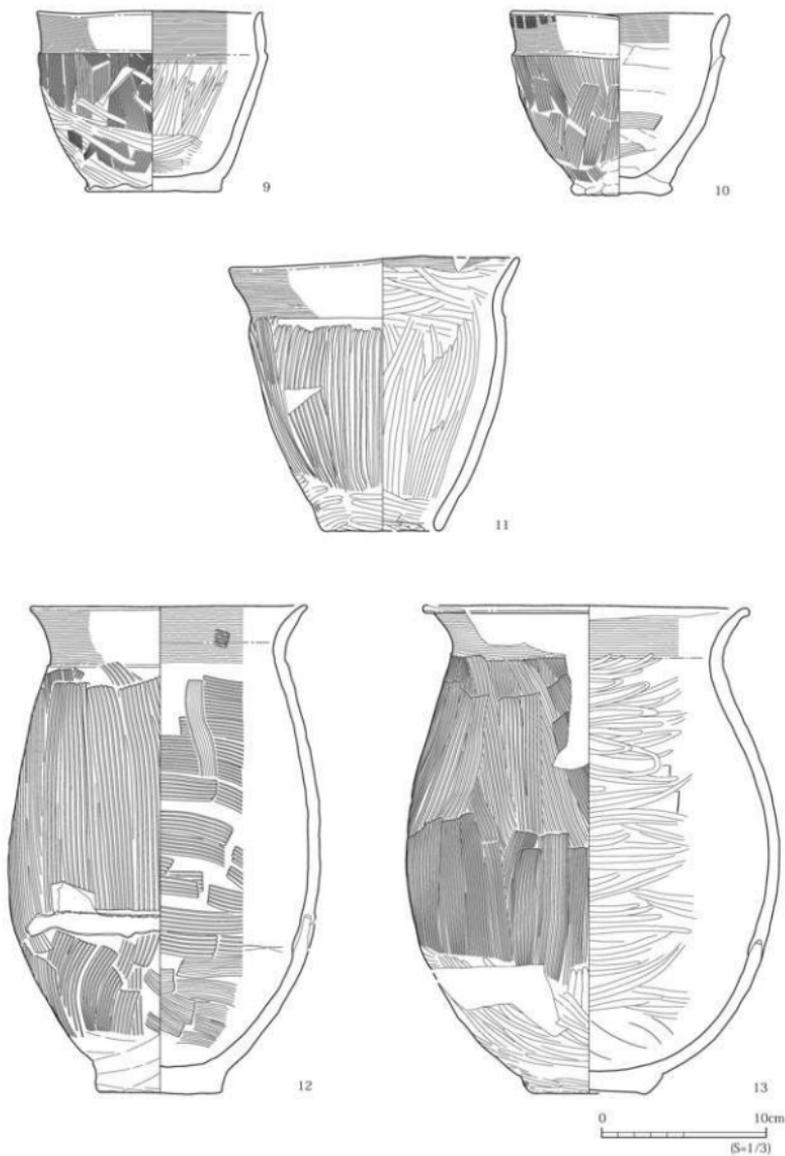
〔環〕3点図示した(1~3)。有段丸底で、内面はヘラミガキののち黒色処理される。1・2は口縁部が外反する。外面調整は、1が口縁部ヨコナデ、段以下がヘラケズリ、2は口縁部ヨコナデ、底部付近がハケメののち、ヘラ記号「井」が施される。3は口縁部が長く直立し、外面調整は口縁部ヨコナデ、段以下がヘラケズリである。

〔鉢〕5点図示した(4~7・9)。いずれも平底である。4~6・9は甕類の疑似口縁が認められる。胴下半と器形・大きさとも似ており、製作段階の共有性が認められる。このうち、9は頸部に段が認められる。調整は口縁部内外がヨコナデ、体部外面はハケメののちナデ(4・6)やヘラミガキ(9)で、内面はヘラナデ(5)やナデ(4・6)、ヘラミガキ(9)が施される。7は平底の台形を呈する。内面はナデからヘラミガキののち黒色処理が施される。調整は外面がハケメののちヨコナデで、胴下半にヘラケズリが施される。

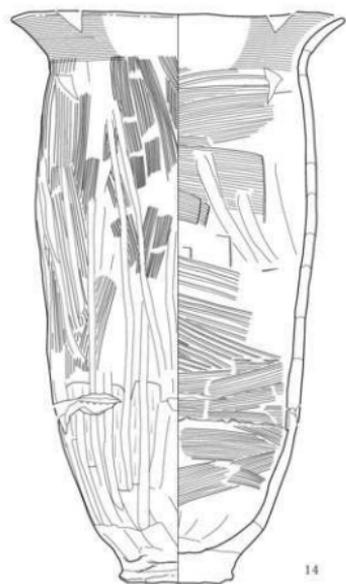
〔広口壺〕3点図示した(13・18・19)。13は平底で、最大径が胴下半にある。頸部に段を持ち、調整は口縁部内外面がヨコナデ、胴部外面はハケメののちヘラミガキ、胴部内面はヘラナデののちヘ



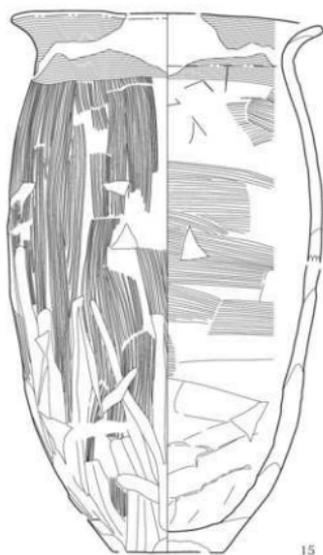
図版172 SD2050B河川跡2層上面出土土器 1



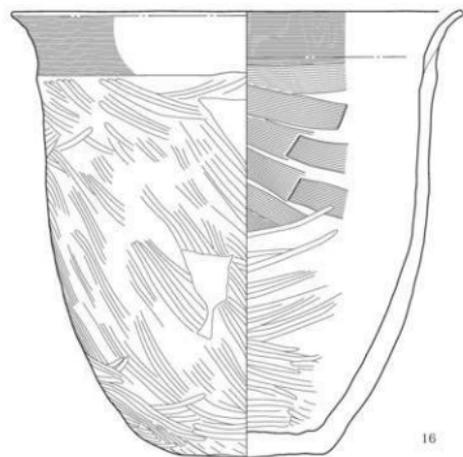
図版173 SD20508河川跡2層上面出土土器2



14



15



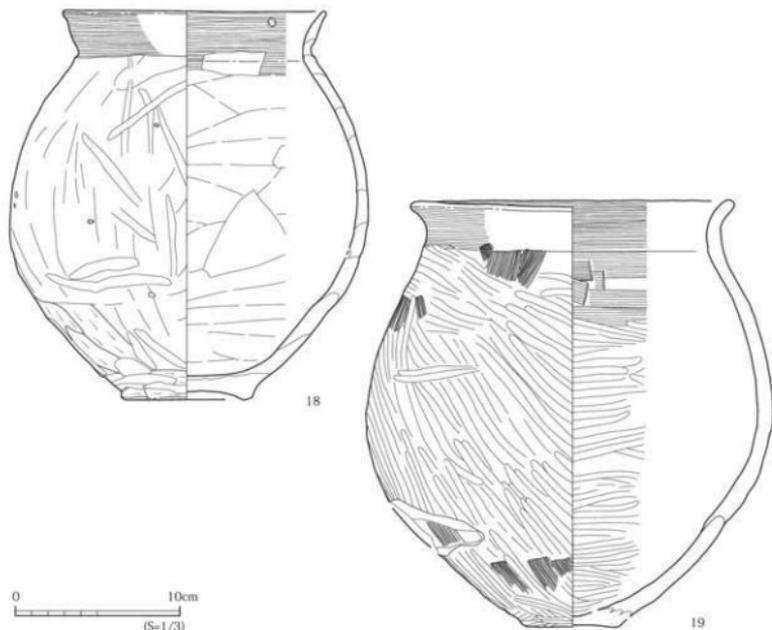
16



17



図版174 SD2050B河川跡2層上面出土土器3



No.	器種	地点	層位	図説	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存 分祭 / 胎土	備考	登録	
1	土師器・杯	PA2	2層13a	外面:ヨコナデ・ハラウズリ 内面:ハラミガキ→黒色処理	(13.5)	—	3.9	1/3	B1	一括祭	545
2	土師器・杯	PA2	2層13a	外面:ヨコナデ・ハケメ 内面:ハラミガキ→黒色処理	17.4	—	4.9	3/4	B1	一括祭-1 底部にハラミガキ(柱)	323
3	土師器・杯	PA2	2層13a	外面:ヨコナデ・ハラウズリ 内面:ハラミガキ→黒色処理	17.6	—	(6.0)	2/3	B2		627
4	土師器・鉢	PA2	2層13a	外面:ハケメ→ナデ→ヨコナデ 内面:ナデ	13.6	(6.6)	4.3	2/3	B	一括祭-2	554
5	土師器・鉢	PA2	2層13a	外面:ヨコナデ・ナデ 内面:ハラミガキ→ナデ→ヨコナデ 底部に木製	14.9	6.5	10.1	完形	B		329
6	土師器・鉢	PA2	2層13a	外面:ハケメ→ヨコナデ・ナデ 内面:ヨコナデ→ナデ 底部に木製	15.3	6.9	9.9	2/3	B	一括祭	550
7	土師器・鉢	PA2	2層13a	外面:成形ナデ→ヨコナデ・ハラウズリ 内面:ナデ→ハラミガキ→黒色処理	17.4	(9.2)	(9.4)	3/4	A2	胎土に海綿状針を含む	547
8	土師器・小笠	PA2	2層13a	外面:ハケメ→ヨコナデ・ハラウズリ→ハラミガキ 内面:ナデ→ヨコナデ 底部:ナデ	16.5	6.6	13.8	2/3	A	一括祭	549
9	土師器・鉢	PA2	2層13a	外面:ヨコナデ→ハケメ→ハラミガキ 内面:ヨコナデ→ミガキ 底部:ハケメ→ハラミガキ	13.6	8.1	11.0	3/4	B		548
10	土師器・鉢	PA2	2層13a	外面:ハケメ→ヨコナデ→ナデ 内面:ヨコナデ→ナデ→ハラウズリ	13.0	5.6	10.9	完形	A	一括祭	330
11	土師器・甕	PA2	2層13a	外面:ヨコナデ→ハケメ→ハラウズリ→ハラミガキ 内面:ヨコナデ→ハラウズリ→ハラミガキ	17.3	—	16.5	完形	A1	深鉢形。無底	332
12	土師器・大型甕	PA2	2層13a	外面:[脚上]ヨコナデ→ハケメ [脚下]ナデ→ハケメ 内面:[脚上]ヨコナデ→ハケメ→ナデ [脚下]ナデ→ハケメ 底部に木製	16.5	7.5	29.7	完形	B	一括祭。脚下部上部に上平を接合するための部目	333
13	土師器・広口甕	—	2層13a	外面:ヨコナデ→ハケメ→ハラミガキ 内面:ヨコナデ→ハラウズリ→ハラミガキ	19.6	(7.0)	29.7	1/2	A		556
14	土師器・大型甕	PA2	2層13a	外面:[口]ハケメ→ヨコナデ [脚]ハケメ→ハラミガキ [脚上]ハラウズリ→ハラミガキ 内面:[口]ハケメ→ヨコナデ [脚]ハケメ→ハラウズリ→ハラミガキ [脚上]ナデ 底部:ハラウズリ	19.8	6.6	34.8	完形	C	一括祭。脚下部上部に上平を接合するための部目	334
15	土師器・大型甕	PA2	2層13a	外面:[口]ハケメ→ヨコナデ [脚]ハケメ→ハラミガキ 内面:ナデ→ヨコナデ	(18.8)	—	33.0	2/3	A	一括祭-1。胎土に海綿状針を含む	552
16	土師器・大型甕	PA2	2層13a	外面:ヨコナデ→ハラウズリ→ハラミガキ 内面:ヨコナデ→ナデ→ハラウズリ→ハラミガキ	27.2	9.8	27.4	1/2	E		553
17	須恵器・甕	PA2	2層13a	外面:平行タタキ 内面:ナデ	—	—	—	一部	S		559
18	土師器・広口甕	PA2	2層13a	外面:[口]ヨコナデ [脚]ナデ→ハラミガキ [脚上]ハラウズリ→ハラミガキ 内面:[口]ヨコナデ [脚]ナデ 底部:ハラミガキ	15.6	7.2	23.7	2/3	B	一括祭。胎土に紋物が残る	336
19	土師器・広口甕	PA2	2層13a	外面:ハケメ→ヨコナデ→ハラミガキ 内面:ヨコナデ→ナデ→ハラウズリ→ハラミガキ	19.0	—	26.1	2/3	B		335

図版175 SD2050B河川跡2層上面出土土器4



图版176 SD20508河川跡2層上面出土土器5



10



8



11



12の胴下平の接合部アップ

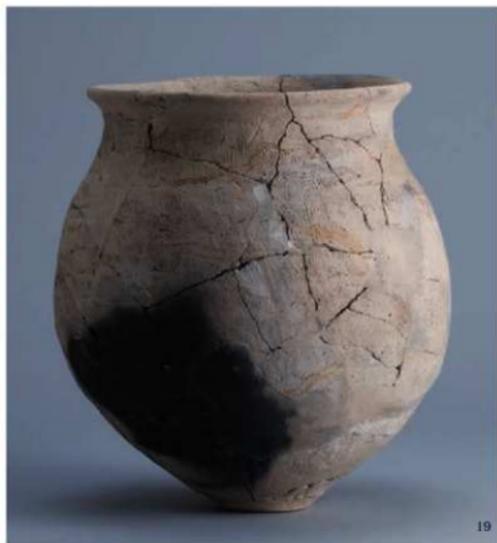


12

図版177 SD2050B河川跡2層上面出土土器6



図版178 SD2050B河川跡2層上面出土土器 7



图版179 SD20508河川跡2層上面出土土器8



図版180 SD20508河川跡2層上面出土土器9

ラミガキである。最大径の位置に疑似口縁が認められる。18・19は平底で、胴部の膨らみが強く最大径が胴中央にある。調整は口縁部内外面がヨコナデ、胴部外面は18がヘラケズリののちヘラミガキ、19はハケメののちヘラミガキである。胴部内面は18がナデ、19はヘラナデののちヘラミガキである。また、18は胎土に穀物が混入していた。

〔小型甕〕2点図示した(8・10)。平底で、8は口縁部が外反し、9は頸部に段が認められる。外面調整は外面がハケメののちヨコナデ、内面は口縁部ヨコナデ、胴部はナデである。

〔大型甕〕4点図示した(12・14~16)。いずれも平底であるが、胴部形態はそれぞれ異なる。12は最大径が胴下半、14は胴上半にある。一方、15は縦長の楕円形で、16は丈が短い寸胴である。12・16は頸部に段を持つ。調整は口縁部内外面がヨコナデで、胴部外面は12がハケメ、14がハケメ・ヘラケズリののちヘラミガキ、15はハケメののちヘラミガキ、16はヘラミガキである。胴部内面は12がハケメ・ナデ、14がハケメ・ナデののち部分的にヘラミガキ、15はナデ、16がヘラナデののちヘラミガキである。12・14は、胴下半に疑似口縁が認められた。

〔甕〕1点図示した(11)。鉢形・無孔で、頸部に段を持つ。調整は口縁部内外面がヨコナデ、胴部外面がハケメののちヘラミガキ、内面はヘラミガキで、胴部下端はその前段階にヘラケズリが施されている。

## 須恵器

〔甕〕1点図示した(17)。中甕の胴部破片とみられ、調整は外面が平行タタキ、内面はナデである。胎土は5である。

## 【12】SD2050B-1層出土土器(図版181～194)

器種には土師器杯・埴・高杯・鉢・壺・小型広口壺・広口壺・小型甕・大型甕・甗・ミニチュア、須恵器高杯・盤・坏蓋・壺蓋・提瓶・壺・甕がある。

## 土師器

〔杯〕11点図示した(1～11)。1～8は有段丸底で、内面はヘラミガキのち黒色処理される。1～4は口縁部が外傾もしくは外反する。外面調整は、1・2が口縁部ヨコナデ、段以下がヘラケズリ、3は口縁部ヨコナデ、段以下がヘラケズリのちヘラミガキ、4は口縁部がハケメのちヨコナデ、底部付近がヘラケズリである。5も同じ器形となるとみられ、口縁部外面はヨコナデのち縄圧痕が施された。7は口縁部が内弯気味に外傾し、外面調整は口縁部がヨコナデ、段以下がヘラケズリのちヘラミガキである。

6・8は口縁部が直立する。外面調整は口縁部がヨコナデ、段以下は6がヘラケズリ、8はヘラケズリのちヘラミガキである。10・11も丸底で、内面はヘラミガキのち黒色処理される。10は口縁部が外反する。外面調整はヨコナデのちヘラミガキである。11は須恵器杯Hの模倣品で、外面調整は口縁部がヨコナデ、底部付近がヘラケズリである。9は口縁部が短く直立する。外面はヨコナデのちヘラケズリ、内面はヨコナデのち漆仕上げが施された。

〔高杯〕2点図示した(13・14)。13は平底状の有段丸底杯に柱実の脚部が付くものである。調整は口縁部外面がハケメのちヨコナデ、坏底部付近から脚部はヘラケズリで、内面はヘラミガキのち黒色処理である。14は脚部上半が柱実棒状、下半が円錐形に開く。調整は外面がヨコナデのちヘラケズリ、内面はナデである。

〔埴〕1点図示した(12)。平底で体部に段を持ち、内面はヘラミガキのち黒色処理される。外面調整は口縁部がヨコナデ、段以下がヘラケズリのちヘラミガキである。

〔鉢〕4点図示した(15～18)。平底とみられ、甕類の疑似口縁が認められる胴下半と器形・大きさとも共通する。15は口縁部下に段、15・17は底部に木葉痕が認められる。15～17は口縁部内外の調整がヨコナデ、体部内外はナデで、17のみ内面底部付近にヘラミガキが施される。18は口縁部が外反する。口縁部内外の調整はヨコナデ、体部は外面がナデで、内面はハケメとナデである。

〔壺〕4点図示した(20・21・25・27)。20・25は頸部の締まりが強く、21・27は締まりが弱い。20は内外ともヘラミガキのち、外面に格子状の刻線が施される。25は、頸部が直立して口縁部が外反する。調整は口縁部内外がヨコナデ、胴部は外面がハケメ、内面はナデ・ヘラナデである。21は大型の壺で、最大径が胴下半にある。調整は口縁部内外がハケメのちヨコナデ、胴部はハケメ、内面がヘラナデである。胴下半に疑似口縁が認められる。27は超大型の壺である。胴部の膨らみが非常に強く、底部内面が丸底状で、東北地方北部土師器の特徴を持つ。頸部に段を持ち、口縁端部が四角状

である。調整は口縁部内外がヨコナデ、胴部は外面がハケメののちヘラミガキ、内面はハケメ・ナデである。

〔小型広口壺〕1点図示した(22)。平底で、最大径は胴下半にある。頸部に段を持ち、調整は口縁部内外面がヨコナデ、胴部外面はハケメ・ナデ、胴部内面はヘラナデである。

〔広口壺〕2点図示した(23・24)。ともに頸部に段を持つが、23は胴部の膨らみが弱く、24は強い。調整は23が口縁部内外がヨコナデ、胴部外面がハケメののちヘラミガキ、内面はヘラミガキである。24はヨコナデののちナデである。

〔小型甕〕1点図示した(19)。平底で、口縁部が外反する。外面調整は口縁部外面がハケメののちヨコナデ、内面は口縁部ヨコナデ、胴部はナデである。

〔大型甕〕2点図示した(26・28)。ともに胴部は縦長の楕円形である。26は口縁部が強く外反し、調整は口縁部内外がヨコナデ、胴部は外面がナデ、内面がヘラナデである。28は口縁部内外がヨコナデ、胴部外面はハケメののちヘラケズリ、内面はハケメ・ナデで、胴下半の疑似口縁部分はヘラケズリされた。

#### 須恵器

〔高坏〕2点図示した(29・30)。無蓋の坏部で、29の坏下半には回転ヘラケズリが施される。胎土は29が5、30は2である。

〔盤〕1点図示した(31)。底部付近は手持ちヘラケズリが施される。胎土は5である。

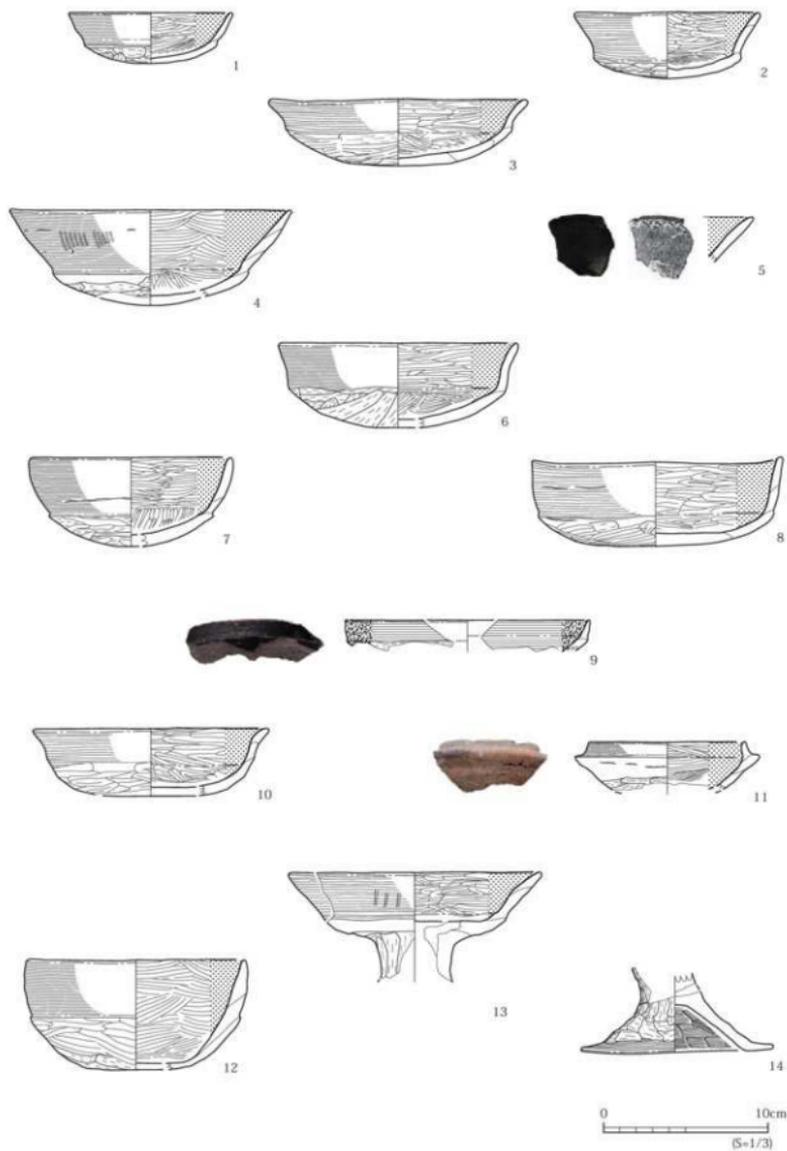
〔环蓋〕2点図示した(32・33)。坏Gの蓋とみられ、33には擬宝珠つまみが付く。胎土は32が2、33は5である。

〔壺蓋〕5点図示した(34～38)。いずれも天井部と体部の境に稜を持つ。天井部は34・35が手持ちヘラケズリ、36・38は回転ヘラケズリが施された。34は口縁部が外反し、35は口縁端部が凹み、38は天井部が平坦である。また、38は天井部にヘラ切りが認められる。胎土は34・35が3、36・38が4、37は5である。

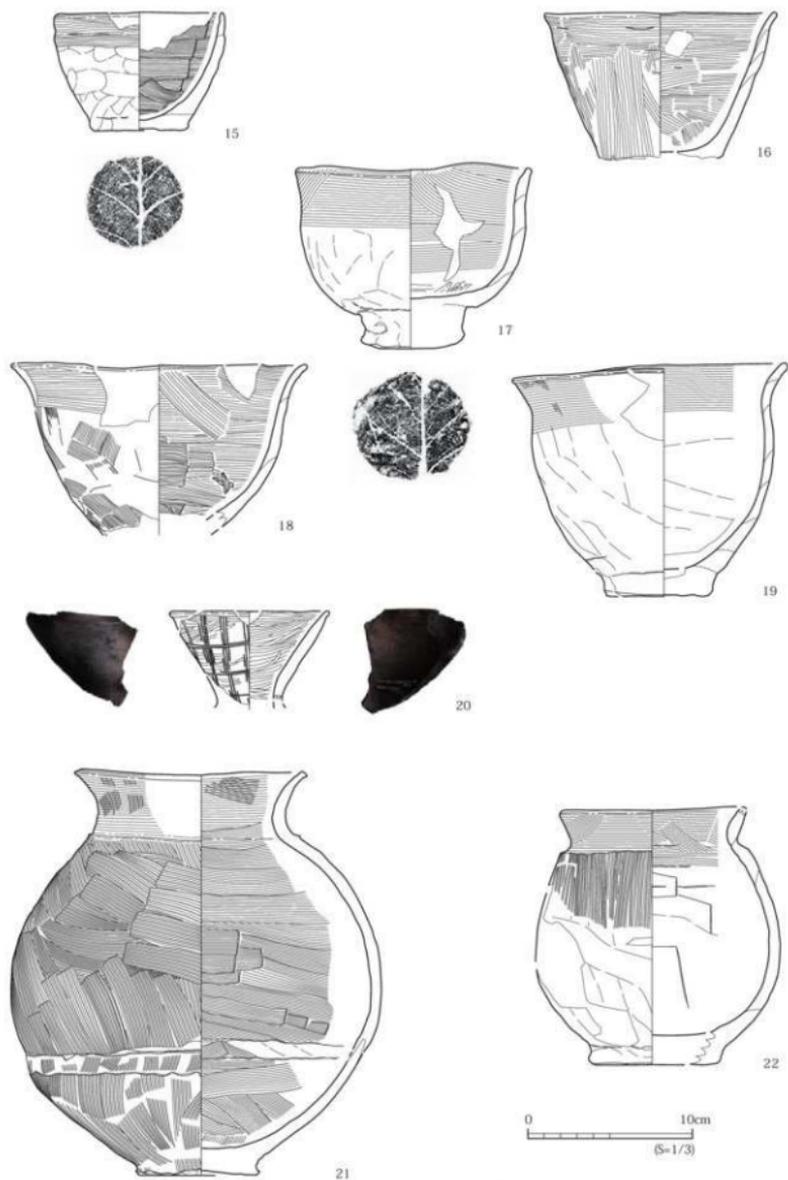
〔提瓶〕1点図示した(39)。外面の口縁部下に沈線が巡る。薄手で胎土は6である。

〔甕〕24点図示した(40～63)。40は中甕の口縁部、41は中甕の胴上部で、外面はロクロナデの前に平行タタキが認められる。40は口縁端部が上下につまみ出される。42は頸部破片で、外面はハケメののちロクロナデである。45は丸底の中甕で、頸部に2段以上の櫛描波状文が施される。調整は外面が平行タタキののちカキメ、内面は同心円アテ具・無文アテ具ののちナデである。

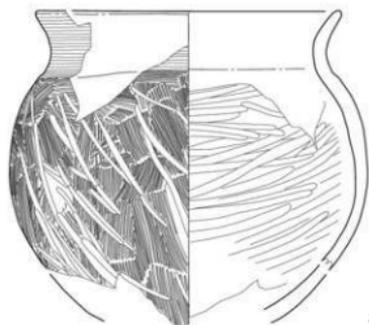
43・44・46～63は胴部破片で、調整は外面が平行タタキののちカキメ(46～49・56・61)、平行タタキ(43・44・50～53・55・57～60・62・63)、内面は同心円アテ具(43・44・48・49・52～56・58～62)、同心円アテ具ののちナデ(51・57・63)、無文アテ具(50)、ナデ(47)である。胎土は40・50～53・55・62・63が1、41・45・49が2、42が3、43・44・46～48・54・56～61が5である。



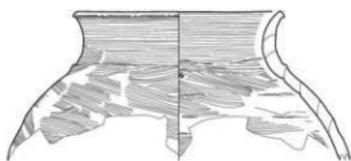
図版181 SD2050B河川跡1層出土土器1



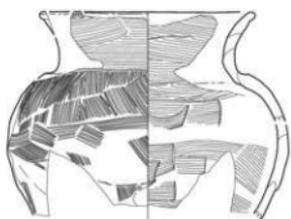
圖版182 SD20508河川跡1層出土土器2



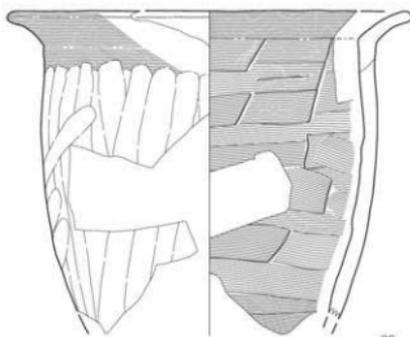
23



24



25



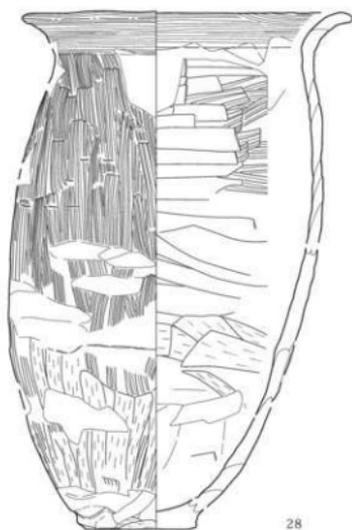
26



图版183 SD2050B河川跡1層出土土器3



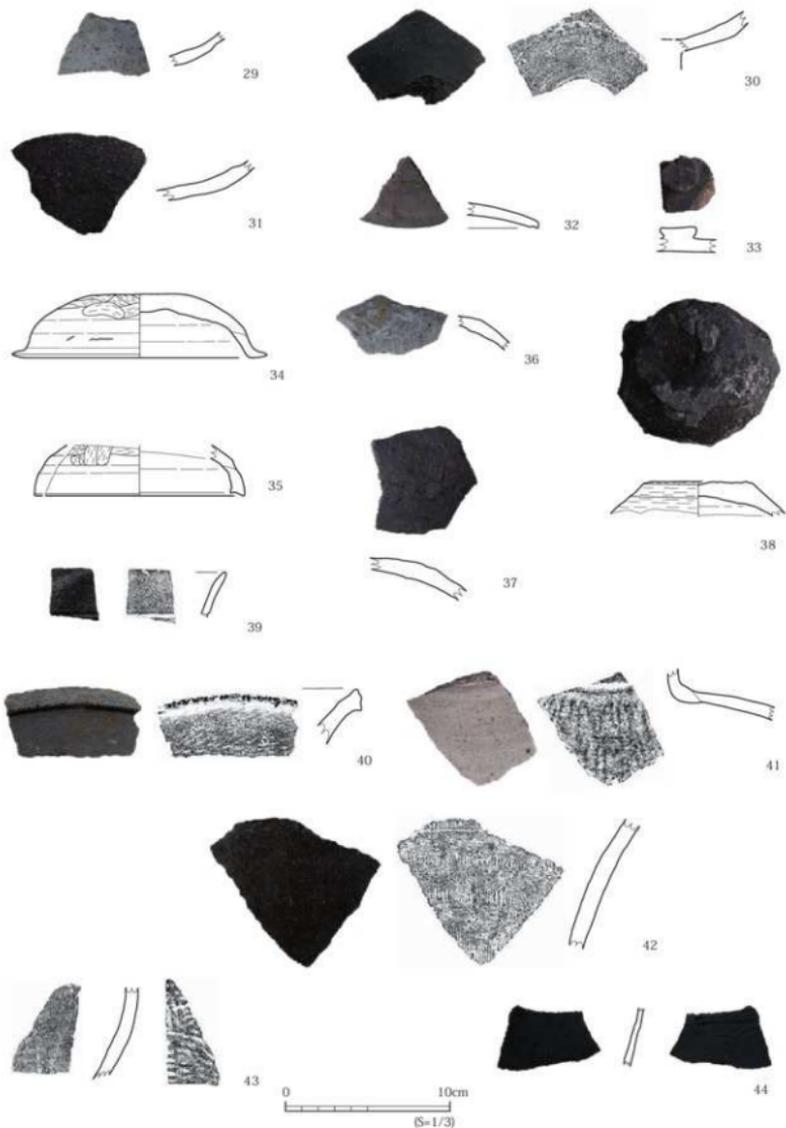
27



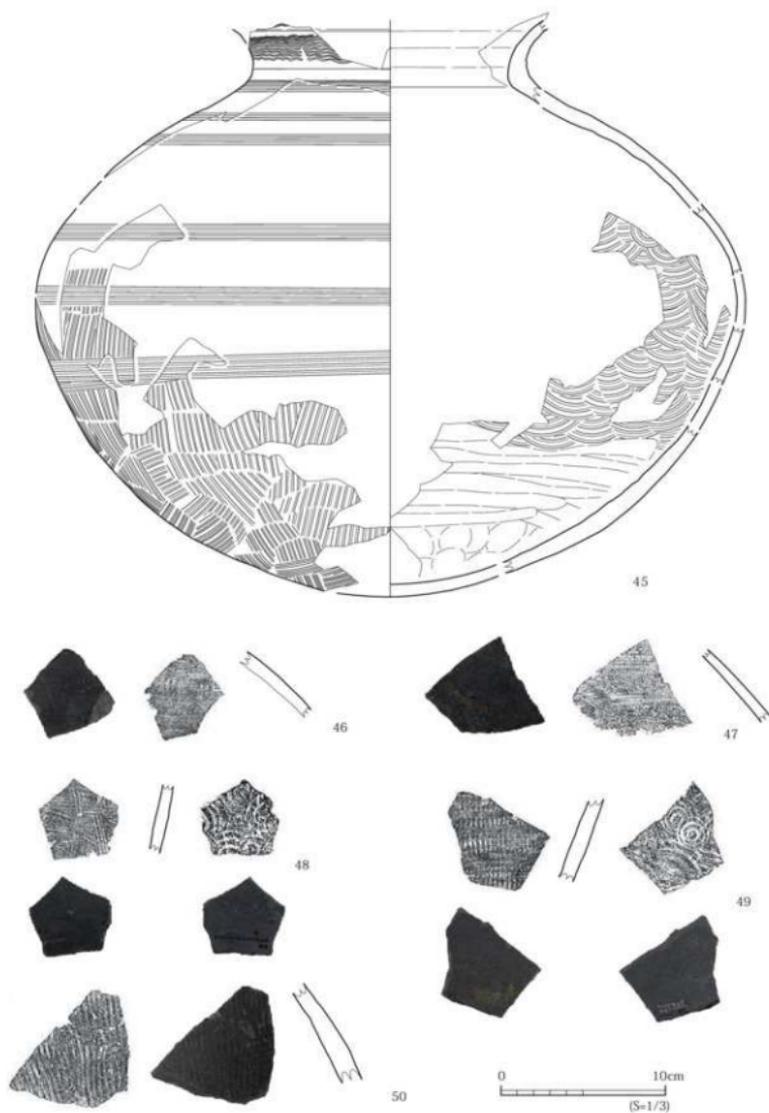
28



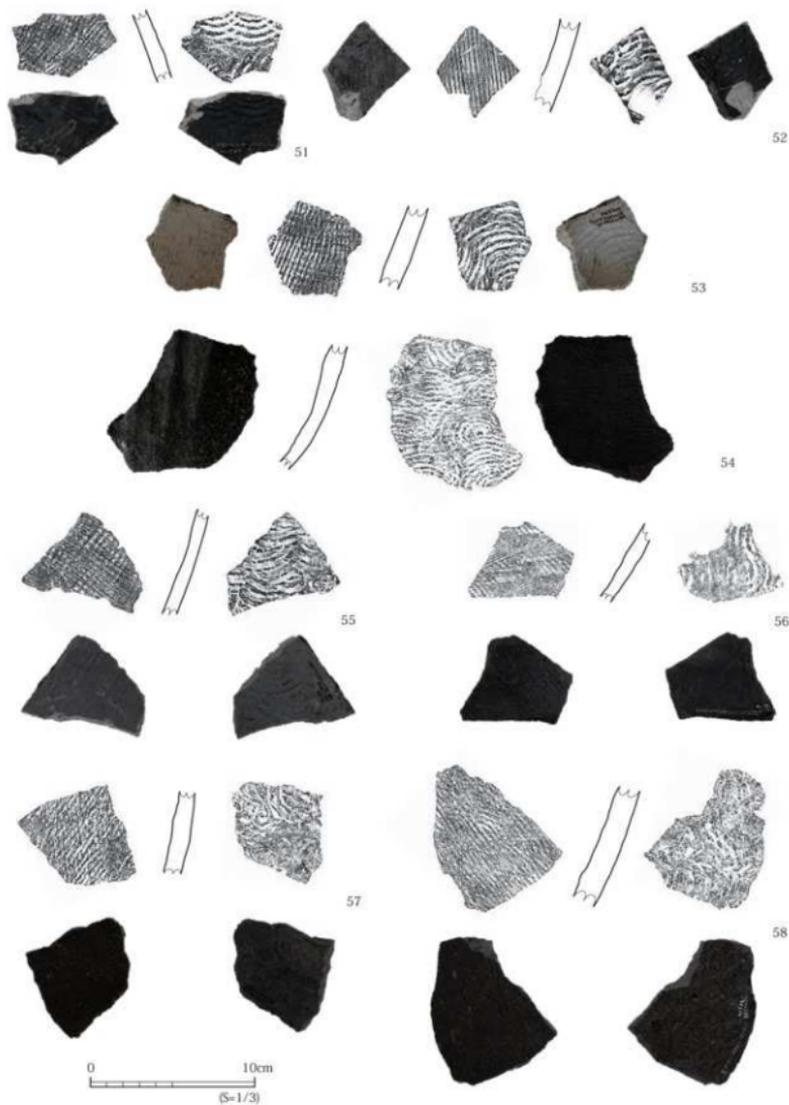
圖版184 SD2050B河川跡1層出土土器4



圖版185 SD2050B河川跡1層出土土器5



圖版186 SD2050B河川跡1層出土土器6



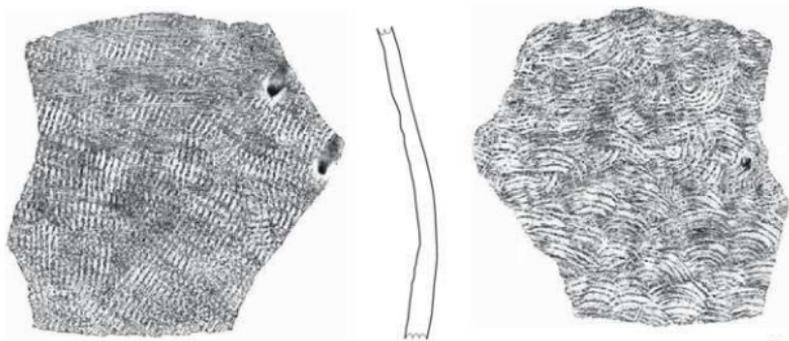
图版187 SD2050B河川跡1層出土土器7



59



60



61



圖版188 SD2050B河川跡1層出土土器8



図版189 SD2050B河川跡1層出土土器9



1



2



3



4



6



7

No.	器種	地味	層位	図説	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	横容	分級/胎土	備考	登録
1	土師器・杯		1層	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(10.0)	—	3.1	1/4	B1		862
2	土師器・杯	PA2	1層	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(11.0)	—	4.1	1/3	B1	胎土に海綿骨針を含む	565
3	土師器・杯	PA2	1層	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(15.2)	—	4.0	1/4	B1	胎土に海綿骨針を含む	561
4	土師器・杯	—	1層	外面：ハケメ→ヨコナデ・ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(17.0)	—	(5.8)	1/4	B1		477
5	土師器・杯	PA2 東	1層	外面：ヨコナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	—	—	—	—	一部	口縁部内面に縄の圧痕	629
6	土師器・杯	—	1層	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(14.6)	—	(5.2)	1/4	C2		865
7	土師器・杯	—	1層	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(12.4)	—	(5.4)	1/2	B2		864
8	土師器・杯	PA2	1層	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	15.0	6.5	5.1	1/2	C2	底部片裂が明確。胎土に海綿骨針を含む	314
9	土師器・杯	SX750 下	1層	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ 内面：ヨコナデ 内外とも漆仕上げ	(14.8)	—	—	一部	G2	関東系土師器	719
10	土師器・杯	PA2	1層	外面：ヨコナデ・ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(14.0)	—	(4.1)	1/4	F	胎土に海綿骨針を含む	564
11	土師器・杯	PA2 東	1層	外面：ヨコナデ→ナデ・ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(9.7)	—	—	一部	C1	胎土に海綿骨針を含む。林縁破損	628
12	土師器・碗	PA1	1層	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(13.2)	—	(6.7)	1/4	A	胎土に海綿骨針を含む	481
13	土師器・高杯	PA2	1層	外面：ハケメ→ヨコナデ→ナデ・ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(15.2)	—	—	1/3	A	胎土に海綿骨針を含む	567
14	土師器・高杯	PA2	1層	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ 内面：ヘラケズリ	—	—	—	1/3	A	脚部径：11.5cm	568
15	土師器・鉢	SX750 下	1層	外面：ヨコナデ→ナデ 内面：ヘラケズリ→ナデ 底部に木炭痕	10.4	6.0	7.2	3/5	B		721
16	土師器・鉢	PA2	1層	内外面：ヨコナデ→ナデ	(13.8)	—	—	1/4	B		571
17	土師器・鉢	PA2	1層	外面：ナデ→ヨコナデ 内面：ヨコナデ・ヘラミガキ 底部に木炭痕	(14.0)	6.5	11.3	1/3	B	胎土に海綿骨針を含む	569
18	土師器・鉢	PA2	1層	外面：ハケメ→ヘラケズリ→ヨコナデ 内面：ヨコナデ→ナデ→ヘラケズリ→ハケメ	(17.6)	—	—	1/3	B	内面にヘラ書き「□」	570
19	土師器・小笠	PA2	1層	内外面：ナデ→ハケメ→ヨコナデ 底部：ヘラケズリ	16.4	5.5	14.2	1/2	A2	胎土に海綿骨針を含む	574
20	土師器・壺	PA2 東	1層	外面：ヘラミガキ→黒色処理 胎土：糖子状炭 内面：ヘラミガキ	(9.7)	—	(5.9)	一部	A2	東北北部系	548
21	土師器・壺	PA2	1層	外面：ハケメ→ヨコナデ→ナデ 内面：ハケメ→ヨコナデ→ヘラケズリ	13.5	7.1	24.7	完形	B	一括	575
22	土師器・小型広口壺	—	1層	外面：ヨコナデ→ハケメ→ナデ 内面：ヨコナデ→ヘラケズリ 底部に木炭痕	(11.1)	(7.4)	15.5	1/3	—	胎土に海綿骨針を含む	557
23	土師器・広口壺	SX750 下	1層	外面：ハケメ→ヨコナデ→ヘラミガキ 内面：□ヨコナデ→ヘラミガキ	(18.2)	—	19.7	1/5	A		720
24	土師器・広口壺	PA2	1層	内外面：ヨコナデ→ナデ	(12.3)	—	—	1/5	B	内面に精粒。胎土に海綿骨針を含む	579
25	土師器・壺	PA2	1層	外面：成形ナデ→ハケメ→ハケメ→ヨコナデ 内面：ナデ→ヘラケズリ	(13.1)	—	—	1/3	A1		580
26	土師器・大笠	PA2 東	1層	外面：ヨコナデ→ナデ 内面：ヨコナデ→ヘラケズリ→ナデ	(24.6)	—	(19.7)	一部	A		630
27	土師器・壺	PA2	1層	外面：ハケメ→ヨコナデ、ヘラミガキ→ナデ 内面：ハケメ→ヨコナデ→ハケメ(一部) 底部：ヘラケズリ	(16.8)	8.8	30.8	2/3	B	底部にヘラ書き「一」	578
28	土師器・大笠	PA2	1層	外面：ハケメ→ヨコナデ、ヘラケズリ 内面：ヨコナデ→ハケメ→ヘラケズリ、ヘラケズリ 底部：ヘラケズリ	(20.0)	6.7	31.7	1/2	A		577

図版190 SD20508河川跡1層出土土器10



8



10



12



14



13

No.	品種	地点	層位	図号	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存 分組	胎土	備考	登録
29	須恵器・高杯	PA1	1層	外面: ロクロナデ→刷毛ヘラケズリ 内面: ロクロナデ→ナデ	-	-	-	一部	3		650
30	須恵器・高杯	SX750下	1層	内外面: ロクロナデ	-	-	-	一部	2		722
31	須恵器・甕	PA2	1層	外面: 手持ちヘラケズリ 内面: ロクロナデ	-	-	-	一部	5		605
32	須恵器・甕	PA2	1層	外面: ロクロナデ→刷毛ヘラケズリ 内面: ロクロナデ	-	-	-	一部	2	坏C	608
33	須恵器・甕	PA2	1層	内外面: ロクロナデ	-	-	-	一部	5	坏G, 甕宝珠ツツミ (径2.3cm)	607
34	須恵器・甕蓋	-	1層	外面: ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面: ロクロナデ	(15.6)	-	3.9	1/5	3		869
35	須恵器・甕蓋	-	1層	外面: ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面: ロクロナデ	(12.8)	-	-	1/5	3		870
36	須恵器・甕蓋	PA1	1層	外面: ロクロナデ→刷毛ヘラケズリ 内面: ロクロナデ→ナデ	-	-	-	一部	4		660
37	須恵器・甕蓋	PA2	1層	外面: ロクロナデ→ナデ 内面: ロクロナデ	-	-	-	一部	5	一括古	603
38	須恵器・甕蓋	-	1層	外面: 刷毛ヘラケズリ 内面: ロクロナデ 天目部: ヘラ切り→刷毛ヘラケズリ	-	-	-	一部	4		856
39	須恵器・甕蓋	-	1層	内外面: ロクロナデ	-	-	-	一部	6	口縁下に洗刷	633
40	須恵器・甕	SX750下	1層	外面: 平行タタキ→ロクロナデ 内面: ロクロナデ	-	-	-	一部	1		730
41	須恵器・甕	-	1層	外面: 平行タタキ→ロクロナデ 内面: ロクロナデ	-	-	-	一部	2		871
42	須恵器・甕	SX750下	1層	外面: ハケメ→ロクロナデ 内面: ロクロナデ	-	-	-	一部	3		725
43	須恵器・甕	PA1	1層	外面: 平行タタキ 内面: 同心円アテ具	-	-	-	一部	5		658
44	須恵器・甕	PA1	1層	外面: 平行タタキ 内面: 同心円アテ具	-	-	-	一部	5		667
45	須恵器・中小型甕	-	1層	外面: ロクロナデ→糊固成状、平行タタキ→カキメ 内面: 同心円、無文字具→ナデ	-	-	-	1/6	2		586
46	須恵器・甕	PA2東	1層	外面: 平行タタキ→カキメ	-	-	-	一部	5		635
47	須恵器・甕	SX750下	1層	外面: ナデ→カキメ 内面: ナデ	-	-	-	一部	5		727
48	須恵器・甕	PA1	1層	外面: 平行タタキ→カキメ 内面: 同心円アテ具	-	-	-	一部	5		666
49	須恵器・甕	PA1	1層	外面: 平行タタキ→カキメ 内面: 同心円アテ具	-	-	-	一部	2		657
50	須恵器・甕	PA2	1層	外面: 平行タタキ 内面: 無文字具	-	-	-	一部	1		595
51	須恵器・甕	PA2	1層	外面: 平行タタキ 内面: 同心円アテ具→ナデ	-	-	-	一部	1		597
52	須恵器・甕	PA2	1層	外面: 平行タタキ 内面: 同心円アテ具	-	-	-	一部	1		590
53	須恵器・甕	-	1層	外面: 平行タタキ 内面: 同心円アテ具	-	-	-	一部	1		596
54	須恵器・甕	SX750下	1層	内面: 同心円アテ具	-	-	-	一部	5		729
55	須恵器・甕	PA2	1層	外面: 平行タタキ 内面: 同心円アテ具	-	-	-	一部	1		594
56	須恵器・甕	SX750下	1層	外面: 平行タタキ→カキメ 内面: 同心円アテ具	-	-	-	一部	5		723
57	須恵器・甕	SX750下	1層	外面: 平行タタキ 内面: 同心円アテ具→ナデ	-	-	-	一部	5		726
58	須恵器・甕	SX750下	1層	外面: 平行タタキ 内面: 同心円アテ具	-	-	-	一部	5		724
59	須恵器・甕	PA2	1層	外面: 平行タタキ 内面: 同心円アテ具	-	-	-	一部	5		589
60	須恵器・甕	PA2東	1層	外面: 平行タタキ 内面: 同心円アテ具	-	-	-	一部	5		644
61	須恵器・甕	SX750下	1層	外面: 平行タタキ→カキメ 内面: 同心円アテ具	-	-	-	一部	5		728
62	須恵器・甕	PA2	1層	外面: 平行タタキ 内面: 同心円アテ具	-	-	-	一部	1		591
63	須恵器・甕	PA2	1層	外面: 平行タタキ 内面: 同心円アテ具→ナデ	-	-	-	一部	1		592

図版191 SD2050B河川跡1層出土土器11



15



34



18



19



25



22



24

圖版192 SD20508河川跡1層出土土器12



图版193 SD20508河川跡1層出土土器13



圖版194 SD20508河川跡1層出土土器14

## 【13】SD100・2050B堆積土出土土器（図版195～197）

器種には土師器・埴輪・高環・鉢・広口壺・小型甕・大型甕・甗、須恵器・埴輪・小型短頸壺・壺蓋・提瓶・甕がある。

## 土師器

〔環〕4点図示した（1～4）。1・3・4は有段丸底で、内面はヘラミガキののち黒色処理される。1は口縁部が外反し、外面調整は口縁部ヨコナデ、段以下がヘラケズリののちヘラミガキである。3・4は口縁部が短く直立し、外面調整は口縁部がヨコナデ、段以下は4がヘラケズリ、3はヘラケズリののちヘラミガキである。2は外面に稜を持ち、内面はヘラミガキのみ施される。外面調整は、口縁部ヨコナデ、稜以下はヘラケズリである。2・3ともに底部に刻書「×」が認められる。

〔広口壺〕1点図示した（6）。頸部に段を持ち、胴部の膨らみが強い、口縁部は外反する。調整は口縁部内外がヨコナデ、胴部は外面がハケメののちナデからヘラミガキ、内面はヘラナデである。

## 須恵器

〔埴輪〕1点図示した（8）。横位の稜線間に櫛描列点文が施される。胎土は2である。

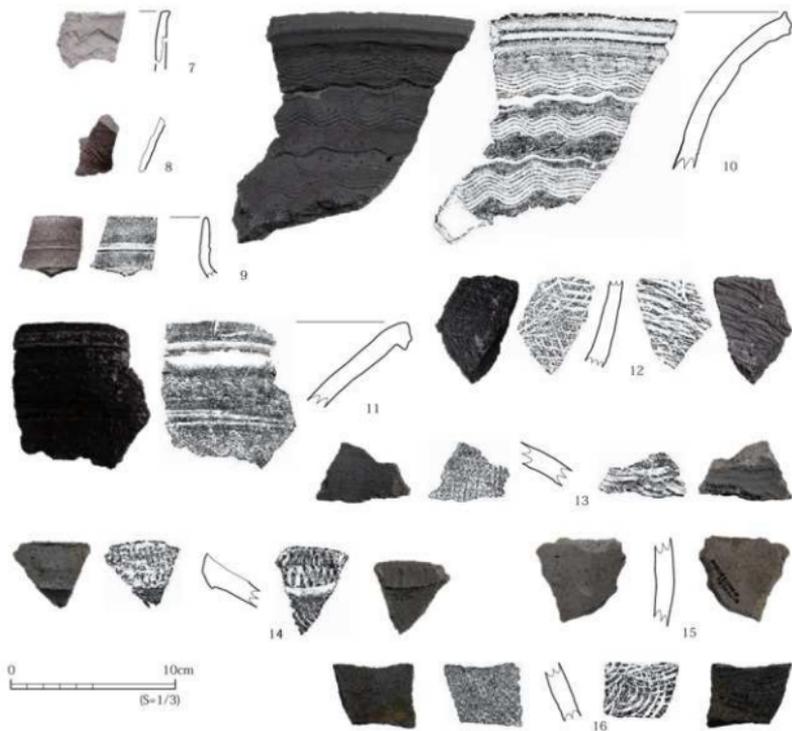
〔小型短頸壺〕2点図示した（7・9）。有蓋の口縁部である。9は薄手で頸部に沈線を持つ。胎土は7が2、9は6である。

〔壺蓋〕1点図示した（5）。口縁端部は外につまみ出され、天井部と体部の境に稜を持つ。天井部は手持ちヘラケズリが施された。胎土は3である。

〔甕〕13点図示した（10～22）。10・11は大甕の口縁部で、前者は口縁端部が上下につまみ出され、頸部に櫛描波状文が3段以上施される。後者は頸部に2本一組の区画沈線があり、2段以上の櫛描波状文が施された。12～22は胴部破片で、調整は外面が平行タタキ（12～14・16～22）、平行タタキののちナデ（15）、内面は同心円アテ具（12・13・16・22）、同心円アテ具ののちナデ（14・17～19・21）、無文アテ具（20）、ナデ（15）である。胎土は14・17・21が1、10・13・15・18・22が2、16が3、19が4、11・12・20が5である。

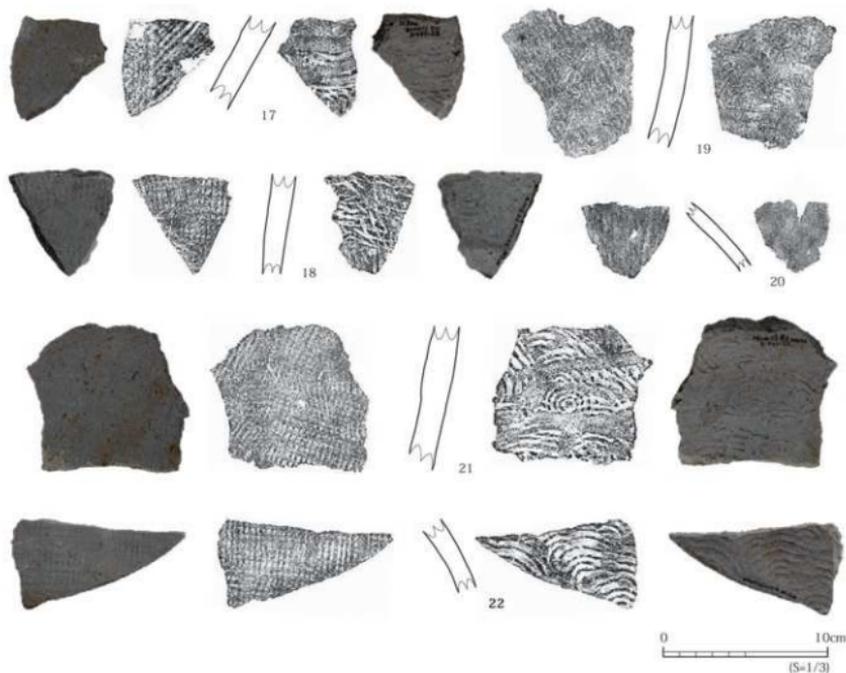


图版195 SD100・2050B河川跡堆積土出土土器1



No.	品種	地点	層位	調整	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存 份数 / 胎土	備考	登録
1	土師器・埴	L区	—	外面：ヨコナデ・ヘラタズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色地肌	(17.4)	—	4.2	1/3	B1	884
2	土師器・埴	L区	—	外面：ヨコナデ→ヘラタズリ 内面：ヘラミガキ	(15.8)	—	6.5	2/3	B1	872
3	土師器・埴	L区	—	外面：ヨコナデ→ヘラタズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色地肌	(13.6)	—	3.7	1/3	C 1	882
4	土師器・埴	L区	—	外面：ハケメ→ヨコナデ→ヘラタズリ 内面：ヘラミガキ→黒色地肌	(12.9)	—	(3.6)	1/4	C 1	883
5	須恵器・赤蓋	D区	—	外面：ロクロナデ→斜持ちヘラタズリ→ナデ 内面：ロクロナデ→ナデ	13.8	—	4.3	1/4	3	796
6	土師器・土口蓋	D区	SX750下	外面：ハケメ→ナデ・ヨコナデ→ミガキ 内面：ヘラナデ→ヨコナデ	(18.4)	—	—	1/4	B	734
7	須恵器・形瀬器	D区	SX750下	内外面：ロクロナデ	—	—	—	一部	2	731
8	須恵器・埴	D区	SX750下	外面：ロクロナデ→縹色刺点文	—	—	—	一部	2	733
9	須恵器・形瀬器	D区	—	外面：ロクロナデ→沈泥 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部	6	797
10	須恵器・甕	D区	—	外面：ロクロナデ→縹色刺点文 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部	2	799
11	須恵器・甕	D区	SX750下	外面：ロクロナデ→沈泥 (木一組)→縹色刺点文 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部	5	732
12	須恵器・甕	D区	—	外面：平行タタキ 内面：同心円アケ具	—	—	—	一部	3	811
13	須恵器・甕	D区	—	外面：平行タタキ 内面：同心円アケ具	—	—	—	一部	2	803
14	須恵器・甕	D区	—	外面：平行タタキ 内面：同心円アケ具→ナデ→同心円アケ具	—	—	—	一部	1	805
15	須恵器・甕	D区	—	外面：平行タタキ→ナデ 内面：ナデ	—	—	—	一部	2	807
16	須恵器・甕	D区	PA2	外面：平行タタキ 内面：同心円アケ具	—	—	—	一部	3	614
17	須恵器・甕	D区	—	外面：平行タタキ 内面：同心円アケ具→ナデ (横方向)	—	—	—	一部	1	802
18	須恵器・甕	D区	—	外面：平行タタキ 内面：同心円アケ具→ナデ	—	—	—	一部	2	801
19	須恵器・甕	D区	—	外面：平行タタキ 内面：同心円アケ具→ナデ	—	—	—	一部	4	814
20	須恵器・甕	D区	—	外面：平行タタキ 内面：無文アケ具	—	—	—	一部	5	808
21	須恵器・甕	D区	—	外面：平行タタキ 内面：同心円アケ具→ナデ (横方向)	—	—	—	一部	1	800
22	須恵器・甕	D区	—	外面：平行タタキ 内面：同心円アケ具	—	—	—	一部	2	804

図版196 SD100・2050B河川跡堆積土出土土器2



図版197 SD100・2050B河川跡堆積出土土器3

【14】SD100・2050B遺構確認而出土須恵器（図版198・199）

遺構確認面からは、土師器と須恵器が出土した。前者は、河川跡や奈良時代より新しい遺構出土土器と特徴が同じであることから、ここでは特徴的な須恵器を紹介したい。

－7世紀－

〔高坏〕厚手で、体部下端には手持ちヘラケズリが施される（1）。胎土は4である。

〔小型短頸壺〕頸部が短いことから無蓋とみられる（2）。薄手で、胎土は6である。

〔鉢〕口縁部が弱く外反する（3）。胎土は5である。

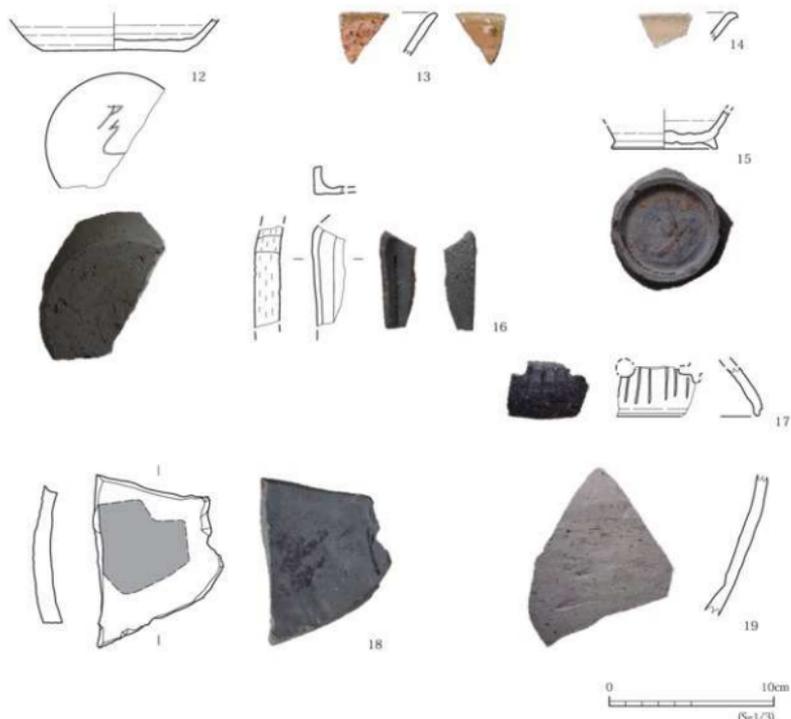
〔提瓶〕胴部にカキメが施され、胎土は5である（9）。

〔甕〕4は中甕、5～7は大甕の口頸部破片である。4は口縁端部内面がつまみ出され、外面はカキメのち櫛描波状文が施される。5は口縁端部が肥厚して四角になり、外面の端部と頸部に櫛描波状文が施される。6は肥厚した口縁端部に櫛描列点文、頸部に櫛描波状文が施される。7は口縁端部外面がつまみ出され、頸部は櫛描波状文が3段認められる。

8・10・11は胴部破片で、調整は外面が平行タタキ、内面は同心円アテ具である。胎土は4・10



図版198 SD100・2050B河川跡遺構確認面出土土器 1



No.	器種	地区	地点	図解	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	分節/胎土	備考	登録
1	須恵器・高坪	D区	-	外面：ロクロナデ・手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ	(29.0)	(27.8)	3.2	一部	4		819
2	須恵器・小笠形須恵	L区	-	内外面：ロクロナデ	-	-	-	一部	6		892
3	須恵器・鉢	L区	-	外面：ロクロナデ→柄杓ヘラケズリ 内面：カキメ	-	-	-	一部	5		903
4	須恵器・蓋	L区	-	外面：カキメ→縹織状文 内面：ロクロナデ	-	-	-	一部	1	海綿骨針を含む	894
5	須恵器・蓋	L区	-	外面：ロクロナデ→縹織状文 口縁部と口縁上部に縹織状文	-	-	-	一部	5	口縁縁部が有形	877
6	須恵器・甕	L区	-	外面：ロクロナデ→縹織状文 内面：ロクロナデ	-	-	-	一部	5	口縁上部に縹織片点文	893
7	須恵器・甕	D区	-	外面：ロクロナデ→縹織状文 内面：ロクロナデ→ナデ	-	-	-	一部	6		818
8	須恵器・転用甕	L区	PA1	農具転用。外面：平行タタキ 内面：同心円ア字具	-	-	-	一部	5		669
9	須恵器・甕	L区	PA1	外面：カキメ 内面：ロクロナデ	-	-	-	一部	3		668
10	須恵器・甕	L区	-	外面：平行タタキ 内面：同心円ア字具	-	-	-	一部	1		876
11	須恵器・甕	D区	-	外面：格子タタキ 内面：同心円ア字具	-	-	-	一部	2		820
12	須恵器・環	D区	PA2東	内外面：ロクロナデ 底面：切離し不明	(8.5)	-	1/4	-	1/4	底面に割痕「足」	620
13	緑釉陶器・埴	L区	-	内外面：ロクロナデ	-	-	-	一部	-	胎土産	880
14	緑釉陶器・埴	L区	-	内外面：ロクロナデ	-	-	-	一部	-	胎土産	879
15	須恵器・甕	L区	-	内外面：ロクロナデ	-	6.4	-	一部	-	底面にヘラ書き「K」	889
16	須恵器・甕字甕	L区	-	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ	-	-	-	一部	-		896
17	須恵器・円蓋甕	L区	-	外面：ロクロナデ→ヘラミダキ→十字・円形スガシ+縦位沈線 内面：ロクロナデ	-	-	-	一部	-		897
18	須恵器・転用甕	L区	-		-	-	-	一部	-	農具転用。内面：黒釉・使用痕	895
19	須恵器・長筒壺	L区	-	外面：目転ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	-	-	-	一部	-	大口産	901

図版199 SD100・2050B河川跡遺構確認面出土土器 2

が1、11が2、5・6・8・9が5、7が6である。8はのちに破片を砥石に転用されている。

— 8世紀以降—

12の環は底面に刻書「尼」、15の小型壺は底面に刻書「×」が認められる。ほかに、大戸産長頸壺(19)・小型円面硯(17)・風字硯(16)・転用硯(18)や猿投産の緑軸陶器壺(13・14)がある。

## B. 土製品

ミニチュア土器・土製模造品・紡錘車・土鍾・フイゴ羽口・カマド支脚などがある。これらは、量が少なく、層位による違いが認められないことから一括して述べる。

### 【ミニチュア土器】(図版200・201)

器形から皿形(1)、環形(2~11)、高環形(12)、鉢形(13~21)に分けられる。環形は1類)器壁が厚く、調整は指オサエが主となるもの(3~6、8・9)、2類)箱形で、口縁部外面にヨコナデが施されるもの(7・11)、3類)有段・有稜環を小型化したもの(2・10)に分けられる。また、鉢形も1類)器壁が厚く、調整は指オサエが主となるもの(14~16)、2類)箱形で、口縁部外面にヨコナデが施されるもの(17・18)、3類)鉢A・B類を小型化したもの(19~21)、4類)口縁部が内湾するもの(13)に分けられる。

### 【土製模造品】(図版202~204)

勾玉(図版204-17)、管玉(図版204-11~16)、丸玉(図版202・203)があり、ヘラミガキで仕上げられているものが多い。丸玉は50点出土しており、A類)断面形が球状のもの(1~18)と臼状のもの(19~50)とに分けられる。多くは径1cm以下で、その9割は水洗篩で回収した。

### 【紡錘車】(図版205)

箱形(18)と扁平(19)があり、後者は片面にヘラ描きが認められる。

### 【土鍾】(図版205)

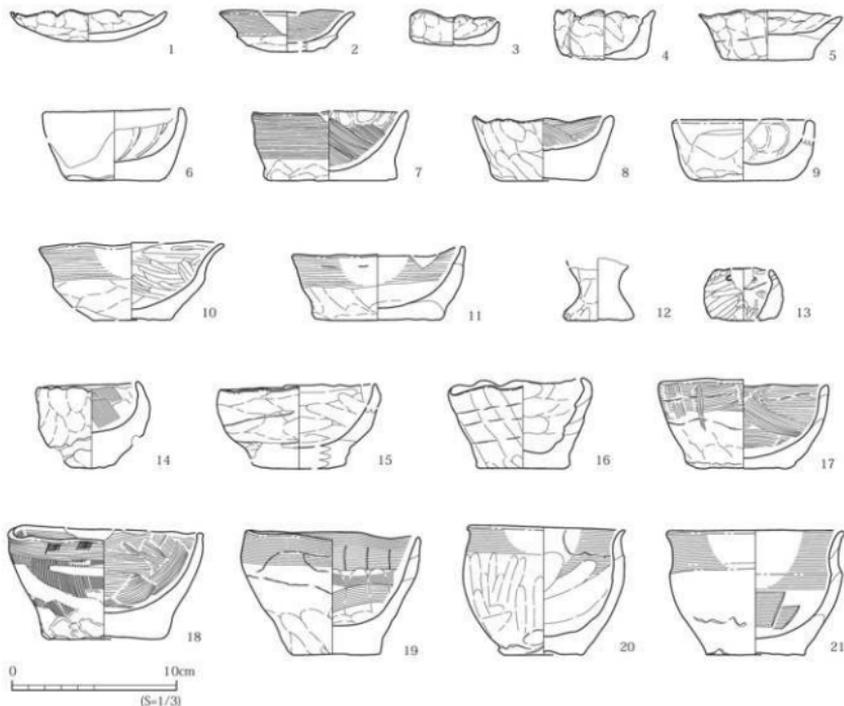
管状(20)と球状(21)のものがある。

### 【フイゴ羽口】(図版205)

軸に粘土を巻き、ナデで仕上げている(22)。被熱による炭化範囲が先端部から体部外面にかけて斜めに認められることから、鍛冶炉に対して傾いて装着していたと考えられる。また基部の孔径が先端部孔径より大きく、送風管は脱着式だったとみられる。これまでの調査で、同時代の羽口はSD2050Bから2点、SD5093から2点出土している(宮城県教委2001a・b)。4点は先端部と基部の孔径がほぼ等しい送風管固定式の羽口であり、22と形状が異なる。またSD5093から出土した2点は、先端の炭化範囲に傾斜がないことから、鍛冶炉に対して水平に装着していたとみられる。

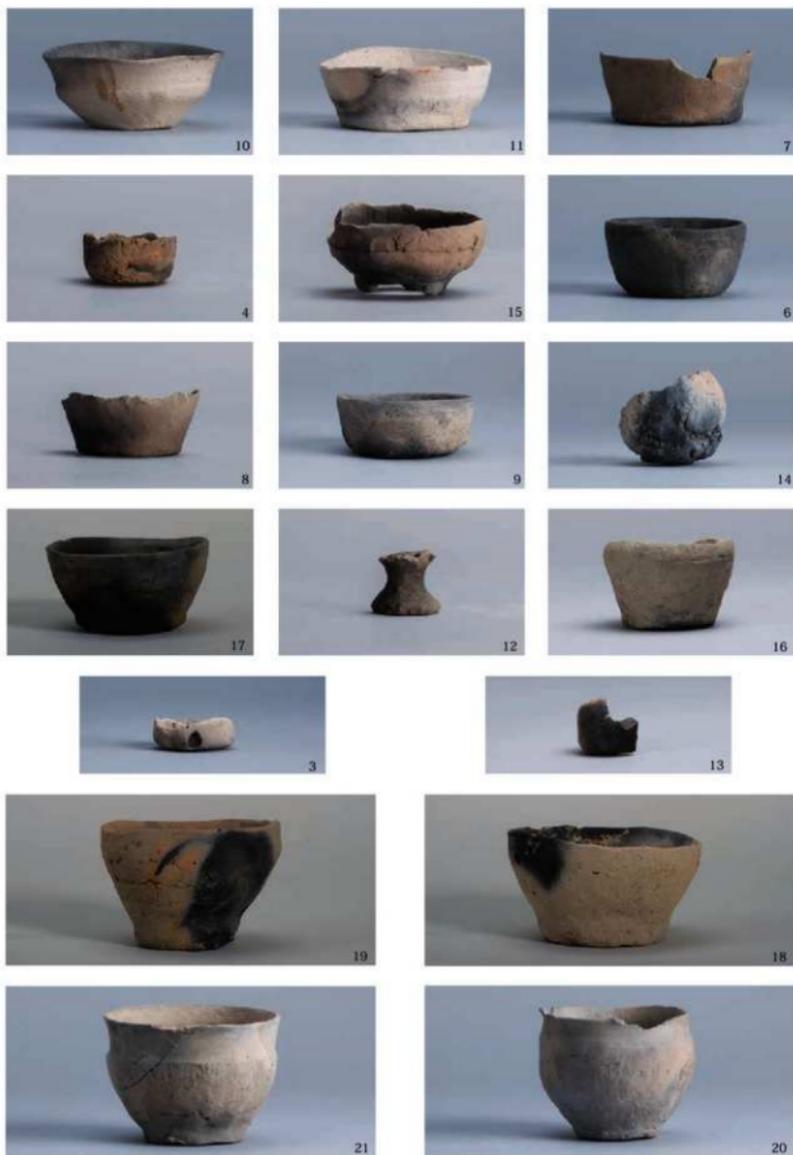
### 【カマド支脚】(図版211)

円柱状で、43は端部に竹管状圧痕が認められる。44は軸に粘土を巻き、ナデで仕上げている。

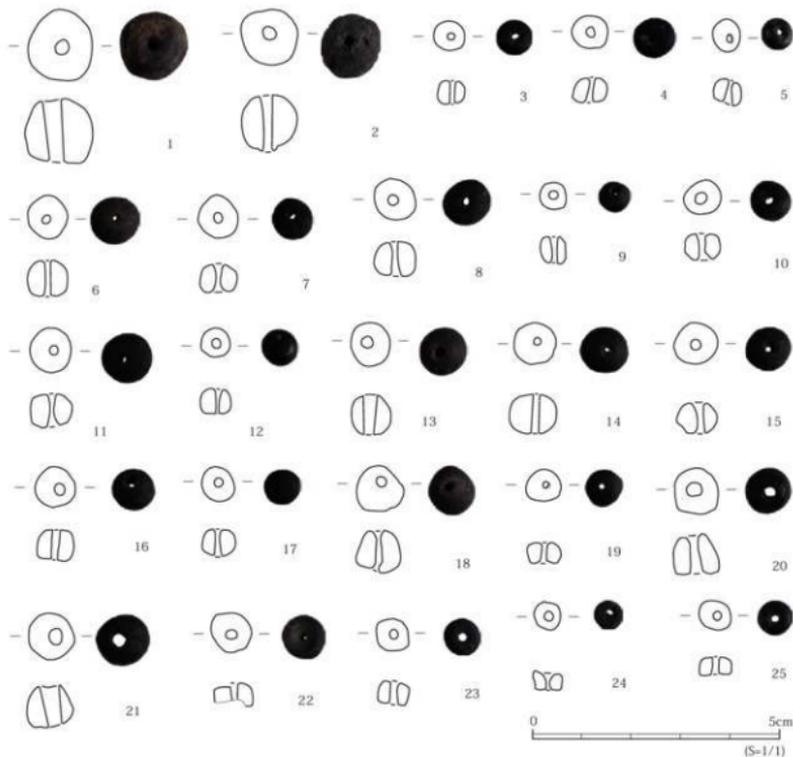


No.	器種	遺構番号	地点	層位	調整	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	備考	登録
1	土師器・ミニチュア	SD100	SX390下	4層	内外面：ナデ	(9.6)	—	1.0	1/5	圆形。甬土に陶輪 付針を含む	832
2	土師器・ミニチュア	SD100・2050B	台渡部分	3層	外面：ヨコナデ・ナデ 内面：ヨコナデ	(8.0)	—	(3.1)	1/3	片形	762
3	土師器・ミニチュア	SD2050B	PA2	1層	外面：ナデ 内面：胎ナデ 底面：ナデ	5.2	5.0	2.2	完形	杯形	347
4	土師器・ミニチュア	SD2050B	SX750下	4層	外面：ナデ 内面：胎ナデ 底面：ナデ	5.7	5.2	3.0	完形	杯形	704
5	土師器・ミニチュア	SD2050B	PA2	2層	内外面：ナデ 底面：ナデ	(8.7)	5.5	3.0	2/3	杯形。輪轆痕あり	533
6	土師器・ミニチュア	SD2050B	SX750下	5層	外面：ナデ 内面：ナデツケ	—	5.6	—	3/5	杯形	343
7	土師器・ミニチュア	SD2050B	SX750下	4層	外面：ヨコナデ・ナデ 内面：ナデ+オセエ 底面に木炭痕	9.1	8.1	4.3	3/5	杯形	705
8	土師器・ミニチュア	SD2050B	SX750下	3層	外面：ナデ 内面：ヘラナデ	(8.6)	(6.0)	(4.0)	3/4	杯形	714
9	土師器・ミニチュア	SD2050B	PA2	1層	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ 底面：ヘラケズリ	(8.0)	5.6	3.7	1/3	杯形。甬土に陶輪 付針を微量含む	345
10	土師器・ミニチュア	SD2050B	PA2	1層	外面：ナデ+ヨコナデ 内面：ナデ+ヘラミダキ	(11.0)	(4.8)	4.8	1/2	杯形。甬土に陶輪 付針を微量含む	339
11	土師器・ミニチュア	SD2050B	PA2	1層	内外面：ナデ+ヨコナデ 底面：木炭痕	(4.0)	7.8	4.6	2/3	杯形	340
12	土師器・ミニチュア	SD2050B	SX750下	3層	外面：ナデ	—	4.3	—	一部	高杯形の蓋。甬土 に陶輪付針を含む	715
13	土師器・ミニチュア	SD2050B	SX390下	3層	内外面：ナデ+ヘラミダキ 底面：ナデ	(3.4)	(3.8)	3.2	1/3	鉢形。輪轆痕あり	852
14	土師器・ミニチュア	SD2050B	PA1	1層	外面：胎オセエ 内面：ナデ	6.0	—	4.0	完形	鉢形。焼きあみで 外面磨き	478
15	土師器・ミニチュア	SD100	SX390下	4層-1段	内外面：ナデ	9.4	(5.6)	5.2	1/2	鉢形。輪轆痕あり	830
16	土師器・ミニチュア	SD2050B	SX390下	3層	内外面：ナデ 底面：ナデ	8.0	5.7	5.5	完形	鉢形。輪轆痕あり	344
17	土師器・ミニチュア	SD2050B	PA2	3層	外面：ナデ+ヨコナデ 内面：ナデ+ヨコナデ 底面：ナデ	10.2	6.5	5.5	完形	鉢形。輪轆痕あり	342
18	土師器・ミニチュア	SD2050B	PA2	2層上-1段	外面：ハケメ+ [口] ヨコナデ [底] ナデ 内面：ナデ+ヨコナデ 底面に微量する木炭痕	11.7	7.0	6.7	完形	一底片。鉢形	338
19	土師器・ミニチュア	SD100	SX390下	4層	外面：ヨコナデ・ナデ 内面：ヘラナデ+ヨコナデ+ナデ 底に木炭痕	10.7	6.0	7.6	完形	鉢形。輪轆痕あり	337
20	土師器・ミニチュア	SD2050B	PA1	2層	外面：[口] ヨコナデ [底] ナデ 内面：ヨコナデ+ナデ	9.6	5.0	7.9	3/4	鉢形。内面に片着物	485
21	土師器・ミニチュア	SD2050B	PA1	2層	外面：[口] ヨコナデ 内面：ヨコナデ+ヘラナデ+ナデ 底面に木炭痕+ナデ	10.8	6.0	7.6	3/5	鉢形	486

図版200 SD100・2050B河川跡出土ミニチュア土器1

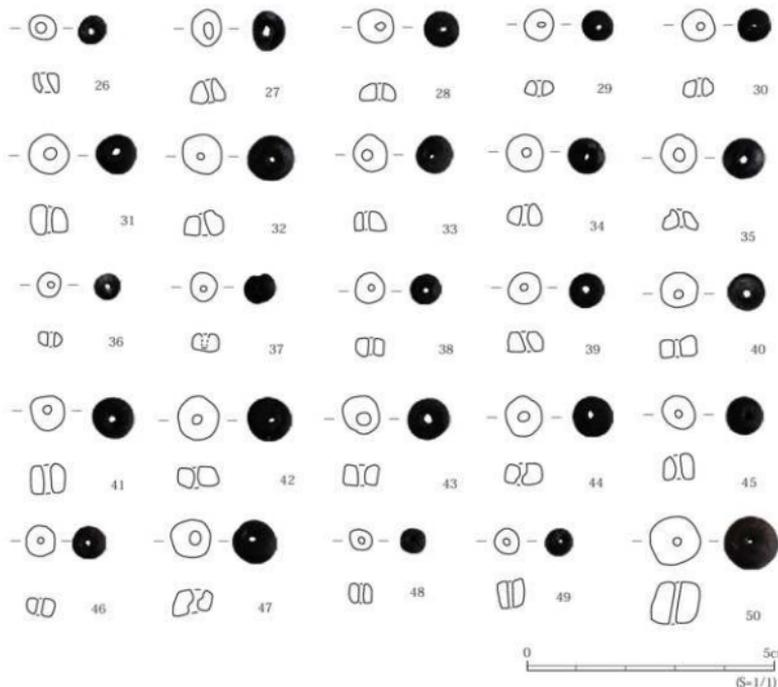


図版201 SD100・2050B河川跡出土ミニチュア土器2



No.	種類	遺構番号	地点	層位	取整	直径(cm)	孔径(cm)	高さ(cm)	孔径(cm)	重さ(g)	残存	分類	備考	登録
1	土製品・土土	SD100	—	2層	外面：ナデ	1.5	1.4	1.3	0.3	2.9	完整	A類		2364
2	土製品・土土	SD100・2050B	合流部分	3層	外面：ナデ	1.3	1.1	1.1	0.2	1.4	完整	A類		2284
3	土製品・土土	SD2050B	—	3層	外面：ヘラミガキ半→黒色処理	0.7	0.6	0.5	0.1	0.2	完整	A類		2395
4	土製品・土土	SD100・2050B	合流部分	3層	外面：ヘラミガキ半→黒色処理	0.8	0.8	0.5	0.2	0.3	完整	A類		2289
5	土製品・土土	SD100	—	3層	外面：ヘラミガキ半→黒色処理	0.7	0.6	0.5	0.1	0.2	完整	A類		2309
6	土製品・土土	SD2050B	PA2	3層	外面：ヘラミガキ半→黒色処理	1.0	1.0	0.8	0.1	0.5	完整	A類		2396
7	土製品・土土	SD100	—	3層	外面：ヘラミガキ半→黒色処理	0.9	0.8	0.6	0.2	0.4	完整	A類		2305
8	土製品・土土	SD100	SX700下	3層	外面：ヘラミガキ半→黒色処理	1.0	0.8	0.8	0.2	0.6	完整	A類		2279
9	土製品・土土	SD100・2050B	合流部分	3層	外面：ヘラミガキ半→黒色処理	0.6	0.5	0.5	0.2	0.1	完整	A類		2297
10	土製品・土土	SD100	SX700下	3層	外面：ヘラミガキ半→黒色処理	0.7	0.6	0.5	0.2	0.3	完整	A類		2278
11	土製品・土土	SD100・2050B	合流部分	3層	外面：ヘラミガキ半→黒色処理	0.9	0.8	0.7	0.1	0.5	完整	A類		2282
12	土製品・土土	SD2050B	—	3層	外面：ヘラミガキ半→黒色処理	0.6	0.6	0.5	0.2	0.2	完整	A類		2394
13	土製品・土土	SD100	—	3層	外面：ヘラミガキ半→黒色処理	1.0	0.9	0.8	0.2	0.7	完整	A類		2300
14	土製品・土土	SD100	—	3層	外面：ヘラミガキ半→黒色処理	1.0	0.9	0.8	0.1	0.8	完整	A類		2316
15	土製品・土土	SD100	—	3層	外面：ヘラミガキ半→黒色処理	0.9	0.8	0.7	0.2	0.5	完整	A類		2303
16	土製品・土土	SD100	SX700下	3層	外面：ヘラミガキ半→黒色処理	0.8	0.7	0.6	0.2	0.3	完整	A類		2277
17	土製品・土土	SD100・2050B	合流部分	3層	外面：ヘラミガキ半→黒色処理	0.7	0.6	0.5	0.2	0.3	完整	A類		2281
18	土製品・土土	SD100・2050B	合流部分	3層	外面：ヘラミガキ半→黒色処理	1.0	0.9	0.8	0.2	0.7	完整	A類		2296
19	土製品・土土	SD100	—	3層	外面：ヘラミガキ半→黒色処理	0.7	0.6	0.4	0.1	0.1	完整	B類		2299
20	土製品・土土	SD100・2050B	合流部分	3層	外面：ヘラミガキ半→黒色処理	0.9	0.8	0.8	0.3	0.8	完整	B類		2290
21	土製品・土土	SD100	—	3層	外面：ヘラミガキ半→黒色処理	0.9	0.9	0.9	0.3	0.8	完整	B類		2319
22	土製品・土土	SD100・2050B	合流部分	3層	外面：ヘラミガキ半→黒色処理	0.9	0.7	0.5	0.2	0.3	完整	B類		2292
23	土製品・土土	SD100	—	3層	外面：ヘラミガキ半→黒色処理	0.7	0.6	0.5	0.2	0.2	完整	B類		2312
24	土製品・土土	SD100	—	3層	外面：ヘラミガキ半→黒色処理	0.6	0.5	0.4	0.2	0.1	完整	B類		2310
25	土製品・土土	SD100・2050B	合流部分	3層	外面：ヘラミガキ半→黒色処理	0.7	0.5	0.4	0.2	0.2	完整	B類		2293

図版202 SD100・2050B河川跡出土土玉 1



No.	器種	遺構番号	地点	層位	調整	口径 (cm)	外径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	壁厚 (g)	残存	分類	備考	登録
26	土製皿・土玉	SD100	-	3層	内面：ヘラミダキキ→黒色処理	0.5	0.5	0.4	0.2	0.1	完形	B類		2301
27	土製皿・土玉	SD100・2050B	合流部分	3層	内面：ヘラミダキキ→黒色処理	0.7	0.6	0.5	0.3	0.2	完形	B類		2392
28	土製皿・土玉	SD100・2050B	合流部分	3層	内面：ヘラミダキキ→黒色処理	0.7	0.7	0.3	0.1	0.2	完形	B類		2287
29	土製皿・土玉	SD100	SX700下	3層	内面：ヘラミダキキ→黒色処理	0.6	0.5	0.3	0.1	0.1	完形	B類		2276
30	土製皿・土玉	SD100	SX700下	3層	内面：ヘラミダキキ→黒色処理	0.6	0.6	0.3	0.1	0.1	完形	B類		2275
31	土製皿・土玉	SD100・2050B	合流部分	3層	内面：ヘラミダキキ→黒色処理	0.8	0.8	0.6	0.2	0.4	完形	B類		2298
32	土製皿・土玉	SD100	-	3層	内面：ヘラミダキキ→黒色処理	0.9	0.8	0.5	0.1	0.4	完形	B類		2317
33	土製皿・土玉	SD100・2050B	合流部分	3層	内面：ヘラミダキキ→黒色処理	0.8	0.7	0.4	0.2	0.2	完形	B類		2390
34	土製皿・土玉	SD100・2050B	合流部分	3層	内面：ヘラミダキキ→黒色処理	0.8	0.7	0.4	0.2	0.3	完形	B類		2291
35	土製皿・土玉	SD100	-	3層	内面：ヘラミダキキ→黒色処理	0.8	0.7	0.4	0.2	0.2	完形	B類		2308
36	土製皿・土玉	SD100・2050B	合流部分	3層	内面：ヘラミダキキ→黒色処理	0.5	0.5	0.3	0.2	0.1	完形	B類		2288
37	土製皿・土玉	SD100・2050B	合流部分	3層	内面：ヘラミダキキ→黒色処理	0.6	0.5	0.3	0.1	0.1	完形	B類		2283
38	土製皿・土玉	SD100	SX700下	3層	内面：ヘラミダキキ→黒色処理	0.6	0.6	0.4	0.1	0.1	完形	B類		2274
39	土製皿・土玉	SD100・2050B	合流部分	3層	内面：ヘラミダキキ→黒色処理	0.7	0.6	0.4	0.2	0.2	完形	B類		2285
40	土製皿・土玉	SD100・2050B	合流部分	3層	内面：ヘラミダキキ→黒色処理	0.8	0.7	0.4	0.2	0.2	完形	B類		2286
41	土製皿・土玉	SD100	-	3層	内面：ヘラミダキキ→黒色処理	0.7	0.6	0.6	0.2	0.4	完形	B類		2302
42	土製皿・土玉	SD100	合流部分	3層	内面：ヘラミダキキ→黒色処理	0.8	0.7	0.5	0.2	0.3	完形	B類		2305
43	土製皿・土玉	SD100	-	3層	内面：ヘラミダキキ→黒色処理	0.8	0.7	0.4	0.3	0.3	完形	B類		2311
44	土製皿・土玉	SD100・2050B	合流部分	3層	内面：ヘラミダキキ→黒色処理	0.8	0.7	0.4	0.2	0.3	完形	B類		2294
45	土製皿・土玉	SD100	-	3層	内面：ヘラミダキキ→黒色処理	0.7	0.6	0.5	0.1	0.2	完形	B類		2315
46	土製皿・土玉	SD100	-	3層	内面：ヘラミダキキ→黒色処理	0.6	0.6	0.3	0.1	0.1	完形	B類		2307
47	土製皿・土玉	SD100	-	3層	内面：ヘラミダキキ→黒色処理	0.8	0.8	0.5	0.3	0.4	完形	B類		2306
48	土製皿・土玉	SD100・2050B	合流部分	3層	内面：ヘラミダキキ→黒色処理	0.4	0.4	0.4	0.1	0.2	完形	B類		2391
49	土製皿・土玉	SD100	-	3層	内面：ヘラミダキキ→黒色処理	0.6	0.5	0.6	0.1	0.2	完形	B類		2313
50	土製皿・土玉	SD100・2050B	合流部分	3層	内面：ヤブ	1.0	1.0	0.8	0.1	1.0	完形	B類		2280

図版203 SD100・2050B河川跡出土土玉2

### C. 石製品

石製装飾品・砥石・礫石器・方割石・黒曜石製石器などがある。これらは、量が少なく、層位による違いが認められないことから一括して述べる（図版204～211）。

#### 【石製装飾品】（図版204）

白玉（1～6）と管玉（7～9）があり、それぞれ大小に分けられる（白玉小：1～5、白玉大：6、管玉小：7・8、管玉大：9）。

#### 【砥石】（図版205・206）

23は小形品用の砥石で凹部に顕著な使用痕、25は凝灰岩切石を転用したもので、一面に多くの擦痕が認められる。

#### 【黒曜石製石器】（図版205）

24は黒曜石の剥片である。石材は黒色と灰色が縞状に認められ、加美町湯の倉産と考えられる。

#### 【礫石器】（図版206～209）

26～32・34は磨石、33・38は磨り面を伴う凹石、37は凹石、36は窪みが不明瞭な凹石である。

#### 【方割石】（図版208）

35は扁平な石の3面で磨り面が認められ、四角に割られている。

### D. 凝灰岩切石（図版210・211）

39～42・45は凝灰岩製切石である。39・42・45はカマド構築材で、扁平な39は天井材とみられる。これらと較べて小形・多角形の切石40・41はカマド支脚と考えられる。

### E. 木製品・樹皮製品

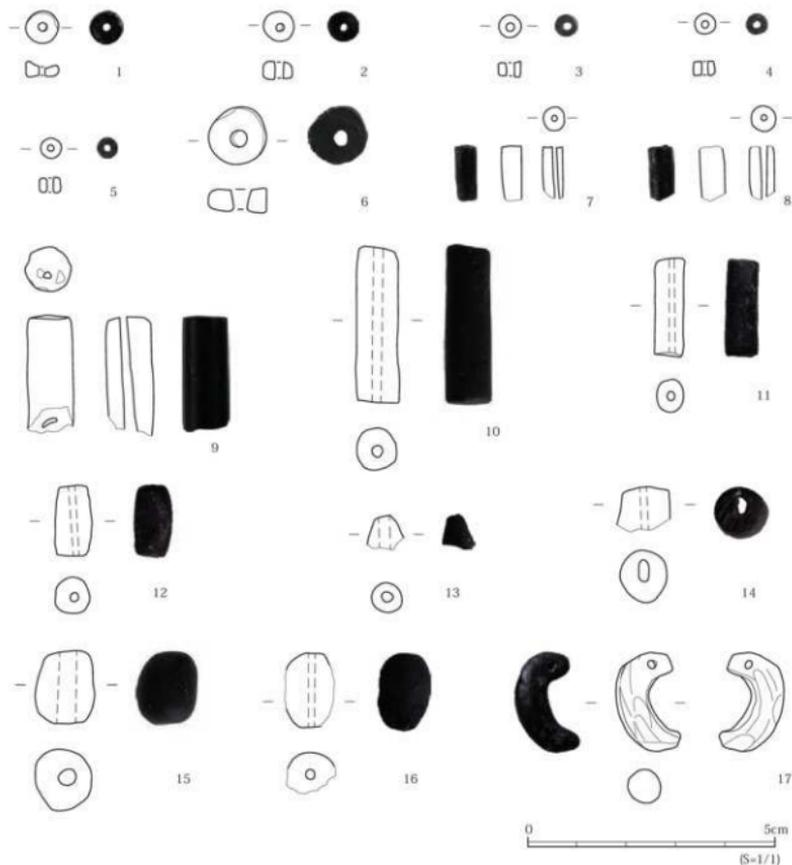
SD100・SD2050B河川跡から出土した木製品は、破片を含めて74点になる。種類としては齋串・形代・つけ木・樹皮製容器・木錘・丸木弓・タモ綱梓木などがある。平成4・5年度に行われたSD2050B河川跡の調査においても、1000点以上の木製品が出土した（宮城県教委2001b）。今回の調査で出土した木製品も平成4・5年度調査で出土した木製品と概ね同じ傾向を示すことから、本報告でも上記の分類に則して説明することとする。

#### 【祭祀具】

##### 〔齋串〕（図版212～214）

薄く比較的幅の狭い板状素材の一端あるいは両端を尖らせたものである。28点出土し、うち26点を図示した。平成4・5年度調査のSD2050B河川跡から出土した齋串の形態は、4種類（Ⅰ～Ⅳ類）に分けられている（宮城県教委2001b）。今回の調査で出土した齋串のうち、形態がわかるものは8点である。以下では各分類の特徴を述べる。

Ⅰ類：一端だけ尖らせたもの。表裏両面とも割取ったままで、加工がほとんど施されていないもの。1・10・14・17・20・23が該当し、片側が破損して分類出来なかった齋串（2～5・7～9・11～13・16・18・19・21・22・24・25）もこのⅠ類に属すると思われる。1は残存する長さが



No.	器種	遺構番号	地点	層位	図型	直径 (cm)	孔径 (cm)	高さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	残存	備考	登録
1	石製品・白玉	SD100・2050B	合流地点	3層		0.7	0.7	0.3	0.2	0.1 g	完整		2352
2	石製品・白玉	SD100・2050B	合流地点	3層		0.6	0.5	0.4	0.2	0.2 g	完整		2353
3	石製品・白玉	SD100・2050B	合流地点	3層		0.5	0.5	0.3	0.2	0.1 g	完整		2401
4	石製品・白玉	SD100・2050B	合流地点	3層		0.2	0.2	0.3	0.1	0.1 g	完整		2402
5	石製品・白玉	SD100	SX700 下	3層		0.4	0.4	0.3	0.1	0.1 g	完整		2355
6	石製品・白玉	SD100・2050B	合流地点	3層		1.2	1.2	0.5	0.4	0.9 g	完整		2354
7	石製品・青玉	SD100	SX700 下	3層		1.1	0.4	—	0.1	0.3 g	—		2396
8	石製品・青玉	SD100	SX700 下	3層		1.1	0.5	—	0.1	0.3 g	—		2357
9	石製品・青玉	SD2050B	PA2	1層		2.3	0.9	—	0.2	3.6 g	—		215
10	土製品・青玉	SD2050B	—	3層		3.2	0.8	0.8	0.2	3.5 g	完整		218
11	土製品・青玉	SD100	—	3層		2.0	0.6	0.6	0.1	1.2 g	完整		2344
12	土製品・青玉	SD100	—	3層		1.5	0.7	0.7	0.1	0.9 g	完整		2350
13	土製品・青玉	SD100	—	3層		0.7	0.6	—	0.2	0.2 g	一部		2318
14	土製品・青玉	SD100	—	3層		1.0	0.9	—	0.4	0.8 g	一部		2333
15	土製品・青玉	SD2050B	—	1層		1.6	1.2	1.2	0.4	2.7 g	完整		219
16	土製品・青玉	SD100	—	3層		1.5	1.0	0.8	0.2	1.4 g	完整		2304
17	土製品・白玉	SD2050B	—	3層		2.0	0.6	0.6	0.1	1.3 g	完整		2387

図版204 SD100・2050B河川跡出土土石製品 1

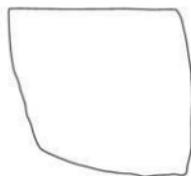


No.	器種	遺構番号	地点	層位	特徴	備考	登録
18	土製品・紡錘車	SD2050B	SX750下	5層	残存高：1.7cm 径：6.8cm 孔径：0.7cm 重さ：83.3g	円板状	223
19	土製品・紡錘車	SD100・2050B	合流地点	3層	厚さ：1.6cm	円板状。下面にヘラ跡	853
20	土製品・筒状土器	SD2050B	PA2南	1層	高さ：3.7cm 径：4.8cm 孔径：0.8cm 重さ：237.6g		222
21	土製品・土埴	SD2050B	—	1層	高さ：3.7cm 径：4.2cm 孔径：0.7cm 重さ：58.3g	丸玉状	221
22	土製品・埴土	SD2050B	PA2	1層	上部径：(6.0cm) 下部径：(8.7cm) 内径面：十字+豆コナデ	土埴の腹後内使用。両面押。熱変色	583
23	土製品・砥石	SD100・2050B	合流地点	3層	幅：1.8cm 高さ：1.8cm 厚さ：0.2cm 重さ：4.6g		2400
24	石部・ラウンドスライパー	SD2050B	—	2層	長さ：3.7cm 幅：3.3cm 厚さ：1.6cm 重さ：21.7g	石材：那珂石(岡の倉庫)	213

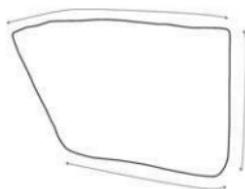
図版205 SD100・2050B河川跡出土土石製品2



25



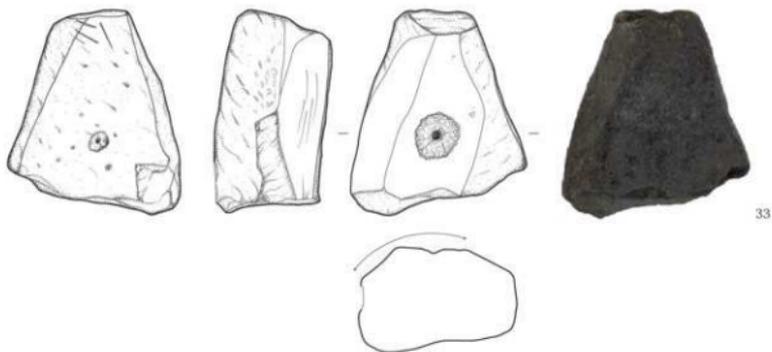
26



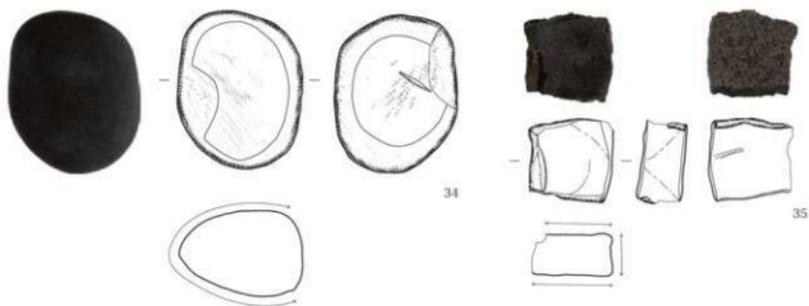
図版206 SD100・2050B河川跡出土土石製品3



図版207 SD100・2050B河川跡出土土石製品4

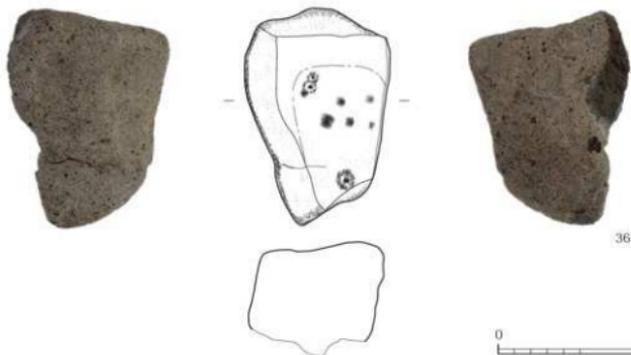


33



34

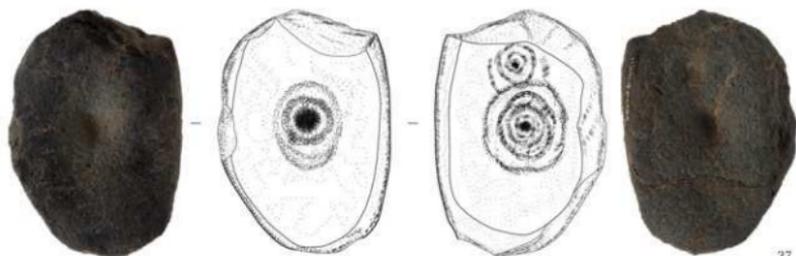
35



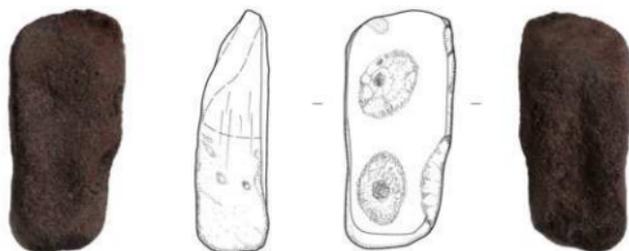
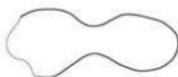
36



図版208 SD100・2050B河川跡出土土石製品 5



37

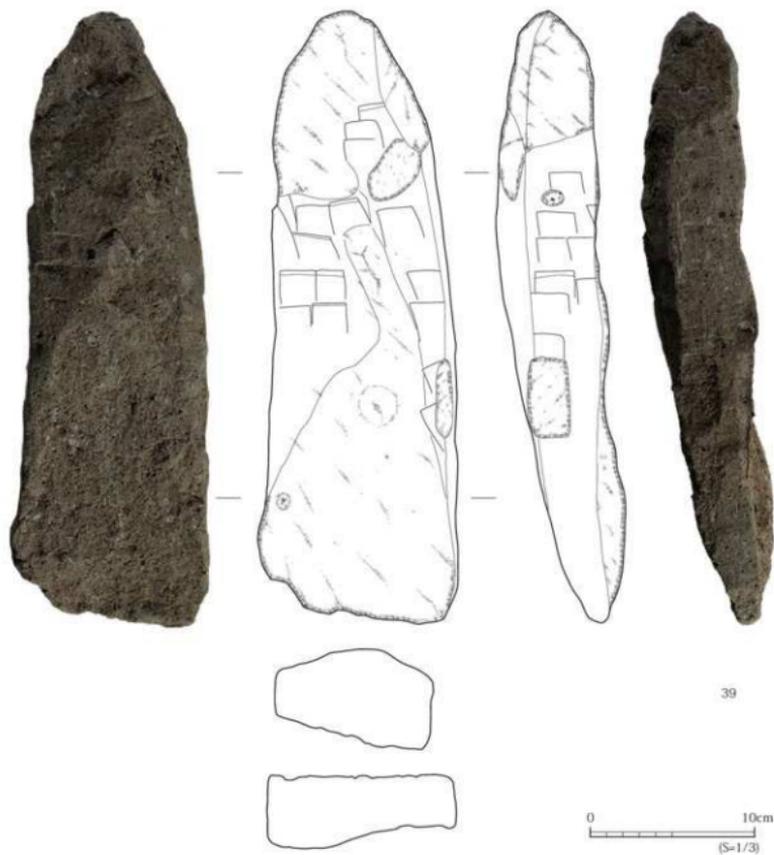


38



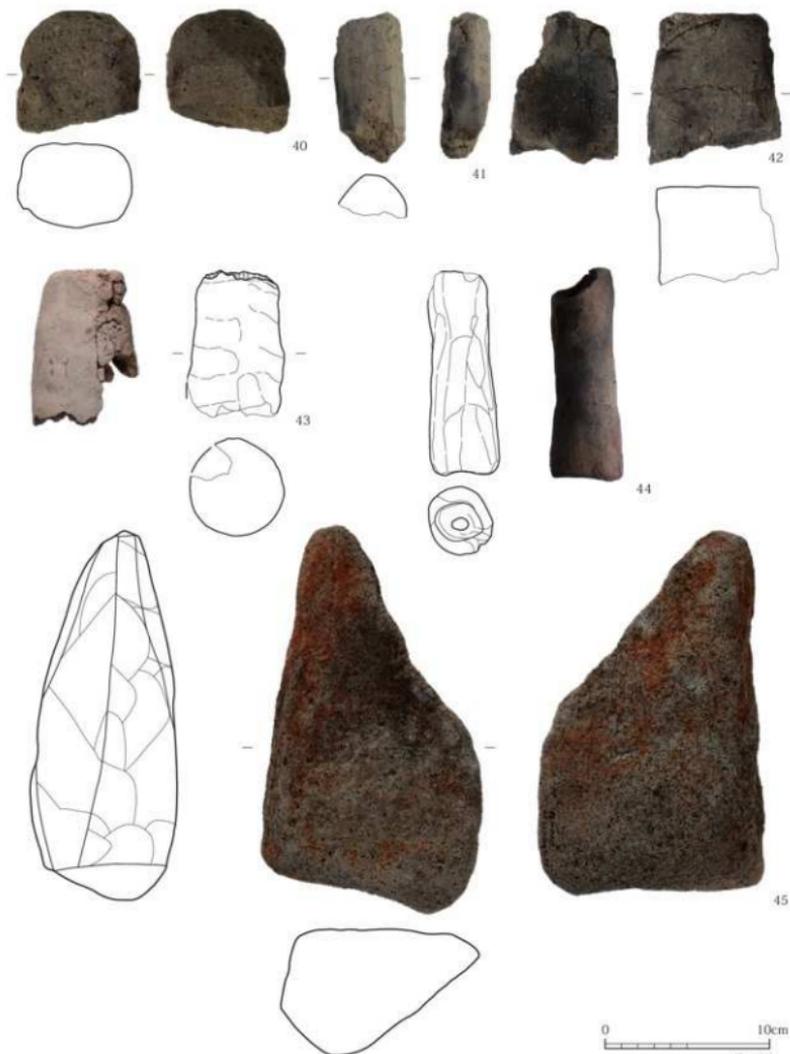
No.	器種	遺構番号	地点	層位	特徴	備考	登録
25	石製品・砥石	SD100・2050B	合流地点	3層	残存長: 11.2cm 幅: 8.0cm, 両面に切石全砥石に転用。外面: 欠入り	重さ 1150 g	904
26	石製品・磨石	SD2050B	—	3層	残存長: 19.5cm 幅: 13.2cm 厚さ: 9.0cm, 磨砥	重さ 3300 g	1193
27	石製品・磨石	SD2050B	—	礎礎面	残存幅: 6.0cm 厚さ: 5.3cm	重さ 392 g	1202
28	石製品・磨石	SD100	SX390 下	2層	残存長: 8.7cm 幅: 7.5cm 厚さ: 4.3cm	重さ 400 g	913
29	石製品・磨石	SD2050B	SX750 下	4層	残存長: 12.5cm 幅: 6.3cm 厚さ: 5.7cm	重さ 500 g	1200
30	石製品・磨石	SD100	SX710 下	2層	長さ: 12.4cm 幅: 10.1cm 厚さ: 7.3cm	重さ 1100 g	914
31	石製品・磨石	SD100・2050B	合流地点	3層	残存長: 9.8cm 幅: 8.4cm, 磨砥	重さ 900 g	918
32	石製品・磨石	SD2050B	—	3層	長さ: 9.8cm 幅: 9.3cm 厚さ: 8.9cm	重さ 800 g	1194
33	石製品・凹石	SD100	—	3層	残存長: 11.6cm 幅: 9.4cm 厚さ: 6.7cm	重さ 1200 g	916
34	石製品・磨石	SD2050B	—	1層	長さ: 8.7cm 幅: 8.6cm 厚さ: 5.6cm	重さ 600 g	1197
35	石製品・方礫石	SD2050B	—	2層土面	残存長: 5.7cm 残存幅: 5.3cm 厚さ: 2.6cm	重さ 200 g	1198
36	石製品・凹石	SD2050B	—	3層	長さ: 13.3cm 幅: 8.3cm	重さ 700 g	2408
37	石製品・凹石	SD2050B	PA2	1層	残存長: 14.8cm 残存幅: 11.3cm 厚さ: 4.6cm	重さ 800 g	216
38	石製品・凹石	SD100・2050B	合流地点	3層	長さ: 14.4cm 幅: 6.6cm 厚さ: 4.3cm	重さ 600 g	917

図版209 SD100・2050B河川跡出土石器品6



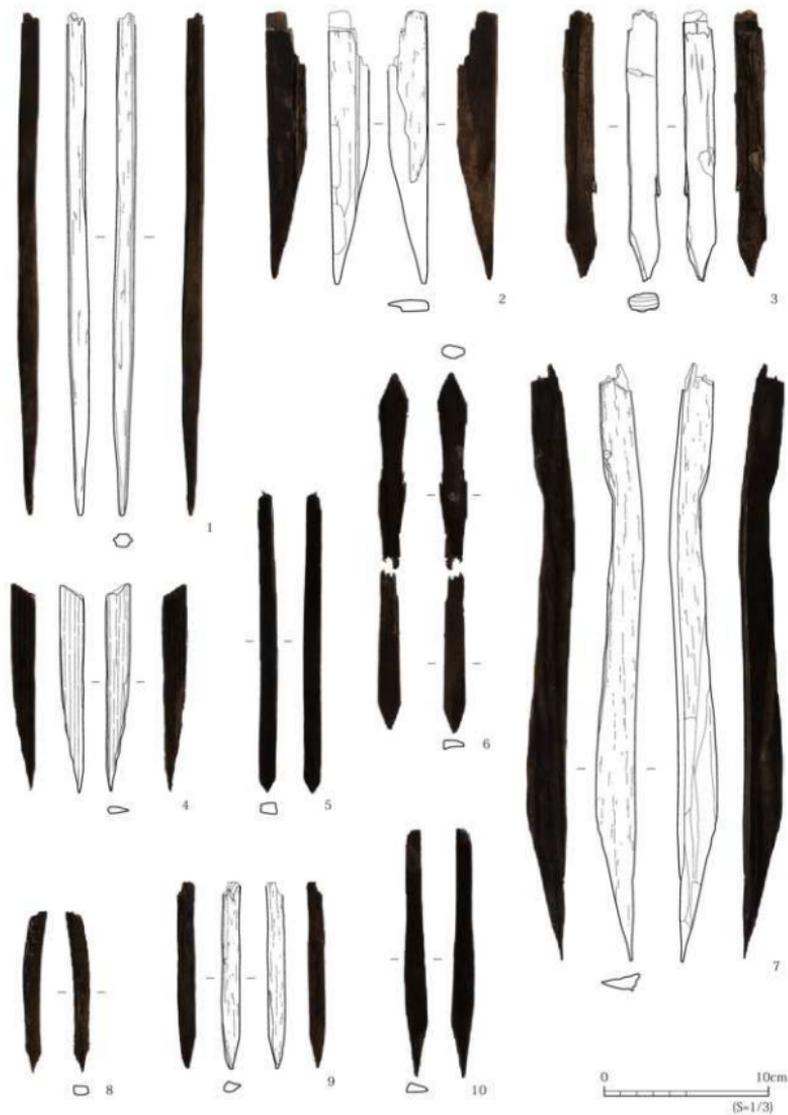
No.	器種	遺構番号	地点	層位	特徴	備考	登録
39	石製品・凝灰岩製切石	SD0050B	—	3層	長さ: 42.6cm 幅: 12.3cm 厚さ: 6.9cm	重さ 1700 g	911

図版210 SD100・2050B河川跡出土土石製品7

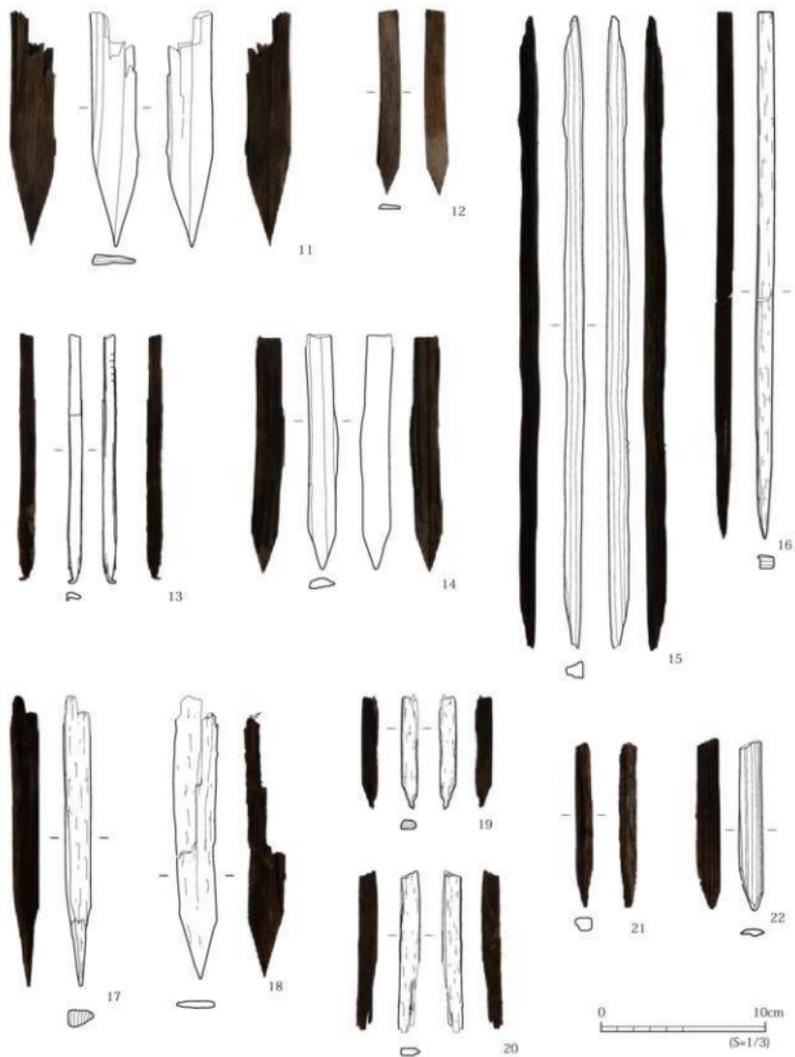


No.	品種	遺構番号	地点	層位	特徴	備考	登録
40	石製品・切石製支脚	SD100・2050B	合流地点	3層	残存長：7.6cm 幅：7.3cm 高さ：5.6cm	重さ：190g	915
41	石製品・切石製支脚	SD2050B	PA2	2層	残存長：10.3cm 幅：4.3cm 外面：ケズリ	石材：瀬灰岩 重さ：101.6g	944
42	石製品・瀬灰岩製切石	SD2050B	—	1層	残存長：10.3cm 残存幅：7.6cm	重さ：275g	1548
43	土製品・カマド支脚	SD2050B	PA2	2層上面	上端部径：3.2cm 外面：オウ工。上端に竹貫状圧痕		560
44	土製品・カマド支脚	SD2050B	—	1層	長さ：14.6cm 径：4.3cm 孔径：2.5cm 外面：ナデ		868
45	石製品・瀬灰岩製切石	SD2050B	—	—	長さ：24.3cm 幅12.2cm 厚さ：8.3cm	カマド構築材。重さ：2700g	912

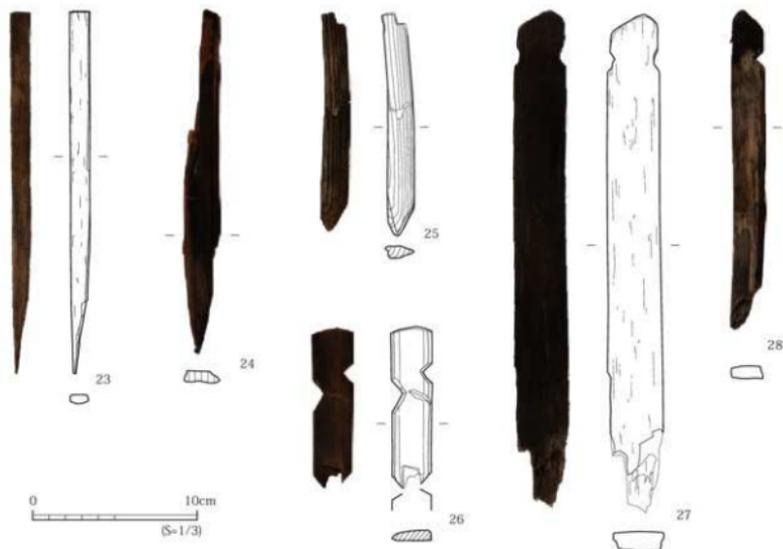
図版211 SD100・2050B河川跡出土土石製品8



図版212 SD100・2050B河川跡出土木製品 1



図版213 SD100・2050B河川跡出土木製品2



No.	遺種	遺構番号	地点	層位	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考	登録
1	木製品・森半	SD2050B	-	1層	△31.0	1.2	0.8		2543
2	木製品・森半	SD2050B	-	1層	△16.7	2.6	0.7		2544
3	木製品・森半	SD2050B	-	1層	△16.5	1.8	1.0		2545-①
4	木製品・森半	SD2050B	-	3層	△13.0	1.5	0.4		2532-①
5	木製品・森半	SD2050B	SX390下	3層	△18.7	1.0	0.6		2533-①
6	木製品・森半	SD2050B	-	3層	△11.9	1.7	0.8		2532-②
7	木製品・森半	SD2050B	-	3層	△37.0	2.3	0.8		2540
8	木製品・森半	SD2050B	-	3層	△10.2	1.0	0.5		2532-③
9	木製品・森半	SD2050B	-	3層	△11.6	1.0	0.6		2541
10	木製品・森半	SD2050B	-	3層	△14.7	1.4	0.6		2533-③
11	木製品・森半	SD100	SX390下	4層	△14.4	2.6	0.6		2537-②
12	木製品・森半	SD100	-	4層	△11.5	1.3	0.3		2538
13	木製品・森半	SD100	SX390下	4層	△15.2	0.8	0.5		2560-①
14	木製品・森半	SD100	SX390下	4層	△14.4	1.6	0.6		2557-②
15	木製品・森半	SD100	SX390下	4層	△38.7	1.0	1.0		2536
16	木製品・森半	SD2050B	-	4層	32.2	1.0	0.8		2517
17	木製品・森半	SD2050B	-	4層	△17.8	1.6	1.0		2520-①
18	木製品・森半	SD2050B	-	4層	△17.3	2.4	0.4		2521
19	木製品・森半	SD100	SX390下	4層	△6.9	0.9	0.6		2557-①
20	木製品・森半	SD100	SX390下	4層	△10.0	1.2	0.5	上部に刻み	2560-②
21	木製品・森半	SD100	SX390下	4層	△9.6	1.1	0.8		2561
22	木製品・森半	SD2050B	-	4層	△10.7	1.4	0.4		2516
23	木製品・森半	SD2050B	SX750下	5層	22.3	1.2	1.0		2504
24	木製品・森半	SD2050B	SX750下	5層	△21.2	2.4	0.6		2506-②
25	木製品・森半	SD2050B	SX750下	5層	△13.0	1.8	0.7		2505
26	木製品・森半	SD2050B	-	4層	△9.8	2.4	0.5	両側面に切込み	2522
27	木製品・新代	SD2050B	-	4層	△30.5	3.2	1.1	刃形	2514
28	木製品・新代	SD100	-	3層	△19.9	2.1	0.7	刃形、上端加熱	2520

※△は残存値

図版214 SD100・2050B河川跡出土木製品3

31.0cm、幅1.2cmで厚さが0.8cmである。10は残存する長さが14.7cm、幅1.4cmで、厚さが0.6cmである。14は長さ32.2cm・幅1.0cmで、幅0.8cmである。17は長さが11.5cm、幅1.3cmで、厚さは0.3cmである。20は残存する長さが14.4cm、幅1.6cmで、厚さが0.6cmである。23は長さが22.3cm・幅1.2cm・厚さ1.0cmである。これらは23を除いて下端部を両側面から「V」字状に尖らせており、23のみ下端部を右側面からのみ削って尖らせている。

Ⅱ類：両端を尖らせたもの。過去の調査では大型（53～59cm）・中型（48cm）・小型（24～37cm）のものが出土しているが、今回の調査では小型に属する1点（15）のみ出土した。15は長さ38.7cm、幅1.0cmで、厚さが1.0cmである。端部を両側面から「V」字状に尖らせている。

Ⅲ類：両端を尖らせて、両側面に切り掛けをいれたもの。過去の調査では大型（47cm）・中型（30～31cm）・小型（24～26cm）のものが出土しているが、今回の調査では小型に属する1点（6）のみ出土した。長さは推定で11.9cm、幅1.7cmで、厚さは0.8cmである。切り掛けは上端側に位置する。

Ⅳ類：両側縁に対になる袂を連続的にいれているもの。1点（26）のみ出土した。2段目の袂より下が欠損しているため、全長は不明である。

#### 〔形代〕（図版214）

刀をかたどった形代（刀形）が1点（27）と、刀形と思われる形代1点（28）が出土した。27・28はともに先端部が欠損しているため、全長は不明である。27は残存する長さが30.5cmで、上端や下の両側面に袂を入れている。28は残存する長さが19.9cmで、上端や下の右側面のみに袂を入れており、上端が被熱で炭化している。なお、過去の調査では刀形のほかに、人形代・馬形代・鎌形代が出土した（宮城県教委2001b）。

#### 〔漁撈具〕

##### 〔タモ網〕（図版215）

柄と網をわたす枠木が出土している。柄と枠木を別々に作り出して組み合わせているものと、枝分かれた1本の木を利用しているものがある。前者は2点（29・30）、後者は1点（31）出土した。

31は残存する長さが24.6cmで、結合部が球状である。節や樹皮を全て削り取っている。29は長さ80.3cmで、結合部は扁平な長方形状である。結合部は平坦で両端に緊縛するときに紐を掛けると思われる突起状の作り出しがある。結合部以外では、節や樹皮が確認できることから、全面を削らずに使用していたものと思われる。30は幹を柄にし、幹のほぼ同位置から左右に生えている枝を枠木としているものである。全長は60cmで、タモの径は44.8cmである。節や樹皮を全て削り取っている。

##### 〔下駄〕（図版216）

下駄は1点図示した（32）。歯と台を一木からつくる連歯下駄である。

##### 〔木錘〕（図版216）

木材片を利用して錘にしたもので、4点出土している（34～37）。機織りに用いる道具（紡織具）か農具と考えられる。全て芯持ちの輪切りにした丸太材を用いている。形態は丸太材の両端を切断・加工しただけのものが3点（34・36・37）、中央部片側に大きな袂を入れたもの1点（35）に分けられる。両形態ともに表面の加工は施されず、樹皮が遺存している。34は長さ13.5cmで径が7.0cmで

ある。36は長さ15.0cmで径が5.2cmである。37は丸太材の両端を切断・加工したのち、丸木面の一部を削っているものである。長さ17.8cm、径6.6cmである。35は長さ14.3cm、径6.9cmである。

#### 【丸木弓】(図版217)

一端に弦が認められることから、丸木弓としたものである。先端の弦は両側から削り込んでつくられている。5張出土した(38～42)。そのうち完形のは1張(38)のみで、残りは一部欠損している。平成4・5年度調査のSD2050B河川跡から出土した丸木弓は、弓束の太さから3種類(大型:2cm以上・中型:1.4～2.0cm未満・小型1cm前後)に分けられている(宮城県教委2001b)。この分類に則すと、39・40が中型、38が小型と考えられるが、残りの41・42は一部しか残存していないため、大きさは不明である。節や樹皮を全て削り取っているもの(38～40・42)が多く、41のみ一部樹皮が残っている。

#### 【容器】

##### 【樹皮製容器】(図版219～221)

樹皮製容器の一部が9点出土し、全てを図示した(46～54)。このうち8点(46～52・53)は容器の底板で、1点(54)は側板の未成品と思われる。平成4・5年度調査のSD2050B河川跡から出土した樹皮製容器には、曲物状容器と袋状容器があるが(宮城県教委2001b)、本調査で出土した樹皮製容器の一部がどちらに属するものかは判然としない。46・50・51を除くすべての破片には、紐で縦じ合わせるために開けられた小穴がある。小穴は一定間隔をあけて直線上に開くものが多い。

#### 【工具】

##### 【斧柄】(図版218)

1点出土した(43)。農具である鎌の膝柄(曲柄)と形態的な特徴が類似しているが、小型であることから膝柄鎌としての利用は不可能と思われる。ここでは小型の斧柄としておくことにする。木の幹と枝の股を利用したもので、装着部と柄の一部が残存している。装着面は長さ20.2cm、幅5.8cmである。刃を装着するための作り出しは認められない。柄の径は装着部付近で3.0cmである。

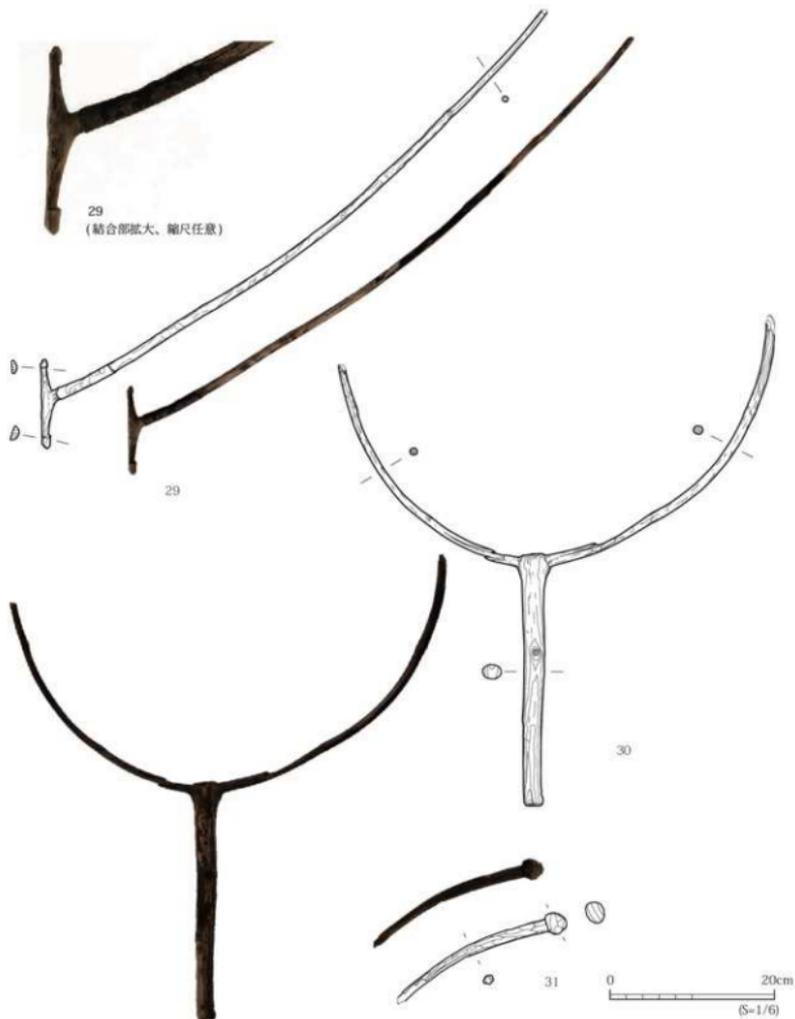
#### 【その他】

##### 【つけ木】(図版222)

先端が炭化した棒状もしくは板状の木製品である。3点出土した(59～61)。板状のもの(60・61)と、棒状のもの(59)があるが、形態的な特徴の共通点や、つけ木として利用するための加工が確認できないことから、不要になった何らかの木製品を再利用したものと考えられる。

##### 【棒状木製品】(図版222)

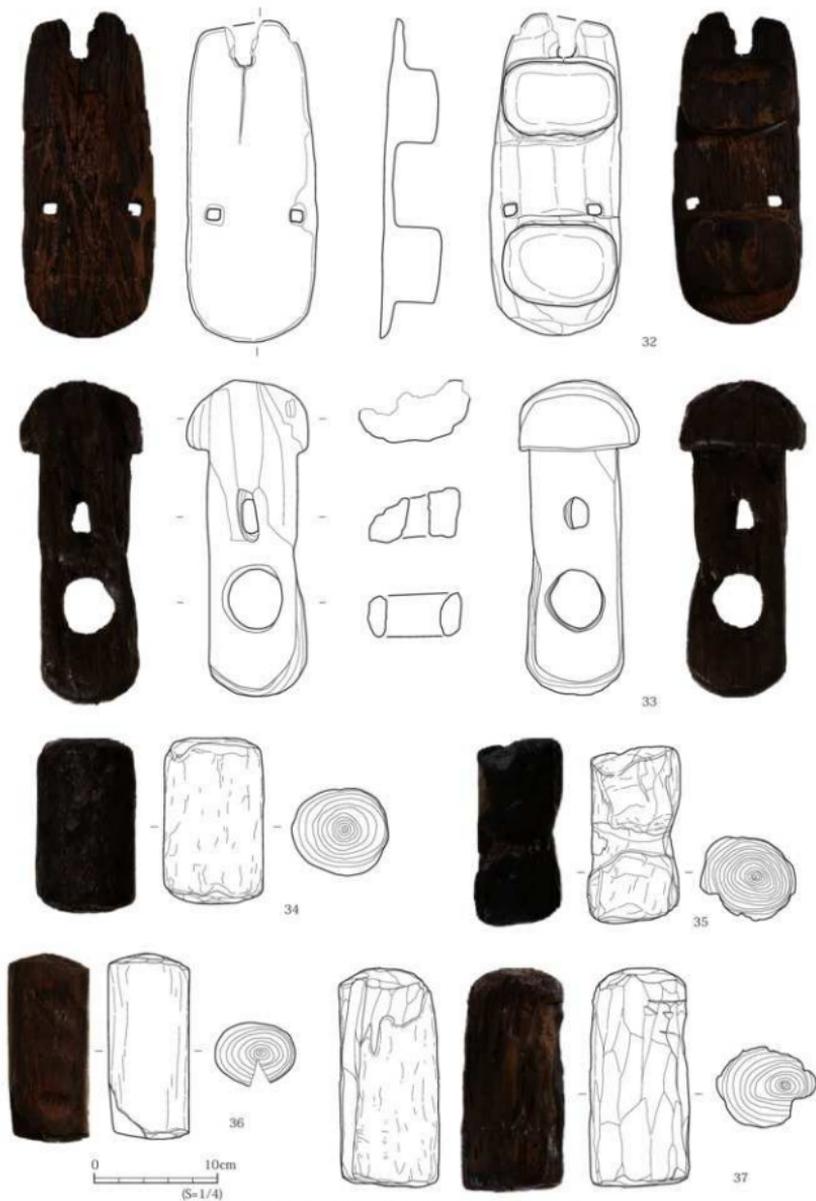
用途不明の木製品を一括で扱う。56は長さ90.2cm、径が3.2cmである。断面の木目から、幹の一部を分割したのち、円形に削りだしている。下端は円錐状に尖らせている。57は長さ11.4cm、径3.2cmである。丸太材の両端を切断したのち、切断面と丸木面を削っている。58は長さ25.2cm、径3.5cmである。丸太材の両端を切断・加工したのみである。



No.	器種	遺構番号	地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考	登録
29	木製品・タモ綱杵木	SD2050B	SX750 下	5 層	△ 80.3	—	1.0	組合部長: 10.8cm 厚さ: 1.0~1.5cm	2502
30	木製品・タモ綱杵木	SD2050B	SX750 下	4 層	△ 59.0	(柄) 2.3	1.1	柄長: 30.9cm タモ綱杵径: (51.0cm)	2512
31	木製品・タモ綱杵木	SD2050B	—	3 層	△ 24.6	—	1.5	組合部径: 2.7cm	2550

※△は残存部

図版215 SD100・2050B河川跡出土木製品 4



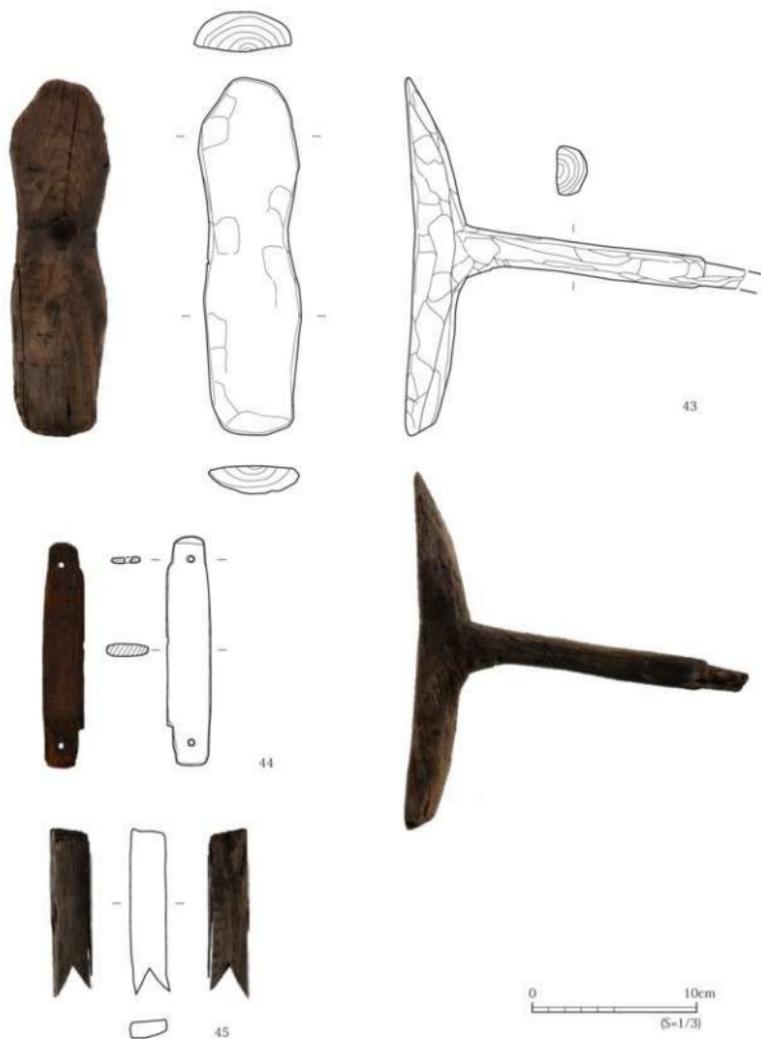
图版216 SD100·20508河川跡出土木製品5



No.	器種	遺跡番号	地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考	登録
32	木製品・下駄	SD2050B	—	4層	26.6	10.4	—	高さ: 4.8cm	2513
33	不明木製品	SD2050B	—	3層	25.6	9.8	2.7 ~ 3.0	下駄の転用品か	2535
34	木製品・木鏃	SD2050B	SX750 下	4層	13.5	—	7.0	—	2518
35	木製品・木鏃	SD2050B	SX750 下	4層	14.3	—	6.9	—	2519
36	木製品・木鏃	SD100	SX390 下	4層	15.0	—	5.2	—	2562
37	木製品・木鏃	SD2050B	—	2層上	17.8	—	6.6	—	2542
38	木製品・丸木・寸	SD2050B	SX750 下	5層	84.4	—	1.0	—	2501
39	木製品・丸木・寸	SD2050B	—	3層	△74.1	—	1.9	—	2524
40	木製品・丸木・寸	SD2050B	—	4層	△56.0	—	1.5	—	2511
41	木製品・丸木・寸	SD100・2050B	合南唯山	3層	△30.3	—	1.0	—	2525
42	木製品・丸木・寸	SD2050B	SX390 下	3層	△32.5	—	1.0	—	2531

※△は残存数

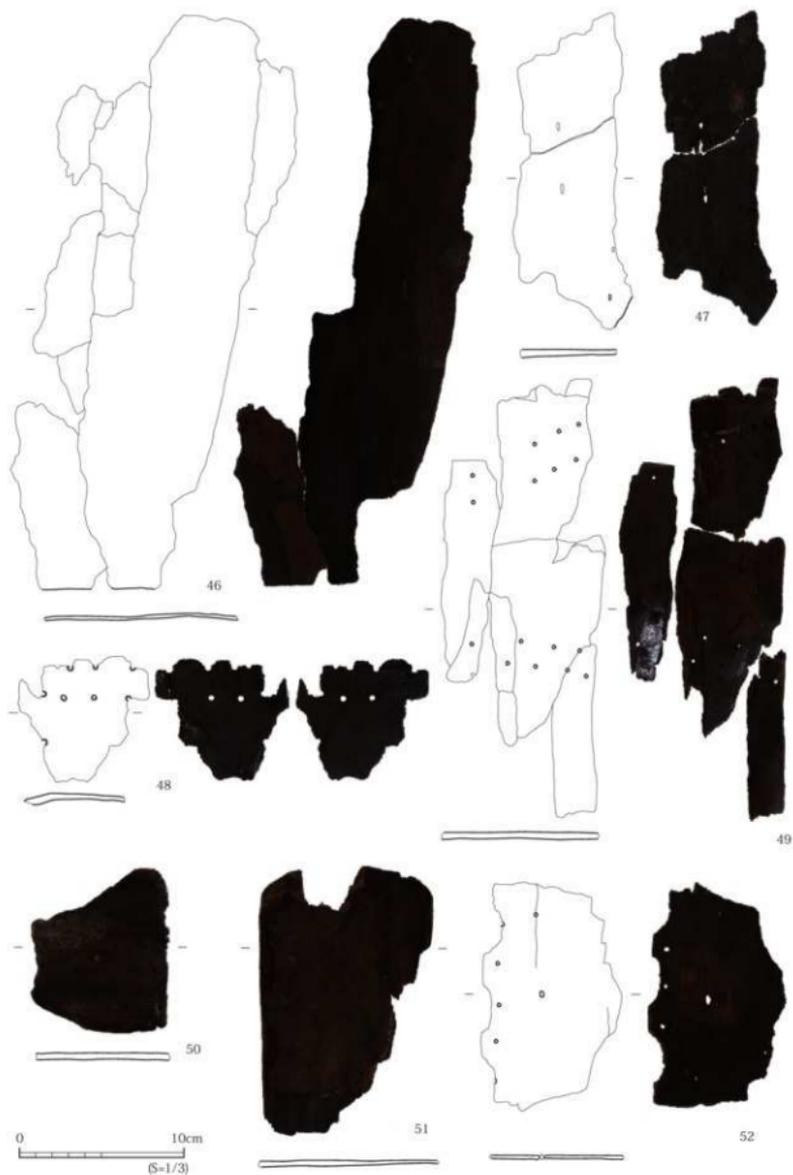
図版217 SD100・2050B河川跡出土木製品6



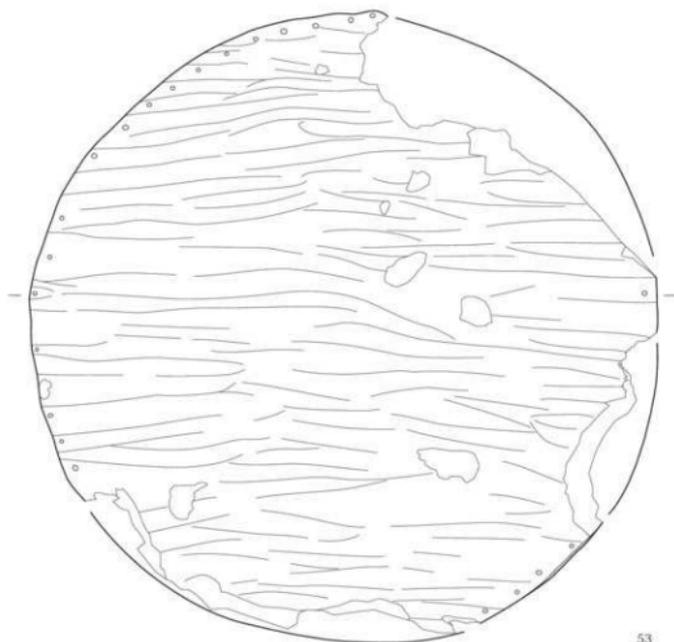
No.	品種	遺構番号	地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考	登録
43	木製品・葬具	SD2050B	—	3層	装束面) 20.2 (装束面) 7.8	(幅) 3.0		柄の長さ: △ 16.4cm	2549
44	部材	SD2050B	—	4層	13.9	2.6	0.8		2523
45	不明木製品	SD2050B	—	1層	10.1	2.2	1.0		2546

単三は残存せず

図版218 SD100・2050B河川跡出土木製品 7



図版219 SD100・2050B河川跡出土木製品 8



53

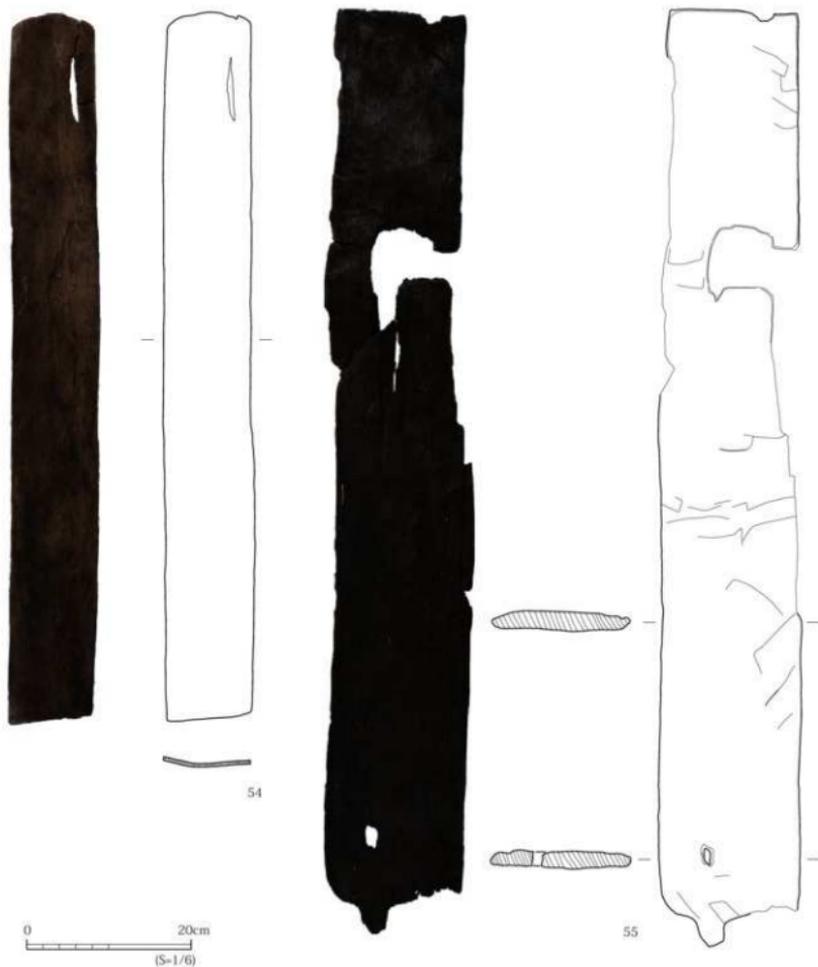


0 10cm  
 (S=1/4)

No.	器種	遺構番号	地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考	登録
46	木製品・櫛状製容器	SD2050B	SX750 下	5層	△ 35.0	△ 14.4	0.2		2508
47	木製品・櫛状製容器	SD2050B	—	3層	△ 19.5	△ 5.7	0.5	孔径：3.3mm	2529
48	木製品・櫛状製容器	SD100	SX300 下	4層	△ 7.9	△ 7.5	0.3	孔径：2.7mm	2563
49	木製品・櫛状製容器	SD2050B	—	2層	△ 26.4	△ 10.2	0.4	孔径：2.4mm	2551
50	木製品・櫛状製容器	SD2050B	—	3層	△ 10.2	△ 8.1	0.4		2530
51	木製品・櫛状製容器	SD2050B	—	—	△ 16.2	△ 10.4	0.4		2554-②
52	木製品・櫛状製容器	SD2050B	—	—	△ 14.0	△ 8.4	0.2	孔径：2.1～3mm	2554-①
53	木製品・櫛状製容器	SD2050B	PA2	3層	径 51.0	径 51.0	0.6～0.8	孔径：2.4～3.6mm	2606

※△は残存幅

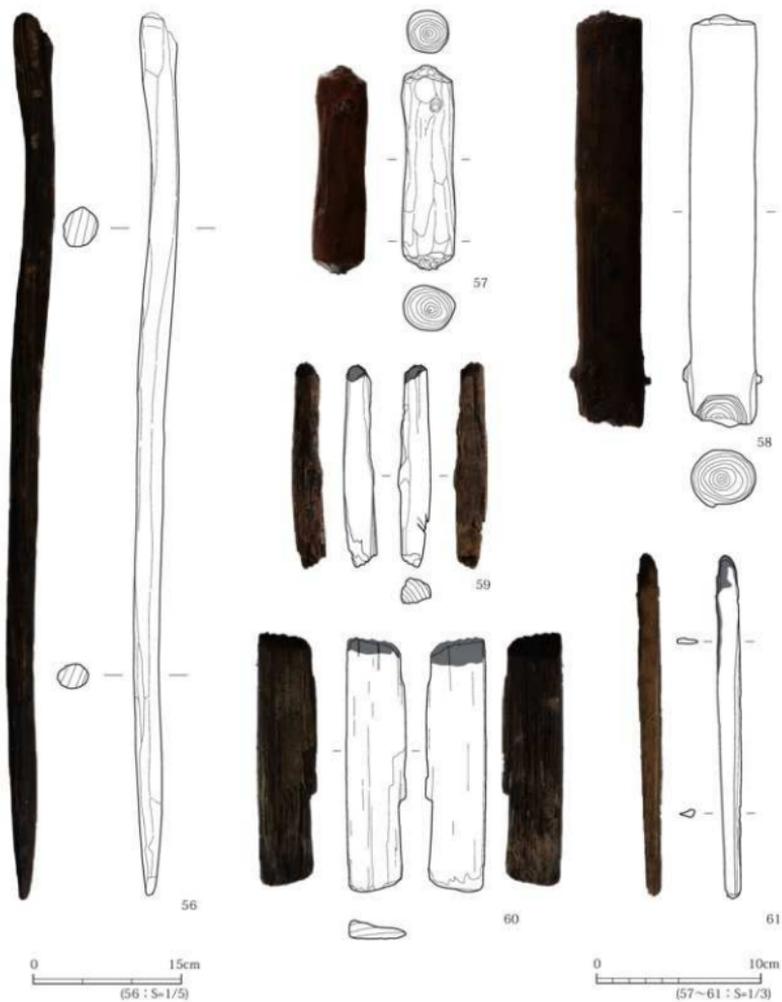
図版220 SD100・2050B河川跡出土木製品9



No.	器種	遺物番号	地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考	登録
54	木製品・硬質質石類	SD2050B	XX750下	5層	96.8	10.8	0.4	管状木製品	2621
55	建築部材	SD2050B	XX750下	4層	114.4	16.7	2.3	孔球: 19.8mm	2635
56	木製品・棒状木製品	SD100	XX390下	4層	△ 90.2	—	3.2	—	2555
57	木製品・棒状木製品	SD2050B	XX750下	5層	11.4	—	3.2	—	2506 ①
58	木製品・棒状木製品	SD2050B	—	4層	25.2	—	3.5	—	2515
59	木製品・つば木	SD2050B	—	1層	12.3	1.7	1.5	土層焼熱・炭化	2545 ②
60	木製品・つば木	SD2050B	—	1層	15.6	3.5	1	土層焼熱・炭化	2547
61	木製品・つば木	SD100・2050B	白南地点	3層	21.2	1	0.3	土層焼熱・炭化	2526

※△は残存数

図版221 SD100・2050B河川跡出土木製品10



图版222 SD100·2050B河川跡出土木製品11

〔不明木製品〕(図版216・218・221)

33は用途不明の木製品である。一木を削り出して作られており、一端が体部の幅より広い。体部中央と下位に大小異なる穿孔がある。規模は長さ25.6cm、体部幅9.8cmで、厚さが2.7～3.0cmである。上端の最大厚は3.6cmとなる。下駄から転用した可能性がある。44は部材で、長さ13.9cm、幅2.6cm、厚さ0.8cmの両端に穴が穿たれている。45は幅2.2cm、厚さ1.0cmの長辺の一端が三角に抉り出されている。55は建築部材とみられ、長さ114cm以上、幅16.7cm、厚さ2.3cmある。

F. 骨角製品

SD100・SD2050B河川跡から出土した骨角器の点数は、微細な破片も含めると193点になる。種類としては鎌・離頭銛・刀子柄・弭・鳴鏑・ト骨などがある。そのほかに、鹿角・骨といった加工痕のある素材も多数出土している。平成4・5年度に行われたSD2050B河川跡の調査においても、230点以上の骨角製品が出土した(宮城県教委2001b)。今回の調査で出土した骨角製品も前回の調査と概ね同じ傾向を示すことから、本報告でも上記の分類に則して説明することとする。

〔骨鎌〕(図版223・224・234・235)

骨鎌は44点出土し、そのうち25点を図示した。SD2050B河川跡から出土した骨鎌の形態は、3種類(I～Ⅲ類)に分けられている(宮城県教委2001b)。今回の調査ではI類が出土したほか、新たに2種類(Ⅳ・Ⅴ類)の形態が確認された。素材は全てニホンジカの中手骨か中足骨で、裏側に髄腔壁が確認できるものが多い。大半の骨鎌表面には、鉄製刀子状の工具による整形段階のケズリ痕跡が顕著に残っており、ケズリ痕跡はカエリ部分を除いて軸に平行している。また、茎部にアスファルトや漆が付着したものが認められ、矢柄に装着していた痕跡と考えられる。

市川橋遺跡SD5093河川跡出土の骨鎌は、茎が笹竹製の矢柄に装着され、樺皮で巻かれた状態で出土しており、矢柄の装着状態を知るうえで貴重な資料である(宮城県教委2001a)。本地区で出土した骨鎌も同様の装着方法であったと推測される。以下、分類ごとに説明する。

**I類**：体部の2ヶ所に左右対称の切れ込み(カエリ)をいれることで、柳葉形の鎌身・被篋(頸)・茎の3部構成となるものである。I類と判別できるものは7点を図示した(1～6・17)。完形のは5点(1～5)で、長さは約15～20cmである。骨鎌(3)は、鎌身下端に2条の平行沈線が施されている。また図示した7点のうち、茎部にアスファルトが付着しているものが1点(2)、漆が付着しているものが1点(5)ある。

このI類は6世紀から7世紀にかけて東北から関東にかけて広く見られる形態で、鉄製長頭鎌を模倣しつつも素材の制約から独特の形状になったものと考えられている(藤沢2002)。

**Ⅱ類**：切れ込み(カエリ)が無く鎌身だけで構成され、籽形となるものである。Ⅱ類と判別できるものは1点(24)出土した。茎部がなく、アスファルトや漆といった接着剤の付着も認められないことから、どのように柄に装着していたかは不明である。

**Ⅲ類**：切れ込み(カエリ)が無く、茎部が体部より細くなるものである。Ⅲ類と判別できるものは1点(26)出土した。神奈川県横須賀市の鉞切遺跡出土骨鎌(6世紀、横須賀市教委1986)や同県三

浦市江奈横六墓群第3号横六墓で出土した骨鏃（鹿角製・6世紀末～7世紀、神奈川県教委1976）の形状が類似している。

〔骨鏃未成品〕（図版224・225・236）

骨鏃素材は6点出土し、その全てを図示した（23・27～31）。いずれも表面にケズリ痕跡が認められたため骨鏃素材とした。骨鏃素材には骨と同様にニホンジカの中足骨が使われている。表面のケズリ痕跡は中足骨の軸に平行している。中足骨として完全に遺存しているものではなく、整形段階で基準に満たなくなって廃棄したものと考えられる。

〔刀子柄〕（図版226・237・238）

刀子の柄は6点出土し、その全てを図示した（32～36・39）。すべてニホンジカの角を素材とする。角本来の湾曲をそのまま利用しており、上部に刀子を挿入する柄穴がある。34は柄の上部に刻画されている。35は2ヶ所に段を設けており、その中央に目釘穴がある。このように体部上位に段と目釘穴をもつ刀子柄は、石巻市五松山洞窟遺跡（石巻市教委1988）に類例がある。36・39は刀子を挿入した柄穴が認められる。

〔刀子柄未成品〕（図版226）

刀子柄の未成品は2点出土した（37・38）。ニホンジカの角を素材とするが、ケズリが粗く、刀子の装着孔が認められないため、刀子柄の未成品と判断した。

〔弓・弓未製品〕（図版227・238）

弓の端部に装着して弦を結びつけるものである。4点出土し、その全てを図示した（40～43）。いずれも一部欠損している。平成4・5年度の調査では、円錐形で体下部穿孔した弓が出土しているが、今回の調査で確認した弓には穿孔はない。外面には刀子状工具による軸に平行したケズリ痕跡がある。

弓未製品は1点出土した（47）。円錐形を呈し、鹿角を素材としている。表面のケズリ痕跡は中足骨の軸に平行している。弓に装着するための穿孔を行う前に廃棄したものと思われる。なお、山王遺跡では多賀前地区SE50・3026（宮城県教委1996b）から平安時代のものが出土しており、古墳時代後期から古代にかけて形状が変化していないことがわかる。

〔鳴鏑〕（図版227・238）

矢の先端に取り付け、発射時に音を発するものである。1点出土した（45）。側面に円孔が2つ確認でき、その間隔から3孔であったと考えられる。鳴鏑の円孔は、空気が入りやすいように斜め上方から穿孔されていることから（杉山2015）、穿孔方向をもとに外形を推定すると、膨らみが肩部のやや上位にあるものと思われ、その場合、平成4・5年度の調査で出土した鳴鏑と同様の形状になる。

なお、古墳時代の鳴鏑については鹿角製か木製で3孔のものが多いことが指摘されている（楢山1991）。外形は①膨らみが上部にあるもの、②腹部にかけてやや下膨れ状のイチジク形、③球形の3つに分類できるという考察があり（杉山前掲）、45は①と共通する。

〔銚〕（図版227・238）

柄の先を器体のソケットに装填する開窩式離頭銚である。1点出土した（51）。鹿角を素材としている。中央部を窪ませており、この部分に手許と銚をつなぐ引綱を装着すると考えられる。ケズリ痕跡

は軸に平行するものが多く、体下部に位置する段の部分のみ直交するケズリ痕跡が確認できる。平成4・5年度の調査で出土した間窩式頭頸銚と同じ形状である。

本遺跡周辺での出土例では、市川橋遺跡鴻ノ池地区SX2524（多賀城市教委2004b）、東松島市里浜貝塚西畑地区（鳴瀬町教委1998）、同市江の浜貝塚（東北歴史資料館1989）、松島町西の浜貝塚（岡村1996）、塩竈市葉ヶ崎貝塚（宮城県教委1989）、七ヶ浜町表浜貝塚（七ヶ浜町教委2016）などから弥生～平安期のものが確認されており、基本的な形態には変化が認められない（宮城県教委2001b）。

〔ヤス〕（図版227・238）

2本以上組み合わせ、対象魚を挟み込んで捕るために使用したと考えられている（新庄屋・阿部ほか1986）。1点出土した（52）。髓腔壁が確認できることから、ニホンジカの中足骨が素材と考えられる。先端と下端が欠損しているため長さは不明である。本地区では平成4・5年度の調査で同じSD2050B河川跡から1点、古墳時代中期のSX230遺物包含層から1点出土しており、サケ漁に使われたと考えられている（宮城県教委1994b）。後者は鹿角を素材としており、先端の形状も52と異なる。出土点数が少ないため、形状の差異が時期的なものかは不明である。

〔紡錘車〕（図版227・238）

紡錘車は1点出土した（53）。鹿角を素材としており、中央部を穿孔している。鹿角製紡錘車は古墳時代後期の河川跡からは初めての出土である。奈良・平安期とされる市川橋遺跡SD5164・SD5021から円盤状角製品が出土しており（宮城県教委2001a）、紡錘車と考えられる。両者を53と比較すると、鹿角製紡錘車は奈良時代まで形態に変化がみられない。

〔ペンダント〕（図版227・238）

ペンダントは1点出土した（55）。イヌの上顎骨を素材とし、中央部を穿孔している。

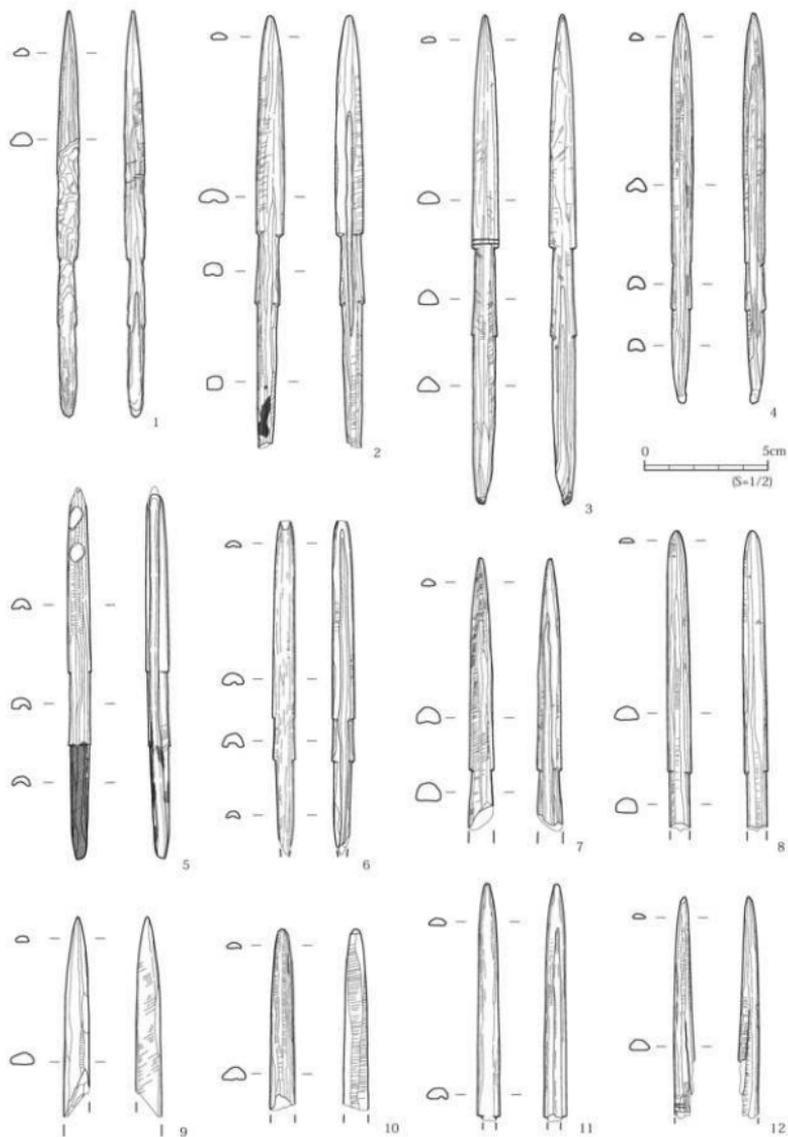
〔その他の骨角製品〕（図版227・238）

48はニホンジカの角を素材とする栓状骨角製品で、アスファルトが付着する。49はニホンジカの角を素材とする管玉の未成品である。44・46・50・54は不明骨角製品で、いずれもニホンジカの角を素材とする。

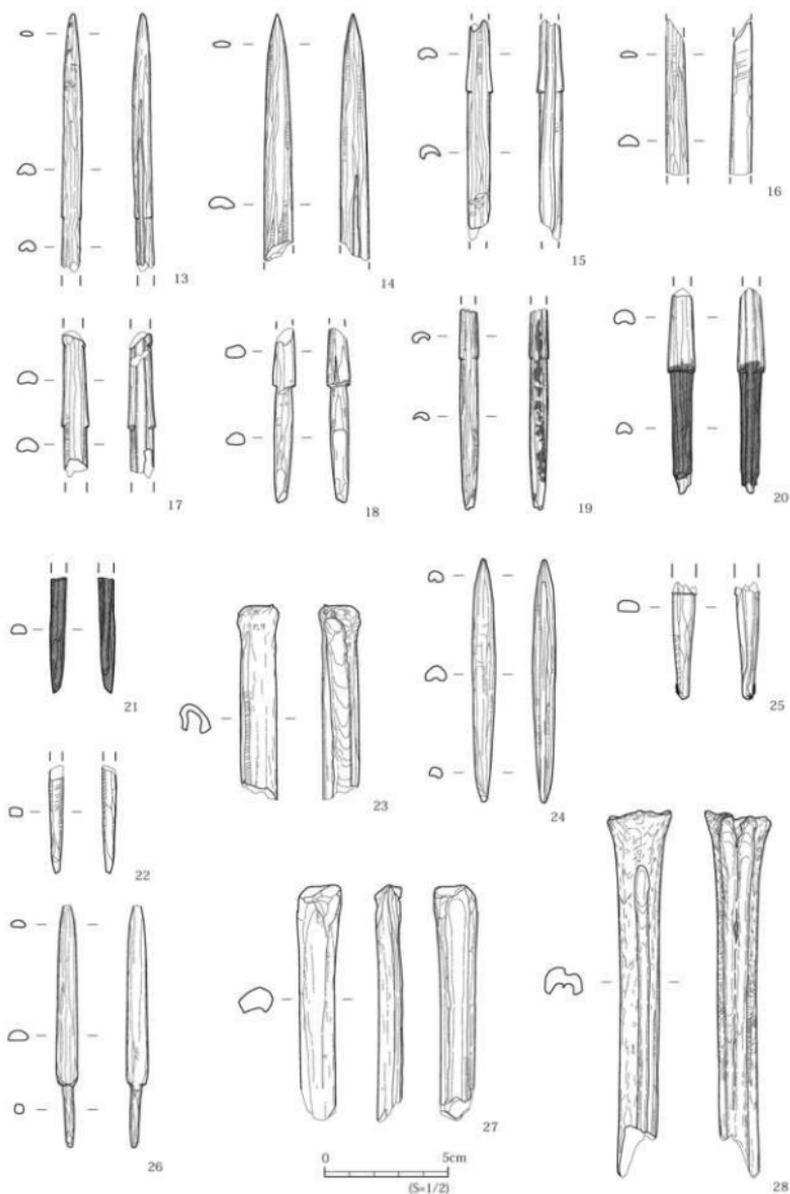
〔卜骨〕（図版228～230・238～241）

ニホンジカの肋骨を素材とするものと、肩甲骨を素材とするものがある。肋骨を素材とするものは42点出土し、10点を図示した（56～65）。肩甲骨を素材とするものは40点出土し、16点を図示した（66・68～82）。

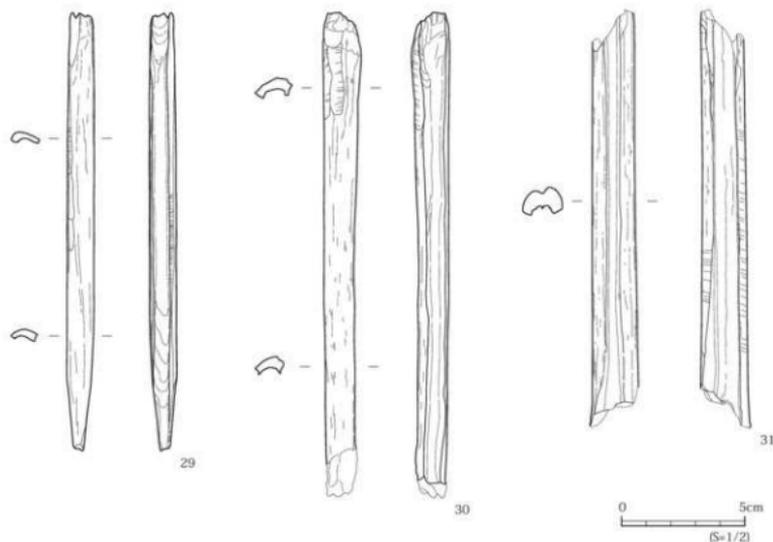
肋骨を素材とするものは、半裁・整形した内側の海綿質部分に、長方形の鑽を連続して彫り、その底面に焼灼を行ったものである。外面も整形しているものが多く、両端にケズリ痕跡が確認できる。両端の整形は肋骨を半裁したときのものと考えられる。長方形の鑽は全て軸に直交する向きで彫られているが、中には63～65のように鑽が無いものも含まれる。卜骨として使用する前の未成品だった可能性も考えられるが、断定はできない。56の鑽は焼灼痕を伴わないものであり、全ての鑽で焼灼がされたわけではない。確認された焼灼痕は「十」字形が多く、「一」字形も含まれる。焼灼痕が反対側まで及び、焼け抜けているものも多い。



図版223 SD100・2050B河川跡出土骨角製品 1



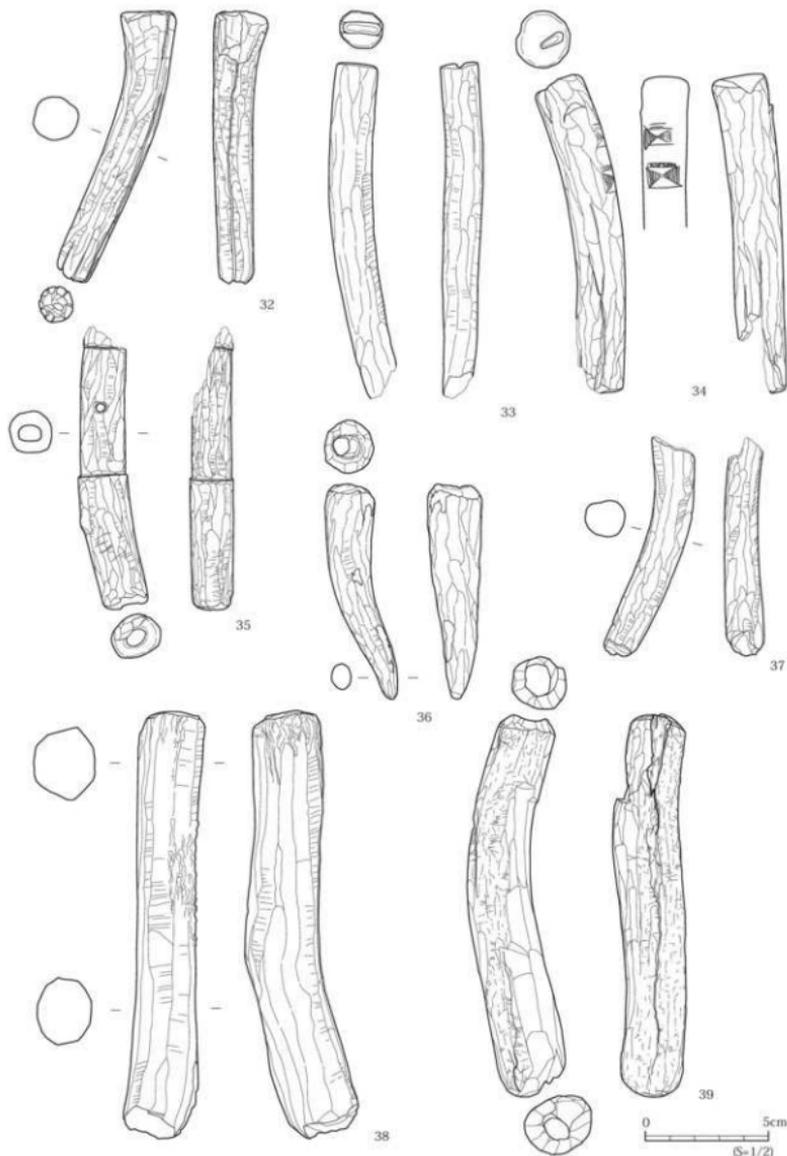
圖版224 SD100・2050B河川跡出土骨角製品2



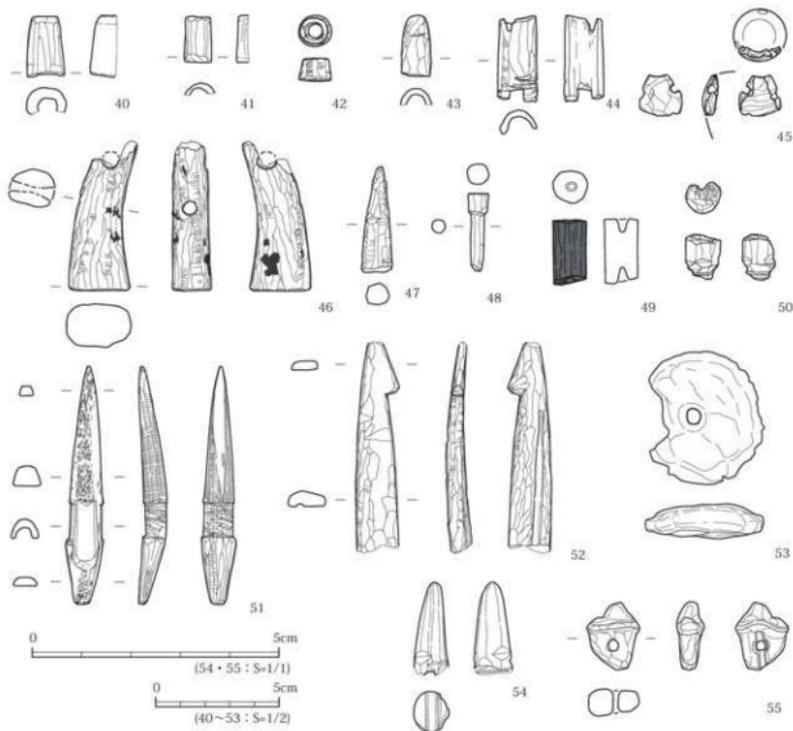
No.	種別	遺構番号	地点	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	素材	保存	分類	特徴	登録
1	骨線	SD100・2050B	合流地点	3層	16.6	0.9	0.5	シカ・中手/中足骨	完好	I類	先端近位側	1
2	骨線	SD2050B	SX300下	4層	△17.7	1.2	0.6	シカ・中足骨	完好	I類	基部アスファルト付着。先端近位側欠	2
3	骨線	SD100・2050B	合流地点	3層	20.0	1.1	0.6	シカ・中足骨	完好	I類	基部に2条の刻線。先端近位側	3
4	骨線	SD100・2050B	合流地点	3層	16.0	0.9	0.5	シカ・中足骨	完好	I類		4
5	骨線	SD2050B	PA2	3層	△15.2	1.0	0.4	シカ・中手/中足骨	3/4	I類	基部漆付着	12
6	骨線	SD100・2050B	合流地点	3層	△13.7	0.9	0.6	シカ・中手/中足骨	完好	I類		11
7	骨線	SD100・2050B	合流地点	3層	△11.2	1.0	0.7	シカ・中足骨	1/2	—		10
8	骨線	SD100・2050B	合流地点	3層	△12.3	1.0	0.6	シカ・中手/中足骨	1/2	—		13
9	骨線	SD100・2050B	合流地点	3層	△8.2	1.1	0.5	大型獣・四肢骨	1/3	—		01
10	骨線	SD100	—	3層	△7.5	0.9	0.5	大型獣・四肢骨	1/3	—		9
11	骨線	SD100	—	3層	△9.7	1.0	0.5	シカ・中手/中足骨	1/3	—		7
12	骨線	SD2050B	PA2	4層	△9.0	△0.9	0.4	大型獣・四肢骨	1/3	—	基部に3条の刻線	21
13	骨線	SD2050B	—	1層	△10.6	0.7	0.4	シカ・中足骨	1/3	—		17
14	骨線	SD2050B	PA2	3層	△10.1	1.2	0.4	シカ・中手/中足骨	1/3	—		14
15	骨線	SD100・2050B	合流地点	3層	△9.0	1.1	0.6	シカ・中手/中足骨	1/3	—		18
16	骨線	SD100・2050B	合流地点	3層	△6.4	0.8	0.4	大型獣・四肢骨	1/5	—		15
17	骨線	SD2050B	—	—	△6.0	0.9	0.5	シカ・中手/中足骨	1/5	I類		22
18	骨線	SD100	—	2層	△7.1	0.9	0.5	大型獣・四肢骨	1/5	—		6
19	骨線	SD2050B	PA2	2層	△8.3	0.8	0.4	シカ・種付方	1/5	—	基部アスファルト付着。側縁欠	8
20	骨線	SD2050B	SX750下	5層	△8.4	1.1	0.5	シカ・中手/中足骨	1/5	—	基部漆付着	20
21	骨線	SD100・2050B	合流地点	3層	△4.8	0.6	0.3	大型獣・四肢骨	1/5	—	基部漆付着	27
22	骨線	SD100・2050B	合流地点	3層	△4.4	0.5	0.3	大型獣・四肢骨	1/5	—	近位端～中間部・前位・外側。切込み・分割・ケズリ	25
23	骨線未成品	SD2050B	PA2	2層	△7.9	1.7	1.1	シカ・中足骨 (R)	—	—		30
24	骨線	SD100・2050B	合流地点	3層	9.0	1.0	0.6	大型獣・四肢骨	完好	II類		9
25	骨線	SD100・2050B	合流地点	3層	△4.8	1.0	0.4	シカ・中手/中足骨	1/5	—		296
26	骨線	SD100・2050B	合流地点	4層	△9.9	0.9	0.4	大型獣・四肢骨	完好	重類		5
27	骨線未成品	SD2050B	SX750下	5層	△9.7	1.8	1	シカ・中足骨 (L)	—	—	近位端～中間部・前位・内側。切込み・分割・ケズリ	276
28	骨線未成品	SD100	—	3層	△14.0	2.6	1.1	シカ・中足骨 (L)	—	—	近位端～中間部・前位。切込み・分割	28
29	骨線未成品	SD100・2050B	合流地点	3層	△17.9	1.1	0.4	シカ・中手/中足骨	—	—		31
30	骨線未成品	SD2050B	PA2	1層	△19.8	1.6	0.8	シカ・中足骨 (R)	—	—	前位・外側・曲線欠。切込み・分割	28
31	骨線未成品	SD2050B	SX750下	5層	△17.3	2.1	1.1	シカ・中足骨 (L)	—	—	中間部・前位。切込み・分割	2751

車△は残存

図版225 SD100・2050B河川跡出土骨角製品3



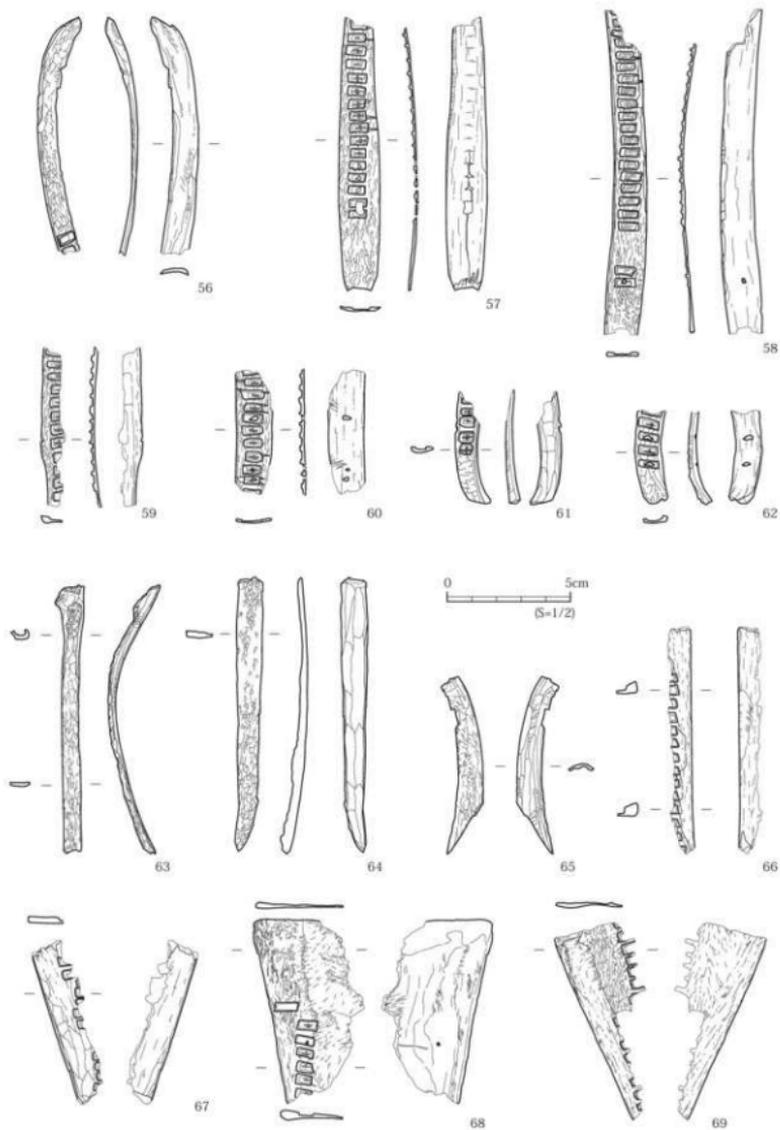
図版226 SD100・2050B河川跡出土骨角製品4



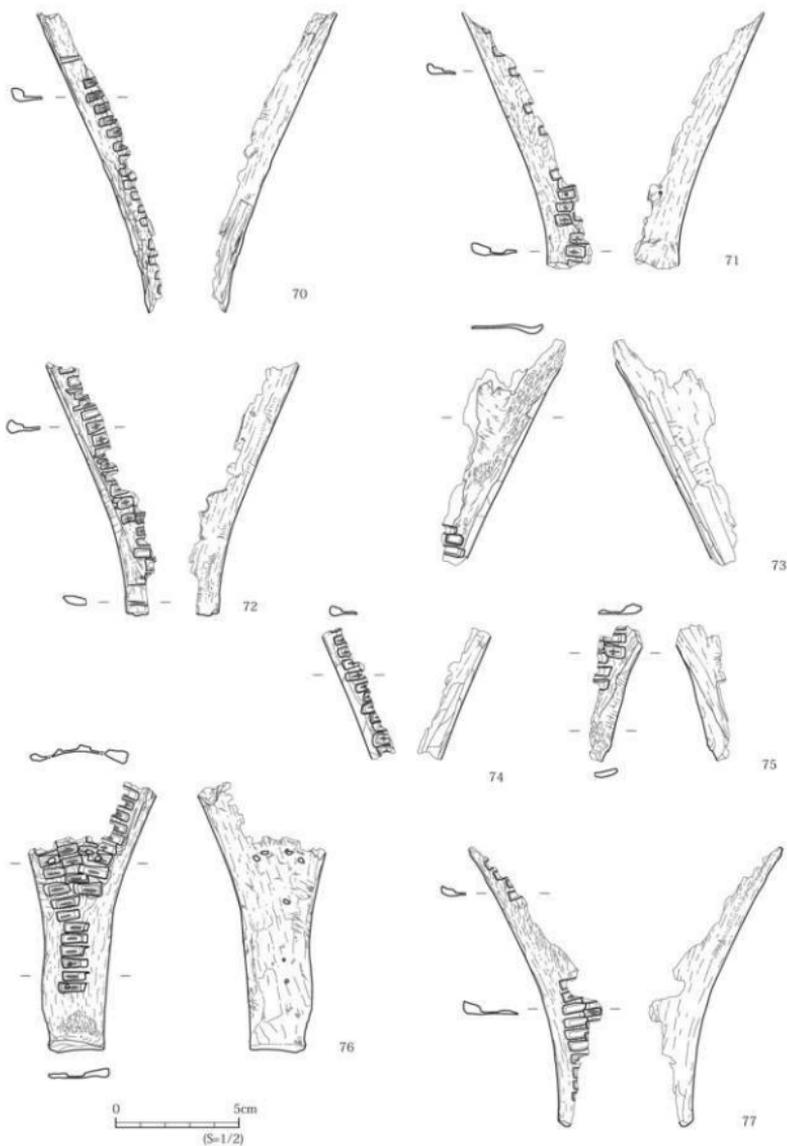
No.	種別	遺構番号	地点	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	素材	残存	特徴	数量
32	刀子柄	SD2050B	SX750 下	5層	11.5	2.3	—	シカ・角	完整	鈍角	56
33	刀子柄	SD2050B	SX750 下	5層	13.8	2.3	—	シカ・角	3/4	柄穴径: 1.5cm, 摩耗著しい, 鈍角	54
34	刀子柄	SD2050B	PA2	4層	13.0	3.0	—	シカ・角	完整	柄穴径: 1.0cm, 刃端, 鈍角	53
35	刀子柄	SD100	—	3層	△11.5	2.1	—	シカ・角	完整	刃部径: 0.4cm, 鈍角	55
36	刀子柄	SD100	—	2層	8.8	2.0	—	シカ・角	完整	鈍角先端	58
37	刀子柄未成品	SD2050B	PA2	2層	△8.9	1.6	—	シカ・角	—	鈍角	57
38	刀子柄未成品	SD2050B	PA1	2-3層	17.7	3.1	—	シカ・角	—	鈍角, 鈍角除去	59
39	刀子柄	SD2050B	—	1層	15.6	3.3	—	シカ・角	—	柄穴径: 1.3-1.2cm, 刀子装着部破断後, 反対側に装着部穿孔, 角部	2750
40	鏃	SD100・2050B	合流地点	3層	2.5	1.6	0.5	シカ・角	—	鈍角	81
41	鏃	SD100・2050B	合流地点	3層	1.9	1.2	0.2	シカ・角	—	全体に整形痕, 鈍角	82
42	鏃	SD100・2050B	合流地点	3層	1.3	0.9	—	シカ・角	—	孔径: 0.6cm, 鈍角	83
43	鏃	SD100	—	3層	2.5	1.2	0.2	シカ・角	—	鈍角先端	83
44	不明骨角製品	SD100・2050B	合流地点	3層	3.6	1.7	0.3	シカ・角	—	鈍角	2703
45	鏃頭	SD100	—	2層	△1.8	△1.7	0.6	シカ・角	—	全体に整形痕	2755
46	不明骨角製品	SD100・2050B	合流地点	3層	△6.1	2.6	1.7	シカ・角	—	穿孔2ヶ所, 孔径: 0.7・0.8cm, 鈍角基部, ビビアナイト付着	62
47	骨角製品	SD2050B	PA2	3層	4.3	1.3	—	シカ・角	—	鈍角	69
48	棒状骨角製品	SD100・2050B	合流地点	3層	3.2	0.9	0.6	シカ・角	完整	骨部断面の, 鈍角先端, アスファルト付着	2720
49	骨玉未成品	SD100・2050B	合流地点	3層	△2.7	1.4	—	シカ・角	—	孔径: 0.3cm, 融熱硬化, 鈍角	1103
50	不明骨角製品	SD100	—	2層	△1.9	△1.4	—	シカ・角	—	全体に整形痕, 未成品, 鈍角	2754
51	鏃頭	SD2050B	SX750 下	5層	9.7	1.6	0.4-0.8	シカ・角	完整	完整, 鈍角	60
52	矛	SD100	—	2層	△8.6	1.6	0.6	シカ・角	—	角部	61
53	鋭利骨	SD2050B	—	2層	△5.3	1.5	1.4	シカ・角	完整	孔径: 0.6cm, 角部中央に穿孔, 角部	87
54	不明骨角製品	SD100・2050B	合流地点	3層	△1.9	△0.8	0.7	シカ・角	—	孔径: 0.2cm, 全体に整形痕, 鈍角先端, 内側から切り込み後, 折り返ったもの	98
55	ペンダント	SD100・2050B	合流地点	3層	1.4	1.1	0.5	イヌ・1層骨(皮)	—	孔径: 0.2cm, 断面	101

※△は残存

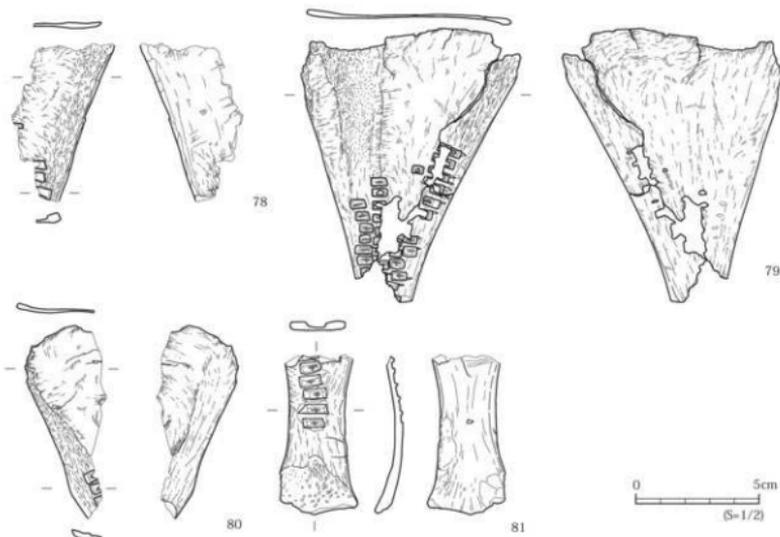
図版227 SD100・2050B河川跡出土骨角製品 5



図版228 SD100・2050B河川跡出土骨角製品6



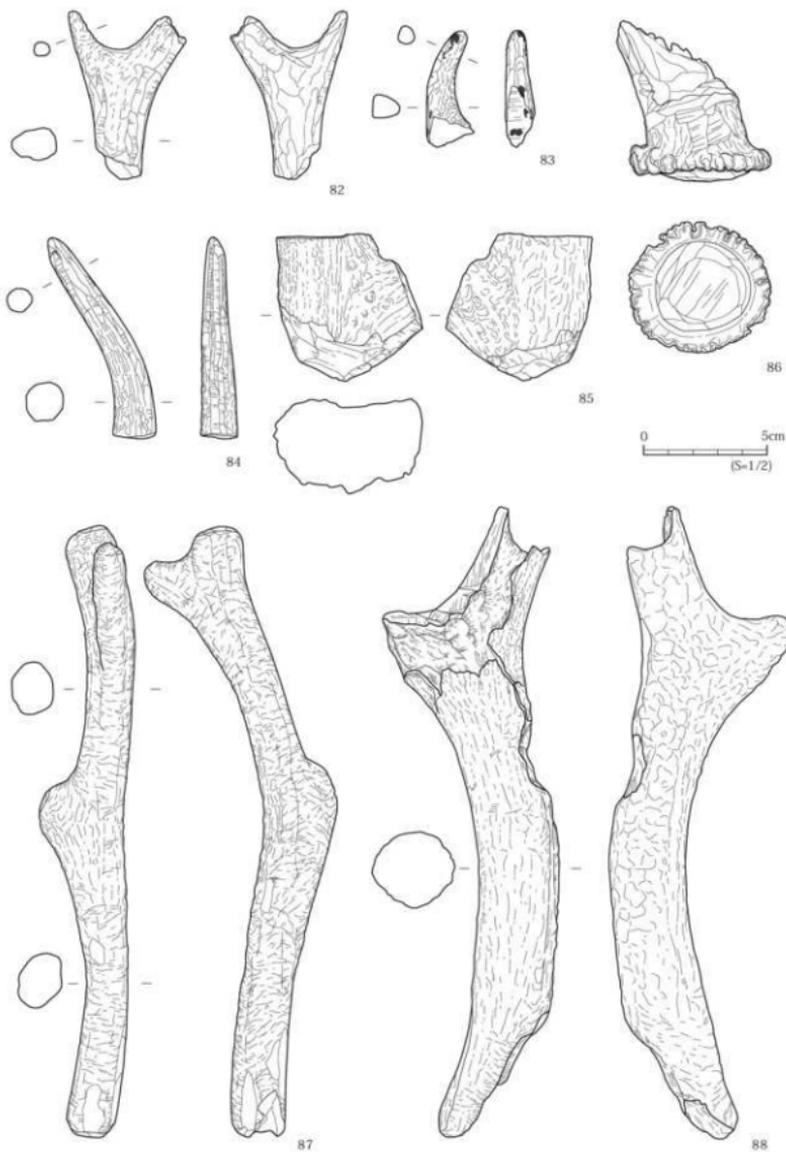
図版229 SD100・2050B河川跡出土骨角製品7



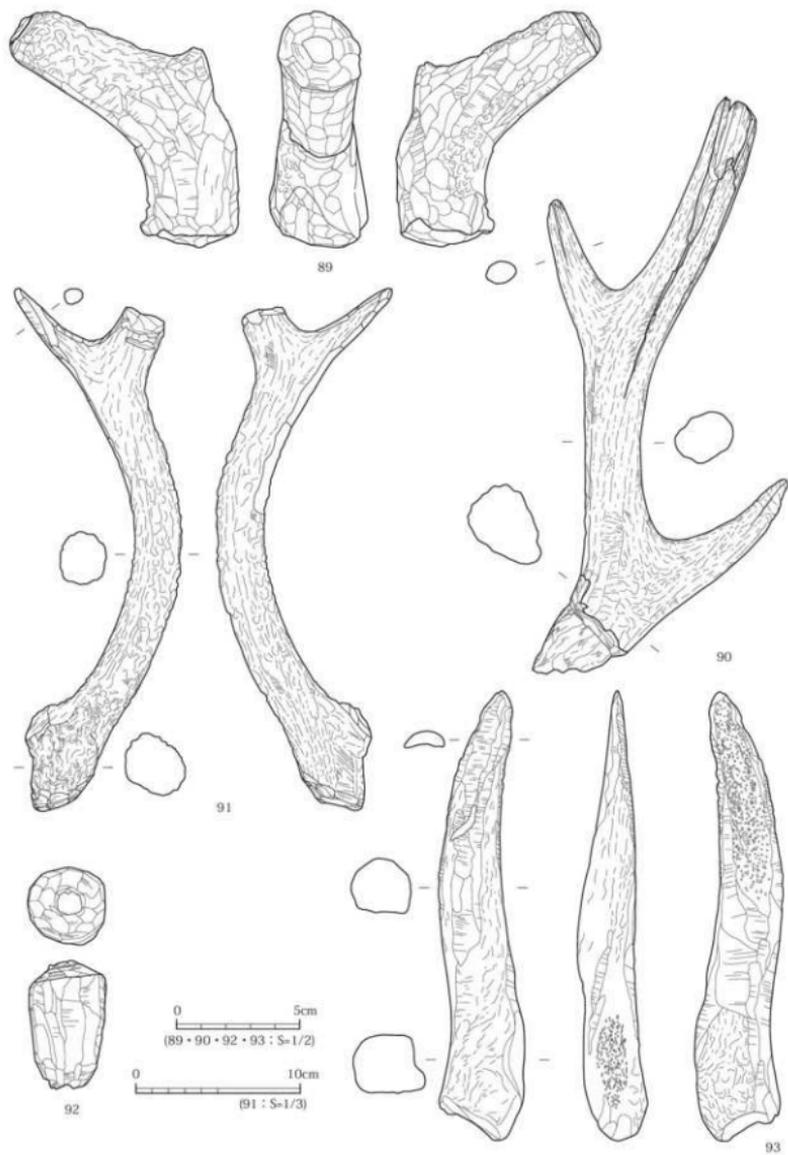
No.	種別	遺構番号	地点	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	素材	特徴	数量
56	卜骨	SD100・2050B	合渡地点	3層	△9.6	△1.7	0.2	シカ・肋骨(L)	溝:(0.7×0.4cm) 焼灼痕:—、中間部・外縁、平直・縁辺ケズリ	2718
57	卜骨	SD100・2050B	合渡地点	3層	△11.2	1.6	0.2	シカ・肋骨(L)	溝:(0.7×0.8×0.3cm) 焼灼痕:「+」「-」(0.5×0.2cm), 遠位部~中間部・外縁、平直	50
58	卜骨	SD100・2050B	合渡地点	3層	△13.2	1.5	0.2	シカ・肋骨(L)	溝:(0.8×0.3cm) 焼灼痕:「+」字状(0.1×0.4cm), 中間部・内縁、平直	47
59	卜骨	SD100・2050B	合渡地点	3層	△6.4	△1.0	0.2	シカ・肋骨(L)	溝:(0.5×0.4cm) 焼灼痕:「+」字状(0.3×0.2cm), 中間部・内縁、平直	48
60	卜骨	SD100・2050B	合渡地点	3層	△5.1	1.3	0.1	シカ・肋骨(R)	溝:(0.7×0.9×0.4cm) 焼灼痕:「+」「-」(0.4×0.2cm), 中間部・内縁、平直	51
61	卜骨	SD100・2050B	合渡地点	3層	△4.6	1.5	0.2	シカ・肋骨(SH)(L)	溝:(0.6×0.5cm) 焼灼痕:「+」字状(0.5×0.3cm), 遠位部・内縁	2782
62	卜骨	SD100・2050B	合渡地点	3層	△3.8	1.3	0.3	シカ・肋骨(L)	溝:(0.8×0.3cm) 焼灼痕:「+」字状(0.6×0.2cm), 遠位部・内縁	52
63	卜骨	SD100・2050B	合渡地点	3層	△11.1	1.2	0.4	シカ・肋骨(口体)(R)	遠位部・内縁、平直・縁辺ケズリ	64
64	卜骨	SD2050B	—	1層	△11.2	1.2	0.3	シカ・肋骨(L)	中間部・外縁	2793
65	卜骨	SD100・2050B	合渡地点	3層	△7.3	△1.7	0.1	シカ・肋骨(R)	遠位部・外縁、縁辺ケズリ	49
66	卜骨	SD100・2050B	合渡地点	3層	△9.3	△1.0	0.5	シカ・肩甲骨(L)	溝:(0.2×0.4×0.3cm) 焼灼痕:「-」, 中間部・後縁、外縁ケズリ	45
67	卜骨	SD100・2050B	合渡地点	3層	△6.7	△2.8	0.2	大型獣・四肢骨	溝:(0.4×0.4×0.4cm) 焼灼痕:「-」, 片面加工(軋状)・整形	2778
68	卜骨	SD2050B	PA2	3層	△7.6	△4.6	0.4	シカ・肩甲骨(R)	溝:(0.7×1.0×0.4cm) 焼灼痕:「+」字状(0.4×0.2cm), 遠位部・後縁、外縁ケズリ	40
69	卜骨	SD100・2050B	合渡地点	3層	△8.0	△3.7	0.2	シカ・肩甲骨(L)	溝:(0.7×0.4×0.4cm) 焼灼痕:—、中間部・前縁、縁辺ケズリ	34
70	卜骨	SD2050B	SX750下	5層	△12.3	△5.1	△0.5	シカ・肩甲骨(R)	溝:(0.7×0.3×0.4cm) 焼灼痕:「+」「-」(0.4×0.2cm), 中間部・後縁、外縁ケズリ	33
71	卜骨	SD2050B	PA1	2・3層	△10.5	△5.2	△0.4	シカ・肩甲骨(R)	溝:(0.7×0.8×0.4cm) 焼灼痕:「+」「0」(0.4×0.2cm), 中間部・後縁、外縁ケズリ	39
72	卜骨	SD2050B	—	3層	△10.3	△4.3	0.5	シカ・肩甲骨(R)	溝:(0.5×0.7×0.3cm) 焼灼痕:「+」字状(0.4×0.2cm) 切痕、中間部・後縁、外縁ケズリ	37
73	卜骨	SD2050B	—	2層	△9.2	△5.0	0.3	シカ・肩甲骨(L)	溝:(0.6×0.8×0.4cm) 焼灼痕:「-」, 遠位部・後縁、外縁ケズリ	2743
74	卜骨	SD100	—	2層	△5.4	△3.0	0.4	シカ・肩甲骨(L)	溝:(0.5×0.4×0.4cm) 焼灼痕:「-」, 遠位部・後縁、外縁ケズリ	2748
75	卜骨	SD100・2050B	合渡地点	3層	△5.7	△2.2	0.4	シカ・肩甲骨(L)	溝:(0.8×0.3cm) 焼灼痕:「+」字状(0.4×0.3cm), 遠位部・後縁、外縁ケズリ	43
76	卜骨	SD100・2050B	合渡地点	3層	△11.0	5	0.5	シカ・肩甲骨(L)	溝:(0.7×1.2×0.4~0.5cm) 焼灼痕:「+」「-」(0.5×0.7×0.1), 遠位部~中間部、外縁ケズリ・軋状と整形	35
77	卜骨	SD100・2050B	合渡地点	3層	△11.5	△5.2	0.5	シカ・肩甲骨(R)	溝:(1.0×0.3cm) 焼灼痕:「+」字状(0.5×0.2cm), 中間部・後縁、外縁ケズリ	36
78	卜骨	SD100・2050B	合渡地点	3層	△6.4	△4.1	0.4	シカ・肩甲骨(L)	溝:(0.7×0.4cm) 焼灼痕:「-」, 遠位部・後縁、外縁ケズリ	2770
79	卜骨	SD100・2050B	合渡地点	3層	△11.2	8.8	0.2	シカ・肩甲骨(L) シカ・肩甲骨(L)	溝:(0.6×0.7×0.3cm) 焼灼痕:「+」「-」(0.3×0.1cm), 遠位部、縁辺ケズリ	52
80	卜骨	SD2050B	SX750下	5層	△7.8	△3.2	0.3	シカ・肩甲骨(R)	溝:(0.5×0.4×0.4cm) 焼灼痕:「+」字状(0.2×0.2×0.2cm), 遠位部・後縁、外縁ケズリ	36
81	卜骨	SD100・2050B	合渡地点	3層	△6.5	3.2	0.3	シカ・肩甲骨(L)	溝:(0.8×0.9×0.5cm) 焼灼痕:「+」字状(0.4×0.2cm), 遠位部、外縁ケズリ・軋状と整形	38

△は残存部

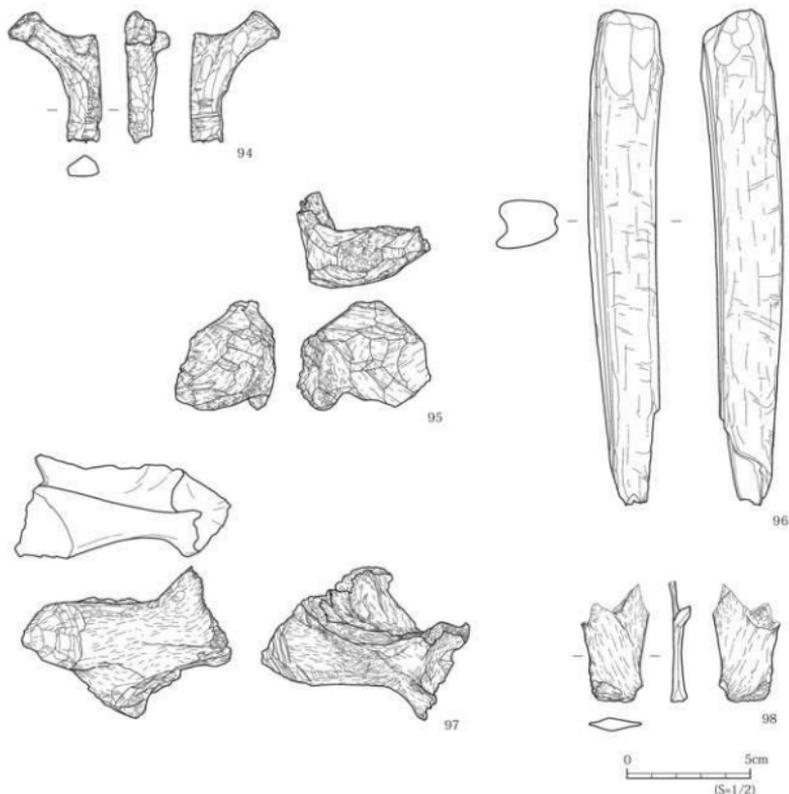
図版230 SD100・2050B河川跡土骨角製品8



図版231 SD100・2050B河川跡出土骨角製品9



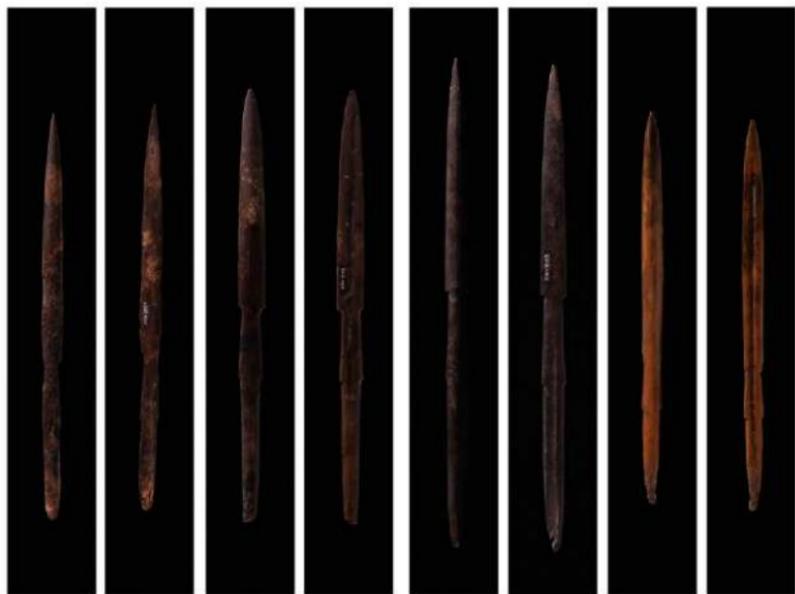
図版232 SD100・2050B河川跡出土骨角製品10



No.	種別	遺構番号	地点	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	素材	特徴	登録
82	鹿角素材	SD2050B	PA2	2層	6.8	—	—	シカ・角 (黄)	最大幅：4.0cm。切断面。断面に整形痕。第1枝又派。2尖方2才以下方	66
83	鹿角素材	SD100・2050B	合流地点	3層	4.8	—	—	シカ・角	最大幅：2.0cm。切断面。断面に整形痕・付着物。枝角	68
84	鹿角素材	SD100・2050B	合流地点	2層	8.8	—	—	シカ・角	最大幅：1.8cm。切断面。断面に整形痕。枝角	67
85	鹿角素材	SD2050B	PA2	2層	6.0	6.0	3.9	シカ・角 (黄)	切断面。第1枝又派	73
86	鹿角素材	SD2050B	PA2	1層	6.6	—	—	シカ・角	最大幅：5.8cm。角座。切断面。角座	2803
87	鹿角素材	SD100・2050B	合流地点	3層	25.2	—	—	シカ・角 (黄)	最大幅：3.7cm。切断面。断面に整形痕。角幹・第2～4枝派。各枝角除去	2798
88	鹿角素材	SD2050B	PA2	4層	25.7	—	—	シカ・角 (L)	最大幅：6.0cm。整形痕。角幹・枝角	72
89	鹿角素材	SD2050B	PA2	2層	12.6	—	—	シカ・角 (R)	最大幅：3.8cm。切断面。第1枝又派	2797
90	鹿角素材	SD2050B	PA2	4層	24.7	—	—	シカ・角 (黄)	最大幅：3.8cm。切断面。第2～4枝	2802
91	鹿角素材	SD2050B	PA2	4層	32.1	—	—	シカ・角 (黄)	最大幅：3.2cm。切断面。断面に整形痕。角幹・枝角	71
92	鹿角素材	SD2050B	SX750下	5層	5.3	—	—	シカ・角	最大幅：3.2cm。切断面。断面に整形痕。角幹	2763
93	鹿角素材	SD2050B	PA2	2層	18.4	—	—	シカ・角	最大幅：3.4cm。切断面。断面に整形痕。角幹。枝角除去	65
94	骨素材	SD2050B	SX750下	5層	5.3	3.7	0.8	シカ・角 (5ch) (R)	切断された端部。近位端。癒合	2761
95	骨素材	SD2050B	PA2	2層	5.2	4.5	4.1	シカ・前歯骨	切断面。角座付近	2798
96	骨素材	SD100・2050B	合流地点	3層	20.2	3.0	2.0	シカ・中足骨 (L)	近位端に整形痕。近位端～中咽部。近位端ケズリ。遠位端スライヤル割付。大型の軀体	2707
97	骨素材	SD100・2050B	合流地点	2層	9.2	6.4	4.3	シカ・前歯骨 (L)	切断面。断面に整形痕。角座付近	73
98	骨素材	SD100・2050B	合流地点	3層	△4.9	2.8	0.5	大型獣・骨	棘	44

串三趾魂存続

図版233 SD100・2050B河川跡出土骨角製品11



1a

1b

2a

2b

3a

3b

4a

4b



5a

5b



2a 基部拡大



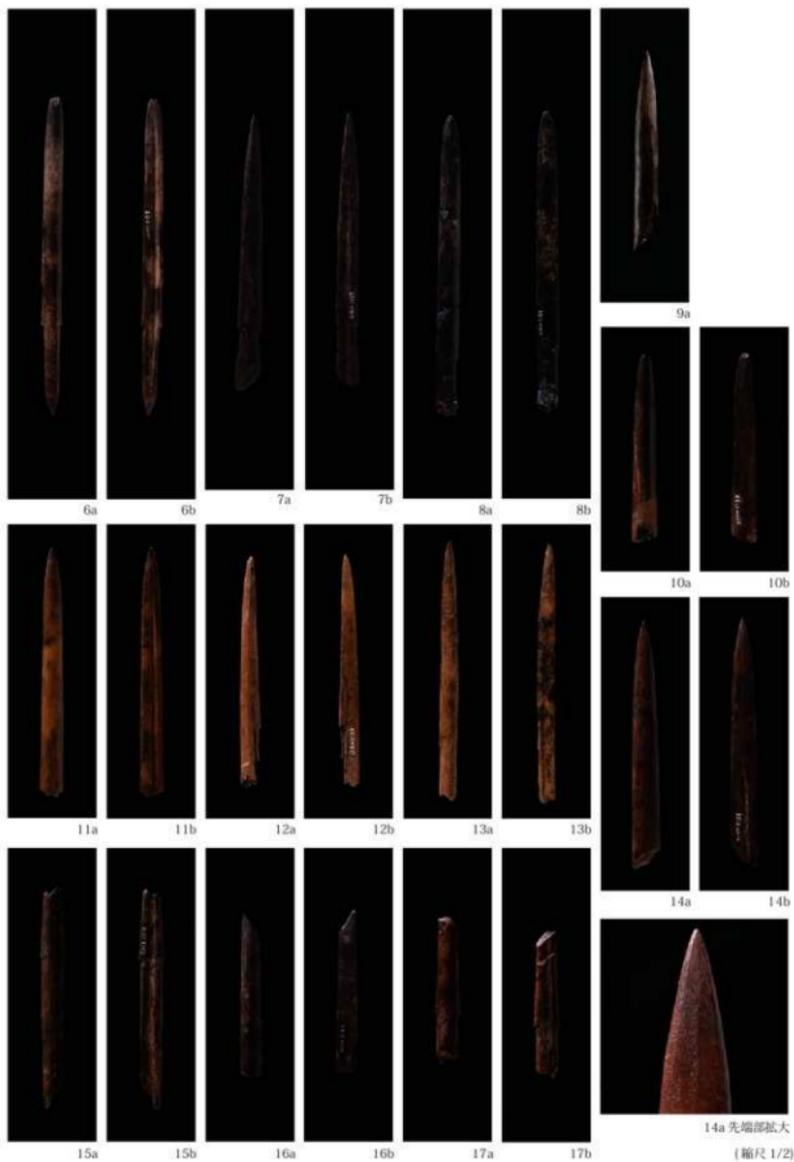
3a 突起拡大



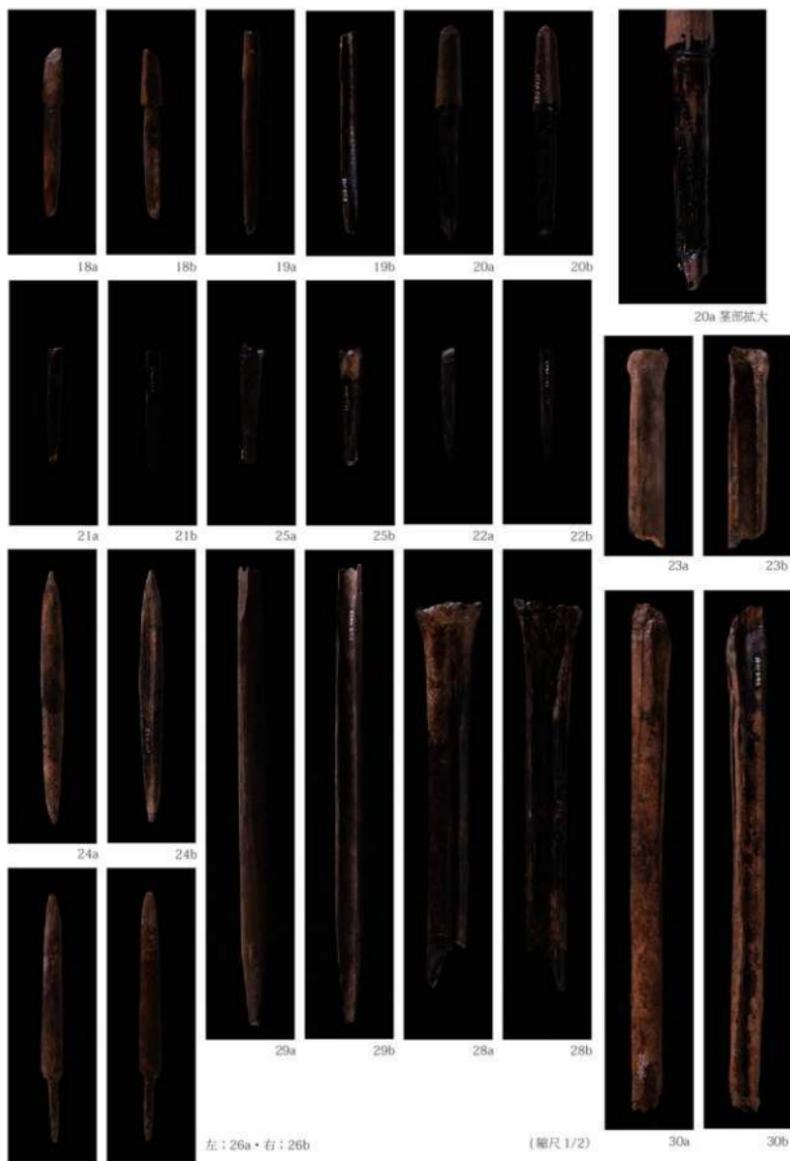
5a 基部拡大

(縮尺 1/2)

図版234 SD100・20508河川跡出土骨角製品12



図版235 SD100・2050B河川跡出土骨角製品13



図版236 SD100・2050B河川跡出土骨角製品14



図版237 SD100・2050B河川跡出土骨角製品15



図版238 SD100・2050B河川跡出土骨角製品16



図版239 SD100・2050B河川跡出土骨角製品17



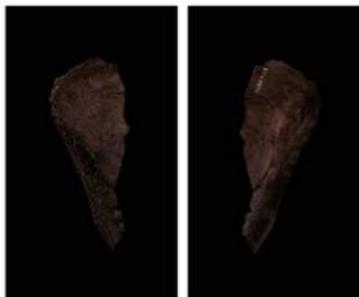
図版240 SD100・2050B河川跡出土骨角製品18



76a

76b

76 拡大



80a

80b



77a

77b



74



67



79a



79b

(縮尺 1/2)

図版241 SD100・2050B河川跡出土骨角製品19



圖版242 SD100・20508河川跡出土骨角製品20



(91: 縮尺任意 その他: 縮尺 1/2)

左: 94・右: 95

図版243 SD100・2050B河川跡出土骨角製品21



図版244 SD100・2050B河川跡出土骨角製品22

肩甲骨を素材とするもので、比較的完形に近い形で出土したものは79のうち1点のみである。そのほかはいずれも破片で出土した。使用した肩甲骨に左右の偏りは認められない。内外面を整形した海綿質部分に、長方形の鑽を連続して彫り、その底面に焼灼を行ったものである。焼灼痕は外面に行われている。72・73・75の鑽は焼灼痕を伴わないものがあり、全ての鑽で焼灼がされたわけではない。確認された焼灼痕は「十」字形が多く、「一」字形も含まれる。焼灼痕が反対側まで及び、焼け抜けているものも多い。

またSD100・SD2050B河川跡から出土したニホンジカの肩甲骨で、未使用のものは1点のみであった。このことから、ニホンジカの肩甲骨は卜骨の利用を目的とするために、未利用廃棄は原則行っていなかった可能性が考えられる。

〔鹿角素材〕(図版231・232・242)

ニホンジカの鹿角をナタ状工具もしくはノミ状工具で切り落とした後、自然面の一部に削りを入れているもので、12点図示した(82～93)。先端部を利用しているもの(83・84)、枝分かれする部分を利用しているもの(82・90)、幹部を利用しているもの(85・86・89・92・93)など、鹿角を細かく切断したのち加工しているものと、鹿角の形状を残しているもの(87・88・90・91)がある。図示した鹿角素材は、製作途中の未成品であると思われる。

〔鹿骨素材〕(図版233・243・244)

鹿骨素材は、自然面の一部に削りを入れているもので、4点図示した(95～98)。

## G. 動物遺存体

### はじめに

山王遺跡や隣接する市川橋遺跡では、これまでの調査において、獣骨を中心に動物遺存体が多量に出土し、それらの検討から、対象資源の時期的変化、利用、形質的特徴などが明らかにされている。今回の調査でも、古墳時代後期の河川跡SD100・2050Bを中心に多くの動物遺存体が出土した。特に上記河川跡では、複数の地点で貝層を調査、土壌・貝層のサンプリングが行われ、これまでの調査では断片的であった貝類・魚類の試料が多く得られた。

ここでは、これらの試料の内容について述べる。また、河川跡以外から出土した試料についても簡単にまとめる。

### ①河川跡について

SD100は西から東へと流れる河川跡で、北側には古墳時代後期の集落が位置する。SD2050Bはその集落を東西に分断して北から南に流れ、D区内でSD100に合流する。調査は、以下に示すD・L区のLoc. 1～8に深掘箇所を設定し行った他、遺構などの断面などでも部分的に行った（図版140）。Loc. 1は局所的な調査で貝層サンプルのみ採取した。他の地点の貝層との関係は不明で、6世紀末以前である。時期の上限は不明だが、ここでは古墳時代後期として扱う。Loc. 2～8では堆積土は5層認められ、1層が黒褐色粘質土層、2層が砂混じり黒色粘土層、3層がカキを主体としアサリなどを含む貝層、4層が灰色砂層、5層が黒色粘土層で形成時期は6世紀末～7世紀前半である。貝層はSD100と2050Bの合流点を中心とし、北は県道調査区（宮城県教委2001b）、西はD区内のSD100で認められるが、合流点から東では確認できない。なお、D区より西側への広がりは、河川の掘り下げを行った部分が少ないため不明である。

Loc. 1：D区SX700道路跡西側溝の下層部分。河川合流部SD100側右岸側部。

Loc. 2：D区SX390道路跡の下層部分、調査区南西壁際およびその隣接部。

Loc. 3：道路跡交差点の下層部分。河川跡合流部中央西寄り。

Loc. 4：SX710道路跡北側溝から交差点の下層にかけての箇所。河川跡合流部河道中央東寄り。

Loc. 5：PA2本調査部分。河川跡合流部SD2050B側右岸部。

Loc. 6：Loc. 5の東側。SD2050B左岸部。

Loc. 7：D区SX750道路跡下層部分、調査区北壁側。

Loc. 8：L区PA1

## ②方法

### a. 試料の採取

試料を現場で目視で取り上げる（目視試料）ほか、古墳時代の河川跡（SD100・2050B）内に形成された貝層部分の3層全てと4層の一部については土壌サンプルを採取した。採取地点はLoc.1～5である（表13）。サンプルは土壌1袋単位で、303点採取した。

採取した土壌サンプルは重量を計測したのち水洗篩にかけて試料を分離した。4mm・2mm・1mmメッシュ上で分離した‘4mmメッシュ試料’・‘2mmメッシュ試料’・‘1mmメッシュ試料’と上澄みをガーゼで濾した‘フローテーション試料’とがある。フローテーション試料は一部のサンプルから回収したもので今回は対象外とした。4mm試料については全てを貝・骨・炭化物・遺物・礫などに分類した。最小メッシュが1mmであり、1mm試料中から多く検出される種についてはサンプリングエラーが想定される。

### b. 試料の抽出

#### 目視試料・4mmメッシュ試料

貝類は試料中に多量に存在するため、後述する詳細分析サンプルおよび遺構出土のものを同定・数量化の対象とした。ただし、それらに含まれない種については分析対象外からも同定し、できる限りの種を明らかにした（表14）。

貝類を除く動物遺存体は、SD100・2050Bから13,193g、その他の遺構から7,418g出土した。これらの中からおおよそ以下の基準に従って分析対象を抽出した。

歯または関節部を残す上顎・下顎骨および遊離歯/頭部骨片で部位の見当が付き易いもの、骨端部または関節部の半分以上を残す四肢骨・肋骨、椎体または神経突起の大半を残す椎骨、角の基部・先端部・分岐部・全周を残す幹部、魚骨では、残存率が高く魚種の特徴をよく示すもの、以上には該当しないが顕著な痕跡が認められるもの、以上である。

分析対象点数は1,051点で重量は15,093g、分析率は重量で73%である。これら以外のものは‘破片’として、取り上げ単位毎に一括した。

#### 2mmメッシュ・1mmメッシュ試料

微細で多量であるため代表的なサンプルを‘詳細分析サンプル’として選び分析対象とする。詳細分析サンプルは、層の性格・貝組成・含有状況を考慮し19サンプルを選択し

地点	位置	時期	土壌サンプル数	土壌サンプル重量 (kg)	詳細分析サンプル数
Loc.1	D区 SX700 下	6C 未以前	7	44	2
Loc.2	D区 SX390 下	6C 未～7C 前半	34	298	
Loc.3	D区交差点	6C 未～7C 前半	65	738	3
Loc.4	D区 SX710 下 (交差点北東)	6C 未～7C 前半	176	2056	12
Loc.5	D区 PA2	6C 未～7C 前半	21	233	2
Loc.6	D区 PA2 表	6C 未～7C 前半	0	0	
Loc.7	D区 SX750 下	6C 未～7C 前半	0	0	
Loc.8	E区 PA1	6C 未～7C 前半	0	0	
			303	3369	19

表12 土壌サンプル採取状況

サンプルNo.	地点	層位	時期	土壌重量 (kg)	1mm 試料 全体的 (cc)	1mm 試料 分析試料 (cc)	分析率 (%)	優先度
38	loc.1	3層	6C 未以前	13	300	200	66.7	1.50
41	loc.1	3層	6C 未以前	12	240	200	83.3	1.20
56	loc.3	3層	6C 未～7C 前半	12	590	200	33.9	2.95
77	loc.3	3層	6C 未～7C 前半	15	500	200	40.0	2.50
288	loc.3	3層	6C 未～7C 前半	11	1000	200	20.0	5.00
97	loc.4	3層	6C 未～7C 前半	15	720	200	27.8	3.60
116	loc.4	3層	6C 未～7C 前半	11	538	200	37.2	2.69
124	loc.4	3層	6C 未～7C 前半	8	260	200	76.9	1.30
125	loc.4	3層	6C 未～7C 前半	15	565	200	35.4	2.83
160	loc.4	3層	6C 未～7C 前半	12	440	200	45.5	2.20
172	loc.4	3層	6C 未～7C 前半	10	255	200	78.4	1.28
190	loc.4	3層	6C 未～7C 前半	11	760	200	26.3	3.80
207	loc.4	3層	6C 未～7C 前半	11	390	200	51.3	1.95
210	loc.4	3層	6C 未～7C 前半	10	290	200	69.0	1.45
223	loc.4	4層	6C 未～7C 前半	14	150	150	100.0	1.00
231	loc.4	3層	6C 未～7C 前半	14	555	200	36.0	2.78
240	loc.4	3層	6C 未～7C 前半	12	370	200	53.1	2.85
268	loc.5	3層	6C 未～7C 前半	16	585	200	34.2	2.93
283	loc.3	3層	6C 未～7C 前半	16	880	200	22.7	4.40

表13 詳細分析サンプルと分析率

## 軟体動物門 Mollusca

## 腹足綱 Gastropoda

- タニシ科 Viviparidae sp.  
 スガイ *Turbo cornatuscorensis*  
 クボガイ *Chlorostoma lischkei*  
 コシダカガシラ *Omphalopus rusticus*  
 イシダタミ *Monodonta labio*  
 タマキビ *Littorina brevicula*  
 フトヘナタリ *Cerithidea rhizophorarum*  
 ウミナ *Batillaria cumingi*  
 イボウミナ *Batillaria zonalis*  
 ホソウミナ *Batillaria atramentaria*  
 カワナ *Semisulcospira libertina*  
 チリメンカワナ *Semisulcospira reiniana*  
 アッキガイ科 Muricidae spp.  
 アカニシ *Rapana venosa*  
 レイシガイ *Thais bronni*  
 イボニシ *Thais clavigera*  
 ヒレガイ *Cerastoma burnetti*  
 ツメタガイ *Glossaulax didyma*  
 アラムシロ *Reticunassa festiva*  
 カサガイ目 Docoglossa sp.  
 マツハガイ *Cellana nigrolineata*  
 コウダカアオガイ *Nipponacmea concinna*  
 オオヘビガイ *Serpularbis imbricatus*

## 二枚貝綱 Bivalvia

- イシガイ *Unio douglasiae*  
 イガイ *Mytilus coruscus*  
 マガキ *Crassostrea gigas*  
 ナミマガシワ *Anomia chinensis Philipp*  
 マルダレガイ科 Venaroida spp.  
 ハマダリ *Meretrix lasoria*  
 アサリ *Ruditapes philippinarum*  
 オニアサリ *Protothaca jodoensis*  
 オキシジミ *Cyclina*  
 ヤマトシジミ *Corbicula japonica*  
 ウネナシトマガガイ *Trapezium litratum*  
 ウバガイ *Pseudocardium sachalinense*  
 シオボキガイ *Macra veneriformis*  
 サルボウガイ *Scapharca kagoshimensis*  
 アカガイ *Anadara broughtonii*

## 節足動物門 Arthropoda

## 顎脚綱 Maxillopoda

- フジツボ亜目 Balanomorpha spp.

## 棘皮動物門 Echinodermata

- ウニ綱 Echinoidea sp.

## 節足動物門 Arthropoda

- 短尾下目 (カニ下目) Brachyura

## 脊椎動物門 Vertebrata

## 軟骨魚綱 Chondrichthyes

- 板鰓亜綱 Elasmobranchii spp.  
 アオザメ属 *Isurus* sp.  
 アカエイ *Dasjatis akajei*

## 硬骨魚綱 Osteichthyes

- サケ科 Salmonidae sp.  
 アユ *Plecoglossus altivelis altivelis*  
 ウナギ属 *Anguilla* sp.  
 キハチ *Pseudobagrus tokienis*  
 コイ科 Cyprinidae spp.  
 ウグイ亜科 Leuciscinae spp.  
 ウグイ属 *Tribolodon* sp.  
 アブラハヤ属 *Rhynchocypris* sp.  
 フナ属 *Carassius* sp.  
 ニゴイ *Hemibarbus barbus*  
 タナゴ属 *Acheilognathus* sp.  
 ドジョウ科 Cobitidae sp.  
 ハゼ科 Gobiidae spp.  
 ヨシノボリ属 *Rhinogobius* sp./チチブ属 *Tridentiger* sp.  
 スズキ *Lateolabrax japonicus*  
 タイ科 Sparidae sp.  
 マダイ *Pagrus major*  
 クロダイ *Acanthopagrus schlegelii*  
 ボラ *Mugil cephalus*  
 コチ科 Platycephalidae sp.

## 両生綱 Amphibia

- カエル目 Anura sp.

## 爬虫綱 Reptilia

- ウミガメ科 Cheloniidae sp.  
 ヘビ科 Colubridae sp.

## 鳥綱 Aves

- キジ科 Phasianidae sp.  
 カモ亜科 Anatinae spp.  
 アビ属 *Gavia* sp.  
 サギ科 Ardeidae sp.  
 ミズナギドリ科 Procellariidae sp.

## 哺乳綱 Mammalia

- ウマ *Equus caballus*  
 ウシ *Bos taurus*  
 ニホンジカ *Cervus nippon*  
 イノシシ *Sus scrofa*  
 ツキノワグマ *Ursus thibetanus*  
 イヌ *Canis lupus familiaris*  
 キツネ *Vulpes vulpes*  
 タヌキ *Nyctereutes procyonoides*  
 ノウサギ *Lepus brachyurus*  
 ネズミ科 Muridae sp.  
 ハタネズミ亜科 Arvicolinae sp.

表14 出土種名表

た(表13)。なお、分析開始段階ではサンプルの地点が十分に把握できていなかったため、Loc.2のサンプルが対象から漏れた。2 mm メッシュ試料については全量を、1 mm メッシュ試料については体積を計り各200ccを対象に同定可能な試料を抽出した。分析率は22.7~100%である。

## c. 同定と数量化

貝類は殻頂部を、魚類は部位数をカウントした。鳥獣類については、部位中の残存部分、骨端部の癒合状況・成長度も記録した。哺乳類において同一個体として認定した複数の遊離歯は顎骨として扱った。なお、骨角器としたものは集計からは除外している。同定した試料については、切削(カットマーク)、打割痕(スパイラル割れ)、咬痕、焼けなどのダメージ、重量を記録した。

同定破片数を 'NISP'、最小個体数を 'MNI' と表記する。鳥獣類の出土部位数については、同定さ

れた破片の重複関係を考慮して求めた、それらの破片を生じさせるのに必要な最小の部位数、すなわちMNE (minimum number of elements, 最小要素数) で示した。MNEは時期・地点ごとに、MNIは時期・遺構ごとに算定した。その際、頭蓋骨、下顎骨については齢査定の結果を、四肢骨などについては骨端部の癒合状況も考慮した。計測はDriesch (1976) に従った。

### ③ 同定・観察結果

#### a. 貝類 (図版245)

貝類は38分類群を同定した。潮間帯の岩礁～砂底、干潟、汽水域砂泥底、河川・湖沼に生息する種から構成され、潮間帯の砂底・干潟のものを主体とする。なお、陸産貝類はごく少量検出されたが、今回は同定対象から除外した。表15a・bに4mm試料における各分類のNISPと出土重量を示す。

##### マガキ

未同定破片を除いた重量で見ると全体の60%を占め、貝層の主体となる種である。干潟や内湾岩礁に生息する。干潟ではマガキはカキ殻に別のカキが次々と付着することによってカキ礁を形成することがある。出土したマガキには数個体が互いに結合しているものがしばしば見られ (図版245右下)、これらはカキ礁で採取したマガキの可能性が高い。産卵期以外の9～4月に食用とされる。

##### ハマグリ・アサリ (マルスダレガイ科)

ハマグリは二枚貝の中ではマガキに次いで多く、アサリがこれに次いでおり主要な種となっている。なお、マルスダレガイ科としたものの多くはハマグリとみられる。内湾の砂底や干潟に生息する。

##### アカニシ

大型の巻貝である。殻頂数では全体に占める割合は低いが、未同定破片を除いた重量で見ると全体の20%を占め、マガキに次ぐ。浅海の砂泥底や干潟に生息する。

##### スガイ

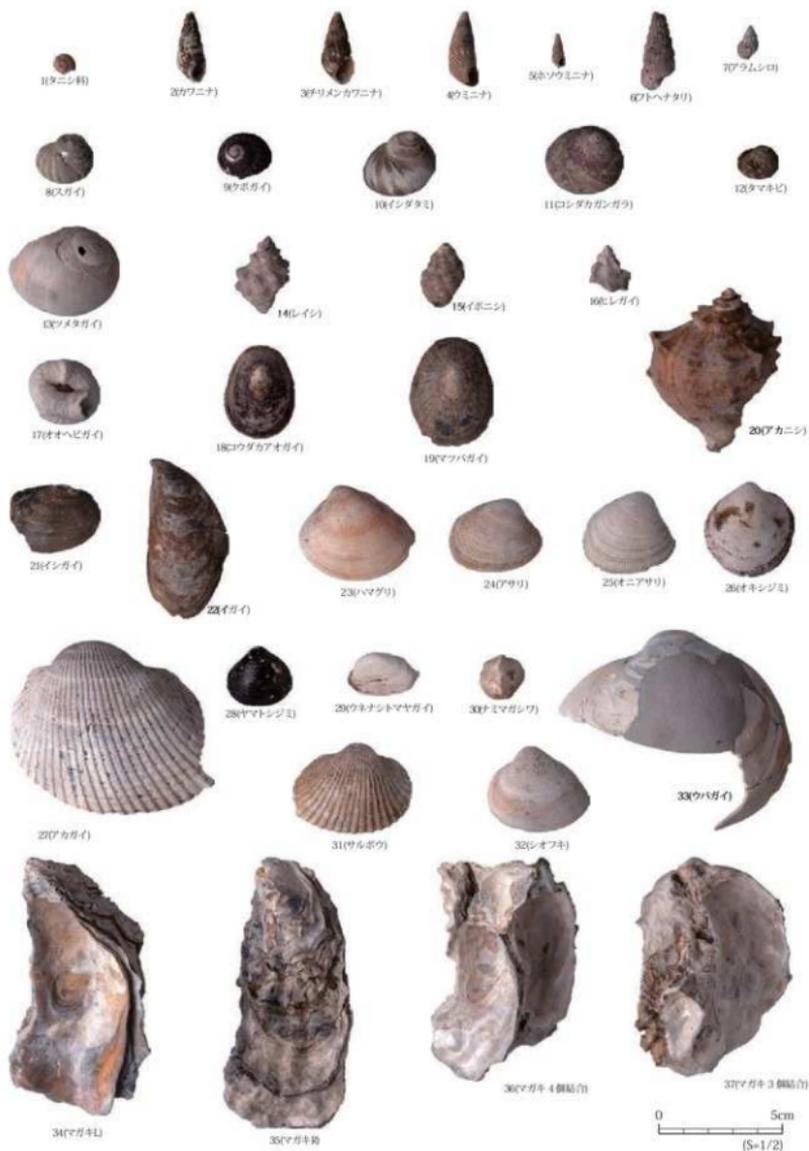
殻頂と蓋を同定した。蓋が非常に多く、また殻頂数と必ずしも比例していない。スガイの蓋は識別性が良く壊れにくいことを考慮すると、殻頂部の抽出漏れや、碎片化により殻頂部が4mmメッシュを通り抜けた可能性がある。殻頂数ではウミナシについて多く、小型の巻貝において主体となる種である。出土したマガキにはスガイが結合しているものも見られた。カキ礁は岩礁的環境を形成する。スガイは潮間帯の岩礁に生息するが、カキ礁にも生息していたと考えられ、スガイの中にはそこで捕獲されたものもあると推定される。

##### ウミナシ

小型の巻貝である。殻頂数では最も多く、小型の巻貝では主体となる。干潟や潮間帯の泥底に生息する。

##### その他の貝類

岩礁性の貝類は種は多種類を同定したが、スガイを除けばいずれも僅かである。淡水種としては、カワニナ・タニシ科・イシガイを同定し、カワニナが比較的多い。汽水種としてはヤマトシジミを同定したが、淡水種よりも出土数は少ない。



図版245 SD100・2050B河川跡出土動物遺存体1—貝類

種名	時間 層位 地点	6cまで以前																						計
		3層		Loc.3		Loc.4																		
		38	41	56	77	288	97	116	124	125	160	172	190	207	210	231	240	268	283	223	4層			
1/L	R	1/L	R	1/L	R	1/L	R	1/L	R	1/L	R	1/L	R	1/L	R	1/L	R	1/L	R	1/L				
飯尾(各日)																								
タボガイ	湖沼層・砂底	8	5	7		2	2								2						26			
コシダカカンザウ	湖沼層・砂底	1	1							1											4			
ヒレガイ	湖沼層・砂底																				34			
レイシ	湖沼層・砂底	22	21	1		3	1			1				1	1	3					10			
イモニシ	湖沼層・砂底	6	1	1		2															61			
レイシガイ属	湖沼層・砂底	6	13	4		7	6	1		2		7				20	1				662			
スガイ	湖沼層・砂底	153	247	53	7	17	29	3		15	27	7	5	2	13	82	7			2	61			
スガイ蓋	湖沼層・砂底	481	213	160	41	158	89	38	13	48	97	6	93	43	34	378	93	8	18		2011			
オオノヒガイ	湖沼層・砂底				1											1					1			
カサガイ目	湖沼層・砂底															1					1			
ツメタガイ	湖沼層・砂底															1					1			
フトハナタリ	干潟			8		5	3														18			
ウミニナ	干潟	182	131	460	6	323	77	18	7	40	56		23	4	10	83	49	2		1471				
イボウミニナ	干潟	1		4	1																13			
ホソウミニナ	干潟					1															1			
アカシ	干潟	17	10	6	1	3	10	1		3	6		5	5	5	7	14				93			
カワナ	河川・池沼	1	35	10	59	22	15	4	7	19		8	1	7	22	32	3			6	248			
タニシ科	河川・池沼	11	3		5	5										3	1				23			
不明骨口		13	2		1						1	2	1		3	15		1			39			
税目録																								
イガイ	湖沼層・砂底	1/	1/1	1/	1/	1/	1/	1/	1/	1/	1/	1/	1/	1/	1/	1/	1/	1/	1/	1/	1/			
シオホキ	湖沼層・砂底	/	1/2	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	2/1	/	/	/	/	1/			
オニアサリ	湖沼層・砂底	/3	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	3			
ハマリ	湖沼層・砂底・干葉	61/60	40/50	22/23	7/12	24/21	7/6	9/7	4/	12/11	33/32	/	6/3	4/6	23/11	22/30	12/10	/	/	/	6/4			
アサリ	湖沼層・砂底・干葉	21/25	18/14	16/21	2/2	44/34	15/18	3/6	/	1/	18/21	/	4/3	2/3	8/17	12/6	/	/	/	/	2/2			
マルスダレガイ目	湖沼層・砂底・干葉	24			10	22	2	3	2	5	23		3	44	5	6	4	6			159			
カキ	干潟	8/5	1/7	22/28	7/18	22/28	30/42	23/32	18/24	21/48	19/24	5/5	34/38	36/68	28/40	100/88	38/32	71/51	1/16	4/8	1054			
オキシジミ	干潟	8/9	10/3	20/13	/	16/35	13/11	5/3	/	1/4	1/	/	/	2/1	1/7	7/3	6/4	/	/	/	171			
ウナギノマヤガイ	干潟	/	/	/	/	1/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	1			
ヤマトシジミ	汽水域・砂泥底	3/5	4/7	2/	/	1/	1/	1/	1/	1/	1/	1/	1/	1/	1/	1/	1/	1/	1/	1/	29			
イシガイ	河川・池沼	/	2/2	/	/	/	/	/	/	/	/	1/	1/	1/	1/	1/	1/	1/	1/	1/	8			
ウニ類 殻数		1	1					1													4			
計		1102	831	912	125	820	412	190	74	217	380	24	226	183	236	904	329	38	40	35	7091			

表15a 貝類出土状況 (NISF)

種名	時間 層位 地点	6cまで以前																						計
		3層		Loc.3		Loc.4																		
		38	41	56	77	288	97	116	124	125	160	172	190	207	210	231	240	268	283	223	4層			
1/L	R	1/L	R	1/L	R	1/L	R	1/L	R	1/L	R	1/L	R	1/L	R	1/L	R	1/L	R	1/L				
飯尾(各日)																								
タボガイ	湖沼層・砂底	5.0	2.7	2.2		1.0	0.6														11.6			
コシダカカンザウ	湖沼層・砂底	0.5	1.3							1.8											3.7			
ヒレガイ	湖沼層・砂底	0.8																			0.8			
レイシ	湖沼層・砂底	40.7	28.9	0.4		2.5	2.7			1.5				1.4	2.1		2.9				83.1			
イモニシ	湖沼層・砂底	2.9	2.3	1.1		0.6							0.9								7.8			
レイシガイ属	湖沼層・砂底	3.4	3.1	3.1		12.6	1.4	1.0		0.3		11.3					54.2	3.5			90.7			
スガイ	湖沼層・砂底	126.2	182.8	31.6	29	15.5	14.7	1.6		4.8	8.1		1.2	1.8	3.3	0.8	46.8	3.8	0.5		446.3			
スガイ蓋	湖沼層・砂底	76.4	30.5	25.0	5.7	23.2	13.4	5.6	2.5	6.0	12.5	1.1	13.9	5.9	5.7		56.2	13.5	1.5	2.6	301.2			
オオノヒガイ	湖沼層・砂底				0.6													5.3			0.6			
カサガイ目	湖沼層・砂底																	0.1			5.3			
ツメタガイ	湖沼層・砂底														15.9						15.9			
フトハナタリ	干潟			2.0		2.1	1.2											0.5			4.9			
ウミニナ	干潟	57.9	85.0	95.5	1.6	81.0	20.9	4.4	1.1	6.1	15.5		4.1	1.5	3.0		25.7	10.4	0.8		515.0			
イボウミニナ	干潟	0.6		0.8	0.7	1.2															3.2			
ホソウミニナ	干潟					0.1															0.1			
アカシ	干潟	398.5	149.6	161.7	40.9	131.8	389.9	124.9	67.3	158.0	210.1	17.9	187.1	175.9	153.4	31.1	271.9	311.4	124.4		3319.5			
カワナ	河川・池沼	0.0	3.3	1.6	7.3	2.8	1.5	0.3	0.7	2.3			0.9	0.2	0.7	0.5	2.7	2.8			27.6			
タニシ科	河川・池沼	1.1	0.4		0.6	0.6										0.1	0.1				2.3			
不明骨口		4.7	0.3		0.1	0.3				2.4	0.4	0.3			0.4	0.3		6.5	0.5		25.1			
税目録																								
イガイ	湖沼層・砂底	47.9	39.7	32.4	7.0	22.0	10.9	49.0	14.0	45.0	24.2	5.2	31.2	20.6	8.2	8.5	25.0	8.0	21.4	15.7	435.9			
シオホキ	湖沼層・砂底	18.1																0.9			18.1			
オニアサリ	湖沼層・砂底	111.1	90.0	44.0	27.4	31.6	16.5	9.4	1.3	10.5	50.0		8.5	6.1	28.6	3.1	44.3	36.2			521.9			
ハマリ	湖沼層・砂底・干葉	83.0	68.1	66.5	1.8	125.8	78.8	10.6		0.5	41.4		10.8	6.9	13.7	1.6	38.6	19.4			567.5			
アサリ	湖沼層・砂底・干葉	108.3	100.9	33.5	4.8	10.5	1.9	4.3	5.0	18.9	58.7		3.7	5.2	27.0	1.8	11.6	12.4	2.0		432.6			
マルスダレガイ目	湖沼層・砂底・干葉	95.5	107.4	571.1	481.1	448.7	843.7	969.2	2306.6	6120.9	569.4	38.5	702.1	1009.4	601.5	98.7	1462.8	960.1	157.5	154.1	9969.9			
カキ	干潟	14.7	20.5	90.2		45.5	33.0	4.8		1.9	0.4			3.2	1.8		10.5	8.1			194.4			
オキシジミ	干潟					0.8															0.8			
ウナギノマヤガイ	干潟					0.8															0.8			
ヤマトシジミ	汽水域・砂泥底	9.8	7.0	0.8		2.2				0.9	0.8		0.8	1.3			0.7	0.2			25.0			
イシガイ	河川・池沼	5.2	5.8	10.6	6.2					0.6	0.6						5.5	2.3			31.3			
不明骨口		499.5	425.5	420.5	99.5	205.3	478.7	356.0	109.0	175.8	330.3	49.4	481.5	278.9	286.3	123.1	472.3	478.9	59.0	90.6	5339.9			
ウニ類 殻数		0.1								0.1								0.2	0.0			0.3		
計		5972	3819	1371	635.6	1130	191.3	154.3	43.1	1045.6	180.8	13.6	140.8	113.8	113.3	136.1	344.3	307.8	369.5	397.8	2426			

表15b 貝類出土状況 (重量g)





図版246 SD100・20508河川跡出土動物遺存体2—魚類・ウニ・カニ・両生類・爬虫類

てはすべてを分析しており NISP は実数値であるが、1 mm 試料はその一部を対象としているため、1 mm すべてを分析した場合の NISP を検出数と分析率から復元した。復元 NISP は全体で 251.2、1 サンプルあたりでは 1.5~25.2 である。各サンプルの土壌体積は計測していないが、おおよそ 7~10 リットルと推定され、密度は 0.2~3.6/1000cc と見積もられる。

板鯉亜綱

サメ・エイ類が該当する。すべてフルイ試料から検出した。科が同定できたのはアカエイ科で、4 mm 試料から鰐鱗を 1 点検出した。ほかに、4 mm 試料から椎骨 96 点、2 mm 試料から椎骨 4 点、1 mm 試料から歯 1 点を検出した。歯は歯根幅が 3 mm と微小で、形態的にはアオザメ属に類似する。遊離歯以外の頭部骨は検出されなかった。椎骨は種による差異が少なく種の同定は困難である。形態から A~D 類の 4 つに分類した。

A タイプ：アカエイなどに類似するもので比較的小型である。ほとんどがこのタイプで 92 点を検出した。椎体径は 3~8 mm で 5 mm と 7 mm にピークがあり 5 mm が多い。

B タイプ：A タイプに似るが椎体の中心に前後に貫通する大きめの穴が空く。2 点同定し、椎体径は 7 mm と 9 mm である。

C タイプ：椎体側面の棘が接続する窪みの長軸上に仕切りを持つものである。1 点同定し椎体径は 5 mm である。

板鯉亜綱															クロダイ											
サンプルNo.	3層			3層			Loc4			Loc5			計	復元 NISP	MNI	サンプルNo.	3層			4層			計	復元 NISP	MNI	
	Loc1	Loc3	Loc4					Loc1	Loc3	Loc4																
メッシュ	41	77	288	97	116	124	125	160	231	240	268	283				38	41	172	190	223						
部位	2mm	4mm	4mm	2mm	4mm			1mm	1mm	1mm	4mm	1mm														
歯														1	2											
鰐鱗														1	17	1										
椎骨														1	1											
椎骨														1	1											
椎骨														1	1											
椎骨														1	1											
計	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	24	25.8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

スズキ															ハゼ科											
サンプルNo.	3層			Loc3			Loc4			Loc5			計	復元 NISP	MNI	サンプルNo.	3層			4層			計	復元 NISP	MNI	
	Loc1	Loc3	Loc4					Loc1	Loc3	Loc4																
メッシュ	41	56	77	116	124	125	160	190	207	210	231	268	283			116	207	283								
部位	2mm	4mm	4mm	2mm	4mm			2mm	1mm	2mm	2mm	2mm														
椎骨														1	1	1	1	2	3.0	1						
椎骨														1	1	1	1	3	4.0	1						
計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	22	22	4	4	4	4	4	1					

サケ科															アユ										ドジョウ										
サンプルNo.	3層			Loc4			Loc5			計	復元 NISP	MNI	サンプルNo.	3層			Loc4			Loc5			計	復元 NISP	MNI	サンプルNo.	3層			4層			計	復元 NISP	MNI
	Loc1	Loc3	Loc4	Loc1	Loc3	Loc4	Loc1	Loc3	Loc4					Loc1	Loc3	Loc4	Loc1	Loc3	Loc4	Loc1	Loc3	Loc4					Loc1	Loc3	Loc4	Loc1	Loc3	Loc4			
メッシュ	97	125	190	268								77	97	124	160	172									268	160		283	223						
部位	2mm	4mm	4mm	2mm	4mm	2mm	4mm	2mm	4mm	2mm	4mm	2mm	4mm	2mm	4mm	2mm	4mm	2mm	4mm	2mm	4mm	2mm	4mm		1mm	1mm	2mm	2mm	2mm	2mm					
椎骨																																			
椎骨																																			
椎骨																																			
椎骨																																			
椎骨																																			
計	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			

表17a 詳細分析サンプルにおける各魚種出土状況 (1)



Dタイプ：大型で、棘が接続する窪みが細長い長方形を呈する。4点同定し、椎体径は9mmが2、12mmが1、15mmが1である。

#### タイ科

2種を同定した。椎骨は種間でよく似ているためタイ科種不明として一括した。4mm試料から大型の尾椎を2点同定した。タイ科全体で椎骨は3点のみで少ない。

マダイ：目視・4mm試料から主上顎骨・前上顎骨・角骨を同定した。1・2mm試料中からは検出されなかった。NISPは5である。いずれも体長45～55cm程と推定される大型の成魚のものである。

クロダイ：目視・4mm試料から歯骨・方骨・角舌骨・第一椎骨を計6点、1mm試料から脱落歯を4点同定した。復元NISPは6.0である。いずれも大型で体長40～50cmの成魚である。

#### スズキ

目視・4mm試料から鋤骨・基後頭骨・主上顎骨・前上顎骨・歯骨・角骨・方骨・角舌骨・上舌骨・主鰓蓋骨・前鰓蓋骨・肩甲骨・腹椎・尾椎を同定した。1・2mm試料中からは検出されなかった。NISPは95である。海産魚類の主体をなす。歯骨高を計測できたのは10点で3～9mmのものがある。3mmは1点、他は6mm以上で7mmに集中する。3mmは1歳魚、7mmは推定体長35～40cmの大型の成魚である。接岸して比較的浅い海域で生活する（落合・田中1986）春～夏に捕獲されたと考えられる。

#### ボラ

1・2mm試料中から腹椎・尾椎を計3点同定した。復元NISPは3.95である。

#### ハゼ科

1・2mm試料中から腹椎・尾椎を計5点同定した。復元NISPは5.3である。ハゼ科のなかでヨシノボリ属・チチブ属は腹椎に特徴があり区別できる。これらの特徴をもつものを「ヨシノボリ/チチブ型」、ほかを「マハゼ型」として分類した。それぞれ2点ずつで半々である。

#### サケ科

4mm試料中から椎骨を4点、1・2mm試料中から椎骨片・脱落歯を計5点同定した。復元NISPは12.0である。

#### アユ

1～4mm試料中から第1椎骨・腹椎・尾椎を同定した。ほとんどが1・2mm試料中から検出され、特にLoc. 4のサンプルの一つから集中して検出された。復元NISPは25.1である。椎体幅は2～4mmで3mm前後のものが多く、これらは体長20cm前後のものとして推定される。県内では4～6月に6～8cmサイズの稚魚が河川に遡上し、8月には20～25cmに成長することから（宮城県内水面水産試験場2004）、7～8月頃に多く捕獲されたと考えられる。

#### コイ科

1種・4属・1亜科を同定した。第一・第二椎骨を除くコイ科の椎骨は種間で非常によく似ていることからコイ科種不明として一括した。復元NISPは椎骨も含めコイ科全体で88.4である。

フナ属：1～4mm試料中から主上顎骨・歯骨・角舌骨・舌顎骨・主鰓蓋骨・前鰓蓋骨・背/臀鰭

棘・第1椎骨を同定した。復元NISPは17.8でコイ科のなかで最も多い。主鰓蓋骨関節高長は1~2mmに取りまり、富岡(1995)に従うと推定体長は8~15cmである。コイ科の腹椎の多くがフナ属のものとして仮定して体長を推定してみると、腹椎幅は1~7mmで、2~2.5mmのものが多く、2~2.5mmのものは体長9~12cmと推測される。0歳魚と見られる1.5mm未満のものは2点のみで、多くが1歳魚以上の成魚である。フナ属は4~6月に産卵、1年で体長8~10cm、2年で体長14~15cmに成長することから(宮地ほか1976)、春~夏にかけて捕獲されたものが多いと考えられる。

ウグイ属: 4mm試料中から主上顎骨・咽頭骨を合わせて3点同定した。咽頭骨には推定長20~25mmのものがある。

アブラハヤ属: 1~4mm試料中から主上顎骨・咽頭骨を合わせて4点同定した。

ウグイ亜科: 2mm試料中から主鰓蓋骨1点を同定した。

タナゴ属: 2mm試料中から咽頭骨1点を同定した。

ニゴイ: 4mm試料中から尾舌骨1点を同定した。大型の個体のものである。

#### ギバチ

1~4mm試料中から上後頭骨・歯骨・角骨・方骨・舌顎骨・主鰓蓋骨・擬鎖骨・烏口骨・胸鰭棘・第2背鰭棘・腹椎を同定した。復元NISPは35.7である。胸鰭棘は頭丈で詳細分析サンプル中18/27と突出して多い。胸鰭棘長は13~20mmのものが認められ、体長110~180mmと推定される(富岡1995)。MNIでは全体の35%を占め最も多い。胸鰭棘の残存しやすさが影響していると思われる。ギバチの産卵期は6~8月で、1年で体長10~15cm、2年で20~30cmに達することから(宮城県内水面水産試験場2004)、夏~秋に主に捕獲されていたと推定される。

#### ドジョウ

1・2mm試料中から腹椎・尾椎を同定した。復元NISPは9.6である。微少であり1mmメッシュで回収しきれていないと思われる。

#### d. 爬虫類・両生類(図版246)

ウミガメ科を1点同定した(表18)。腹甲板のうちの胸甲板ないし腹甲板と考えられる。アカウミガメ、アオウミガメ、タイマイの可能性(註2)。他に、ヘビ亜目の椎骨5点、カエル亜目の各部位15点を同定した。

#### e. 鳥類(図版247)

鳥類は8分類群同定した。NISPは51である。カモ亜科とキジ科でほとんどを占める(表19)。

#### カモ亜科

下顎骨・肩甲骨・鎖骨・烏口骨・上腕骨・橈骨・手根中手骨・足根中足骨を同定した。カモ類は種類が多く種の同定は行っていない。カルガモ~コガモ程度の個体が出土した。大きさを分類し、カルガモ程度のものを大型、オシドリ程度のものを中型、コガモ程度のものを小型とした。NISPは19、MNIは5である。

#### キジ科

烏口骨・上腕骨・尺骨・手根中手骨・大腿骨・足根中足骨を同定した。キジとヤマドリの可能性

種	部位	6C 東-7C 前半	
		部分	MNE L/R
ウミガメ科	頸骨板/腹骨板	破片 (A 116 写真掲載)	1 / 1
ヘビ亜目	椎骨	全体	5 / 5
カエル亜目	上腕骨	L 遠位端~中位: 1 R 遠位端~中位: 2	3 / 2
	椎骨	全体	8 / 8
	尺骨	L 全体 (一部欠)	1 / 1
	前肢骨	骨幹 (L / R 不明) ネズミ咬痕あり	1 / 1
	腹骨	R 全体: 2	2 / 2
	カニ	前脚	
ウニ	殻板破片		5 / 5
	計		31

表18 爬虫類・両生類・ウニ・カニ出土状況

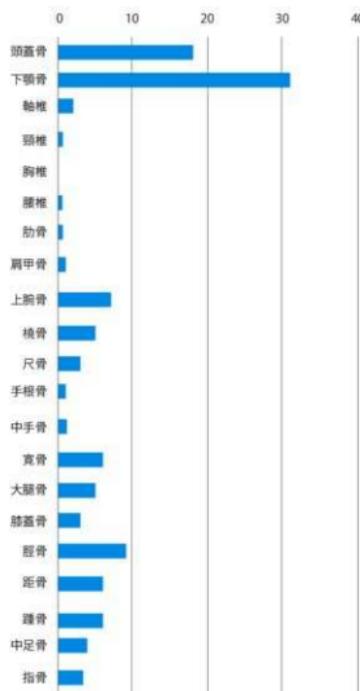


表20 ニホンジカ各部位におけるMNI

種	部位	時期6世紀末~7世紀前半				MNE
		L	R	地点	NISP	
カモ亜科:大型	肩甲骨	1 / 1	1	①②	6	1
	鳥口骨	/ /	1	(R 近位1④ + 遠位1④)		
	上腕骨	1 / /		⑤		
カモ亜科:中型	手船中手骨	/ /	1	⑥	5	2
	下腕骨		1	④		
	前骨		2	⑥		
	鳥口骨	/ /	1	④		
カモ亜科:小型	足船中足骨	/ /	1	④		
	肩甲骨	1 / /		⑤	8	2
	鳥口骨	2 / /	1	③③④		
	橈骨	1 / /		④		
キジ科:♂	手船中手骨	2 / /	1	②④⑤		
	鳥口骨	1 / /		⑤	8	2
	上腕骨	1 / /	1	④⑤		
キジ科:♀	尺骨	1 / /		⑤		
	手船中手骨	2 / /		③④		
	大腸骨	1 / /		⑤		
	足船中足骨	1 / /		④		
キジ科:♀	鳥口骨	1 / /	1	④	4	1
	大腸骨	/ /	1	⑤		
	足船中足骨	1 / /		④		
サギ科	肩甲骨	1 / /		⑤	1	1
シロエリオオハム	足船中足骨	/ /	1	⑤	1	1
ミズナギドリ科?	手船中手骨	1 / /		⑥	1	1
不明	橈骨	/ /	1	④	17	-
	前骨	1 / /	2	③③④		
	足船中足骨	/ /	1	④		
	指骨	11		① 0, ② 2		
	椎骨	1		④		
計			50		51	11

表19 鳥類出土状況

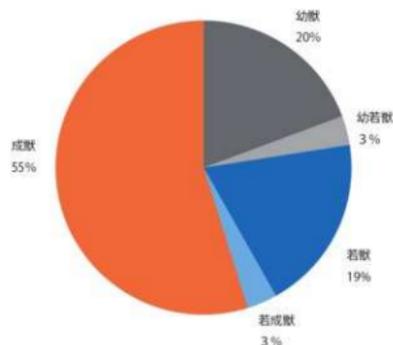
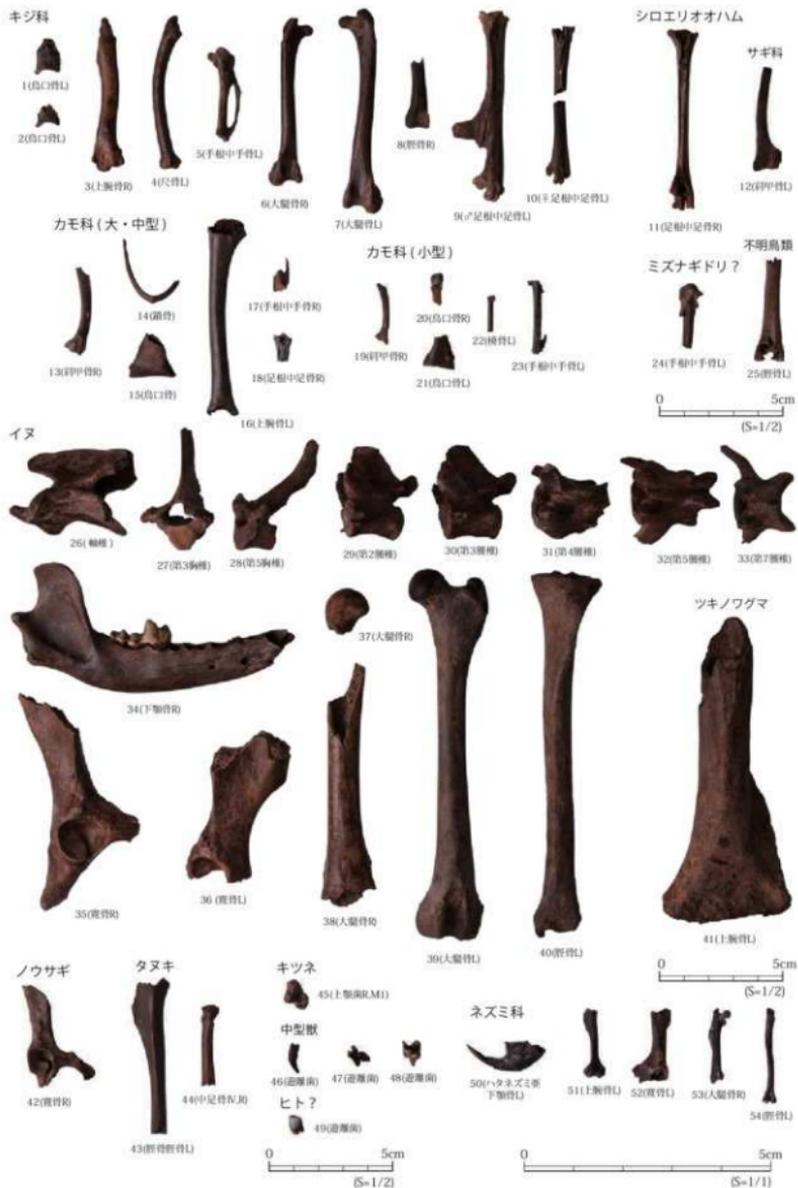


表21 ニホンジカ齢構成



図版247 SD100・20508河川跡出土動物遺存体3—鳥類・中小型哺乳類

があるが、周辺環境からキジと考えられる。大型と小型があり、それぞれオス・メスと考えられる。NISPは12、MNIは3である。

#### サギ科

ゴイサギ程度の肩甲骨が1点出土した。

#### シロエリオオハム

足根中足骨が1点出土した。

#### ミズナグドリ科?

ミズナグドリ科とみられる手根中手骨が1点出土した。ウミネコより若干小型である。

#### 不明

未分類の試料に橈骨・脛骨・足根中足骨・指骨・椎骨がある。合わせて17点出土した。脛骨にはキジのメスとよく似るが若干異なるもの、シロエリオオハムの可能性があるもの、ハヤブサに似るものがある。

#### f. 哺乳類

11種を同定した。種不明のものは大きさを分類し、シカ・イノシシクラスを大型獣、タヌキ・ウサギクラスを中型獣、ネズミクラスを小型獣とした。

#### シカ (図版248・249)

NISPは301。哺乳類で最も多い。MNIは下顎骨で算定され31である(表22)。

〔部位の残存状況〕各部位が何個体分出しているかを示した(表20・22c)。頭部骨とくに下顎骨が圧倒的に多い。下顎骨は成長度を考慮して部位数を算出しているため、他の部位より多く算出される傾向にあるが、遊離歯を除いたNISPは44で次に多い脛骨の15と比べてもかなりの差があることから、実際に多いと言える。体部骨で多いのは上腕骨・橈骨・寛骨・大腿骨・脛骨・距骨・踵骨である。一方、椎骨・肋骨・肩甲骨・手根骨・中手骨は少ない。

〔解体加工痕〕角：主幹の切断が見られる。素材を切り取ったと見られる(表23)。頭蓋骨：頭頂部を打ち割り前後に2分割したものが2点あり、脳髓を取り出したと考えられる(図版248上)。過去の調査においても、頭蓋骨に陥没痕跡のある資料や意図的に割られた資料が見つかっており(宮城県教育委員会2001a・b)、これに類するものである。下顎骨：打割率は69%と高い。ほとんどが顎体部を打割しており、その周辺に切創がみられる場合が比較的多い。打割箇所は後臼歯周辺に集中しており、画一的な方法が取られている。その後に加工された様子はなく、骨髄の取り出しが目的とみられる。連合部(顎先)を左右に切り離したとみられるものが1点みられた。胸椎・肋骨：胸椎には棘突起に打割や深い切り込みが見られた。肋骨には骨幹近位外側に打割・切創が見られ、肋骨の取り外しに関わると考えられる。寛骨：打割率が67%と高く、寛骨白奇りに切創が認められるものが1点認められる。下肢を外す行為に関わると推定され、その際、寛骨を打ち割りその一部ごと取り外すことが多かった可能性がある。上腕骨・橈骨・大腿骨・脛骨：打割率が67～89%と非常に高い。ほとんどが骨幹部を打割しており、骨髄を取り出したと考えられる。中手/中足骨：打割・切断加工の率が50～100%と非常に高い。擦り切り・打割により骨端部の除去、縦方向での分割が行われており、骨髄の素材整

時期	Loc	No.	部位	左右	歯	成長	組み合わせ	個体数	
DC 末 - 7C 前半	Loc.2	269	前歯骨	L	×	成		1	
		805	齧歯面	L	M2/3	1.5y 迄		1	
		914	齧歯面	L	P4	未萌出 (2歳未満)		1	
		244	切歯骨	R	×	成		2	
		925	切歯骨	R	×	成		1	
		963	齧歯面	R	M1	咬耗中程度 (前葉薄削)		1	
		227	角	?	×	成		2	
		228	角	?	×	?		1	
		Loc.3	1022	前歯骨	L	×	成		1
			1055	上顎骨	L	(m3)・M1・M2・(M3 前出開始)	2y 前後		1
	1012		齧歯面	L	M1/2/3	未萌出 (1.5歳以下)		2	
	1748		齧歯面	L	m2	0.5 ~ 2y		1	
	1009		前歯	R	×	若~成		1	
	1060		齧歯面	R	M2	萌出途中? (咬耗なし)		2	
	Loc.4		276	切歯骨	L	×	成		3
			1564	切歯骨	L	×	成		4
			279	切歯骨	L	×	若		1
			272	切歯骨	L	×	若		2
		395	前歯	L	×	成		1	
455		前歯骨	L	無	成		1		
396		上顎骨	L	m1・m2・m3・(M1)	0.5 ~ 2y		1		
452		上顎骨	L	P4・M1・M2・(M3)	2.5y 迄		3		
1302		齧歯面	L	m3?	2y 迄 (咬耗進行 2y 前後?)		2		
1561		上顎骨	L	M1・(M2)	咬耗開始		2		
1279		前歯	R	×	若~成		2		
1771		後歯骨	R	無	成		3		
277		上顎骨	R	m2・m3・(M1)	0.5 ~ 2y		1		
1435		齧歯面	R	M1	咬耗進行		3		
1410		後歯骨	M		成		3		
1217		成層形骨	M	×	未癒合 (幼?)		1		
1429		角	?	×	?		1		
1463		角 (落角)	?	×	成		5		
Loc.5		1713	後歯骨	L	無	成		2	
	1678	齧歯面	L	m2	2y 迄 (咬耗進行 2y 前後?)		1		
	1703	齧歯面	L	M3	未萌出		1		
	580	前歯骨・上顎骨	R	C (後?)	成 (1.5y 迄)		1		
	544	前歯骨	R	×	成		1		
	509	前歯骨	R	×	成		2		
	494	上顎骨	R	(P3 前部一部残存)・P4・M1・M2・M3	2.5 迄 (M3 咬耗初期 + 3歳前後?)		2		
	509	齧歯面	R	P4	咬耗中程度		3		
	480	齧歯面	R	M1	咬耗初期 (前葉独立)		1		
	Loc.6	689	後歯骨・前歯骨	L・R	×	成		1	
Loc.7	551	角座骨	R	×	若		1		
	747	角	R	×	若成		1		
Loc.8 その他	84	後歯骨・前歯骨	L・R	×	成		1		
	91	角 (落角)	L	×	成		2		
	16	前歯	L	×	成		1		
	100	後歯骨	無	×	成		1		
	54	角	?	×	成		1		
	107	角	?	×	?		1		
33	角	?	×	成		1			

表22a ニホンジカ頭蓋骨出土状況

形が行われている。

【咬痕】 イヌやネズミによる咬痕が多く、部位で認められた。上腕骨遠位、橈骨遠位、大腿骨遠位、踵骨近位、中足骨近位ではイヌによる咬痕が認められる場合が多い。

【焼け】 頭蓋骨後頭頤、膝蓋骨、距骨、基節骨、中節骨で認められる。これらはいずれも塊状、小型の部位である。

【齢構成】 大泰司 1980、小池・大泰司 1984 に従い齢査定を行なった (表 21・22b)。下顎骨による齢構成では、0.5歳未満のものから 10歳以上ものものまで見られる。1歳未満 (M2 萌出前) を幼獣、2.5歳以上 (M3 咬耗開始) を成獣とし、中間のものを若獣として集計すると、幼獣 6、幼若獣 1、若獣 6、若成獣 1、成獣 17 となり、幼若獣と成獣の比率は、幼若獣 42%、成獣 55% である。0~2歳で全体の半数近くを占め、齢構成としては若齢側にピークをもつ。死亡季節が推定できるものは 4 個体で、No.807 は秋~冬、No.678 は冬~春、No.743 は夏~秋、No.727 は春くらいと推定される。狩猟

季節は周年に及ぶと考えられる。

#### イノシシ (図版250)

44点同定した(表25)。MNIは下顎骨で算定され11である。下顎骨16点のうち遊離歯を除く9点が顎体であり、これだけでも体部骨のいずれよりも3倍ほど多く明らかに多い。一方頭蓋骨は少ない。椎骨・肋骨・寛骨・肩甲骨は検出されなかった。下顎骨から推定される年齢構成は幼若獣と成獣が半々である。下顎骨及び四肢骨の多くに打割痕や切創がみられた(表26)。下顎骨の45%に打割痕が認められ、箇所は後臼歯付近である。四肢骨のうち、太く長い上腕骨・橈骨・大腿骨・脛骨ではすべてで骨幹部に打割痕がみられた。イヌによる咬痕が、一部の下顎骨の顎体下部および、すべての尺骨・大腿骨・脛骨の骨端部に認められた。

#### ウマ (図版249)

11点同定した(表27・29)。MNIは2である。多くは遊離歯で体部骨は少ない。出土状況は散発的であるが、L区の河川跡確認面からは、左右の上顎前後臼歯がまとまって出土した。他にウマの大腿骨と見られる骨幹部が1点出土している。

#### イヌ (図版247)

頭蓋骨(上顎歯)・下顎骨・軸椎・胸椎・腰椎・肋骨・胸骨・寛骨・大腿骨・脛骨を計19点同定した(表24)。個体数は軸椎から算定され2である。どの部位にも確実に人為的ダメージと認定できるものは認められなかった。

Loc. 6では、第2・3・4・5腰椎・寛骨LR・大腿骨が重複なく出土している。大きさも似ており同一個体の腰部～脚部のまとまりの可能性がある。また、Loc. 3から出土した大腿骨と脛骨の全長から推定される体高(山内1957)はともに44cm前後と推定される。これらも同一個体の可能性がある。これらは解体されないまま個体ごとにまとまって遺棄された可能性がある。

#### ツキノワグマ (図版247)

左上腕骨1点を同定した(表24)。遠位側癒合面はほとんど剥落しているが、残存状況から骨端部未癒合の未成獣と考えられる。骨幹近位側が後位側から打割されている。

#### その他の哺乳類 (図版247・249)

ウシ・キツネ・タヌキ・ウサギ・ネズミ科・ハタネズミ亜科が少量ずつ出土した(表24・28)。これらにはいずれも人為的なダメージは認められなかった。また、ヒトの上顎乳切歯とみられる遊離歯が1点検出された。

時期	Loc	No.	部位	左右	産 *	産表	骨出産状況 (Legge and Rowley - Conroy 1988)						産産率			出産率 L/B					
							m1/P2	m2/P3	m3/P4	M1	M2	M3	M1	M2	M3	M1	M2	M3			
6C 末 - 7C 前半	Loc.2	241	産産面	L	M2	産					W/J					1	5		×		
		888	産産面	L	(I1)J2(I3C) P2/P3/P4/M1	産	FL	FL	HW	FL/HW										+	
		250	産産面	L	M3	産															
		907	産産面	R	(I1)J2(I3C) m1.m2.m3/M1/M2	産	J	J	W/J/J	J/U	C							7			-/+
	Loc.3	692	産産突起・ 産突起	R		産															
		963	産産面	L	I1	産															
		1063	産産面	R	I1	産															
		968	産産面	R	I2	産															
		Loc.4	280	産産面	L	I3?	産-若														
			1153	産産面	L	m1	産	FL													
	1555		産産面	L	m3	産															
	282		産産面	L	(M3 未測定～途中)	産?															
	1340		産産面	L	I1	産															
	281		産産面	L	I2	産															
	1362		産産面	L	m1	産	W														
	275		産産面	L	(I1)J2 I3 未 C 未 (P2)	産	S/O														
	1119		産産面	L	I1	産															
	354		産産面	L	(I1)J2(I3C) P2/P3/P4/M1	産	W	W	W												
	551		産産面	L	M2	産															
	307		産産面	L	(M2) M3	産															
	356		産産面	L	P2/P3/P4/M1/M2 (M3)	産	W	W	W												
	394		下顎内	L		産?															
	1615		産産面	R	I1	産-若															
	278		産産突起	R		産															
	353		産産面	R	m1.m2 (m3)	産	J	W	S/O												
	1263		産産面	R	m1?	産	FL														
	1507		産産面	R	(m1) m2.m3	産	SO	PW	PW/PW/W	S/O											
	1339		産産面	R	I1	産															
	1468		産産面	R	I3	産															
	1489		産産面	R	P4	産															
	1162		産産面	R	I3	産															
	1113	産産面	R	P4	産																
	352	産産突起	R		産																
	Loc.5	1679	産産面	L	m1.m2	産	FL	fk													
		504	産産面	L	P4	産															
		508	産産面	L	M1	産															
		617	産産面	L	P3/P4/M1/M2/M3	産		fk	HW	HW/HW	PW/PW	PW/PW/PW	2	2	3						
		1692	産産面	R	P2	産	J?														
		506	産産面	R	P2/P3	産	HW	HW													
		510	産産面	R	(I1)J2(I3C) P2/P3/P4/M1/M2/M3	産	HW	HW	HW	HW/HW	PW/PW	PW/J/J	2	3	4						
		488	産産面	R	(M1) M2/M3	産															
		493	下顎部産産面 産片	?		産															
		Loc.6	688	産産面	L	(M3 未測定)	産														
	633		産産面	R	(P2) P3/P4/M1/M2	産	S/O	fk	fk	fk	fk										
	678	産産面	R	M1/M2/M3	産																
	Loc.7	549	産産面	L	(I1)J2(I3C) P2) P3 (P4)	産	SO	PW	S/O												
		782	産産面	L	(M2) M3	産															
770		産産面	L	(P4) M1/M2	産																
552		産産面	L		産																
783		下顎内～ 産突起	L		産																
771		産突起	L		産																
743		産産面	R	(m2) m3/M1	産																
727		産産面	R	(I1)J2(I3C) m1.m2.m3/M1/M2	産	W	PW	PW/PW/W	J/J	E											
726		産産面	R	M3	産																
745		産産面	R	(P4) M1/M2 (M3)	産																
Loc.8	350	産産面	R		産																
	144	産産面	L	(P2/P3)	産	fk	S/O														
	146	産産面	L	M2/M3	産																
	61	産産面	L	(P2) P3/P4/M1/M2 (M3)	産	SO	W	W	PW/PW	PW/W	S/O	2	3								
	62	産産面	L	(P2) P3/P4/M1/M2	産	fk	HW	HW	fk/fk	PW/fk											
	59	産産突起・ 産突起	L		産																
	89	産産面	R	m1.m2.m3 (M1)	産	J	J	J/J/J	S/O												
	60	M1 後方～ 産突起	R	(M1) M2	産 (B 生尻方)																
	145	産産面	R	(I1)J2(I3C) m1.m2 (m3)	産	W	PW	S/O													
	58	産産面	R	M2	産																
110	産突起	R		産?																	
143	下顎部産産面 産片	?		産																	
産産面	90	産産面	L	M2	産																

\* 括弧は産が抜け産産が空になっていることを示す

表22b ニホンジカ下顎骨出土状況

歯冠高 (mm)			咬合歯長 (mm)			a (mm)	PL (mm)	年輪段階	年輪	歯肉むせ	個体数
M1	M2	M3	M1	M2	M3						
	20.2			20.7				1y ≦	2.5 ~ 3.5y	b	a 幼 0 ~ 0.5y × 1
6.1			15.4			22.5	35.3	2.5y ≦	10.5y ≦	c	b 成 2.5 ~ 3.5y × 1
		6.6		24.5				2.5y ≦	12.5y ≦	e	c 成 10.5y ≦ × 1
x		17.0				17.0	42.6	0.5y	0 ~ 0.5y	a	
								1.5y		a	
								(0.5y)	(807 程度)	a	a 幼 0.5y × 1
										a	b 若 1.5y 前後 × 1
								1.5y ≦		b	
								1.5y ≦		b	
								1.5y 前後		b	
								0 ~ 0.5y		a	a 幼 0.5y × 1
								2.5y		b	b 若 1y × 1
								2y ≧		c	c 若 1.5y × 1
								1.5 ~ 2.5y?	1.5 ~ 2.5y?	b	d 成 2.5y × 1
								1.5y ≦		c	e 成 2.5y ≦ 1
								1.5y 前後		c	f 成 3.5 ~ 4.5y × 2
								2.5y		c	
								1.5 ~ 2.0y		c	
								1.5y ≦		d	d ~ g
11.6			16.8			25.0	38.9	2.5y ≦	3.0 ~ 3.5y	f	
	18.8		21.0					1y ≦	4.5y	f	
	x		23.5					2.5y ≦	3.5y	f	
11.7	x		16.6	20.1		19.0	37.8	2.5y ≦	3.5 ~ 4.5y	g	
								0 ~ 0.5y		a	
								(0.5y)	(807 程度)	a	
						16.7	x	2.5y	0.5y?	a	
								2.5y		b	
						x	44.5	2.5y	1y?	b	
								1.5y ≦		c	
								1.5 ~ 2.0y		c	
								2.5y 前後		d	
								2y ≧		e	
								2.5y ≦		e	
								2.5y		a	a 幼若 2.5y × 1
								2.5y ≦		a	b 若成 2.5y 前後 × 1
x			15.4					0.5y ≦	6.5 ~ 8.5y	c	c 成 6.5 ~ 8.5y × 1
5.4	9.6	x	14.6	17.7	23.5	x	x	2.5y ≦	10.5y	e	d 成 9.5y × 1 (咬耗 程が経過しており e に含めることも可)
								2.5y 前後		b	
								2.5y ≦		e	e 成 10.5y × 1
6.4	10.9	13.9	15.0	17.5	23.6	23.1	35.3	2.5y ≦	7.5 ~ 8.5y	c	
	8.1	11.4		19.2	24.4			2.5y ≦	9.5y	d	
								1.5y?	1.5y?	a	a 若 1.5y × 1
x	x		x	x				2.5y ≦	2.5y ≦	b	b 成 2.5y ≦ × 1
14.9	21.6	23.2	18.0	20.3	22.5			1.5 ~ 2.0y	1.5 ~ 2.0y	a	
					22.7	19.1	x	2.5y ≦	2.5y	e/e	a 幼 0 ~ 0.5y × 1
		x						2.5y ≦	2.5y	c	b 幼 0.5 ~ 1y × 1
9.3	x		15.3	x				2.5y ≦	3.5 ~ 4.5y	d	c 成 2.5y × 1
										d	d 成 3.5 ~ 4.5y × 1
										e	e 成 6.5y × 1
										c	
										d	
x			18.5					0.5y	0 ~ 0.5y	a	
x			18.0			16.0	40.4	0.5 ~ 1y	0.5 ~ 1y	b	
								2.5y ≦		d	
6.4	x		15.5	17.6				2.5y ≦	6.5y	e	
										e	
								2.5y ≦		d	a 幼 0 ~ 0.5y × 1
	x	x	x	23.1				2.5y ≦	2.5 ~ 3.5y	d	b 若 1y × 1
8.9	15.6		15.3	19.5		21.1	37.2	2.5y ≦	4.5y	e	c 若 1.5 ~ 2.5y × 1
x	x		x			21.4	36.6	2.5y ≦	8.5y ≦	f	d 成 2.5 ~ 3.5y × 1
										e	e 成 4.5y × 1
										f	f 成 8.5y ≦ × 1
								2y ≧	0 ~ 0.5y	a	
								0 ~ 0.5y	0 ~ 0.5y	a	
						19.0	x	2.5y	1y?	b	
								1y ≦	1.5 ~ 2.5y	c	
x								1y ≦	7.5y		成 7.5y × 1

ニホンシカの歯肉の萌出・摩耗のコード (内山2007より転載)

ニホンシカの歯肉の萌出・摩耗のコード (※各咬合ごとに記録する。)

- 萌出段階
- C- 永久歯 (小臼歯) の歯肉縁が乳歯の直下に見える。
- V- 歯肉縁内に歯が見える。
- E- 萌出が始まる。
- H- 萌出が半分ほど進行。
- I- 萌出は完了したものの、まだ発現していない。
- 咬耗段階
- J- 咬耗の初期。咬痕にある2つの歯冠はエナメル質の摩耗でもつながつていない。
- W- 咬耗が進行し、咬痕にある2つの歯冠は一方 (通常前方) が摩耗によりつながっている。
- PW- 咬耗がかなり進行し、摩耗のため露出した象牙質により歯冠が埋まっている。
- FW- 咬耗が非常に進行し、歯冠が小さくなっている。歯冠の舌側と頬側の歯冠はいつかの期の象牙質の幅よりも小さくなっている。PL- 発現のため、咬合面が平らになり、歯冠が消滅した状態。
- その他
- SD- 歯冠が空の状態。
- S/D- 歯冠が空で、途中で壊れている状態。
- 融- 破壊された歯が残っている状態。

部位	6C 東-7C 西半											
	Loc2 部分		Loc3 部分		Loc4 部分		Loc5 部分					
	NSP	MNE	NSP	MNE	NSP	MNE	NSP	MNE				
頭蓋骨	頭蓋骨 3, 遊離歯 3, 内 2.	8	若 1, 成 1	頭蓋骨 3, 遊離歯 3	6	幼若 1, 若 1	内 2, 頭蓋骨 14, 遊離歯 2	18	幼若 1, 若 1, 成 3 (5/5 1 個体は流肉)	頭蓋骨 5, 遊離歯 4	9	幼 1, 若 1, 成 2
下顎骨	顎体 3, 遊離歯 2	5	幼 1, 成 2	顎体 1, 遊離歯 3	4	幼 1, 若 1	顎体 10, 遊離歯 15	25	幼×1 若× 2 成×4	顎体 6, 遊離歯 3	9	幼若×1 若成×1 成×3
胸椎	-	-	-	-	-	-	前位 1	1	1	-	-	-
頸椎	-	-	-	-	-	-	第 3/4/5 × 1	1	1	第 5 × 1	1	1
胸椎	-	-	-	-	-	-	第 10	1	1	-	-	-
腰椎	第 2/3 × 1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
肋骨	-	-	-	第 1R, 第 2R	2	-/2	第 2R, 第 4R, 第 5/6/7R, 第 6/7R, 第 9R, 第 10R	6	2/4	第 10R	1	-/1
腕骨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	腕位端 1	1	1
肘骨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上腕骨	R 遠位 2	2	-/2	-	-	-	R 遠位 1	1	-/1	L 遠位 2	2	2/-
橈骨	L 遠位 1R 遠位 1	2	1/1	-	-	-	L 遠位骨端 1	1	1/-	L 骨幹 1	1	1/-
尺骨	L 遠位骨幹 1, L 遠位骨端 1, R 遠位骨幹 1	3	1/1	-	-	-	L 遠位骨端 1	1	1/-	-	-	-
手相骨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中手骨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
腕骨	腕骨 L 腕位白 1	1	1/-	-	-	-	腕骨 R 腕位白 1, 腕骨 L 骨 端 + 骨幹 1	2	1/1	腕骨 R 腕位白 1, 腕骨 L 骨幹 1	2	1/1
人頭骨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	L 遠位 1R 遠位骨幹 1	2	1/1
髌骨	L 1	1	1/-	R 1	1	-/1	L 1	1	1/-	-	-	-
腓骨	-	-	-	-	-	-	R 遠位 1	1	-/1	L 遠位骨端 1L 中遠位 骨幹 1R 中遠位 1	3	1/1
跗骨	R 1	1	-/1	-	-	-	L 1, R 1	2	1/1	L 3, R 1	4	3/1
跖骨	R 遠位 1	1	-/1	L 全体 1	1	1/-	L 1 遠位骨端 1, 遠位骨幹 + 遠位骨端 2, 中遠位骨幹 1	4	3/-	-	-	-
中足骨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	L 中遠位 1, R 中遠位 1	2	1/1
中手 / 中足骨	-	-	-	-	-	-	Ⅱ / Ⅲ 遠位骨端 1	1	1	-	-	-
指骨骨莖 / N	全体 1, 全体 (遠位 骨端なし) 1	2	2	全体 (遠位骨端なし) L 1, 遠位 1, 遠位 2	4	4	全体 4, 遠位 3, 遠位 3	10	10	全体 4, 全体 (遠位骨 端なし) 1, 遠位 1	6	6
中指骨莖 / N	全体 2	2	2	全体 2	2	2	全体 8	8	8	全体 3, 全体 (遠位骨 端なし) 1, 遠位 1	5	5
末指骨莖 / N	-	-	-	-	-	-	Ⅱ / N 全体 4,	4	4,	Ⅱ / N 遠位 1	1	Ⅱ / N 1
末指骨Ⅱ / V	-	-	-	Ⅱ / V 全体 1	1	1	Ⅱ / V 全体 2	2	Ⅱ / V 2	V 遠位 1	1	Ⅱ / V 1
NBP 計		29			21			90			50	

表22c ニホンジカ部位出土状況

Loc6 部分	NSP		MNE		Loc7 部分	NSP		MNE		Loc8 部分	NSP		MNE		I区その他 部分	計			乗位置と 測定箇所 Lymann(1994)
	NSP	MNE	NSP	MNE		NSP	MNE	NSP	MNE		NSP	MNE	NSP	MNE		MNE			
頭部付1	1	成1	頭部付1,角1	2	若1	頭部付1	1	成1	角4,頭部付2	6	成2	51	坊1 坊5 坊10	18.00					
側体3	3	若1 成1	側体11	11	坊2 成3	側体10, 逆側面1	11	坊×1 若×2 成×3	逆側面1	1	成1	69	坊6 坊9 若6 若成1 成17	31.00	0.61				
—	—	—	側面1	1	1	—	—	—	—	—	—	2	2	2.00	0.16				
—	—	—	—	—	—	—	—	—	第7×1	1	—	3	3	0.60	0.19				
—	—	—	—	—	—	第2/3/4×1	1	1	—	—	—	2	2	0.14	0.27				
—	—	—	第1/2/3×1	1	1	—	—	—	第2×1	1	1	3	3	0.60	0.39				
—	—	—	第3,第10L	2	2/-	第18	1	-/1	—	—	—	12	4/8	0.57					
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1						
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	-/1	1.00	0.49	遠位			
R遠位1	1	-/1	L遠位2R遠位1	3	2/1	R遠位1	1	-/1	R遠位1	1	-/1	11	4/7	7.00	0.63	遠位			
L遠位1及遠位1	2	1/1	L遠位2	2	2/-	—	—	—	R遠位1	1	—	9	5/2	5.00	0.62	近位			
R遠位1	1	-/1	L遠位1	1	1/-	—	—	—	—	—	—	6	3/2	3.00	0.45	近位			
—	—	—	—	—	—	検測R全体1	1	検測- /1	—	—	—	1	検測- /1	1.00					
—	—	—	—	—	—	—	—	—	L遠位1	1	1/-	1	1/-	1.00	0.69	近位			
取得R費付口2	2	-/2	取得R費付口2	4	-/2	—	—	—	取得L費付口1	1	1/-	12	4/6	6.00	0.27				
—	—	—	R遠位1	1	-/1	L:遠位2,遠位 付端1, R:中一遠位付 付端L, 中一遠位付付端1	5	3/2	R中一遠位付付 端1	1	-/1	9	4/5	5.00	0.41	近位			
—	—	—	L1	1	1/-	—	—	—	—	—	—	4	3/1	3.00	0.31				
L中遠位1,R中遠位1	2	1/1	L遠位2, R中遠位2, 中遠位付付端1, 中遠位付付端1	6	2/4	L中遠位1, R遠位付付端1	2	1/1	R中遠位1	1	-/1	15	5/9	9.00	0.51	遠位			
LL	1	-/1	LLR1	2	1/1	L1	1	1/-	—	—	—	11	6/5	6.00	0.61				
—	—	—	R遠位付付端1及全体1	2	-/2	—	—	—	L:全体1, 近位付付端+遠位 付端1	2	2/-	10	6/3	6.00	0.64				
L遠位1,R中遠位1	2	1/1	R遠位1	1	-/1	L中位1L,中遠 位1,R中遠位1	3	2/1	—	—	—	8	4/4	4.00	0.65	近位			
遠位1	1	1	全体1,遠位1	2	2	近位1	1	1	—	—	—	26	26	3.25	0.57	第3/4			
全体1	1	1	全体1,近位1	2	2	全体2	2	2	—	—	—	22	22	2.75					
—	—	—	—	—	—	Ⅱ/V全体1	1	Ⅱ/V/ 1	Ⅱ/V全体1	1	Ⅱ/ V/1	7	7	0.88					
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	4	0.50					
17			45			31			18			301							

	OC 第一 7C 前車			打削			切削			切断・加工			
	NSP	割合		箇所・状況	N	%	箇所・状況	N	%	箇所・状況	N	%	箇所・状況
		N	%										
角	12	0	0%		0	0%		0	0%	2	17%	上幹部上端に切筋を認め、た切り込み1、上幹部上端に切筋無し	
頭蓋骨	30	3	10%	頭頂部打ち割り2、 切角部上削り進捗部1	1	3%	切角骨断面1		0	0%	なし		
下顎骨	42	29	69%	後1歯周辺および前1歯周辺2、後1 歯周辺および筋突起1、後1歯周辺 22、前1歯周辺3、下顎角1	11	26%	前1歯周辺断面1、 前1歯周辺断面骨部2、 P2の顎体舌側下端に約6条ほど、 約歯根とともに1 前後1歯周辺断面骨部および筋突起 部近1、 後1歯周辺舌側および筋突起下部断面 1、 不揃い中位1、 断面MS地方1 筋突起下部1、 下顎角と筋突起の中間断面1 筋突起断面に横方向同一箇所にも多量1	1	2%	金属器による切断/削り(適合部)1			
頬骨	2		0%			0%			0%			0%	
頬骨	3		0%			0%			0%			0%	
頬骨	2	1	50%	棘突起	1	50%	棘突起に後位側から深い深い切り込み		0	0%		0%	
頬骨	3		0%			0%			0%			0%	
頬骨	1		0%			0%			0%			0%	
頬骨	12	2	17%	骨幹近位を外側から打削2	1	8%	骨幹近位の外側に横方向多量、あまり 深くない		0	0%			
眶中骨	1		0%			0%			0%			0%	
上顎骨	11	8	73%	骨幹近位(後位から)2、 骨幹近位(前位・後位、内位から)3、 骨幹遠位(内位から2)、2、 遠位端を前後に分削1	1	9%	後位面に膨らみ状の膨分布		0	0%			
頬骨	9	6	67%	骨幹近位を前位側から3、骨幹近位1、 骨幹中位を後位側から1 骨幹遠位を前位側から1	0	0%			0	0%			
口骨	6	3	50%	骨幹近位2、骨幹遠位1		0%			0	0%			
手製骨	1	0	0%			0%			0%			0%	
中手骨	1	1	100%	骨幹遠位端近く(後位側から打削)	0	0%			1	100%	骨幹中位後位面に横方向の深い切り込 み1ヶ所		
歯骨	12	8	67%	骨幹(骨幹1歯骨123)、 歯骨2、歯骨3	1	8%	取付骨骨1歯骨1歯骨1歯骨1歯骨1 歯骨1歯骨1歯骨1歯骨1歯骨1		0	0%			
大顎骨	9	8	89%	骨幹近位(内位側から)2、 骨幹近位(外位側から)1、 骨幹遠位(前位側から2、後位側から 1)3、 骨幹遠位(内位側から、外位側から)2	2	22%	骨幹(内位、外位)2		0	0%			
歯蓋骨	4		0%			0%			0%			0%	
眶骨	15	13	87%	骨幹近位(内2、外2、前1)6、 骨幹近位(後位内側から)1、 骨幹近位(後位側から)1、 骨幹遠位(内・外)2 骨幹遠位(前位・外位から)2 骨幹遠位(前位側から)1	4	27%	骨幹近位3(明瞭1、不明瞭2) 骨幹近位全部に深く横方向多量、 骨幹遠位にも膨らみ状の膨分布1		0	0%			
眶骨	11	0	0%			1	9%	前位外側に横方向2ヶ所		0	0%		
踵骨	10	1	10%	骨幹外側から打削		0%			0	0%			
中足骨 (骨角部素材)	8	7	88%	骨幹近位前位面から打削し横方向に分 削1 骨幹近位側(内側から打削)1 骨幹近位側(外側から打削)1 切り込み後1 近位・遠位両端を打削によって除去1、* 切り込み後2*	0	0%			4	50%	横方向に切り込みを入れた後打削、視 察1 前位部中央に横方向の深い切り込みを 入れた後、割取を、さらに縦方向に分 削している。表面順化1、* 骨幹近位側を鋭利な刃物による削りで 磨削1、 内位側面に横方向の深い切り込みを入 れた後、割取いて前位・後位に2分 削している1*		
中手/中足骨 (骨端)	1	0	0%			0%						0%	
趾骨	36	4	15%	骨幹中位4		0	0%		0	0%		0%	
中脚骨	22		0%			1	5%	中位の側面・後位面に横方向の深く浅 い*		0	0%		
末脚骨	11		0%			0%			0%			0%	
総計	253		0%			0%			0%			0%	

断面面・破片を除く

表23 ニホンジカ各部位におけるダメージ

焼け			焼直		
N	%	製法・状況	N	%	製法・状況
	0%		3	25%	ネズミ3
1	3%	後頭部白色化電着1	1	3%	ネズミ：切歯側面1
0	0%	なし	3	7%	ネズミ：前後臼歯冠近側面1、 イヌ：連白歯明瞭1 イヌ（頸い、下顎内）1
	0%			0%	
0	0%		0	0%	
	0%			0%	
0	0%		0	0%	
	0%			0%	
0	0%		3	27%	イヌ：歯位3
	0%			0%	
0	0%		2	22%	イヌ：歯位2
	0%			0%	
	0%		1	17%	イヌ：割歯
	0%			0%	
	0%			0%	
0	0%		2	17%	イヌ：歯位（噛み砕き方）1、製骨1
	0%			0%	
0	0%		2	22%	イヌ：歯位（噛み砕かれ欠損か） イヌ（歯位）→一部スバイラル、噛み砕いたか1
	0%			0%	
1	25%	白色、ヒレ割れ		0%	
0	0%		2	13%	イヌ（歯位、明瞭）→スバイラル割れ、噛み砕いたか1 イヌ（歯位、明瞭）→スバイラル割れ、噛み砕いたか1
	0%			0%	
1	9%	一部白色	2	18%	イヌ71、ネズミ1
0	0%		3	30%	イヌ（歯位）→歯位明確なら欠損か3
0	0%		2	25%	イヌ（歯位）2
	0%			0%	
	0%			0%	
3	12%	白色～灰色	2	8%	イヌ（全体）1イヌ（中位脊中）1
1	5%	黒～白色	2	9%	イヌ（全体）に、歯位側の側面に2、ネズミ（歯位外側）
	0%			0%	
	0%			0%	

種	部位	部分	GC東～7C前準			
			NISP	MNE	MNI	
イヌ	頭蓋骨	R上顎前P2:1③	1	1	2	
	下顎骨	L顎体前位:1(L区その他) R顎体:1③	2	1/1		
	軸骨	全体:2(癒合1③、 未癒合1③)	2	2		
	胸椎	第5-全体:1③	1	1		
	腰椎	第2-全体:1③、 第3-全体:1③、 第4-全体(一部分):1③、 第5-全体:1③、 第7-全体:1③、	5	(5)		
	肋骨	近位(L/R不明):1④	1	1		
	腕骨	全体:1④	1	1		
	跗骨	L側位:1③ R側位+脛骨+腓骨:1③	2	1/1		
	大趾骨	L全体:1③、 R大趾骨頭(癒合):1③ R趾骨近位+中位:1③	3	1/1		
	距骨	L全体:1③	1	1/1		
	ヒト	頭蓋骨	R上顎前M1:1③	1	1	1
	タヌキ	肋骨	L骨幹近位+中位:1③	1	1/1	1
タヌキ	上顎骨	L骨幹中位+遠位:1③	1	1/1	1	
ウサギ	跗骨	R側位+脛骨+腓骨脛骨臼 近位:1③	1	1/1	1	
ネズミ科	頭蓋骨(ハタネズミ亜科)	L/R上顎前1③	1	1	3	
	下顎骨(ハタネズミ亜科)	L顎体:1③	1	1/1		
	上顎/下顎歯床(ハタネズミ亜科)	L/R不明:1④	1	1		
	上顎/下顎歯床	II(L/R不明):1③、2③	3	2		
	下顎骨	R-II:1③	1	1/1		
	上顎骨	L:2④、1③	3	3/1		
	脛骨	L:1④	1	1/1		
	大趾骨	L:1③、R:1③、1③	3	1/2		
	距骨	L:1④	1	1/1		
	ヒト	頭蓋骨	L顎乳切歯7:1③	1	1	1
大型獣	尺骨	全体:1③	1	1	1	
	脛骨	近位端+中位7:1③	1	1	1	
	肋骨	L骨幹近位+中位:1③ R骨幹近位:1④	2	1/1		
	中足骨	R-第IV近位骨端+脛骨:1③	1	1/1		
中型獣	頭蓋/下顎骨	歯床前:1③、2③	3	1	1	
	大趾骨	大趾骨脛骨端部 (L/R不明):1③	1	1	1	
	中足骨	R-第IV近位骨端+脛骨:1③	1	1/1		
小型獣	中趾骨	全体(L/R不明):2④	2	2	1	
	尾椎	全体(L/R不明):1③	1	1	1	
	尾椎	全体:1③、1③	2	2	2	

部分の①～④はそれぞれLoc.1～4を意味する。

表24 その他の哺乳類出土状況



図版248 SD100・2050B河川跡出土動物遺存体4ーニホンジカ(1)

ニホンジカ



図版249 SD100・2050B河川跡出土動物遺存体5ーニホンジカ(2)・ウマ・ウシ・ウミガメ







図版250 SD100・20508河川跡出土動物遺存体6-イノシシ

GC東-7C前半								
	NSP	打削	切削		掘削			
			N	場所・状況	N	場所・状況		
顔蓋骨	3							
下顎骨	0	4	M1下方の顎体下側3 M1～3下方7	1	掘削に1ヶ所破方向3葉 1	1	イヌ(下側)	
上顎骨	1	1	骨幹前部1					
頬骨	1	1	骨幹近位(前位外側から打削)1					
尺骨	3	1	中位骨幹(外側から打削)1	1	肘突起の近位側前位面と その反対側の後位面1	3	イヌ(前位側)→噛み跡き1 イヌ(肘関節を中心に全体に分布)→肘跡 は覆られ欠損か、遠位噛み跡き1 イヌ(前位側)→肘跡は覆られ欠損か1	
中手骨	3	1	骨幹中位後位面から打削、打点残る1	1	骨幹前位～内側に横方向1 の擦痕状1	1	黒色1	
大腸骨	2	2	骨幹近位(外側から打削)1 遠位骨幹(内 側から打削)1			1	黒(骨幹近位前位側)	
脛骨	2	2	骨幹近位(内側から打削)1 骨幹近位(前 位側から打削)1	1	骨幹外側に若干1		2	イヌ(遠位端)1 イヌ(近位骨幹)→覆られ遠位端欠損か1
踵骨	1					1	黒色1	
足指骨	1							
手足骨	1					1	灰色1	
趾骨	3					1	白色化(骨端関節面に 亀裂)1	
中指骨	2							
末指骨	2							
趾骨	34	12		4		5		

\*遊離歯を除く

表26 イノシシ各部位におけるダメージ

## ④遺構出土の動物遺存体

河川跡以外の遺構からはウマ・ウシ・シカ・イノシシ・イヌ・海獣類が出土し、ウマが主体である。鳥類・爬虫類・魚類・貝類は出土していない。

## ウマ

75点出土している(表27)。遊離歯は出土状況から同一個体と認定できる場合は一括し1点としてカウントした。MNIは22である。

古代の道路跡、整地、溝跡、土坑などから出土しており、平安時代の遺構に伴うものが多い。遊離歯として出土する機会が多いが、SK7101・7105土坑からは完全な顎体や、顎体を大きく残すものが出土している。頭部に対し体部骨は少なく散発的な出土状況だが、SX750D期の道路側溝からは、同一個体の左足踵より先の部分がまとまって出土した。また、SD7344(時期不明)からは四肢骨のみが3点出土し、上腕骨骨幹部に切創、脛骨骨幹部に打削痕が認められる(表29)。歯以外の部位はいずれも軽く壊れやすくなっており、残存し得なかった可能性が高い。

歯の萌出・交換、及び切歯の咬耗度(大泰司1998)から例査定を行った(表27)。M2が萌出途中の2歳未満のものから8～9歳のものまで見られる。22個体のうち2歳以下は3個体、永久歯列が完成する3歳以上は14個体で、4～7歳が主体と考えられる。

## その他の哺乳類

ウシは平安時代の道路側溝2箇所から遊離歯3点が出土した(表28)。シカは、ウマに次いで多く11点が古代・近世の複数の遺構から散発的に出土している。海獣類とみられる破片が3点出土しており、うち2点は平安時代のSE7105井戸跡の井戸底と裏込めから出土した。他に、イノシシが平安時代の井戸跡・整地から2点、イヌが井戸跡から1点出土している。

遺構	種別	時期	調査番号		調査番号		MN
			部位 (//は「または」の意。例: 測定は切通の段状土 (大巻町1998) 及び出土・交換による)	NISP	部位	NISP	
表土		不明	上層L 遊歩面 M1/2 上層L 遊歩面 P2/3	2		—	—
基本層		平安以前	上層L 遊歩面 M3 (呪托通行) 上層R 遊歩面 P3/4 上層R 遊歩面 M1+M2 (呪托通行)	3		—	—
SD461	遺跡	奈良	上層L-R 遊歩面 P2-M3 (3.5歳以上) 上層L-R 遊歩面 L1:P2-M2,R:P2-M3 (3.5歳以上) 上層L-R 遊歩面 L1:1-3:P2-P3,M1-3,R:P2-4 (切通段状土→6-7歳)	3		3 (3.5歳以上×2, 6-7歳×1)	
SD7100		平安	上層R 遊歩面 M1/2 (1歳以上)	1		—	1 (1歳以上)
SD7344		不明		—	上層R 骨付中位→近位 骨付L 遠位骨端・近位骨付 中定骨算L 全体	3	1
SK7101		不明	上層・下層付L-R 全ての遊歩面・惣体の一部 (E3 未出土 +4歳前後)	1		—	1 (4歳前後)
SK7105		不明	下層付L 惣体中位 (惣体・歯) ml (歯根) m2,m3,M1,M2 (M2 歯中位→2歳前) 下層R 遊歩面 M1/2 (呪托初期,1歳以上)	2		—	1 (2歳前)
SK7291		平安	下層付L-R 惣体全体 (一部欠) 歯全てあり (切通内部 エナメル質小さい→8-9歳)	1		—	1 (8-9歳)
SK390	遺跡	平安	上層L 遊歩面 M1/2 (呪托進む,1歳以上) 上層R 遊歩面 P2 (2.5歳以上)	2		—	—
SK390 A 期	遺跡	平安	下層R 遊歩面 P/M (1歳以上)	1		—	1 (1歳以上)
SK390 B 期	遺跡	平安	下層R 遊歩面 M1/2 (呪托中程度,1歳以上)	1		—	1 (1歳以上)
SK390 C 期	遺跡	平安	上層L 遊歩面 P3/4 (呪托初期,3歳以上) 上層L 遊歩面 M1/2 (呪托初期,1歳以上) 上層R 遊歩面 H (2.5歳以上) 上層R 遊歩面 P3/4 (3歳以上) 上層R 遊歩面 P3/4 (呪托中程度,3歳以上) 下層L 遊歩面 M1 (呪托通行,1歳以上) 下層L 遊歩面 M2 (歯中位,2歳未満) 下層R 遊歩面 M1 (呪托中程度,1歳以上)	8		2 (2歳未満×1, 3歳以上×1)	
SK700	遺跡	平安	下層R 遊歩面 M1/2 (呪托中程度,1歳以上) 白陶片	2		—	1 (1歳以上)
SK710	平安	上層R 遊歩面 M1-M3 (3.5歳以上)	1		—	1 (3.5歳以上)	
SK750	遺跡	平安		—	中層骨算全体 (一部欠)	1	—
SK750 C 期	遺跡	平安	下層L 遊歩面 M1/2 (呪托中程度) 下層R 遊歩面 P3-P4 (呪托中程度,3歳以上)	2		—	1 (3歳以上)
SK750 D 期	遺跡	平安	上層R 遊歩面 P2 (呪托初期,3歳以上) 上層R 遊歩面 P2 (呪托初期,2歳) 上層L 遊歩面 H (呪托中程度→6-7歳) 下層L 遊歩面 M2 (呪托初期,3歳以上) 下層R 遊歩面 P3-M3 (3.5歳以上)	5	骨付L 全体 (一部欠) 骨付L 全体 足指付→中心L 全体 (一部欠) 足指骨L 全体 (一部欠) 足指骨R L 全体 中定骨算L 全体 (一部欠) 中定骨算L 全体 (一部欠) 中手/中定骨算遠位骨端・骨付	8	2 (2歳×1, 6-7歳×1)
SK750 D 期?	遺跡	平安		—	中手骨? 遠位L 1/3 (歯位内側) 骨端・骨付	1	—
SK7001	部地	平安	上層L 遊歩面 P3/4 (3歳以上) 洞窟/下層付L-R 遊歩面 I3 (未出土+4歳前後) 下層L-R 遊歩面 H1-3 (E3 呪托初期,1-2 内部エナメル 質大さい→5歳) 下層L 遊歩面 P2 (呪托初期→5歳未満) 下層L 遊歩面 P2-P3 (3歳以上) × 2 下層L 遊歩面 P3/4/M1/2 下層L 遊歩面 M1 (1歳以上) 下層R 遊歩面 H (呪托初期→5歳未満) 下層R 遊歩面 P4 (呪托中程度,3歳以上) 下層R 白陶片	11		2 (4歳前後×1, 5歳×1)	
SK7013	その他	平安	上層L-R 遊歩面 L1:P3-P4+M3,R:P2-M2 (3.5歳以上)	1		—	1 (3.5歳以上)
SK7027	平安	上層L 遊歩面 P2 (2.5歳以上) 上層L 遊歩面 P3/4/M1/2 × 2 上層L 遊歩面 M1/2 (呪托通行) 上層R 遊歩面 H (内部エナメル質大さい→5歳未満) 上層R 遊歩面 P3/4/M1/2 下層L 遊歩面 H (3.5歳以上) 下層L 遊歩面 P3 (呪托中程度,3歳以上) 下層L 遊歩面 M1 (呪托通行,1歳以上) 下層R 遊歩面 H (内部エナメル質大さい→5歳未満) 下層R 遊歩面 P3/4/M1/2 × 3	13	中手/中定骨算遠位骨端・骨付	1	1 (4歳前後)	
SK7117	奈良	上層R 遊歩面 P3/4 (3歳以上)	1		—	—	1 (3歳以上)

表27a ウマ出土状況 (1)

遺構	種別	時期	遺跡層		副遺構		MNI
			部位 (T)は「または」の意。例:変定は切歯の咬痕(大骨司1998)及び構成・変換による)	NSP	部位	NSP	
SD100・2050B	河川跡	6C末-7C前半 Loc.2	上顎L遊離歯 P3/4 (3歳以上) 上顎R遊離歯 P3/4 (3歳以上) 下顎L遊離歯 M1 (1歳以上) 下顎R遊離歯 M1 (咬耗中程度,1歳以上)	4			2 (3歳以上×1.1歳以上×1)
		6C末-7C前半 Loc.4			(ウマ大臼歯?R骨幹中位)	1	
	6C末-7C前半 Loc.5	上顎L遊離歯 M1/2 (前臼歯間から2歳未満) 下顎L遊離歯 M1 (咬耗中程度,1歳以上)	2	動物R全体:1		1	
	6C末-7C前半 Loc.7	上顎L遊離歯 M1/2 (咬耗初期,1歳以上)	1	基節骨首端位~中位骨端・骨幹:1		1	
	6C末-7C前半 L区その他	上顎L-R遊離歯 L:P4・M3/R:P3・P4・M1・M3 (3.5歳以上) (確認部) 上顎L遊離歯 M1/2 (増穂上下平)	2				
計				70			16/24

表27b ウマ出土状況 (2)

遺構	種別	時期	種	部位	NSP	MNI
L区		不明	イノシシ	11骨R骨位付突起	1	1
SD461	遺跡	奈良	シカ	上脚骨L遠位端	1	1
SD707	遺跡	近世	シカ	基節骨R/左全体 (一部欠)	1	1
SD1164	遺跡	古墳中	シカ	下脚骨全体L中~後位 (M3あり)	1	1
SE7105	河川跡	平安	イノシシ	中手骨V-L全体	1	1
			イヌ	第3胸椎全体 (後位骨端なし未融合)	1	1
			高野期	破片	2	—
SX390C期	遺跡跡	平安	ウシ	上顎L2遊離歯M (平5)/下顎L遊離歯M1/M2	2	1
			シカ	動物L遠位骨端・骨幹	1	1
SX700	遺跡跡	平安	シカ	上顎R遊離歯M1 (咬耗中程度近翼連結)	1	1
SX750D期	遺跡跡	平安	ウシ	上顎L遊離歯M3?	1	1
			シカ	角(真角)両基部,両上幹部・破片	2	1
SX7601	惣堀	平安	イノシシ	4下脚骨R前位 (元・P1あり)	1	1
SX7026	平安	シカ	中脚骨R/左全体	1	1	
SX7103	その他	平安	シカ	骨幹L骨骨質付白	1	1
			シカ	基節骨R/左近位骨端・骨幹	1	1
SX7128	その他	奈良	シカ	下脚骨R関節突起 基節骨R/左遠位端~骨幹中位	2	1
			高野期	破片	1	—
SD100・2050B	河川跡	6C末-7C前半	ウシ	下顎R遊離歯I3?	1	1

表28 遺構出土その他の動物

No.	遺構	時期・層	部位	左右	打痕	切痕	咬痕	種
10	SD7291	平安	下脚骨	L-R	4骨突起	×	×	×
155	SD7344	不明	上脚骨	R			骨幹外側に横方向1ヶ所	×
157	SD7344	不明	骨片	L	近位骨幹前位内側から打痕			×
553	河川跡	6C末-7C前半	基節骨	?	×	×		イヌ? (近位部) ×

表29 ウマ各部位におけるダメージ

イノシシ計測値

No.	遺構	時期・層	部位	左右	成長	計測値 (mm)
650	河川跡	6C末-7C前半	下脚骨	L	成	M3:1,327R171
654	河川跡	6C末-7C前半	下脚骨	L	成	M2:1,224R×, M3:1,407R224
569	河川跡	6C末-7C前半	下脚骨	R	成	M6:L176R153M2:L214, R149,M3:L419
93	河川跡	6C末-7C前半	骨片	L	癒合	Rp:319
19	河川跡	不明	骨片	L	成	DPA:498
695	河川跡	6C末-7C前半	骨片	L	成	DPA:436
650	河川跡	6C末-7C前半	骨片	R	成	DPA:403
624	河川跡	6C末-7C前半	中手骨	L	癒合	Rp1:×,M1:191
162	SE7105	平安	中手骨V	L	癒合	GL:504,IM:159
18	河川跡	6C末-7C前半	大脚骨	L	成	SD:198
400	河川跡	6C末-7C前半	骨片	L	癒合	Bd:327
682	河川跡	6C末-7C前半	中足骨	L	癒合	Rp:19.3

ウマ計測値

No.	遺構	時期	部位	左右	成長	計測値 (mm)
10	SD7291	平安	4下脚骨	L-R	癒合	切歯内側エナメル質小さく →8~9歳
626	SD2050B	6C末-7C前半	骨片	R	成	GL1:584GLm:562
213	SD7026	平安	骨片	L	成	GL1:484GLm:470
214	SD7026	平安	骨片	L	癒合	GL1:951GB:468
						GL:258, Rp:482, Bd:475
196	SD7344	不明	中足骨	L	癒合	GL:297, Bd:412, Dp:391
215	SD7026	平安	中足骨	L	癒合	GL:412, Dp:391

表30a 計測値表 (1)

右製計測値

No.	透視	時期	種	断面	部位	左右	計測値 (mm)
1632	河川跡	6C東-7C前半	念七科	大型	白口骨	裏	Bd: 19.6
1580	河川跡	6C東-7C前半	念七科	大型	手組中手骨	裏	Dhd: 5.7
1256	河川跡	6C東-7C前半	念七科	小型	足組中足骨	裏	Bp: 2.7
1212	河川跡	6C東-7C前半	念七科	小型	横骨	上	GL: 1.8
912	河川跡	6C東-7C前半	念七科	小型	手組中手骨	上	Dhd: 4.5
570	河川跡	6C東-7C前半	念七科	オス	尻骨		GL: 62.4 L Bp: 7.7 Dhd: 8.7
1261	河川跡	6C東-7C前半	念七科	オス	手組中手骨	上	GL: 38.1 L Bp: 11.1 Dhd: 7.6
990	河川跡	6C東-7C前半	念七科	オス	手組中手骨	上	GL: 37.6 L Bp: 9.5 Dhd: 6.2
714	河川跡	6C東-7C前半	念七科	オス	大股骨	上	Bp: 14.8 Bd: 16.1 GL: 76.9
1500	河川跡	6C東-7C前半	念七科	オス	足組中足骨	上	Bp: 13.8 Bd: 12.6
585	河川跡	6C東-7C前半	念七科	メス	大股骨	裏	GL: 68.0 Bp: 12.8 Bd: 13.5
1634	河川跡	6C東-7C前半	念七科	メス	足組中足骨	上	Bp: 8.9 Bd: 10.2
1593	河川跡	6C東-7C前半	念七科?		髌骨	裏	Bd: 9.4
1594	河川跡	6C東-7C前半			肩甲骨	上	Dhc: 12.3
713	河川跡	6C東-7C前半	シロヒキオオオム		足組中足骨	裏	GL: 74.0 Bp: 12.3 Bd: 9.2
1090	河川跡	6C東-7C前半	不明(シロヒキオオオムとの可能性あり)		髌骨	裏	Bd: 12.9

又製計測値

No.	透視	時期	部位	左右	成巣	計測値 (mm)
774	河川跡	6C東-7C前半	下顎骨	R	成	4: 101.4 7: 65.5 8: 62.5 9: 56.6 10: 29.0 11: 34.0 M1-L: 173 M1-B: 7.2 LAPs: 65.6 LDe: 432 Bfer: 27.3
710	河川跡	6C東-7C前半	顴骨	M	癒合	Bfer: 221
1107	河川跡	6C東-7C前半	顴骨	M	前・後位とも未癒合	Bfer: 221
1396	河川跡	6C東-7C前半	頸椎第5	M	癒合	PL: 15.4
875	河川跡	6C東-7C前半	頸椎第5	M	癒合	Bfer: 197PL: 268
644	河川跡	6C東-7C前半	頸椎第4	M	癒合(骨位は次のため不明)	Bfer: 193
673	河川跡	6C東-7C前半	頸椎第3	M	癒合	Bfer: 188 PL: 23.7
674	河川跡	6C東-7C前半	頸椎第2	M	癒合	Bfer: 184 PL: 25.4
1464	河川跡	6C東-7C前半	頸椎第7	M	癒合	Bfer: 186PL: 17.5
643	河川跡	6C東-7C前半	背骨	L	癒合	SH: 17.9
646	河川跡	6C東-7C前半	背骨	R	癒合	SH: 17.8
642	河川跡	6C東-7C前半	大股骨	R	癒合	Dc: 17.3
712	河川跡	6C東-7C前半	大股骨	L	癒合	GL: 151.9Bp: 32.4 Dc: 15.9Bd: 27.6
711	河川跡	6C東-7C前半	背骨	L	癒合	GL: 130.6Bp: 29.0 Bd: 19.2Bd: 14.2

又製計測値

No.	透視	時期	部位	左右	成巣	計測値 (mm)
12	SD461	奈良	上顎骨	L	癒合	BT: 39.4
817	SK90C重	平定	髌骨	L	癒合	Bd: 41.0
104	SK750重	平定	頸椎第7	7	成	径: 3.5-4mm
91	河川跡	6C東-7C前半	頸椎第10	L	成	径: 23.8
54	河川跡	6C東-7C前半	頸椎第7	R	成	径: 29.0
551	河川跡	6C東-7C前半	頸椎第10	R	成	角骨距離: 17.7
33	河川跡	6C東-7C前半	頸椎第7	7	成	径: 20.4
107	河川跡	6C東-7C前半	頸椎第7	7	成	径: 14.5
689	河川跡	6C東-7C前半	頸椎第7 後頸椎・頸椎第7	L,R	成	260-Cbc: 571 380-Rasin: 727 259-Gmb: 1032
84	河川跡	6C東-7C前半	頸椎第7 後頸椎・頸椎第7	L,R	成	260-Cbc: 601 380-Rasin: 700
755	河川跡	6C東-7C前半	上顎骨	R	癒合	Bp: 50.3
140	河川跡	6C東-7C前半	上顎骨	R	癒合	Bp: 47.55より大
257	河川跡	6C東-7C前半	上顎骨	R	癒合	Bd: 44.5BT: 36.6
317	河川跡	6C東-7C前半	上顎骨	L	癒合	BT: 40.0
738	河川跡	6C東-7C前半	上顎骨	L	癒合	Bd: 44.7BT: 37.8
470	河川跡	6C東-7C前半	上顎骨	R	癒合	Bd: 41.2BT: 37.1
1343	河川跡	6C東-7C前半	上顎骨	R	癒合	BT: 26.3
584	河川跡	6C東-7C前半	大股骨	L	癒合	Bp: 66.1DC: 18.4 S: 20.5
63	河川跡	6C東-7C前半	大股骨	L	未癒合	DC: 25.9
540	河川跡	6C東-7C前半	大股骨	R	癒合	Bd: 52.0
72	河川跡	6C東-7C前半	大股骨	L	癒合	Bd: 57.6
20	河川跡	6C東-7C前半	楕骨	R	癒合	Bp: 42.3
255	河川跡	6C東-7C前半	楕骨	L	癒合	Bp: 37.1
656	河川跡	6C東-7C前半	楕骨	L	癒合	Bp: 37.4
458	河川跡	6C東-7C前半	楕骨	R	癒合	Bd: 38.1
556	河川跡	6C東-7C前半	楕骨	L	癒合	Bd: 37.6
773	河川跡	6C東-7C前半	楕骨	L	癒合	Bd: 32.5
655	河川跡	6C東-7C前半	楕骨	R	癒合	Bd: 35.1
1158	河川跡	6C東-7C前半	楕骨	L	未癒合	Bd: 33.9
754	河川跡	6C東-7C前半	尺骨	L	成	DPA: 41.5
246	河川跡	6C東-7C前半	尺骨	L	未癒合	DPA: 36.6
238	河川跡	6C東-7C前半	尺骨	R	成	BPC: 22.6
404	河川跡	6C東-7C前半	髌骨	R	未癒合	Bp: 62.3
73	河川跡	6C東-7C前半	髌骨	L	癒合	Bd: 39.9
661	河川跡	6C東-7C前半	髌骨	R	癒合	Bd: 39.7
736	河川跡	6C東-7C前半	髌骨	R	癒合	Bd: 40.5
785	河川跡	6C東-7C前半	髌骨	L	癒合	Bd: 35.9
50	河川跡	6C東-7C前半	髌骨	R	癒合	Bd: 36.4
739	河川跡	6C東-7C前半	髌骨	R	癒合	Bd: 36.5
631	河川跡	6C東-7C前半	髌骨	R	癒合	Bd: 36.0
753	河川跡	6C東-7C前半	髌骨	L	癒合	Bd: 38.0
660	河川跡	6C東-7C前半	中足骨	R	癒合	Bp: 28.1
345	河川跡	6C東-7C前半	中足骨	L	癒合	Bp: 28.4
96	河川跡	6C東-7C前半	中手骨	L	癒合	Bp: 26.2
635	河川跡	6C東-7C前半	中足骨	L	癒合	Bd: 31.3
481	河川跡	6C東-7C前半	跗骨	R	成	GL: 45.6m: 41.0
1351	河川跡	6C東-7C前半	跗骨	R	成	GL: 42.26m: 39.8
669	河川跡	6C東-7C前半	跗骨	R	成	GL: 41.76m: 40.8
466	河川跡	6C東-7C前半	跗骨	R	成	GL: 42.76m: 38.7
496	河川跡	6C東-7C前半	跗骨	L	成	GL: 41.6m: 40.3
749	河川跡	6C東-7C前半	跗骨	L	成	GL: 40.06m: 40.1
67	河川跡	6C東-7C前半	跗骨	L	成	GL: 41.76m: 39.8
358	河川跡	6C東-7C前半	跗骨	L	成	GL: 41.56m: 40.7
495	河川跡	6C東-7C前半	跗骨	L	成	GL: 41.06m: 38.2
92	河川跡	6C東-7C前半	跗骨	L	癒合	GL: 190.7Bp: 29.1
604	河川跡	6C東-7C前半	跗骨	L	癒合	GL: 184.2Bp: 24.3
361	河川跡	6C東-7C前半	跗骨	L	近位未癒合	GL: 178.3Bp: 20.1
401	河川跡	6C東-7C前半	跗骨	L	成	GL: 178.2Bp: 21.2
554	河川跡	6C東-7C前半	跗骨	R	成	GL: 178.2Bp: 20.9
732	河川跡	6C東-7C前半	跗骨	R	癒合	GL: 189.6Bp: 28.7
786	河川跡	6C東-7C前半	肩甲骨	R	癒合	GL: 181.3C: 28.0
602	河川跡	6C東-7C前半	頸椎第5	M	未癒合	Bfer: 47.7
21	河川跡	6C東-7C前半	頸椎第5	M	成	Bfer: 63.0
407	河川跡	6C東-7C前半	頸椎第10	M	近位近位癒合	Bfer: 24.6
97	河川跡	6C東-7C前半	頸椎第2	M	癒合	Bfer: 25.6
242	河川跡	6C東-7C前半	頸椎第2/3	M	後位未癒合	Bfer: 27.9
744	河川跡	6C東-7C前半	頸椎第1/2/3	M	後位癒合	Bfer: 28.0

表30b 計測値表 (2)

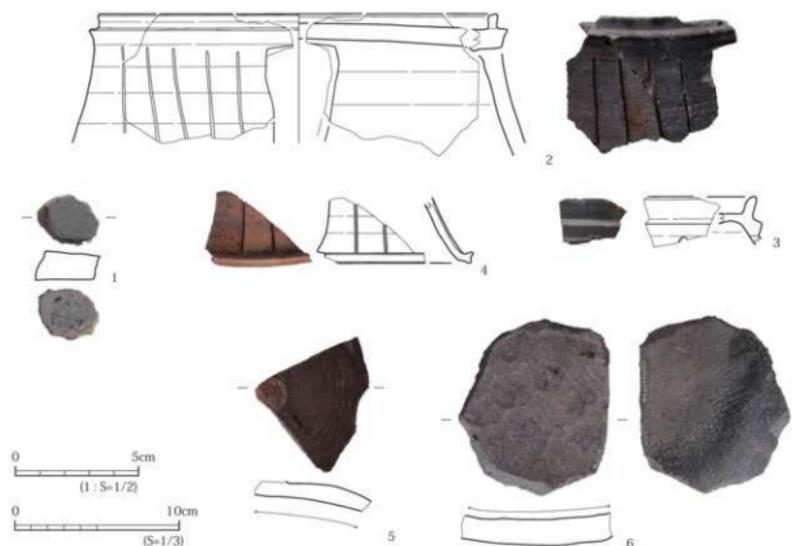
## 註

註1 SD100の上層が確認できなかった理由としては、今回の調査にあたり前回の調査面を覆ったシートや土嚢を取り除く際、境界部分の泥を厚く取り除いたためと考えられる。

註2 ウミガメの同定に際し、国立奈良文化財研究所の松崎哲也氏にご教示いただいた。

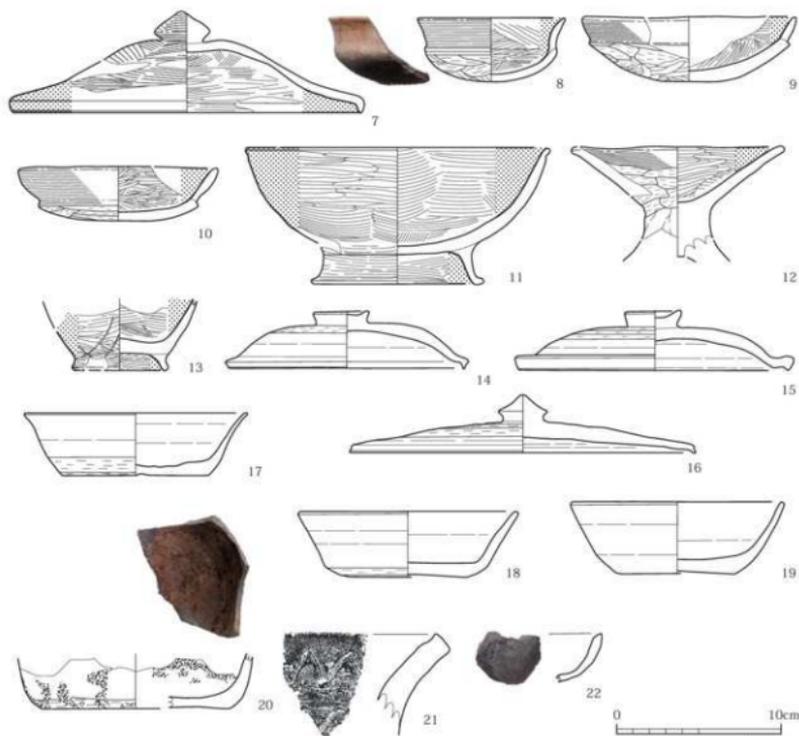
## 11. 遺構外出土遺物

D区の第1層～遺構確認面(第III層)からは、土師器杯・高台杯・高杯・蓋・壺・ミニチュア、須恵器杯・蓋・甕・ミニチュア・円面碗・転用碗・円盤、灰釉陶器碗・皿・壺・長頸壺などが出土した(図版251～253)。



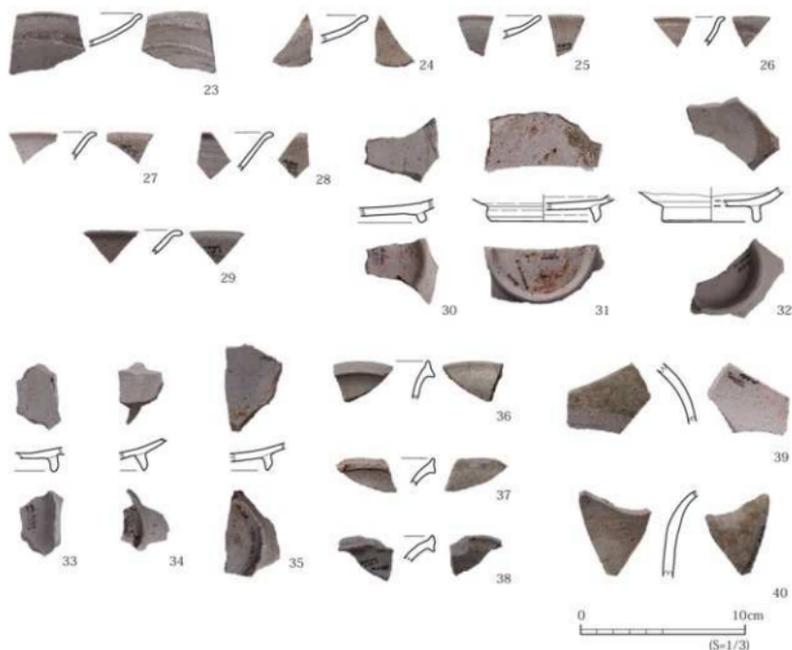
No.	器種	層位	器型	高さ(cm)	径(cm)	厚さ(cm)	残存	備考	登録
1	須恵器・円盤	1～遺構		—	2.3	1.1	—	壺を転用	5283
2	須恵器・円面碗	1～遺構	外面：ロクロナデ→方形スカシ・縦段沈陥 内面：ロクロナデ	—	23.0	—	一部	破面に帯痕	5295
3	須恵器・円面碗	1～遺構	外面：ロクロナデ→スカシ 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部		5235
4	須恵器・円面碗	1～遺構	外面：ロクロナデ→縦段沈陥 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部		5296
5	須恵器・転用碗	カタラン	外面：ロクロナデ→縦段沈陥 内面：ロクロナデ	—	—	1.0	一部	内面に使用痕。壺を転用	5234
6	須恵器・転用碗	1～遺構		—	—	1.6	一部	内面に使用痕。壺を転用	5233

図版251 D区遺構外出土遺物 1



No.	器種	層位	図案	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存	分類	備考	登録
7	土師器・蓋	1～前期	内外面：ヘラミガキ→黒色地埋	(21.6)	—	6.1	1/4	—	宝珠ツマミ：径3.3cm	5219
8	土師器 ・ミニチュア	1～前期	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色地埋	(9.0)	—	3.9	一部	—	—	5221
9	土師器・杯	1～前期	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ→黒色地埋	12.6	—	4.0	2/3	C1	—	5223
10	土師器・杯	1～前期	外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色地埋	12.0	—	3.3	完形	D	—	5220
11	土師器 ・高台杯	1～前期	内外面：ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色地埋 底部：高台貼付	(18.6)	10.6	—	1/4	—	—	5218
12	土師器・高杯	1～前期	外面：ヨコナデ・ナデ→ヘラケズリ 内面：[杯]ヘラミガキ→黒色地埋 [脚]ヘラナデ・ヨコナデ	(13.0)	—	—	1/3	A	—	5222
13	土師器・壺	1～前期	内外面：ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色地埋 底部：高台貼付	—	5.8	—	1/4	—	—	5225
14	灰土器・蓋	1～前期	外面：ロクロナデ→油漉ヘラケズリ→ツマミ貼付→ナデ 内面：ロクロナデ	14.3	—	3.5	完形	—	腹宝珠ツマミ：径3.3cm	5227
15	灰土器・蓋	1～前期	外面：ロクロナデ→油漉ヘラケズリ→ツマミ貼付→ナデ 内面：ロクロナデ	16.3	—	3.1	完形	—	腹宝珠ツマミ：径3.4cm	5203
16	灰土器・蓋	1～前期	外面：ロクロナデ→油漉ヘラケズリ→ツマミ貼付→ナデ 内面：ロクロナデ	(21.0)	—	3.5	3/4	—	宝珠ツマミ：径3.0cm	5226
17	灰土器・杯	1～前期	内外面：ロクロナデ 底部：油漉切り→油漉ヘラケズリ	(13.4)	8.8	3.7	3/4	—	—	5231
18	灰土器・杯	1～前期	内外面：ロクロナデ 底部：切り難し不明→油漉ヘラケズリ	(13.1)	(7.2)	4.0	1/4	—	内面に漆付前	5305
19	灰土器・杯	1～前期	内外面：ロクロナデ 底部：油漉切り→ナデ	(12.7)	(7.0)	4.4	1/2	—	—	5230
20	灰土器・杯	1～前期	内外面：ロクロナデ 底部：切り難し不明→手持ちヘラケズリ	—	(11.4)	3.4	一部	—	内外に漆付前	5263
21	灰土器・甕	1～前期	外面：カキメ→磨瑠璃形文 内面：ロクロナデ	—	—	—	一部	—	—	5312
22	灰土器 ・ミニチュア	1～前期	内外面：ナデ	—	—	—	一部	—	杯形	5288

図版252 D区遺構外出土遺物2



No.	器種	部位	調整	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存	備考	登録
23	灰釉陶器・甕	1～蓋唇	内外面：ロケロナデ→胎輪	—	—	—	一部	胎投産	5243
24	灰釉陶器・甕	1～蓋唇	外面：ロケロナデ→胎輪/ヘラケズリ 内面：ロケロナデ→胎輪	—	—	—	一部	胎投産	5242
25	灰釉陶器・甕	1～蓋唇	内外面：ロケロナデ→胎輪	—	—	—	一部	胎投産	5244
26	灰釉陶器・甕	1～蓋唇	内外面：ロケロナデ→胎輪	—	—	—	一部	胎投産	5248
27	灰釉陶器・甕	1～蓋唇	内外面：ロケロナデ→胎輪	—	—	—	一部	胎投産	5245
28	灰釉陶器・甕	1～蓋唇	内外面：ロケロナデ→胎輪	—	—	—	一部	胎投産	5246
29	灰釉陶器・甕	1～蓋唇	内外面：ロケロナデ→胎輪	—	—	—	一部	胎投産	5247
30	灰釉陶器・甕	1～蓋唇	内面：ロケロナデ 底部：胎輪/ヘラケズリ→高台胎付→ナデ 内外面：胎輪	—	—	—	一部	胎投産, K14京式期	5294
31	灰釉陶器・甕	1～蓋唇	内面：ロケロナデ 底部：胎輪/ヘラケズリ→高台胎付→ナデ 内外面：胎輪	—	(6.4)	—	一部	胎投産, K90京式期	5237
32	灰釉陶器・甕	1～蓋唇	内面：ロケロナデ 底部：高台胎付 内外面：胎輪	—	(5.8)	—	一部	胎投産, K90京式期	5241
33	灰釉陶器・甕	1～蓋唇	内面：ロケロナデ 底部：胎輪/ヘラケズリ→高台胎付→ナデ 内外面：胎輪	—	—	—	一部	胎投産, K90京式期	5240
34	灰釉陶器・甕	1～蓋唇	内面：ロケロナデ 底部：胎輪/ヘラケズリ→高台胎付→ナデ 内外面：胎輪	—	—	—	一部	胎投産, K90京式期	5239
35	灰釉陶器・甕	1～蓋唇	内面：ロケロナデ 底部：胎輪/ヘラケズリ→高台胎付→ナデ 内外面：胎輪	—	—	—	一部	胎投産, K90京式期	5238
36	灰釉陶器・ 土師器	1～蓋唇	内外面：ロケロナデ 外面に胎輪	—	—	—	一部	胎投産	5256
37	灰釉陶器・ 土師器	1～蓋唇	内外面：ロケロナデ 外面に胎輪	—	—	—	一部	産遺産	5254
38	灰釉陶器・ 土師器	1～蓋唇	内外面：ロケロナデ 外面に胎輪	—	—	—	一部	胎投産	5255
39	灰釉陶器・甕	1～蓋唇	外面：胎輪/ヘラケズリ→胎輪 内面：ロケロナデ	—	—	—	一部	胎投産	5260
40	灰釉陶器・ 土師器	1～蓋唇	内外面：ロケロナデ 外面に胎輪	—	—	—	一部	胎投産	5253

図版253 D区遺構外出土遺物3



古墳時代後期の河川跡から出土した骨角製品

---

---

宮城県文化財調査報告書第246集

## 山王遺跡Ⅶ

—三陸沿岸道路建設に伴う八幡・伏石地区発掘調査報告書—

第1分冊 道路跡、D区の調査編

平成30年3月12日印刷

平成30年3月14日発行

発行 宮城県教育委員会

〒980-8423 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号

印刷 東北プリント

〒980-0822 宮城県仙台市青葉区立町24-24

---

---